

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第123集

富士川SA関連遺跡

平成9・10年度 富士川SA改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

破魔射場遺跡

谷津原古墳群

北久保遺跡

遺物編

2001

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



人面装飾付鉢手土器



後頭部結髪状土偶



堀之内式土器



谷津原 6 号墳出土土器

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第123集

富士川SA関連遺跡

平成9・10年度 富士川SA改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

破魔射場遺跡

谷津原古墳群

北久保遺跡

遺物編

2001

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

例　　言

- 1 本書は静岡県庵原郡富士川町岩瀬他に所在する富士川SA関連遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は平成8年度に実施した確認調査の結果を受け、平成9年度・平成10年度の富士川SA改良工事に伴う埋蔵文化財発掘業務として、日本道路公団東京第一管理局の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成9年4月から平成10年12月まで現地調査を実施した。
- 3 資料整理は平成11年1月から平成12年3月まで実施した。
- 4 調査体制は以下のとおりである。

平成8年度（確認調査）

所長：斎藤 忠 副所長：池谷和三 常務理事：三村田昌昭 調査研究部長：石垣英夫

調査研究二課長：佐野五十三 調査研究員：青野好身 木崎道昭 井鍋晉之

富士川町教育委員会嘱託：石川武男

平成9年度（本調査）

所長：斎藤 忠 副所長：池谷和三 常務理事：三村田昌昭 調査研究部長：石垣英夫

調査研究二課長：佐野五十三 主任調査研究員：小澤敦夫

調査研究員：松倉金吾 後藤正人 増井啓太 諸星雅一 田村隆太郎 井鍋晉之

富士川町教育委員会嘱託：石川武男

平成10年度（本調査）

所長：斎藤 忠 常務理事：伊藤友雄 調査研究部長：石垣英夫

調査研究二課長：羽仁牛保 調査研究員：諸星雅一 田村隆太郎 井鍋晉之

平成11年度（資料整理）

所長：斎藤 忠 副所長：山下 晃 常務理事：伊藤友雄 調査研究部長：佐藤達雄

資料課課長：佐野五十三 調査研究員：井鍋晉之

平成12年度（資料整理）

所長：斎藤 忠 副所長：山下 晃 常務理事：伊藤友雄 調査研究部長：佐藤達雄

資料課課長：大石 泉 調査研究員：井鍋晉之

- 5 本書は分担して執筆した。

佐野五十三 第II章3節

石川武男 第III章第1節、第V章第2節

福島志野 第II章1節2、第III章3節、第V章第2節2

井鍋晉之 第I章第1節、第II章第1節1、第2節、第IV章、第V章第1節1、3

- 6 一部の縄文土器の実測・トレース業務は睇フジヤマに委託した。

- 7 一部の石器の実測・トレース業務は睇バスクに委託した。

- 8 石器石材の鑑定は、静岡大学名譽教授 伊藤通玄先生にご教示及びご指導頂いた。

- 9 蛍光X線分析による黒曜石の原産地推定は、国立沼津工業専門学校助教授 望月明彦氏に依頼した。

- 10 発掘調査資料はすべて財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

- 11 発掘調査にあたって次の方々にご教示ご指導を頂いた。記して厚く御礼申し上げる。（敬称略）

稻垣甲子男 長田 実 市原寿文 小野真一 加藤芳朗 向坂綱二 伊藤延男 小野木重勝

渡辺 誠 滝沢 誠 小野正敏 水野信太郎 望月明彦 中野晴久 西尾雅敏 渡井義彦

渡井英誓 志村 博 木ノ内義昭 新井正樹 原 康志 加藤賢二 鈴木敏中 若月正巳

石川武男 望月明彦 講談社 側野間奉公会

凡　　例

本書の記述、図示については以下の基準に従っている。

- 1 遺物の実測図は以下の縮尺で掲載した。

土器1/2、1/3、1/4

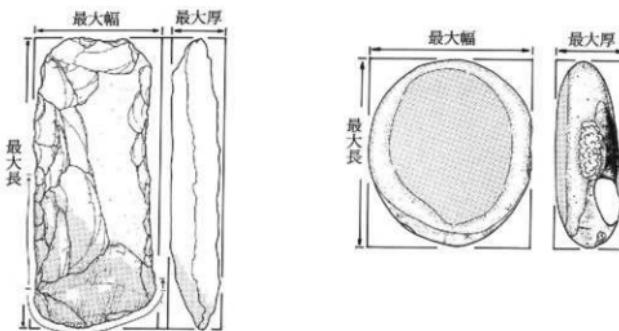
石器1/1、1/2、1/3、1/4

金属製品1/1、1/2 玉類1/1

- 2 石器の観察表について、() は推定値、[] は残存値を示している。

- 3 石器の実測図において、石器の磨り面をスクリーントーン 、被熱範囲をスクリーントーン 、つぶれ範囲をスクリーントーン 、使用範囲を→ ←により図示した。

- 4 法量



目 次

卷頭カラー(1 人面装飾付釣手土器、後頭部結髪状土偶) (2 球之内式土器、谷津原 6 号墳出土土器)	
例言	
第 I 章 資料整理の概要	1
第 1 節 遺物整理の方法	1
第 II 章 破魔射場遺跡の遺物	3
第 1 節 繩文時代の遺物	3
1 土器	
2 土製品	
3 石器	
第 2 節 弥生・古墳時代の遺物	201
1 土器	
第 3 節 奈良・平安時代の遺物	203
1 奈良・平安時代の土器	
2 石製品	
3 中世陶器	
4 鉄製品・銭貨	
第 III 章 谷津原古墳群の遺物	231
第 1 節 古墳出土の遺物	231
第 2 節 中世の遺物	252
1 銭貨・鉄製品	
第 3 節 繩文時代の遺物	252
1 石器	
第 IV 章 北久保遺跡の遺物	257
第 1 節 明治時代の遺物	257
1 土管	
2 煉瓦	
第 V 章 まとめ	263
第 1 節 破魔射場遺跡	263
1 繩文土器	
2 石器	
3 平安時代の土器	
第 2 節 谷津原古墳群	273

挿図目次

第1図	第I群～第II群土器	5	第46図	第VI群土器	50
第2図	第II群土器	6	第47図	第VII群土器(1)	51
第3図	第III群土器(1)	7	第48図	第VII群土器(2)	52
第4図	第III群土器(2)	8	第49図	第VII群土器(3)	53
第5図	第III群土器(3)	9	第50図	第VII群土器(4)	54
第6図	第III群土器(4)	10	第51図	第VII群土器(5)	55
第7図	第III群土器(5)	11	第52図	第VIII群土器(1)	56
第8図	第III群土器(6)	12	第53図	第VIII群土器(2)	57
第9図	第III群土器(7)	13	第54図	第VIII群土器(3)	58
第10図	第III群土器(8)	14	第55図	第VIII群土器(4)	59
第11図	第III群土器(9)	15	第56図	第VIII群土器(5)	60
第12図	第III群土器(10)	16	第57図	第VIII群土器(6)	61
第13図	第III群土器(11)	17	第58図	第IX群土器(1)	62
第14図	第III群土器(12)	18	第59図	第IX群土器(2)	63
第15図	第III群土器(13)	19	第60図	第IX群土器(3)	64
第16図	第III群土器(14)	20	第61図	第IX群土器(4)	65
第17図	第III群土器(15)	21	第62図	第X群土器(1)	66
第18図	第III群土器(16)	22	第63図	第X群土器(2)	67
第19図	第III群土器(17)	23	第64図	第X群土器(3)	68
第20図	第III群土器(18)	24	第65図	第X群土器(4)	69
第21図	第III群土器(19)	25	第66図	第X群土器(5)	70
第22図	第III群土器(20)	26	第67図	第X群土器(6)	71
第23図	第III群土器(21)	27	第68図	第X群土器(7)	72
第24図	第III群土器(22)	28	第69図	第X群土器(8)	73
第25図	第III群土器(23)	29	第70図	第X群土器(9)	74
第26図	第III群土器(24)	30	第71図	第X群土器(10)	75
第27図	第III群土器(25)	31	第72図	第X群土器(11)	76
第28図	第III群土器(26)	32	第73図	第X群土器(12)	77
第29図	第III群土器(27)	33	第74図	第X群土器(13)	78
第30図	第III群土器(28)	34	第75図	第X群土器(14)	79
第31図	第III群土器(29)	35	第76図	第X群土器(15)	80
第32図	第III群土器(30)	36	第77図	第X群土器(16)	81
第33図	第III群土器(31)	37	第78図	第X群土器(17)	82
第34図	第III群土器(32)	38	第79図	第X群土器(18)	83
第35図	第III群土器(33)	39	第80図	第XI群土器	83
第36図	第III群土器(34)	40	第81図	第XII群土器(1)	85
第37図	第III群土器(35)	41	第82図	第XII群土器(2)	86
第38図	第III群土器(36)	42	第83図	第XII群土器(3)	87
第39図	第IV群土器	43	第84図	第XII群土器(4)	88
第40図	第V群土器(1)	44	第85図	第XII群土器(5)	89
第41図	第V群土器(2)	45	第86図	第XII群土器(6)	90
第42図	第V群土器(3)	46	第87図	第XII群土器(1)	91
第43図	第V群土器(4)	47	第88図	第XII群土器(2)	92
第44図	第V群土器(5)	48	第89図	第XII群土器(3)	93
第45図	第V群土器(6)	49	第90図	第XII群土器(4)	94

第91図	土器片鍵	138	第138図	石皿（1）	196
第92図	土製円盤	139	第139図	石皿（2）	197
第93図	土偶・耳飾	141	第140図	石皿（3）	198
第94図	石錐法量分布図	144	第141図	石皿（4）	199
第95図	石錐重量分布図	144	第142図	石皿（5）	200
第96図	石錐（1）	147	第143図	弥生～古墳SB-1～SB-3出土遺物	202
第97図	石錐（2）	148	第144図	平安時代SB-1～SB-4出土遺物	208
第98図	石錐未製品・石槍・有孔石製品	149	第145図	SB-6～SB-8出土遺物	209
第99図	石錐・楔形石器	151	第146図	SB-8～SB-12出土遺物	210
第100図	二次加工剥片・スクレイバー	153	第147図	SB-13～SB-16出土遺物	211
第101図	石匙法量分布図	155	第148図	SB-17～SB-30出土遺物	212
第102図	石匙重量分布図	155	第149図	包含層出土遺物（1）	213
第103図	石匙（1）	156	第150図	包含層出土遺物（2）	214
第104図	石匙（2）	157	第151図	包含層出土遺物（3）	215
第105図	打製石斧I類法量分布図	159	第152図	平安時代土器変遷図	216
第106図	打製石斧II類法量分布図	159	第153図	石製品	225
第107図	打製石斧III・IV・V類法量分布図	160	第154図	中世遺物（1）	226
第108図	打製石斧重量分布図	160	第155図	中世遺物（2）	227
第109図	打製石斧（1）	163	第156図	鉄製品	230
第110図	打製石斧（2）	164	第157図	銭貨	230
第111図	打製石斧（3）	165	第158図	谷津原6号墳出土遺物（1）	232
第112図	打製石斧（4）	166	第159図	谷津原6号墳出土遺物（2）	233
第113図	打製石斧（5）	167	第160図	谷津原6号墳出土遺物（3）	235
第114図	打製石斧（6）	168	第161図	谷津原7号墳出土遺物（1）	237
第115図	打製石斧（7）	169	第162図	谷津原7号墳出土遺物（2）	241
第116図	磨製石斧（1）	171	第163図	谷津原7号墳出土遺物（3）	242
第117図	磨製石斧（2）	172	第164図	谷津原8号墳出土遺物	245
第118図	石錐法量分布図	173	第165図	谷津原9号墳出土遺物	246
第119図	石錐重量分布図	173	第166図	谷津原12号墳出土遺物（1）	248
第120図	石錐（1）	175	第167図	谷津原12号墳出土遺物（2）	250
第121図	石錐（2）	176	第168図	谷津原14号墳出土遺物	251
第122図	石錐（3）	177	第169図	谷津原遺跡SF-02出土銭貨	252
第123図	凹石法量分布図	179	第170図	谷津原遺跡SF-02火打金	252
第124図	凹石重量分布図	179	第171図	黒曜石原産地	254
第125図	敲石	180	第172図	黒曜石原石（1）	255
第126図	凹石（1）	181	第173図	黒曜石原石（2）	256
第127図	凹石（2）	182	第174図	土管	258
第128図	磨石I類法量分布図	183	第175図	煉瓦	261
第129図	磨石II類法量分布図	183	第176図	曾利式土器変遷図（1）	264
第130図	磨石重量分布図	184	第177図	曾利式土器変遷図（2）	265
第131図	磨石（1）	185	第178図	曾利式土器変遷図（3）	266
第132図	磨石（2）	186	第179図	曾利式土器変遷図（4）	267
第133図	磨石（3）	187	第180図	曾利式土器変遷図（5）	268
第134図	磨石（4）	188	第181図	谷津原古墳群変遷図	275
第135図	石棒（1）	190			
第136図	石棒（2）	191			
第137図	蜂の巣石	192			

插表目次

表 1 整理作業工程表	2	表 46 土偶・耳飾觀察表	142
表 2 繩文土器觀察表 1	96	表 47 出土石器点数表	143
表 3 繩文土器觀察表 2	97	表 48 石鏽形態分類表	144
表 4 繩文土器觀察表 3	98	表 49 石鏽觀察表	145
表 5 繩文土器觀察表 4	99	表 50 有孔石製品觀察表	146
表 6 繩文土器觀察表 5	100	表 51 石槍觀察表	146
表 7 繩文土器觀察表 6	101	表 52 浮子觀察表	146
表 8 繩文土器觀察表 7	102	表 53 石錐觀察表	150
表 9 繩文土器觀察表 8	103	表 54 櫻形石器觀察表	150
表 10 繩文土器觀察表 9	104	表 55 二次加工剝片觀察表	152
表 11 繩文土器觀察表 10	105	表 56 スクリイバ観察表	152
表 12 繩文土器觀察表 11	106	表 57 石匙觀察表	155
表 13 繩文土器觀察表 12	107	表 58 打製石斧形態分類表	158
表 14 繩文土器觀察表 13	108	表 59 打製石斧觀察表 (1)	161
表 15 繩文土器觀察表 14	109	表 60 打製石斧觀察表 (2)	162
表 16 繩文土器觀察表 15	110	表 61 半月状両面調整石器・盤状石器觀察表	162
表 17 繩文土器觀察表 16	111	表 62 脣製石斧觀察表	170
表 18 繩文土器觀察表 17	112	表 63 石錐觀察表	174
表 19 繩文土器觀察表 18	113	表 64 敲石觀察表	178
表 20 繩文土器觀察表 19	114	表 65 凹石觀察表	179
表 21 繩文土器觀察表 20	115	表 66 磨石觀察表	184
表 22 繩文土器觀察表 21	116	表 67 石棒觀察表	189
表 23 繩文土器觀察表 22	117	表 68 石劍觀察表	189
表 24 繩文土器觀察表 23	118	表 69 蜂の巣石觀察表	191
表 25 繩文土器觀察表 24	119	表 70 石皿形態分類表	193
表 26 繩文土器觀察表 25	120	表 71 石皿觀察表	195
表 27 繩文土器觀察表 26	121	表 72 弥生～古墳SB-1～SB-3土器觀察表	201
表 28 繩文土器觀察表 27	122	表 73 平安時代SB-1～SB-2出土遺物觀察表	215
表 29 繩文土器觀察表 28	123	表 74 SB-2～SB-7出土遺物觀察表	217
表 30 繩文土器觀察表 29	124	表 75 SB-7～SB-8出土遺物觀察表	218
表 31 繩文土器觀察表 30	125	表 76 SB-8～SB-13出土遺物觀察表	219
表 32 繩文土器觀察表 31	126	表 77 SB-13～SB-22出土遺物觀察表	220
表 33 繩文土器觀察表 32	127	表 78 SB-22～SB-30・包含層出土遺物(1)觀察表	221
表 34 繩文土器觀察表 33	128	表 79 包含層出土遺物(2)觀察表	222
表 35 繩文土器觀察表 34	129	表 80 包含層出土遺物(3)觀察表	223
表 36 繩文土器觀察表 35	130	表 81 包含層出土遺物(4)觀察表	224
表 37 繩文土器觀察表 36	131	表 82 石製品計測表	225
表 38 繩文土器觀察表 37	132	表 83 中世遺物觀察表	228
表 39 繩文土器觀察表 38	133	表 84 鉄製品計測表	229
表 40 繩文土器觀察表 39	134	表 85 銀貨計測表	230
表 41 繩文土器觀察表 40	135	表 86 谷津原 6 号墳土器觀察表	231
表 42 繩文土器觀察表 41	136	表 87 谷津原 6 号墳玉計測表	234
表 43 繩文土器觀察表 42	137	表 88 谷津原 6 号墳刀子計測表	236
表 44 土器片鍍觀察表	138	表 89 谷津原 6 号墳鐵鍍計測表(1)	236
表 45 土製円盤觀察表	140	表 90 谷津原 6 号墳鐵鍍計測表(2)	238

表91	谷津原7号墳玉計測表(1)	238
表92	谷津原7号墳玉計測表(2)	239
表93	谷津原7号墳耳環計測表	240
表94	谷津原7号墳刀子計測表	243
表95	谷津原7号墳鉄鏡計測表	243
表96	谷津原8号墳刀子計測表	244
表97	谷津原8号墳土器観察表	244
表98	谷津原8号墳耳環計測表	244
表99	谷津原8号墳鉄鏡計測表	244
表100	谷津原9号墳刀子計測表	246
表101	谷津原12号墳土器観察表	249
表102	谷津原12号墳鉄鏡計測表	249
表103	谷津原14号墳玉計測表	251
表104	谷津原14号墳土器観察表	251
表105	谷津原SF-02銭貨計測表	252
表106	SF-03原石計測表	253
表107	SF-03原石产地分析結果	254
表108	土管計測表	259
表109	煉瓦計測表	261
表110	石器組成表	269
表111	時期別住居跡石器出土表	271
表112	谷津原古墳群計測表	274

図版目次

- 図版1 第I・II群土器
図版2 第III群土器(1)
図版3 第III群土器(2)
図版4 第III群土器(3)
図版5 第III群土器(4)
図版6 第III群土器(5)
図版7 第III群土器(6)
図版8 第III群土器(7)
図版9 第III群土器(8)
図版10 第III群土器(9)
図版11 第III・V群土器(10)
図版12 第III群土器(11)
図版13 第III群土器(12)
図版14 第III群土器(13)
図版15 第III群土器(14)
図版16 第III群土器(15)
図版17 第III群土器(16)
図版18 第III群土器(17)
図版19 第III群土器(18)
図版20 第III群土器(19)
図版21 第V群土器
図版22 第V・VI群土器
図版23 第V・VII群土器(1)
図版24 第V・VII群土器(2)
図版25 第V・VII群土器(3)
図版26 第VII群土器(1)
図版27 第VII群土器(2)
図版28 第IX群土器
図版29 第X群土器(1)
図版30 第X群土器(2)
図版31 第X群土器(3)
図版32 第X群土器(4)
図版33 第X群土器(5)
図版34 第X群土器(6)
図版35 第X群土器(7)
図版36 第X群土器(1)
図版37 第X群土器(2)
図版38 第X群土器
図版39 土偶 約手土器
図版40 土製品 第X群(小型土器)
図版41 石鎌 小型磨製石斧 石槍 浮子
図版42 剥片石器 石錐 石匙
図版43 打製石斧(1)
図版44 打製石斧(2)
図版45 磨製石斧
図版46 石鎌
図版47 凹石 磨石
図版48 磨石
図版49 石棒
図版50 蜂巢石 石皿(1)
図版51 石皿(2)
図版52 石皿(3)
図版53 黒曜石原石
図版54 弥生~古墳時代SB-1・SB-2出土遺物
図版55 平安時代の土器(1)
図版56 平安時代の土器(2)
図版57 平安時代の土器(3)
図版58 平安時代の土器(4)
図版59 平安時代の土器(5)
図版60 平安時代の土器(6)
図版61 平安時代の土器(7)
図版62 平安時代の土器(8) 青磁皿
図版63 平安時代の土器(9) 貿易陶器
図版64 中世陶器(1)
図版65 出土銭貨 鉄製品(1) 中世陶器(2)
図版66 石製品 鉄製品(2)
図版67 6号墳出土遺物(1)
図版68 6号墳出土遺物(2)
図版69 7号墳出土遺物(1)
図版70 7号墳出土遺物(2)
図版71 8号墳出土遺物 9号墳出土遺物
図版72 12号墳出土遺物(1) 14号墳出土遺物(1)
図版73 12号墳出土遺物(2) 14号墳出土遺物(2)
図版74 土管
図版75 煉瓦

第Ⅰ章 資料整理の概要

第1節 遺物整理の方法

富士川SA関連遺跡は破壊射場遺跡、谷津原古墳群、北久保遺跡から構成され、遺構・包含層から出土した遺物は縄文時代から明治時代までの資料を中心に幅広い時期にわたる。特に縄文時代中期後半から後期前半にかけての土器や石器は膨大なものであり、効率的に作業を進めていく必要があった。そのため縄文土器、石器については資料的価値の高いもの、残存状況が良好なもの、実測可能なものを中心として報告書に掲載していくことを基本に作業を進めた。報告書に掲載できなかったものについても実測及び写真撮影による記録を残すこととした。他の土器や金属製品などの遺物は数が限られており、できるだけ報告書に掲載することを基本とした。以下、資料整理の流れに沿って概観する。

遺物の取り上げ

調査で出土した土器は、包含層出土の場合は層単位、グリット単位(10m四方)で取り上げ、遺構に伴う場合は遺構ごと覆土別に取り上げた。取り上げた土器には登録番号を付け、遺物台帳に登録した。遺物台帳には登録番号、遺物名、調査区、グリット、出土層位、遺構名、取り上げ日を記録した。

水洗・注記・接合

水洗処理には水圧調整が可能な動力噴霧機を使用し、作業の効率化を図った。水洗・乾燥後は遺跡記号、調査区、グリット、遺物番号を記した。また、この時点で復原できる土器は接合・石膏入れを行った。注記の済んだ土器は調査区、グリット、層位、遺構ごとにテンバコに収納した。ここまで作業を現地作業と並行して実施した。

実測

縄文土器については完形品、もしくは接合・復原できたものは飼フジヤマに土器実測を委託した。破片については資料価値の高いもの、特徴的なものを抽出し、拓本・実測作業を行った。また、一部石器の実測・ト雷斯は飼バスコに委託して行った。基本的にB3の方眼紙に実測を行い、実測番号を付け、図面台帳に記録した。

写真撮影

実測の終わった段階で写真撮影を実施し、4×5カメラ、6×7カメラ、35mmカメラを併用した。土器については、完形品もしくは特徴的なもの、復原された土器を主として撮影した。また、撮影前に必要最低限の石膏入れによる復原・色付けを行った。色付けは作業効率を考慮し、近似色単色塗りとした。

遺物カード・登録

遺物カードは1点の遺物に対して1枚のカードを作成し、実測図のコピー、調査区、グリット、遺構、法量、形態、技法、図面番号、挿図版番号、写真図版番号などその遺物のすべての情報を記入した。なお、この遺物カードに記載された項目についてはパソコンへの入力を行い、必要に応じて検索できるようにデータベース化を図った。

収納

一連の作業を終えた遺物についてはテンバコ・ダンボール箱に収納し、報告書掲載の遺物については挿図番号順に、それ以外は登録番号順にテンバコに収納した。各テンバコには登録番号、挿図番号を記したラベルを添付し、併せて収納台帳を作成し、必要な際はすぐに取り出せるようにしている。

表1 整理作業工程表

作業/月	平成11年												平成12年								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
土器接合・復原																					
遺物実測																					
遺物写真撮影																					
版組・トレース（遺構編）																					
版組・トレース（遺物編）																					
写真図版作成（遺構編）																					
写真図版作成（遺物編）																					
報告書編集（遺構編）																					
報告書編集（遺物編）																					
原稿執筆（遺構編）																					
原稿執筆（遺物編）																					
分類・収納																					



土器接合作業



土器復原作業



土器実測作業



拓本作業



写真撮影



図版作成

第II章 破魔射場遺跡の遺物

第1節 繩文時代の遺物

1 土器

本遺跡における縄文時代の土器は前期の十三普提式土器から晩期の土器に及び、テンバコ300箱分が出土している。このうち出土土器の主体をなすものは、中期後半の曾利式土器群であり、次いで、後期前半の堀之内式土器である。これらで出土土器の8割を占めており、当該期が本遺跡の主体的な時期であったことを示すものであり、集落・配石遺構の形成に一致した状況である。特に、後期の堀之内式が大量に出土し、当該地域の土器研究に良好な資料を提供できたといえる。一方、他の時期の土器は少量の土器の出土量に止まるが、北屋敷式土器や船元式土器が若干出土している。土器の出土は破魔射場遺跡C地区では中期後半～後期前半、B地区では後期前半の遺物包含層が形成されていた。

ここでは、出土土器を大まかな時期ごとに群別し、第I群～第X群を設定した。I群、II群、VII群の出土量は少なく、第III、X群について細分しながら観察する。

第I群 前期の土器

第II群 中期前半～中期中葉土器

第III群 曾利式土器

第IV群 唐草文系土器

第V群 加曾利E式土器

第VI群 連弧文土器

第VII群 中期東海系・畿内系土器（北屋敷・船元式土器）

第VIII群 その他の土器（浅鉢、把手、釣手土器、有孔鉢付土器、底部）

第IX群 称名寺式土器

第X群 堀之内式土器

第XI群 晩期の土器

第XII群 粗製土器

第XIII群 その他の土器（小型土器、浅鉢、注口土器、底部）

第I群 前期の土器

1類 十三普提式土器（第1図-1）

1点出土している。第1図-1は縄文地文に結節浮線文を施す。横位に配し、浮線文上の押し引きは短く、細かい。

第II群 中期前半～中期中葉の土器

1類 北裏C I式土器（第1図-2・3）

2点出土している。半裁竹管状工具による沈線の区画内にRL縄文を充填する。他の器面は無文である。区画内には、三角陰刻が付加される。

2類 新道式土器（第1図-4・5）

2点出土している。第1図-4は渦巻き状の隆帯に沿って三角押文を施す。第1図-5は口縁部に爪形文を横位に巡らし、その下は斜位の三角押文を充填する。

3類 藤内式土器（第1図-7）

1点出土している。第1図-7は曲線的な隆線に沿って幅広の爪形文が施される。

4類 井戸尻式土器（第1図-8～第2図-23）

第1図-15は渦巻状の隆帯が付けられ、横位に連続して楕円形の区画帯を有するものである。第1図-17は突起を有し、直下に隆帯を垂下させ、渦巻文を作る。第2図-1～6は筒形を呈し、狭い口縁部無文帯を有する。第2図-2・3は口縁部下に1条の波状隆帯が巡る。第2図-3・4は刻隆帯が口縁部から垂下する。第2図-5の胴部は櫛齒状工具による条線文を地文に隆帯が垂下し、曾利I式土器に連なるものである。第2図-6は口縁部は無文帯を形成し、胴部は連鎖状の隆帯が垂下する。第2図-7～11は波状口縁を呈し、波頂部から隆帯、刻隆帯が垂下する。第2図-12は刻みを施した隆帯が垂下し、逆U字状の隆帯が垂下する。第2図-14は口縁部に綾杉状の隆帯が垂下する。第2図-18は刻隆帯による区画内に三叉文が配される。第2図-19はX字状の刻隆帯により区画された内部に棒状工具を用いた条線文がつく。第2図-23は櫛齒状工具による条線文を地文にX字状の刻隆帯がつき、交差部に隆帯がつく。第2図-25は連鎖状の隆帯がつく。

第三群 曾利式土器

1類 曾利I式土器（第3図、第9図、第12図）

基本的に口縁部は無文が多く、直線的にのびるもの、外側に広がるもの、内湾するものがある。第3図-1は櫛齒状工具による条線文を地文に2条の刻隆帯が垂下する。第3図-2は胴部は膨らみ、口縁部は外反する器形である。頸部は隆帯による格子目文がつき、胴部は櫛齒状工具による条線文が垂下する。第3図-3は口縁部は内湾し無文帯をもつ。頭部は隆帯による格子目文がつく。第3図-4は波頂部から太い隆帯が垂下し、口縁部に波状の刻隆帯が巡る。胴部は櫛齒状工具による条線文を地文とする。第3図-7は口縁部に隆帯による褶曲文がつき、胴部は条線文を地文に波状隆帯が垂下する。第3図-8は棒状工具による条線文を地文に逆U字状の刻隆帯、M字状の隆帯、4条単位の刻隆帯が垂下する。第3図-9は口縁部に褶曲文がつく。

第9図は褶曲文をもつ口縁部でU字状を呈するもの、逆U字状を呈するものがある。

第10図は無文の口縁部で直線的に開くもの、内湾するものに大きく分けられる。内湾する口縁部には、端部が肥厚しながら丸く収まるものがある。

第11図は半裁竹管状工具による重弧文、斜行文、格子目文を有する口縁部片である。重弧文はU字状を呈し、波状隆帯が貼付されるものもある。

第11図-10は口縁部は半裁竹管状工具による斜行文が施され、胴部は櫛齒状工具による縦位の条線文が施される。

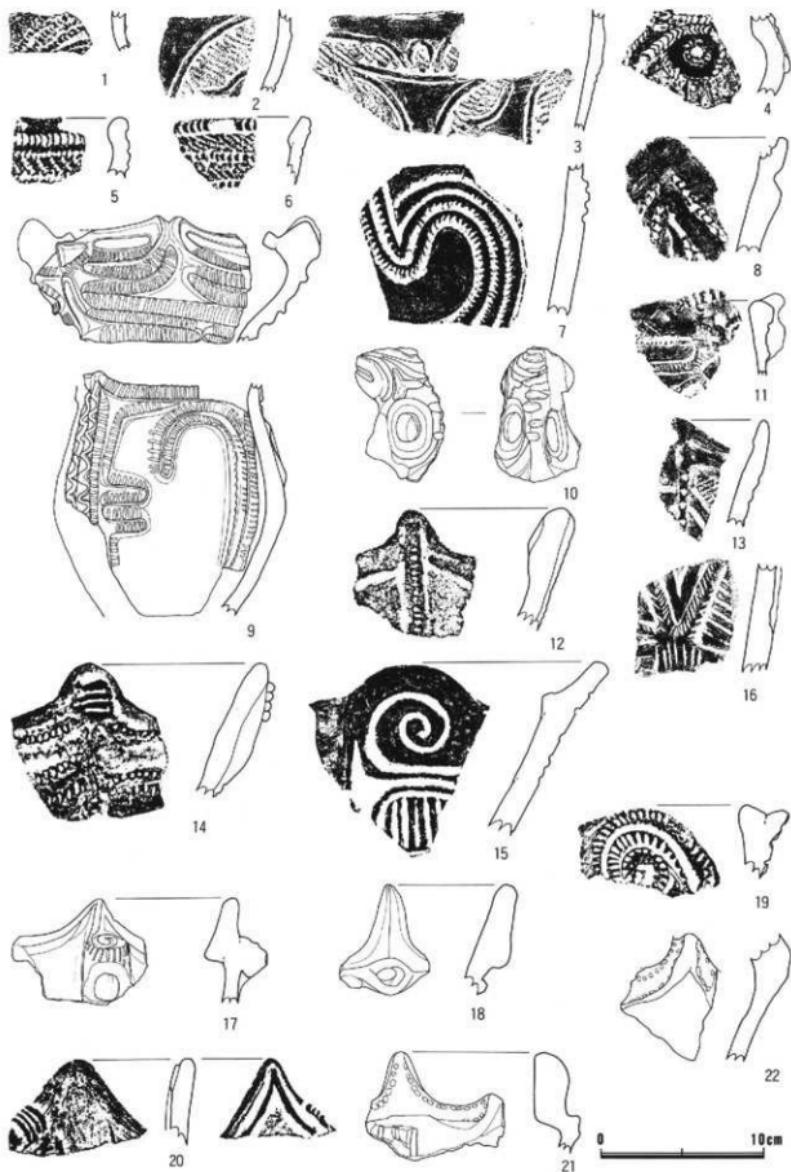
第12図は胴部片であるが、隆帯に刻みをもつことから曾利I式の胴部片とした。

2類 曾利II式土器（第4図-1・6、第5図-2～4、第6図-7・8、第7図、第8図、第17図、第18図）

地文は繩文地文が多くなり、口縁部に横帶文をもつものも見られる。胴部文様にはJ字文、U字文、蛇行隆線が多用される。また、結節繩文による懸垂文が見られる。籠目文土器は格子目文、重弧文、斜行文がある。

第5図-2は口縁部が籠目文を呈し、胴部は櫛齒状工具による条線文に波状隆帯が垂下する。第5図-3・4は口縁部が半裁竹管状工具による重弧文が施され、接続部から波状隆帯が垂下する。第6図-7・8～第8図は地文に繩文を施す。第7図-1～5は口縁部は無文で1条の波状隆帯が巡る。胴部は波状隆帯が垂下する。第7図-5にはJ字文がつく。

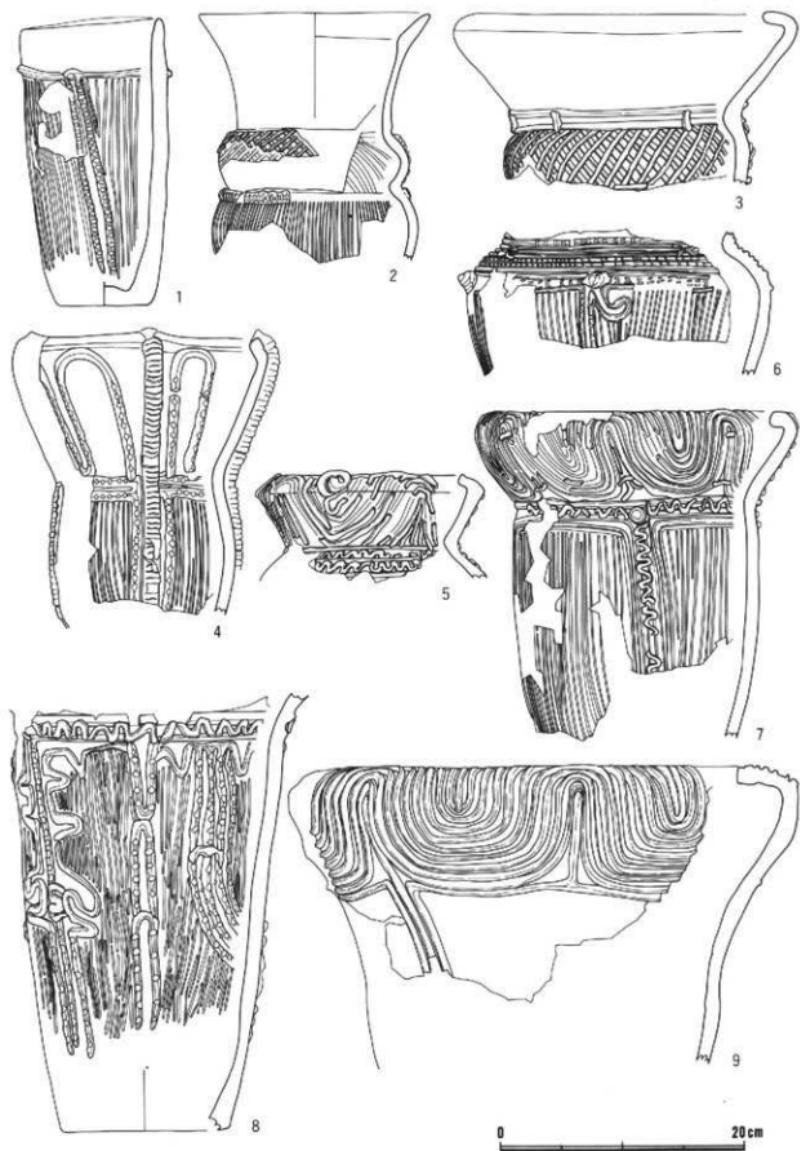
第13図は深鉢の頭部片で隆帯と半裁竹管状工具による沈線が横位に巡るもの、波状隆帯が2～6条巡るものがある。



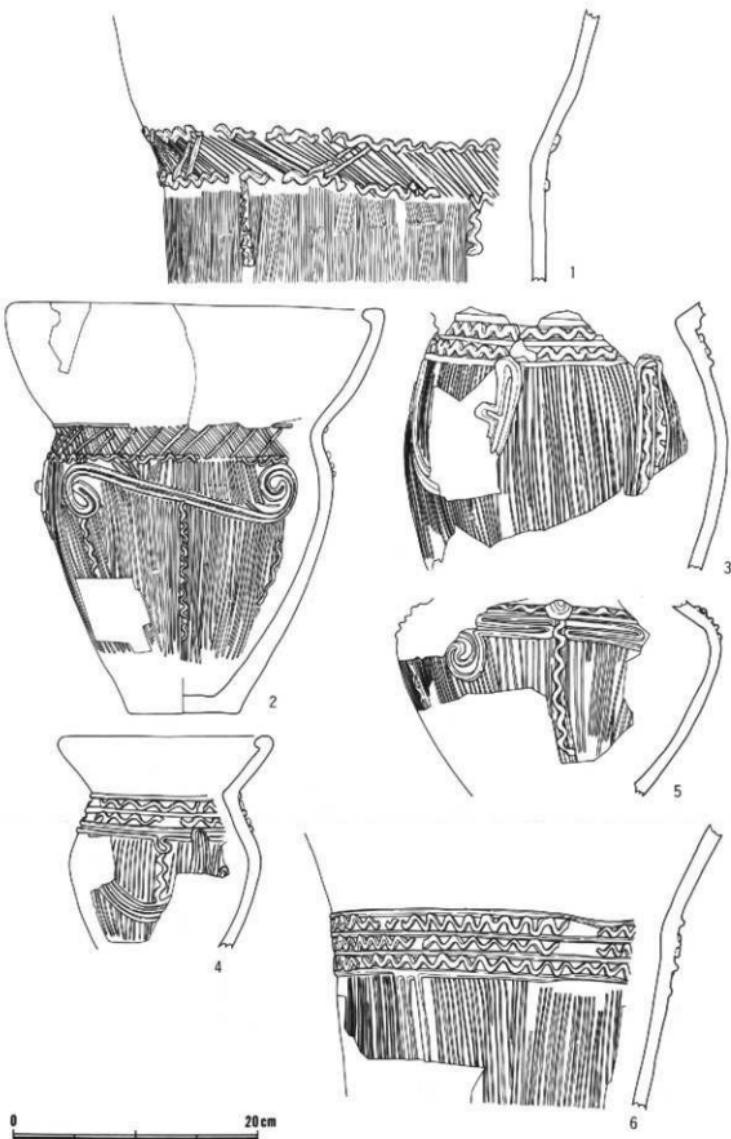
第1図 第I群～第II群土器



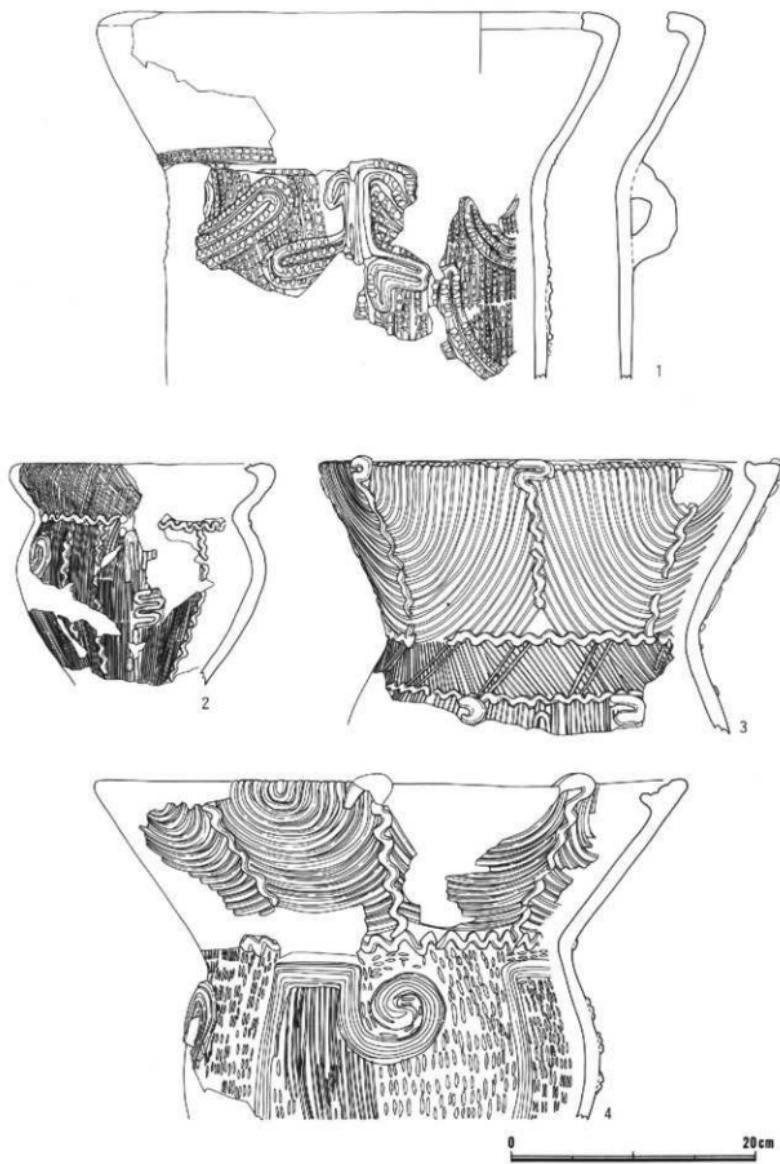
第2図 第II群土器



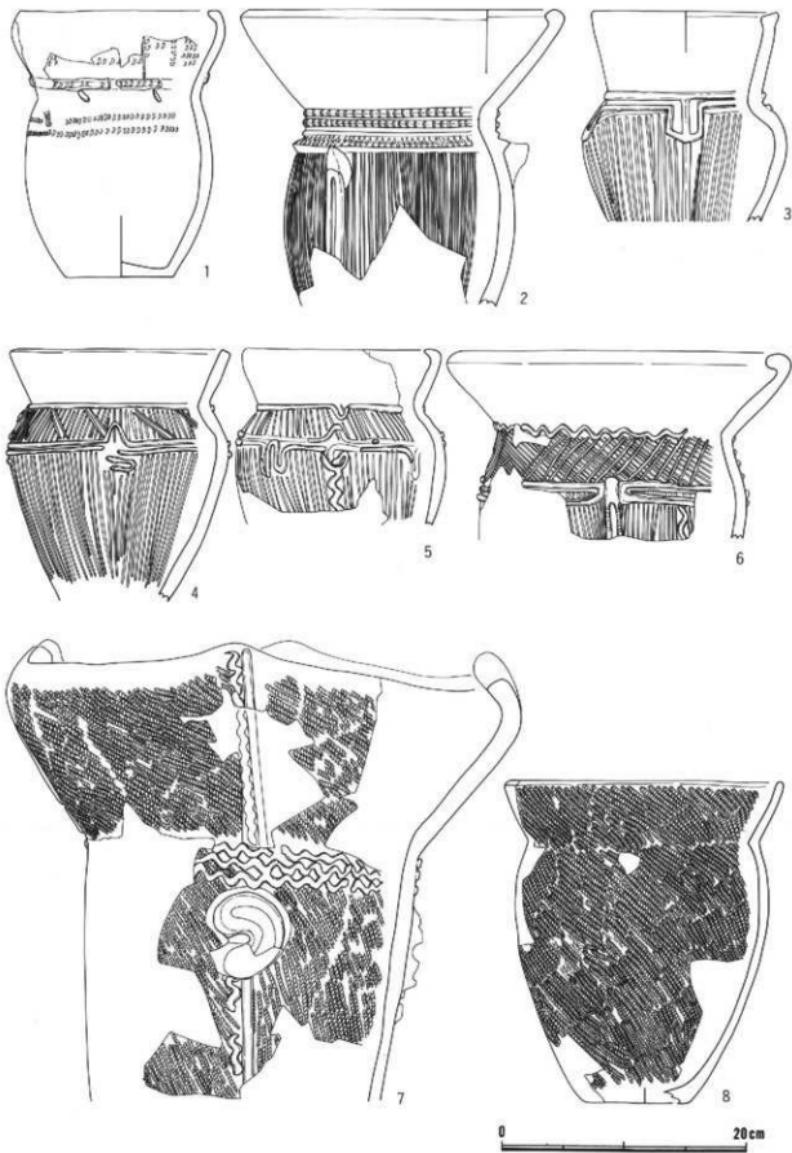
第3図 第III群土器 (1)



第4図 第III群土器 (2)



第5図 第III群土器 (3)

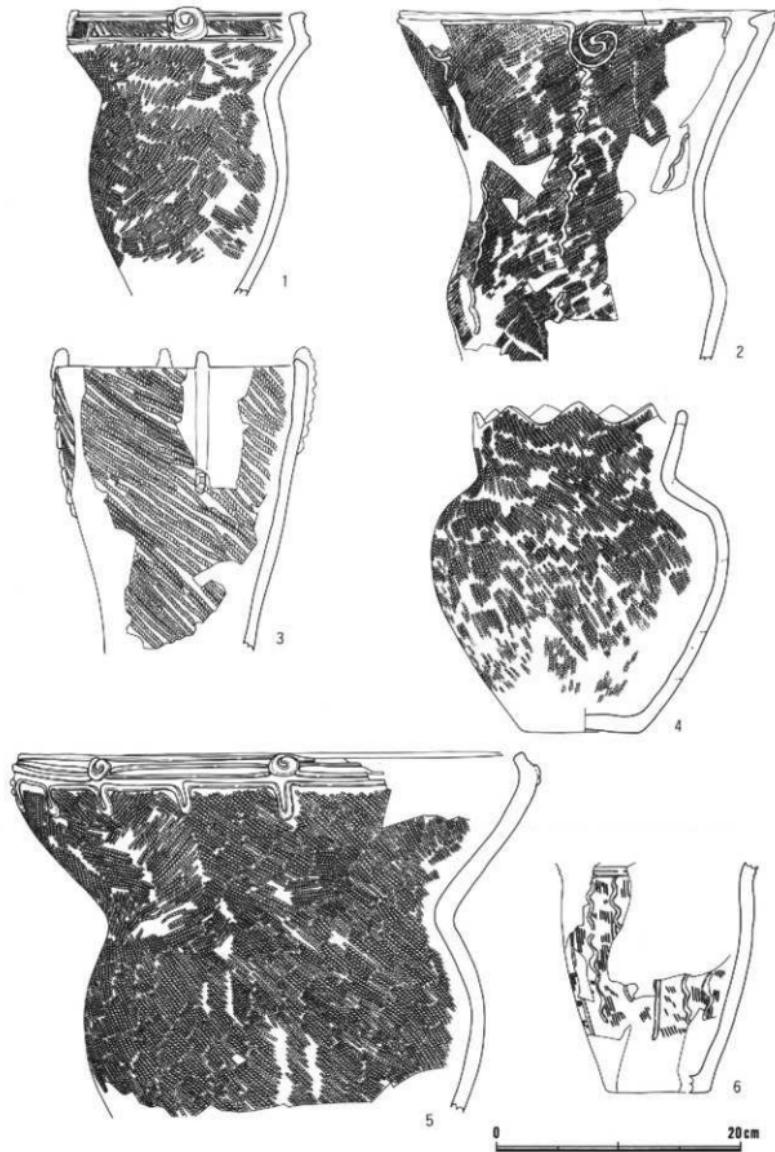


第6図 第III群土器 (4)



0 20 cm

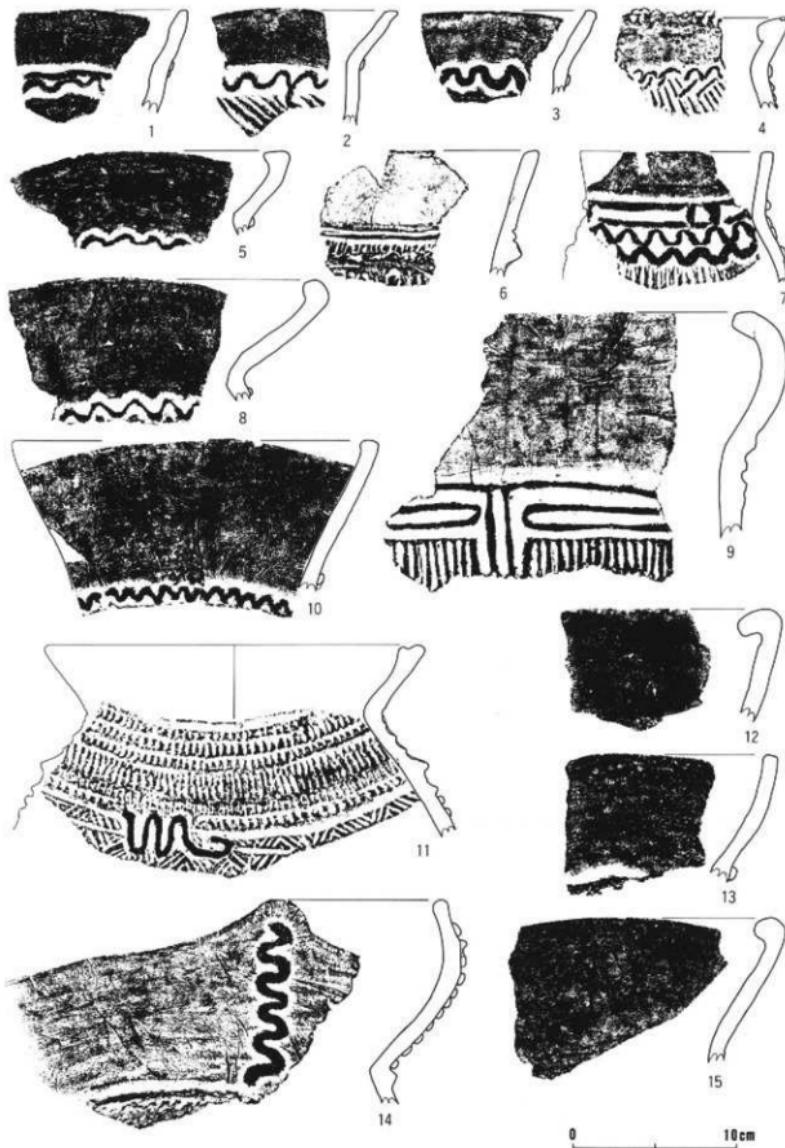
第7図 第III群土器 (5)



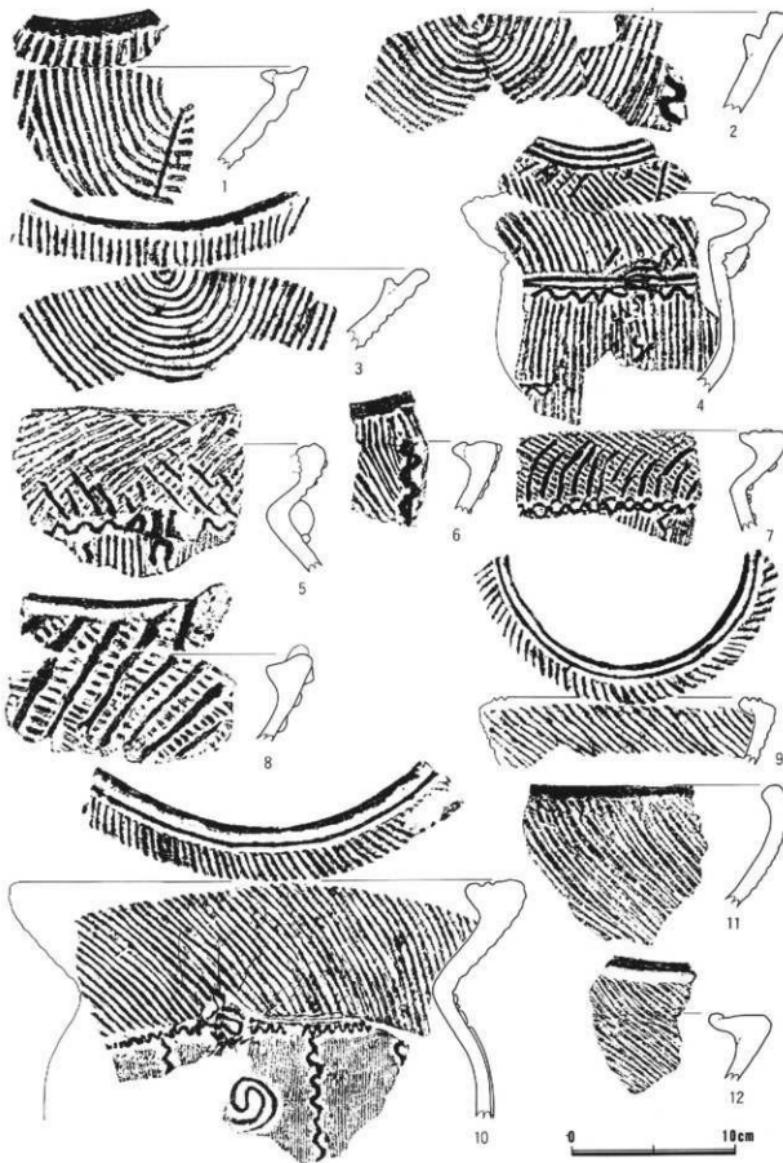
第8図 第Ⅲ群土器 (6)



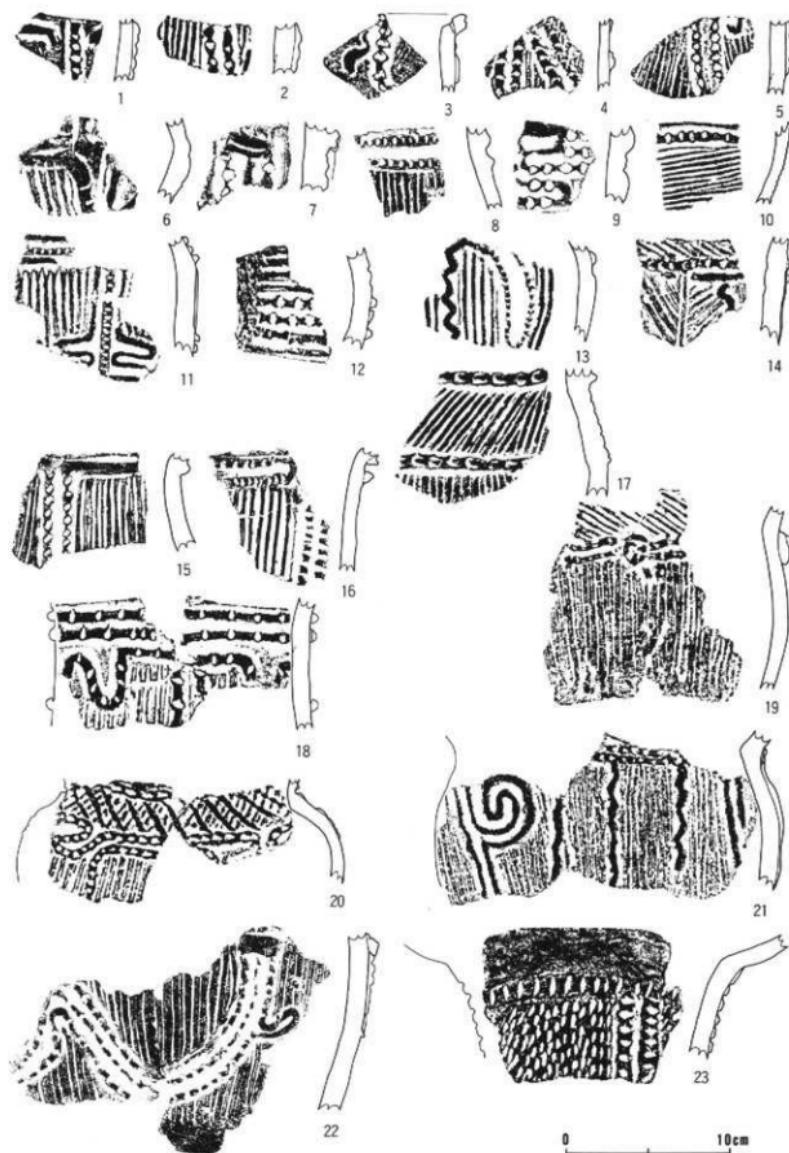
第9図 第III群土器 (7)



第10図 第III群土器（8）



第11図 第III群土器 (9)



第12図 第III群土器 (10)



第13図 第III群土器 (11)

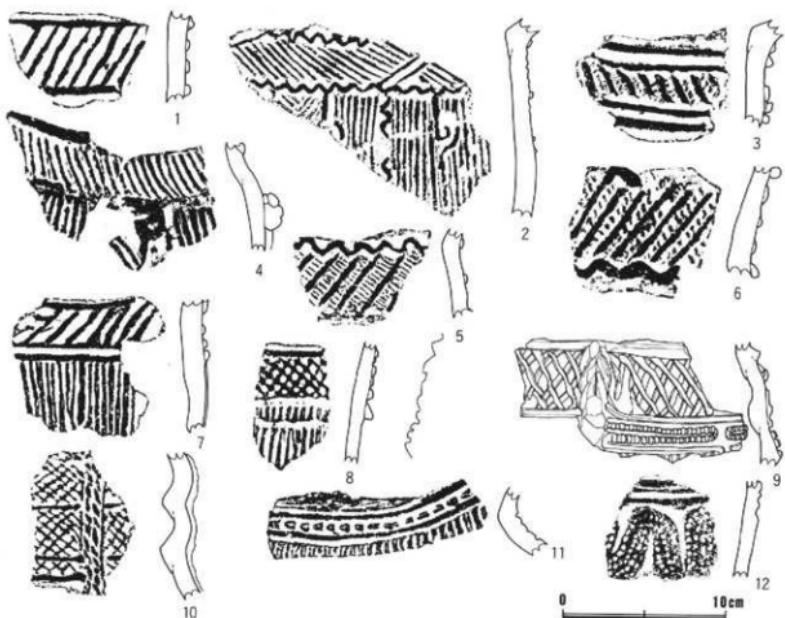
第14図は深鉢の頸部片で半裁竹管状工具による斜位の沈線に隆帯を貼付し、格子目状にしているもの、隆帯による格子目にしているものがある。

第15・16図は深鉢の胴部片で第15図-1～3は波状隆帯が垂下する。第15図-6～13は半裁竹管状工具による条線文を地文に波状隆帯が垂下する。第15図-14は櫛歯状工具による条線文に隆帯が貼付される。

第17・18図は地縄文を施す口縁部、胴部片である。第18図-1～5は結節縄文を施すものである。第18図-11～17は口縁部に2条の刺突文が巡る。

3類 曾利III式土器 (第19図、第20図)

深鉢形土器の特徴は円文、横S字文等の肥厚された口縁部文様帶、渦巻つなぎ弧文が見られる。胴部は大柄渦巻文、H状懸垂文、蛇行沈線文が見られる。地文は縦位、斜位、綾杉状の条線が多用される。第19図-1は口縁部肥厚帯に横S字文が施され、頸部は無文帶をもつ。胴部は渦巻文に条線が充填される。第19図-2は波頂部に孔のついた円文と横S字文の口縁部肥厚帯をもち、胴部は斜位の櫛歯状工具による条線文を地文に隆帯と沈線による渦巻文が施される。第20図-3は渦巻つなぎ弧文が施され、頸部は無文帶をもつ。胴部は縦位の条線文を地文に隆帯と沈線による渦巻文が施される。第19図-4は口縁部に1条の沈線が巡り、大柄な渦巻文を施す。その間隙には縦位の櫛歯状工具による条線文が施される。



第14図 第III群土器 (12)

第20図は円文、横S字文を有する口縁部肥厚帯である。第20図-8・9は円文を有し口縁部下には無文帯をもつ。

第21図-3・4は口縁部が隆帯と沈線による渦巻つなぎ弧文で、梢円区画内には縦位の条線文がつく。第21図-9は梢円区画内に棒状工具による縦位の沈線がつく。胸部は櫛歯状工具による条線文が施される。第21図-1は波頂部に渦巻文がつき、梢円区画内に刺突文が充填される。第21図-13は縦位の条線文が施され、口縁部の渦巻文下の胸部は波状沈線文が垂下する。

4類 曾利IV式土器 (第21図～第32図)

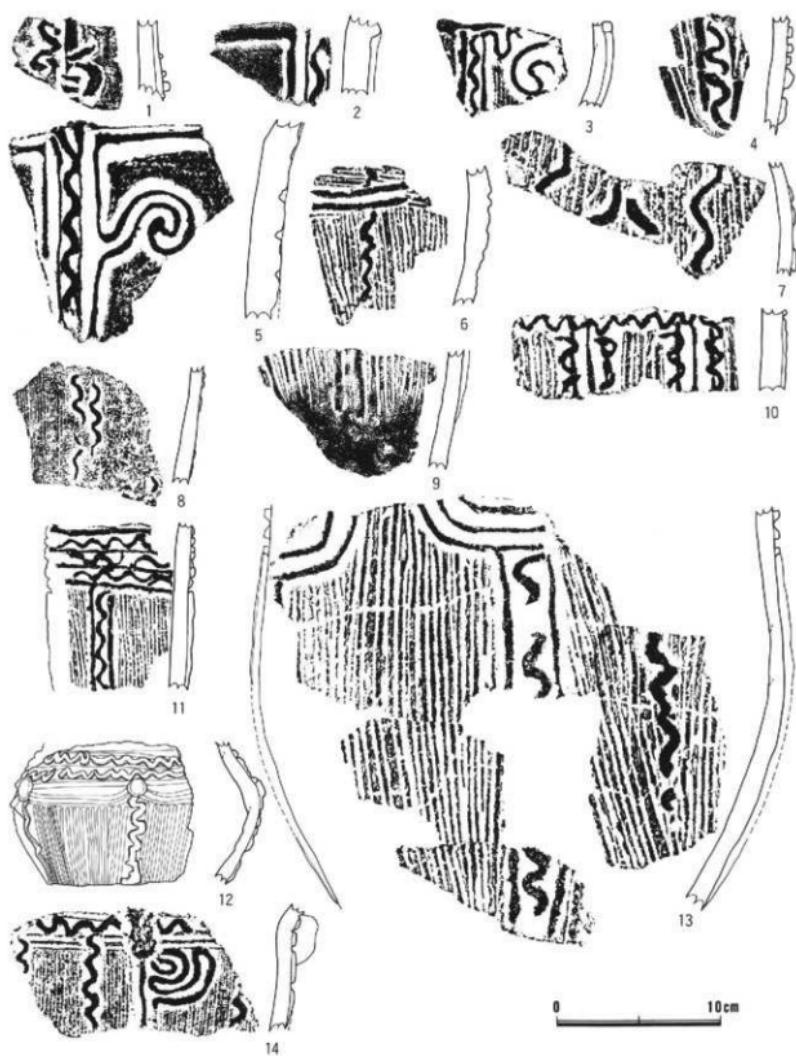
深鉢形土器の器形は口縁部文様帶が退化し、口縁部に1条の太い沈線が巡るもののが増加する。胸部の器形は弱く、口縁は大きく開くようになる。胸部は沈線や隆線による区画内に縦位、綾杉状の条線が施され、中央に蛇行沈線文が垂下する文様構成が主体を占める。

第22図は大柄な渦巻文を有する深鉢である。第22図-4は渦巻文を貼付し、その間隙に条線を充填している。

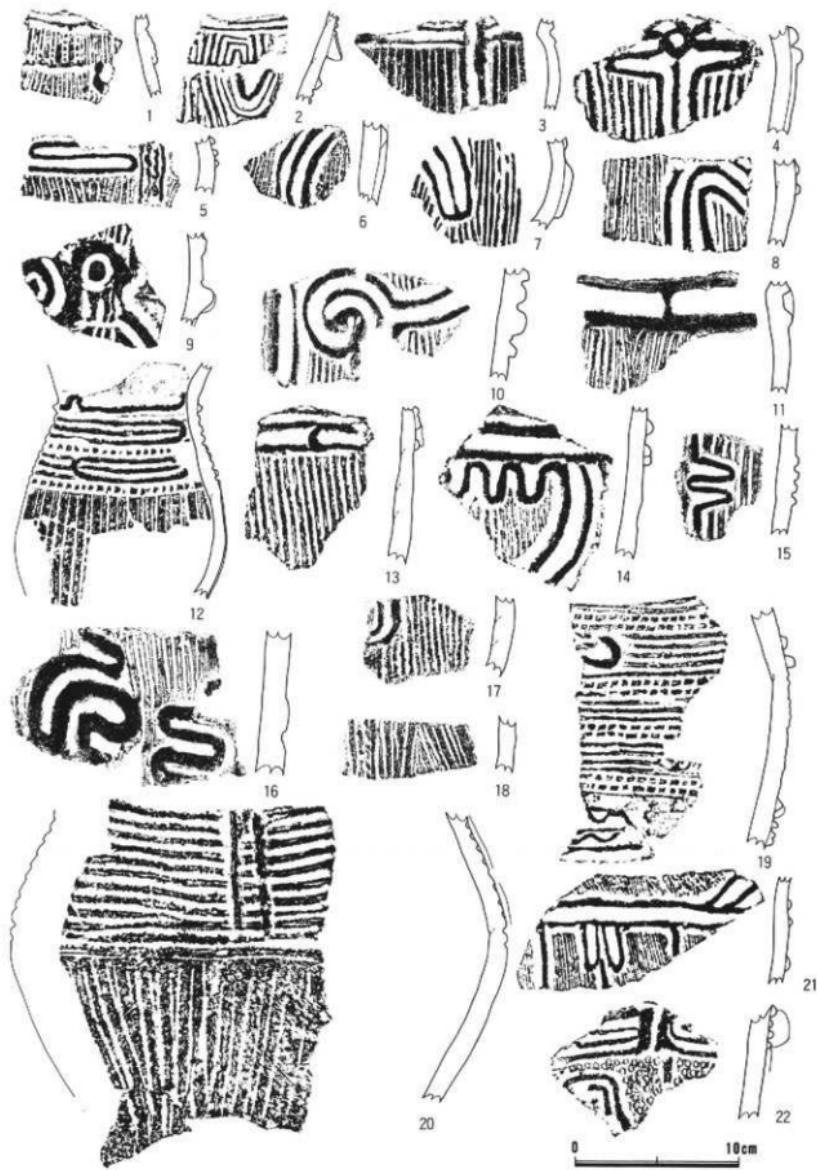
第23図は渦巻文を有する胸部片である。第23図-8は棒状工具による条線文である。

第25図-2・3は口縁部文様帶をもち、渦巻つなぎ弧文、梢円文が施され、胸部は条線文を地文に蛇行沈線文がつく。第25図-4・5、第26図-1は渦巻文とその下に垂下する隆帯と沈線間に条線文を地文に中央に蛇行沈線文がつく。第26図-3～7は沈線による区画内に条線文を施し、中央に蛇行沈線文がつく。第28図-1は波状口縁を呈し、田字状区画内に櫛歯状工具による条線文を施す。胸部に一部であるが蛇行沈線文が認められる。

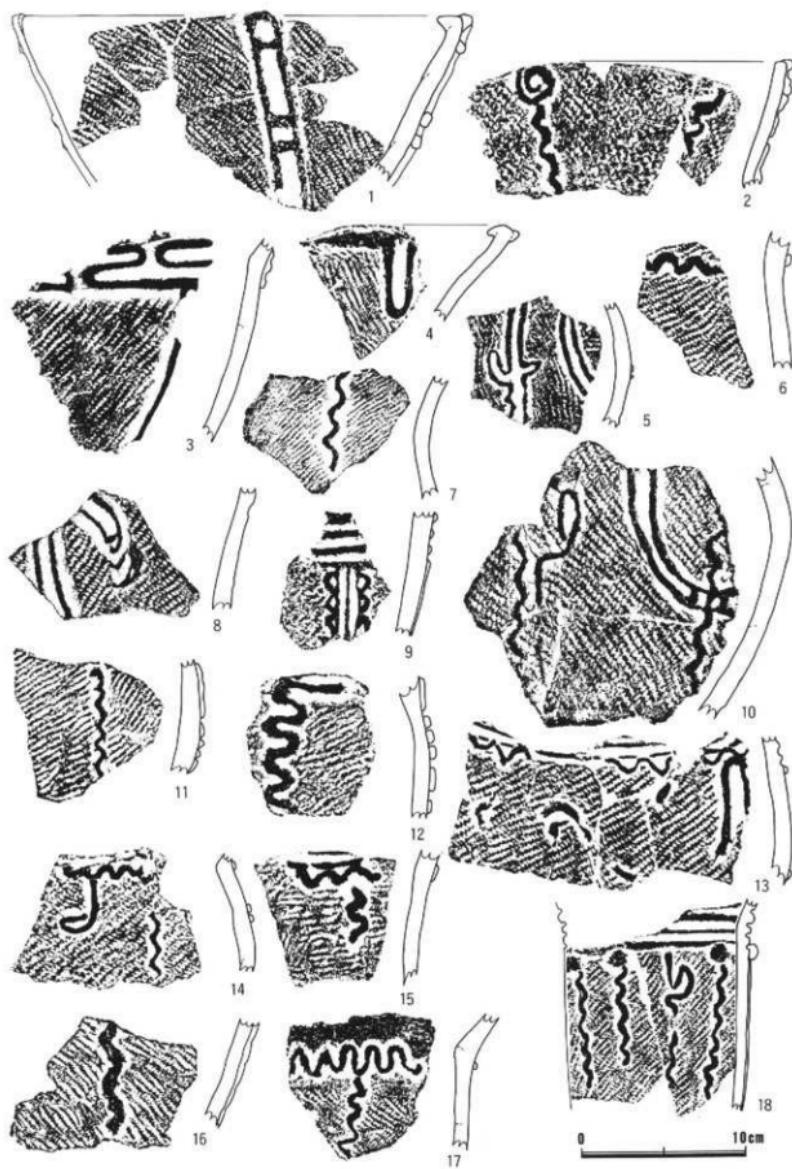
第28図-2・4・6は縦位の沈線、隆線による区画はされず、綾杉状、縦位の条線文を地文に蛇行沈



第15図 第III群土器 (13)



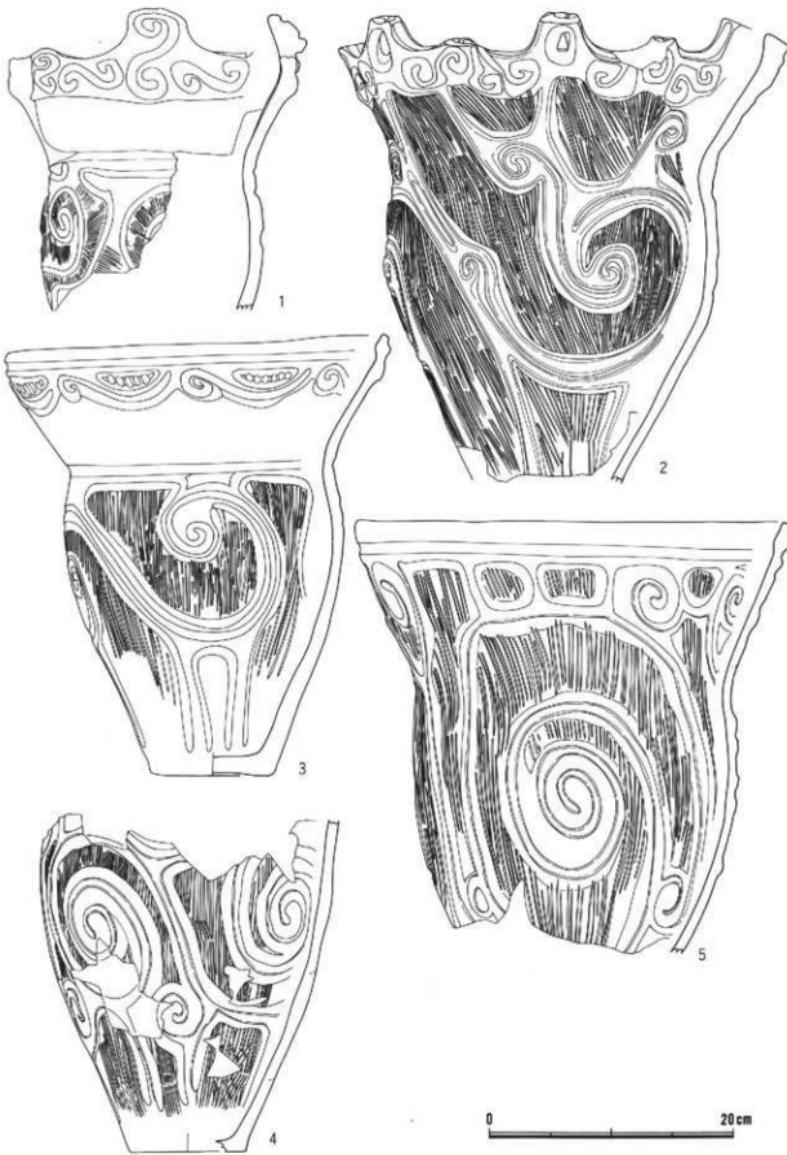
第16図 第III群土器 (14)



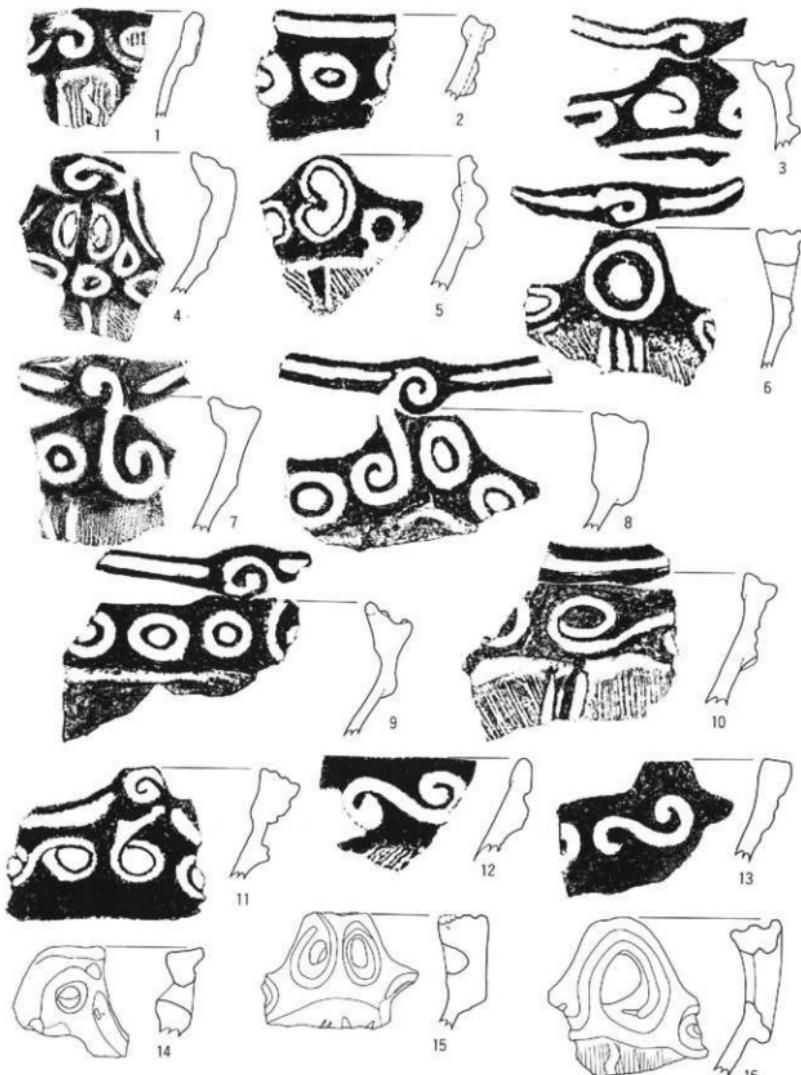
第17図 第III群土器 (15)



第18図 第III群土器 (16)

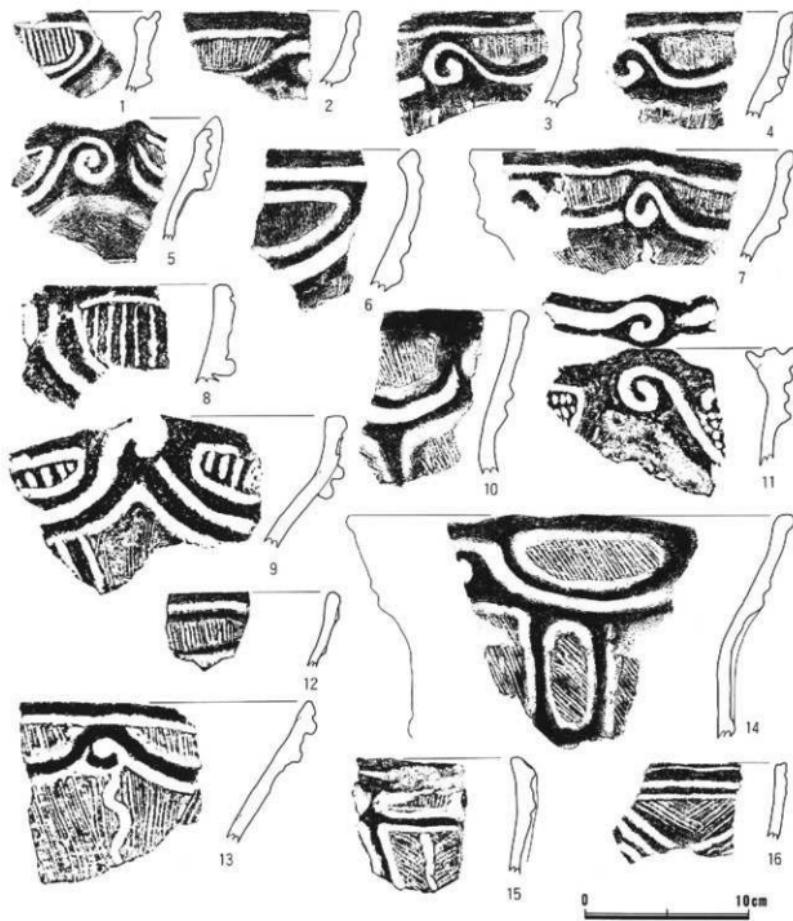


第19図 第III群土器 (17)



0 10cm

第20図 第III群土器 (18)



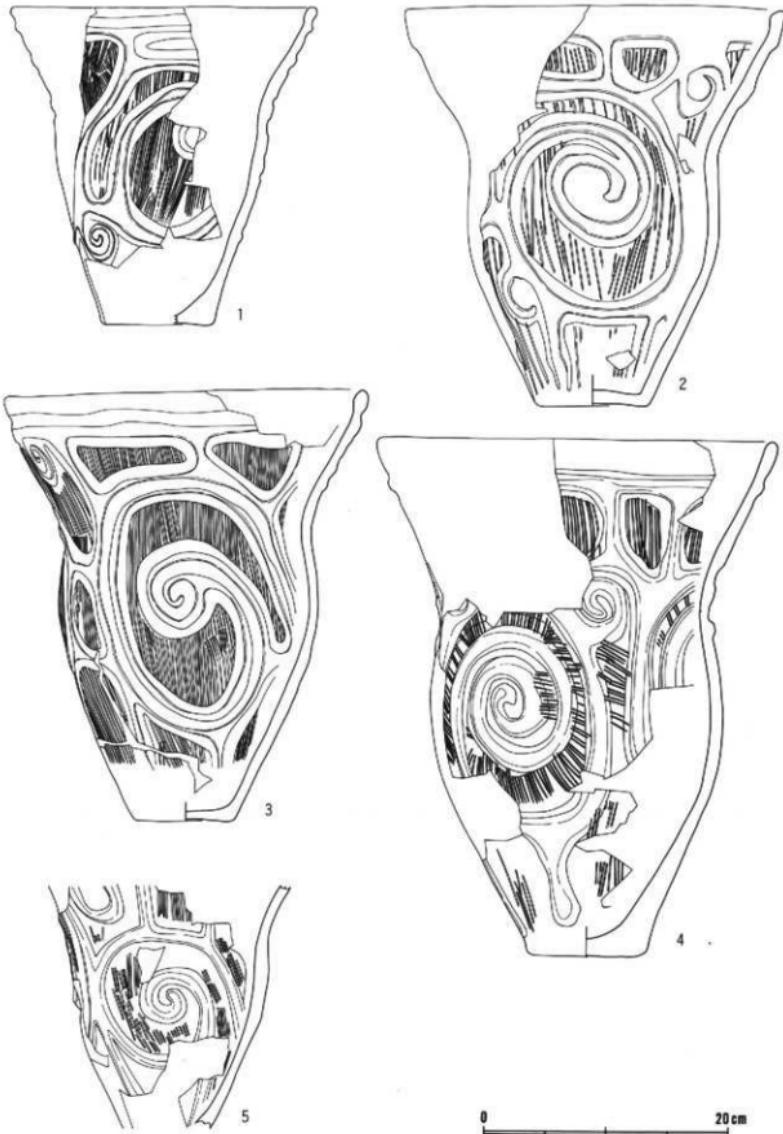
第21図 第III群土器 (19)

線文が施される。第28図-5は沈線による区画内にそれぞれLR縦文、櫛齒状工具による条線文、列点文が施される。

第31図は縦位の条線を地文したものを一括した。

第32図は口縁部文様帯が残存し沈線による楕円、渦巻文を有するものを一括した。第32図-4・5は沈線による渦巻文と楕円区画文がそれぞれ独立して施される。第32図-6・7は口縁部に1条の沈線が巡り、沈線に区画された胸部の上部に弧文状の区画が施され、刺突文が付される。

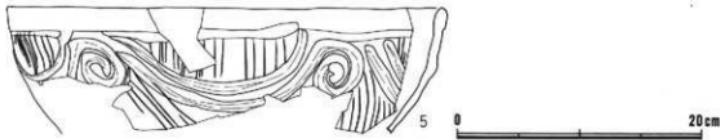
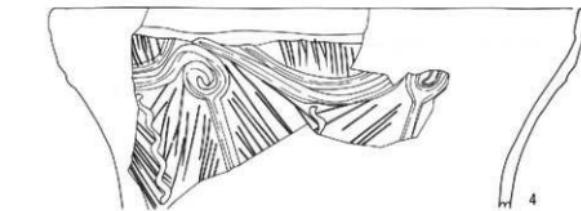
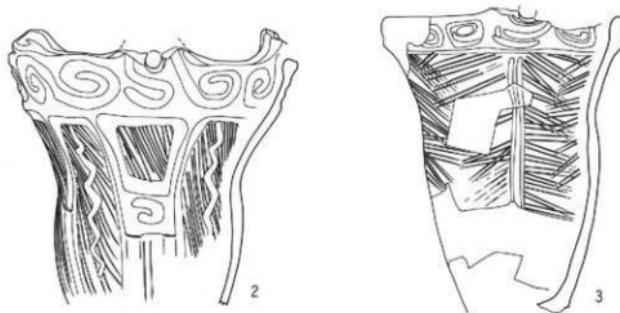
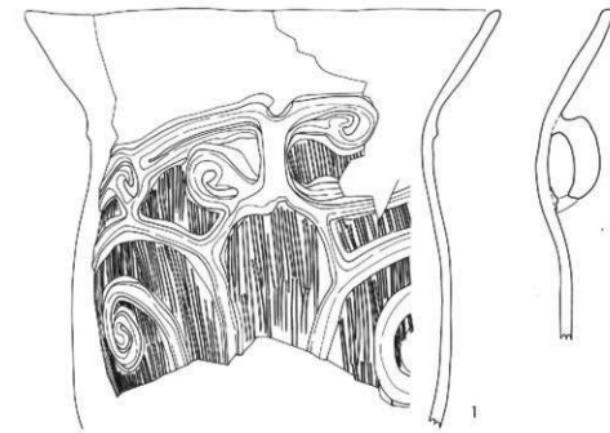
第33図は列点文を地文とするものを一括した。棒状工具によるものと櫛齒状工具によるものがある。



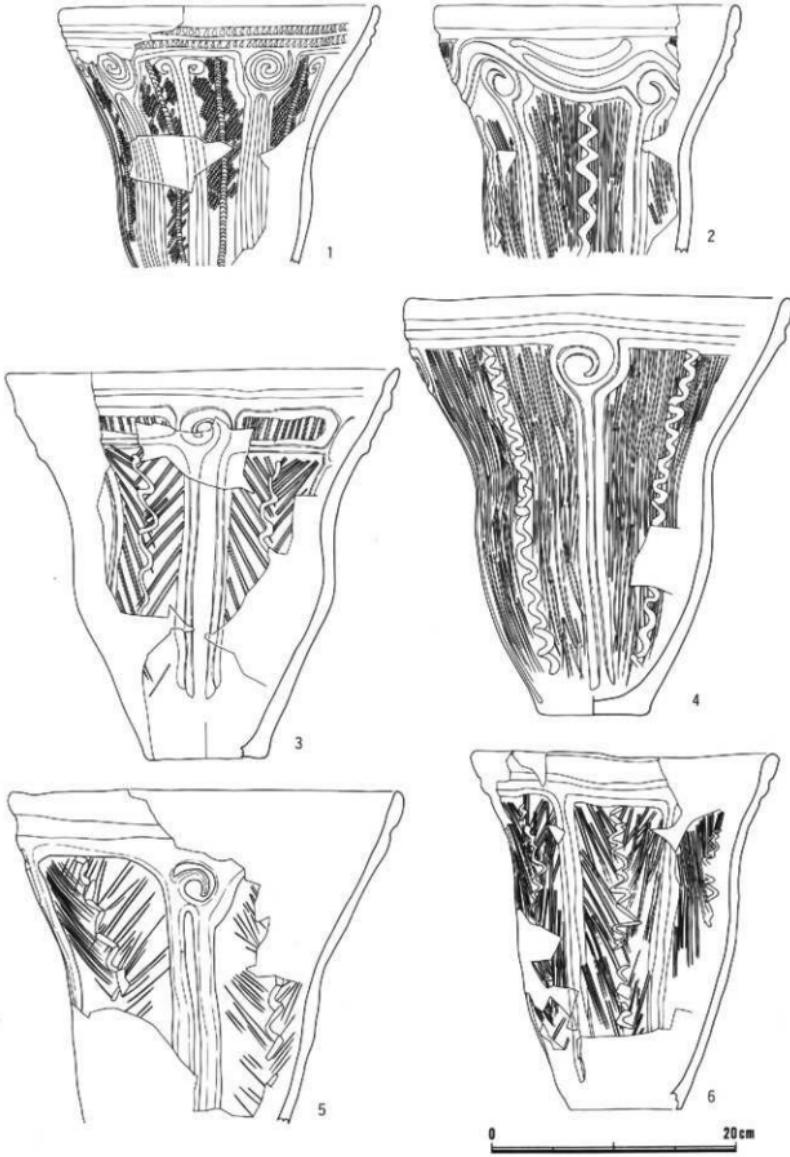
第22図 第III群土器 (20)



第23図 第III群土器 (21)



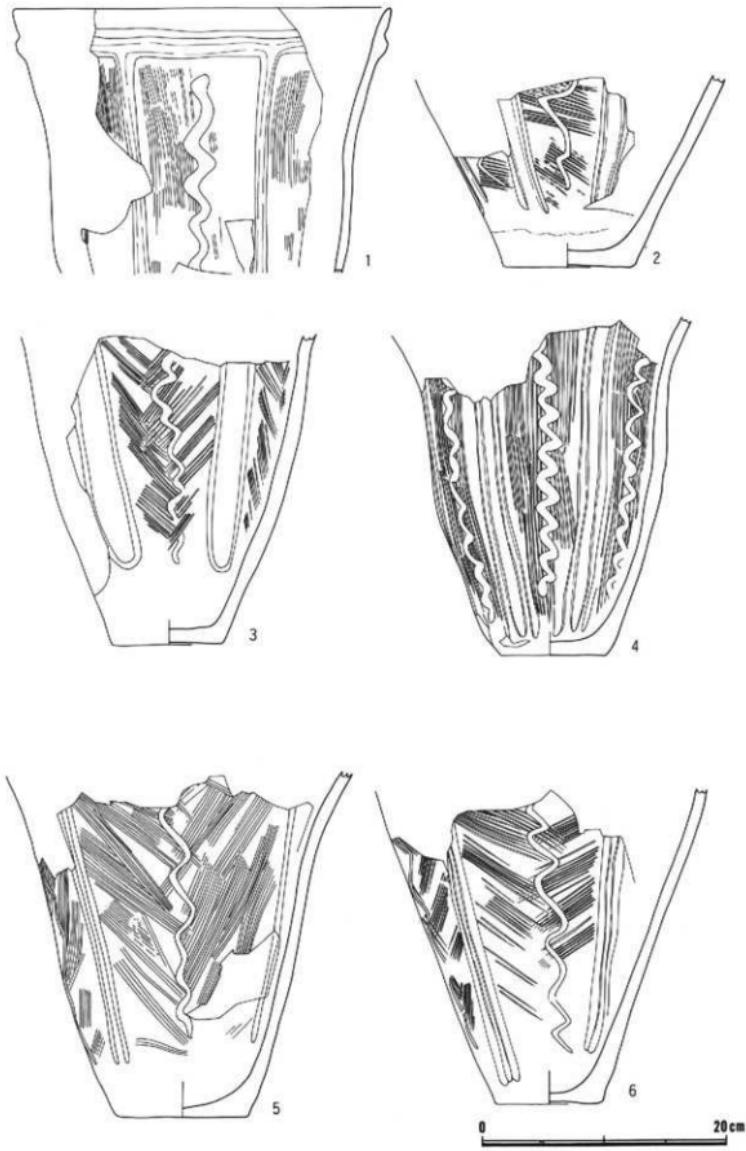
第24図 第III群土器 (22)



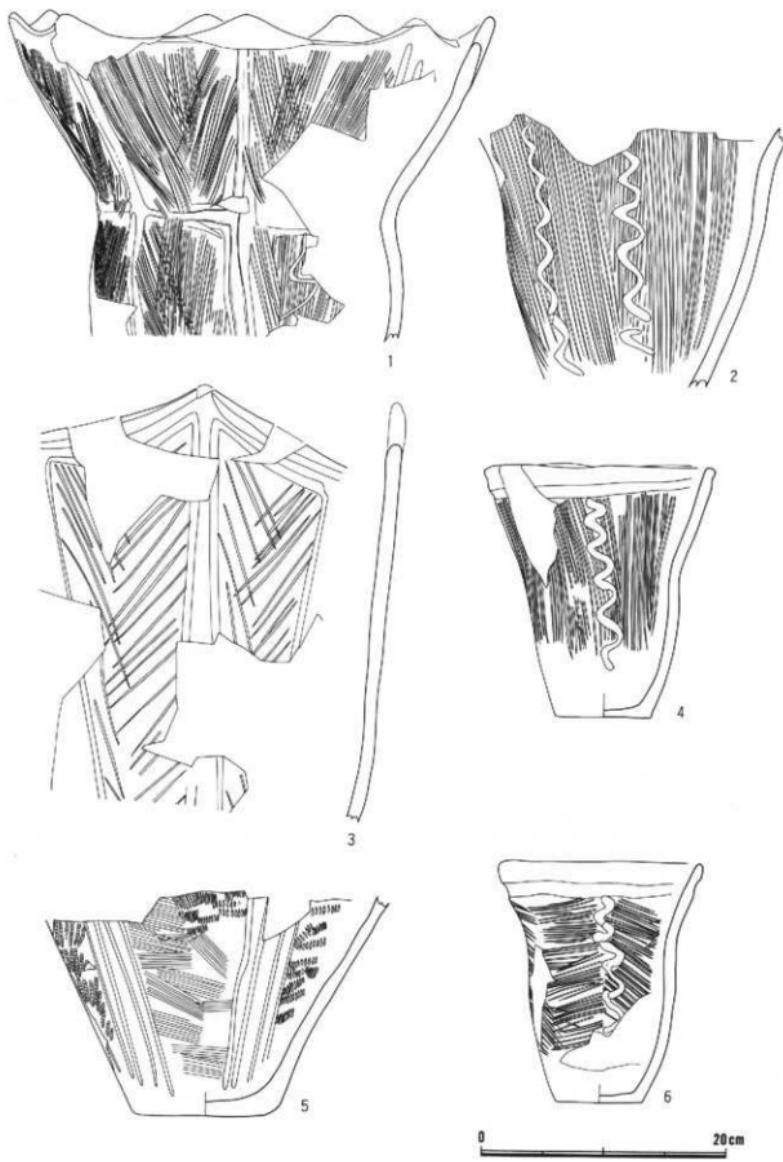
第25図 第III群土器 (23)



第26図 第III群土器 (24)



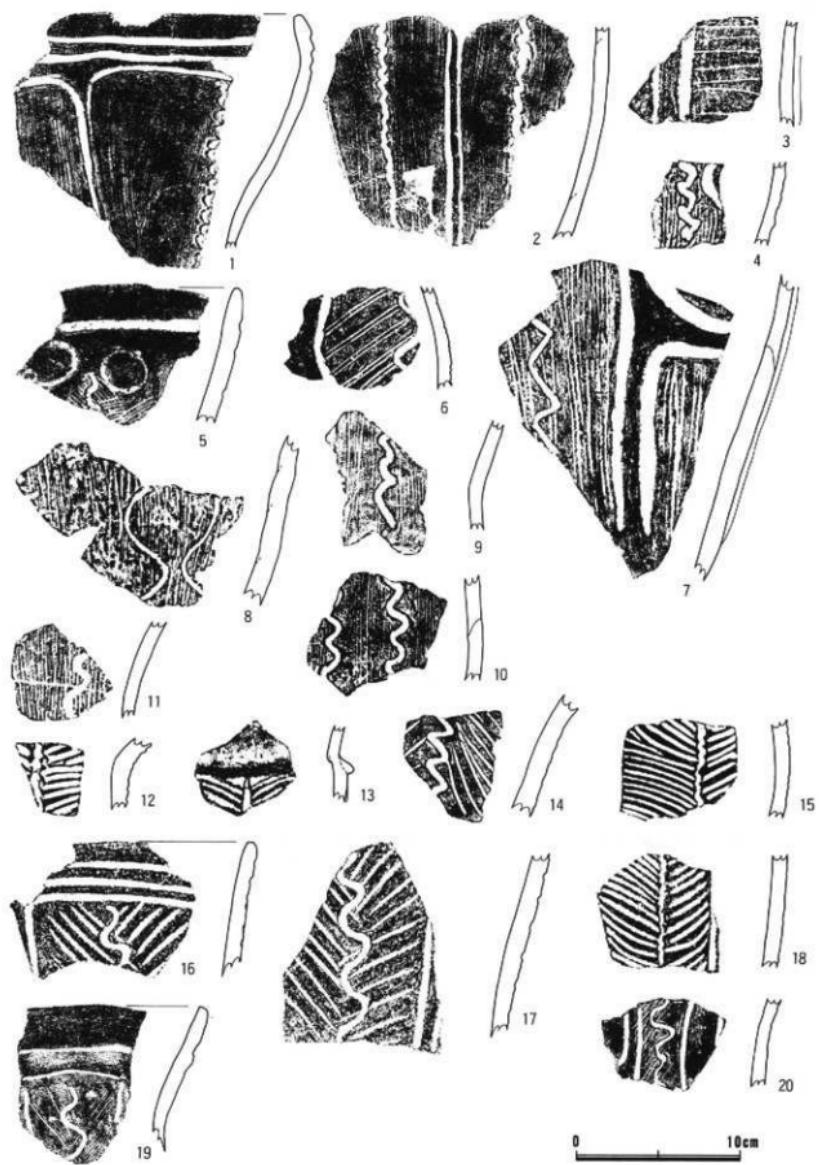
第27図 第III群土器 (25)



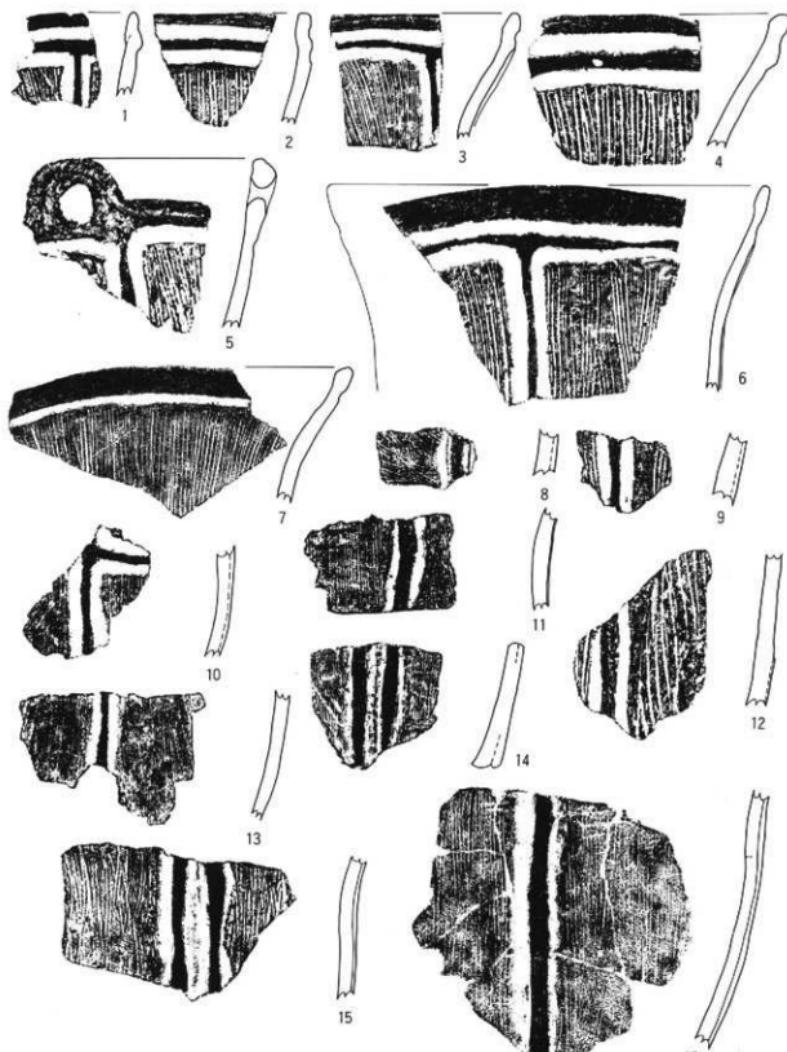
第28図 第III群土器 (26)



第29図 第III群土器 (27)



第30図 第III群土器 (28)



0 10 cm

第31図 第III群土器 (29)



第32図 第III群土器 (30)

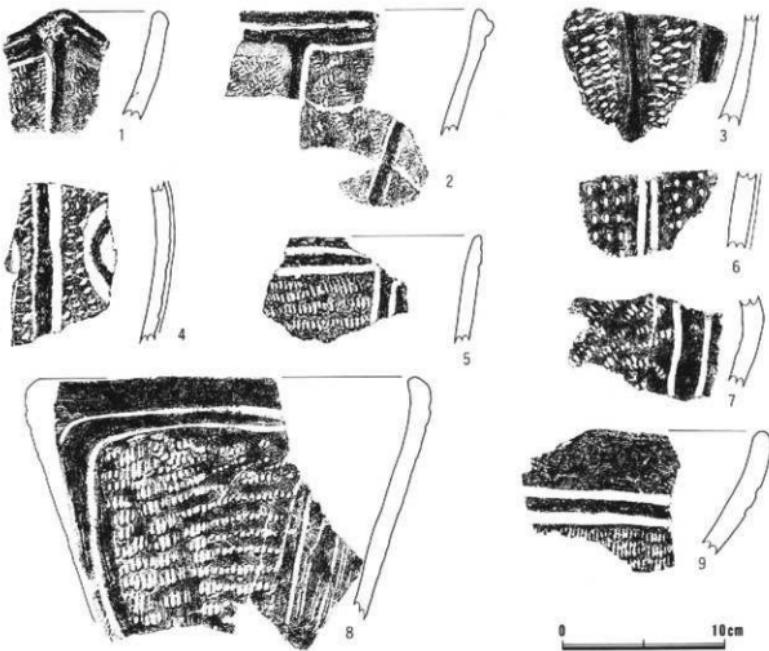
5類 曾利V式土器 (第34図～第38図)

深鉢形土器の器形は、胸部のくびれは弱く、直線的に開くものが多い。地文にはハ字の短沈線文や櫛齒状工具による刺突文を多用する。第34図-1～5は口縁部文様帶を有し、第34図-1～3は沈線による楕円区画文を施す。第34図-5は、沈線による渦巻つなぎ弧文がつく。胸部は、第34図-1～6が逆U字状の区画、H字状懸垂文、楕円文を施す。第35図-1は波頂部に渦巻文がつき、周囲に刺突文がつく。第35図-2は、沈線により楕円区画状に口縁部文様帶を描出し、渦巻文と蕨手文が垂下し、区画内に短沈線文が施される。第35図-3は田字状の区画内に口縁部はハ字の短沈線文が施され、胸部は櫛齒状工具による条線文が施される。第35図-6は隆帶と渦巻文による区画内にハ字の短沈線文が施される。第35図-7は、胸部の縦の区画ではなく、ハ字の短沈線文のみで、沈線の彫りは浅い。

第37・38図は、曾利V式に比定される口縁部片、胸部片である。第37図-7・9～第38図-6は沈線による楕円区画が残存し、2本の沈線で楕円区画文が施される。区画文内は無文であるが、第37図-12はハ字の短沈線文が施される。

第IV群土器 唐草文系土器 (第39図)

第39図-1・2は、口縁部が渦巻つなぎ弧文で、区画内は棒状工具による縦位の条線がつく。第39図-3は、3本1組の隆帶を垂下させ、渦巻文がつくるわゆる肋骨文が施される。4は、地文に棒状工具による綾杉状の短沈線文を施し、刺突を施した隆帶を垂下させる。



第33図 第III群土器 (31)

第V群土器 加曾利E式土器

加曾利E 1式に比定される土器は出土されていない。中期後半の土器群の中では、曾利式土器に次ぐ出土数を有する。

1類 加曾利E 2式 (第41図)

口縁部は、隆帯で渦巻文と梢円形の区画、渦巻つなぎ弧文下の頸部は無文帶をもつものがある。

第41図は加曾利E 2式に比定される土器である。第41図-1～3は隆帯による窓枠状の区画を呈する。第41図-4・5は隆帯による渦巻つなぎ弧文を呈する。第41図-6は口縁部に隆帯による横蒂文を有し、内部に波状隆帯が巡る。

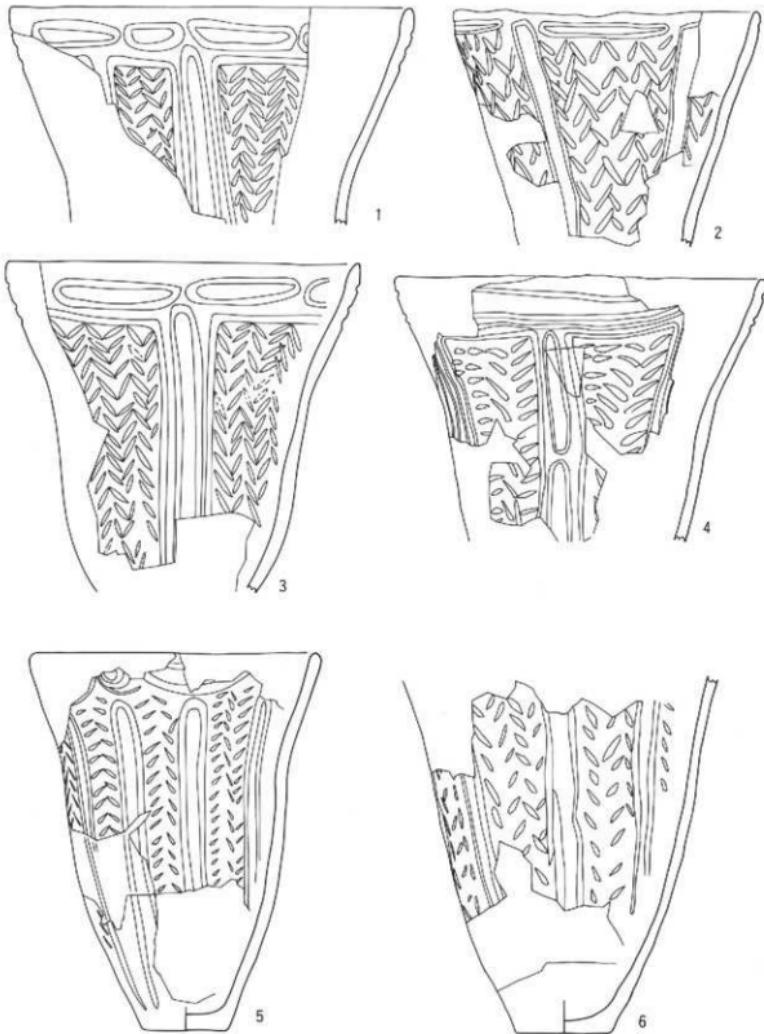
第42図-1・2は地文にRL繩文を施し、口縁部は低い隆帯を施し、半円状を呈する。3は隆帯による梢円区画を有する。6は隆帯と沈線による梢円区画を有し、胸部は蛇行沈線文が垂下する。7は渦巻文と窓枠状の区画内刺突文を施し、渦巻文下には蛇行沈線文を施す。

2類 曾利式土器の影響を受けたと考えられる土器 (第42図1～7)

曾利式土器の影響を受けたと考えられる土器を一括した。第42図-1・2は円文と連結する2本の弧線文がつく。第42図-5～7は口縁部に渦巻つなぎ弧文が施され、内部に縱位の刺突文が充填される。渦巻文下には蛇行沈線文が垂下する。

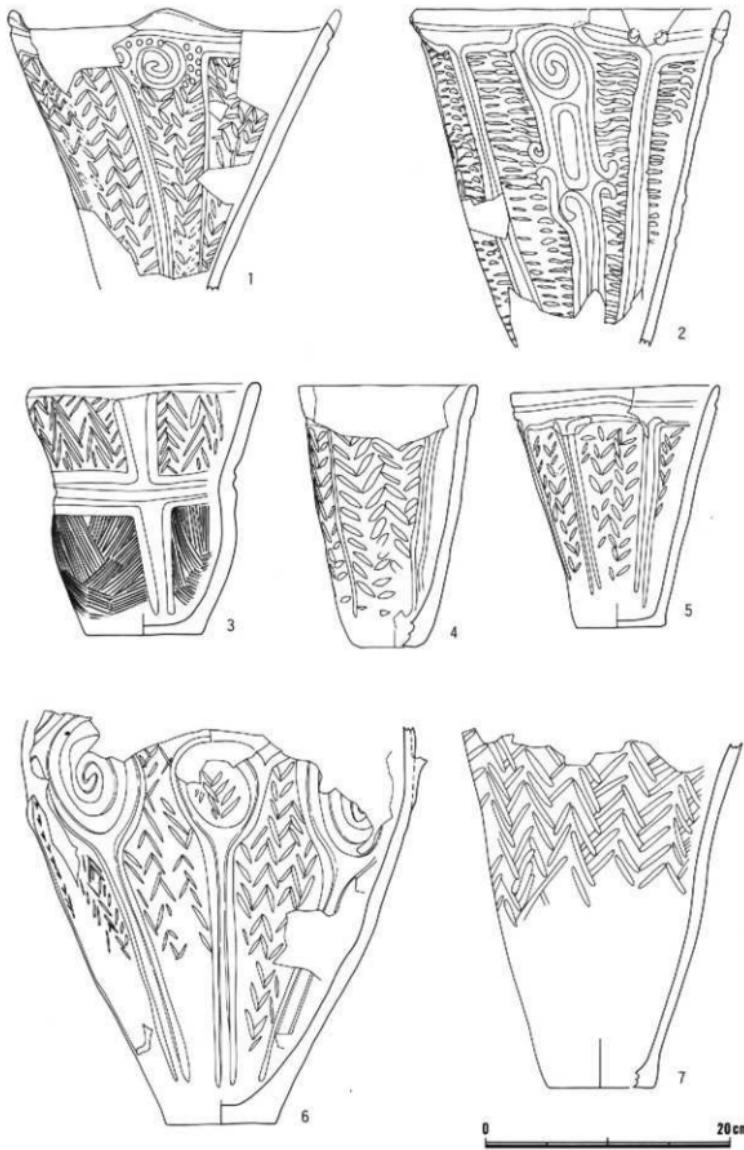
3類 加曾利E 3式 (第40図-1、第42図-8～16)

口縁部は渦巻つなぎ弧文が展開するが、頸部文様帶を喪失し、胸部は沈線間の繩文を磨消すいわゆる

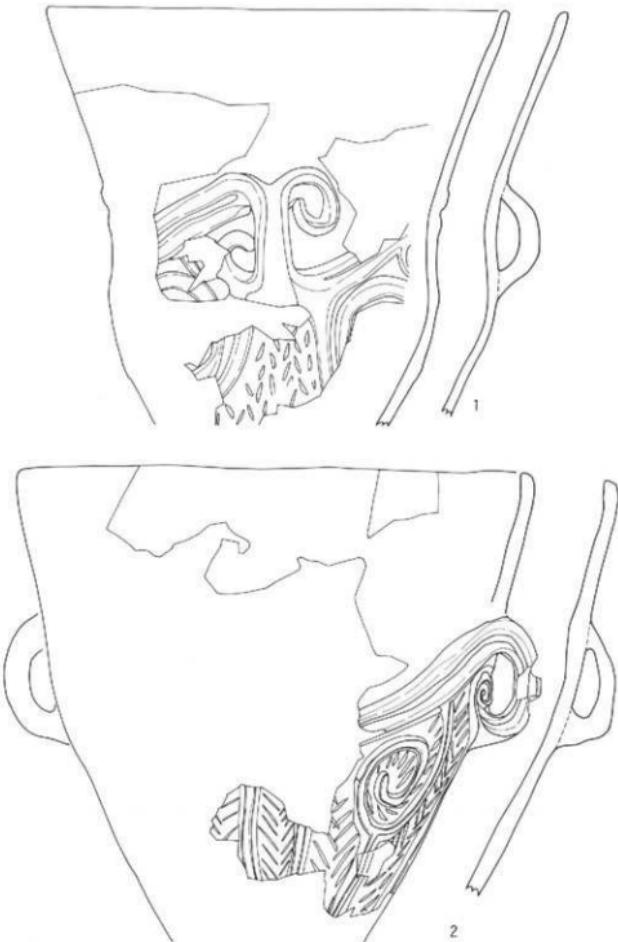


0 20cm

第34図 第III群土器 (32)

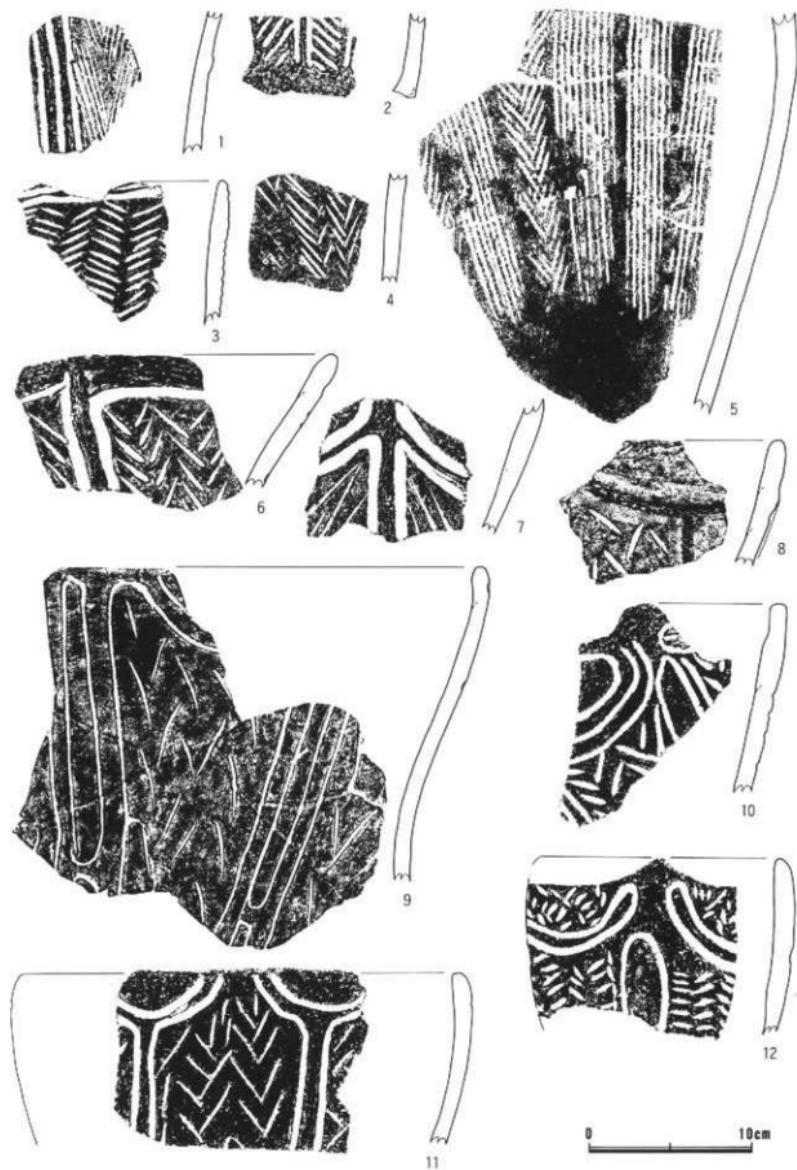


第35図 第III群土器 (33)



0 20cm

第36図 第III群土器 (34)



第37図 第III群土器 (35)



第38図 第III群土器 (36)

磨消し縄文の手法がとられる。

第40図-1は、胸部は膨らみ、頸部は緩やかに括れ、口縁部は外に開く。口縁部文様帶を有し、RL縄文を地文とする。胸部は磨消文帶が垂下する。

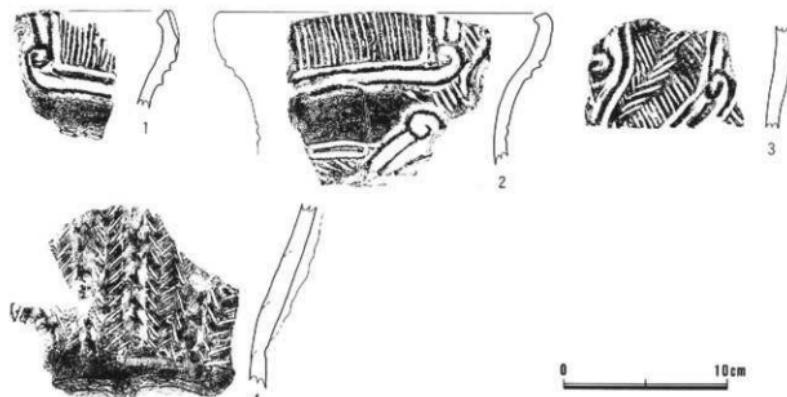
第42図は加曾利E 3式に比定される土器である。第42図-8・9は弱いキャリバー形を呈し、口縁部の文様帶が平坦である。第42図-10~12は同一個体で肥厚した口縁部に円文がつき、胸部は磨消文帶が垂下する。第42図-13は口縁部は外に開き頸部は膨らむ。頸部には渦巻つなぎ弧文がつく。

4類 加曾利E 4式 (第40図-2・4、第44~45図)

第40図-2・4は内傾する口縁部に渦巻文、U字、逆U字状の文様構成をとる。第40図-3は小型の台付土器で波状口縁を呈する。地文にRL縄文を施し、沈線による逆U字状区画を有する。区画内は磨消文帶を有する。

4 a類 口縁部下に沈線を施す。(第43図)

第45図-3・7は、口縁部に1条の沈線が巡り、沈線による楕円区画が施される。第43図-4は磨消



第39図 第IV群土器

文帯が垂下する。第43図-5は沈線間に磨消文帯を有する。第43図-9は口縁部に1条の沈線が巡り、ナブ調整による磨消文帯が垂下する。

第43図-11~19は胴部で、沈線によって文様が描出される。第43図-15・19は、対向U字文が描かれる。

4 b類 口縁部に無文帯を巡らせる。(第44図)

第44図-1~19は口縁部に無文帯を有する。胴部との境には断面三角形の微隆起線がほとんど巡る。第44図-10~17は胴部に逆U字状の沈線が施され、沈線の内部は磨消文帯を有する。第44図-20は壺形土器で、口縁部は無文で外反する。胴部は2段の隆帯をつけ地文にLR繩文を施し、低い部分に磨消文帯を有する。

4 c類 口縁部下に微隆起線を施す。(第45図)

第45図-11・12は口縁部に狭い無文帯を有し、胴部にU字状、逆U字状、渦巻文の文様構成を呈する。11は磨消文帯を有する。

第VI群土器 連弧文土器 (第46図)

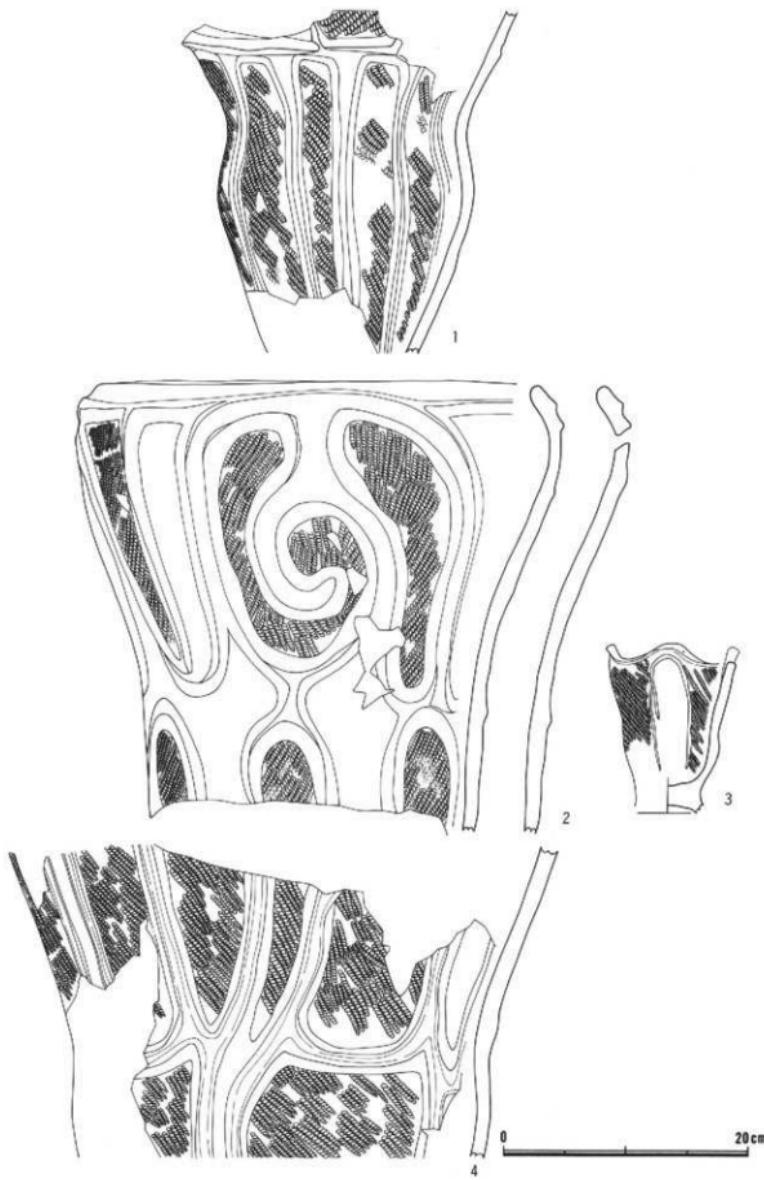
連弧文土器に比定される土器を一括した。第46図-1は条線文を地文に、半裁竹管状工具による弧線文が施される。第46図-3はLR繩文を地文に、半裁竹管状工具による弧線文を施し、接続部から半裁竹管状工具による沈線が垂下する。第46図-4は胴部で、LR繩文を地文に連弧状の弧線文が施される。第46図-5は口縁部は無文で、胴部にLR繩文を施し、棒状工具による弧線文を施す。第46図-6は櫛齒状工具による条線文に棒状工具による弧線文が施される。第46図-7は櫛齒状工具による条線文に、棒状工具による波状沈線が2条巡る。

第VII群土器 中期東海系・畿内系土器 (北屋敷・船元式土器)

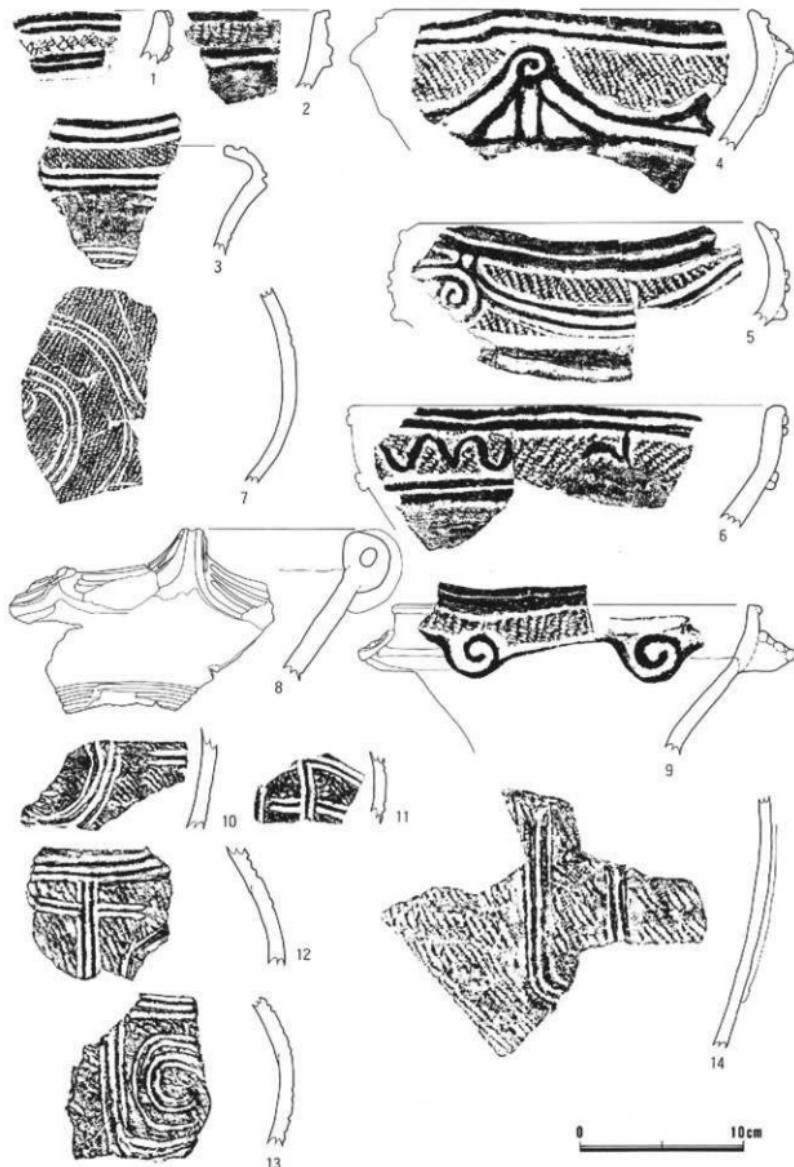
A群 北屋敷式土器 (第47図~50図)

1類 波状口縁 (第47図)

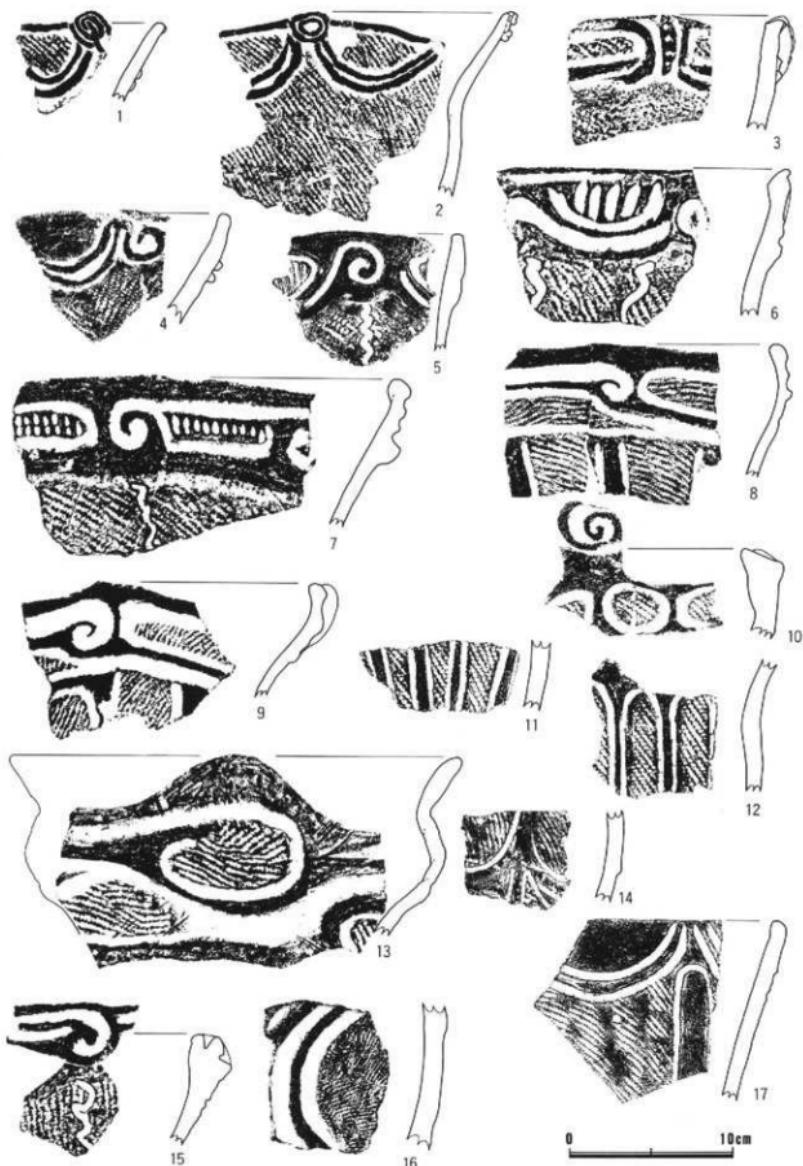
第47図-1は尖頭状の突起を有し、凹面を形成する梢円区画内に連続刺突文がつき、中央に爪形文が施される。第47図-2は内折する波状口縁部の区画内に上下2段の連続刺突文が施され、中央に爪形文が巡る。第47図-3は尖頭状の突起を有し、区画内に連続刺突文がつく。第47図-4は内折する口縁部



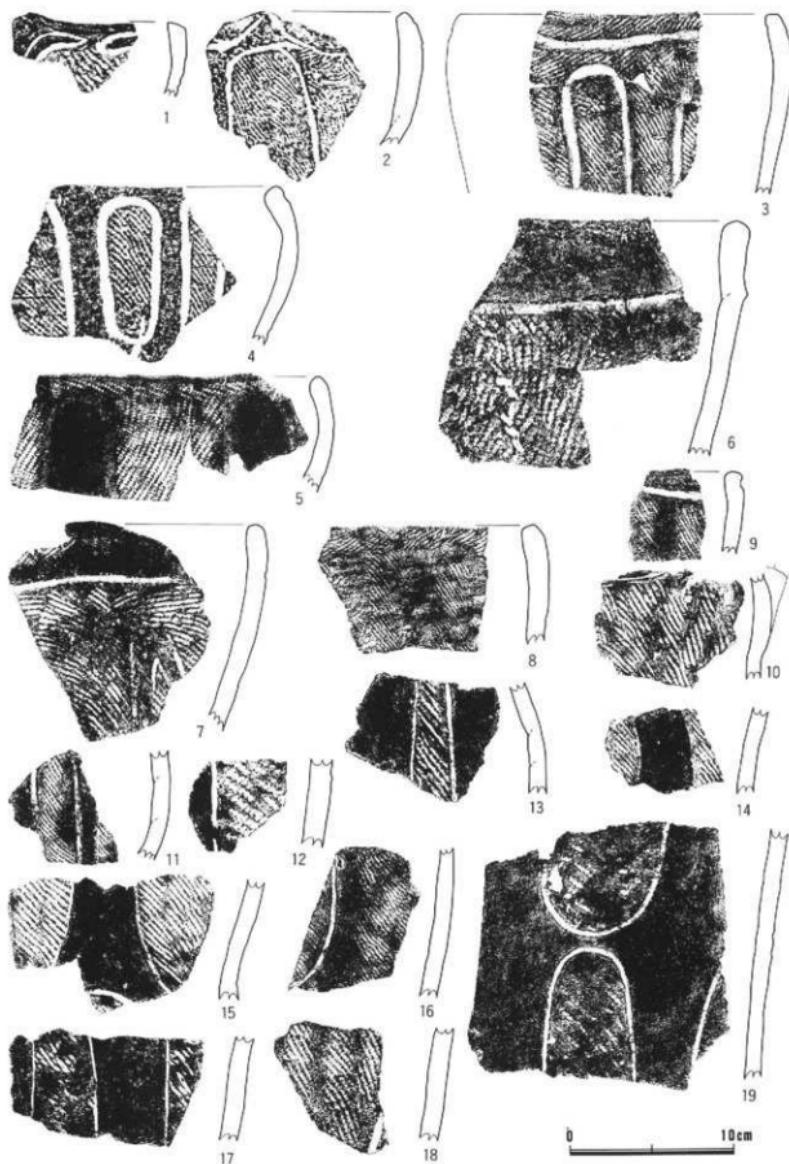
第40図 第V群土器 (1)



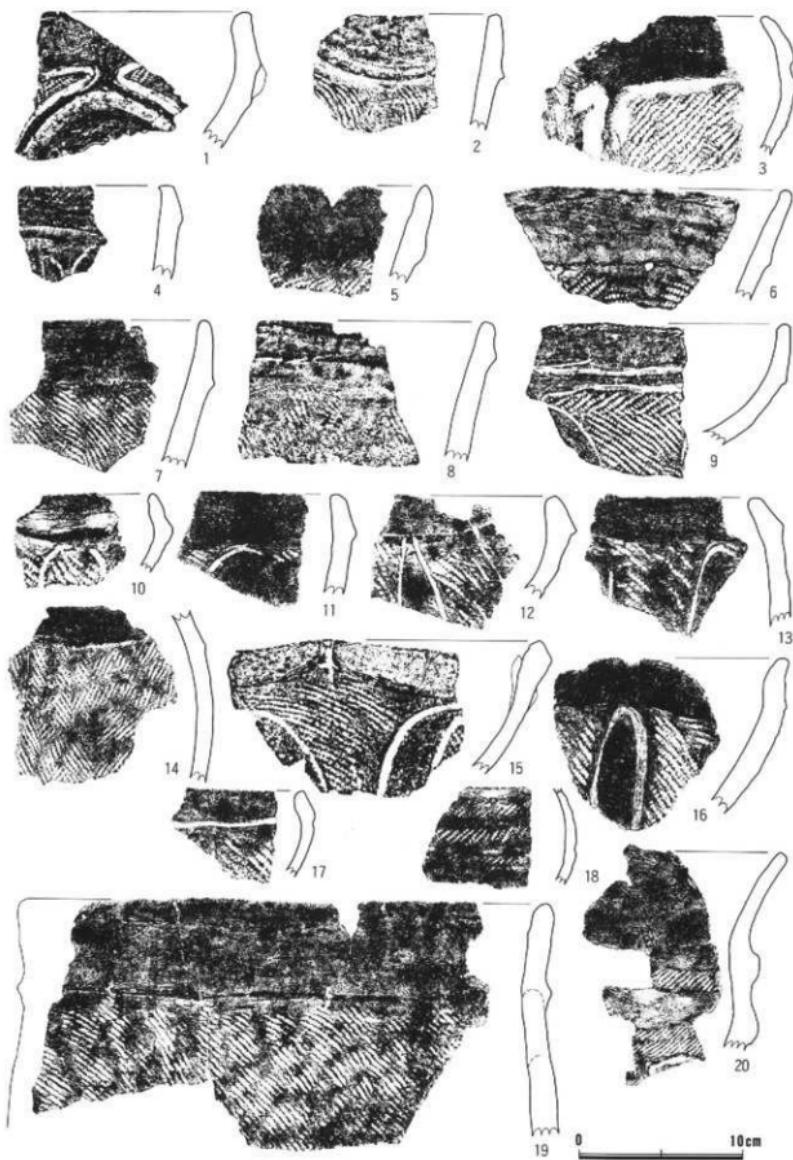
第41図 第V群土器 (2)



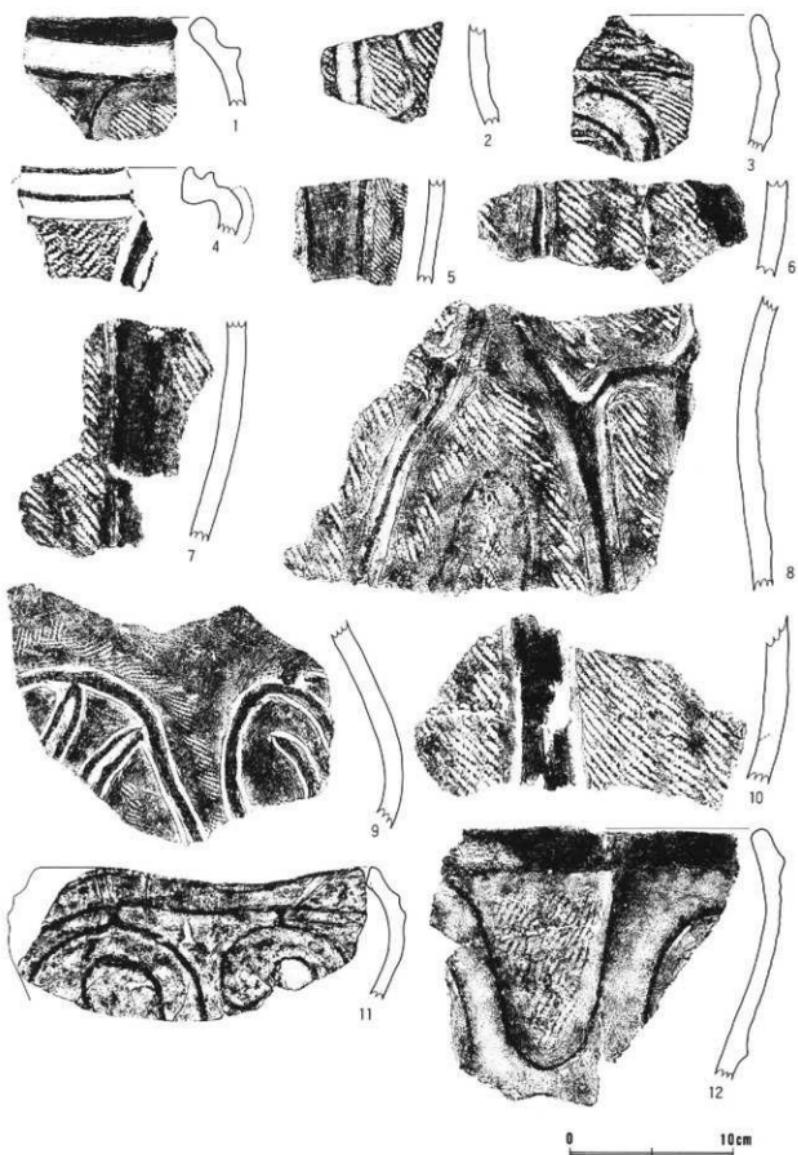
第42図 第V群土器 (3)



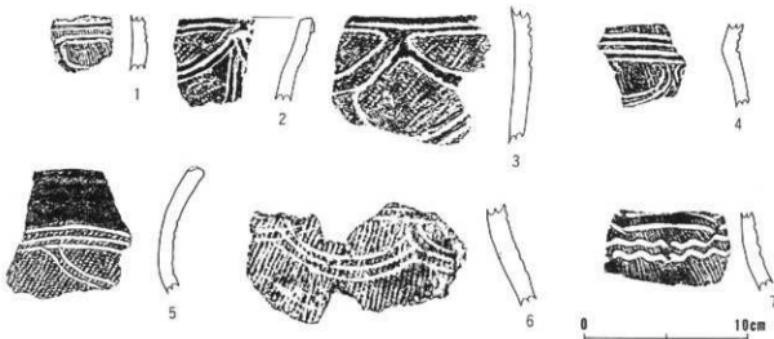
第43図 第V群土器 (4)



第44図 第V群土器（5）



第45図 第V群土器 (6)



第46図 第VI群土器

の梢円区画内に連続刺突文が施される。第47図-5は尖頭状の突起を有し、連続刺突文が施され、中央に爪形文がつく。第47図-6は波頂部に隆帯が貼付され、区画を形成し、連続刺突文が施される。第47図-8は半裁竹管状工具による連続刺突文が施される。第47図-9は平口縁で突起がつく。区画内に連続刺突文がつき、その周囲に刺突文が巡る。第47図-10は梢円区画内に連続刺突文がつく。第47図-16は波状口縁を呈し、三日月状区画に沿って連続刺突文が施され、内部に刺突文がつく。第47図-17・18は波状口縁で、突起上部まで連続刺突文が施される。第47図-19・20は三日月状区画に沿って連続刺突文が施され、区画内に連続刺突文を施す。第47図-21~25は平口縁を呈し区画内に連続刺突文を施す。第47図-26・27は内折する波状口縁で、半裁竹管状工具による連続刺突文が2条巡る。第47図-27は波頂部より連続刺突文が垂下する。

2類 繩文（第48図-1、第50図）

第48図-1は口縁部が内折し、胴部から口縁端部までRL繩文を施す。胴部から頸部にかけて条線文がつく。第50図-4・5は口縁部は内折し、膨らんだ所で波状の隆帯が巡る。口縁部はRL繩文を施す。第50図-7~17は口縁部から端部にかけて繩文が施文される。第50図-7・10・16は内湾する口縁部である。第50図-8・9・13は口縁部が外反する。第50図-18~20・23の外面は無文で、端部に繩文が施される。第50図-19は口縁部が肥厚し、条線文がつく。第50図-21~25は口縁端部と内面に繩文が施される。第50図-22・24・25は口縁部が小さく内折する。

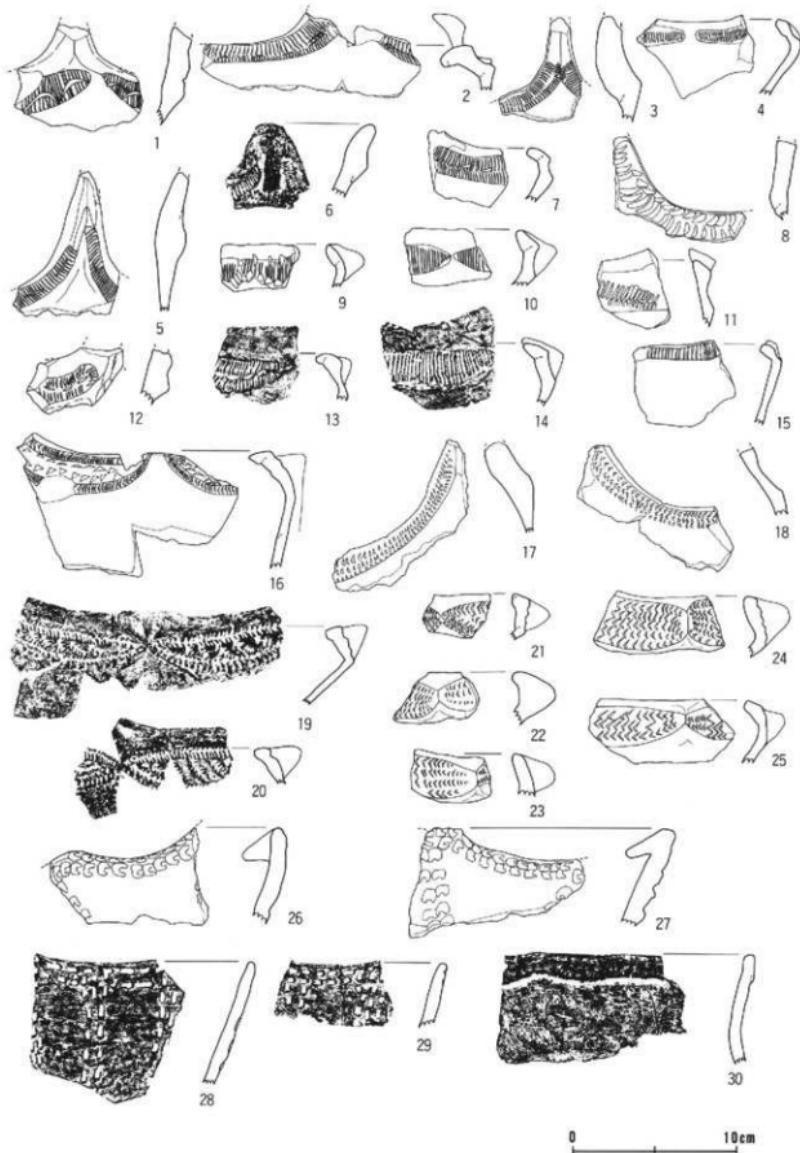
第51図-1は地文にRL繩文を施し、2本の隆帯間に波状隆帯が横位につく。第51図-2~4は内湾する口縁部である。口縁部は折り返し状で、波状隆帯を横位に1条貼り付けた後、全面にRL繩文を施す。

3類 口縁端部に刺突文（第49図-1~16）

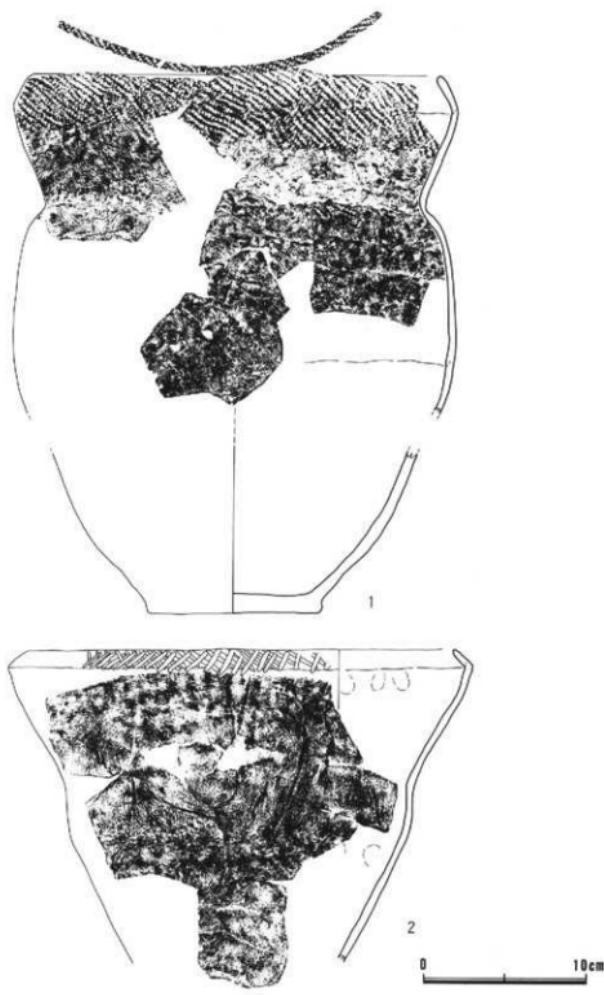
第49図-1・2は波状口縁で端部に刺突文を施す。第49図-4はやや口縁端部が肥厚し、刺突文が施される。第49図-5は端部に刺突文が施され、胴部は沈線がつく。第49図-7~9は端部に連続刺突文がつく。第49図-10・22は口縁部から端部にかけて刺突文が巡る。第49図-13は内湾する口縁部に連続刺突文がつく。

B群 船元・里木（第51図）

第51図-1は内湾する口縁部に半裁竹管状工具による弧線文がつく。第51図-2・3はRL繩文を地文に弧線文、平行線文が施される。第51図-5は外反しながら立ち上がり、口縁部は内折する。RL繩文を地文に口縁部に半裁竹管状工具による弧線文が施される。第51図-6は櫛齒状工具による条線を地文に半裁竹管状工具による弧線文が口縁部、胴部に施される。第51図-9はRL繩文を地文に半裁竹管状工具



第47図 第VII群土器（1）



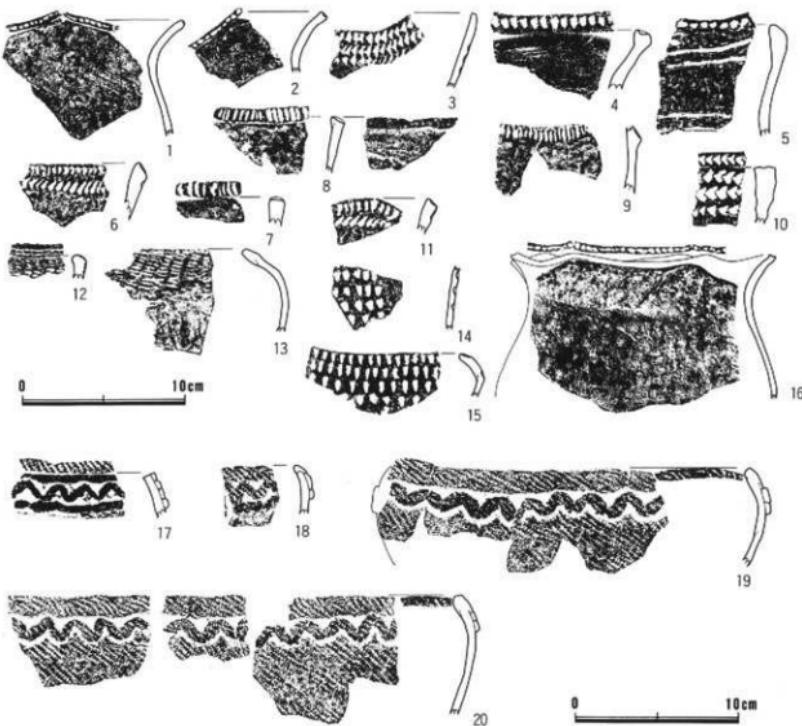
第48図 第VII群土器（2）

による平行線文、弧線文が口縁部に施される。第51図-17・18は波状口縁を呈し山形に隆帶が貼付される。第51図-19は、第51図-18の胴部片で括れ部に刺突文が施された隆帶が巡り、胴部は地文に粗い条線文が垂下する。

第VIII群 その他の土器

1類 浅鉢・両耳壺（第52・53図）

第52図-1は胴上部で括れ、口縁部はやや外反する。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。括



第49図 第四群土器（3）

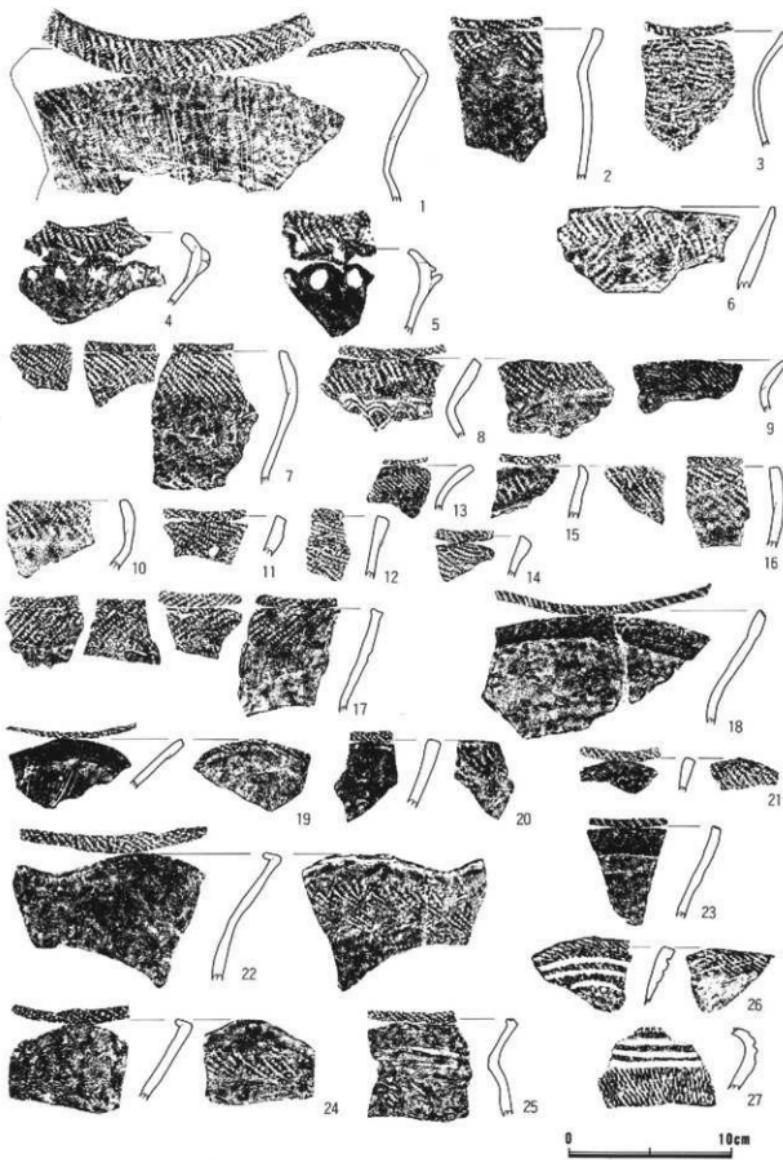
れ部分に補修孔と思われる孔が2箇所みられる。第52図-2は口縁部が強く内折し、波状口縁を呈する。梢円状の隆帯が配され、隆帶上には両端に棒状工具による渦巻文が施され、梢円区画文が付けられる。

第52図-3は胴上部で膨らむ。胴上部の文様帯は隆帯と沈線による渦巻つなぎ弧文が施され、区画内には櫛齒状工具による条線文が縦位に施される。第54図-1の胴部文様帯は沈線による梢円区画文に櫛齒状工具による縦位の条線文が施される。

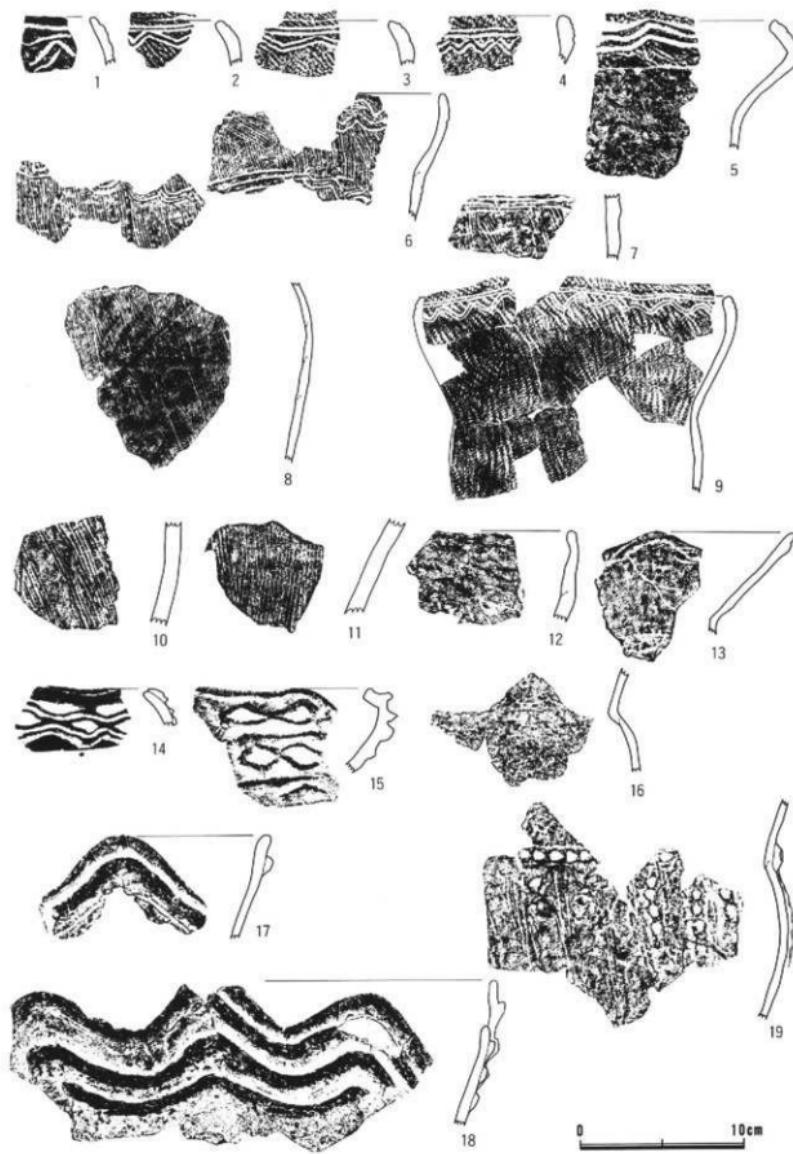
第53図-3～8は両耳壺である。第53図-3は隆帯と沈線で区画された内部に櫛齒状工具による綾杉文に蛇行沈線文が垂下する。第53図-4は沈線による渦巻文が配され、下部には藤手文が垂下する。胴上部から把手部分にかけて連続する刺突文が付される。第53図-5は胴部に沈線による渦巻文が配され、櫛齒状工具による条線文が充填される。第53図-6は三角状の突起と把手を有する。胴部は沈線による渦巻文が付され、区画内にハ字の短沈線文がつく。第53図-7の胴部は隆帯で区画された内部に櫛齒状工具による条線文が斜位に施される。第53図-8は隆帯と沈線による渦巻文が施される。区画内にハ字の短沈線文がつく。

2類 把手

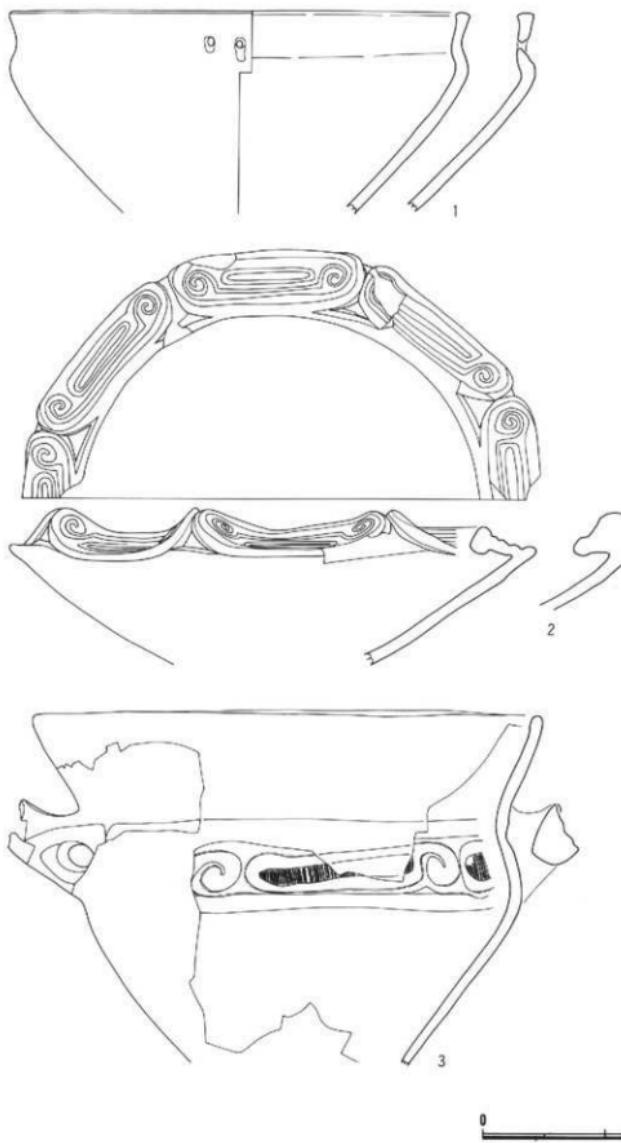
第54図-1の口縁部は無文でくびれ部にX字状把手が付けられる。把手には半裁竹管状工具による沈



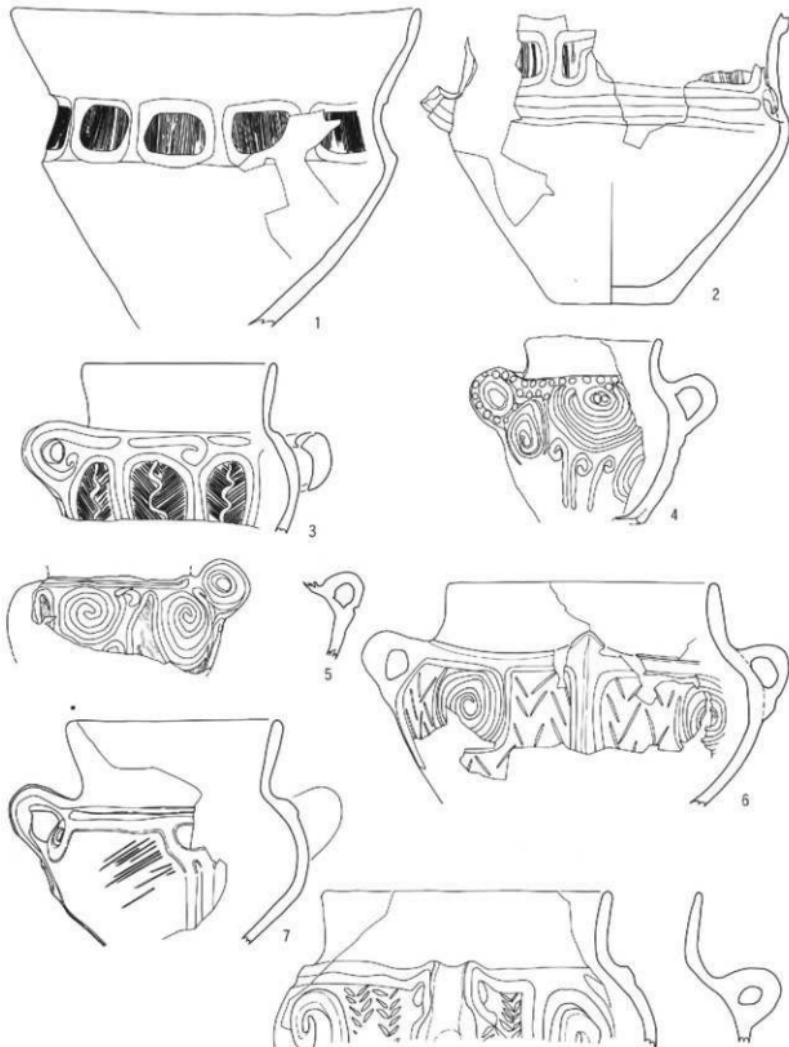
第50図 第VII群土器 (4)



第51図 第VII群土器 (5)

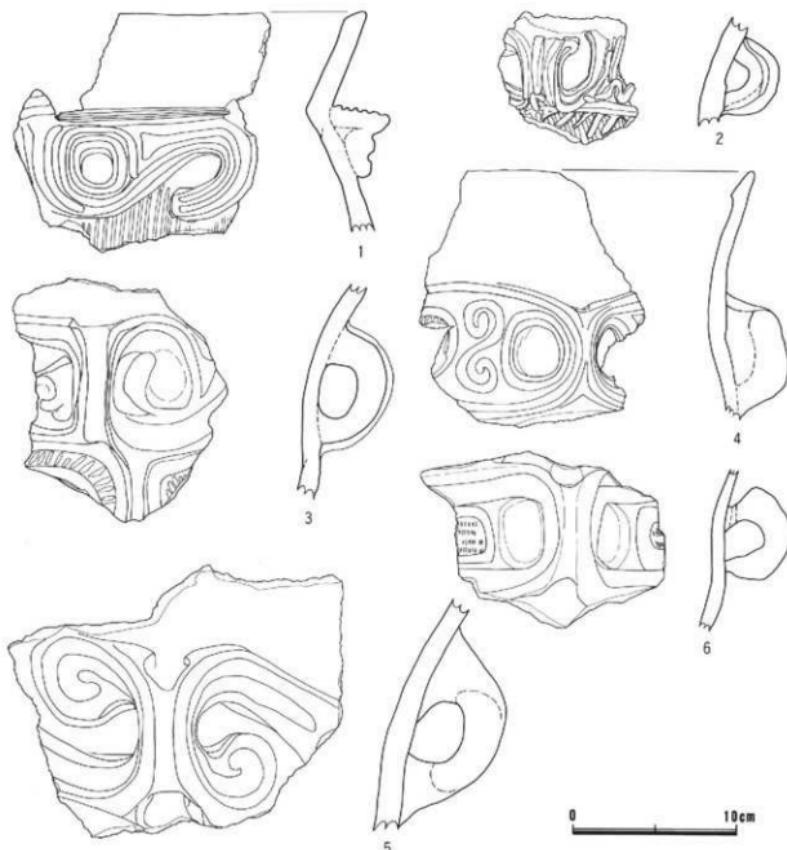


第52図 第Ⅴ群土器（1）



0 20 cm

第53図 第VII群土器 (2)



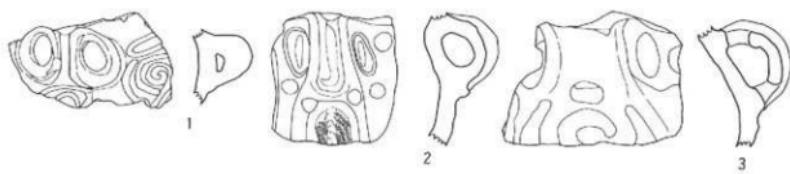
第54図 第Ⅳ群土器（3）

線が施され、突起がつく。第54図-5は隆帯と沈線による渦巻文を施した大柄なX字状把手が付けられる。

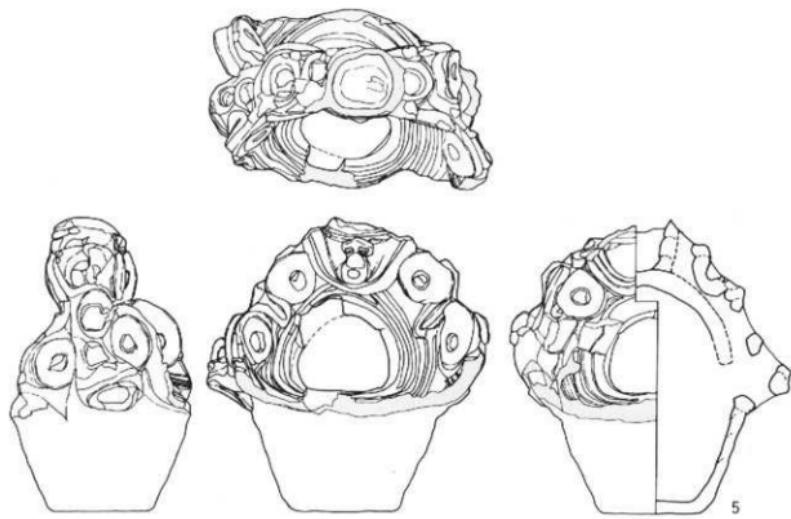
3類 釣手土器（第55図-5）

この土器はSB-3より倒置された状態で出土した。釣手部分の頂部、鉢部が欠損しているが、法量は残存高24.1cm、残存幅23.1cmである。胎土は砂粒・長石を含み、焼成は良好である。浅鉢外面は横ヘラミガキが施される。色調は、外面は赤褐色を呈し、浅鉢の内面・釣手部は黒化しており、火を使った様子が窺える。また、釣手土器の釣手は吊る下げるためのものという見方があるが、それを示す磨滅痕は観察されなかった。

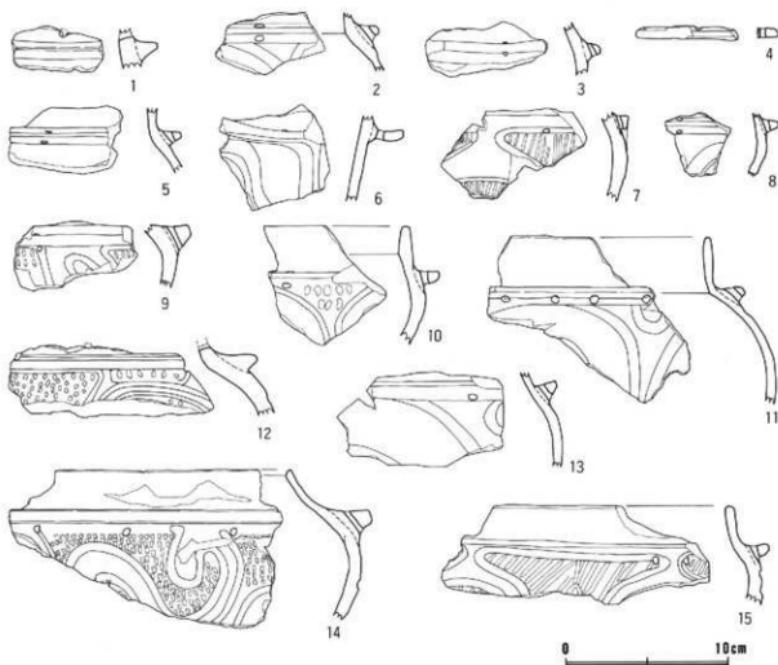
形態的特徴は、いわゆる2窓式の釣手土器である。釣り手部は、2枚の板状の橋の間に環状の粘土帯で接続される。頂部は欠損しているが、筒状突起をもち、下まで貫通していない。装飾には環状の粘土帯、U字状の隆帯が貼付され、半裁竹管状工具による沈線が施される。基本的に表裏対称であるが、筒



0 10 cm



第55図 第VII群土器 (4)



第56図 第VII群土器（5）

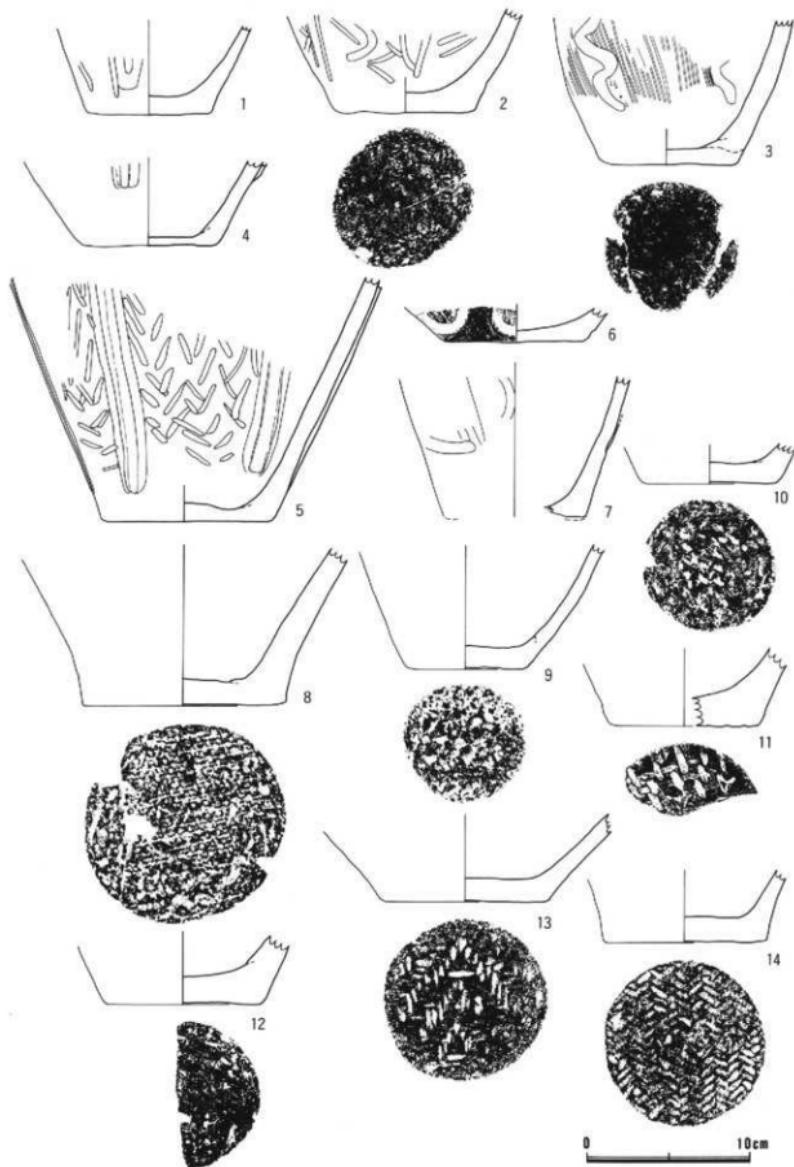
状突起の装飾に違いがみられ、人面装飾付釣手土器の可能性があると考えられる。口縁部は欠損しているが、鈎状に張り出し、釣手部に連絡する。

4類 有孔鈎付土器（第56図）

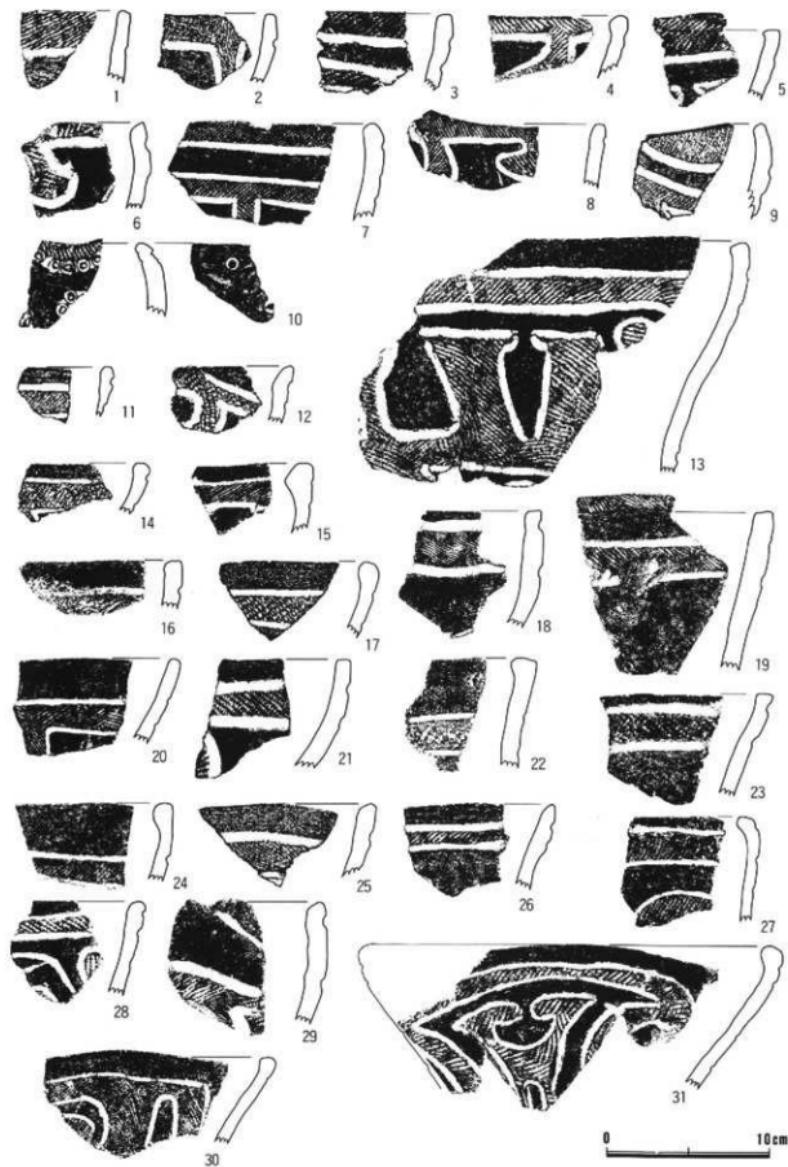
有孔鈎付土器を一括した。大半が鈎の上下に孔がつく。第56図-1・12は鈎の上部に孔がつけられる。第56図-10の胸部は膨らむ器形で、鈎は水平に付けられる。満巻き状の曲線的な沈線が施され、間隙に刺突文がつく。第56図-11は膨らむ胸部に口縁部は、直立ぎみに立ち上がる。くびれの境に突帯状の鈎を付け、等間隔に穿孔を施している。胸部は浅い満巻き状の曲線的な沈線が施される。その内部に赤色顔料が付着している。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。第56図-13の鈎は、やや上方に付けられる。胸部は太い曲線的な沈線が施され、赤色顔料が付着する。第56図-14は膨らむ胸部で、口縁部はやや外反する。鈎は水平に付けられ、等間隔に穿孔が施される。胸部は刺突文を地文に、曲線的な沈線が施される。口縁部は丁寧なミガキ調整されており、赤色顔料が付着する。第56図-15は、膨らむ胸部に口縁部はやや外反する。胸部は、隆帯と沈線による区画内に棒状工具による斜位の沈線が施される。胸部の隆帯と鈎の接続部分に穿孔が施される。

5類 土器底部（第57図）

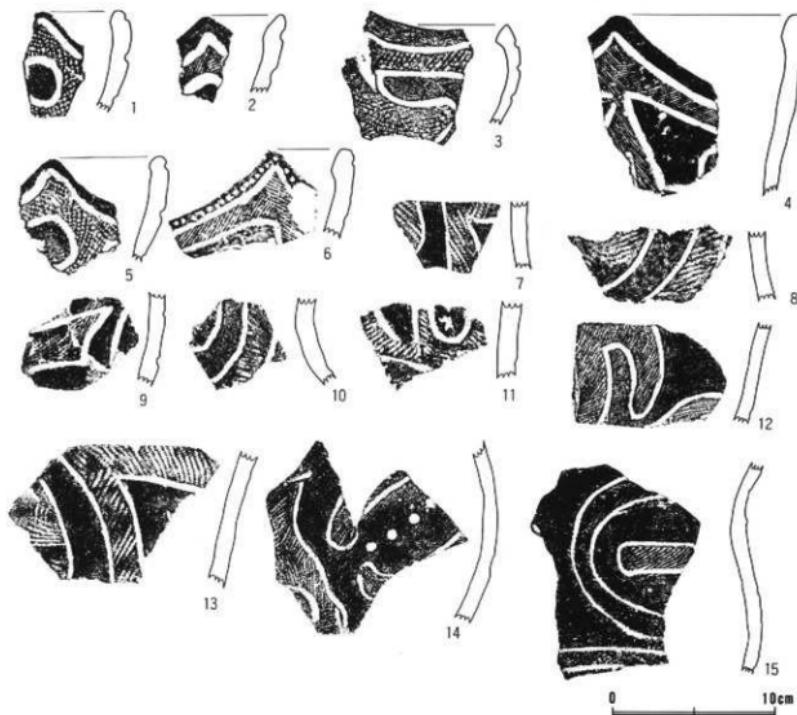
中期後半に比定される土器底部を一括した。第57図-8は、2本超え2本潜り右1本送りの網代痕である。第57図-9・10は網代痕が認められるが、周辺部をナデ調整で消している。第57図-11は、2本超え2本潜り右1本送りの網代痕である。第57図-14は、2本超え2本潜り1本送りの網代痕である。



第57図 第VII群土器 (6)



第58図 第IX群土器 (1)



第59図 第IX群土器（2）

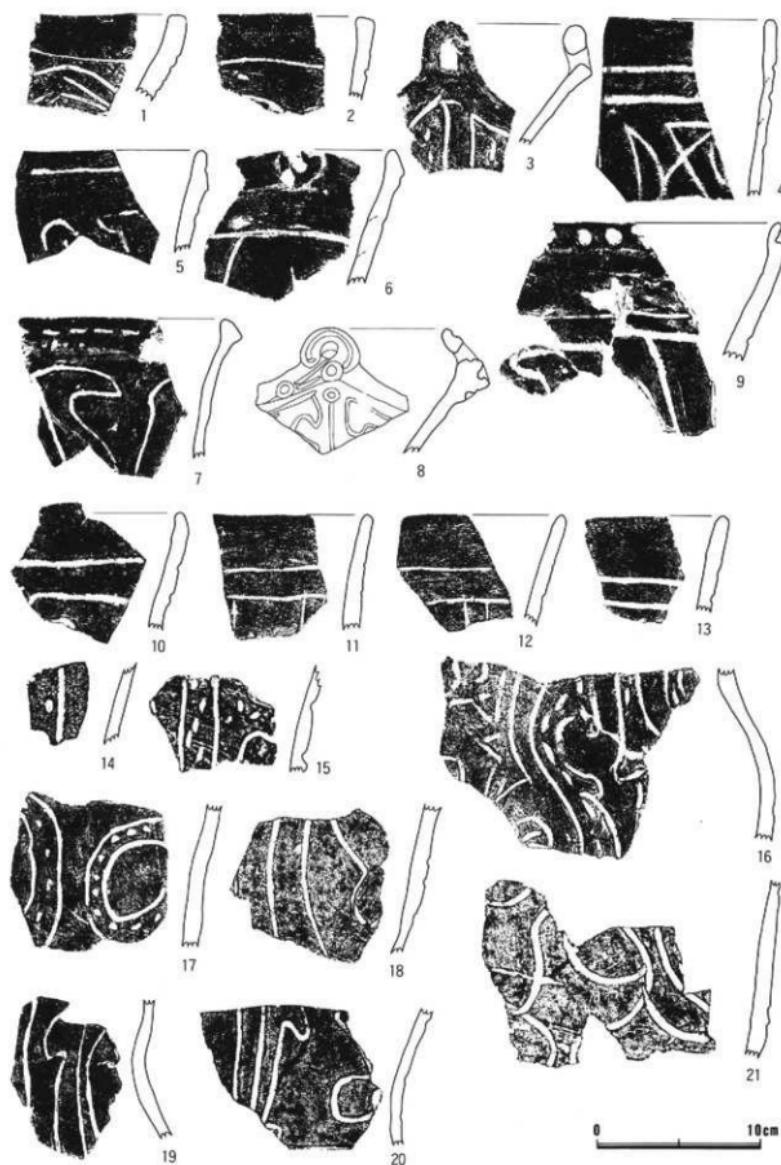
第IX群 称名寺式土器（第58図～第61図・第62図-1）

1類 口縁部に縄文を施す一群（第58図～第59図）

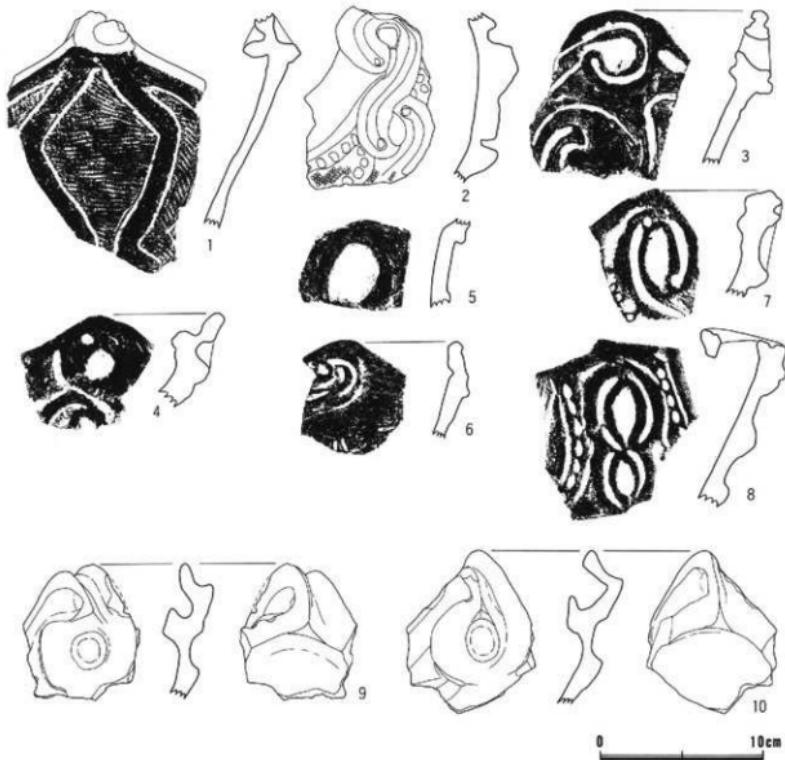
第58図-1～7は平口縁で口縁部に縄文が施される。第58図-5は口縁端部に縄文が施される。第58図-8～9は波状口縁を呈する。第58図-11～31は口縁部は無文帯を形成し、平口縁である。第58図-13の文様構成は上下2段構成と思われ、紡錘文が巡る。第58図-19は、口縁端部にRL縄文が施される。第58図-31は口縁部が内湾し、端部は肥厚する。文様構成はV字状の懸垂文がつく。口縁端部の形状は、直線的に開くもの、内湾するもの、肥厚するものがある。第59図-1～6は波状口縁を呈する。6は口縁部に連続した刺突文が施される。第59図-7～15は胸部片である。第59図-15は文様モチーフがO字状文を呈し、中津式土器に類似する。

2類 沈線間に刺突文を充填する一群（第60図）

沈線の中を列点文で埋める一群である。第60図-1～13まで口縁部片で、第60図-1～3は沈線間に列点文が埋められる。第60図-5～9は、口縁部が内傾する土器で、7は刺突文、9は円形刺突文が口縁部に施される。第60図-10～13は外方に開く口縁部で細い1条の沈線が横位に巡り、その下部は横位、縦位の沈線がつく。第60図-14～21は胸部片で、第60図-14～17は沈線間に刺突文が埋められる。第60図-16は膨らむ胸部に曲線的な沈線間に列点文が埋められる。第60図-17は沈線による円文間に列点文



第60図 第Ⅸ群土器 (3)



第61図 第IV群土器（4）

が埋められている。第60図-18~21は沈線間に列点文が施されていない。

3類 突起（第61図）

第61図-1は菱形文類型に属し、RL綱文が施される。第61図-2~10は突起部で、第61図-2はS字状を呈する。第61図-9・10は捻転状の突起である。

第X群 堀之内式土器

堀之内式土器は胴上半部が括れて、胴下半部がやや膨らむ器形（A群）、金魚形・壺形に近い器形（B群）、器形はA類と同様であるが地綱文をもつもの（C群）、朝顔形深鉢（D群）に大きく分け、それぞれ細別した。

A群 胴上半部が括れて胴下半部が膨らむ器形（第62図-2・4・6、第64図、第65図）

沈線文を主体とした文様構成をもち、器形は口縁部が外反し、胴上半部で括れて胴下半部がやや膨らむ深鉢形を一括した。

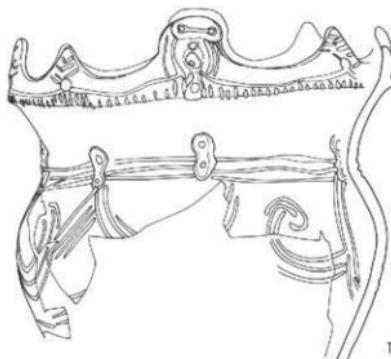
A 1類 縦位に沈線が垂下するもの

第62図-2は口径30.4cmを測る。口縁部に1条の沈線が巡らず、3本1単位の沈線が斜位に垂下する。

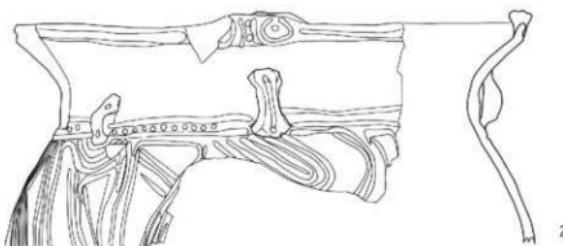


第62図 第X群土器 (1)

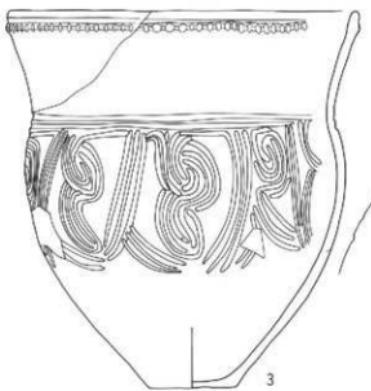
0 20cm



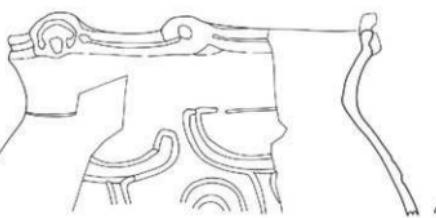
1



2



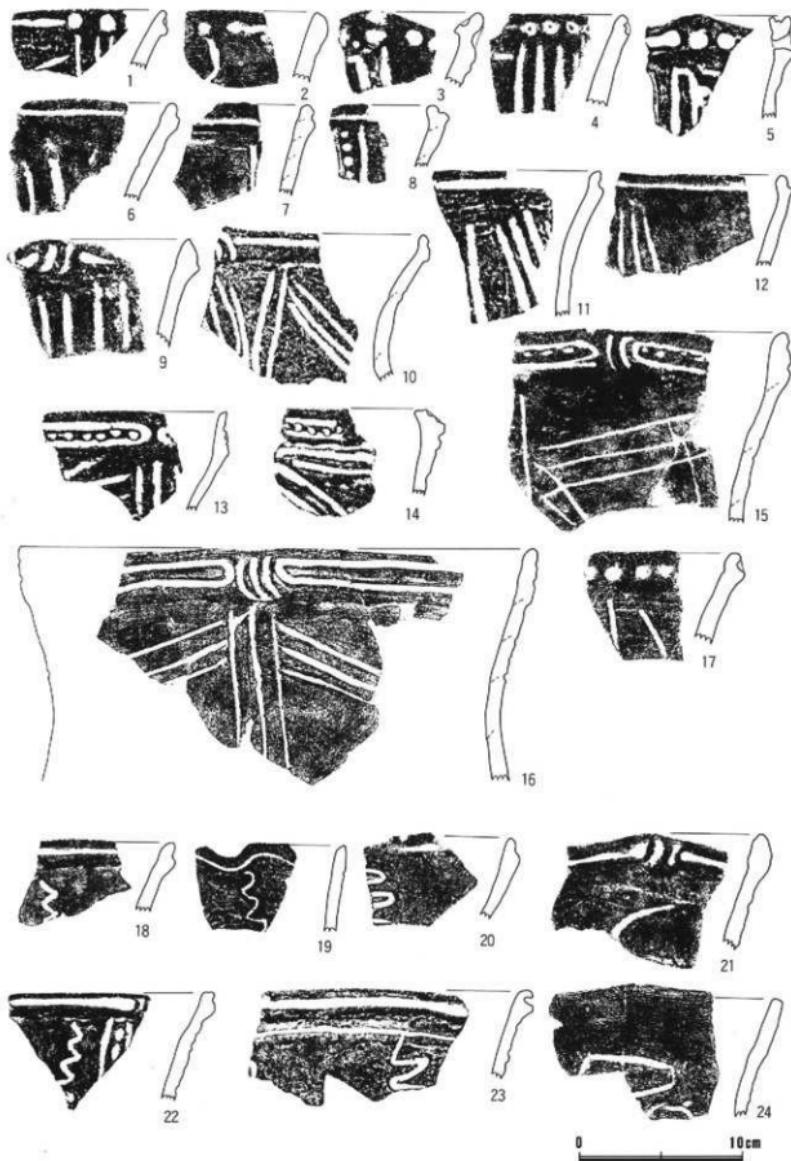
3



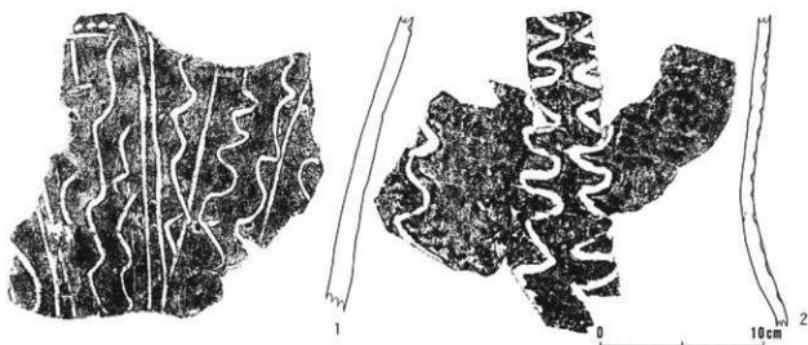
4



第63図 第X群土器（2）



第64図 第X群土器 (3)



第65図 第X群土器（4）

器面の調整は丁寧に行われている。堀之内式に比定される。第62図-4は口縁部に1条の沈線が巡り、縦位の沈線がつき、斜位の沈線が施される。口縁部に補修孔が2孔みられる。第62図-6は口縁部に1条の沈線と縦に3条の沈線が施され、その下にX字状の沈線が口縁部から胴部にかけて施される。胴部には3単位の渦巻文がつき、中央の渦巻文には上下に沈線がつく。

第64図-1～5は口縁部に円形刺突文がつく。円形刺突文下に沈線文が垂下し、斜位の沈線も施される。第64図-6～9は1条の沈線が横位に巡り、縦位の沈線が垂下する。第64図-8は沈線間に円形刺突文が垂下する。第64図-10は縦位・斜位の沈線が3本ないし2本単位で垂下する。第64図-15は口縁部に2条の沈線が施され、沈線間に刺突文が巡る。胴部は3本1単位の斜行文が施される。第64図-16は口縁部に2条の沈線が施される。間には3条の短沈線がC字状を呈し、その下には3本1単位の懸垂文がつき、上部から斜行文が配される。第64図-19・20は口縁部に円形刺突文を施し、胴部は懸垂文がつく。第64図-21は口縁部に沈線が巡り、下に刻みがつく。胴部は縦位・横位の線がつく。

A 2類 蛇行沈線文が垂下するもの

第68図-22～28は胴部に蛇行沈線文が垂下する。第68図-22～27は口縁部に1条の沈線が巡る。第68図-26は胴部に蛇行沈線文、沈線間に列点文が垂下する。第68図-27は横位に沈線が巡り、その下に蛇行沈線文が垂下する。第69図-1は沈線による区画内に蛇行沈線文が2条垂下する。第69図-2は2条の蛇行沈線文が垂下する。

B群 胴部が球状に膨らんだ器形（第63図、第66図～72図、第75図-1・2）

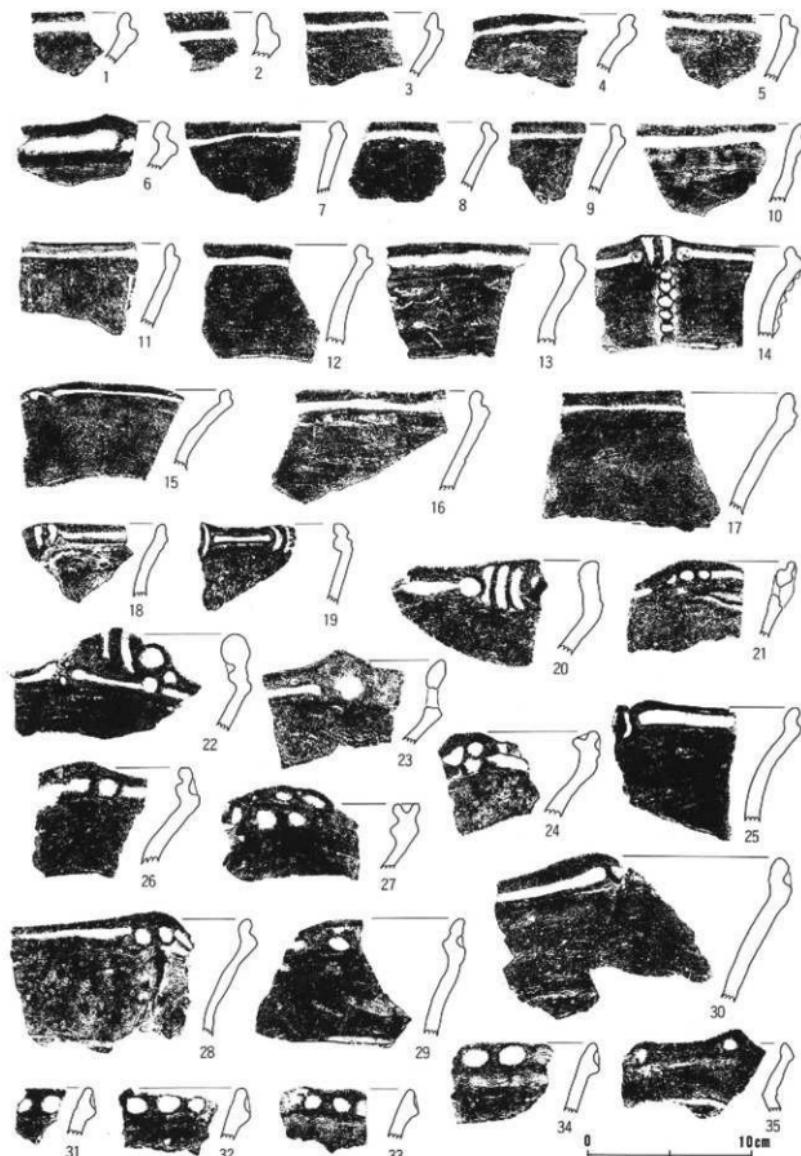
B 1類

口縁部は外反し、頸部は大きく括れて、胴部が球状に膨らんだいわゆる金魚鉢に近い斐形ないし深鉢形の器形を呈し、胴部の文様を施し、口縁部から頸部にかけて無文帶を形成している一群である。

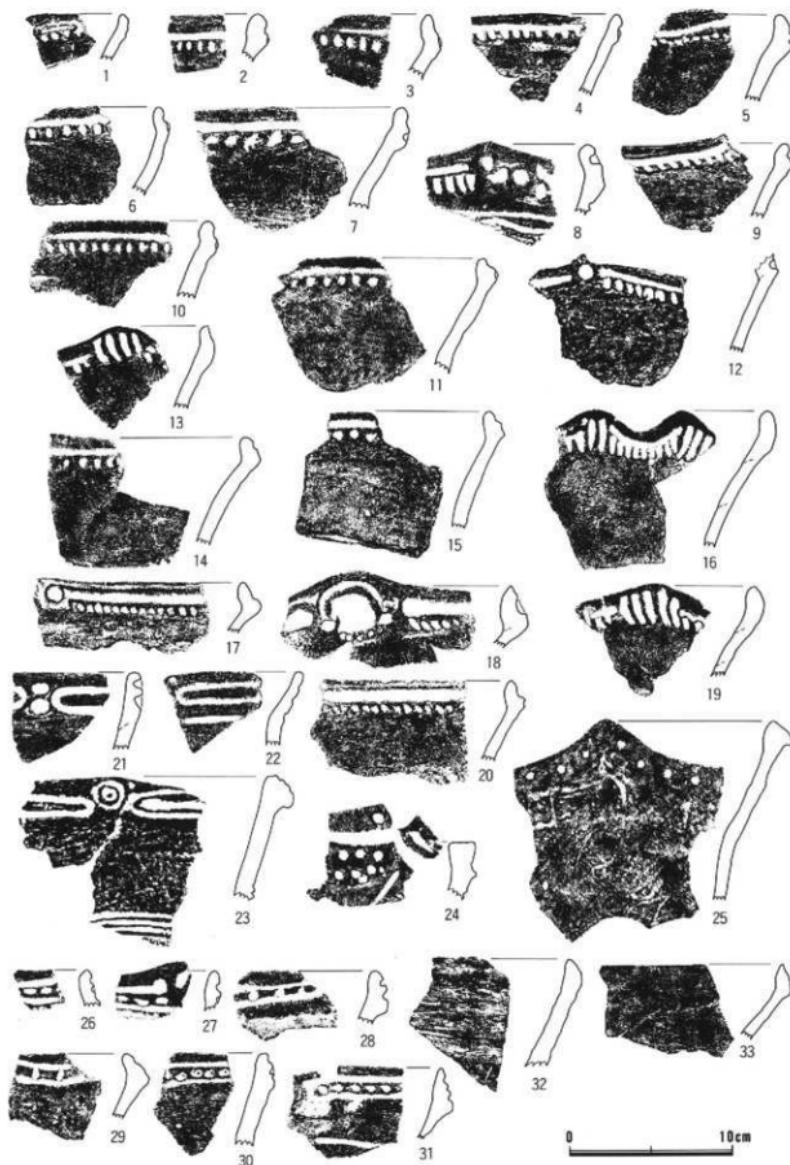
器壁は厚く、概ね堀之内式に比定される。本来ならば胴部の文様構成で分類し、文様の変化で細別すべきであるが、復原された土器が少なく、大半が破片資料のため、口縁部の形状により大まかに分け、胴部については大枠で分類した。

B 1 a種 口縁部片（第66図、第67図）

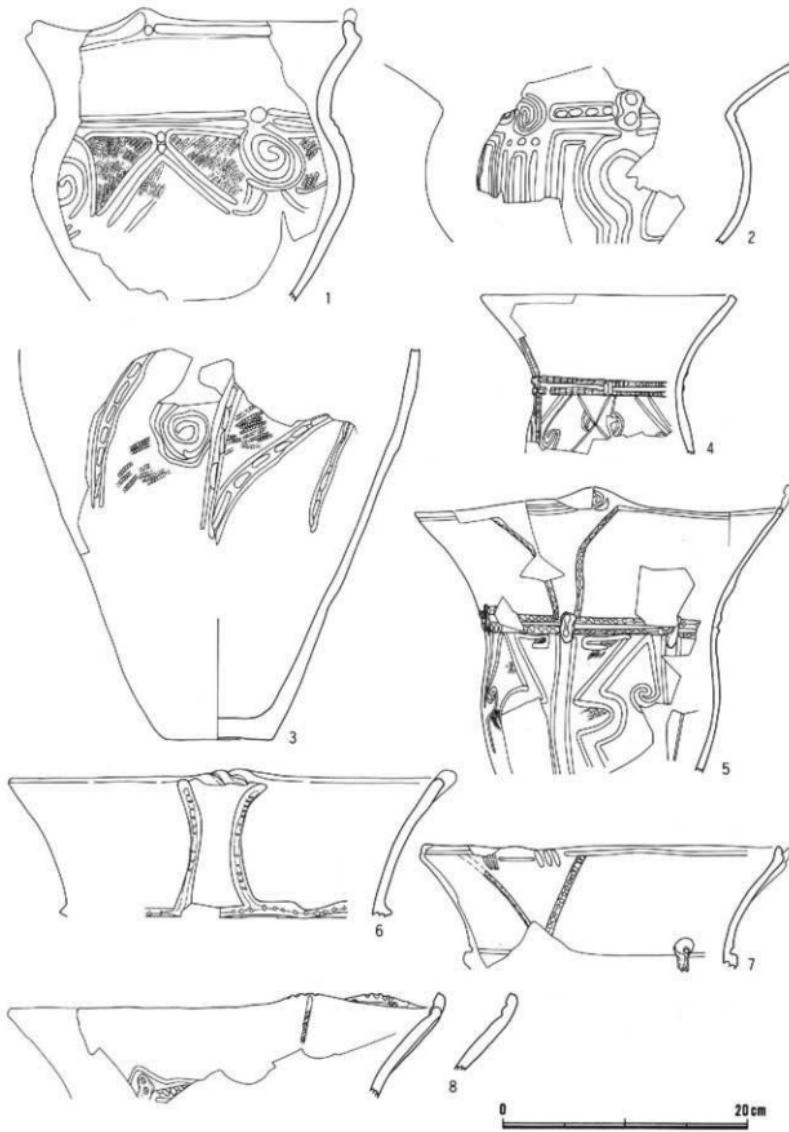
第66図・第67図は口縁部片で、第66図-1～30は口縁部に1条の沈線が巡る。第66図-31～35は口縁部に円形刺突文が施される。第67図-1～20は口縁部に1条の沈線が巡り、その下に刺突文がつく。第67図-21～23は2本の沈線が巡り、楕円区画を呈する。第67図-24・25は波状口縁を呈し、口縁部に円形刺突文が施される。第67図-26～31は2本の沈線間に刺突文が施される。第67図-32・33は無文であ



第66図 第X群土器 (5)



第67図 第X群土器 (6)



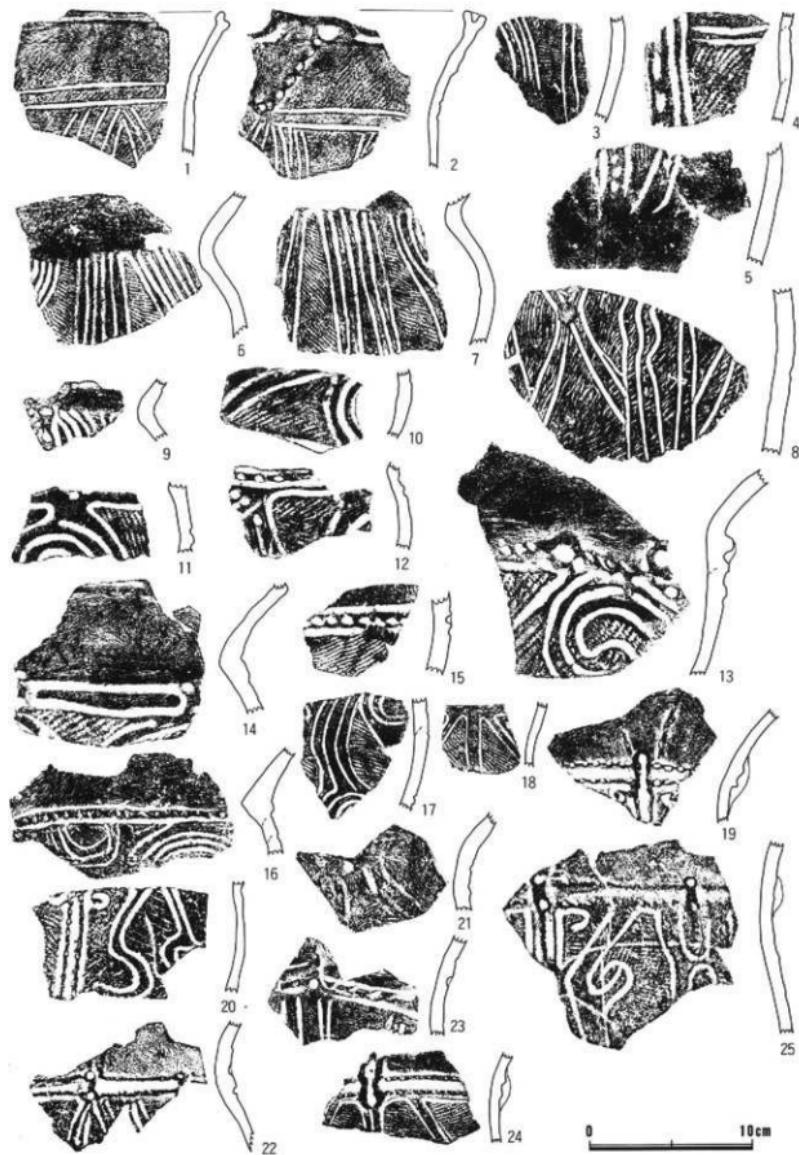
第68図 第X群土器 (7)



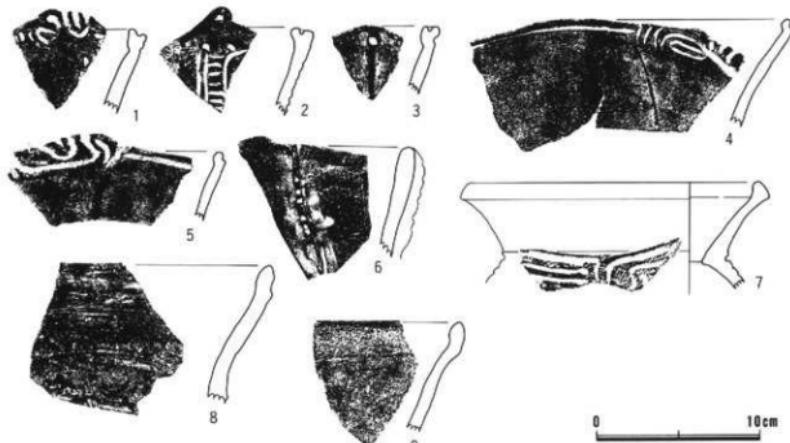
第69図 第X群土器 (8)



第70図 第X群土器 (9)



第71図 第X群土器 (10)



第72図 第X群土器 (11)

る。

第75図-1は口縁部に1条の沈線が巡り、頸部に刺突文がつく。胸部は8字貼付文の周りは渦巻文がつき、縦位の沈線が垂下する。

第75図-2は口縁部に1条の沈線が巡る。頸部は2条の沈線が周回し8字貼付文がつく。地文にLR繩文を施し対弧文と斜位の沈線が接続する。

B 1 b 種 胸部に沈線による縦位構成のモチーフが描出される。

第63図-2は波状口縁を呈し、沈線が1条巡る。頸部に沈線間に刺突文が巡る。8字貼付文下に重弧状モチーフがつく。余白部分に縦位、斜位の沈線が施される。

第63図-3は口縁部に1条の沈線が巡り、その下に刻みがつく。頸部に1条の沈線が巡り、対弧状のモチーフが2段つく。余白部分は弧線文が垂下する。第69図-10は口縁部は強く内折し、2本の沈線間に刺突文が施される。胸部は渦巻文が退化したと思われる重弧文とその下から懸垂文がつき、その間に沈線が施される。沈線のない余白部分は繩文は施されない。

第70図-1～23は胸部片で、第70図-1は対弧状のモチーフをもつものである。第70図-3～10は縦位に垂下するモチーフが描かれる。第71図-16は重弧状のモチーフがつくものである。

B 1 c 種 胸部に沈線による横位に展開するモチーフが描出される。

第63図-1は波状口縁を呈し、山形の突起と半円形の突起を有する。口縁部に1条の沈線が巡り、その下に刻みがつく。胸部は8字貼付文がつき、弧線文が横位に巡る。第63図-4は半円形の突起をもつ波状口縁を呈し、1条の沈線が巡る。胸部上部は横位に弧線文が巡り、下部は渦巻状のモチーフがみられる。

第68図-1は波状口縁を呈し、太い沈線が1条巡る。頸部に2条の沈線と刺突文がつき、刺突文下に渦巻文がつき、斜位の沈線に接続する。地文にLR繩文が施される。

第69図-3は胸部が横帯文をもつ。第69図-8は胸部に渦巻文と集合沈線文がみられる。第70図-11・

13・17・20・21は渦巻状のモチーフがみられる。第70図-13・14は渦巻文と斜位の沈線が連結する。



第73図 第X群土器 (12)



第74図 第X群土器 (13)



第75図 第X群土器 (14)

B 1 d 種 胎部の地文は縄文で縦位構成のモチーフが描出される。

第71図-1~6は縄文を地文に縦位の沈線が垂下するモチーフをもつものである。

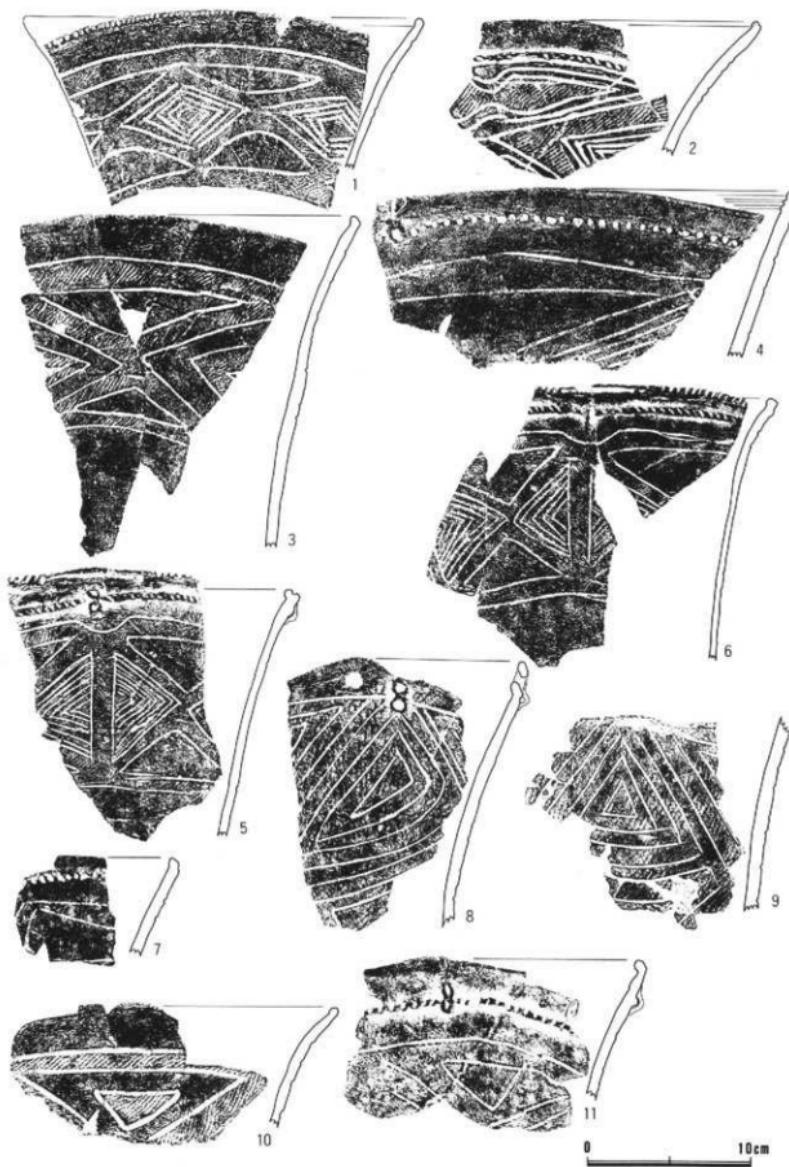
B 1 e 種 胎部の地文は縄文で横位に展開するモチーフが描出される。

第71図-10~14・17は縄文を地文に沈線による渦巻状のモチーフがみられる。

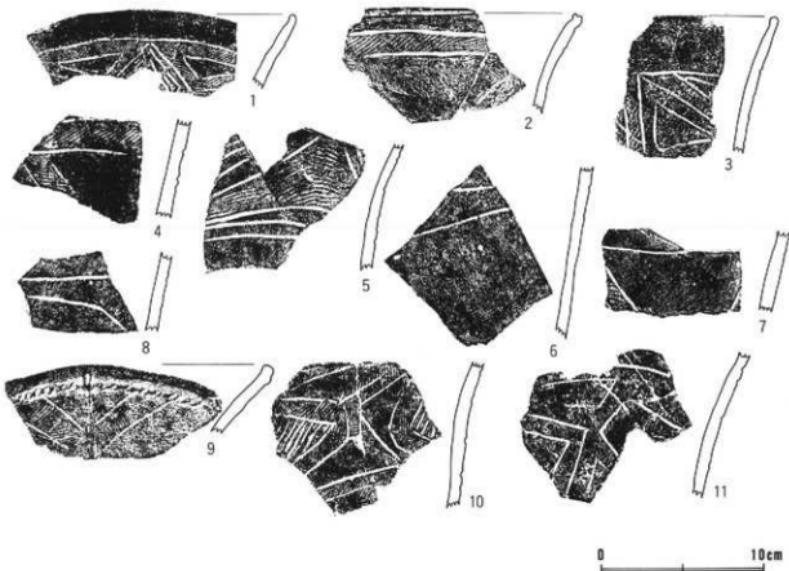
B 2 類 口縁部に浅い沈線または沈線が巡らない一群 (第68図-4~8、第71図-19~25、第72図)

口縁部が大きく内折することもなく沈線が巡らない一群で、概ね堀之内2式に比定される。

第68図-4・5~8は口縁部が小さく内折または沈線が施されないものであり、口縁部は刻隆線が垂下する。第68図-5・7は頸部から口縁部に向かって逆ハ文字状に広がる刻隆線がつく。第68図-6は低い波状口縁を呈し、波頂部はねじれ状を呈する。下にはX字状にやや太めの刻隆線がX字状につく。第68図-7は低い波状口縁を呈し、波頂部には縦に3条の沈線が付けられ浅い沈線が1条巡る。大半が堀之内2式に比定される。第68図-4・5は頸部に2条の刻隆線が巡り、渦巻文と斜行する沈線がみられ



第76図 第X群土器 (15)



第77図 第X群土器 (16)

る。

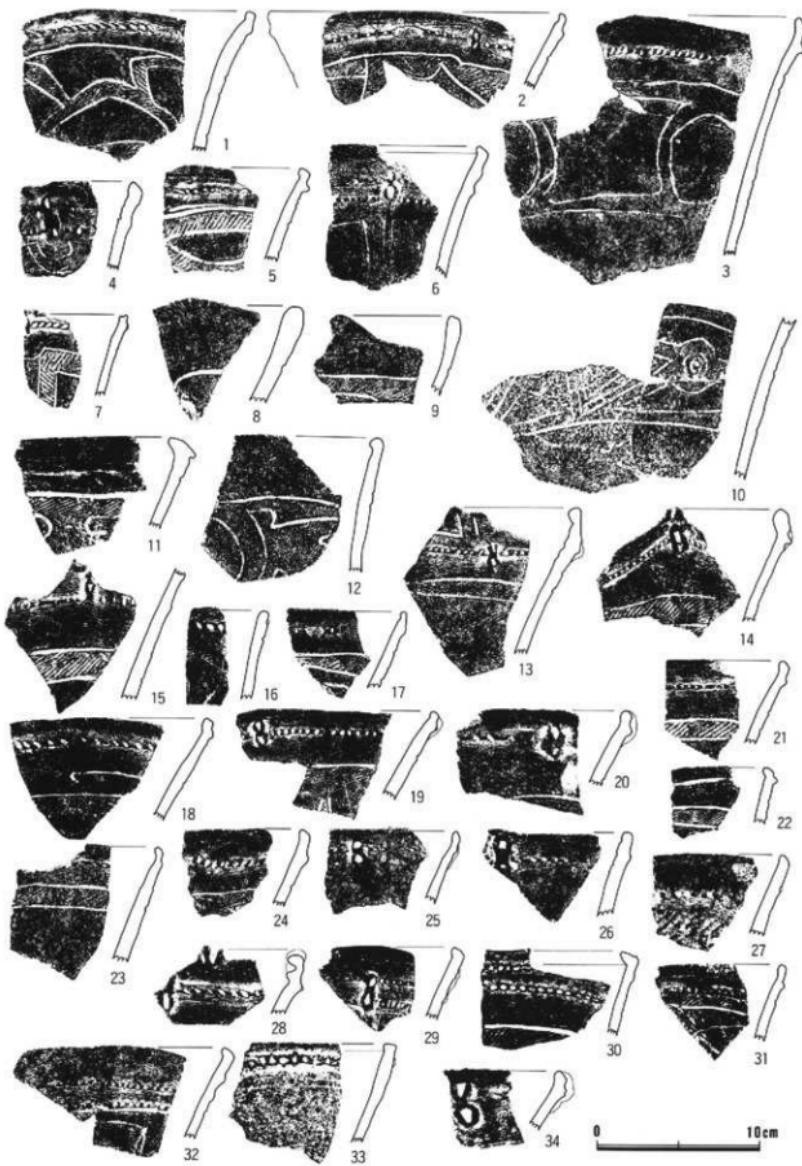
第71図-19は頸部に2条の刻隆線が巡り、8字貼付文が付けられる。そこを起点に口縁部にかけて2条の刻隆線が逆ハ字状につき、胸部にかけて垂下する。第71図-20は刻隆線が2条重下し、沈線による曲線的なモチーフが描出される。第71図-22~23は頸部に刻隆線が巡り、8字貼付文が垂下する。胸部は8字貼付文下に縦位の第71図-22は頸部に2条の刻隆線がつき、8字貼付文が垂下する。胸部は縦位・斜位の沈線が垂下する。第71図-24は2条の刻隆線が巡り、8字貼付文がつく。沈線間は磨消文帯がつき、縦位・斜位の沈線が垂下する。第71図-25は頸部に2条の刻隆線が巡り、8字貼付文が垂下する。その下から刻隆線が垂下する。地文に縄文を施し、対弧状の沈線と斜位の沈線からなるモチーフを有する。

C群 地縄文を有し、A群と同様の器形をなす深鉢形土器（第62図-3・5、第73図、第74図）

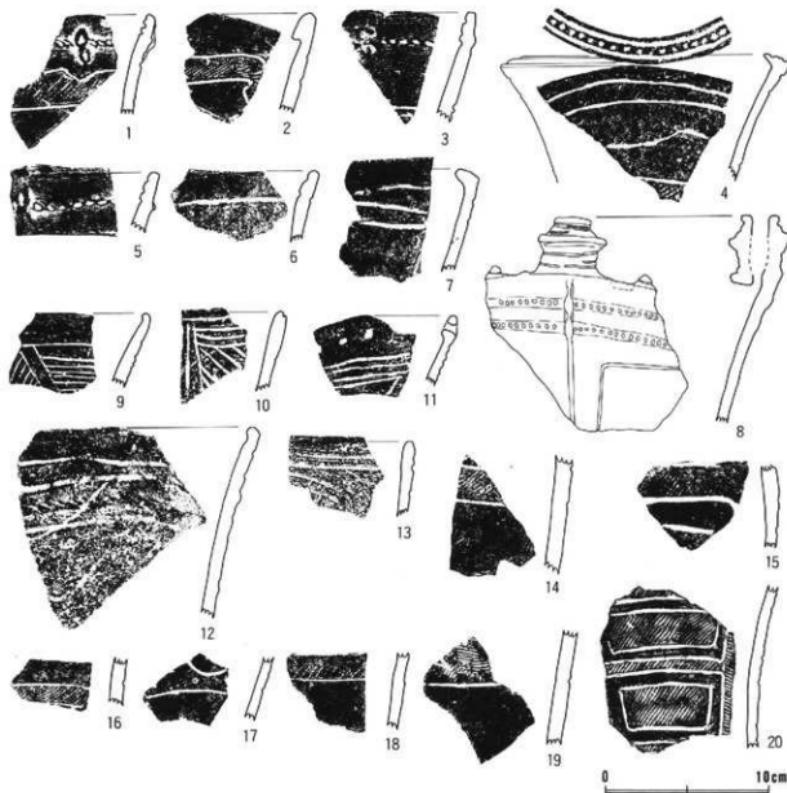
C1類 縦位・斜位の沈線が垂下するもの

第62図-3は口縁部に1条の沈線が巡り、3点の刺突文がつく。胸部は地文にRL縄文を施し、縦位の沈線が3条重下し、横S字文が垂下し、間隔をあけて配されている。

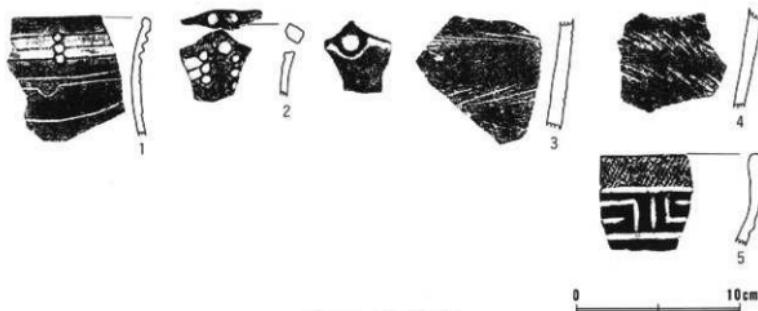
第73図-8~12は口縁部に1条の沈線が巡り、胸部は沈線が懸垂する。第73図-10は口縁部に円形刺突文が施される。第73図-14・15は波頂部に3条の沈線がつき、口縁部に1条の沈線が巡る。胸部は刺突文が垂下し、LR縄文を地文に斜位の沈線が施される。第73図-17・18は口縁部は内折し、沈線間に刺突文が巡る。胸部は曲線的な沈線がつく。第73図-19~21は波状口縁を呈し、口縁部は沈線間に刺突文が巡る。第73図-19は波頂部から列点文が垂下する。地文はLR付加縄文が施される。第73図-22は沈線下に刻みが施され、波頂部から列点文が垂下する。第73図-24は口縁部に1条の沈線が巡り、胸部は斜位の沈線が施される。第74図-1は波状口縁を呈し、2本の沈線がつく。波頂部に刺突文がつき、その



第78図 第X群土器 (17)



第79図 第X群土器 (18)



第80図 第XI群土器

下には列点文が垂下する。

C 2類 縦位・斜位の沈線と蛇行文の組合せによって文様を構成するもの

第62図-5は口縁部に1条の沈線が巡り、刺突文が施される。その刺突文を起点に縦位・斜位の沈線が施される。第73図-25は波頂部下に入組文が垂下する。横位に沈線が2条つく。第73図-28は波頂部下に渦巻状の曲線的な太い沈線が垂下する。その両側には斜位の沈線が垂下する。第73図-29は波頂部下に蛇行沈線文が垂下し、その両側に2本づつ沈線が垂下する。第74図-2は内湾する波状口縁を呈し、沈線間に刺突文がつく。波頂部下には蛇行沈線文が垂下する。第74図-3は3本1単位の沈線が縦位・斜位に垂下する。2本1単位の蛇行沈線文が垂下する。間隙には繩文を充填する。

C 3類 縦位の沈線と曲線的な沈線の組合せによって文様を構成するもの

第73図-1は波状口縁を呈し、波頂部に円形刺突文が2つ施される。1条の沈線下には刺突文がつく。2は沈線間に刺突文が施される。第73図-3~5は1条の沈線にLR繩文が施される。第73図-6~7は胸部が膨らむ笠形で1条の沈線が施され、波頂部は上部に小さな円形刺突文がつく。下には4つの円形刺突文が施され、左右は沈線と接続する。

第74図-4は波頂部に円文が2つつく。その波頂部下にはLR繩文を地文に渦巻文、短沈線文が垂下する。第74図-5は口縁部に1条の沈線が巡り、LR繩文を地文に2本1単位の沈線が垂下し、上下に半円文がつく。第74図-6はRL繩文を地文に波頂部下に円文が上下に垂下する。中心には刺突文が垂下する。第74図-7はLR繩文を地文に、波頂部下に3本1単位の逆U字状の曲線的な沈線が垂下し、内部にB字状の沈線が施される。

D群 胸部から口縁部にかけて外反する朝顔形深鉢（第75図-4~6、第76図~第79図-1~20）

胸部から口縁部にかけて外反しながら開く朝顔形の深鉢をなす器形を一括した。

D 1類 刺下部が屈曲し、口縁部が外反する器形（第75図-4~5）

第75図-4~5は胸下部で屈曲し口縁部は外反する。第75図-4の口縁部は内折し、上下1条の沈線間にH状の懸垂文とX字状文がつく。第75図-5は沈線による重三角文が上下2段に施される。堀之内1式後半に比定される。

D 2類 胸部から口縁部に向かって外反しながら開く朝顔形深鉢（第75図-6、第76図~第79図-1~20）

口縁端部が内折するものとそうでないものがあり、刻隆線に8字貼付文が付されるものがある。胸部文様帶は上下を沈線で区画し、様々な文様を構成する。大半は堀之内2式に比定される。

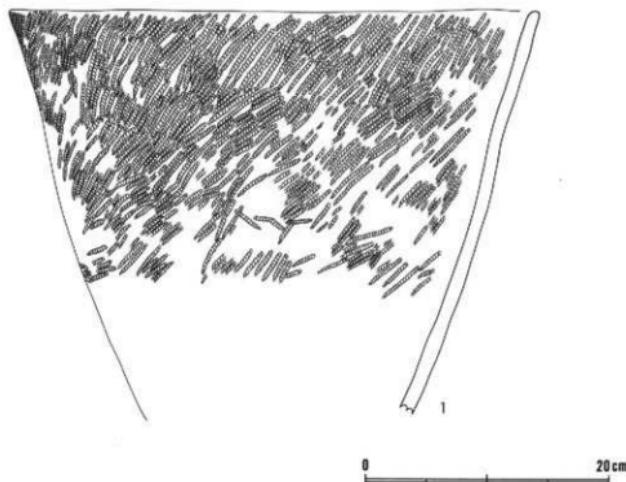
D 2 a種

第75図-6は口縁部が波状を呈し、外反する。口縁部に1条の沈線が巡り、上下2条ずつの沈線間に縦位の沈線が垂下し、波状の沈線が巡る。その間隙には斜位の沈線が充填される。堀之内1式後半に比定される。

D 2 b種

第76図-1は口縁端部に刺みが施され、胸部文様帶は重菱形文が施される。上下に半円文がつく。連結部分にLR繩文が充填される。第76図-2は刻隆線が巡り、重菱形文がつく。LR繩文が充填される。第76図-3は胸部文様帶は上下に三角文・菱形文から構成される。LR繩文が充填される。第76図-4は口縁部内側に2条の沈線が巡る。外面は1条の刻隆線に8字貼付文がつく。胸部は沈線による重三角文がつく。

第76図-5~6は口縁端部に刺みがつき、1条の刻隆線が巡る。胸部文様帶は区画内に上下は三角文がつき、左右に重三角文が配される。区画内にはLR繩文が充填される。第76図-8~9は波状口縁を呈する。地文に繩文を施し、8字貼付文下を起点に重三角文が施される。第76図-10~11は三角文が施さ



第81図 第Ⅹ群土器（1）

れる。第77図-4～11は胸部片で三角文がみられる。第74図-9・10・11はX字状文がみられる。

第78図-1～34は口縁部片で、第78図-1～5は曲線的な円文・弧線文等がみられる。第78図-1は1条の刻隆線がつき、弧線文が描かれ、沈線間にRL繩文が充填される。第78図-3は1条の刻隆線が巡り区画内に円文が横位に描かれる。

第78図-6・7は枠状文が描かれる。第78図-15～34は口縁部片で、第78図-13～15は波状口縁を呈し、1条の刻隆線が巡り、波頂部下に8字貼付文がつく。

第78図-16～34は平口縁を呈し、1条の刻隆線、8字貼付文、帯繩文がつく。第78図-26は内面に沈線が巡る。

第78図-29・30・32は2条の刻隆線が巡る。第79図-1・3・5・6は内面に沈線が巡る。刻隆線がつき、8字貼付文がつく。第79図-4は口縁部が内折し、2本の沈線間には連続した刺突文がつく。胸部は帯繩文が施される。第79図-9～11は沈線による懸垂文・斜行文が施される。堀之内2式に比定される。第79図-8は円盤状の突起を有する。2条の刻隆線が巡り、波頂部下に1条の隆線が垂下する。沈線による枠状文がつく。

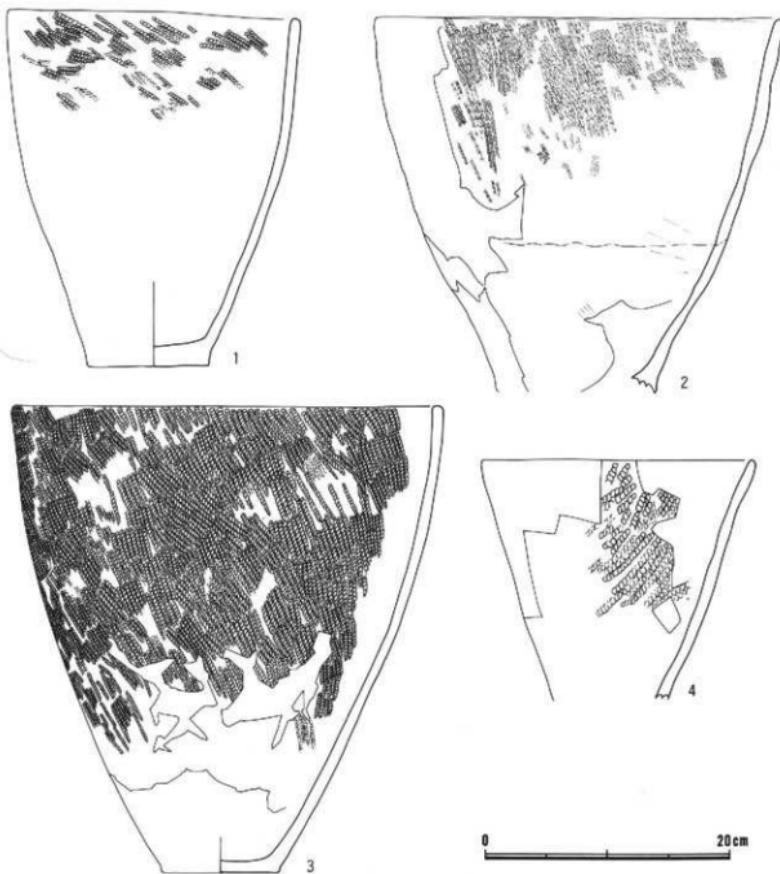
第Ⅺ群 粗製土器（第81図～第86図）

器面に繩文、付加繩文、櫛歯状工具による条線、条痕文、無文の粗製土器を一括する。ほとんどが深鉢形で、口縁部の形状に違いがみられる。

1類 繩文が施された一群（第81図-1、第82図-1～3、第84図）

第81図-1は外方に開き、口径43.0cmを測る。大型の深鉢である。口縁部から胸部中位にかけてLR繩文が施される。器壁は厚く、胎土は砂粒・礫を含み、器面は粗雑である。

第82図-1はやや内湾ぎみに立ち上がり、口径24.6cm、器高29.3cm、底径9.9cmを測る。口縁部上部

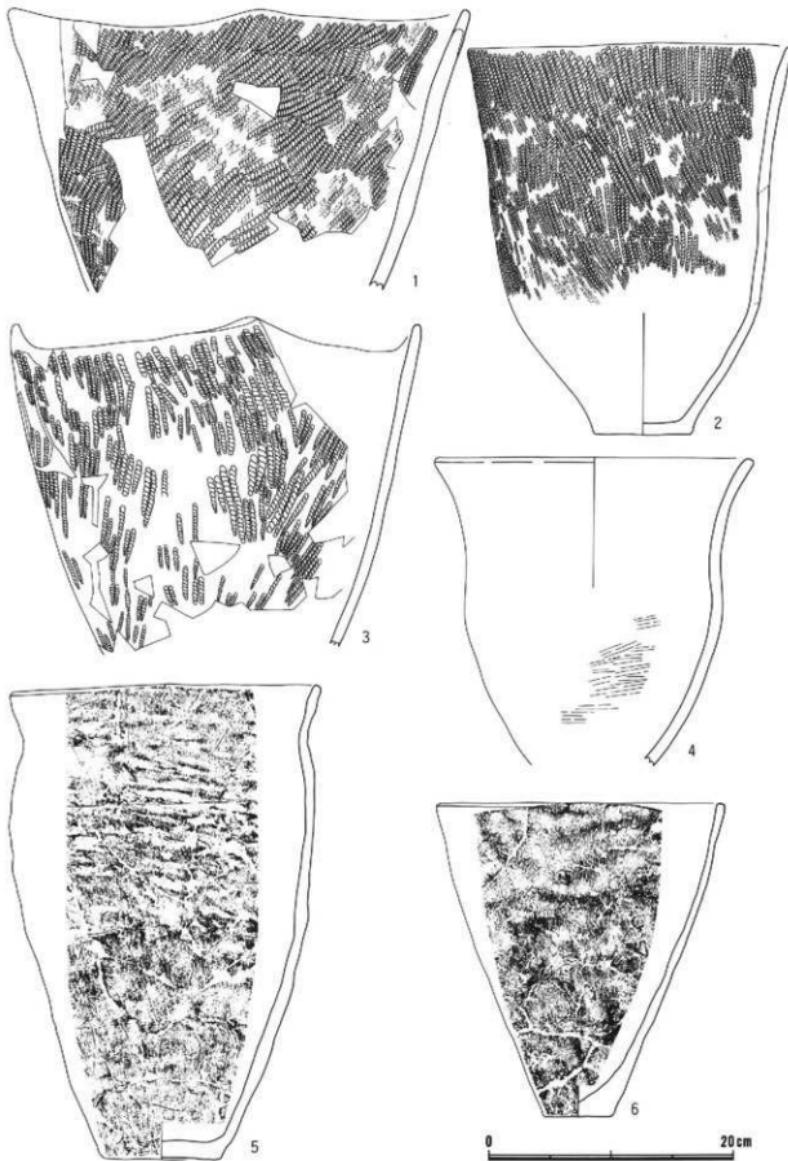


第82図 第Ⅹ群土器（2）

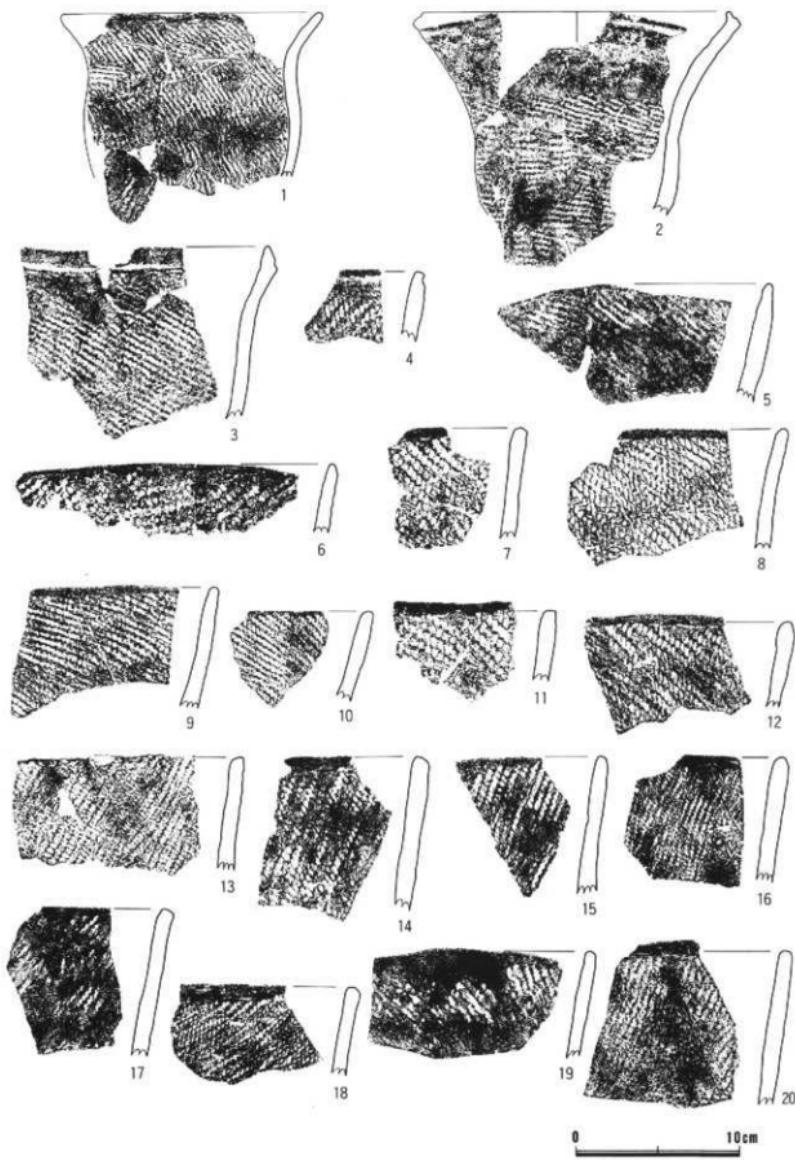
にRL縄文を施す。下半は磨滅が著しく不明瞭である。第82図－3はやや内湾する口縁部で口径34.5cm、器高38.4cm、底径9.7cmを測る。RL縄文が口縁部から胴部下位にかけて施文される。第83図－1、3は波状口縁を呈し、4単位からなる。第83図－2は底部から外反しながら下部で膨らみ、口縁部は外反する。口縁部から体部下位にかけてRL縄文を施す。第84図－1・2は胴部はやや膨らみ、口縁部は外反する器形で、全面に縄文が施される。第84図－2～4は口縁部に1条の沈線が巡る。

2類 付加縄文が施された一群（第85図）

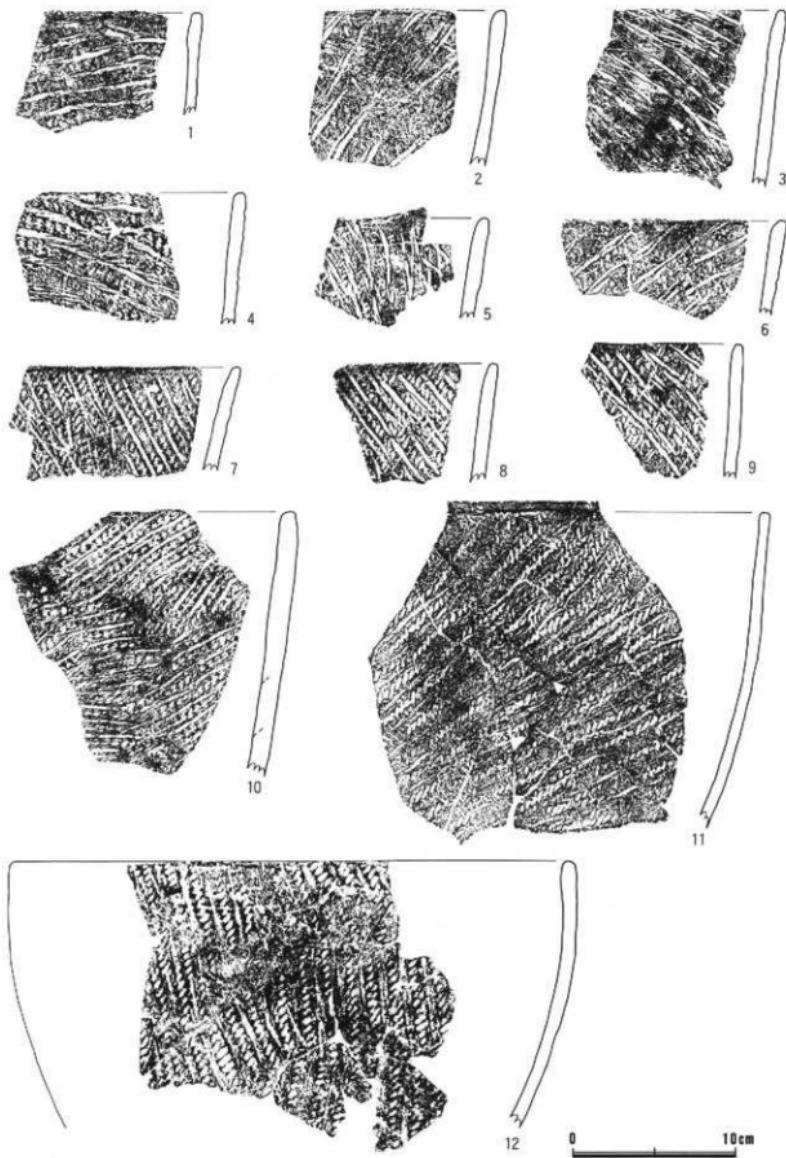
第85図－1・2は付加条縄文が施されるが、器面は磨耗している。第85図－3では、外面の口縁部はケズリ調整が施され、無節L縄文が施文される。内面は口縁部上端にミガキ調整がみられる。第85図－4は軸縄の撚りと付加の縄が反対方向に巻かれている。第84図－7～9はRL付加条縄文が施される。第



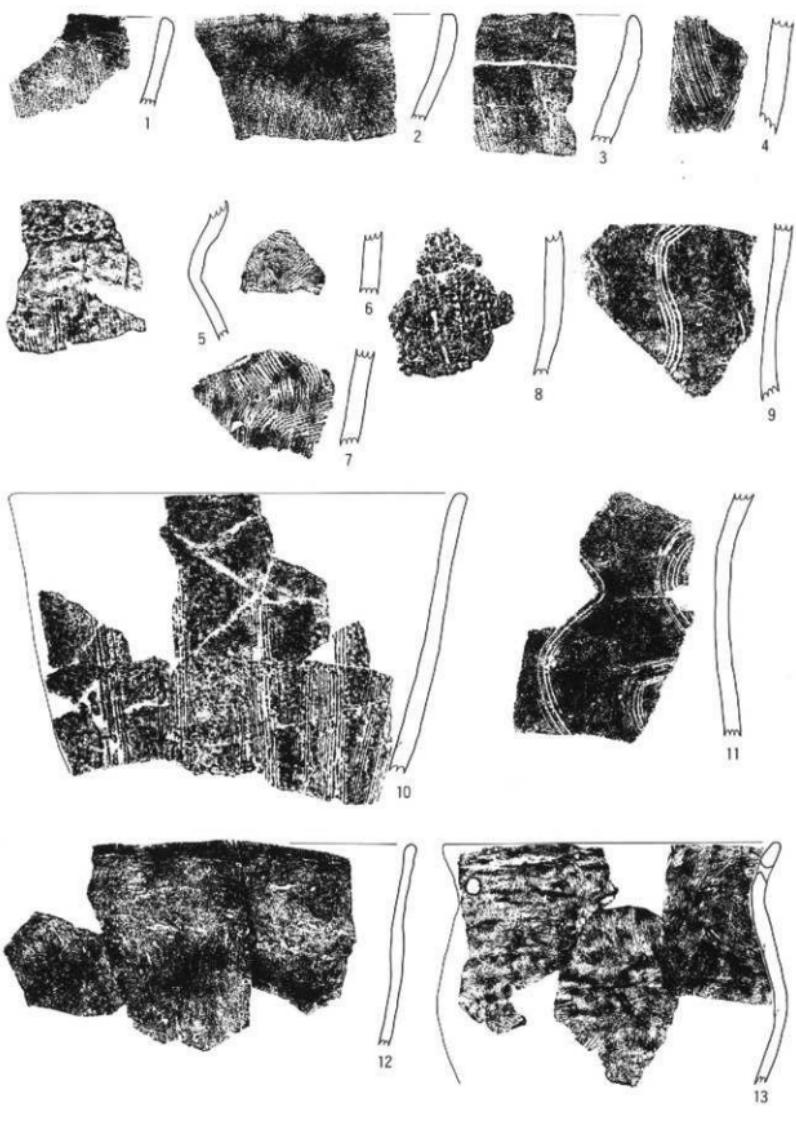
第83図 第Ⅲ群土器 (3)



第84図 第X群土器 (4)



第85図 第XII群土器（5）



第86図 第6群土器 (6)

85図-12は内湾する口縁部にRL付加条縄文を施す。

3類 条線が施された一群（第86図）

第86図-1～3・5は縦位の櫛齒状工具による浅い条線文が施される。第86図-3は1条の沈線が巡る。第86図-6～8は斜位の櫛齒状工具による条線文が施される。第86図-10は外方に開く口縁部に櫛齒状工具による縦位の条線文が施される。第86図-9・11は胸部に櫛齒状工具による蛇行文が施される。

4類 無文の深鉢（第83図-5・6、第86図-12・13）

第83図-5は長胴状を呈し、胴上部で外反する。口径24.6cm、器高39.0cm、底径9.2cmを測る。胴上部に指ナデの整形痕が横方向に施される。

第83図-6は外方に開く深鉢である。口径22.6cm、器高25.7cm、底径5.3cmを測る。器面は丁寧なナデ調整がみられる。第86図-13は胸部中位で膨らみ、外反する。頸部に補修孔がみられる。

第XIII群 その他の土器（第87図～第90図）

1類 小型土器（第87図）

第87図-1～7は高台形土器の底部である。第87図-7は外面に2本の隆帯が貼付される。第87図-2～4、第87図-8・9は第VI群土器に比定できる。

第87図-8は小型浅鉢形土器である。口径は12.45cm器高6.0cm、底径5.75cmを測る。胴上部で屈曲し、口縁部は外方に張り出す。底部外面には網代痕が残る。

第87図-9はミニチュア土器で、36号配石の土坑内より出土している。丸底を呈し、口縁部はつまみだして成形し、外方に張り出す。

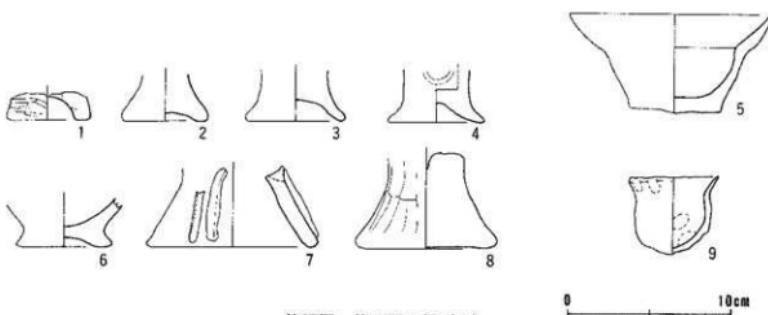
2類 浅鉢形土器（第75図-7・8、第88図）

第75図-7は体部上半が内湾する鉢形土器である。胴上部の文様帶は三角文と渦巻文が施される。文様内部にLR縄文が充填される。口径13.3cm、胴部最大径20.3cm、底径6.9cmを測る。堀之内2式に比定される。第75図-8は類の範疇に含まれられるが、胴部は短く球胴状を呈し、浅鉢形に近い器形をなす。口縁部は1条の沈線がつき、屈曲部に8字貼付文がつく。堀之内1式に比定される。

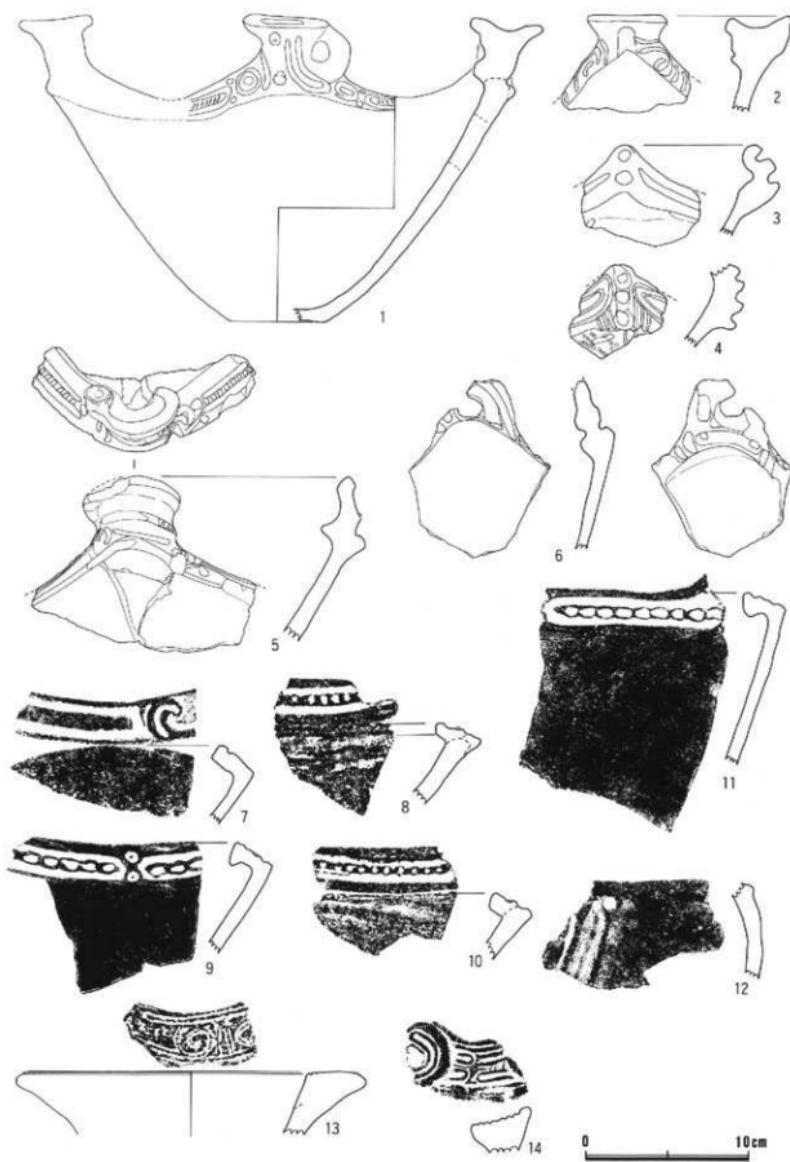
第88図-1は4単位の波状口縁をなす器形で口縁部はく字に屈曲し、文様は口縁部に施される。第88図-1・5・8～11は、枠状文の中に列点文や縦位の短沈線が描かれる。堀之内1式に相当すると考えられる。第88図-13・14は肥厚する口縁部に文様が施される。第88図-13は枠状文内に、渦巻文と爪形文がつく。

3類 注口土器（第89図）

注口土器の胴部、把手、注口部を一括した。第89図-3・4・6・7は靴ベラ形の橋状把手で、第89



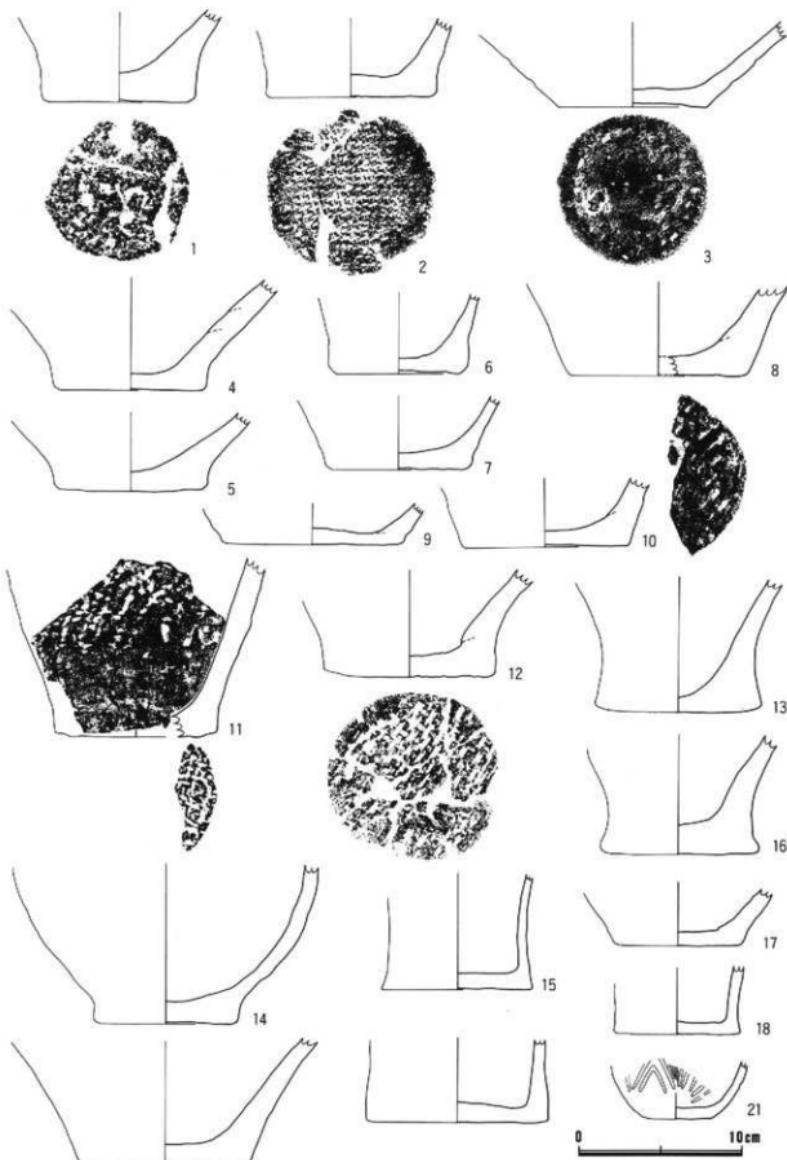
第87図 第XIII群土器（1）



第88図 第Ⅲ群土器（2）



第89図 第三群土器（3）



第90図 第四群土器 (4)

図-7は上部に円文が描かれる。矧之内2式に比定される。第89図-9は口縁部が筒形の器形をなす。柄状の把手がつき、頸部に沈線が周回する。第89図-10・11は算盤玉形の器形をなす。第89図-10は、胸上部に半円状の隆帯が貼付される。第89図-11は屈曲部に1条の隆帯が巡る。第89図-12・13は口縁部が短く外方に開き、胸丸の器形をなす。第89図-12は刻隆線が1条巡る。第89図-13は曲線的な蒂繩文が施される。第89図-14は把手片で、渦巻き状の沈線が施される。

第89図-15~25は注口部を一括した。

3類 底部（第90図）

第V群に比定される土器底部を一括した。第90図-3は底部が大きく開くもので、浅鉢形土器や注口土器の底部にみられる。底部から外反しながら立ち上がる。第90図-2は2本超え1本潜り右1本送りの網代痕を残し、周辺部はナデ整形で網代痕を消している。第90図-12は2本超え1本潜り右1本送りの網代痕を残す。第90図-14は下端が張り出し、内湾しながら立ち上がる。第90図-15~19は、ほぼ直立あるいはやや外板しながら立ち上がり、下端が大きく張り出す。朝顔形深鉢の底部片である。

参考文献

- 静岡県 1995 「静岡県史 資料編3 考古三」
- 静岡県考古学会シンポジウム実行委員会 1998 「縄文時代中期前半の東海系土器群について」－北陸敷土器の成立と展開－
- 富士市教育委員会 1983 「大間沢遺跡 遺物・考察編」
- 富士市教育委員会 1984 「天間沢遺跡 遺構編」
- 小野真一 1975 「千層」 加藤学園考古学研究所
- 富士市立教育委員会 1997 「泡戸遺跡」
- 鈴木保彦・山本輝久 1988 「加曾利E式土器様式」『縄文土器大観2 中期I』 小学館
- 末木 建 1988 「曾利式土器様式」『縄文土器大観3 中期II』 小学館
- 三上徹也 1988 「唐草文系土器様式」『縄文土器大観3 中期II』 小学館
- 米田明則 1977 「曾利式土器編年の基礎的把握」『長野考古学会誌30』 長野考古学会
- 米田明則 1986 「中期後半の上器の諸問題」「柳坪遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第13集
- 小野正文 1987 「曾利式土器」「新迦原II」 山梨県教育委員会 山梨県埋蔵文化財センター報告第21集
- 佐野 隆 1997 「曾利式土器終末期の編年について」「ハッカ法考古平成8年度年報」 北巨摩郡市町村文化財担当者会
- 伊藤公明 1998 「X字把手大型深鉢形土器の展開」「ハッカ法考古平成9年度年報」 北巨摩郡市町村文化財担当者会
- 石井 寛 1993 「牛ヶ谷遺跡・草薙台南遺跡」 姉崎浜市ふるさと歴史財団
- 今村啓暉 1977 「称名寺式土器の研究（上ド）」『考古学雑誌第63巻1・2号』
- 鈴木健雄 1991 「称名寺式の変化と文様帯の系統」『土器考古第16号』 土器考古学研究会
- 石井 寛 1992 「称名寺式土器の分類と変遷」「調査研究集録第9冊」 姉崎浜市ふるさと歴史財団
- 中島庄一 1988 「称名寺式土器様式」『縄文土器大観4 後期 晩期 縦繩文』 小学館
- 泉 拓良 1988 「船元・甲木土器様式」『縄文土器大観3 中期II』 小学館
- 阿倍芳郎 1989 「矧之内1式土器の構成と変遷」「信濃第40巻第4号」 信濃史学会
- 石井 寛 1984 「矧之内2式土器の研究（予察）」「調査研究集録第5冊」 姉崎浜市ふるさと歴史財団
- 鈴木保彦 1972 「東正院遺跡調査報告書」 神奈川県教育委員会
- 鈴木保彦 1977 「下北原遺跡」 神奈川県教育委員会
- 戸沢光則 1994 「縄文土器研究辞典」 東京堂出版

表2 繩文土器観察表1

番号	遺伝地 遺物	基盤	口部 底盤 器形	表面の特徴	目次の特徴	色調 削土 地塊	番号
1-1	C-1 K-10	深鉢	-	外反する口部。	縄文式に施墨が跡を残す。	10VR6/4に近い黄褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-2	C-1 K-10	深鉢	-	膨らむ脚部。	地面上に施墨を残す。平底竹貫状工具による擦痕的な施墨がつく。	10YR5/2に黄褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-3	C-1 K-10	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	地面上に施墨を残す。平底竹貫状工具による擦痕的な施墨がつく。	10YR6/2に黄褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-4	C-1 SH-6	深鉢	-	内側する口部部。	三角押出が表面に残る。	7.5YR5/3褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-5	C-1 SH-9	深鉢	-	口輪部はやや膨らみ、端部は近く 外反する。	二重押出を確認し充満する。	7.5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-6	C-1 SH-9	深鉢	-	口輪部は外方へ突き、肥厚する。	地面上に施墨を残す。口輪部に平底竹貫状工具によ る施墨痕が残る。	2.5YR7/3褐色 長石含む 良好	
1-7	C-1 M-14	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	平底竹貫状工具による施墨を残し、縄を施墨式形文 がつく。	7.5YR6/3に近い褐色 長石、白色粒子含む 良好	
1-8	C-1 I-11	深鉢	-	接続口縁を有する。	I-II層は断面一角形の剥離帶の側面に近る。周間に 剥離帶による三角文がつく。	7.5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-9	C-1 SH-18	深鉢	-	波状口縁を有し、底部に外れ凹部 下干し。	波状口縁が2本あり下し、M字状の剥離帶が中央下し。 追手子の剥離帶が底面下す。	3VR6/4に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
1-10	C-1 SH-9	深鉢	-	把手	肩部の薄起板と孔ならなる中間の施墨把手	7.5YR5/3褐色 長石、白色粒子含む 良好	
1-11	C-1 SH-11	深鉢	-	小穴孔を有する口縁部。	口縁部に削離帶がつく。	5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-12	C-1 SH-14	深鉢	-	波状口縁を有する。	底頂部から剥離帶が下す。	7.5YR6/4に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
1-13	C-1 I-11	深鉢	-	波状口縁を有する。	地面上に施墨を残し、剥離帶から斜め剥離が底面下す。	10YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-14	C-1 SH-6	深鉢	-	波状口縁を呈する。	底面に剥離帶がつく。2条の剥離帶がある。	10YR6/2B黃褐色 長石、白色粒子含む 良好	
1-15	C-1 SH-24	深鉢	-	半円状の突起を有し、口縁部に外 反する。	剥離帶に施墨文がつく。部位には周辺底面を施し 内部に剥離の剥離文を施す。	5VR6/2B褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
1-16	C-1 I-11	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	脚部に施墨した際の剥離が施される。周間にねじ 状に見える剥離帶がつく。	7.5YR6/4に近い褐色 白色粒子、薄荷青色 良好	
1-17	C-1 SH-14	深鉢	-	波状口縁を呈する。	波部端に弱みの入った剥離状の実乾がつく。	7.5YR6/4に近い褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
1-18	C-1 L-12	深鉢	-	波状口縁を呈する。	三角状の突起を有し、下部に剥離が配付される。	10YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-19	C-1 SH-6	深鉢	-	口縁部に内傾する。	半底竹貫状工具による剥離文を施し縁を残す。	10YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
1-20	C-1 L-11	深鉢	-	波状口縁を呈する。	I-II層内側には半底竹貫状工具による剥離がつく。	7.5YR6/2B褐色 長石、白色粒子含む 良好	
1-21	C-1 J-12	深鉢	-	波状口縁を呈する。	三角状の突起に剥離状剥離文が施される。	5YR6/4に近い褐色 砂粒、長石、白色粒子含む 良好	
1-22	C-1 L-12	深鉢	-	波状口縁を呈する。	三角状の突起に剥離状剥離文が施される。	7.5YR6/4に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
2-1	C-1 SB-6	深鉢	-	脚部を呈し、端部は外折する。	口縁部に近い字形の葉茎が削下し剥離の剥離帶に削 離帶等が残る。剥離は底面にLR剥離文を施す。	5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
2-2	C-1 SH-7	深鉢	-	凹部を呈する。	脚部は無く、葉状の剥離の剥離が底面に近る。剥離 帶に剥離帶が底面下す。剥離帶が張り下る。	10YR6/4に近い褐色 長石、白色粒子、白色粒子含む 良好	
2-3	C-1 SH-9	深鉢	-	剥離を呈し、やや内傾する。	「剥離」に近い剥離文を呈し、剥離帯を横軸、原形 に近い剥離文を底面に剥離、原形の剥離帶が施される 。同時に剥離の剥離を施す。	10YR6/3に近い褐色 白色粒子、薄荷青色 良好	
2-4	C-1 J-9	深鉢	-	剥離を呈し、外反する。	口縁部は弱い剥離文を呈する。剥離は周囲次々と に剥離文を施す。剥離の剥離帶が施される。	2.5YR3/3褐色 白色粒子 良好	
2-5	C-1 SH-18	深鉢	-	剥離を呈し、口縁部はやや内蔵す る。	「剥離」に近い剥離文を呈し、半底竹貫状工具による剥離文に削 離の実乾、追手子が盛り下す。	7.5YR6/3に近い褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
2-6	C-1 SH-10	深鉢	-	脚部を呈し、外方へ聞く脚部。	口縁部は無文で、剥離状の剥離が削下する。	7.5YR6/3に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
2-7	C-1 J-9	深鉢	-	波状口縁を呈し、外方へ聞く口縁。	底頂部に熱形の剥離帶が削下する。その内部に剥離 を施した剥離がつく。	10YR6/4に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	

表3 繩文土器観察表2

番号	測定区 名	器種	口縁 底付 基合	特徴の特徴	技法の特徴	色調 斑点 斑成	備考
2-8	C-1 SB-18	深鉢	-	横状に縫をなし、外方に聞く口縁。 底付は縫をなし、内側は深く外方へ広れる。	口縁部から下縫竹管状工具による縫跡が施された縫跡が現下する。縫跡に押引文がある。	7.5YR5/2赤褐色 砂粒、白い斑点 良好	
2-9	C-1 SB-14	深鉢	-	横状口縁をなし、口縁部は深く外方へ広れる。	口縁部に縫跡を起付する。	10YR7/3C-4赤褐色 砂粒、白色斑点 良好	
2-10	C-1 J-9	深鉢	-	横状口縁をなし、底部は厚厚する。	口縁部の底付部から縫跡が現下する。	10YR5/2C-4赤褐色 砂粒、白色斑点 良好	
2-11	C-1 J-9	深鉢	-	横状口縁をなし、やや内側する。	口縁部に縫跡が現下する。	7.5YR6/4C-4赤褐色 砂粒、白色斑点 良好	
2-12	C-1 SB-18	深鉢	-	横状口縁をなし、底部は厚厚する。	底付部から縫跡が現下し、底部が施された縫跡痕が残る。	7.5YR7/4赤褐色 砂粒、白色斑点 良好	
2-13	C-1 SB-18	深鉢	-	横状口縁をなし、底部はやや内側する。	口縁部に底付部の縫跡が現下し、両端に半縫竹管状工具による押引文がつく。	10YR5/2C-4赤褐色 砂粒、白色斑点 良好	
2-14	C-1 SH-21	深鉢	-	横状口縁をなし、口縁部は内側す。	口縁部の底付部から縫跡状の縫跡を起付する。	7.5YR5/2赤褐色 砂粒、4度合む 良好	
2-15	C-1 SB-18	深鉢	-	外方に聞く胸部。	縫跡と同様の縫跡が現下し、両端に半縫竹管状工具による押引文がつく。	7.5YR5/3C-4赤褐色 砂粒、4度合む 良好	
2-16	C-1 SB-3	深鉢	-	口縁部は内側し、底部はやや厚厚する。	口縁部は底付部が現下る。	SYR5/2C-4赤褐色 貝石、石英含む 良好	
2-17	C-1 SB-14	深鉢	-	外方に聞く胸部。	縫跡に縫跡が施された縫跡が現付される。	2.5YR1/4赤褐色 貝石、貝殻砂、雲母含む 良好	
2-18	C-1 SB-20	深鉢	-	やや膨らむ胸部。	縫跡部が複数、斜位に残す。その隙間に三叉文を形成する。	10YR7/3C-4赤褐色 白色粒子、砂粒、砂質含む 良好	
2-19	C-1 SB-9	深鉢	-	胸部を少し、やや外反する。	胸部は倒錐形による人形文が施される。周縁には縫跡と系縫跡が通ずる。	10YR6/4C-4赤褐色 砂粒、白色粒子、石英含む 良好	
2-20	C-1 SB-14	深鉢	-	膨らむ胸部。	縫跡に切削文が施された縫跡が貼付される。	5YR6/6赤褐色 白色粒子、砂粒、雲母含む 良好	
2-21	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ胸部。	縫跡部を弧状に貼付する。	5YR6/4C-4赤褐色 白色粒子、砂粒、砂質含む 良好	
2-22	C-1 SB-12	深鉢	-	外方に聞く胸部。	半縫竹管状工具による縫跡文の条縫文が貼付する。	7.5YR5/1C-4赤褐色 貝石、白色粒子、雲母含む 良好	
2-23	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ胸部。	半縫竹管状工具による条縫文とX字状の切削痕がつく。縫跡がつく。底部にX字状の突起がつく。	5YR5/6明赤褐色 石英、砂粒、白色粒子含む 良好	
2-24	C-1 SB-14	深鉢	-	外方に聞く胸部。	半縫竹管状工具による縫跡文とX字状の切削痕が貼付する。その縫に底跡を底下させ、縫跡に刃先縫跡をつける。	2.5YR6/6赤褐色 貝石、白色粒子含む 良好	
2-25	C-1 SB-6	深鉢	-	外方に聞く胸部。	太い底付部の縫跡が現下する。	SYR6/6赤褐色 貝石含む 良好	
3-1	C-1 SB-6	深鉢	11.1 7.0 23.6	横縫を呈する。	口縁部は底付で、1条の縫跡が縫跡に近く胸部は地付を条縫とし、2条の縫跡が底付部が現下する。	2.5YR5/1C-4赤褐色 長石、石英含む 良好	
3-2	C-1 SB-6	深鉢	18.8	底付、底部は膨らみ、口縁部は外反しながら厚厚する。	口縁部は底付で、底付は口縁より下の縫跡のつつき、底付は底付の縫跡のつつき、底付の縫跡が底付する。底付は縫跡のつつき。	2.5YR6/4C-4赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-3	C-1 SB-18	深鉢	23.4	底付は膨らみ、口縁部は横状に縫跡で内側する。	口縁部は底付で、底付は口縁より下の縫跡のつつき、底付は底付の縫跡のつつき、この間に底付部を7個貼付する。	2.5YR5/6明赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-4	C-1 SB-6	深鉢	10X.3 底部13.2 14.5	底付部は膨らみ、口縁部は内側する。底付部は14.5。	口縁部から底付かけて底付部が現下する。両端にX字状の底付部が現下する。底付部は2条の縫跡部がつく。底部は底付文と多縫とる。	2.5YR5/4C-4赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-5	C-1 SB-16	深鉢	13.2 底部14.0	口縁部は深く内側する。	口縁部は底付部によく縫跡文が施される。底部は3条の縫跡部で2条の縫跡部がつく。	2.5YR5/4C-4赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-6	C-1 SB-16	深鉢	26.0	膨らむ胸部。	底付部は底付に半縫竹管状工具による底付文とX字状の底付文がある。底付部は底付の縫跡文を地文として1条1組の縫跡部が現下する。	7.5YR5/1C-4赤褐色 貝石、石英含む 良好	
3-7	C-1 SB-6	深鉢	22.0 底部19.8 性大26.7	底付はやや膨らみ、口縁部は内側する。	口縁部は半縫状の縫跡文がつく。底付部は2条の縫跡部で底付部が現下する。	5YR4/4赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-8	C-1 SB-18	深鉢	-	胸部の胸部。	底付部は底付の縫跡文を地文とし、底付部は底付部が現下する。底付部は縫跡部が現下する。	SYR5/4C-4赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
3-9	C-1 SB-6	深鉢	30.7 最大40.7	内側する1縫跡。	口縁部は半縫状の縫跡文がつく。2条の縫跡が現下する。	10YR4/2赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
4-1	C-1 SB-12	深鉢	33.7	口縁部外に聞く。	底付部は底付の縫跡文を地文とし、底付部が現下する。	5YR6/6赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	
4-2	C-1 SB-9	深鉢	27.7 8.8 33.7	底付部は膨らみ、口縁部は内側する。	口縁部は無地で、底付部は内側する。口縁部は底付を地文とし縫跡部による底付文がつく。	5YR6/6赤褐色 長石、白色粒子含む 良好	

表4 繩文土器観察表3

番号	測量区 測量	形種	U位 底位 蓋位	剖面の特徴	粒状の特徴	色調 底上 底付	備考
4-3	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ腹部。	底部は3条の横隔壁に2条の纵隔壁がつく。底部は余縫文を有しとし蓋部による豊古文がつく。	SYR4/1に赤い褐色 底付、石英含む 良好	
4-4	C-1 SB-16	深鉢	16.3 底位22.0	腹部中位で膨らみ、U縫部は内側 する。	口縫部は地文で、腹部は3条の横隔壁に2条の纵隔壁がつく。腹部は余縫文を有しとし、波状隔壁、U縫部の隔壁が底下する。	SYR4/4に赤い褐色 底付、石英含む 良好	
4-5	C-1 SB-9	深鉢	-	剖面U字形で膨らむ。	腹部は波状隔壁がつく。腹部は、底部の余縫文を地文とし、波状隔壁や豊古文が底下する。	10YR4/6に赤褐色 底付、石英含む 良好	
4-6	C-1 SB-9	深鉢	29.6 底位27.0	口縫部は外に開く。	腹部は4条の横隔壁に2条の纵隔壁がつく。腹部は余縫文を有しとし、それぞれ3本の波状隔壁が底付する。腹部は底部の余縫文を地文とし、第1縫部の隔壁が底下する。	7.5YR2/1cに赤い褐色 底付、石英含む 良好	
5-1	C-1 SB-12	深鉢	(37.6)	口縫部に内凹し、剖面は中縫部の 立ち上がり。	腹部は半平竹管状U字形による押引文を地文に割りの立った隔壁が底下する。	SYR4/3に赤い褐色 底付、(赤)含む 良好	
5-2	C-1 J-11	深鉢	-	口縫部は内凹し、剖面は側縫部の立上がりと膨らむ。	口縫部は側縫部の立上がりと膨らむ。口縫部は側縫部の立上がりと膨らむ。	2.SYR4/4に赤い褐色 底付、(赤)含む 良好	
5-3	C-1 SB-12	深鉢	33.0	口縫部は内凹する。	口縫部は2条の波状隔壁が底付する。腹部は半平竹管状U字形による押引文を地文とし、波状隔壁が底下する。	7.5YR2/1cに赤い褐色 底付、石英含む 良好	
5-4	C-1 SB-15	深鉢	48.0	口縫部は内凹し、剖面は膨らむ。 口縫部は半平竹管状U字形。	口縫部は半平竹管状U字形による押引文を地文とし、波状隔壁が底下する。	7.5YR3/3cに赤い褐色 底付、(赤)含む 良好	
6-1	C-1 SB-16	深鉢	14.5 8.9 9.9	剖面は中位で内凹する。	口縫部に内凹し、剖面は中位で内凹する。	7.5YR4/3cに赤い褐色 底付、(赤)含む 良好	
6-2	C-1 H-9	深鉢	-	剖面U字形で膨らむ縫部は外に張 る。腹部は内凹する。	腹部はU字形で、剖面は半平竹管状U字形による押引文を地文とし、波状隔壁が底下する。	7.5YR4/6に赤い褐色 底付、石英含む 良好	
6-3	C-1 SB-12	深鉢	15.1	口縫部は直縫部に立ち上がり、剖 部は膨らむ。	口縫部は直縫部に立ち上がり、剖部は膨らむ。	2.5YR4/6に赤い褐色 底付、(赤)含む 良好	
6-4	C-1 SB-20 修理	深鉢	16.7	口縫部は斜めにのび、剖面は膨ら む。	口縫部は斜めにのび、剖面は膨らむ。	SYR4/4に赤い褐色 底付、砂紋含む 良好	
6-5	C-1 H-9	深鉢	-	口縫部は内凹し、剖面はやや膨ら む。	口縫部は直縫部で、2条の波状隔壁が底付する。	7.5YR2/1cに赤い褐色 底付、石英含む 良好	
6-6	C-1 8号笠野原	深鉢	-	U縫部は内凹し、剖面は膨らむ。	U縫部は直縫部で、2条の波状隔壁が底付する。	7.5YR3/3cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
6-7	C-1 K-12	深鉢	39.0	波状U字形をなし。	U縫部は直縫部で、2条の波状隔壁が底付する。	7.5YR4/3cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
6-8	C-1 SB-16	深鉢	21.8 (8.2) 26.5	剖面は膨らみ、剖部は外反する。	U縫部は直縫部で、2条の波状隔壁が底付する。	7.5YR4/4cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
7-1	C-1 SB-16	深鉢	22.0 3.9 31.0	U縫部は内凹し、剖面は膨らむ。	U縫部は直縫部で波状隔壁が底付する。	SYR4/4cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
7-2	C-1 SB-16	深鉢	-	U縫部は内凹し、剖面はやや膨ら む。	U縫部は直縫部で波状隔壁が底付する。	SYR4/3cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
7-3	C-1 SB-9	深鉢	(28.0)	U縫部は内凹し、剖面はやや膨ら む。	U縫部は直縫部で波状隔壁が底付する。	7.5YR4/4cに赤い褐色 底付、石英含む 良好	
7-4	C-1 SB-7	深鉢	(26.9)	剖面U字形で膨らみ、口縫部は外 反する。	口縫部は無文で剖面は地文としてL縫部が底付されると、底部には波状隔壁が底下する。	SYR6/4cに赤褐色 底付、石英含む 良好	
7-5	C-1 SH-14	深鉢	(26.0)	口縫部は内凹する。剖面はU字形 をする。	口縫部は無文で剖面は地文としてL縫部が底付されると、底部には波状隔壁が底下する。	7.5YR4/3cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	
8-1	C-1 T-8	深鉢	18.8	キャリバー形を呈する。	地文にはU縫部を削り、口縫部に捲毛によらぬ地文が貼付される。	SYR6/4cに赤褐色 底付、石英含む 良好	
8-2	C-1 SB-15	深鉢	30.4	U縫部は外反し、剖面は下位で膨 らむ。	地文にL縫部を施し、口縫部に1条の縫部による縫 代文が底付する。その下位には波状隔壁が底下する。	7.5YR4/4cに赤褐色 底付、石英含む 良好	
8-3	C-1 SB-6	深鉢	-	やや外反しながらハ字形に聞く。	地文にL縫部を施しU縫部から剖面にかけてミケ 部に貼付のある波状隔壁が底下する。	SYR4/3cに赤い褐色 底付、石英含む 良好	
8-4	C-1 SB-16	深鉢	17.8 32.2	U縫部は4条位の波状U縫部はや や膨らむ。口縫部は斜めにのびる。	地文にL縫部を施す。体底下部は厚板が若干不規 則である。	7.5YR4/3cに赤褐色 底付、石英、石英含む 良好	
8-5	C-1 J-12	深鉢	41.2	波状U縫部でU縫部は外反し、 縫部は内凹する。	全周に地文を施す。口縫部は波状隔壁による溝 代文が底付する。	7.5YR4/4cに赤褐色 底付、石英、石英含む 良好	
8-6	C-1 SB-9	深鉢	-	やや膨らむ剖面。	地文を地文に波状隔壁が底下する。	10YR2/1cに赤褐色 底付、(石)含む 良好	
9-1	C-1 SB-12	深鉢	-	内凹するU縫部。	口縫部は捲毛による縫代文を施す。	10YR4/3cに赤褐色 底付、(石)含む 良好	
9-2	C-1 SB-12	深鉢	-	外反する剖面。	底部は2本の波状隔壁に波状隔壁が底下する。	7.5YR4/4cに赤褐色 底付、(石)含む 良好	
9-3	C-1 SB-12	深鉢	-	外反するU縫部。	U縫部は縫部による捲毛文断面は2本の波状隔壁に波 状隔壁が底下する。	7.5YR4/4cに赤い褐色 底付、(石)含む 良好	

表5 織文土器観察表4

番号	測定区 道跡	断面	口径 底径 高さ 基準	形態の特徴	技法の特徴	色調 粘土 構成	備考
9-4	C-1 SB-1	深鉢	-	内湾する口縁部。	口縁部は陰刃による複数文を施す。	2.5YR6/4C-1黄色 白色粒子、砂粒含む 良好	
9-5	C-1 SB-15	深鉢	-	内湾する口縁部。	口縁部は陰刃による複数文を施す。	7.5YR6/6暗褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
9-6	C-1 SB-9	深鉢	-	複数口縁を有し、内湾する口縁部。	口縁部は陰刃による複数文を施す。	3YR5/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子 良好	
9-7	C-1 SB-14	深鉢	-	強く内湾する口縁部。	口縁部は陰刃による複数文を施す。	3YR6/6暗褐色 白色粒子、白色粒子含む 良好	
9-8	C-1 SB-14	深鉢	-	内湾する口縁部。	口縁部は陰刃による複数文を施す。	3YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
10-1	C-1 SB-14	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は陰刃で、腹部に複数凹槽が1条ある。	7.5YR7/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子 良好	
10-2	C-1 SB-14	深鉢	-	腹底はやや節込み、口縁部は外方へ開く。	口縁部は無文で、底部に複数凹槽が1条ある。	5YR6/6暗褐色 良好、白色粒子含む 良好	
10-3	C-1 SB-14	深鉢	-	口縁部は外方へ開く。	口縁部は無文で、腹部に複数隆起が1条ある。	3YR6/6暗褐色 黄紅、白色粒子、砂粒含む 良好	
10-4	C-1 SB-12	深鉢	-	口縁部は外反し、端部は内折し厚壁とする。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。	3YR6/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子 良好	
10-5	C-1 SB-16	深鉢	-	1)縁部はやや内折し、端部は厚壁とする。 2)縁部は外方に開く。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。	5YR6/6暗褐色 砂粒含む 良好	
10-6	C-1 SB-5南	深鉢	-	1)縁部は外方に開く。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。縁部には逆彎刃突が残される。	7.5YR7/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子 良好	
10-7	C-1 J-11	深鉢	-	腹底は節込み、口縁部は直線的に開く。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。	7.5YR7/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子含む 良好	
10-8	C-1 SB-16	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は厚壁とする。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。	5YR6/6暗褐色 砂粒、白色粒子 良好	
10-9	C-1 SB-21	深鉢	-	口縁部は内湾する。	口縁部は無文で、腹部に複数隆起が1条ある。腹部は、朱漆文が略文	5YR6/6暗褐色 砂粒、白色粒子 良好	
10-10	C-1 SB-9	深鉢	-	口縁部は外方へ開き、端部は強く内折する。	口縁部は無文で、腹部に複数凹槽が1条ある。	5YR6/6暗褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
10-11	C-1 SB-1	深鉢	-	腹底は節込み、口縁部は外方へ開き、厚壁とする。	腹部は好みを施した複数が4条ある。	5YR6/6暗褐色 砂粒、良好、白色粒子含む 良好	
10-12	C-1 SB-20	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は強く内折する。	口縁部は無文を呈する。	10YR6/2灰褐色 黄紅、白色粒子、砂粒含む 良好	
10-13	C-1 SB-20	深鉢	-	口縁部は内折し、端部は厚壁とする。	口縁部は無文を呈する。	3YR6/6暗褐色 白色粒子、砂粒、雪似含む 良好	
10-14	C-1 SB-8	深鉢	-	波次山巻を呈し、内湾する。	波次山巻から複数凹槽が1条產生する。	2.5YR2/2暗褐色 黄紅、雪似、右斜文含む 良好	
10-15	C-1 SB-16	深鉢	-	1)縁部は内折し、端部は厚壁とする。 2)縁部は外方に開き、内側に突起がつく。	口縁部は無文を呈する。	5YR6/4C-1暗褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
11-1	C-1 SB-9	深鉢	-	口縁部は外方に開き、内側に突起がつく。	口縁部は半抜竹管状工具による複数文を施す。中心に隆起が見下さる。	7.5YR5/4C-1暗褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
11-2	C-1 SB-9	深鉢	-	1)縁部は外方に開き、内側に突起がつく。 2)縁部はやや内折し、端部は内折する。	口縁部は半抜竹管状工具による複数文を施す。波状隆起が見下さる。	5YR5/4C-1暗褐色 砂粒、良好、右斜文含む 良好	
11-3	C-1 SB-9	深鉢	-	以降部は外方に開き、内側に突起がつく。	口縁部は半抜竹管状工具による複数文を施す。	3.5YR4/2灰褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
11-4	C-1 SB-15	深鉢	-	口縁部は強く内湾する。	口縁部は半抜竹管状工具による斜行文を施す。端部を付ける。端部は縁部の複数文を地文に嵌入隆起が見下さる。	10YR7/4C-1暗褐色 黄紅、白色粒子含む 良好	
11-5	C-1 SB-12	深鉢	-	口縁部はやや内折し、端部は内折する。	口縁部は半抜竹管状工具による斜行文を施す。波状隆起が見下さる。	2.5YR5/6暗褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
11-6	C-1 SB-3	深鉢	-	1)縁部は外側に開き、端部は内折に屈曲する。	口縁部は半抜竹管状工具による斜行文を施す。波状隆起を呈下さる。	5YR6/6暗褐色 黄紅、白色粒子含む 良好	
11-7	C-1 K-11	深鉢	-	1)縁部は内折し、端部は強く内折する。	口縁部は半抜竹管状工具による斜行文を地文に縁部を付ける。端部に波状隆起が2条ある。	10YR5/2暗褐色 黄紅、白色粒子含む 良好	
11-8	C-1 SB-1	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は内折する。	口縁部は牛糞竹青状工具による斜行文を施す。	2.5YR5/4暗褐色 黄紅、雪似含む 良好	
11-9	C-1 SB-9	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は内折する。	口縁部は半抜竹管状工具による斜行文を施す。	5YR6/6暗褐色 白色粒子、雪似、砂粒含む 良好	

表6 純文土器観察表5

番号	測量区 測量	西傾	口縁 復原 の形	形態の特徴	括弧の仲間	色調 釉上 加成	備考
11-10	C-1 SB-9	深鉢	-	口縁部は外方に巻き、端部は内折する。底面は削らる。	口縁部は平底竹管状工具による斜行文を施し、頭部は被状器である。側面は被状状工具による縦線の条綱文を表す底面、人地文がつく。	10YR3/3に近い褐色 砂紋、石斑、雲母含む 良好	
11-11	C-1 SB-14	深鉢	-	口縁部は内折する。	口縁部は平底竹管状工具による斜行文を施す。	5YR1/2K褐色 白色粒子含む 良好	
11-12	C-1 SB-12	深鉢	-	口縁部は外方に巻き、端部は内折する。	口縁部は平底竹管状工具による斜行文を施す。	10YR8/3に近い褐色 黄泥、白粒子含む 良好	
12-1	C-1 SB-14	深鉢	-	やや膨らむ斜部。	側面が堅下する。	5YR6/5褐色 青泥、砂紋含む 良好	
12-2	C-1 SB-21	深鉢	-	外方に聞く斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に斜行帶が2条 帯下する。	5YR6/5褐色 砂紋、白色粒子含む 良好	
12-3	C-1 SB-14	深鉢	-	やや膨らむ斜部。	側面が堅下する。	10YR6/3Cに近い褐色 石斑、黄泥含む 良好	
12-4	C-1 SB-9	深鉢	-	外方に聞く斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に斜行帶が堅下する。	7.5YR6/6褐色 長石、白色粒子含む 良好	
12-5	C-1 SB-1	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文が堅下する。	5YR5/4Cに近い褐色 白色粒子、砂紋含む 良好	
12-6	C-1 SB-18	深鉢	-	膨らむ斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に斜行帶が堅下する。	7.5YR5/4に近い褐色 白色粒子、砂紋、雲母含む 良好	
12-7	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面が堅下する。	7.5YR3/2K褐色 長石、雲母含む 良好	
12-8	C-1 SB-5 Ⅲ	深鉢	-	外反する斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に斜行帶が堅下する。	5YR5/4に近い褐色 白色粒子、砂紋含む 良好	
12-9	C-1 SB-18	深鉢	-	外方に聞く斜部。	側面が堅下する。	5YR4/2K褐色 石斑、白色粒子含む 良好	
12-10	C-1 SH-20	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文が堅下になり、斜行帶がつく。	2.5YR6/6褐色 白色粒子、雲母含む 良好	
12-11	C-1 SB-18	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面工具による条綱文が堅下に施し、斜行帶、M字の堅帶が堅下する。	5YR6/4Cに近い褐色 長石、白色粒子含む 良好	
12-12	C-1 SH-6	深鉢	-	膨らむ斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に斜行帶が堅下する。	5YR6/6褐色 長石、砂紋含む 良好	
12-13	C-1 SH-16	深鉢	-	やや膨らむ斜部。	側面工具による条綱文を地文に斜行帶がつく。	5YR6/4Cに近い褐色 長石、白色粒子、砂紋含む 良好	
12-14	C-1 P-1443	深鉢	-	外方に聞く斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に被状強帶が堅下する。	2.5YR6/6褐色 白色粒子、砂紋含む 良好	
12-15	C-1 SH-18	深鉢	-	外反する斜部。	側面工具による条綱文を地文に斜行帶が2条 帯下する。	5YR6/6褐色 長石、雲母、白色粒子含む 良好	
12-16	C-1 L-10	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面工具による条綱文の条綱文を地文に斜行帶がつく。	7.5YR4/4Cに近い褐色 長石、雲母含む 良好	
12-17	C-1 SH-16	深鉢	-	やや膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文を地文に複斜彫形文を施した堅帶が堅下する。	10YR7/3に近い黄褐色 白色粒子、白色粒子含む 良好	
12-18	C-1 K-11	深鉢	-	斜部は直角を立てる。	側面工具による条綱文を地文に斜行帶が堅下し、入斜文が堅下する。	5YR4/3Cに近い褐色 雲母、白色粒子含む 良好	
12-19	C-1 SH-9	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文を地文に斜行帶がつく。	2.5YR6/6褐色 長石、砂紋、雲母含む 良好	
12-20	C-1 SB-9	深鉢	-	膨らむ斜部。	平底竹管状工具による斜行の条綱文を交叉する堅帶を堅行する。堅の条綱文に被状強帶がある。	5YR6/6褐色 砂紋、白色粒子、砂紋含む 良好	
12-21	C-1 K-11	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文を地文に被状強帶が堅下し、入斜文が堅下する。	5YR6/6褐色 長石、白色粒子、砂紋含む 良好	
12-22	C-1 H-9	深鉢	-	膨らむ斜部。	側面状工具による条綱文を地文に曲線的な斜 彫形文が堅下する。	5YR6/6褐色 白色粒子、石斑含む 良好	
12-23	C-1 SH-2	深鉢	-	斜部は整れ、口縁部は外方に聞く。	側面に1条の斜行帶がつく、斜部は条綱文を地文に 2条の斜行帶がつく。	10YR7/3に近い黄褐色 雲母、砂紋、白色粒子 良好	
13-1	C-1 SH-21	深鉢	-	膨らむ斜部。	平底竹管状工具による条綱文を地文に被状強帶が 2条。	7.5YR4/4Cに近い褐色 長石、砂紋、雲母含む 良好	
13-2	C-1 SH-16	深鉢	-	側面は枯れ、斜部はやや膨らむ。	口縁部は黒文で、斜部に被状強帶が高まる。ドリーム 貼付文が堅下する。	5YR4/3に近い褐色 白色粒子、砂紋含む 良好	
13-3	C-1 SB-15	深鉢	-	膨らむ斜部。	平底竹管状工具による化織、被状強帶が高まる。斜部 は平底竹管状工具による条綱文を地文に被状強帶が 堅下する。	7.5YR6/4褐色 長石、白色粒子含む 良好	

表 7 繩文土器観察表 6

番号	測定区 測量	面積	口徑 底径 厚さ	剖面の特徴	復元の特徴	色調 胎土 焼成	備考
13-4	C-1 SB-16	深鉢	-	脛らむ側部。	半纏竹質状工具による性端、腹接縫合が異なる。半纏竹質状工具による朱縞文を地文に施すが底下する。	3VR7/6褐色 砂綿、白色粒子含む 良好	
13-5	C-1 SB-9	深鉢	-	底部は粘れ、肩部はやや膨らむ。	底部には底接縫合がある。半纏竹質状工具による性端の朱縞文を地文に施すが底下する。	7.5VR6/4C-5H褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-6	C-1 SB-8	深鉢	-	底部は折れ、肩部はやや膨らむ。	底部と半纏竹質状工具による性端がある。底接縫合が通る。底部は青竹質状工具による朱縞文を地文に押引し施すが底下する。	2.5VR7/6褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-7	C-1 22号點石	深鉢	-	脣らむ側部。	底部は2つの溝の底接縫合が底下する。肩部は半纏竹質状工具による朱縞文を地文に施すが底下する。	10YR8/2褐色 石英、白色粒子含む 良好	
13-8	C-1 SB-9	深鉢	-	脣らむ側部。	肩上部は腰帶と底接縫合が交互に通る。半纏竹質状工具による朱縞文を地文に施すが底下する。	2.5VR6/4C-5H褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-9	C-1 SB-3	深鉢	-	脣らむ側部。	斜ト部と半纏竹質状工具による斜位の朱縞文が施される部位の朱縞文を地文に施すが底下する。2つの溝が開けられ、人字文が底下する。	7.5VR4/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-10	C-1 SB-14	深鉢	-	肩部はやや膨らむ。	底部間に底接縫合が5条ある。	2.5VR6/4褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-11	C-1 SB-1	深鉢	-	脣らむ側部。	底部と底接縫合が交互に通る。半纏竹質状工具による朱縞文を地文に施すが底下する。	7.5VR6/4褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-12	C-1 SB-6	深鉢	-	やや外反する肩部。	底接縫合が6条ある。底部に半纏竹質状工具による朱縞文を押引し施すが底下する。	10YR8/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-13	C-1 SB-18	深鉢	-	やや外反する肩部。	円錐形の朱縞文で、脣接縫合が2条ある。肩部には半纏竹質状工具による朱縞文を地文に施すが底下する。	3VR7/6褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-14	C-1 SB-1	深鉢	-	脣らむ側部。	底接縫合が6条ある。半纏竹質状工具による朱縞文を押引し施すが底下する。	5VR4/4C-5H褐色 良石、石英、白色粒子含む 良好	
13-15	C-1 SB-1	深鉢	-	底部は折れ、肩部は膨らむ。	底接縫合が6条ある。半纏竹質状工具による朱縞文を押引し施すが底下する。	5VR4/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
13-16	C-1 K-13	深鉢	-	やや膨らむ側部。	肩上部は底接縫合が3条ある。底部に半纏竹質状工具による朱縞文が底下する。	10YR6/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-1	C-1 SB-21	深鉢	-	脣部は斜位の腰帶を貼付する。	半纏竹質状工具による斜位の腰帶を貼付する。	7.5VR6/4褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-2	C-1 SB-16	深鉢	-	脣らむ側部。	半纏竹質状工具による斜位の腰帶を貼付するが底下する。人字文を底下させる。	7.5VR4/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-3	C-1 SB-9	深鉢	-	やや膨らむ側部。	半纏竹質状工具による斜位の腰帶を貼付する。底部には半纏竹質状工具による斜位の腰帶が底下する。	7.5VR3/2C褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-4	C-1 SB-12	深鉢	-	脣らむ側部。	半纏竹質状工具による斜位の腰帶を貼付し、底接縫合が底下する。	7.5VR6/4褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-5	C-1 SB-7	深鉢	-	脣らむ側部。	斜位の半纏竹質状工具による朱縞文を底下する腰帶を貼付し、底接縫合が底下する。	7.5VR4/2褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-6	C-1 SB-3	深鉢	-	外方に聞く側部。	半纏竹質状工具による斜位の腰帶を底接縫合を貼付し、底接縫合が底下する。	7.5VR6/4褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-7	C-1 SB-1	深鉢	-	脣らむ側部。	肩上部は斜位の腰帶を貼付し、半纏竹質状工具による朱縞文を底下させる。	7.5VR6/6褐色 砂綿、白色粒子含む 良好	
14-8	C-1 SB-9	深鉢	-	外方に聞く側部。	斜位斜辺に腰帶を貼付し、斜辺の入った断面-三角形の腰帶が底下する。	5VR6/4C-5H褐色 砂綿、白色粒子含む 良好	
14-9	C-1 SB-18	深鉢	-	肩部を呈する。	斜位斜辺に腰帶を貼付し斜辺の腰帶を底下させる。	5VR6/4C-5H褐色 良石、砂綿、白色粒子含む 良好	
14-10	C-1 SB-6	深鉢	-	肩状を呈し、脣らむ側部。	腰帶を貼付し斜位斜辺を呈する。斜位の腰帶が底下する。	7.5VR6/4C-5H褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-11	C-1 SB-14	深鉢	-	底部は丸める。	底部は半纏竹質状工具による斜位斜辺を施し、斜位斜辺の朱縞文を底下する。	7.5VR6/8褐色 良石、白色粒子含む 良好	
14-12	C-1 SB-18	深鉢	-	脣らむ側部。G484	底接縫合が底位にあり、朱縞文がつく。	7.5VR6/4C-5H褐色 良石、砂綿、白色粒子含む 良好	
15-1	C-1 SB-14	深鉢	-	外方に聞く側部。	斜位の腰帶が底下し、腰帶による人字文が底下する。	5VR5/3C褐色 良石、白色粒子含む 良好	
15-2	C-1 L-10	深鉢	-	外方に聞く側部。	斜位の腰帶が底下し、腰帶による人字文が底下する。	5VR5/3C褐色 良石、白色粒子含む 良好	
15-3	C-1 SB-12	深鉢	-	脣らむ側部。	半纏竹質状工具による朱縞文を地文に底接縫合、人字文が底下する。	7.5VR6/4C-5H褐色 良石、白色粒子含む 良好	
15-4	C-1 SB-18	深鉢	-	やや膨らむ側部。	半纏竹質状工具による朱縞文を地文に底接縫合、腰帶が底下する。	7.5VR6/4C-5H褐色 良石、白色粒子含む 良好	

表8 繩文土器觀察表7

番号	測定区 道場	基盤	口径 底径 高さ	形態の特徴	復元の特徴	色調 底土 構成	備考
15- 5	C - 1 SB - 6	深鉢	-	外反する脚部。	脚部は波状縫合部が施下し、脚部による入網文が施下する。	7.5YR6/1黒褐色 黄石、白色粒子含む 良好	
15- 6	C - 1 SB - 9	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合が施される。波状縫合部が施下する。	7.5YR6/1黒褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
15- 7	C - 1 SB - 2	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文に波状縫合部が施下する。	10YR4/1灰褐色 長石、砂粒、黃褐色含む 良好	
15- 8	C - 1 SB - 12	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	脚部は「基による条縫文に波状縫合部が施下する。	7.5YR7/1灰褐色 長石、砂粒、黃褐色含む 良好	
15- 9	C - 1 J - 9	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文に縫合部が施下する。	7.5YR7/1灰褐色 長石、砂粒、黃褐色含む 良好	
15-10	C - 1 SB - 2	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文に縫合部が施下する。3本の縫合脚部に波状縫合部が施下する。	7.5YR7/1灰褐色 長石、砂粒、黃褐色含む 良好	
15-11	C - 1 SB - 9	深鉢	-	脚部を屈する。	脚部は、波状縫合部が2重過る。半纏竹管状工具による脚部の条縫文と縫合部に波状縫合部が施下する。	10YR7/1灰褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
15-12	C - 1 SB - 16	深鉢	-	脚上部で膨らむ。	脚上部は波状縫合部が2重過る。円形の附火文がつき、縫合部による弦文が施される。脚下部はじょうせん。	SYR5/6/1灰褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
15-13	C - 1 SB - 16	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部に波状縫合部が施下する。	SYR5/6/1灰褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
15-14	C - 1 K - 10	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	脚部は「基による条縫文に波状縫合部、入網文がある。	SYR5/6/1灰褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
15-15	C - 1 SB - 15	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	縫合部が付され、縫合部工具による条縫文が施される。	SYR5/6/1灰褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
15-16	C - 1 SB - 6	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚部に縫合部が施付され、縫合部工具による条縫文が施される。	10YR7/2灰褐色 長石、白色粒子含む 良好	
15-17	C - 1 SB - 18	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施下する。	10YR7/2灰褐色 白色粒子、黃褐色 良好	
15-18	C - 1 SB - 1	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文に左方に張り出す脚部が施下する。	SYR5/6/1灰褐色 長石、白色粒子含む 良好	
15-19	C - 1 SB - 6	深鉢	-	膨らむ脚部。	脚部は「基による条縫文を地文に縫合部が施付される。	SYR5/6/1灰褐色 白色粒子含む 良好	
15-20	C - 1 SB - 9	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施下する。	SYR5/6/1灰褐色 白色粒子、黃褐色 良好	
15-21	C - 1 SB - 14	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施付される。	7.5YR7/1灰褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
15-22	C - 1 SB - 9	深鉢	-	膨らむ脚部。	脚部は「基による条縫文を地文に縫合部が施下する。	10YR7/2灰褐色 長石、白色粒子含む 良好	
15-23	C - 1 SB - 9	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施付される。	7.5YR7/1灰褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
15-24	C - 1 J - 11	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文に右方に張り出す脚部が施下する。	10YR7/2灰褐色 白の粒子、黃褐色 良好	
15-25	C - 1 SB - 18	深鉢	-	膨らむ脚部。	脚部は「基による条縫文を地文に縫合部が施付される。	SYR5/6/1灰褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
15-26	C - 1 J - 11	深鉢	-	脚部は折れ、脚部下半で膨らむ。	脚上部は半纏竹管状工具による押引文、縫合部がつく。下部は「半纏竹管状工具による条縫文が施下する。	7.5YR7/1灰褐色 長石、砂粒含む 良好	
15-27	C - 1 SR - 15	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施付される。	7.5YR7/4/1-2灰褐色 黑色粒子含む 良好	
15-28	C - 1 SB - 7	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施付される。	2.5YR4/1灰褐色 長石、砂粒含む 良好	
15-29	C - 1 SB - 18	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文にM字状の縫合部が施下する。	10YR6/1灰褐色 長石、(黄)米色含む 良好	
15-30	C - 1 I - 11	深鉢	-	外方に聞く脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施下する。	10YR6/1灰褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
15-31	C - 1 K - 13	深鉢	-	膨らむ脚部。	半纏竹管状工具による条縫文を地文に縫合部が施付される。	SYR5/6/1灰褐色 長石、砂粒含む 良好	
15-32	C - 1 I - 11	深鉢	-	膨らむ脚部。	脚部による条縫文を地文に施付される。縫合の縫合部が施付される。	SYR5/6/1灰褐色 石英、白色粒子含む 良好	
15-33	C - 1 SB - 2	深鉢	-	膨らむ脚部。	脚部は半纏竹管状工具による縫合と押引文が交互に施される。	SYR5/6/1灰褐色 砂粒、長石、黃褐色含む 良好	

表 9 繩文土器觀察表 8

番号	表面 調査 状況	基盤	口沿 周辺 状況	形態の特徴	技術的特徴	色調 鉛土 類似	備考
16- 20	C - 1 SB - 7	深鉢	-	側面は削らむ。	側面部は手縄竹包工具による成形が横筋に通り、溝筋が残す。側下面は鋸歯の沈底が施下する。	7.5YR5/6明赤褐色 黄土、表面白色子含む 良好	
16- 21	C - 1 SB - 7	深鉢	-	盛らむ側部。	側面は摺曲工具による柔軟な地文を地文に施帶が施す。	5YR2/3赤褐色 黄土、表面含む 良好	
16- 22	C - 1 H - 10	深鉢	-	外方に更く側部。	側面は地文で地文に施帶が施付される。	5YR6/4C-1D暗褐色 黄土、白色粒子含む 良好	
17- 1	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は内折す。	RL地文を地文に施帶が施下する。	7.5YR5/3C-1D暗褐色 砂粒、黄土、白色粒子含む 良好	
17- 2	C - 1 SB - 9	深鉢	-	口縁部は外方に開く。	RL地文を地文に施帶、波状隆起が施下する。	7.5YR7/3褐色 黄土、重屈、砂粒含む 良好	
17- 3	C - 1 SB - 20	深鉢	-	盛らむ側部。	LR地文を地文に施帶がつく。	10YR7/4C-1D暗褐色 砂粒、白色粒子、表面含む 良好	
17- 4	C - 1 SB - 15	深鉢	-	口縁部は外方に開き、端部は内折す。	RL地文を地文にじ平状の隆起が絆部に施下する。	7.5YR6/1C-1D暗褐色 黄土、白色粒子、表面含む 良好	
17- 5	C - 1 SB - 16	深鉢	-	側面は盛らむ。	RL地文を地文とし、波状隆起が施下する。	2.5YR6/0明赤褐色 黄土、表面、砂粒含む 良好	
17- 6	C - 1 SB - 9	深鉢	-	やや盛らむ側部。	LR地文を地文に施帶が施す。	5YR4/3D-1E小褐色 黄土、白色粒子、表面含む 良好	
17- 7	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外折する側部。	LR地文を地文に波状隆起が施下する。	3YR6/4C-1D暗褐色 黄土、重屈、砂粒含む 良好	
17- 8	C - 1 N - 14	深鉢	-	外方に開く側部。	LR地文を地文に施帶が施下する。	7.5YR7/4C-1D暗褐色 黄土、重屈、砂粒含む 良好	
17- 9	C - 1 SB - 9	深鉢	-	外方に開く側部。	LR地文を地文に波状隆起、波状状の隆起が施下する。	7.5YR5/3E暗褐色 黄土、白色粒子含む 良好	
17- 10	C - 1 SB - 16	深鉢	-	側面は盛らむ。	RL地文を地文に波状隆起、2本1単位の隆起が施下する。	2.5YR6/6褐色 黄土、砂粒、表面含む 良好	
17- 11	C - 1 SB - 2	深鉢	-	側面は盛らむ。	LR地文を地文に波状隆起が施下する。	5YR6/4C-1D暗褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
17- 12	C - 1 SB - 7	深鉢	-	側面は盛らむ。	LR地文を地文に波状隆起が施下する。	5YR2/3D-1E赤褐色 黄土、砂粒含む 良好	
17- 13	C - 1 M - 13	深鉢	-	側面は盛らむ。	LR地文を地文に波状隆起が通り、底部が垂下する。	7.5YR6/6褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
17- 14	C - 1 SB - 16	深鉢	-	側面は盛らむ。	LR地文を地文に波状隆起が通り、J字文がつく。	7.5YR6/6褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
17- 15	C - 1 SB - 16	深鉢	-	外方に開く側部。	地文を地文に波状隆起が通り、垂下する。	2.5YR5/3E暗褐色 黄土、石炭、砂粒含む 良好	
17- 16	C - 1 SB - 13	深鉢	-	外方に開く側部。	RL地文を地文に波状隆起が施下する。	7.5YR6/6暗褐色 黄土、白色粒子含む 良好	
17- 17	C - 1 SB - 16	深鉢	-	側面は盛らむ。	RL地文を地文に波状隆起が横筋、段階につく。	5YR6/4C-1D暗褐色 長筋、雷筋、砂粒含む 良好	
17- 18	C - 1 J - 9	深鉢	-	筋形を示す。	LR地文を地文に施帶状の突起波状筋が施下する。	5YR6/4C-1D暗褐色 黄土、砂粒、石炭含む 良好	
18- 1	C - 1 SB - 9	深鉢	-	盛らむ側部。	結果RL地文が施される。	5YR5/4C-1D暗褐色 黄土、白色粒子、表面含む 良好	
18- 2	C - 1 SB - 9	深鉢	-	盛らむ側部。	結果LR地文が施される。	3YNG6/4C-1D暗褐色 黄土、白色粒子、表面含む 良好	
18- 3	C - 1 SB - 9	深鉢	-	盛らむ側部。	結果LR地文が施される。	7.5YR4/3褐色 黄土、白色粒子、表面含む 良好	
18- 4	C - 1 H - 11	深鉢	-	盛らむ側部。	結果RL地文が施される。	5YR4/4C-1D暗褐色 白色粒子含む 良好	
18- 5	C - 1 SB - 14	深鉢	-	口縁部は内折し、地部は丸く收める。	LR地文が施され、波状波紋が施下する。	10YR4/6C-1D暗褐色 黄土、砂粒含む 良好	
18- 6	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は内折し、地部は丸く收める。	LR地文が施され。	7.5YR4/3褐色 黄土、表面含む 良好	
18- 7	C - 1 SB - 12	深鉢	-	地部は削れ、側部は盛らむ。	LR地文を地文に波状波紋が施下する。	7.5YR5/3C-1D暗褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
18- 8	C - 1 SB - 2	深鉢	-	直線的にたり上がる側部。	口縁部にLR地文を施し、1条の刻縞筋が施す。	10YR7/3C-1D暗褐色 砂粒含む 良好	

表10 繩文土器觀察表9

番号	表面状況	形態	形態の特徴	技術的特徴	色調 胎土 焼成	備考	
18-9	C-1 SB-1	深鉢	-	直縁部に立ち上がり、口縁部はやや内凹する。	口縁部にRL繩文を施し、1条の側面帯が通り、单下す。	10YR7/3C-3D-3黄褐色 砂粒、白色合む 良好	
18-10	C-1 SB-1	深鉢	-	縁部はぼれ、底部は削らむ。	縁部は地面上にRL繩文を施し、比較的よく乳突文がつく。側面には側面帯が2条つく。	10YR6/4C-3D-3黄褐色 砂粒合む 良好	
18-11	C-1 SB-1	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。LR繩文を施文とする。	7.5YR6/6D-3褐色 底石、石英、白色合む 良好	
18-12	C-1 J-11	深鉢	-	口縁部は外方に開く。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。LR繩文を施文とする。	7.5YR2/3C-3D-3黄褐色 良好、白色合む 良好	
18-13	C-1 SB-9	深鉢	-	口縁部は外方に開く。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。LR繩文を施文とする。	7.5YR6/4C-3D-3黄褐色 良好、白色合む 良好	
18-14	C-1 J-10	深鉢	-	口縁部にやや内凹する。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。横状工具による側面文を施文とする。	5YR6/6D-3褐色 白色粒子、砂粒、白色合む 良好	
18-15	C-1 SB-15	深鉢	-	口縁部はやや内凹する。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。横状工具による側面文を地文とする。	5YR6/3C-3D-3黄褐色 砂粒、白色合む 良好	
18-16	C-1 K-10	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。LR繩文を施文とする。	5YR5/3C-3D-3黄褐色 底石、白色、石英、砂粒合む 良好	
18-17	C-1 SB-10	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部に横状工具による側面文が2条ある。横状工具による側面文を地文とする。	2.5YR6/6D-3褐色 底石、白色合む 良好	
18-18	C-1 SB-18	深鉢	-	口縁部は内凹し、済狀する。	地文にRL繩文を施す。	10YR6/2C-3D-3黄褐色 良好、白色合む 良好	
18-19	C-1 G-9	深鉢	-	横状口縁を有する。	地文にRL繩文を施す。	10YR5/3C-3D-3黄褐色 砂粒、白色合む 良好	
18-20	C-1 SB-9	深鉢	-	横状口縁を呈する。	LR繩文を施す。	7.5YR6/6D-3褐色 砂粒、白色合む 良好	
18-21	C-1 SB-12	深鉢	-	口縁部は内凹する。	LR繩文を施す。	2.5YR6/3C-3D-3黄褐色 砂粒合む 良好	
18-22	C-1 SB-29	深鉢	-	口縁部は外反する。	RL繩文を施す。	10YR6/3C-3D-3黄褐色 良好、白色合む 良好	
18-23	C-1 SB-15	深鉢	-	口縁部は外方に開く。	RL繩文を施す。	5YR6/4C-3D-3褐色 白色粒子、砂粒合む 良好	
18-24	C-1 SB-1	深鉢	-	外方に開く開拓。	外面はLR繩文を施す。口縁部内面では縁部の施洗痕がつく。	7.5YR6/3C-3D-3黄褐色 良好、白色合む 良好	
19-1	C-1 I-11	深鉢	(23.0)	波状口縁を呈する。側部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部は波状し、波状の側面文による文字文がつき横S字文がある。底部はくぼみに側面文を形成する。側面は波状文を呈す。	5YR6/4C-3D-3黄褐色 底石、石英含む 良好	
19-2	C-2 SH-24 標準	深鉢	33.2	波状口縁を呈する。側部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部は波状し、側部は丸がたれた円を施す。横S字文がある。側部は側面文による斜面の側面文を地文とし、側面と底面による側面文が形成される。	7.5YR6/4C-3D-3褐色 底石、石英、白色合む 良好	
19-3	C-1 SB-13	深鉢	39.3 10.3 19.6	脇部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部は波状と側部による側面文による文字文がつく。側部の横S字文がある。側部は側面文による斜面の側面文を地文とし、側面と底面による側面文が形成される。	7.5YR6/4C-3D-3褐色 底石、石英含む 良好	
19-4	C-1 SB-8 標準	深鉢	(9.4)	脇部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部は波状し、側部は丸がたれた円を施す。横S字文がある。側部は側面文による斜面の側面文を地文とし、側面と底面による側面文が形成される。	7.5YR6/3C-3D-3褐色 底石、石英含む 良好	
19-5	C-1 SB-10	深鉢	35.3	脇部はやや膨らみ、底部は欠損。	横S字文による底面の側面文を地文に次段と横S字文による側面文が施される。	3YR4/2C-3褐色 底石、石英、白色合む 良好	
20-1	C-1 H-10	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は肥厚で、横状工具による円文が施され、側部は側面文による底面の側面文が施される。	7.5YR6/4C-3D-3褐色 白色粒子、石英含む 良好	
20-2	C-1 SB-13	深鉢	-	外方に開く口縁部で、底部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による円文がつく。	10YR4/1C-3褐色 白色粒子、砂粒、白色合む 良好	
20-3	C-1 SB-14	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による内文、底面部には逆S字文がつく。	2.5YR6/4C-3D-3黄褐色 白色粒子、石英、白色合む 良好	
20-4	C-1 II-10	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による円文がつく。	7.5YR6/3C-3D-3褐色 良好、白色合む 良好	
20-5	C-1 SB-12	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による円文がつく。	3YR5/0C-3D-3褐色 底石、石英、砂粒合む 良好	
20-6	C-1 SH-2	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による内文、底面部には逆S字文がつく。	7.5YR4/3C-3褐色 底石、砂粒、白色合む 良好	
20-7	C-1 SB-8	深鉢	-	底部に横文を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による円文、底面部には逆S字文がつく。	7.5YR6/4C-3D-3褐色 白色粒子、底面合む 良好	
20-8	C-1 SB-8	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は内凹する。	口縁部は底面で、1条の沈縫が通り、横状工具による円文、底面部には逆S字文がつく。	7.5YR6/3C-3褐色 砂粒、底石、白色合む 良好	

表11 繩文土器観察表10

番号	断面 造形	断面 形状	口唇 形状 基部	形態の特徴	算出の特徴	色調 胎土 表面	備考
29-9	C-1 SB-2	深鉢	-	底状口縁を呈し、口唇部は内凹する。	口縁部は厚壁型で、1条の沈線があり、棒状工具による彫り、表記形に幾何文がつく。	SYR6/1赤褐色 白色粒子、砂粒、石英含む 良好	
29-10	C-1 G-10	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部は肥厚型で、1条の沈線があり、棒状工具による彫り文字がつく。	SYR6/1赤褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
29-11	C-1 SH-13	深鉢	-	波状口縁を呈する。	口縁部は肥厚型で、棒状工具による彫り文字がつく。	SYR6/1赤褐色 砂粒、灰石、白色粒子含む 良好	
29-12	C-1 SH-13	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は肥厚型で、棒状工具による彫り文字がつく。	2.5SYR6/1黄褐色 白色粒子、砂粒、石英含む 良好	
29-13	C-1 N-5	深鉢	-	波状口縁を呈する。	口縁部は肥厚型で、棒状工具による彫り文字がつく。	7.5YN6/4C-1赤褐色 砂粒、灰石、白色粒子含む 良好	
29-14	B-2 SX-01	深鉢	-	波状口縁を呈し、口唇部は内凹する。	口縁部は肥厚型で、波状頂部が孔がつく。	7.5YN6/4C-1赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-15	C-1 I-11	深鉢	-	波状口縁を呈し、口唇部は内凹する。	口縁部は肥厚型で、波状頂部は弦紋による目文がまづつく。	7.5YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
29-16	C-1 I-11	深鉢	-	波状口縁を呈し、口唇部は内凹する。	口縁部は肥厚型で、波状頂部が孔がつく。跡端は櫛状の横筋状工具による彫り文で波状凹凸文が盛り下す。	7.5YN6/4C-1赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-17	C-1 J-9	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は波状凹凸文で、波状頂部が弦紋による目文がまづつく。	7.5YR6/3C-1赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-18	C-1 17号配石	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部は波状凹凸文で、棒状工具による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	10YR5/3C-5赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
29-19	C-1 I-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は波状凹凸文による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。跡端は波状凹凸文で波状凹凸文が盛り下す。	7.5YN6/4C-1赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-20	C-1 I-10	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/4C-1赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-21	C-1 SH-11	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-22	C-1 H-6	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は陰唇と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-23	C-1 I-10	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。跡端は波状凹凸文で波状凹凸文が盛り下す。	7.5YR6/3C-5赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-24	C-1 SH-12	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、石英、重鉛青含む 良好	
29-25	C-1 SH-9,9	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	2.5YR6/3C-5赤褐色 砂粒、石英含む 良好	
29-26	C-1 L-13	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/3C-5赤褐色 灰石、砂粒、石英含む 良好	
29-27	C-1 J-13	深鉢	-	波状口縁を呈する。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/4C-1赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-28	C-1 SH-12	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	10YR6/3C-5赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-29	C-1 K-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	2.5YR6/3C-5赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
29-30	C-1 L-11	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/3C-5赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	
29-31	C-1 SH-10	深鉢	(23.9) (6.5) (36.0)	口縁部はやや内凹する口縁部。	口縁部は波状と斜面による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	SYR6/1赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
29-32	C-1 SH-11	深鉢	36.7 8.7 32.6	口縁部はやや膨らみ、口縁部は外に向く。	棒状工具による彫り文を地文に波状と斜面による彫り文がつく。	7.5YR6/3C-5赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-33	C-1 SH-14	深鉢	29.4 7.8 35.6	剥離はやや膨らみ、口縁部は外に向く。	口縁部は剥離と斜面による目文による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/3C-5赤褐色 灰石、石英含む 良好	
29-34	C-1 SH-5	深鉢	-	剥離はやや膨らみ、口縁部は外に向く。	棒状工具による彫り文を地文に波状と斜面による彫り文がつく。	2.5YR6/4C-1赤褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
29-35	C-2 SB-1	深鉢	(22.1) (8.8) (42.5)	剥離はやや膨らみ、口縁部は外に向く。	口縁部は棒状工具による目文による彫り文が盛り、棒状工具による目文が刻まれる。	7.5YR6/3M赤褐色 白色粒子、石英含む 良好	

表12 繩文土器観察表11

番号	縄目区 域名	器種	上縄 底縄 器部	持手の特徴	技法の特徴	色調 形状 構成	備考
23-1	C-1 SB-8	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部に1条の沈縫がある。彌帶と底縫による底面内には垂直状工具による系縫文がつく。	7.5YR5/3K褐色 共石、白色粒子、垂母含む 良好	
23-2	C-1 SB-10	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部に1条の沈縫がある。彌帶と底縫による底面内には垂直状工具による系縫文がつく。	5YR5/4K褐色 共石、白色粒子、垂母含む 良好	
23-3	C-1 SB-14	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	口縁部に1条の沈縫がある。彌帶と底縫による底面内には垂直状工具による系縫文がつく。	3YR6/4K褐色 共石、垂母 良好	
23-4	C-1 SB-14	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR5/3C-5K褐色 良石、砂粒、石英含む 良好	
23-5	C-1 J-9	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR6/4C-5K褐色 白介粒子、石英含む 良好	
23-6	C-1 SB-13	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	2.5YR6/6褐色 砂粒、砂、垂母含む 良好	
23-7	C-1 J-9	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR5/4C-5K褐色 砂粒、砂、石英含む 良好	
23-8	C-1 2号灰土石灰	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	3YR6/4K褐色 砂粒、白色粒子、石英含む 良好	
23-9	C-1 SB-10	深鉢	-	膨らむ脚部、脚部は膨らむ。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	10YR6/4C-5K褐色 白色粒子、良石、垂母含む 良好	
23-10	C-1 SB-14	深鉢	-	口縁部は外側に向く。	口縁部は無縫を形成し、彌帶と底縫による底縫文を施す。縦縫の垂直状工具による系縫文がつく。	7.5YR5/4K褐色 白色粒子、垂母含む 良好	
23-11	C-1 J-10	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR5/4K褐色 白色粒子、石英含む 良好	
23-12	C-1 H-10	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	10YR5/4C-5K褐色 良石、砂、垂母含む 良好	
23-13	C-1 SB-8	深鉢	-	外方に開く脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR5/4K褐色 白色粒子、砂合む 良好	
23-14	C-1 SB-14	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	3YR6/6褐色 良石、砂、垂母含む 良好	
23-15	C-1 SD-5	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	7.5YR6/4C-5K褐色 良石、白色粒子、石英含む 良好	
23-16	C-1 SD-14	深鉢	-	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	3YR4/2K褐色 良石、(良)、砂、垂母含む 良好	
23-17	C-1 SB-13	深鉢	(38.0)	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	5YR6/4K褐色 良石、白色粒子、垂母含む 良好	
23-18	C-1 SB-15	深鉢	(27.6)	膨らむ脚部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	10YR5/4K褐色 良石、白色粒子、垂母含む 良好	
23-19	C-1 SB-8	深鉢	-	やや外反する口縁部。	彌帶と底縫による底面内には部位の垂直状工具による系縫文が施される。	10YR5/4K褐色 砂粒、白色粒子、石英含む 良好	
24-1	C-1 SB-16	深鉢	(38.0)	脚部は膨らみ、口縁部は外に向く。	口縁部は底縫文にX字形字がついた。彌縫状工具による縫縫の垂直状工具を底縫と底縫による彌縫で構成される。	7.5YR5/4K褐色 良石、石英、垂母含む 良好	
24-2	C-1 SB-14	深鉢	(27.6)	脚部は膨らみ口縁部は外に向く。 口縁部は底縫と底縫を呈する。	I字縫は膨らむ直縫にはS字縫、底縫文字が施る。脚部は斜縫の底縫文字を呈し、日笠形直縫に底縫された内部の中央には平行縫縫が施す。	10YR4/4K褐色 良石、(良)、砂、垂母含む 良好	
24-3	C-1 SB-23	深鉢	(16.7) (24.2)	脚部は膨らみ、口縫部は外に向く。	I字縫は斜縫と底縫文字が施す。底縫文字がぐく、脚部は斜縫状工具による縫縫の垂直状工具を底縫に底縫が施す。	2.5YR4/3C-5K褐色 良石、(良)、砂合む 良好	
24-4	C-1 SB-16	深鉢	--	外へ開く口縁部。	I字縫は底縫による底縫つなぎ底縫が施る。底縫を地とし、底縫内の中央に平行縫縫が施す。	5YR6/2K褐色 白色粒子、垂母含む 良好	
24-5	C-1 SB-10	深鉢	(25.4)	中や内凹する口縁部。	口縁部は底縫による底縫つなぎ底縫が施す。底縫を地とする。	7.5YR5/3K褐色 良石、石英含む 良好	
25-1	C-1 H-11	深鉢	25.7	I字縫はやや内に外反する。	口縫部に1条の沈縫が施り、底縫つなぎ底縫文字が施す。底縫文字とその下に並ぶ斜縫状工具による縫縫を底縫に底縫が施す。	3YR5/4C-5K褐色 良石、(良)、砂合む 良好	
25-2	C-1 SB-10	深鉢	(24.2)	I字縫部は外反する。	口縫部は1条の沈縫が施り、地縫つなぎ底縫文字が施す。その底縫文字から左側から1差縫だ。底縫内には斜縫の底縫文字を平行縫縫文中下する。	2.5YR4/4K褐色 良石、(良)、砂、垂母含む 良好	
25-3	C-1 SB-10	深鉢	(32.3) (9.4) (23.0)	底縫はやや膨らみ、脚部は外反する。	I字縫は1条の沈縫が施す。底縫文字と右側から横縫3本、舟形直縫文字を呈する。底縫内には斜縫の底縫文字を平行縫縫文中下する。	7.5YR4/2K褐色 良石、(良)、砂含む 良好	
25-4	C-1 SB-11	深鉢	31.3 8.1 34.8	底縫から垂母から膨らみ、脚部は外反する。	口縫部に1条の沈縫が施す。その下に舟形直縫の脚部を底縫に底縫が施す。舟形直縫とその下に舟形直縫を呈し、中央には平行縫縫の底縫が施す。	7.5YR5/2K褐色 良石、(良)、砂合む 良好	
25-5	C-2 SB-22	深鉢	(34.0)	I字縫部は外反する。	口縫部に1条の沈縫が施す。舟形直縫とその下に舟形直縫の脚部には舟形直縫を呈し、中央には平行縫縫の底縫が施す。	5YR4/3K褐色 良石、(良)、砂合む 良好	

表13 繩文土器観察表12

番号	調査区 遺構	断面	口径 底径 高さ	形態の特徴	技術の特徴	色調 胎土 焼成	備考
25-6	C-1 SB-5	深鉢	(24.5) (9.0) (29.5)	底部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施される。内部は側位の継縫多綱文が中央には蛇行比縫文が施されている。	7.5YR4/1灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
26-1	C-1 II1号埋	深鉢	(7.2)	底部からゆるやかに膨らみ、腹部はやや強く外れる。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、その内側に2本の斜下する溝筋によって区间隔された内部は側位の継縫多綱文を施す。中央には蛇行比縫文が施す。	SYR4/10灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
26-2	C-1 SB-1	深鉢	7.9	腹部からゆるやかに膨らみ、腹部はやや強く外れる。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、その内側に2本の斜下する溝筋によって区间隔された内部は側位の継縫多綱文を施す。中央には蛇行比縫文が施す。	SYR4/6C灰褐色 黄石、砂利含む 焼成	
26-3	C-2 SH-22 埋蔵	深鉢	(25.2) 6.4 31.6	底部からやや膨らみながら立ち上がり、腹部はややくびれる。口縁部は外反する。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、内部は側位の工具による継縫状の条縫文を施す。中央には蛇行比縫文が施す。	7.5YR4/1灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
26-4	C-1 SB-10	深鉢	(18.5)	腹部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、内部は側位の工具による継縫状の条縫文を施す。	SYR4/3C灰褐色 黄石、砂利含む 焼成	
26-5	C-2 SB-22	深鉢	(18.4) 6.1 21.6	底部からやや膨らみながら立ち上がり、腹部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、内部は側位の工具による継縫状の条縫文を施す。	7.5YR4/2B灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
26-6	C-1 SH-14	深鉢	(31.0)	口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部に1条の沈縫が並り。口字状の彌縫文が施され、内部は側位の工具による継縫状の条縫文を施す。	7.5YR4/1灰褐色 黄石、貝壳含む 焼成	
26-7	C-1 3号配石	深鉢	26.0 8.2 28.7	腹部からハの字に開く。	口縁部に1条の沈縫が並る。口字状の区画内には継縫状の条縫文が施され、中央にはゆるやかに蛇行比縫文が施す。	10YR5/2D灰褐色 石炭、贝壳含む 焼成	
27-1	C-1 SB-23	深鉢	39.1	腹部からやや膨らみ、口縁部は外反する。底状口縫	底状口縫下には横筋が施し、縦縫部で十字状に区画される。区画内には継縫状の条縫文が施される。	SYR4/2灰褐色 黄石、石英、雲母含む 焼成	
27-2	C-1 SB-14	深鉢	-	腹部はやや膨らむ。腹部のくびれは低い。	腹筋の条縫が強され、蛇行比縫が本施される。	2.5YR5/1B灰褐色 黄石、石英、雲母含む 焼成	
27-3	C-1 G-8	深鉢	8.9	腹部はやや膨らむ。	側位工具による条縫文を地衣に施錆による區画がされ、中央に蛇行比縫文が施す。	SYR5/4C灰褐色 貝壳、石英含む 焼成	
27-4	C-1 SH-10	深鉢	18.1 7.9 20.6	腹部のくびれは弱く外反する。	II1底に1条の沈縫が並り、底部から削離下に解錆の跡が施される。蛇行比縫が本施している。	SYR5/4C灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
27-5	C-1 N-15	深鉢	18.7	ハの字に開く。	2本の彌縫文で区画された内部は焼成彌縫文、側縫文が施される。	2.5YR5/1B灰褐色 黄石、石英、雲母含む 焼成	
27-6	C-1 SH-10	深鉢	18.2 7.0 18.6	底部から腰をかに立ち上がり、腹部は外反する。	口縁部に1条の沈縫が並る。継縫状の条縫文が施され、蛇行比縫文が4重巻で施している。	SYR5/4C灰褐色 黄石、石英、砂利含む 焼成	
28-1	C-2 SH-27	深鉢	(39.1)	底状口縫を呈する。	縦縫状工具による条縫文が側位に施され、縦帶で帯字状の条縫文が施される。	SYR4/2B灰褐色 黄石、石英、雲母含む 焼成	
28-2	C-1 SH-14	深鉢	-	やや膨らむ側縫。	底状口縫工具による条縫文が壁位に施され、蛇行比縫文が施す。	2.5YR5/1B灰褐色 黄石、石英、雲母含む 焼成	
28-3	C-1 SB-11	深鉢	8.9	底部から西縫に広がる。	2本の沈縫で区画された内部は4本1単位の側縫状工具による条縫文が施される。	SYR5/4C灰褐色 貝壳、石英含む 焼成	
28-4	C-1 SB-16	深鉢	8.5	底部からやや膨らみながら立ち上がり、I1縫部にゆれて外反する。	2本の沈縫が底下された内部には側縫状工具による継縫状の条縫文を施す。中央に蛇行比縫文が施す。	SYR4/3C灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
28-5	C-1 N-13	深鉢	18.5	底部よりやや外反しながら開く。	2本の彌縫文で区画された内部は側縫状工具による継縫状の条縫文を施す。中央に蛇行比縫文が施す。	2.5YR5/1B灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
28-6	C-1 14号埋	深鉢	8.3	底部よりハの字に開く。	側縫部を下することで区画された内部には側縫状工具により2重巻の条縫文を施し、中央に蛇行比縫文が施す。	SYR4/3C灰褐色 貝壳、石英含む 焼成	
29-1	C-1 SB-1	深鉢	-	I1縫部は内向する。	口縫部は側縫を呈し、口縫による内向済縫文、彌縫文が施され、内部に側縫状工具による条縫文が施す。	SYR4/3C灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
29-2	C-1 SB-11	深鉢	-	底部は少し膨れ、側縫はやや膨らむ。	側縫部を下することで区画された内部には側縫状工具による継縫状の条縫文を施す。中央に蛇行比縫文が施す。	2.5YR5/1B灰褐色 黄石、石英含む 焼成	
29-3	C-1 SB-8	深鉢	-	側縫からやや外反するI1縫部。	口縫部は側縫を呈し、口縫による内向済縫文、彌縫文が施され、内部に側縫状工具による条縫文が施す。	2.5YR5/1B灰褐色 砂利、灰石、雲母含む 焼成	
29-4	C-1 SB-10	深鉢	-	側縫は近れ、側縫は膨らむ。	側縫と底縫で区画された内部は側縫状工具による条縫文が施され、中央に蛇行比縫文が施す。	10YR5/1灰褐色 貝壳、砂利、貝壳含む 焼成	
29-5	C-1 SB-14	深鉢	--	I1縫部は外方に向く。	隣接I1縫部に施された内部は側縫状工具による底位の条縫文が施し、中央に蛇行比縫文が施す。	2.5YR4/2B灰褐色 白色粘土、砂利、雲母含む 焼成	
29-6	C-1 K-11	深鉢	-	口縫部は外反しながら立ち上がる。	口縫部は把縫を呈し、底縫による円文が施される。隣接I1縫部に施された内部は側縫の条縫文が施す。側縫工具による底位の条縫文が施す。	SYR5/4C灰褐色 白色粘土、砂利、雲母含む 焼成	
29-7	C-1 SH-14	深鉢	-	I1縫部はやや外反する。	側縫と底縫で区画された内部は側縫状工具による条縫文が施す。中央に蛇行比縫文が施す。	2.5YR4/2B灰褐色 白色粘土、砂利、雲母含む 焼成	
29-8	C-1 母貝石	深鉢	-	膨らむ側縫。	側縫と底縫で区画された内部は側縫状工具による条縫文が施す。中央に蛇行比縫文が施す。	SYR5/4C灰褐色 白色粘土、砂利、雲母含む 焼成	
29-9	C-1 SB-8	深鉢	-	外方に開く側縫。	基盤と底縫で区画された内部は側縫状工具による底位の条縫文を施し、中央に蛇行比縫文が施す。	7.5YR4/1灰褐色 貝壳、石英含む 焼成	

表14 純文土器観察表13

番号	変異火 温湯	基盤	口沿 内壁 表面	表面の特徴	技法の特徴	色調 焼付 焼成	備考
29- 10	C - 1 SB - 10	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、中央に被状火線文が施下す。	7.5YR5/10:赤い褐色 良い。白色粒子青い 良好	
29- 11	C - 1 SB - 10	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、中央に被状火線文が施下す。	9YR4/6:赤い褐色 良い。白色粒子青い 良好	
29- 12	C - 1 SB - 10	深鉢	-	やや膨らむ脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、中央に被状火線文が施下す。	5.5YR5/4:赤い褐色 砂粒。良。白含む 良好	
30 - 1	C - 1 SB - 11	深鉢	-	内窓する口縁部。	1脚部に2条の火線文が施る。底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、中央に被状火線文が施下す。	5YR4/2:赤い褐色 白色粒子。良。白含む 良好	
30 - 2	C - 1 SB - 11	深鉢	-	膨らむ脚部。	底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、底面火線文が施下す。	5YR4/4:赤い褐色 白色粒子。良。白含む 良好	
30 - 3	C - 1 K - 16	深鉢	-	外反する脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、底面火線文が施下す。	10YR4/4:赤い褐色 灰石。砂含む 良好	
30 - 4	C - 1 SB - 10	深鉢	-	内窓する脚部。	脚部の条線文に脚位工具による被状火線文が施下す。	5YR5/10:赤い褐色 長い。白色粒子青い 良好	
30 - 5	C - 1 L - 11	深鉢	-	外方に聞く脚部。	1脚部に1条の火線文が施る。その下部に火文があり。脚部は陶器工具による条線文が施され被状火線文が施下す。	7.5YR4/6:赤い褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 6	C - 1 SB - 14	深鉢	-	内窓する脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、底面火線文が施下す。	2.5YR4/6:赤い褐色 白含む。砂含む 良好	
30 - 7	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚部と底面で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施され、陶器工具による被状火線文が施下す。	5YR4/2:赤い褐色 青白い。白色粒子青い 良好	
30 - 8	C - 1 SB - 12	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚部は陶器工具による脚位の条線文が施され、脚位工具による被状火線文が施下す。	5YR4/4:赤い褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 9	C - 1 SB - 10	深鉢	-	外反する脚部。	脚部は脚部工具による脚位の条線文が施され、脚位工具による被状火線文が施下す。	7.5YR4/2:赤い褐色 白色粒子。白色粒子青い 良好	
30 - 10	C - 1 SB - 14	深鉢	-	内窓する脚部。	脚部は陶器工具による脚位の条線文が施され、脚位工具による被状火線文が施下す。	5YR4/6:赤い褐色 白含む。砂含む 良好	
30 - 11	C - 1 SB - 13	深鉢	-	外反する脚部。	脚部は陶器工具による脚位の条線文が施され、脚位工具による被状火線文が施下す。	10YR4/10:赤褐色 白色粒子。灰石。石英石青い 良好	
30 - 12	C - 1 SB - 12	深鉢	-	外反する脚部。	脚部工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	7.5YR4/5:赤い褐色 砂粒。灰石。石英石 良好	
30 - 13	C - 1 SB - 10	深鉢	-	脚部で膨れ、脚部は膨らむ。	脚部工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	10YR5/3:赤褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 14	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外反する脚部。	脚位工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	7.5YR4/6:赤い褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 15	C - 1 SB - 13	深鉢	-	内窓する脚部。	脚位工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	10YR5/3:赤褐色 灰石。白色粒子。白含む 良好	
30 - 16	C - 1 L - 14	深鉢	-	外方に聞く口縁部。	口縁部に1条の火線文が施される。脚部は陶器工具による条線文が施され、被状火線文が施下す。	2YR5/4:赤い褐色 良。白色粒子。白含む 良好	
30 - 17	C - 1 L - 14	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚位工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	7.5YR4/4:赤い褐色 灰石。白含む。砂粘合 良好	
30 - 18	C - 1 SB - 12	深鉢	-	内窓する脚部。	脚位工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	7.5YR4/6:赤い褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 19	C - 1 SB - 11	深鉢	-	外方に聞く脚部。	脚位工具による脚位文が施され、被状火線文が施下す。	7.5YR4/2:赤褐色 白色粒子。白含む 良好	
30 - 20	C - 1 17号配石	深鉢	-	外反する脚部。	脚部で区別された内部は脚位の条線文が施され、中央に被状火線文が施下す。	7.5YR4/2:赤褐色 白色粒子。白含む 良好	
31 - 1	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は1条の火線文が施る。脚部は脚位と両面の火線文で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施る。	10YR4/2:赤褐色 灰石。白含む。石英石 良好	
31 - 2	C - 1 SB - 10	深鉢	-	やや内側する脚部。	口縁部は1条の火線文が施る。脚部は脚位と両面の火線文で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施る。	10YR4/1:赤褐色 良。白色粒子。白含む 良好	
31 - 3	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は1条の火線文が施る。脚部は脚位と両面の火線文で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施る。	7.5YR4/2:赤褐色 砂粒。白色粒子青い 良好	
31 - 4	C - 1 SB - 14	深鉢	-	外方に聞く脚部。	口縁部は1条の火線文が施る。脚部は脚位と両面の火線文で区別された内部は陶器工具による脚位の条線文が施る。	7.5YR4/2:赤褐色 脚位。良。白色粒子青い 良好	
31 - 5	C - 1 H - 11	深鉢	-	平凹状の突起物がつく。	平凹状の突起物がつく。脚部は陶器工具による脚位の条線文が施る。	10YR4/2:赤褐色 良。白色粒子。白含む 良好	
31 - 6	C - 1 SB - 10	深鉢	-	口縁部は外方に聞く。	口縁部に1条の火線文が施る。脚部は陶器工具による脚位の条線文が施される。	10YR4/3:赤褐色 白色粒子。白含む 良好	

表15 繩文土器観察表14

番号	測定区 選別	基準	100% 通過 基準	形態の特徴	技術の特徴	色調 輪上 輪下	備考
31- 7	C - 1 13分類石下	溝跡	-	口縁部はやや外反する。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	7.5YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面きず 良好	
31- 8	C - 1 SB-10	溝跡	-	やや膨らむ脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	5YR6/3C-2:5-6:褐色 石英、白色粒子含む 良好	
31- 9	C - 1 SB-10	溝跡	-	外方に聞く脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-10	C - 1 SB-10	溝跡	-	内湾する脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	7.5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-11	C - 1 SB-10	溝跡	-	外反する脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	5YR4/3C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-12	C - 1 SB- 8	溝跡	-	外方に聞く脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	7.5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-13	C - 1 SB- 10	溝跡	-	やや膨らむ脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	7.5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-14	C - 1 SB-10	溝跡	-	やや膨らむ脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	5YR4/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-15	C - 1 SB-10	溝跡	-	やや外反する脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	7.5YR3/3C-3:6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
31-16	C - 1 SB-14	溝跡	-	膨らむ脚部。	施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による米穀文が複数に施される。	5YR7/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
32- 1	C - 1 J - 10	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は横状工具による西田区文を施し、櫛状工具による米穀文を施す。	5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
32- 2	C - 1 SH-13	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は底部が施文が施され櫛状工具がつく。 脚部は脚部が施文し、櫛状工具の米穀文がつく。	7.5YR6/4C-2:5-6:褐色 表面、白色粒子含む 良好	
32- 3	C - 1 L - 11	溝跡	-	底付口縁を呈する。外方に聞く口縁部。	口縁部は口縁部に施文があり、西田区文を施す。 脚部は櫛状工具による米穀文の米穀文がつく。	10YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 4	C - 1 SB-1	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は口縁部に施文があり、その下に米穀文、前門区文がつく。 脚部は底部に櫛状工具による米穀文がつく。	10YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 5	C - 1 SH-2	溝跡	-	底付口縁を呈する。口縁部は外方に聞く。脚部は底付。	口縁部は口縁部に施文があり、その下に米穀文、西田区文がつく。 脚部は底部に櫛状工具による米穀文がつく。	5YR6/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 6	C - 1 L-14	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	脚部は櫛状工具による米穀文を櫛状工具で施す。 上部には底部に施文が施す。	7.5YR6/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 7	C - 1 L-14	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	脚部は櫛状工具による米穀文を櫛状工具で施す。 上部には底部に施文が施す。	7.5YR6/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 8	C - 1 22分配石	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	1脚部は櫛状工具による米穀文を櫛状工具で施す。	7.5YR7/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32- 9	C - 1 SB-15	溝跡	-	口縁部分内蔵する。	1脚部は2条の沈縫がある。その下に横門区文又は米穀文がつく。 内部は櫛状工具による米穀文を櫛状工具で施す。	7.5YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
32-10	C - 1 17%配石	溝跡	-	溝状口縁を呈する。	施磨で区別された内部は櫛状工具による米穀文が施される。	7.5YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 2	C - 1 L - 12	溝跡	-	外方に聞く口縁部。	口縁部は2条の沈縫がある。脚部は施磨と比較で区別された内部は櫛状工具による列点文が施される。	7.5YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 3	C - 1 L - 14	溝跡	-	膨らむ脚部。	L1脚部は1条の沈縫がある。脚部は区境内に櫛状工具による列点文が施される。	7.5YR5/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 4	C - 1 SB-1	溝跡	-	膨らむ脚部。	脚部は脚部と底付の内側には刺突文が施される。	7.5YR5/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 5	C - 1 SB-22	溝跡	-	外方に聞く脚部。	L1脚部は1条の沈縫がある。脚部は区境内に櫛状工具による列点文が施される。	10YR6/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 6	C - 1 J - 13	溝跡	-	外方に聞く脚部。	脚部は脚部と底付で施された内部は刺突文がつく。	10YR6/2C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 7	C - 1 L - 12	溝跡	-	膨らむ脚部。	脚部は脚部と底付で施された内部は櫛状工具による米穀文が施される。	7.5YR5/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 8	C - 1 L - 11	溝跡	-	やや内側する口縁部。	脚部は櫛状工具による米穀文を櫛状工具で施す。	7.5YR7/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
33- 9	C - 1 N - 15	溝跡	-	やや内側する口縁部。	1脚部に1条の沈縫がある。脚部は区境内に櫛状工具による列点文が施される。	7.5YR7/4C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	
34- 1	C - 1 G - 6	深跡	OS-6	口縁部は試やかに外反する。	L1脚部は底付による西田区文が施される。(ハ)式の巻葉文による底付はハ半文が面に施文される。	7.5YR6/3C-2:5-6:褐色 白色粒子、表面、白色粒子含む 良好	

表16 純文土器観察表15

番号	調査区 温湯	断面	口縁 直径 高さ	断面の特徴	技術の特徴	色画 灰土 焼成	備考
34-2	C-1 K	深鉢	(24.5) —	口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部は直線による横円弧文が施され、断面にによる区画内にはハ文字が施される。	IDYR4/1/底青褐色 雪は、黄白合む 灰好	
34-3	C-1 G-6	深鉢	(28.6) —	口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部は直線による横円弧文が施され、断面にによる区画内にはハ文字が施される。	2.5YR6/1C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
34-4	C-1 I-12	深鉢	(29.8) —	口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部は直線による横円弧文が施され、断面にによる区画内にはハ文字が施される。	10YR6/1C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
34-5	C-2 SB-11 昭和	深鉢	(23.1) (6.8) 31.7	口縁部は緩やかに外反し、断面は直角部から立ち上がる。	口縁部には直線による横円弧文が施され、断面にによる区画内にはハ文字の状跡が施される。	10YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
34-6	C-2 SB-23 昭和	深鉢	7.4	直底からやや腰やかに外反しながら立ち上がる。	2本の腰文による区画内にはハ文字が施される。	10YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
35-1	C-2 SB-22	深鉢	(36.8) —	断面から直線的に開く。	口縁部に1本の腰文による区画内に直線下に直線による横円弧文と周囲にハ文字が施される。区画された内面には「子」の切妻が施される。	7.5YR6/1C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
35-2	C-2 SB-25 昭和	深鉢	(25.5) —	断面から直線的に開く。	口縁部には直線による横円弧文が施され、直線下に直線による横円弧文と周囲にハ文字が施される。区画された内面には「子」の切妻が施される。	5YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
35-3	C-1 II-9	深鉢	18.4 9.3 20.8	直底からやや腰らみ、断面は直角部には外側に向く。	直底から腰文で、直底から腰文が施され、断面は直角部には外側に向く。	SYR6/6白色 雪は、黄白合む 灰好	
35-4	C-2 SB-22	深鉢	(14.2) (4.2) (21.2)	直底から口縁部にかけて直線的に開く。	直底には1本の腰文があり、断面に腰文が施され、直底文による区画内にはハ文字の状跡が施される。	SYR6/6白色 灰石、直合む 良好	
35-5	C-1 G-6	深鉢	17.3 7.3 19.9	断面からハ字に開く。	直底には1本の腰文があり、直底文による区画内には「子」の切妻が施される。	5YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
35-6	C-1 SB-6	深鉢	9.1	直底から腰やかに脚らしながら立上る。	直底に腰文による横円弧文が施され、そこから腰部が直线下して直角部にハ文字の状跡が施される。	10YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
35-7	C-1 1号復元	深鉢	— (8.6)	直底からゆるやかにくびれながら開く。	直底に1号の腰文があり、直底文による区画内にはハ文字の状跡が施される。	10YR6/4C/底青褐色 石系、黄白合む 灰好	
36-1	C-1 K	深鉢	(37.5) —	口縁部は直線的に立ち上り、くびれに削る。X字の把手つく。	直縁部による直線文が施されハ字状の状跡がつく。	10VR7/4C/底青褐色 灰石、石合む 良好	
36-2	C-1 I-10	深鉢	(40.6) —	側面から中央内凹ぎみに立ち上がる。	腰部による横円弧文と直底文が施され、その間にハ文字の状跡が施される。	SYR6/6白色 石系、直合む 良好	
37-1	C-1 I-11	深鉢	—	外方に開く斜部。	馬蹄と沈底の区画内には横斜工具による横円弧文が施される。	10YR4/4C/底青褐色 砂石、白色粒子合む 灰好	
37-2	C-1 SB-12	深鉢	—	外方に開く斜部。	横斜工具による区画内に斜位の状跡が施される。	7.5YR5/6C/底青褐色 石系、直合む 良好	
37-3	C-1 H-8	深鉢	—	直線的に立ち上がる。	横斜工具によるハ字の状跡が施される。	7.5YR6/6白色 白色粒子、直合む 良好	
37-4	C-1	深鉢	—	外方に開く斜部。	ハ字の状跡が施される。	7.5YR6/6白色 灰石、直合む 良好	
37-5	C-1 17号配石	深鉢	—	中央内凹する斜部。	直縁部は直線工具による柔線文が施され、直縁部が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 灰石、直合む 良好	
37-6	C-1 G-8	深鉢	—	外方に開く直縁。	直縁部は棒状工具による区画文がつき、区画内にはハ字の状跡が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 白色粒子、直合む 良好	
37-7	C-1 N-15	深鉢	—	外に開く口縁部。	口縁部は直縁と直縁の交差で棒円区画文がつく。斜部は区画内にハ字の状跡が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 灰石、直合む 良好	
37-8	C-1 J-10	深鉢	—	中央内凹する口縁部。	口縁部は直線文による区画文が施され、その区画内にハ字の状跡が施される。	10YR6/4C/底青褐色 白色粒子、直合む 良好	
37-9	C-1 K-11	深鉢	—	側部は腰やかに外反し、直縁部は内凹する。	口縁部は横斜工具による横円弧文が施される。直縁部は直線文による区画文が施され、区画内にハ字の状跡が施される。	2.5YR6/4C/底青褐色 灰石、白色粒子、直合む 良好	
37-10	C-1 E-7	深鉢	—	内凹する口縁部。波状口縁を呈する。	口縁部は横斜工具による横円弧文が施される。直縁部は区画内にハ字の状跡が施される。	2.5YR6/4C/底青褐色 白色粒子、直合む 良好	
37-11	C-1 SB-13	深鉢	—	内凹する口縁部。	1.5横斜工具による区画文がつく。直縁部は直線工具による区画文が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 骨母、直合む 良好	
37-12	C-1 SB-2	深鉢	—	内凹する口縁部。	口縁部は横斜工具による横円弧文内に直線文が施される。直縁部は直線文による区画内にハ字の状跡が施される。	SYR6/6白色 砂糖、直合む 良好	
38-1	C-1 SB-1	深鉢	—	外方に開く口縁部。	口縁部は横斜工具による横円弧文と直線文による区画文が施される。直縁部は区画内にハ字の状跡が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 灰石、白色粒子、直合む 良好	
38-2	C-1 K-15	深鉢	—	波状口縁を呈する。	口縁部は横斜工具による横円弧文が施され、直縁部による区画文が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 灰石、白色粒子、直合む 良好	
38-3	C-1 L-13	深鉢	—	外方に開く口縁部。	口縁部は横斜工具による横円弧文が施され、直縁部による区画文が施される。	7.5YR6/4C/底青褐色 白色粒子、直合む 良好	

表17 繩文土器観察表16

番号	底支区 底支	断面	口径 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 底土 底成	備考
38-4	C-1 N-14	深鉢	-	側面は外反し、口縁部は内凹する。	口縁部は横状工具による底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文がつく。	7.YMR/4/3褐色 灰石、白色粒子、贝壳む 灰好	
38-5	C-1 SB-2底下	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部は側柱工具による底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文がつく。	7.YR7/3褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-6	C-1 SB-9	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部は側柱工具による底拵文が施され、下部に側面区内にハサの形状文がつく。	10YR4/1褐色 灰石、贝壳む 灰好	
38-7	C-1 11号配石	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部に1条の底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文が施される。	5YR5/4c/3-4褐色 灰石、贝壳む 灰好	
38-8	C-1 K-16	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部に側柱工具による底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文がつく。	7.YMR/3/3-4褐色 灰石、贝壳む 灰好	
38-9	C-1 17, 18号配石	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文がつく。	10YR4/1褐色 灰石、贝壳む 灰好	
38-10	C-1 J-10	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部に1条の底拵文が施され、側面は区内にハサの形状文が施される。	7.5YR6/3c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-11	C-1 N-15	深鉢	-	内凹する口縁部。	沈殿による赤い文字が墨出し、区画文がつく。	7.5YR4/1褐色 白い粒子、贝壳む 灰好	
38-12	C-1 11号配石右成	深鉢	-	外方に開く口縁部。	側柱にハサの形状文が施される。	7.5YR5/4c/3-4褐色 白い粒子、贝壳む 灰好	
38-13	C-1 11号配石左成	深鉢	-	外方に開く口縁部。	側柱と沈殿による区画内にハサの形状文が施され る。	7.5YR6/3c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-14	C-1 K-10	深鉢	-	底柱に跡を残す。	側柱による側柱の底柱が瓦刀に施される。	10YR4/1褐色 灰石、贝壳む 灰好	
38-15	C-1 11号配石右左	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LJ縁部に1条の底拵文が施され、側面はハサの形状文がつく。	7.5YR6/4c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-16	C-1 H-7	深鉢	-	LJ縁部内に内凹する。	口縁部は、新文が施され、区内に側柱状工具によ る区位の底拵文がつく。	7.5YR6/4c/3-4褐色 白色粒子、贝壳む 灰好	
38-17	C-1 I-10	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部は底拵文が施され、区内に側柱状工具によ る区位の底拵文がつく。	10YR4/1褐色 白色粒子、贝壳む 灰好	
38-18	C-1 I-10	深鉢	-	開いた口縁部。	解剖は側柱文が施され、区内に側柱状工具によ る区位の底拵文がつく。	7.5YR6/4c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-19	C-1 I-9	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は側柱文が施され、側面はハサの形状文が つく。	7.5YR5/4c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
38-20	C-1 SB-12	深鉢	-	側柱部は底らみ、口縁部は外方に開く。	口縁部は方形、長方形の区画を有する。地文にはLJ底 文を施し、逆Z字状の沈殿が施されている。	7.5YR6/4c/3-4褐色 白色粒子、砂利、贝壳む 灰好	
40-1	C-1 SB-12	深鉢	35.8	口縁部は内凹する。	LJ縁部を地文にLJ字の底拵、溝状の底柱が施さ れ、底柱等が下す。	10YR4/1褐色 長石、贝壳、贝壳む 灰好	
40-2	C-1 標準	深鉢	-	口縁部は内凹する。	LJ縁部を地文にLJ字の底拵、溝状の底柱が施さ れ、底柱等が下す。	10YR4/1褐色 長石、贝壳、贝壳む 灰好	
40-3	C-1 I-9	小号土 器	9.7 4.8 13.9	底柱状を呈する。側柱は膨らむ。	LJ縁部を地文とし、逆Z字状の底柱内は側柱が施さ れる。	10YR3/1褐色 長石、贝壳、贝壳む 灰好	
40-4	C-1 土器群2	深鉢	-	側柱は膨らみ、外方に開く。	地文はLJ底文を施し、曲線的な底柱、その両端の 底柱等が下す。	10YR7/3c/3-4褐色 長石、贝壳、贝壳む 灰好	
41-1	C-1 SB-16	深鉢	-	内凹する口縁部。	LJ縁部は、底柱と半倒立状工具による底柱による区 画内にLJ底文を施す。	10YR4/1褐色 壳石、贝壳、砂利含む 灰好	
41-2	C-1 H-9	深鉢	-	内凹する口縁部。	LJ縁部は、底柱と半倒立状工具による底柱による区 画内にLJ底文を施す。	7.5YR5/2褐色 壳石、贝壳、贝壳む 灰好	
41-3	C-1 H-9	深鉢	-	内凹する口縁部。	LJ縁部は、底柱と半倒立状工具による底柱による区 画内にLJ底文を施す。	7.5YR5/3褐色 壳石、贝壳、贝壳む 灰好	
41-4	C-1 G-9	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は、底柱と半倒立状工具による底柱による区 画内にLJ底文が施される。	7.5YR5/4c/3-4褐色 壳石、贝壳、贝壳む 灰好	
41-5	C-1 SB-20	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は、底柱と半倒立状工具による底柱による区 画内にLJ底文が施される。	7.5YR5/4c/3-4褐色 壳石、贝壳、贝壳む 灰好	
41-6	C-1 SB-9	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は、側柱と半倒立状工具による区画内にLJ 底文が施され、底柱等が下す。	7.5YR5/4c/3-4褐色 贝壳、贝壳、贝壳む 灰好	
41-7	C-1 H-9	深鉢	-	膨らむ口縁部。	側柱は、LJ底文が施され、3本1単位の底柱のな ど底柱等が下す。	7.5YR5/4c/3-4褐色 贝壳、贝壳、贝壳む 灰好	
41-8	C-1 SB-7	深鉢	-	底柱状を呈する。	口縁部は底柱等が下す。側柱を有し、底部に底 柱等がある。	10YR6/4c/3-4褐色 贝壳、贝壳、贝壳む 灰好	
41-9	C-1 SB-7	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は底柱等が下す。側柱を有し、底部に底 柱等がある。	5YR5/4c/3-4褐色 贝壳、贝壳、贝壳む 灰好	

表18 純文土器観察表17

番号	地区名 通称	基盤	山形 底盤 器表	形状の特徴	技術の特徴	色調 加工 状況	備考
41-10	C-1 SB-14	深鉢	-	膨らむ側部。	側部はLR調文を施し、半横竹管状工具による曲線的な比縦がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、石突、砂粒含む 良好	
41-11	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ側部。	側部はLR調文を施し、半横竹管状工具による曲線的な比縦がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、石突、砂粒含む 良好	
41-12	C-1 SB-15	深鉢	-	膨らむ側部。	側部はLR調文を施し、半横竹管状工具による曲線的な比縦がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、石突、砂粒含む 良好	
41-13	C-1 SB-16	深鉢	-	膨らむ側部。	側部はLR調文を施し、半横竹管状工具による曲線的な比縦がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、石突、砂粒含む 良好	
41-14	C-1 SB-15	深鉢	-	膨らむ側部。	側部はLR調文を施し、半横竹管状工具による曲線的な比縦がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、石突、砂粒含む 良好	
42-1	C-1 SB-9	深鉢	-	外方に開く側部。	地文はLR調文を施し、底部粘付による済合つなぎ張文がつく。	10YR4/4に赤褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
42-2	C-1 SB-9	深鉢	-	側部は膨らみ、口縁部は外方に開く。	地文はLR調文を施し、底部粘付による済合つなぎ張文がつく。	7.5YR4/4に赤褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
42-3	C-1	深鉢	-	外方に開く口縁部。	地文にLR調文を施し、底部粘付による済合つなぎ張文が進る。	7.5YR4/4に赤褐色 砂粒、白色粒子含む 良好	
42-4	C-1 K-11	深鉢	-	外方に開く口縁部。	口縁部は底部粘付による済合つなぎ張文が進る。側部はLR調文が施される。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
42-5	C-1 H-10	深鉢	-	外方に開く口縁部。	1縁部は済合つなぎ張文があり、区画内に垂直比縦及び、側部は底部粘付によるLR調文を施し、両者工具による比縦が進する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
42-6	C-1 H-10	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	1縁部は済合つなぎ張文があり、区画内に垂直比縦及び、側部は底部粘付によるLR調文を施し、両者工具による比縦が進する。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
42-7	C-1 H-7	深鉢	-	外方に開く口縁部。	1縁部は済合つなぎ張文があり、区画内に垂直比縦及び、側部は底部粘付によるLR調文を施し、両者工具による比縦が進する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
42-8	C-1 SB-14	深鉢	-	内凹する口縁部。	地文にLR調文を施し、口縁部は済合つなぎ張文があり、側部は底部粘付によるLR調文が進する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
42-9	C-1 SB-14	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は済合つなぎ張文があり、LR調文を施す。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
42-10	C-1 H-10	深鉢	-	底板打痕を呈する口縁部。	口縁部は肥厚沿て、円文がつき、内部はLR調文を施す。	SVR4/6赤褐色 砂粒、白色粒子、良	
42-11	C-1 H-10	深鉢	-	内凹する側部。	側部は地文LR調文を施し陣脚と比縦が進下する。	SVR4/6赤褐色 砂粒、白色粒子、良	
42-12	C-1 H-10	深鉢	-	外方に開く側部。	側部は地文LR調文を施し陣脚と比縦が進下する。	SVR4/6赤褐色 砂粒、白色粒子、良	
42-13	C-1 SB-12	深鉢	-	側部は膨らみ、口縁部は外方に開く。	口縁部は済合つなぎ張文が進る。区画内にLR調文を施す。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、石突、黄褐色含む 良好	
42-14	C-1 H-8	深鉢	-	内凹する口縁部。	地文にLR調文を施し、棒状工具による張文がつく。側部はLR調文を施し、直線的比縦と比縦が進される。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
42-15	C-1 SB-12	深鉢	-	粗机口縁を呈する。	地文に調文を施し、底盤部に波状次旋文が進下する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、石突、黄褐色含む 良好	
42-16	C-1 SB-12	深鉢	-	内凹する側部。	側部はLR調文を施し、直線的比縦と比縦が進される。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
42-17	C-1 K-10	深鉢	-	外方に開く側部。	地文にLR調文を施し、口縁部は棒状工具による横面調文を施し、側部はLR調文を施す。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
43-1	C-1 J-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	地文にLR調文を施し、直線的比縦による区画内を割り切る。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、黄褐色含む 良好	
43-2	C-1 SB-12	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部は棒状工具による区画内直面を割り、側部はLR調文を地文に追U字状の波紋が進下する。	10YR4/4に赤褐色 砂粒、長い、砂粒含む 良好	
43-3	C-1 J-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	1縁部に1条の比縦が進され、口縁部はLR調文が施される。側部はU字状の波紋が進下する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
43-4	C-1 H-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	棒状工具による横円弧、追U字状の沈縫による区画内にLR調文を充填する。	10YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
43-5	C-1 K-10	深鉢	-	内凹する口縁部。	地文にLR調文を施し、棒状工具による追U字状の沈縫が進下する。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
43-6	C-1 35号配石下	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部に1条の比縦が進る。側部はLR調文が施される。側部は35号配石が進される。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	
43-7	C-1 35号配石下	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部に1条の比縦が進る。側部はLR調文が施される。	7.5YR4/4に赤褐色 長い、白色粒子、砂粒含む 良好	

表19 繩文土器観察表18

番号	測定法 測定場	断面	口縁 内側 外側	形態の特徴	様式の特徴	色調 黒土 褐色	備考
43- 8	C - 1 J - 10	深鉢	-	内側すり口縁。	RIL縄文を施し、口状の凹曲を削り消している。	7.5YR6/4C 黒土・褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 9	C - 1 K - 16	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部に1条の凹線がある。内部はRIL縄文が施される。	3YR5/4C 黒い褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
43- 10	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	LH縁部に折線がつく、RIL縄文を施す。	7.5YR6/4C 黒い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 11	C - 1 J - 11	深鉢	-	内側すり口縁。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	3YR5/4C 黒い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 12	C - 1 2号笠石土坑	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	3YR5/3C 黒い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 13	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	10YR5/3C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 14	C - 1 1号配石	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR6/4C 黒い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 15	C - 1 2号笠石土坑	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 16	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 17	C - 1 2号笠石土坑下	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR5/3C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 18	C - 1 M-11	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR6/4C 黑色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
43- 19	C - 1 H - 8	深鉢	-	外方へ聞く脚部。	RIL縄文を施し、沈様によるX曲面を削り消している。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 1	C - 1 M-16	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部は黒又白を有し、脚部はRIL縄文を施す。底部は沈様による山並み的なモーフがつく。	10YR6/3C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 2	C - 1 J - 10	深鉢	-	外方に聞く口縁。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施され、削り消し有する。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 3	C - 1 K - 13	深鉢	-	内側すり口縁。	I型縁部は黒又白を有し、脚部はRIL縄文が施される。沈様による山並み的なモーフがつく。	10YR5/3C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 4	C - 1 N - 16	深鉢	-	外方に聞く口縁。	口縁部は黒又白を有し、脚部はRIL縄文が施す。底部は沈様による山並み的なモーフがつく。	5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 5	C - 1 2号笠石土坑	深鉢	-	外方に聞く口縁。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施す。底部は沈様による山並み的なモーフがつく。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 6	C - 1 J - 10	深鉢	-	外方に聞く口縁。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施す。底部は沈様による山並み的なモーフがつく。	5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 7	C - 1 J - 10	深鉢	-	やや内側すり口縁。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施す。	10YR6/3C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 8	C - 1 N - 16	深鉢	-	外方に聞く脚部。	口縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施す。底部は、RIL縄文を施す。	5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 9	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施す。底部は、RIL縄文を施す。	2.5YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 10	C - 1 L - 11	深鉢	-	口縁部は内側に弧曲する。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文を施す。底部は、RIL縄文を施す。底部的な比較部が平手である。	7.5YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 11	C - 1 H - 7	深鉢	-	やや内側すり口縁。	I型縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文を施す。底部は、RIL縄文を施す。底部的な比較部が平手である。	2.5YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 12	C - 1 2号笠石土坑	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部に1条の黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施される。	5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 13	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施される。口縁部の黒又白を有する。	7.5YR5/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 14	C - 1 H - 7	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部は黒又白を有する。脚部はRIL縄文が施される。	10YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 15	C - 1 N - 16	深鉢	-	やや内側すり口縁部で、底部I型を有する。	口縁部は黒又白を有し、脚部はRIL縄文が施される。底部的な比較部には削り消しがつく。	5YR6/4C 黑い褐色 砂粒、白色粒子、黄緑色含む 良好	
44- 16	C - 1 2号笠石土坑	深鉢	-	脚部は膨らみ、L型縁部はやや外側に突出する。	口縁部は黒又白を有し、脚部はRIL縄文を施す。RIL縄文を施し、底部的な比較部に削り消しがつく。	7.5YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	
44- 17	C - 1 1号配石	深鉢	-	内側すり口縁。	口縁部に1条の沈線が施される。RIL縄文が施される。	10YR6/4C 黑い褐色 白色粒子、砂粒、黄緑色含む 良好	

表20 繩文土器観察表19

番号	測定区 遺構	基盤	口縁 内縁 器底	形態の特徴	技法の特徴	色調 加土 焼成	備考
44-18	C-1 33号配石F	深鉢	—	内凹する斜部。	LR繩文を施し、裏面に舟形がつく。	7.5YRS/31C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
44-19	C-1 SB-23	深鉢	—	外反する口縁部。	口縁部に1条の複雑旋起部がある。斜部はRL繩文を施す。	7.5YRS/31C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
44-20	C-1 K-11	深鉢	—	口縁部は断ち込み、外反する斜部。	斜部の張り出し部分にRL繩文を施す。	7.5YRS/41C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
45-1	C-1 K-10	深鉢	—	内凹する口縁部。	口縁部下に凹縫がつく。文中にRL繩文を施し、運び字状の幾何文が点下する。	7.5YRS/31C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
45-2	C-1 M-14	深鉢	—	外反する口縁部。	地中にRL繩文を施し、茎部と内縁の沈縫が点下する。	5YR17/4C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
45-3	C-1 M-14	深鉢	—	内凹する口縁部。	口縁部は1条の複雑旋起部があり、無文部を斜めにする。斜部は文中にRL繩文を施し、運び字状の幾何文が点下して形成。	10YR7/41C:21褐色 砂粒、白色粘子、黄身合む 良好	
45-4	C-1 J-10	深鉢	—	強く外折する口縁部。	口縁部下に凹縫がつく。文中にRL繩文を施し、斜部と内縁の沈縫が点下する。	7.5YRS/31C:21褐色 黑色、砂粒、黄身合む 良好	
45-5	C-1 J-11	深鉢	—	外方に開く斜部。	地中にRL繩文を施し、茎部と内縁の沈縫が点下する。	7.5YRS/31C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
45-6	C-1 H-7	深鉢	—	やや盛り心斜部。	地中にRL繩文を施し斜部と内縁の沈縫が点下する。	10YR7/41C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
45-7	C-1 H-6	深鉢	—	膨らむ斜部。	地中にRL繩文を施し斜部と内縁の沈縫が点下する。	5YR7/41C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
45-8	C-1 H-7	深鉢	—	外反する斜部。	地中にRL繩文を施し、斜部と内縁の沈縫が点下する。	10YR7/41C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
45-9	C-1 11号配石	深鉢	—	膨らむ斜部。	地中にRL繩文を施し、斜部が強夢を付ける。	5YR7/41C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
45-10	C-1 支脚群2	深鉢	—	膨らむ斜部。	地中にRL繩文を施し斜部と内縁の沈縫が点下する。	7.5YR7/41C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
45-11	C-1 H-7	深鉢	—	口縁部は内凹する。	口縁部1条の断面三角形の複雑旋起文が1条あり、運び字状の幾何文が点下される。	7.5YR7/41C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
45-12	C-1 H-7	深鉢	—	口縁部は内凸する。	地中に灰白色が施され、断面三角形の複雑旋起文がつき、斜部の凹縫が点下つく。	10YR7/41C:21褐色 白色粘子、砂粒、黄身合む 良好	
46-1	C-1 K-11	深鉢	—	膨らむ斜部。	斜面状工具による垂直文が施され、半纏竹管状工具による斜縞文が点下つく。	5YR7/41C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
46-2	C-1 SB-9	深鉢	—	外方に開く口縁部。	口縁部はRL繩文を施し、半纏竹管状工具による斜縞文がつる。溝縫部に旋起部が点下する。	5YR7/41C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
46-3	C-1 SB-9	深鉢	—	膨らむ斜部。	斜部は斜縞文を施し、半纏竹管状工具による斜縞文が点下状につく。	2.3YR7/28C:21褐色 砂粒、黄身合む 良好	
46-4	C-1 SH-12	深鉢	—	膨らむ斜部。	斜面状工具による垂直文が施され、半纏竹管状工具による斜縞文が点下され、斜縞文がつる。	7.5YR7/41C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
46-5	C-1 H-9	深鉢	—	外反する口縁部。	口縁部は無文で、斜部はRL繩文を施す。3条の沈縫が点下り、斜縫部がつる。	5YR7/41C:21褐色 砂粒、白色粘子、黄身合む 良好	
46-6	C-1 SB-15	深鉢	—	外方に開く斜部。	斜面状工具による垂直文が地面上に移状し、其による3条1単位の旋起部が点下する。	5YR7/31C:21褐色 砂粒、白色粘子、黄身合む 良好	
46-7	C-1 22号配石上部	深鉢	—	外方に開く斜部。	斜面状工具による垂直文が施され、半纏竹管状工具による斜縞文が2条点下する。	7.5YR7/41C:21褐色 白色粘子、黄色、黄身合む 良好	
47-1	C-1 SB-14	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する長圓形口縁に連続刻突文がつき、中央に舟形文が施す。	10YR7/31C:21褐色 白色粘子、黄身合む 良好	
47-2	C-1 H-11	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する長圓形口縁に連続刻突文が2条つき、中央に舟形文が施す。	2.3YR7/28C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
47-3	C-1 SB-18	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する長圓形口縁に連続刻突文が2条つき、底部まで墨書きがない。	2.5YR7/28C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
47-4	C-1 K-11	深鉢	—	平行縫で、口縁部は強く内折する。	凹則を形成する長圓形口縁に連続刻突文が施される。	2.5YR7/28C:21褐色 黄色、白色粘子、黄身合む 良好	
47-5	C-1 SB-18	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する一日狀状口縁内には連続刻突文が施され、斜部が横縫に通る。	2.3YR7/31C:21褐色 黄色、砂粒、黄身合む 良好	
47-6	C-1 SB-9	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する二日狀状口縁内には連続刻突文が施される。	2.5YR7/31C:21褐色 黄色、砂粒、黄身合む 良好	
47-7	C-1 SB-18	深鉢	—	底面斜面を以し、尖頭状突起を有する。	凹則を形成する三日狀状口縁内には連続刻突文が施される。中央に舟形文が部位に通る。	2.5YR7/28C:21褐色 黄色、砂粒、白色粘子、黄身合む 良好	

表21 繩文土器觀察表20

番号	測定区 遺跡	断面	口径 器径 器高	形態の特徴	技法の特徴	色調 墨生 低生	備考
47- 8	C - 1 SB - 18	深鉢	-	口縁部に墨を呈し、尖頭状突起を有する。	U縁部に施されたV字形が2条ある。	7.5YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 9	C - 1 SB - 9	深鉢	-	口縁部は内傾し、口縁部を呈する。	連續刻文を施し、その辺りに△角状の刺突文を施す。	7.5YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 10	C - 1 SB - 18	深鉢	-	U縁部は内傾し、平口縁を呈する。	凹面を形成する長槽円形の区画内に連續刻文が施される。	7.5YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 11	C - 1 SB - 18	深鉢	-	口縁部は内傾し、波状口縁を呈する。	凹面を形成する区画内に連續刻文が2条を施される。	7.5YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 12	C - 1 SB - 14	深鉢	-	波状口縁を呈し、尖頭状突起を有する。	円周部に施される長槽円形の区画内に爪跡文を中心に基し、周辺を連續刻文で埋める。	2.5YR7/3C:2:褐色 白色粒子含む 貝附	
47- 13	C - 1 SB - 16	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	凹面を形成する区画内に△角状の刺突文を施す。	2.5YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 14	C - 1 SB - 12	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状区画内に連續刻文を施す。	2.5YR7/3C:2:褐色 貝附、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 15	C - 1 SB - 9	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	長槽円形の区画内に連續刻文を施す。	2.5YR7/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 16	C - 1 SB - 16	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状区画内に△角状の刺突文が中央に施され、周辺に△角形の連續刻文が施される。	10YR7/3C:2:褐色 長石、白色粒子含む 貝附	
47- 17	C - 1 SB - 18	深鉢	-	波状口縁を呈し、尖頭状突起を有する。	△角形の連續刻文が2条、横筋に沿る。	10YR6/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子 貝附	
47- 18	C - 1 SB - 18	深鉢	-	波状口縁を呈し、尖頭状突起を有する。	△角形の連續刻文が3条、横筋に沿る。	7.5YR5/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 19	C - 1 SB - 1	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画の両端に△角形の連續刻文が施され、内部に斜めの連續刻文がつく。	2.5Y/7/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 20	C - 1 SB - 1	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画の両端に△角形の連續刻文が施され、内部に斜めの連續刻文がつく。	2.5Y/7/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 21	C - 1 SB - 1	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画の両端に△角形の連續刻文が施され、内部に斜めの連續刻文がつく。	10YR6/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 22	C - 1 SB - 6	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画内に△角形の連續刻文が施される。	2.5Y/7/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 23	C - 1 SB - 6	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画内に△角形の油焼刻文が施される。	7.5YR6/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 24	C - 1 SB - 6	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画内に△角形の連續刻文が施される。	7.5YR7/4C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 25	C - 1 SB - 6	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	二日月状の区画内に△角形の連續刻文が施される。	7.5YR5/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 26	C - 1 H - 11	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	半載竹状工具によるC字状の刺突文が2条側位に施され、頭部から下垂する。	5YR5/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 27	C - 1 H - 11	深鉢	-	平口縁を呈し、口縁部は内傾する。	半载竹状工具によるC字状の刺突文が2条側位に施され、頭部から下垂する。	7.5YR6/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 28	C - 1 SB - 9	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は強く内傾する。	半载竹状工具によるC字状の刺突文が2条側位に施され、頭部から下垂する。	10YR6/3C:2:褐色 長石、白色粒子含む 貝附	
47- 29	C - 1 G - 10	深鉢	-	波状口縁を呈し、口縁部は強く内傾する。	口縁部に刺突文が2条通り、頭部から下垂する。	7.5YR6/3C:2:褐色 貝附、砂粒、白色粒子含む 貝附	
47- 30	C - 1 J - 9	深鉢	(29.0) 10.3 -	口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部は無文で、輪郭成形艶。	10YR5/3C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
48- 1	C - 1 SB - 16	深鉢	(28.0) 10.3 -	U縁部は内傾し、唇部はやや膨らむ。	U縁部からU縁部にかけてSL線文を施す内凹指印文が施す。	7.5YR6/3C:2:褐色 長石、砂粒、白色チャート含む 貝附	
48- 2	C - 1 SB - 2	深鉢	(28.0) -	U縁部は内傾し、唇部はやや膨らむ。	U縁部上部は外縁による巻子目文が施される内面指印文が施す。	10YR7/2C:2:褐色 長石、砂粒、雲母、白色粒子含む 貝附	
49- 1	C - 1 I - 10	深鉢	-	口縁部は外反する。波状口縁を呈する。	口縁部に刺突文がつく。	7.5YR4/2:褐色 長石、砂粒、白色粒子含む 貝附	
49- 2	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は外反する。波状口縁を呈する。	口縁部に刺突文がつく。	10YR7/3C:2:褐色 長石、砂粒、雲母、白色粒子含む 貝附	
49- 3	C - 1 SB - 9	深鉢	-	波状口縁を呈する。	口縁部に△角形刻文を施す。	10YR5/4C:2:褐色 砂粒、白色粒子含む 貝附	
49- 4	C - 1 H - 8	深鉢	-	U縁部は肥厚する。	U縁部に刺突文がつく。	7.5YR5/4C:2:褐色 砂粒、石英セラ 貝附	

表22 純文土器観察表21

番号	東西区 部類	面種	口縁 部付 着目	形態的特徴	複文の特徴	色調 刷毛 感度	備考
49 - 5	C - 1 I - 11	深鉢	-	口縁部はやや内凹する。削部はやや肥厚する。	口縁部に刷文がつく。洗版による円文と2本の比較的はくびれた横筋が施される。削部に比較的少しひびりがある。	2.5YR6/7に近い黄色 白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 6	C - 1 I - 11	深鉢	-	口縁部は外方にきき、削部はやや肥厚する。	口縁部に三角押文列を施す。	10YR7/3に近い黄色 白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 7	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部はやや肥厚する。	口縁部に刷文がつく。	10YR4/2に近い黄色 砂粒、白色粒子 良好	
49 - 8	C - 1 I - 11	深鉢	-	口縁部は削部に肥厚する。	口縁部に追続刻文が施される。	10YR4/2に近い黄色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 9	C - 1 SB - 9	深鉢	-	口縁部は削部に肥厚する。	口縁部に追続刻文が施される。	2.5YR6/7に近い黄色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 10	C - 1 SB - 18	深鉢	-	口縁部は削部は削部する。	一角押文が口縁部、削部につく。	7.5YR6/7に近い黄色 砂粒、白色粒子 良好	
49 - 11	C - 1 I - 11	深鉢	-	底状V線を呈する。	口縁部に追続刻文が施される。	5YR6/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒、黄母含む 良好	
49 - 12	C - 1 SB - 15	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部に刷文が施される。	5YR5/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 13	C - 1 SB - 20	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部に刷文が施される。	7.5YR4/4に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 14	C - 1 SB - 6	深鉢	-	外方に開く削部。	削部に刷文がつく。	10YR4/2に近い黄色 白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 15	C - 1 SB - 6	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部に刷文が底位に通る。	7.5YR6/7に近い褐色 長石、白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 16	C - 1 SB - 16	深鉢	-	削部はややひき口縁部は外反する。 底状V線を呈する。	口縁部に刷文がつく。削部外側にハケ溝部のちりばめ感、削部底部の肥厚感。	10YR7/3Cに近い褐色 長石、砂粒、石英含む 良好	
49 - 17	C - 1 SB - 16	深鉢	-	内凹する削部。若り茎し口縁。	1回輪廓から地文上に刷文が施される。2本の削帶があり、その間に底状横筋が複数につく。	10YR6/1に近い褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
49 - 18	C - 1 SB - 26	深鉢	-	内凹する削部。若り茎し口縁。	若り茎し口縁下に底状横筋、削帶が横筋に通る。地文にRL刷文を施す。	10YR6/4Cに近い褐色 砂粒含む 良好	
49 - 19	C - 1 SB - 16	深鉢	-	内凹する削部。若り茎し口縁。	若り茎し口縁下に底状横筋が3条横筋に通る。地文にRL刷文を施す。	10YR5/2に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
49 - 20	C - 1 SB - 16	深鉢	-	内凹する削部。若り茎し口縁。	若り茎し口縁下に底状横筋が3条横筋に通る。地文にRL刷文を施す。	10YR5/3に近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
50 - 1	C - 1 SB - 16	深鉢	(22, 9)	口縁部は内凹する。	RL刷文を施す。削帶は擦削状工具による条状文が施される。	10YR6/7に近い褐色 長石、石英、砂粒、チタリトド含む 良好	
50 - 2	C - 1 SB - 16	深鉢	-	削部はやや削らみ。口縁部外方に開く。	口縁部にRL刷文を施す。	7.5YR6/4Cに近い褐色 長石、白色粒子、砂粒、黄母含む 良好	
50 - 3	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は外反する。	口縁部から削部にかけてRL刷文が施される。	10YR6/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒、石英含む 良好	
50 - 4	C - 1 SB - 25	深鉢	-	口縁部は内凹する。	RL刷文を施し、底部に底状横筋が実行される。削部は無文。	10YR6/4Cに近い褐色 長石、石英、チタリトド含む 良好	
50 - 5	C - 1 SB - 20	深鉢	-	口縁部は内凹する。	RL刷文を施し、削部に底状横筋が実行される。削部は無文。	7.5YR6/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒、黄母含む 良好	
50 - 6	C - 1 SB - 6	深鉢	-	外方に開く口縁部。	RL刷文が施される。	5YR6/6褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	
50 - 7	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部はやや内凹する。	口縁部にRL刷文が施される。	7.5YR6/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒、黄母含む 良好	
50 - 8	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は外方に開く。削部はやや外反する。	口縁部にRL刷文が施される。底面に子鉛錐状工具による底状文が通る。	7.5YR6/4Cに近い褐色 砂粒含む 良好	
50 - 9	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は外反する。	口縁部にRL刷文が施される。	2.5YR6/7に近い褐色 砂粒含む 良好	
50 - 10	C - 1 SB - 16	深鉢	-	口縁部は内凹する。	口縁部にRL刷文が施される。	5YR5/4Cに近い褐色 長石、砂粒含む 良好	
50 - 11	C - 1 SB - 16	深鉢	-	内凹する口縁部。	口縁部にRL刷文が施される。	10YR6/1に近い褐色 砂粒、黄母含む 良好	
50 - 12	C - 1 SB - 18	深鉢	-	若り茎し口縁で、口縁削部は肥厚する。	口縁部にRL刷文が施される。	7.5YR6/4Cに近い褐色 砂粒含む 良好	
50 - 13	C - 1 SB - 15	深鉢	-	口縁部は外反する。	口縁部にRL刷文が施される。	10YR6/4Cに近い褐色 白色粒子、砂粒含む 良好	

表23 繩文土器観察表22

番号	測定区 遺跡	器種	口縁 底縁 側縁 周縁	形部の特徴	技法の特徴	色彩 削上 焼成	備考
50-14	C-1 SB-18	深鉢	-	I口縁部は把手する。	口縁部にRL繩文が施される。	2.5YR7/2K黄色 長石、砂粒含む 良好	
50-15	C-1 SB-15	深鉢	-	底部は内折する。	口縁部にRL繩文が施される。	7.3YR6/4C-2K白色 白色粘子、砂粒含む 良好	
50-16	C-1 SB-15	深鉢	-	I口縁部はやや内側する。	口縁部にRL繩文が施される。	7.3YR6/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-17	C-1 SR-16	深鉢	-	口縁部は外方に開く。	I口縁部にRL繩文が施される。側面部は擦文。	10YR8/2K褐色 白色粘子、砂粒含む 良好	
50-18	C-1 SH-16	深鉢	-	折り返し口縁で、端部はやや肥厚する。	I口縁部外側は削文で、端部にRI刻文が施される。	10YR8/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-19	C-1 SH-18	深鉢	-	折り返し口縁で、端部はやや肥厚する。	端部にRL繩文が施される。外側は擦痕状工具による 状態文が施される。	7.3YR6/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-20	C-1 SH-21	深鉢	-	やや内側する口縁部。	端部にRL繩文が施される。	7.3YR6/4C-2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-21	C-1 SB-9	深鉢	-	外方に開く口縁部。	端部にRL繩文が施される。	10YR7/2K褐色 長石、砂粒、砂粒含む 良好	
50-22	C-1 SB-21	深鉢	-	口縁部山や外反し、端部は内折する。 被削工具をもつ。	外面は削文で、端部、内側にRI繩文が施される。	7.3YR6/4C-2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-23	C-1 SB-16	深鉢	-	やや内側ぎみのI口縁部。	口縁部にRI刻文が施される。	10YR8/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-24	C-1 SB-21	深鉢	-	口縁端部は内折する。	口縁部外側は削文で、端部にRI繩文が施される。内側にRL繩文が施される。	7.3YR6/3K-2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-25	C-1 N-9	深鉢	-	口縁端部は内折する。	I口縁端部に状態文が施される。外側は削文。	7.3YR6/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-26	C-1 SB-1	深鉢	-	肥がるI口縁部。	内外両面にRI繩文が施される。外面に半彫竹管状工具による 平行縞文が施される。	7.3YR6/3K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
50-27	C-1 SH-9	深鉢	-	内側する口縁部。	削文を地文に半彫竹管状工具による平行縞文が2 系統ある。	10YR7/2K褐色 白色粘子、砂粒、砂丹含む 良好	
51-1	C-1 SH-20	深鉢	-	内側する口縁部。	半彫竹管状工具による状態文が口縁部に施される。	7.3YR6/4C-2K褐色 白色粘子、砂粒含む 良好	
51-2	C-1 SH-16	深鉢	-	内側する口縁部。	RI刻文を地文に斜彫文、平行縞文が口縁部に施される。	2.5YR7/2K褐色 白色粘子、砂粒含む 良好	
51-3	C-1 SB-9	深鉢	-	内側する口縁部。	RI繩文と地文に弧彫文、平行縞文が口縁部に施される。	2.5YR7/2K褐色 白色粘子、砂粒含む 良好	
51-4	C-1 L-12	深鉢	-	内側する口縁部。	RI繩文を地文に弧彫文、平行縞文が口縁部に施される。	7.3YR6/4C-2K褐色 白色粘子、砂粒、砂丹含む 良好	
51-5	C-1 SD-12	深鉢	-	外反しながら立ち上がり、口縁部 は内折する。	RI繩文を地文に弧彫文、平行縞文が口縁部に施される。	7.3YR6/3K褐色 白色粘子、砂粒、砂丹含む 良好	
51-6	C-1 SB-19	深鉢	-	やや内側する口縁部。	擦痕状工具による条彫文を地文にI口縁部、底部に弧 彫文が施される。	7.3YR6/0明褐色 長石、砂粒含む 良好	
51-7	C-1 SD-29	深鉢	-	やや内側する口縁部。	擦痕状工具による条彫文を地文とする。	2.5YR6/2K褐色 長石、砂丹含む 良好	
51-8	C-1 SB-16	深鉢	-	やや内側する口縁部。	擦痕状工具による条彫文を地文とする。	7.3YR7/1K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
51-9	C-1 SB-14	深鉢	-	削側はやや膨らみ、I口縁部は内側 する。	RI繩文を地文に半彫竹管状工具による平行縞文と 縦縞文I口縁部に施される。	7.3YR6/1K褐色 白色粘子、砂粒、砂丹含む 良好	
51-10	C-1 SB-10	深鉢	-	やや内側する削側。	擦痕状工具による条彫文を地文とする。	7.3YR6/4C-2K褐色 長石、砂丹含む 良好	
51-11	C-1 SB-10	深鉢	-	外方に開く削側。	擦痕状工具による条彫文を地文とする。	7.3YR6/4C-2K褐色 長石、砂丹含む 良好	
51-12	C-1 SH-12	深鉢	-	口縁端部は内折する。	I口縁部は削文で、削痕状工具が削れ。	10YR6/1K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
51-13	C-1 SH-12	深鉢	-	I口縁部は外方に開く。	I口縁部は削文で、削痕状工具が削れ。	10YR6/2K褐色 長石、白色粘子、砂粒含む 良好	
51-14	C-1 史前群2	深鉢	-	口縁部は内側する。	口縁部に状状の突起を2段階し、横円文を描出す る。	5YR7/6褐色 長石、砂粒、砂丹含む 良好	
51-15	C-1 SB-18	深鉢	-	I口縁部は内側する。	口縁部に状状の突起を1段階し、横円文を描出す る。	5YR7/6褐色 白色粘子、砂粒、砂丹含む 良好	

表24 繩文土器観察表23

番号	測定箇所	基盤	口縁 底盤	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 表面	備考
31-16	C-1 SB-6	深鉢	-	脛部は膨らみ、腹部は外方へ聞く。	無文、指痕削跡。	7.5YR6/3に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
31-17	C-1 SB-1	深鉢	-	脣部は膨らみ、腹部を外方へ聞く。	L1縫合に粘土帯を付する。17-18と同一個体。	10YR11/8褐色 黄石、白色粘土、砂粒含む 良好	
31-18	C-1 SB-1	深鉢	-	脣部は膨らみ、腹部は外方へ聞く。	毛織文を地文に模様に刻縫港が走り、脣部に垂下する。	7.5YR6/3に近い褐色 黄石、白い斑点、砂粒含む 良好	
31-19	C-1 SB-1	深鉢	-	底盤口縁を呈する。	口縁部に山形に粘土帶を付する。	7.5YR5/1褐色 黄石、白色含む 良好	
32-1	C-1 SH-20 埋蔵	浅鉢	(37.2)	脣上部で膨らみ、口縁部はやや外反する。	L1縫合に粘土帯を付する。外縫には墨文。内縫はミヨリ網目。L1縫合に補修孔が2ヶ所ある。	5YR5/6明るい褐色 黄石、白色含む 良好	
32-2	C-1 SB-19	浅鉢	23.1	L1縫合部は内折する。	L1縫合部は内折による凹凸による溝文を口縁部に施す。	5YR5/11に近い黄褐色 黄石、石英含む 良好	
32-3	C-1 SH-16	浅鉢	(39.4)	脣上部で膨らみ、口縁部は外反する。	口縁部は無文で、脣上部は比較と背帶による彫巻つた文が施される。	5YR5/4に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
33-1	C-1 SB-2	鉢	33.0 縫合部26.5 底盤部26.0	L1縫合部は外へ張り出し、脣部が張り出す。	L1縫合部は無文で、脣上部は比較による凹凸内に斜縫文が施す。	5YR4/2褐色 黄石、白色含む 良好	
33-2	C-1 SB-12	鉢	28.0 (8.0)	脣部が張り出す。	L1縫合部は無文で、脣上部は比較による彫巻つた文が施す。	7.5YR4/2褐色 黄石、白い斑点 良好	
33-3	C-1 SB-10 埋蔵	鉢	13.4 縫合部14.8 底盤部14.8	脣部は膨らみ、L1縫合部はやや外反する。	L1縫合部は無文で、脣部は沈降による区画内に斜縫文が施す。	7.5YR4/2褐色 黄石、白色含む 良好	
33-4	C-1 SB-27	両耳壺	(10.3)	脣部は膨らみ、口縁部はやや外反しないが立ち上がる。底盤口縁が2つつく。	口縁部は無文で、脣下、脣上部に円形の刺突文が施される。脣部は沈降による溝文と斜縫文がつく。	10YR5/2褐色 黄石、石英含む 良好	
33-5	C-1 SB-27	両耳壺	刺縫部17.4	脣部は膨らみ。	地文に縫文を用い、刺縫工具による状痕による彫巻文を施す。	7.5YR3/1に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
33-6	C-1 SB-16	両耳壺	21.1 縫合部42.0 底盤部25.8	脣部は膨らみ、脣下部で内傾し、底盤部はほぼ直上する。口縁部は無文。	脣部は、肥厚化子と突起が安方につく。底盤と沈降による斜縫文と溝文で、区画内にハサの比較縫文がなされる。	5YR5/4に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
33-7	C-1 3号配石	両耳壺	-	脣部は膨らみ、口縁部はやや外反しないが立ち上がる。底盤口縁が2つつく。	脣部は肥厚化と沈降による斜縫文を施し、区画内にハサの比較縫文が施す。底盤が厚く、文様がはっきりしない。	7.5YR6/4に近い褐色 黄石、白い斑点 良好	
33-8	C-1 SB-1	両耳壺	23.0 縫合部23.2 底盤部31.2	脣部は膨らみ、口縁部はやや外反しないが立ち上がる。底盤口縁が2つつく。	口縁部は無文、脣部は薄壁と沈降による溝文を施す。区画内にハサの比較縫文が施される。	5YR4/2褐色 黄石、石英含む 良好	
34-1	C-1 SB-1	深鉢	-	口縁部は外方へ聞く。脣部はやや膨らむ。	脣S字記号が2つと脣外縫の突起が安方につく。L1縫合部は無文で、脣部は平行状態で真真正まの斜縫文が施される。	7.5YR6/4に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
34-2	C-1 SB-2	深鉢	-	外反する脣部。	脣部に把手がつく。脣部による物字目文が下部につく。	7.5YR2/4に近い褐色 黄石、白色粘土、砂粒含む 良好	
34-3	C-1 SB-11	深鉢	-	外反する脣部。	脣部に把手がつく。脣部と沈降による区画内に列凸文がつく。	10YR4/2暗褐色 黄石、砂粒、白色含む 良好	
34-4	C-1 SB-9	深鉢	-	L1縫合部は外反し、脣部は肥厚する。	L1縫合部は無文で脣部に把手がつく。脣部には沈降によるS字記号がつく。	10YR4/4に近い褐色 黄石、白色含む 良好	
34-5	C-1 K-10	深鉢	-	外反する脣部。	大柄のX字状把手がつく。	10YR4/2大柄褐色 黄石、白色含む 良好	
34-6	C-1 SB-12	深鉢	-	外反する脣部。	脣部に把手がつく。上部に孔がつく。沈降による区画内に斜縫文が施される。	10YR5/2暗褐色 黄石、砂粒、白色含む 良好	
35-1	C-1 K-10	両耳壺	-	内側する脣部。	脣上部に把手がつき、沈降による彫巻文がつく。	7.5YR6/4に近い褐色 白色粘土、石英含む 良好	
35-2	C-1 L-16	両耳壺	-	内側する脣部。	脣上部に把手がつき、把手周辺に内側斜縫文がつき、地文にL1縫合文を施し、中央に沈降による骨突文。	10YR4/2大柄褐色 黄石、白色粘土、砂粒含む 良好	
35-3	C-1 19号配石	両耳壺	-	内側する脣部。	脣と底部に把手がつき、把手、上下4つの孔がみられる。底部は太い沈降による溝文が施される。	7.5YR6/4に近い褐色 白色粘土、石英含む 良好	
35-4	C-1 3号配石	両耳壺	-	内側する脣部。	脣上部に把手がつき、地文に刺縫工具による斜縫文と地文に太い沈降による彫字文がつく。	7.5YR6/4に近い褐色 白色粘土、石英含む 良好	
35-5	C-1 SB-3	約手土器	14.2 8.0 24.6	2底式の約手土器2件の底盤の間に、底盤の把手を付ける。	底盤部分の底盤はU字底盤。底盤の把手部。半圓形の底盤による底盤が施される。底盤は每段尖端を有する。	2.5YR5/6明るい褐色 黄石、石英含む 良好	
36-1	C-1 II-7	約手土器	-	約手はや上方に張り出し、断面は一角形。	断面に穿孔する。	7.5YR6/6褐色 黄石、石英含む 良好	
36-2	C-1 SB-2	約手土器	-	約手はやや膨らむ。	脣に穿孔する。約手は沈降が施される。	10YR3/2褐色 黄石、白色含む 良好	
36-3	C-1 L-12	約手土器	-	膨らむ約手。	脣に穿孔する。外縫は無気。	7.5YR6/6褐色 黄石、白色含む 良好	

表25 繩文土器観察表24

番号	調査区 遺構	算積 器	LI浮 遊保 留度	形態の特徴	模様の特徴	色調 胎土 施上 施	備考
56-4	C-1 SB-10	蹲付土 器	-	脚部部分。	脚に穿孔する。	7.5YR6/6褐色 長石、石英含む 良好	
56-5	C-1 SB-14	蹲付土 器	-	脚部は膨らみ、底部は凹れる。	脚に穿孔する。外面は無文。	7.5YR6/6褐色 長石、石英含む 良好	
56-6	C-1 K-11	蹲付土 器	-	外方へ向く脚部。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	10YR6/2褐色 長石、石英含む 良好	
56-7	C-1 SB-2	蹲付土 器	-	脚らし切跡。	脚に穿孔する。脚部は比較的は深く、底部は比較的は浅い。	7.5YR6/6よい褐色 長石、石英含む 良好	
56-8	C-1 J-11	蹲付土 器	-	脚部は膨らむ。赤色焼付付着。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	7.5YR6/6よい褐色 長石、石英含む 良好	
56-9	C-1 J-13	蹲付土 器	-	脚部は膨らむ。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	7.5YR6/6褐色 長石、石英含む 良好	
56-10	C-1 K-11	蹲付土 器	-	口縁部は平底で立ち上がり、脚部 は膨らむ。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	10YR6/2褐色 長石、石英含む 良好	
56-11	C-1 SB-9	唇形土 器	-	口縁部は直面で底面に立ち上がり がる。脚部は膨らむ。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	3YR6/2褐色 奥石、黑色粘土を含む 良好	
56-12	C-1 J-9	唇形土 器	-	脚部は膨らむ。赤色焼付付着。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	10YR5/3Cよい褐色 長石、石英含む 良好	
56-13	C-1 SB-8	唇形土 器	-	脚部は膨らむ。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	10YR5/3Cよい褐色 黑色粘土、長石含む 良好	
56-14	C-1 K-13	唇形土 器	-	口縁部は直面で外反しながら立ち上 がる。脚部は膨らむ。赤色焼付付着。	脚に穿孔する。脚部は比較的は浅い。	10YR6/2Cよい褐色 長石、石英含む 良好	
56-15	C-1 I-11	唇形土 器	-	口縁部は直面で、断面に立ち上りが る。脚部は膨らむ。赤色焼付付着。	2本1組で脚に穿孔する。脚部は直面で比較的 し、断面に比較的は浅い。	7.5YR6/4Cよい褐色 長石、石英含む 良好	
57-1	C-1 SB-2	深鉢	7.5	底部からハ字に開く。	沈縫が映下す。	SYR6/6褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-2	C-1 L-14	深鉢	9.0	底部よりやや低座しながら立ち上 がる。	沈縫が映下し、開閉に同沈縫が映下す。	SYR6/6Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-3	C-1 SB-8	深鉢	7.3	やや膨らみながら立ち上る。	横向柱工具による条縞文を複数に施し、横向柱工具による横向柱条縞文が映下す。	SYR5/6C褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-4	C-1 SB-1	深鉢	7.4	底部からハ字に開く。	横縫が映下す。	SYR6/6Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-5	C-1 G-8	深鉢	9.8	底部からハ字に開く。	縦縫による横縞文がつき、ハ字の横縞文がつき。	SYR6/6褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-6	C-1 SB-14	深鉢	8.4	底部からハ字に開く。	縦縫と比較して底面された内側は横向柱工具による条 縞文が映下す。	10YR6/3Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-7	C-1 SB-10	深鉢	8.0	底部からハ字に開く。	垂直的な縦縫がつく。	2.5YR6/6褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-8	C-1 表面	深鉢	11.8	底部から外反しながら立ち上 がる。	時代痕。	7.5YR7/4Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-9	C-1 1号埋甕	深鉢	6.6	底部からやや膨らみながら立ち上 がる。	時代痕。	10YR7/4Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-10	C-1 2号重石乳	深鉢	8.0	底部からハ字に開く。	時代痕。	SYR6/6Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-11	C-1 I-10	深鉢	9.0	底部からハ字に開く。	病代痕。	7.5YR7/4Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-12	C-1 SB-8	深鉢	(9.2)	底部からハ字に開く。	病代痕。	7.5YR6/6Cよい褐色 長石、白色粘子含む 良好	
57-13	C-1 J-13	深鉢	9.7	底部からハ字に開く。	病代痕。	2.5YR4/3褐色 長石、砂粒含む 良好	
57-14	C-1 M-12	深鉢	(9.5)	底部からハ字に開く。	病代痕。	7.5YR7/4Cよい褐色 長石、砂粒含む 良好	
58-1	C-1 K-10	深鉢	-	底面的にのびる口縫部。	口縫部上端にN1文を施す。	10YR5/1褐色 長石、石英含む 良好	
58-2	C-1 SB-10	深鉢	-	内側する口縫部。	口縫部上端にLN文を施す。	10YR6/2褐色 長石、石英含む 良好	
58-3	C-1 SB-10	深鉢	-	内側する口縫部。	LN縫部上端にLN文を施す。	10YR6/2褐色 長石、石英含む 良好	

表26 縄文土器觀察表25

番号	調査区 遺構	古編	口径 縁幅 厚さ	形態の特徴	施法の特徴	色調 刷毛 刷毛成	備考
58-4	C-1 L-12	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部上端にLR施文を施す。	7.3YR6/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-5	C-1 (7号配石)	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部上端にLR施文を施す。	7.3YR6/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-6	C-1 L-13	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部に施文があり、直線的なモチーフが並んでる。	10YR7/3に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-7	C-1 J-9	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部に無文帯を置きかず、LR施文を施す。	10YR7/3に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-8	C-1 M-14	深鉢	—	直状口縁。	口縁部は直線的な比縁間にLR施文を充填する。	10YR6/4に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-9	C-1 N-15	深鉢	—	内側する直状口縁。	比縁間にLR施文を充填する。	10YR6/4に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-10	C-1 K-11	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部上端にLR施文を施し、内外間に内側施文がつく。	10YR7/3に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-11	C-1 L-12	深鉢	—	中や内側する口縁部。	2本の比縁間にLR施文を充填する。	5YR2/3に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-12	C-1 F-10	深鉢	—	内側しながら底部は外へ張る。	直線的な比縁間にLR施文を施す。	3YR6/6褐色 砂粒含む 良好	
58-13	C-1 灰原	深鉢	—	やや内側する口縁部。	口縁部に無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を施す。	10YR7/3に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-14	C-1 I-9	深鉢	—	口縁部は内側やや肥厚する。	口縁部に無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を充填する。	10YR7/3に近い黄褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-15	C-1 I-10	深鉢	—	口縁部は内側やや肥厚する。	口縁部は無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を充填する。	10YR6/4に近い黄褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-16	C-1 J-9	深鉢	—	中や内側する口縁部。	口縁部は無文帯を置き、比縁間にLR施文を充填する。	7.5YR7/3に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-17	C-1 H-7	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部は無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を充填する。	7.3YR6/6褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-18	C-1 I-10	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部は無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を充填する。	10YR6/2灰青褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-19	C-1 18号配石	深鉢	—	外方に聞く口縁部。	口縁部と比縁間にLR施文が施される。	7.5YR7/3に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-20	C-1 K-10	深鉢	—	やや内側する口縁部。	口縁部に無文帯を形成し、2本1組の比縁間にLR施文を充填する。	10YR7/3に近い黄褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-21	C-1 M-14	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部に無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を施す。	7.3YR7/3に近い黄褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-22	B-2 N-4	深鉢	—	肥厚する口縁部。	2本の比縁間にLR施文を充填する。	5YR6/6褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-23	C-1 N-14	深鉢	—	外方に聞く口縁部。	2本の比縁間にLR施文を施す。	7.3YR6/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-24	C-1 33号配石	深鉢	—	口縁部は内側し、肥厚する。	比縁間にLR施文を充填する。	7.5YR7/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-25	C-1 L-14	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部は無文帯を置き、比縁間にLR施文を施す。	7.5YR7/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-26	C-1 J-19	深鉢	—	外反する口縁部。	2本の比縁間にLR施文を施す。	7.3YR7/4に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-27	C-1 J-8	深鉢	—	内側する口縁部。	口縁部に無い無文帯を置き、2本1組の比縁間にLR施文を施す。	7.5YR5/3褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-28	C-1 L-14	深鉢	—	外方に聞く口縁部。	口縁部に無文帯を置き、2本1組の比縁文があり、比縁間にLR施文を施す。	7.3YR4/4灰褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-29	C-1 L-13	深鉢	—	内側する口縁部。	2本1組の比縁間にLR施文を施す。	10YR7/4に近い黄褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-30	B-2 N-3	深鉢	—	口縁部は内側する。	直線的な比縁間にLR施文を充填する。	10YR7/3に近い黄褐色 砂粒、砂粒含む 良好	
58-31	C-1 I-10	深鉢	—	口縁部は内側し、肥厚する。	象形状の凹溝内にU字状のモチーフがつく。	7.5YR5/2に近い褐色 石突、砂粒含む 良好	
58-32	C-1 N-14	深鉢	—	波状口縁を呈する。	比縁間にLR施文。	5YR5/6暗赤褐色 砂粒、砂粒含む 良好	

表27 繩文土器觀察表26

番号	調査区 遺跡	断層	口徑 底径 高さ	形状の特徴	技術の特徴	色調 物性 組成	備考
59-2	C-1 M-14	深鉢	- -	波状口縁を有する。	太い芯縫間にLR繩文。	SYR6/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-3	C-1 I-12	深鉢	- -	波状口縁を有する。	口縫間にL形の芯縫線を有する。	10YR4/12の黄褐色 石英、表面含む 良好	
59-4	C-1 J-10	深鉢	-	波状口縁を有する。	芯縫間にLR繩文。	7.5YR6/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-5	C-1 L-14	深鉢	-	波状口縁を有する。	太い芯縫間にLR繩文。	7.5YR5/16の褐色 石英、表面含む 良好	
59-6	C-1 L-15	深鉢	-	波状口縁を有する。	口縫間に刺突文を施し、芯縫間にLR繩文を施す。	7.5YR5/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-7	C-1 I-18	深鉢	-	外反する脚部。	芯縫間にLR繩文を充満。	10YR4/12の黄褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-8	C-1 33号配石	深鉢	-	外反する脚部。	芯縫間にL形繩文を充満。	7.5YR6/15の褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-9	C-1 L-12	深鉢	-	内凹する脚部。	芯縫間にLR繩文を充満。	7.5YR5/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
59-10	C-1 K-10	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間に繩文。	SYR5/4Cの褐色 砂粒含む 良好	
59-11	C-1 L-12	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間に繩文。	7.5YR6/15の褐色 砂粒含む 良好	
59-12	C-1 I-12	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間にLR繩文を充満。	10YR4/12の黄褐色 石英、表面含む 良好	
59-13	C-1 I-8	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間にLR繩文を充満。	7.5YR6/16の褐色 石英、表面含む 良好	
59-14	C-1 I-11	深鉢	-	内凹する脚部。	芯縫間に刺突文とLR繩文。	7.5YR5/16の褐色 石英、表面含む 良好	
59-15	B-2 O-7	深鉢	-	脚部は膨らみ、堅厚はやや低れる。	円形をミナーフに、芯縫間にLR繩文を施す。	7.5YR5/16の褐色 石英、表面含む 良好	
60-1	C-1 18号配石	深鉢	-	内凹する脚部。	芯縫間に例文が施される。	7.5YR6/15の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-2	B-2 M-4	深鉢	-	内凹する脚部。	芯縫間に例文が施される。	7.5YR6/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-3	H-2 N-3	深鉢	-	波状口縁。中央に凸アリ。	芯縫間に例文が施される。	10YR1/4Cの黄褐色 石英、表面含む 良好	
60-4	J-9	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	I生の比較が脚位に施され、曲線的な沈窓がつく。	7.5YR7/4Cの褐色 砂粒含む 良好	
60-5	C-1 H-9	深鉢	-	I生脚部は肥厚する。	脚位に刺突文がつき、曲線的な沈窓が施される。	7.5YR7/4Cの褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-6	C-1 17号配石	深鉢	-	口縁部はやや肥厚し水平な面を形成する。	脚位に1条の沈窓が張り壓下する。	10YR6/16の褐色 砂粒含む 良好	
60-7	C-1 I-10	深鉢	-	口縁部はやや肥厚し水平な面を形成する。	I生脚部には脚位に刺突文が施る。曲線的な沈窓が施される。	10YR1/4Cの黄褐色 石英、表面含む 良好	
60-8	H-2 N-3	深鉢	-	波状口縁を有する。	半円形の突起が波状縁が施される。肩部は曲線的な沈窓がつく。	10YR6/16の褐色 石英、表面含む 良好	
60-9	C-1 I-10	深鉢	-	口縫部に円形の刺突文がつく。	I生の沈窓が脚位に通り沈窓が底下する。	7.5YR5/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-10	B-2 K-5	深鉢	-	やや内凹する口縁部。	横皮に1条の沈窓が張り壓下する。	7.5YR6/15の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-11	B-2 N-3	深鉢	-	やや外反する口縁部。	脚位に1条の沈窓が張り壓下する。	10YR5/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-12	B-2 M-4	深鉢	-	外方に開く脚部。	脚位に1条の沈窓が通り压下する。	7.5YR6/16の褐色 砂粒、表面含む 良好	
60-13	C-1 33号配石	深鉢	-	外方に開く脚部。	脚位に2条の沈窓がある。	SYR5/4Cの褐色 石英、表面含む 良好	
60-14	C-1 L-14	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間に例文が施される。	SYR5/4Cの褐色 石英、表面含む 良好	
60-15	C-1 M-13	深鉢	-	外方に開く脚部。	芯縫間に例文が施される。	7.5YR6/16の褐色 石英含む 良好	

表28 繩文土器観察表27

番号	調査区 遺跡	器種	口縁 底盤 裏面	形態の特徴	技法の特徴	色調 釉上 焼成	備考
60-16	B-2 N-4	深鉢	-	斜口縁が堅らむ。	曲線的な底盤間に列点文が施される。	7.5YR/6.5G/褐色 石英、黄母貝含む 良好	
60-17	B-2 L-17	深鉢	-	外方へ聞く斜面。	曲線的な底盤間に列点文が施される。	7.SYR6/4C/褐色 石英、共石合む 良好	
60-18	C-1 L-12	深鉢	-	外方へ聞く斜面。	曲線的な底盤間に列点文が施される。	5YR7/6G/褐色 石英、共石合む 良好	
60-19	C-1 I-10	深鉢	-	外方へ聞く斜面。	曲線的な底盤間に列点文が施される。	10YR4/6G/褐色 石英、共石合む 良好	
60-20	C-1 L-12	深鉢	-	残れる斜面。	底盤間は無文で、曲線的な斜面が施される。	5YR6/4C/褐色 石英、共石合む 良好	
60-21	C-1 SB-17	深鉢	-	残れる斜面。	底盤間は無文で曲線的な斜面が施される。	7.SYR6/褐色 砂利含む 良好	
61-1	B-2 M-3	深鉢	-	底状口縁を呈する。	幾形状の底盤内にRI點文を充満する。	10YR6/4C/褐色 石英、砂利含む 良好	
61-2	C-1 H-9	深鉢	-	波状口縁を呈する。	S字状の突起がついてはれない。刺突文が付されLKLK 縦文が差す。	10YR6/4C/褐色 砂利、黄母貝含む 良好	
61-3	C-1 17号配石	深鉢	-	波状口縁を呈する。	走C字状の比較が施される。	7.5YR6/4C/褐色 雲母、砂利含む 良好	
61-4	C-1 22号配石	深鉢	-	波状口縁を呈する。	底面部に円形の刺突文が付され、下部に2点字網文 が施される。	SYR5/3C/褐色 雲母、共石合む 良好	
61-5	B-2 N-3	深鉢	-	波状口縁を呈する。	円窓の刺突文が付される。	7.5YR6/4C/褐色 石英、黄母貝含む 良好	
61-6	B-2 M-3	深鉢	-	口縁部は水平な輪廻を形成。	波筋部に走C字状の比較が施される。	10YR6/3C/褐色 石英、雲母含む 良好	
61-7	C-1 33号配石F	深鉢	-	波状口縁を呈する。	波筋部は門形の刺突文が付される。刺突と波筋が重 ねに入る。	10YR7/4C/褐色 石英、共石合む 良好	
61-8	C-1 H-9	深鉢	-	波状口縁を呈する。	門形の刺突文が2本付けられL字状を呈する。底盤に よる波筋文が施され、刺突文と波筋文がつく。	5YR5/4C/褐色 雲母、共石合む 良好	
61-9	C-1 M-14	深鉢	-	玲瓏状突起。	L字状に捻軸し、孔は貫通しない。	7.SYR5/4C/褐色 雲母、砂利含む 良好	
61-10	C-1 M-14	深鉢	-	捻軸状突起。	L字状に捻軸し、孔は貫通しない。	SYR6/6G/褐色 共石、砂利含む 良好	
62-1	C-1 SB-2	深鉢	底盤径 74.9	口縁部はやや外反し、削離は折れ て斜下部は堅らむ。	底縫による堅文がつく。例点文はつかない。	7.5YR6/4C/褐色 雲母、砂利、黄母貝含む 良好	
62-2	C-1 33号配石	深鉢	(39.40)	口縁部はやや外反し、削離は折れ て斜下部は堅らむ。	口縫部から3本1単位の堅文が施される。	7.5YR6/4C/褐色 雲母、共石、黄母貝含む 良好	
62-3	C-1 I-9	深鉢	(39.9) 底盤径 31.1	口縁部はやや外反し、削離は折れ て斜下部は堅らむ。	口縫部に1条の比較が施る。地縫文による 堅文が施される。	7.5YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
62-4	B-2 M-6	深鉢	23.8 10.4 26.0	口縁部はやや外反し、削離は折れ て斜下部は堅らむ。	口縫部に都心の比較が施り、堅文と斜位の比較が 施される。補修瓦リ。	10YR6/4C/褐色 共石、石英、黄母貝含む 良好	
62-5	B-2 O-6	深鉢	-	口縁部は波状口縁を呈し、やや外 反する。	地縫にL字縫文を施し、口縫部に1条の比較が施る。 削離は削離による捺行文がつく。	7.SYR6/6G/褐色 砂利、共石合む 良好	
62-6	B-2 SB-1	深鉢	(39.4) 底盤径 23.9	口縫部が大きく剥れ。削離は球状に 堅らむ。	口縫部に1条の堅文が施る。X字状の堅文が施さ れ、3本の堅文文がみられる。	10YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
63-1	C-1 SH-17	深鉢	29.7 底盤径 25.5	波状口縫を呈し、突起と小穴が付 るなど。	削離は大きくなれ、削離は壁状に堅らむ。口縫部に 1条の比較が施されL字縫文がつく。	7.5YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
63-2	C-1 J	深鉢	-	削離に縫を呈し、削離は大きくな れ削離は壁状に堅らむ。	口縫部に1条の比較が施る。削離はL字縫文がつく。 2条の比較間に例点文がみられ、削離は堅文がつく。	10YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
63-3	B-2 O-6	深鉢	(28.3) 18号配石 7.0 31.1	半V縫を呈し、削離はやや削離 は壁状に堅らむ。	口縫部に1条の比較が施り、3本の堅文が付され る。堅文がつく。	7.5YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
63-4	C-1 SH-17	深鉢	-	堅状口縫を呈し、削離は付削離 は堅らむ。	口縫部に比較が施され、山形の突起に堅文が付 く。削離は堅文。	7.5YR6/4C/褐色 共石、雲母、共石合む 良好	
64-1	C-1 I-7	深鉢	-	外方へ聞く口縫部。	口縫部に2点の堅文がつき、1条の比較が施る。 削離は堅文がつく。	2.5YR6/6G/褐色 雲母、共石含む 良好	
64-2	C-1 II-7	深鉢	-	外方へ聞く口縫部。	口縫部に2点の堅文がつき、1条の比較が施る。 削離は堅文がつく。	7.5YR6/6G/褐色 共石、共石含む 良好	
64-3	C-1 K-10	深鉢	-	波状口縫を呈する。外方へ聞くコ 錆部。	口縫部に2点の堅文がつき、1条の比較が施る。 削離は堅文がつく。	10YR6/4C/褐色 共石、共石含む 良好	

表29 梶文土器観察表28

番号	測定区 選別	基準	口縁 底盤 側面	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 質感	備考
64-4	C-1 K-11	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に3点の刺突文がつき、1条の沈線がある。側面は摺出文がつく。	7.5YR6/14.5-15.5褐色 黄石、良石含む 良好	
64-5	C-1 J-10	深鉢	-	波状口縁を見する。外方へ開く口縁部。	口縁部に3点の刺突文がつき、1条の沈線がある。側面は摺出文がつく。	7.5YR2/14.5-15.5褐色 黄石含む 良好	
64-6	C-1 33号配石	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。1条の沈線がある。側面は摺出文がつく。	7.5YR3/14.5-15.5褐色 黄石含む 良好	
64-7	C-1 J-10	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。1条の沈線がある。側面は摺出文がつく。	10YR7/14.5-15.5黃褐色 良石含む 良好	
64-8	C-1 G-8	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は刺突文と側面の沈線が重複する。	7.5YR3/3褐色 良石、石英含む 良好	
64-9	C-1 33号配石	深鉢	-	波状口縁を見する。外方へ開く口縁部。	4条の沈線が重複する。	10YR6/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-10	C-1 SB-1	深鉢	-	波状口縁を見する。外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は2条1半位の沈線が斜めに並んで下る。	2.5YR6/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-11	C-1 I-7	深鉢	-	半や外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が重複する。側面は斜位の沈線が重複する。	7.5YR7/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-12	B-2 SK-01	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部は1条の沈線がある。側面は3条の沈線が重複する。	7.5YR4/3褐色 長石、石英含む 良好	
64-13	C-1 SB-25	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部は波状口縁部に刺突文がつく。側面は斜位、斜位の摺出文がつく。	5YR5/14.5-15.5赤褐色 良石、石英含む 良好	
64-14	C-1 J-10	深鉢	-	内折する口縁部。	口縁部は斜面間に刺突文が重なる。側面は斜位、斜位に波状文がつく。	10YR6/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-15	C-1 33号配石	深鉢	-	半や外反する口縁部。	口縁部は斜面間に刺突文が重なる。側面は斜位に波状文が重複する。	10YR7/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-16	C-1 J-10	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部は波状で凹凸される。側面に3条の摺出文と斜位の沈線がつく。	7.5YR6/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-17	B-2 M-4	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に刺突文が高まる。側面は斜位に波状文がつく。	7.5YR7/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-18	C-1 J-10	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は平行摺出文がつく。	7.5YR7/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-19	C-1 K-14	深鉢	-	波状口縁を呈する。外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は平行摺出文がつく。	7.5YR6/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-20	C-1 33号配石	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は平行摺出文がつく。	10YR7/14.5-15.5黃褐色 良石、石英含む 良好	
64-21	C-1 25号配石	深鉢	-	波状口縁を見する。外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は平行摺出文がつく。	7.5YR6/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-22	C-1 J-10	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。側面は平行摺出文と斜位文がつく。	5YR6/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-23	C-1 K-11	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に5条の沈線がある。側面は平行摺出文がつく。	7.5YR6/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
64-24	C-1 N-3	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	側面は平行摺出文がつく。	7.5YR5/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
65-1	C-1 11号配石	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	比較による区間に平行摺出文がつく。	7.5YR5/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
65-2	C-1 K-11	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	2条1半位の平行摺出文がつく。	7.5YR6/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
66-1	C-1 20号配石	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	10YR7/4に近い黃褐色 長石、石英含む 良好	
66-2	C-1 33号配石	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	7.5YR4/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
66-3	B-2 M-4	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	7.5YR4/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
66-4	C-1 J-10	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	7.5YR5/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
66-5	B-2 N-4	深鉢	-	中や内折する口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	7.5YR5/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	
66-6	C-1 I-7	深鉢	-	外方へ開く口縁部。	口縁部に1条の沈線がある。	7.5YR5/14.5-15.5褐色 良石、石英含む 良好	

表30 繩文土器観察表29

番号	調査区 遺跡	若様	口縁 底盤 器底	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 形成	備考
66-7	C-1 H-7	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR6/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-8	C-1 H-8	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-9	H-2 SB26	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR4/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-10	C-1 20号配石	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	10YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-11	B-2 SB26	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-12	B-2 N-4	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-13	C-1 J-10	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-14	C-1 H-7	深鉢	-	外反する口縁部底状口縁を呈す る。	底面部から削落感が残る。	10YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-15	B-2 36-37号配石 土坑	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-16	C-1 H-7	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-17	B-2 M-1	深鉢	-	外方へ聞く口縁部底状口縁を呈す る。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR2/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-18	C-1 I-10	深鉢	-	外反する口縁部底状口縁を呈す る。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に弧線文がつく。	7.5YR4/2に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-19	C-1 J-10	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に弧線文がつく。	7.5YR6/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-20	B-2 M-4	深鉢	-	口縁部は大きく内折する。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に刻文文、弧線文がつく。	5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-21	B-2 N-4	深鉢	-	外方へ聞く口縁部底状口縁を呈す る。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に円形の貫通孔 がつく。	7.5YR4/2に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-22	B-2 M-4	深鉢	-	底状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に弧線文がつく。	5YR1/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-23	B-2 P-6	深鉢	-	底状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部は円形の貫通孔 がつく。	5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-24	C-1 33号配石	深鉢	-	底状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部は円形刻文文が つく。	7.5YR7/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-25	C-1 I-9	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に弧線文がつく。	5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-26	B-2 N-4	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に刻文文がつく。	7.5YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-27	C-1 II-8	深鉢	-	底状口縁を呈する。	底面部に刻文文が2個つく。	10YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-28	C-1 33号配石	深鉢	-	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に円形刻文文が つく。	2.5YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-29	C-1 J-10	深鉢	-	底状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈線が進る。底面部に円形刻文文が つく。	7.5YR7/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-30	B-2 M-4	深鉢	-	底状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈線が進る。	7.5YR7/6に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-31	C-1 27-29号配石	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に円形刻文文がつく。	7.5YR7/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-32	C-1 H-8	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に円形刻文文がつく。	7.5YR5/6に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-33	C-1 I-8	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に円形刻文文がつく。	7.5YR5/8に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-34	C-1 II-8	深鉢	-	外方へ聞く口縁部。	口縁部に円形刻文文がつく。	10YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
66-35	C-1 K-10	深鉢	-	口縁部は肥厚しながら内折する。	底面部は円形刻文文がつく。	7.5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	

表31 繩文土器観察表30

番号	測定区 遺物	基準	口縁 並び 断面	形態の特徴	技術的特徴	色調 鉄土 成因	備考
67-1	C-1 I-8	深鉢	-	外へ聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR4/3赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-2	B-2 SH-27	深鉢	-	外へ聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR7/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-3	C-1 33号磨石	深鉢	-	内折する口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR3/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-4	B-2 O-6	鉢鉢	-	外へ聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-5	C-1 H-9	深鉢	-	やや外反し、内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-6	C-1 H-7	深鉢	-	やや内凹する鉢底	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR6/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-7	C-1 H-7	深鉢	-	外反する口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR4/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-8	B-2 N-3	深鉢	-	内折する口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR5/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-9	C-1 K-11	深鉢	-	外方に聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR4/1(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-10	B-2 N-4	深鉢	-	外方に聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-11	C-1 33号磨石	深鉢	-	外方に聞く口縁部	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR5/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-12	C-1 SH-25	深鉢	-	波状口縁を呈する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	5YR5/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-13	B-2 O-6	深鉢	-	波状口縁を呈する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-14	C-1 33号磨石	深鉢	-	口縁部は肥厚しながら内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR6/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-15	C-1 33号磨石	深鉢	-	口縁部は肥厚しながら内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR4/6(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-16	B-2 SH-26	深鉢	-	直状の縁を呈する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR5/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-17	C-1 H-9	深鉢	-	口縁部は肥厚しながら内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR6/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-18	C-1 H-9	深鉢	-	口縁部は肥厚しながら内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	10YR6/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-19	B-2 SH-26	深鉢	-	波状口縁を呈する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR5/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-20	C-1 H-9	深鉢	-	口縁部はやや内折する	口縁部に1条の沈継、その下に割みがつく。	7.5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-21	C-1 SH-8	深鉢	-	やや内凹する口縁部	円錐形突文が上下につく長槽円形沈継が口縁部を形成する。	10YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-22	C-1 33号磨石	深鉢	-	やや外反する口縁部	長槽円形沈継が底る。	7.5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-23	C-1 SH-9	深鉢	-	口縁部は肥厚する	円錐形突文がつき、長槽円形沈継文がつく。	10YR4/2赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-24	C-1 33号磨石	深鉢	-	波状口縁を呈する	口縁部に円錐形突文がつく。	5YR5/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-25	C-1 33号磨石	深鉢	-	波状口縁を呈する	口縁部に円錐形突文がつく。	5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-26	C-1 H-7	深鉢	-	口縁部は外方に聞く	口縁部に2本の沈継間に列点文がつく。	7.5YR5/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-27	C-1 L-13	深鉢	-	外方に聞く口縁部	口縁部に2本の沈継間に列点文がつく。	10YR6/3(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-28	C-1 H-7	深鉢	-	外方に聞く口縁部	口縁部に2本の沈継間に列点文がつく。	7.5YR6/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	
67-29	C-1 33号磨石	深鉢	-	口縁部は内折する	口縁部に2本の沈継間に内点文がつく。	7.5YR5/4(c)赤褐色 鉄土、石英含む 良好	

表32 繩文土器観察表31

番号	測定区 測定	断面	口径 底径 厚さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 焼成	備考
67-30	C-1 H-7	深鉢	-	外方に開くU縫合。	口縫合に2本の沈縫間に列点文がつく。	10YR14/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
67-31	C-1 H-9	深鉢	-	U縫合部は肥厚しながら外方に開く。	U縫合部に2本の沈縫間に列点文がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
67-32	B-2 SX-01	深鉢	-	口縫合部は外方に開く。	無文。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
67-33	B-3 K-3	深鉢	-	口縫合部は肥厚しながら内側にする。	無文。	10YR5/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-1	B-2 O-7	(25.1) 深鉢	-	底部は削れ、縫合部は球状に膨らむ。	U縫合部に沈縫が底る。側部はLSR織文を向かしに溝文と斜め文がつく。	7.5YR5/6C, 褐褐色 良石, 石英含む 良好	
68-2	B-2 O-6	深鉢	-	底部は削れ、側部は球状に膨らむ。	側部にU縫合文がつく。底部以下の文様はU縫合による巻毛文と直彎文の文様がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 不良	
68-3	B-2 N-4	深鉢	8.7	直彎的に開くU縫合。	U縫合文を地文にU縫合と列点文が施す。溝文文がつく。	SYR6/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-4	B-2 P-7	(26.7) 深鉢	-	底部は削れ、外反するU縫合。	縫合部は小さく立ち上がり、2点の刺繡痕がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-5	B-2 O-7	(30.1) 深鉢	-	底状U縫合を呈する。U縫合部は1条のU縫合部が通る。	口縫合から底位の側縫合が2本つき、側部には側縫合が2条あり8次點文がつく。底部は底位の盤半文がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-6	B-2 O-6	深鉢	-	外反するU縫合。底状U縫合を呈する。	底部より2条の刺繡痕がつく。底部は刺繡痕が1点進る。	7.5YR5/6C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-7	B-2 P-7	(29.6) 深鉢	-	直彎U縫合を見せる。	口縫合は1条のU縫合がつく。底部より2条の刺繡痕がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-8	B-2 O-6	(35.6) 深鉢	-	底状U縫合を見せる。	側縫合が小さく1点進する。側縫合より1条の刺繡痕がつく。側縫合は刺繡痕と8次點文がつく。	10YR5/4C, 10YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
68-9	B-2 N-3	深鉢	-	外反するU縫合。底状U縫合を呈する。	口縫合は1条のU縫合と円形刺繡文からなる。円形刺繡文之下には3条の直彎文がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-2	B-2 N-3	深鉢	-	外反する口縫合。底状U縫合を呈する。	口縫合は1条のU縫合と円形刺繡文からなる。円形刺繡文之下には3条の直彎文がつく。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-3	C-1 H-9	深鉢	-	底状U縫合を呈する。底部は削れ、膨らむ側部。	口縫合部は底進る。側部は削れが横段に通り、横帯文がつく。	10YR7/2C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-4	C-1 SH-25	深鉢	-	底状U縫合を呈する。	口縫合部に沈縫がつく。側部は側位に沈縫が進り、8次點文がつく。	10YR5/2C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-5	C-1 J-10	深鉢	-	外反するU縫合。	口縫合部に1条の沈縫が底る。側部は横段に沈縫がつく。	10YR6/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-6	C-1 N-4	深鉢	-	底状U縫合を呈する。	U縫合部に沈縫が底り、底部部に3点の刺繡文がつく。	7.5YR6/4C, 褐褐色 良石, 石英含む 良好	
69-7	B-2 SX-01	深鉢	-	底状U縫合を呈する。底部は削れ、膨らむ側部。	U縫合部に1条の沈縫がつく。側部は把手がつき、側縫合文がつく。	SYR5/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-8	C-1 32号配石	深鉢	-	底状U縫合を呈する。底部は削れ、膨らむ側部。	U縫合部は沈縫が進り、下に崩みがつく。側部は把手がつく。	10YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-9	C-1 32号配石	深鉢	-	底部は削れ、側部は膨らむ。口縫合部内側にする。	口縫合部は底進るに列点文がつく。側部は側位に沈縫が進る。	10YR5/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-10	C-1 I-11	深鉢	-	口縫合部は内折する。	口縫合部に刺繡文がつく。側部は把手がつき、側縫合文がつく。	7.5YR6/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
69-11	B-2 M-4	深鉢	-	底部は削れ、膨らむ側部。	口縫合部は沈縫間に列点文がつく。側部は把手が沈縫が進る。	7.5YR14/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-1	B-2 N-4	深鉢	-	膨らむ側部。	5本ないし1本1軸の沈縫が底下し、対孔状のモノチーフを呈する。	SYR5/9C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-2	C-1 P-7	深鉢	-	膨らむ側部。	側部は底位、側部、斜位の沈縫がつき、底状沈縫が底下する。	7.5YR7/6C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-3	C-1 21号配石	深鉢	-	膨らむ側部。	側縫合の沈縫間に列点文がつく。	7.5YR6/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-4	C-1 H-9	深鉢	-	膨らむ側部。	側縫合の沈縫間に列点文がつく。	7.5YR6/4C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-5	C-1 深鉢	-	-	膨らむ側部。	側縫合の沈縫間に列点の沈縫がつく。	7.5YR6/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	
70-6	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ側部。	底位の沈縫に側位の沈縫がつく。	10YR6/3C, 黄褐色 良石, 石英含む 良好	

表33 縄文土器観察表32

番号	測定区 測定	基準	口径 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 割合 色相	備考
70-7	C-1 II-7	深鉢	-	膨らむ肩部。	斜位の沈線に張継文がつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-8	C-1 33号配石	深鉢	-	折れる肩部。	沈線が垂下する。	7.5YR7/6褐色 良石、石英含む 良好	
70-9	B-2 SIH-27	深鉢	-	やや膨らむ肩部。	1条の刻縫線があり、3条1組の沈線が垂下する。	7.5YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-10	C-1 33号配石	深鉢	-	やや膨らむ肩部。	3条1組の肩位の沈線に斜位の沈線がつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-11	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	沈線と死ぬが併存し、渦巻文がつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-12	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	沈線間に刻縫文が施され、垂下する。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
70-13	C-1 火拂	深鉢	-	膨らむ肩部。	横位、斜位に沈線が複数され、渦巻状のモチーフがつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-14	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	3条の沈線が斜位に添る。	10YR5/3に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-15	C-1 33号配石	深鉢	-	底辺はやや倒れる。	沈線と刻縫文が斜位に添る。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
70-16	C-1 33号配石	深鉢	-	やや膨らむ肩部。	3条の沈線が斜位に添る。	10YR5/2褐色 良石、石英含む 良好	
70-17	C-1 33号配石	深鉢	-	やや膨らむ肩部。	横位に刻縫文がつき、渦巻文と渦巻文をモチーフとする。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-18	B-2 M-4	深鉢	-	膨らむ肩部。	横位に刻縫文がつき、渦巻文をモチーフとする。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-19	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	沈線による弧縫文がつく。	7.5YR7/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
70-20	C-1 J-10	深鉢	-	膨らむ肩部。	沈線による弧縫文がつく。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
70-21	C-1 33号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	沈線による渦巻文をモチーフとする。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
70-22	B-2 SIH-27	深鉢	-	膨らむ肩部。	1条の刻縫線が、通り沈線が垂下する。	5YR5/2褐色 良石、石英含む 良好	
70-23	C-1 18号配石	深鉢	-	膨らむ肩部。	無文。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
71-1	B-2 SIH-01	深鉢	-	底辺は折れ、剥落はやや膨らむ。	口縫部は1条の沈線が添る。2条の沈線がつき、斜位の沈線が垂下する。	2.5YR4/2褐色 良石含む 良好	
71-2	B-2 SX-01	深鉢	-	底辺は折れ、剥落はやや膨らむ。	剥落部に刻縫文があり、斜位に隣接が垂下する。剥落部は2条の沈線と底位に垂下する。	2.5YR4/2褐色 良石含む 良好	
71-3	B-2 SIH-27	深鉢	-	膨らむ肩部。	地縫文に渦巻文がつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
71-4	C-1 II-9	深鉢	-	膨らむ肩部。	底位に刻縫文および沈線が垂下し、斜位に添る。	10YR5/3に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
71-5	C-1 I-7	深鉢	-	膨らむ肩部。	地縫文に渦巻文がつく。	7.5YR5/4褐色 良石、石英含む 良好	
71-6	C-1 H-7	深鉢	-	底辺はやや折れ、剥落はやや膨らむ。	剥落はRL底文に底位、斜位の沈線がつく。	10YR4/2褐色 良石、石英含む 良好	
71-7	C-1 H-7	深鉢	-	膨らむ肩部。	剥落部はRL底文に底位、斜位の沈線がつく。	10YR4/2褐色 良石、石英含む 良好	
71-8	C-1 I-9	深鉢	-	膨らむ肩部。	剥落部は地縫文に底位、斜位の沈線がつく。	7.5YR7/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
71-9	C-1 H-7	深鉢	-	膨らむ肩部。	8字附文がつき、渦巻文状のモチーフがつく。	7.5YR7/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
71-10	C-1 J-10	深鉢	-	膨らむ肩部。	LR縫文は地縫文に渦巻文状のモチーフがつく。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	
71-11	C-1 II-8	深鉢	-	膨らむ肩部。	RL縫文に渦巻文のモチーフがつく。	7.5YR5/4に近い褐色 良石、石英含む 良好	
71-12	C-1 J-10	深鉢	-	膨らむ肩部。	LR縫文に渦巻文状のモチーフがつく。	10YR7/4に近い黄褐色 良石、石英含む 良好	

表34 繩文土器観察表33

番号	箇内区 道南	器種	口縁 質地 第五点	形態の特徴	捲出の特徴	色調 質地 第五点	面番
71-13	B-2 SB-29	深鉢	- -	腹部はややねら、膨らむ胴部。	LR織文に複数枚のモチーフがつく。	7.5YR4/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-14	C-1 I-10	深鉢	- -	腹部は仄れ、膨らむ胴部。	横筋が並び、LR織文に複数枚の模様がつく。	10YR7/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-15	C-1 I-7	深鉢	- -	膨らむ胴部。	2本の横筋間に刻文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-16	C-1 H-7	深鉢	- -	腹部は仄れ、膨らむ胴部。	腹筋に刻線が施され重ね状のモチーフがつく。	7.5YR4/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-17	B-2 SX-01	深鉢	- -	膨らむ胴部	RL織文を地文に複数枚がつく。	7.5YR5/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-18	H-2 SB-27	深鉢	- -	やや傾れる胴部。	RL織文に模様がつく。	7.5YR4/4/2に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-19	B-2 SX-01	深鉢	- -	腹部は仄れ、外反する。	口縁部は2条の筋模様が軸位につく。腹部は2条の筋模様が並び、8字貼付文がつく。	7.5YR4/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-20	B-2 O-7	深鉢	- -	膨らむ胴部。	2条の筋模様が並び、8字貼付文をモチーフとする。	5YR8/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-21	C-1 33号等/6	深鉢	- -	腹部は仄れる。	8字貼付文がつき、沈縫が直下する。	7.5YR7/6に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-22	B-2 O-6	深鉢	- -	腹部は仄れ、膨らむ胴部。	腹筋に2条の筋模様が並ぶ、腹筋が斜位に直下する。	7.5YR5/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-23	C-1 O-5	深鉢	- -	腹部はやや傾れる。	8字貼付文がつき、沈縫が直下する。	10YR7/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-24	H-2 O-6	深鉢	- -	腹部はやや傾れる。	2条の筋模様があり、8字貼付文がつく。LR織文を地文に沈縫が直下する。	7.5YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
71-25	B-2 O-6	深鉢	- -	腹部はやや傾れる。	2条の筋模様があり、8字貼付文が付される。地縫に直縫にモチーフが施される。	10YR7/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-1	H-2 SB-26	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	口縁部はやや内折し、腹縫部に模様文がつく。	5YR8/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-2	H-2 N-4	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	腹縫部より沈縫が直下し、横位に沈縫がつく。	7.5YR5/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-3	C-1 I-8	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈縫がつき腹縫部に円形網状文と直縫が直下する。	7.5YR6/6に似る褐色 黄白、石英含む	
72-4	B-2 O-7	深鉢	- -	外方に開く口縁部。	口縁部に1条の沈縫がつく。	5YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-5	B-2 SB-27	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	口縁部に1条の沈縫がつく。腹縫部に模様文がつく。	7.5YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-6	B-2 SB-27	深鉢	- -	外方に開く口縁部。	口縁部から1条の沈縫が直下する。	7.5YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-7	B-2 P-3	深鉢	- -	腹部は仄れ、端部は厚厚する。	口縫部は無文。腹縫部は模文を地文に横位に模様がつく。	5YR4/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-8	H-2 N-4	深鉢	- -	やや外反しながら立ち上がる。	無文	7.5YR5/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
72-9	B-2 N-3	深鉢	- -	口縁部は外方に仄き、端部は厚厚する。	無文。	10YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-1	C-1 II-8	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	LR織文を地文とす。腹縫部に2条の刻文がつく。口縫部は1条の沈縫が並ぶ。8字貼付文が施される。	7.5YR7/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-2	B-2 K-11	深鉢	- -	外反する口縁部。	口縁部に2条の沈縫に刻文が施される。	7.5YR5/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-3	C-1 H-7	深鉢	- -	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈縫が寄る。RL織文を地文とする。	10YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-4	C-1 J-11	深鉢	- -	外反する口縁部。	口縁部に1条の沈縫が並ぶ。LR織文を地文とする。	7.5YR6/4Cに似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-5	C-1 H-7	深鉢	- -	やや外反する口縁部。	口縁部に1条の沈縫が施される。LR織文を地文とする。	10YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-6	C-1 II-7	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	波状部に刻文がある。口縫部は1条の沈縫が並ぶ。LR織文を地文とする。	10YR6/4に似る褐色 黄白、石英含む 良好	
73-7	C-1 II-7	深鉢	- -	波状口縁を呈する。	波状部に模様文がある。口縫部は2条の沈縫が並ぶ。LR織文を地文とする。	10YR2/3に似る褐色 黄白、石英含む 良好	

表35 繩文土器觀察表34

番号	測定区 測定名	部類	U型 縫隙 器部	形態の特徴	挿法の特徴	色調 物性 感覚	備考
73 - 8	C - 1 H - 7	深鉢	-	やや外反する口縫部。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に疣縫が直下する。	10YR6/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 9	C - 1 H - 7	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に疣縫が直下する。	10YR7/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 10	C - 1 H - 7	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部が側突交又がある。器部はLR縫文を地文に疣縫が直下する。	10YR7/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 11	C - 1 J - 10	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に疣縫が2つ、側縫はLR縫文を地文に疣縫が直下する。	10YR4/2灰褐色 黄白色 良好	
73 - 12	C - 1 SB - 29周辺	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に疣縫が直下する。	2.5YR6/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 13	C - 1 L - 13	深鉢	-	側縫部はやや膨らみ、V型縫部はやや外反する。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に側突交又と疣縫が直下する。	10YR7/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 14	C - 1 H - 7	深鉢	-	液状口縫を呈する。	口縫部に1条の疣縫が施される。LR縫文を地文に側突交又と疣縫が直下する。	2.5YR6/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 15	B - 2 SB - 26	深鉢	-	液状V縫を呈する。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に疣縫と列突交又が直下する。	5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 16	C - 1 X - 12	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に1条の疣縫が巡る。LR縫文を地文に3条の疣縫が直下する。	5YR7/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 17	C - 1 33号配石	深鉢	-	口縫部は内折する。	口縫部は側縫間に新突文が施される。縫文を地文に側突交又と疣縫が直下する。	7.5YR5/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 18	C - 1 33号配石	深鉢	-	口縫部は内折する。	口縫部は側縫間に側突交又が施される。縫文を地文に側突交又と疣縫が施される。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 19	B - 2 SX - 03	深鉢	-	液状V縫を呈する。	口縫部に2条の疣縫部と列突交又が直下する。底面より研究文が残す。底面より疣縫が半下し、疣縫が側縫に直下する。	7.5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 20	C - 1 M - 4	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に2条の疣縫間に列突交又が施す。側縫はLR縫文と列突交又と地文とする。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 21	C - 1 33号配石	深鉢	-	液状口縫を呈する。	口縫部は液状間に側突交又が施される。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 22	C - 1 33号配石	深鉢	-	液状口縫を呈する。	口縫部に疣縫と、その下間に例文の疣縫が巡る。底面より研究文が残す。底面より疣縫が半下し、疣縫が側縫に直下する。	5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 23	C - 1 SB - 27	深鉢	-	液状口縫を呈する。	縫文部は地文に側縫間に新突文が施される。	5YR5/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 24	C - 1 H - 9	深鉢	-	外反する側縫。	口縫部は1条の疣縫が巡る。側縫はLR縫文を地文に側突交又と疣縫が施される。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 25	C - 1 H - 8	深鉢	-	液状口縫を呈する。	液状部に側突交又がつり、LR縫文を地文に疣縫に疣縫が施る。液状部より液状部の側突交又がつる。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 26	C - 1 33号配石	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	器部はLR縫文を地文に側突交又が直下する。	5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 27	B - 2	深鉢	-	外反する側縫。	側縫部はLR縫文を地文に側突交又が直下し、直縫部の疣縫が施される。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 28	C - 1 J - 10	深鉢	-	液状V縫を呈する。	液状部に側突交又、1条の疣縫が施される。縫文を地文に疣縫部の側縫部が直下する。	7.5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
73 - 29	B - 2 M - 4	深鉢	-	液状V縫を呈する。	側縫部は縫文を地文とし、疣縫部が直下する。その内側に疣縫が2条づつ半下する。	10YR5/2灰黑色 黄白色 良好	
74 - 1	B - 1 SH - 26	深鉢	-	液状口縫を呈する。	口縫部は2条の疣縫をもつ。液状部から側突交又が直下する。地文を縫文とする。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
74 - 2	C - 1 33号配石	深鉢	-	液状V縫を呈する。	口縫部は液状部に側突交又がつり、斜向外側の縫文が施される。側縫部から側突交又が直下する。地文を縫文とする。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
74 - 3	H - 2 P - 7	深鉢	-	やや外反する口縫部。	地縫部には3本の縫文がつき、斜向外側の縫文が施される。側縫部から側突交又が直下する。	7.5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
74 - 4	B - 2 P - 7	深鉢	-	液状V縫を呈する。	液状部に2条の縫文がつき、地文をLR縫文とし、液状部より液状部の縫文が直下する。	7.5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
74 - 5	C - 1 33号配石	深鉢	-	やや外反する口縫部。	口縫部に1条の疣縫が巡る。地文をLR縫文とし、2本の疣縫が直下する。下に側突交又がつる。	7.5YR6/4C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	
74 - 6	B - 2 SH - 27 - 28	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に1条の疣縫と側突交又がつり、内側縫文が直下に、縫文部が直下する。2側突交又がつる。	7.5YR5/3C.5-1 黄褐色 黄白色 良好	

表36 繩文土器観察表35

番号	調査区 遺跡	断面	U字 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 焼成	備考
24-7	B-2 M-4	深鉢	-	底部に縫を呈する。	底面部に斜めがついて、地文をLR構文とし、底面部下に曲線的な光線が並下る。	2.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-8	C-1 I-10	深鉢	-	外方に聞く断面。	LR構文を地文に、曲線的な光線がつく。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-9	B-2 P-7	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	側位の沈縫がつくり、沈縫が底下する。斜面文が底下する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-10	B-2 M-5	深鉢	-	やや外反する口縫部。	U縫溝に1条の光縫が並る。地文をLR構文とし、底面部下に曲線的な光縫が並下る。	5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-11	B-2 O-6	深鉢	-	外方に聞く口縫部。	口縫部に側位、側位に沈縫がつく。	5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-12	B-2 O-7	深鉢	-	外方に聞く、端部は削除する。	斜位の沈縫がつき、沈縫が底下する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
24-13	B-2 P-7	深鉢	-	底部にU縫を呈する。	底面部に斜め文が並下し、斜位の斜め文がつく。U縫溝に1条の光縫が並る。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
25-1	C-1 33号記G	深鉢	(17.2)	縫溝は浅く、底部は埠状を示す。	U縫溝に1条の光縫が並る。底部による斜め文と弧形文。	10YR6/4C弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
25-2	C-1 33号記H	深鉢	(17.0)	縫溝は深く、縫溝は底面を示す。 (底)縫溝で壳起下に円形斜面文がつく。	U縫溝に1条の光縫が並り、底部に2条の光縫がつく。側面はU縫溝を増文としてU字文と斜位の光縫が並る。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、砂粒、骨粉を含む 良好	
25-3	C-1 33号記F	深鉢	-	縫から断面。	底部は地文でLR構文を示し、縫縫の光縫と斜位の光縫が並ぶ。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
25-4	B-2 P-6	深鉢	(22.0)	底部が埠状的に立ち上がり、芯直し、外反しながら立ち上がる。	口縫部は内削し、比縫溝の側面部文にはU字状の懸垂文とU字状文がつく。	1.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
25-5	B-2 V-7	深鉢	(20.2)	底部が埠状的に立ち上がり、芯直し下削で芯直し、外反しながら立ち上がる。	U縫溝は中央削引し、上下2本の縫溝で区画された側面部文には、U字文と懸垂文。	10YR6/3C弱赤褐色 灰石、砂粒、骨粉を含む 良好	
25-6	B-2	深鉢	21.1 23.5 25.7	側面からU縫溝をかけて外反しながら立ち上がり、U縫縫の光縫が並る。	上2本の縫溝で区画された側面部文にはU字文と懸垂文が並下る。蛇形文が並下る。	10YR6/3C弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
25-7	B-2 P-6	浅鉢	(13.2) 4.9 11	側縫上は内削する。	上を側縫で区画された側面部文は地文と斜位文が並む。U縫溝を充満する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、砂粒、石英含む 良好	
25-8	B-2 O-6	浅鉢	-	小突起を有し、U縫縫は外反する。 縫縫は側縫で側縫は形む。	縫縫はU字形付文がつく。U縫溝は沈縫が並る。	2.5YR6/6弱赤褐色 灰石、灰母、石英含む 良好	
26-1	B-2 P-2	深鉢	(24.1)	側縫は外反しながら立ち上がり、縫縫は内削する。	側縫に斜め文がある。側縫は側縫文が並る。U縫溝を充満する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-2	B-2 O-7	深鉢	-	縫縫は外反しながら立ち上がり、縫縫は内削する。	側縫上部に斜め縫溝が1条あり、側縫文がつく。LR構文を充満する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-3	B-2 P-7	深鉢	-	側縫は外反しながら立ち上がり、縫縫は内削する。	側縫上部に側縫文が並び、二角文がつく。LR構文を充満する。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-4	C-1 33号記E	深鉢	-	外方に聞くU縫縫。底部に2条のU縫縫がある。	底部に側縫縫が1条ある。U縫縫と側縫文がつく。	5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-5	B-2 O-7	深鉢	-	口縫縫は外反し、縫縫は内削する。	側縫縫は1条の側縫縫とU字形付文がつく。側縫縫で区画された側面部文は地文が並ぶ。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-6	B-2 O-7	深鉢	-	U縫縫は外反し、縫縫は内削する。	側縫縫で外反し、縫縫は内削する。側縫縫で区画された側面部文は地文が並ぶ。U縫縫が並下る。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-7	C-1 J-9	深鉢	-	U縫縫は外方に聞く。縫縫は内削する。	U縫縫は側縫縫が並ぶ。側縫縫がU字形付文がつく。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-8	B-2 O-7	深鉢	-	外反しながら立ち上がり。側縫U縫縫を有する。	側縫縫上部にU字形付文がつき、東三角文がつく。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-9	B-2 O-7	深鉢	-	外方に聞く断面。	側縫縫は東三角文がつく。	10YR6/3C弱赤褐色 灰母、石英含む 良好	
26-10	B-2 P-7	深鉢	-	口縫縫はやや外反し、縫縫は内削する。	LR構文が充満された側縫縫文によりU字文がつく。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
26-11	B-2 O-7	深鉢	-	U縫縫部に外反し、内削する。 底吹き縫を呈する。	U縫縫部に外反し、内削する。U縫縫とU字形付文がつく。側縫縫により一角文が構成される。	10YR6/4C弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
27-1	B-2 P-7	深鉢	-	縫縫部は内削する。	LR構文が充満された側縫縫文に三角形文、菱形文がつく。	5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
27-2	B-2 P-7	深鉢	-	縫縫部は内削し、外反する。	LR構文が充満された側縫縫文に二角文が配される。	7.5YR6/3C弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	
27-3	B-2 P-7	深鉢	-	縫縫部は内削する。	LR構文が充満された側縫縫文にU字形付文が並び、二角文がつく。	7.5YR6/6弱赤褐色 灰石、石英含む 良好	

表37 縄文土器観察表36

番号	調査区分	容積	口底 直径 底径 高さ	形態の特徴	技術の特徴	色調 胎 地及 他	備考
77-4	C-1 J-9	深鉢	—	外方にのびる副部。	LR鉢文を充填した帶縞文に三角形文がつく。	SYR5/4C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
77-5	B-2 O-8	深鉢	—	外反する副部。	沈縫による△形文にLR鉢文を充填する。	SYR5/4C.ない赤褐色 共石、良石含む 良好	
77-6	C-1 H-7	深鉢	—	外方に聞く副部。	沈縫間に帯縞文が充填される。	SYR5/4C.赤 共石、石英含む 良好	
77-7	C-1 H-7	深鉢	—	外方に聞く副部。	沈縫間に帯縞文が充填される。	SYR5/4C.赤 共石、石英含む 良好	
77-8	C-1 H-7	深鉢	—	外方に聞く副部。	沈縫間に帯縞文が充填される。	7.SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
77-9	B-2 P-7	深鉢	—	端部は内折する。	1条の周縞線がつく。LR鉢文を充填した帶縞文にX。	7.SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
77-10	C-1 I-11	深鉢	—	外反する副部。	LR鉢文が充填された帶縞文に二角形文が抽出される。	7.SYR5/3C.赤 共石、良石含む 良好	
77-11	B-2 O-7	深鉢	—	外反する副部。	沈縫による△形文が抽出される。	7.SYR5/4C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
78-1	C-1 J-9	深鉢	—	やや外反し、端部は小さく内折して立ち上がる。	口縫部に1条の副縫線がつく。網部は帯縞文により網縫文が抽出される。	SYR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-2	C-1 K-10	深鉢	—	端部は小さく内折して立ち上がる。	「山」字形の副縫線がつく。X字貼付文がつく。 網縫文が抽出される。	SYR5/3C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
78-3	C-1 J-9	深鉢	—	端部は小さく内折して立ち上がる。	口縫部に1条の副縫線がつく。X字貼付文がつく。	7.SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
78-4	C-1 J-9	深鉢	—	口縫部内側に沈縫が通る。	口縫部内側に2条の副縫線がつき、X字貼付文がつく。 下部點文に次第にはるす半円文が施される。	SYR5/4C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
78-5	C-1 K-10	深鉢	—	端部は小さく内折し、立ち上がる。	山縫部に1条の副縫線が通り、LR鉢文を充填した帶縞文は内折して対称性を失する。	7.SYR5/3C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
78-6	C-1 H-8	深鉢	—	端部は小さく内折し、立ち上がる。	口縫部に2条の副縫線が通り、X字貼付文がつく。 X字貼付文が施される。	7.SYR5/3C.ない赤褐色 共石、石英含む 良好	
78-7	C-1 I-7	深鉢	—	端部は小さく内折し、立ち上がる。	1条の周縞線が通り、LR鉢文を充填した帶縞文は帶縞文が抽出される。	SYR5/4C.ない赤褐色 共石、良石含む 良好	
78-8	C-1 N-3	深鉢	—	口縫部は肥厚する。	直線的な沈縫が施される。	7.SYR5/3C.赤 共石、良石含む 良好	
78-9	B-2 SB-26	深鉢	—	底状口縫を有する。	LR鉢文を充填した帶縞文が施される。	7.SYR5/4C.赤 共石、石英含む 良好	
78-10	B-2 O-7	深鉢	—	やや外折する副部。	LR鉢文を充填した帶縞文には引一角形文が抽出され、 連続縫に同心円文が施される。	10YR5/3C.ない赤褐色 共石、良石含む 良好	
78-11	C-1 H-7	深鉢	—	口縫部は内折する。	LR鉢文を充填した帶縞文は円文を挟む神状文が配される。	10YR5/3C.ない赤褐色 共石、良石含む 良好	
78-12	B-2 SX-01	深鉢	—	端部は内折する。	直線的なモチーフを施す。	7.SYR5/4C.赤 共石、石英含む 良好	
78-13	C-1 H-9	深鉢	—	底状口縫を有する。	1条の副縫線がつき、X字貼付文が付される。帶縞文に2条の直線形文が抽出される。	7.SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
78-14	C-1 H-7	深鉢	—	底状口縫を有する。	LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	7.SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
78-15	C-1 I-8	深鉢	—	底状口縫を有する。	1条の副縫線がつき、直縫部でX字貼付文がつく。 LR鉢文を充填した帶縞文が施される。	SYR5/3C.赤 共石、石英含む 良好	
78-16	C-1 I-8	深鉢	—	外方にのびる11縫。	直縫縫が通り、LR鉢文が付された帶縞文が付される。	SYR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-17	C-1 I-8	深鉢	—	端部は内折する。	直縫縫が通り、LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	SYR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-18	C-1 H-8	深鉢	—	端部は内折する。	直縫縫が通り、LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	10YR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-19	C-1 H-7	深鉢	—	端部は内折する。	直縫縫が通り、LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	7.SYR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-20	C-1 H-8	深鉢	—	端部は内折する。	直縫縫が通り、LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	10YR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	
78-21	C-1 I-8	深鉢	—	端部は内折する。	直縫縫が通り、LR鉢文を充填した帶縞文が付される。	7.SYR5/4C.赤 共石、良石含む 良好	

表38 繩文土器観察表37

番号	調査区 場所	基盤	口縁 底盤 器表	形状の特徴	模様の特徴	色調 胎土 焼成	備考
78-22	B-2 M-4	深鉢	-	端部は内折する。	LR縞文を充填した帶縞文が付される。	SYR5/3C-3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-23	C-1 J-9	深鉢	-	端部は内折する。	刻縞線が走り、LR縞文を充填した帶縞文が付される。	7.SYR5/3C 長い赤褐色 長石含む 良好	
78-24	C-1 J-9	深鉢	-	端部は内折する。	刻縞線が走り、LR縞文を充填した帶縞文が付される。	7.SYR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-25	C-1 I-8	深鉢	-	端部は内折する。	刻縞線が走り、8字貼付文がつく。	7.SYR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-26	C-1 I-10	深鉢	-	I縫部内側に沈縫が3本走る。	刻縞線が走り、9字貼付文がつく。	7.SYR5/3C 長い赤褐色 長石含む 良好	
78-27	C-1 M-8	深鉢	-	I縫部は内折する。	刻縞線が走り、帶縞文が施される。	SYR5/4C 長い赤褐色 長石含む 良好	
78-28	C-1 I-10	深鉢	-	波状口縁を呈する。	刻縞線が走り、8字貼付文が施される。	7.SYR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-29	C-1 H-8	深鉢	-	口縁部は内折する。	刻縞線が2条走り、8字貼付文が施される。	10YR4/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-30	C-1 M-12	深鉢	-	口縁部は内折する。	刻縞線が2条走り、LR縞文を充填した帶縞文が施される。	2.3YR5/3C 長い赤褐色 長石含む 良好	
78-31	B-2 P-7	深鉢	-	口縁部は内折する。	刻縞線が3条走り、LR縞文を充填した帶縞文が施される。	5YR4/2C 長い赤褐色 長石含む 良好	
78-32	C-1 M-8	深鉢	-	I縫部は内折する。	刻縞線が2条走り、沈縫による神狀文が施される。	10YR4/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
78-33	C-1 SB-29	深鉢	-	I縫部は内折する。	刻縞線が1条走る。外縁は擦耗のため不明。	7.3YR7/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 不良	
78-34	C-1 H-8	深鉢	-	I縫部は内折する。	刻縞線が1条走り、8字貼付文が付される。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石含む 良好	
79-1	C-1 L-12	深鉢	-	刻縞線が1条走り、8字貼付文がつく。内側に2条の沈縫が施される。	LR縞文を充填した帶縞文。	10YR7/3C 長い赤褐色 長石含む 良好	
79-2	C-1 L-11	深鉢	-	波状口縁を呈し、I縫部は内折する。	LR縞文を充填した尚縞的な帶縞文。	7.5YR5/4C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-3	C-1 H-11	深鉢	-	底付口縁を呈する。	刻縞線が1条走り、8字貼付文がつく。内側に2条の沈縫が施される。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-4	C-1 H-8	深鉢	-	やや外反しながら、I縫部は内折する。	I縫部は2条の沈縫間に高突文が施され、帶縞文が施される。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-5	C-1 H-7	深鉢	-	刻縞線が1条走り、8字貼付文がつく。内側に2条の沈縫が施される。	刻縞線が1条走り、8字貼付文がつく。内側に沈縫が2条走る。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-6	C-1 H-17	深鉢	-	I縫部内側に2条の沈縫が施される。内側に帶縞文がつく。	I縫部に1条の沈縫が施される。内側に沈縫が2条走る。内側に帶縞文がつく。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-7	B-2 N-3	深鉢	-	I縫部内側に内折する。	斜作の帶縞文がつく。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-8	C-1 33号配石	深鉢	-	口縁部に小突起がつく。	2条の刻縞線がつく。沈縫による神狀文が施される。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-9	B-2 SR-27	深鉢	-	口縁部は小さく内折する。	刻縞の沈縫がつく。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-10	B-2 SR-27	深鉢	-	口縁部はやや肥厚する。	横位、横位、斜位の沈縫がつく。	10YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-11	H-2 SB-26	深鉢	-	波状口縁を呈し、孔がつく。	横位の沈縫がつく。	7.5YR4/2C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-12	C-1 16号配石	深鉢	-	I縫部端部は小さく内折する。	刻縞線が1条つく。帶縞文がつく。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-13	B-2 M-4	深鉢	-	外方に開く口縁。	沈縫がいくつ。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-14	C-1 H-7	深鉢	-	外方に開く刻縞。	LR縞文を充填した帶縞文がつく。	7.5YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-15	C-1 33号配石	深鉢	-	内側する刻縞。	LR縞文を充填した帶縞文がつく。	10YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	
79-16	C-1 H-7	深鉢	-	外方に開く刻縞。	LR縞文を充填して帶縞文がつく。	10YR5/3C 長い赤褐色 長石、石英含む 良好	

表39 繩文土器観察表38

番号	古事記 遺跡	基標	口徑 底径 高さ	剖面の特徴	形状の特徴	色調 地と 被膜	備考
79-17	C-1 I-8	深鉢	-	外方に開く斜面。	LR縞文を主とした曲線的な帶縞文がつく。	SYRS/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
79-18	C-1 L-12	深鉢	-	外方に開く斜面。	LR縞文を主とした帶縞文が施される。	2.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
79-19	C-1 I-9	深鉢	-	外方に開く斜面。	帯縞文が施される。	10YRS/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、長い含む 良好	
79-20	C-1 I-9	深鉢	-	やや外反しながら開く斜面。	神狀文内にLR縞文が施される。	7.5YR5/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
80-1	C-1 L-14	深鉢	-	外反しながら立ち上がり、端部は立ち上がる。	3点の側突文がつき、2条の状痕がつく。斜面はJR縞文が施される。	7.5YR5/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
80-2	C-1 M-11	深鉢	-	波状口縁を呈する。	3点の円形側突文がつき、2条の波痕の模様に沿る。	7.5YR5/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
80-3	C-1 K-11	深鉢	-	外方に開く斜面。	斜面に側突の側突文がつく。	3YR6/6C/7C 暗赤、砂利含む 良好	
80-4	C-1 K-11	深鉢	-	外方に開く斜面。	斜面に新位の側突文がつく。	10YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
80-5	C-1 G-6	深鉢	-	内側する1横耳。各耳に凸頭部付 り。	口縁部にLR縞文を施す。2本の比較間に裏の手文が つく。	7.5YR7/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
81-1	C-1 H-9	深鉢	43.0	ハ字に開く。	JR縞文から斜面中央にかけてLR縞文を施す。	5YR6/6C/7C 長い、石英含む 良好	
82-1	C-1 K-11	深鉢	24.0 9.9 29.2	周縁から直線的に立ち上がる。	JR縞文から斜面左上部にかけてLR縞文を施す。	5YR5/3C/5C/6C/7C 長い、長い含む 良好	
82-2	B-2 P-2	深鉢	(33.0) (27.7) 30.5	直縁から斜面下部にかけて外反し ながら立ち上がる。	JR縞文から斜面下部にかけてLR縞文を施す。	10YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
82-3	C-1 7号灰石	深鉢	34.5 9.7 28.1	JR縞文がやや内凹する。	口縁部から斜面底にかけてLR縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
82-4	C-1 K-11	深鉢	22.0	底部からハ字に開く。	JR縞文から全体にかけてLR縞文を施す。	7.5YR5/3C/5C/6C/7C 長い、石英含む 良好	
83-1	C 33号灰石	深鉢	32.2	波状口縁を呈しハ字に開く。	JR縞文から全体にかけてLR縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
83-2	B-2 SB-27	深鉢	26.7 7.9 32.3	斜面から外反しながらやや膨ら み、口縁部は外反する。	JR縞文から斜面にかけてLR縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
83-3	B-2 P-7	深鉢	33.2	波状口縁を呈しハ字に開く。	JR縞文から斜面にかけてLR縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
83-4	C K-11	深鉢	(25.4)	口縁部は外反しながら立ち上 がり、斜面は膨らむ。	全体全面にしづら模様。	10YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
83-5	C J-10	深鉢	24.6 9.2 30.1	口縁部はやや外反し、斜面は長脚 型を示す。	斜面はテナによる調節が顯著である。	10YR7/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
83-6	C-2 K-7	深鉢	(25.5) (3.3) (25.7)	口縁部はハ字に直線的に開く。	無文。	7.5YR6/6C/7C 長い、石英含む 良好	
84-1	H-2 O-6	深鉢	(15.6)	斜面は膨らみ、口縁部は外反する。	RL縞文を施す。	7.5YR5/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 砂利含む 良好	
84-2	C-1 33号灰石	深鉢	(18.6)	斜面のみ、口縁部は外反する。 JR縞文は立ち上がる。	LR縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い、石英含む 良好	
84-3	C-1 36号灰石	深鉢	-	口縁部はやや外反しながら周縁は 立ち上がる。1条の波痕が施され る。	RL縞文を施す。	7.5YR2/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
84-4	B-2 M-4	深鉢	-	外方に開く口縁部。	LR縞文を施す。	5YR5/6C/7C 長い、砂利含む 良好	
84-5	C-1 I-8	深鉢	-	波状口縁を呈する。	RL縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
84-6	H-2 P-7	深鉢	-	外方にのびる口縁部。	LR縞文を施す。	7.5YR5/3C/5C/6C/7C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
84-7	C-1 27号灰石下	深鉢	-	外方にのびる口縁部。	RL縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
84-8	C-1 I-8	深鉢	-	外方にのびる口縁部。	RL縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	
84-9	H-2 N-4	深鉢	-	外方にのびる口縁部。	RL縞文を施す。	7.5YR6/4C/3C/5C/6C 長い暗褐色 長い、石英含む 良好	

表40 繩文土器観察表39

番号	測定区 分類	基準 寸法 基準 寸法	特徴の特徴	特徴の特徴	白面 的上 部況	備考
84-10	C-1 33号配石	深井	-	外方にのびる口縁部。	RL縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 砂粒、砂粒含む 良好
84-11	B-2 P-7	深井	-	外方にのびる口縁部。	RL縦文を施す。	7.5YR6/3に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
84-12	B-2 N-3	深井	-	外方にのびる口縁部。	RL縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
84-13	B-2 M-3	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
84-14	C-1 K-10	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
84-15	C-1 33号配石	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
84-16	B-2 K-4	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
84-17	C-1 33号配石	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
84-18	B-2 SB-27	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	10YR2/3に似る黄褐色 石英、砂粒含む 良好
84-19	C-1 H-8	深井	-	外方にのびる口縁部。	RL縦文を施す。	5YR5/4C-25に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
84-20	C-1 M-3	深井	-	外方にのびる口縁部。	LR縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
85-1	B-2 O-7	深井	-	口縁部は肥がる。	無施し縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、石英含む含む 良好
85-2	B-2 SX-01	深井	-	直線的にのびる口縁部。	無施し縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、石英含む含む 良好
85-3	C-1 L-17	深井	-	直線的にのびる口縁部。	無施し縦文を施す。	5YR4/3に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
85-4	B-2 共接	深井	-	直線的にのびる口縁部。	RL付加縦文を施す。	10YR2/3 石英、砂粒含む 良好
85-5	B-2 SB-26	深井	-	直線的にのびる口縁部。	RL付加縦文を施す。	7.5YR5/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
85-7	B-2 SB-27	深井	-	直線的にのびる口縁部。	RL付加縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英含む 良好
85-8	H-2 O-6	深井	-	直線的にのびる口縁部。	RL付加縦文を施す。	10YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
85-9	H-2 O-6	深井	-	直線的にのびる口縁部。	RL付加縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、白粘子含む 良好
85-10	C-1	深井	-	直線的にのびる口縁部。	LR付加縦文を施す。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
85-11	B-2 O-5	深井	-	縁部はやや膨らむ。	LR付加縦文を施す。	7.5YR6/4に似る褐色 石英、白粘子含む 良好
85-12	B-2 O-6	(35.6)	-	内側する口縁部。	RL付加縦文を施す。	10YR2/3に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
86-1	B-2 N-4	深井	-	外方にのびる口縁部。	椎尖状工具による条縞文が施される。	10YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
86-2	C 2号配石(土灰)	深井	-	内側する口縁部。	椎尖状工具による条縞文が施される。	10YR6/4C-25に似る褐色 石英、砂粒含む 良好
86-3	B-2 N-4	深井	-	内側する口縁部。	口縁部に1条の筋が走る。椎尖状工具による条縞文が施される。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
86-4	C-1 11号配石(土灰)	深井	-	外方にのびる口縁部。	椎尖状工具による条縞文が施される。	5YR4/3に似る褐色 露頭は、砂粒含む 良好
86-5	C-1 K-13	深井	-	縁部は這い、縁部はやや膨らむ。	縁部に椎尖状工具による条縞文が施される。	2.5Y7/2に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
86-6	C-1 K-10	深井	-	外方にのびる口縁部。	椎尖状工具による条縞文が施される。	5YR7/4C-25に似る褐色 砂粒、石英含む 良好
86-7	C-1 I-11	深井	-	外方にのびる口縁部。	椎尖状工具による条縞文が施される。	7.5YR6/4C-25に似る褐色 石英含む 良好

表41 繩文土器観察表40

番号	調査区 遺構	器種	主な 遺存 状況	形態の特徴	技術の特徴	色調 類型 と 組成	備考
86-8	C-1 SH-25	深鉢	-	堅らむ削部。	輪廓状工具による条縞文が斜位に施される。	2.5YR17/10暖黄色 砂粒、表面含む 良好	
86-9	C-1 L-13	深鉢	-	やや外反する鋸底。	輪廓状工具による条縞文が蛇行しながら施される。	3YR17/10暖黄色 砂粒含む 良好	
86-10	C-1 奥壁	深鉢	(27.2)	外方にのびる口縁部。	輪廓状工具による条縞文が輪行しながら施される。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
86-11	C-1 L-13	深鉢	-	やや外反する鋸底。	輪廓状工具による条縞文が蛇行しながら施される。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
86-12	B-2 O-7	深鉢	-	外方にのびる口縁部。	基文、内部ナガ彫刻。	7.5YR17/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
86-13	C-1 奥壁	深鉢	(29.4)	割離に割れ込み、口縁部の折れは小さい。 底部に施錆アリ。	基文。外側スリット付。	2.5YR17/10暖色 灰石、表面含む 良好	
87-1	C-1 SH-15	高台形 土器	1.65	内外面無文。	外周はタガモ底、内面はナガ彫刻。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
87-2	B-2 SH-27	高台形 土器	(3.0)	高台形土器の断面。	内外面ナガ彫刻	10YR17/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
87-3	B-2 42号配石	高台形 土器	6.0	高台形土器の断面。	内外面ナガ彫刻。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
87-4	B-2 M-4	高台形 土器	5.8	高台形土器の断面。	内外面ナガ彫刻。	5YR6/10暖色 白色砂粒含む 良好	
87-5	C-1 J-10	高台形 土器	3.8	高台形土器の断面。	内外面ナガ彫刻。	10YR17/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
87-6	C-1 SB-10	高台形 土器	9.6	外周に2本の隆起が付付される。	内外面ナガ彫刻。	10YR17/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
87-7	C-1 J-10	高台形 土器	8.9	高台形土器の断面。	外周ナガ彫刻。	7.5YR6/10暖色 灰石、砂粒含む 良好	
87-8	H-2 P-6	小鉢 内壁 上蓋	12.15 2.75 6.0	口縁部で底盤と口縁部は斜め上方にのびる。	ナガ彫刻、底盤は崩れ状。	7.5YR2/10暖色 灰石、砂粒含む 良好	
87-9	36号配石 内壁	L-1基 ア-1基	5.4 3.0	丸を呈し口縁部は外反する。	口縁部はつまみだして成形し、表状を呈すナガ彫刻。	5YR6/10暖色 黄土、砂粒含む 良好	
88-1	B-2 SH-29	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。 放射部には内縁状の突起がつく。	上端に文様帶を施す。比較による門文と2本の波線間に対列した波状紋が施される。	7.5YR2/10暖色 白砂粒、砂粒含む 良好	
88-2	C-1 I-8	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。 内縁状の突起がつき茎丸が施される。	上端に文様帶を施す。比較による波状紋が施される。	3YR17/10暖色 青灰、表面含む 良好	
88-3	C-1 H-8	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。	底盤には内縁状突起が二つ施される。底盤が1条連る。	7.5YR2/10暖色 砂粒、石英含む 良好	
88-4	C-1 H-8	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。	底盤は円形の鷲印が施付される。内盤には纹様が施る。	5YR6/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-5	C-1 H-7	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。 半円状の突起がつき茎丸が施される。	上端は2本の波線間に対列した波状紋が施される。	10YR17/10暖色 灰石、砂粒含む 良好	
88-6	C-1 J-10	浅鉢	-	放射状口縁を呈し、底盤は内折する。	上端に文様帶を施す。筒状の内縁状の突起が底盤に施される。1条の纹様が施る。	10YR2/10暖色 砂粒、砂粒含む 良好	
88-7	C-1 SB-17	浅鉢	-	口縁部は内折する。尾垂と比較する。 尾垂による条縞文と底盤による波状紋が施される。	上端に文様帶を施す。比較による。	7.5YR6/10暖色 白砂粒、砂粒含む 良好	
88-8	C-1 J-11	浅鉢	-	口縁部は内折するが、外に割離する。	上端に文様帶を施す。	7.5YR6/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-9	C-1 I-9	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に文様帶を施す。上下2つの内縁状突起が施される。区別された内部は刻文が加わる。	10YR17/10暖色 砂粒、石英含む 良好	
88-10	C-1 奥壁	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に文様帶を施す。2本の波状間に刻文が施される。	10YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-11	C-1 33号配石	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に文様帶を施す。比較で区画された内部は刻文が加わる。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-12	C-1 33号配石	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に2条の隠帶が重する。	10YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-13	C-1 K-12	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に文様帶を施す。放射状に底盤が施付された内部は底盤と底盤が施される。	7.5YR2/10暖色 砂粒、表面含む 良好	
88-14	C-1 19号配石	浅鉢	-	口縁部は内折する。	上端に文様帶を施す。半円状の底盤が施付され放射状が施される。	7.5YR6/10暖色 石英含む 良好	

表42 織文土器觀察表41

番号	測定区 測定場	形種	口唇 底唇 唇沿	形態の特徴	技法の特徴	色調 鉛上 鉛成	備考
89-1	C-1 33号配石	往口	-	口縁部から横状把手がつく。	把手上には円形刺突文と、そこからのびる縦條の先端がつく。	10YR7/4C, 黄い褐色 黄4C, 鉛合む 良好	
89-2	C-1 33号配石	往口	-	口縁部から横状把手がつく。	把手部分は厚減している。口部は先端が欠損する。	3WY7/6褐色 石英, 砂粒をふくむ 良好	
89-3	B-2 O-7	往口	-	口縁部から葉ベラ状の横状把手がつく。	側面文様は曲線の雲雷彫文を描く。	5WY7/6褐色 石英, 砂粒を含む 良好	
89-4	B-2 SB-26	往口	-	口縁部から葉ベラ状の横状把手がつく。	側面文様は直線の雲雷彫文を描く。	7.SYR5/4に近い褐色 砂粒を含む 良好	
89-5	C-1 J-11	往口	-	口縁部から横状把手がつく。	把手側面中央には円形刺突文が描かれる。	2.5WY7/6に近い褐色 砂粒を含む 良好	
89-6	B-2 SB-27	往口	-	背盤玉状の体溝をもち、口縁部から口部にかけて横状把手がつく。	裏面は泥漬による済書き文と弧彫文が施される。削下部は斷面。	10YR6/4明黄色 砂粒, 石英を含む 良好	
89-7	B-2 O-7	往口	-	口縁部から葉ベラ状にかけて葉ベラ状の横状把手がつく。	側面は崩落文がみられる。	7.5WY7/6に近い褐色 砂粒, 砂粒を含む 良好	
89-8	C-1 M-13	往口	-	口縁部から横状把手がつくものと考えられる。	上部は模様を呈す。正面に口沈線による凹凸がみられる。	3WY5/6中間褐色 良4C, 鉛合む 良好	
89-9	C-1 J-11	往口	-	口縁部は雲形に丸くする。口縁部から横状把手がつく。	側面には波状が回四する。	10YR7/4C, 黄い褐色 雲淡, 砂粒を含む 良好	
89-10	C-1 H-7	往口	-	背盤玉状の溝がある。	側面下部には円形の縦彫文がつく。削下部は断面である。	7.5YR5/4に近い褐色 砂粒を含む 良好	
89-11	C-1 33号配石	往口	-	背盤玉状の溝。	裏面部に1条の縦彫文がつく。削下部は断面である。	7.5YR5/4に近い褐色 砂粒, 砂粒を含む 良好	
89-12	C-1 J-13	往口	-	口縁部は外側へ広く字に膨張する。	口縁部下に1条の横彫文がつく。縦彫文がみられる。	7.SYR5/4に近い褐色 砂粒, 白色砂子含む 良好	
89-13	B-2 O-7	往口	-	口縁部は外側へ広く字に膨張する。	側面文様は滑溜文による直線的なキチガが描かれている。	7.SYR5/4に近い褐色 砂粒, 砂粒を含む 良好	
89-14	C-1 I-8	往口	-	横状把手がつくものと考えられる。	把手は円形刺突文が施され横巻状に挖削がいる。	7.5YR7/6褐色 白色砂子, 石英を含む 良好	
89-15	C-1 K-10	往口	-	小字で無い往口。	外側ナナメ斜面。	2.5YR5/2赤褐色 黄石, 石英, 砂粒を含む 良好	
89-16	C-1 K-11	往口	-	往口部。	外側と内側斜面。	7.5YR5/4灰褐色 黄石, 石英, 砂粒を含む 良好	
89-17	B-2 M-4	往口	-	往口部。	丁寧なナナメ斜面。	SYR7/6褐色 良4C, 石英, 砂粒を含む 良好	
89-18	C-1 表鉢	往口	-	横状把手がつくものと考えられる。	外側ミガキ斜面。	2.5WY5/5明黄色 良4C, 密合含む 良好	
89-19	C-1 I-8	往口	-	往口部。	外側ナナメ斜面。	2.5WY5/5明黄色 良4C, 密合含む 良好	
89-20	C-1 I-8	往口	-	横状把手がつくものと考えられる。	往口部背面には波状による弧彫文が施される。	SYR6/4C, 黄い褐色 良4C, 密合含む 良好	
89-21	C-1 H-8	往口	-	往口部。	往口下部に2点斜文が付される。	2.5YR5/6褐色 黄石, 砂粒を含む 良好	
89-22	C-2 G-5	往口	-	往口部。	外側ナナメ斜面。	10YR7/3C, 黄い褐色 白石, 砂粒を含む 良好	
89-23	B-2 P-7	往口	-	往口部。	外側ナナメ斜面。	10YR5/2灰褐色 砂粒, 砂粒を含む 良好	
89-24	B-2 TP	往口	-	口縁部から往口部にかけて横状把手がつくもの。	把手上には纏状の波状が施される。往口部両辺に横彫文がつく。	7.5YR5/3に近い褐色 砂粒, 良4C含む 良好	
89-25	C-1 L-13	往口	-	往口部に横状把手がつくものと考えられる。	外側ナナメ斜面。	2.5WY7/6褐色 良4C, 砂粒を含む 良好	
89-1	C-1 I-8	深鉢	8.45	外腹しながら立ち上がる。	内側スス付着。	SYR6/4に近い褐色 良4C, 密合含む 良好	
89-2	C-1 16号配石	深鉢	9.85	やや外反しながら立ち上がる。表鉢。	内側ナナメ斜面。	7.5YR5/4に近い褐色 良4C, 密合含む 良好	
89-3	C-1 2号配石	深鉢	9.0	八字に開く。	内側ミガキ斜面。	7.5YR5/4に近い褐色 良4C, 密合含む 良好	
89-4	C-1 17号配石	深鉢	8.6	外腹しながら開く。	ナナメ斜面。	7.5YR5/4に近い褐色 良4C, 密合含む 良好	

表43 繩文土器観察表42

番号	調査区 遺物	基部 断面	口底 断面 器形	形容の特徴	技術的特徴	内調 外上 施成	備考
90-5	C-1 H-7 11号配石	深鉢	8.8	外反しながら聞く。	ナゲ調査。	7.5YR7/6暗色 灰石、砂合む 施成	
90-6	C-1 11号配石	深鉢	(7.3) -	ハの字に聞く。	ナゲ調査。	10YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む 施成	
90-7	C-1 (8号配石)	深鉢	8.0	ハの字に聞く。	ナゲ調査。	7.5YR6/4C. 黄褐色 砂合む 施成	
90-8	C-1 J-11	深鉢	- 10.1	ハの字に聞く。	網代底。	5YR6/3C. 黄褐色 灰石、白灰を含む 施成	
90-9	C-1 SH-16	深鉢	(8.45)	浅鉢底。	ナゲ調査。	7.5YR7/1黄褐色 灰石、砂合む 施成	
90-10	C-1 SB-8	深鉢	(8.8) -	ハの字に聞く。	内側スス付費。	7.5YR6/3C. 黄褐色 砂合む 施成	
90-11	C-1 SB-25	深鉢	- -	ハの字に聞く。	所下部に圓文が施される。網代底。	10YR7/4C. 黄褐色 砂石、砂合む 施成	
90-12	B-2 P-7	深鉢	10.5 -	外反しながら立ち上がる。	ナゲ調査。	5YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む 施成	
90-13	B-2 O-6	深鉢	- -	外反しながら直線的に立ち上がる。	ナゲ調査。	10YR6/3C. 黄褐色 灰石、灰心を含む 施成	
90-14	B-2 O-6	深鉢	8.7	直線は強くくびれ跡みながら立 り上がる。	ナゲ調査。	7.5YR6/3C. 黄褐色 灰石、白灰を含む 施成	
90-15	B-2 O-6	深鉢	9.2	外反しながら直線的に立ち上 がる。	網代底。ナゲ調査。	5YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む 施成	
90-16	B-2 O-6	深鉢	9.4	外反しながら直線的に立ち上 がる。	ナゲ調査。	10YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む	
90-17	C-1 33号配石	深鉢	(7.7) -	ハの字に聞く。	ナゲ調査。	10YR2/1黄褐色 灰石、雲母、石英合む	
90-18	B-2 O-6	深鉢	(10.4) -	直線的に立ち上がる。	ナゲ調査。	5YR6/4C. 黄褐色 灰石、砂合む	
90-19	B-2 O-6	深鉢	(10.4) -	外反しながら立ち上がる。	網代底。ナゲ調査。	7.5YR6/4C. 黄褐色 灰石、砂合む	
90-20	B-2 O-6	深鉢	(11.6) -	直線的に立ち上がる。	ナゲ調査。	5YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む	
90-21	B-2 O-6 (4号配石)	小厚土 茶	(4.2) -	堅らむ斜面。	ナゲ調査。	10YR6/3C. 黄褐色 灰石、砂合む	

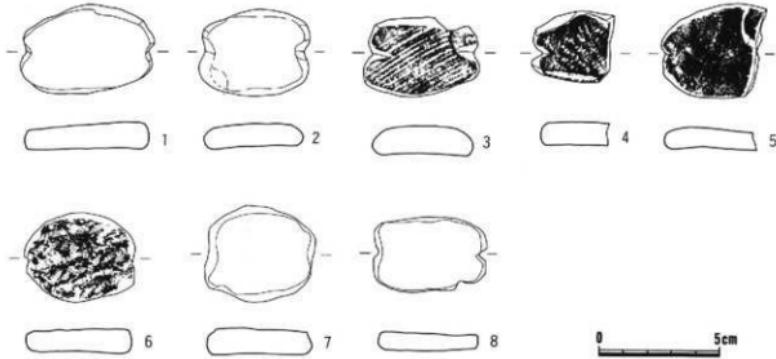
2 土製品（第91図～第93図）

土器片錐（第91図）

第91図-1～8は土器片を利用した土器片錐で、周縁部を磨り研ぎ、両端に紐掛けの切り目をいたるものである。抉入方向は長軸方向に設置されるものがほとんどである。年代的には、中期後葉に比定できるものは第91図-1～5、後期前葉に比定されるものは第91図-6～8である。

土製円盤（第92図）

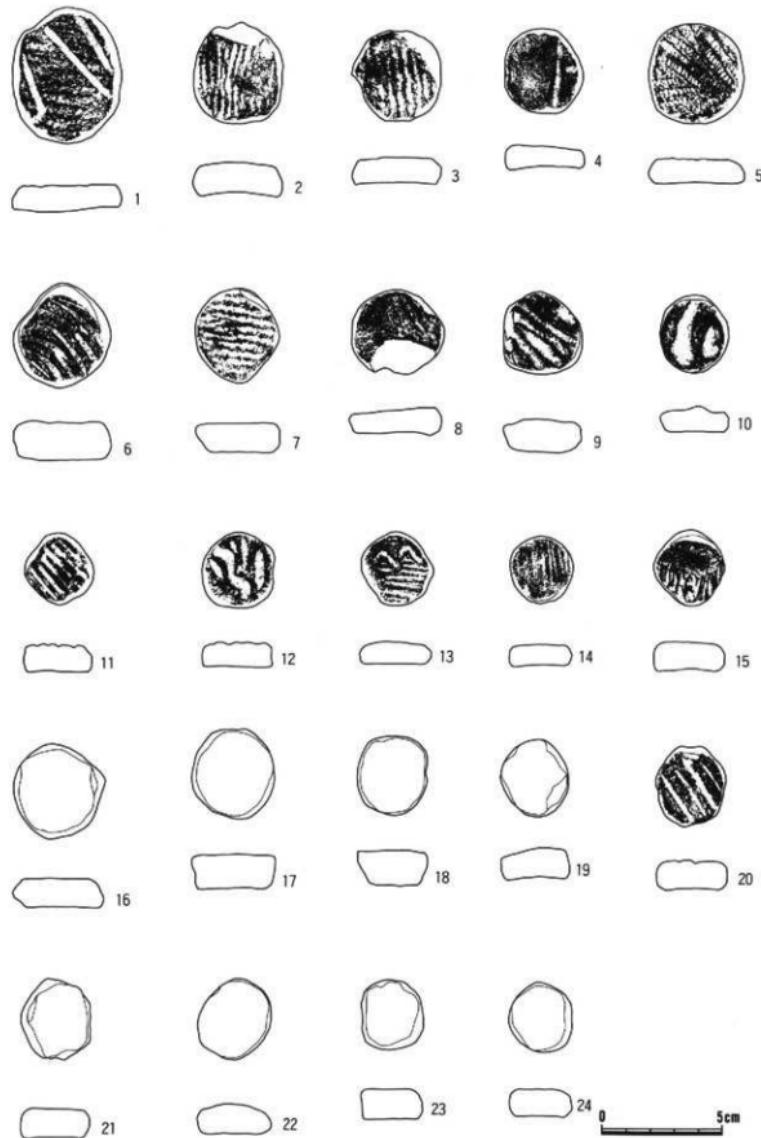
第92図-1～24は土製円盤で、周縁部を磨り研ぎ、あるいは打ち欠いて円盤状に成形した製品である。椭円・円形がほとんどで、長方形・方形のものはみられない。利用されている部位は胴部片で、文様等から年代観は中期後葉、後期初頭が中心である。



第91図 土器片錐

表44 土器片錐観察表

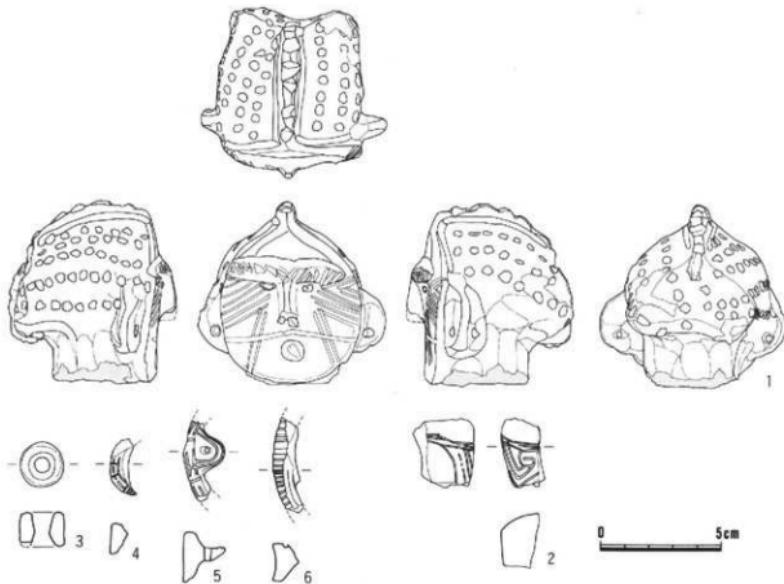
番号	調査区 遺構	形状 文様 研磨状況	長径 幅径	厚さ 重さ(g)	色調 胎土 焼成	備考
91-1	C-1 H-9	楕円 長軸 無文 全周	5.5 3.6	1.1 24.5	10YR7/4に近い黄橙色 長石、石英含む 良好	
91-2	C-1 H-8	楕円 長軸 無文 全周	4.6 3.4	1.1 17.2	7.5YR7/4に近い褐色 長石、石英、雲母含む 良好	
91-3	C-1 K-10	楕円 長軸 条線+沈線 1/2	4.3 3.9	1.3 23.3	10YR5/3に近い黄橙色 長石、石英、雲母、砂粒を含む 良好	
91-4	C-1 J-10	楕円 長軸 縞文+沈線 全周	4.5 3.1	1.1 10.9	7.5YR5/4に近い褐色 長石含む 良好	
91-5	C-1 I-8	楕円 長軸 沈線 全周	4.3 3.9	0.9 14.3	2.5Y7/3浅黄色 長石を含む 良好	
91-6	B-2 O-6	楕円 長軸 縞文 1/2	4.5 3.1	1.0 15.6	5YR4/8赤褐色 砂粒、長石を含む 良好	
91-7	B-2 N-4	楕円 長軸 無文 全周	4.6 3.95	1.2 19.3	7.5YR2/1黒色 石英、砂粒含む 良好	
91-8	B-2 M-4	縦丸長方形 無文 全周	4.6 3.1	0.8 12.7	7.5YR3/3暗褐色 長石含む 良好	



第92図 土製円盤

表45 土製円盤観察表

番号	調査区 遺構	形狀 文様 研磨状況	長径 短径	厚さ 重さ(g)	色調 胎土 焼成	備考
92-1	B-2 M-4	横円 縦文+沈線 全周	5.6 4.5	1.1 30.8	7.5YR5/4に近い褐色 長石含む 良好	
92-2	C-1 I-10	横円 縦文 全周	4.1 3.6	1.25 21.5	10YR6/3に近い黄褐色 長石含む 良好	
92-3	C-1 J-12	円 縦文 1/2以上	3.6 3.6	1 15.8	5YR5/4に近い赤褐色 長石、砂粒含む 良好	
92-4	C-1 K-12	横円 縦線 全周	3.3 3.3	1.0 12.1	10YR6/4に近い黄褐色 長石、砂粒を含む 良好	
92-5	C-1 I-10	円 縦文 1/2以上	4.0 4.0	1.0 19.1	7.5YR5/4に近い褐色 砂粒、長石、雲母を含む 良好	
92-6	C-1 SB-9	不整横円 条線 全周	1.1 1.1	1.5 25.4	10YR6/4に近い黄褐色 砂粒、長石を含む 良好	
92-7	C-1 SB-20	横円 縦文 1/2以上	3.8 3.1	1.2 16.1	10YR4/2灰黄褐色 長石、砂粒を含む 良好	
92-8	B-2 M-4	横円 沈線 1/2以上	3.7 3.4	0.9 12.6	10YR6/4に近い黄褐色 長石を含む 良好	
92-9	C-1 SB-11	横円 縦文 1/2以上	2.25 2.25	1.3 13.5	10YR6/4に近い黄褐色 砂粒、長石を含む 良好	
92-10	C-1 SB-8	円 縦帶+沈線 全周	3.2 2.8	1.1 10.0	10YR7/4に近い黄褐色 雲母、長石を含む 良好	
92-11	C-1 K-13	横円 条線 1/2	3.0 2.9	1.1 9.2	5YR6/6褐色 長石を含む 良好	
92-12	C-1 SB-10	横円 沈線 2/3以上	3.0 3.0	1.0 11.6	7.5YR6/4に近い褐色 雲母、長石を含む 良好	
92-13	C-1 SB-8	横円 条線+沈線 1/2未	3.0 3.0	0.9 7.6	10YR6/3に近い黄褐色 雲母、長石を含む 良好	
92-14	C-1 H-11	円 条線 全周	2.65 2.65	0.8 8.0	10YR6/3に近い黄褐色 長石、雲母を含む 良好	
92-15	C-1 SB-12	横円 条線 1/2	3.0 1.2	1.2 9.7	5YR5/4に近い褐色 長石 良好	
92-16	C-1 K-11	円 無文 全周	3.8 3.8	1.1 16.9	7.5YR6/4に近い褐色 雲母、長石を含む 良好	
92-17	C-1 SB-6	円 無文 無	3.6 3.4	1.4 18.8	7.5YR6/4に近い褐色 砂粒を含む 良好	
92-18	C-1 H-9	円 無文 1/2	3.3 2.8	1.4 12.9	5YR5/4に近い赤褐色 長石、砂粒を含む 良好	
92-19	C-1 K-10	横円 縦帶+沈線 全周	3.2 2.8	1.2 10.2	7.5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒を含む 良好	
92-20	C-1 H-11	横円 条線 無	3.4 2.9	0.7 11.7	7.5YR6/4に近い褐色 長石、砂粒を含む 良好	
92-21	C-1 K-11	横円 無文 1/2未	3.3 2.8	1.2 12.7	5YR5/4に近い赤褐色 長石を含む 良好	
92-22	C-1 SB-18	横円 無文 全周	3.3 3.0	1.2 9.9	7.5YR6/4に近い褐色 砂粒を含む 良好	
92-23	C-1 SB-1	横円 無文 1/2	2.9 2.5	1.2 9.9	7.5YR5/3に近い褐色 長石、雲母を含む 良好	
92-24	C-1 SB-9	横円 無文 全周	2.9 2.6	1.1 9.2	5YR5/4に近い赤褐色 長石、雲母、砂粒を含む 良好	



第93図 土偶・耳飾

土偶（第93図-1・2）

第93図-1はD地区の表土除去中に土偶の頭部が出土した。縄文時代の終末期に、東海地方でみられる後頭部結髪状土偶である。顔面長は7.4cm、顔面幅5.75cm、耳までの幅は7.6cmを測る。

顔面の平面形は栗実形を呈し、頭頂部に刻をもつ隆帯が貼付される。後頭部の結髪状の膨らみの中央には、1ヶ所穿孔がみられるが貫通はない。頭部は列点状の刺突文が施される。顔面の表現は、T字状の隆帯で眉・鼻を表現する。頬には八字状の沈線が施される。さらに、八字の2本の沈線が垂下し、口と鼻の間に沈線が施される。両耳には孔がつく。

この土偶は後頭部結髪状土偶B類に相当し、静岡県河津町の姫宮遺跡、愛知県一宮市八王子遺跡出土の土偶に類似点が認められるという。

第93図-2は土偶の腰部である。沈線による区画内に渦巻き状の沈線が施される。SB-13の覆土から出土し、年代的には中期後葉に比定されると思われる。

耳飾（第92図-3～6）

第93図-3～6は耳飾で4点出土している。第93図-3は筒形を呈し、中心部に円形の孔が貫通する。無文であるが、孔の内部は赤色顔料が付着する。径は1.8cm、高さ1.4cm、孔径0.6～1.0cmを測る。第93図-4は端面に弧線文とそれを区切る短沈線文が施される。第93図-5は内側に突起がつき、穿孔が施される。端面に弧線文とそれを区切る短沈線が施される。第93図-6は側面から端部にかけて短沈線が施される。

表46 土偶・耳飾觀察表

番号	調査区 裏側	面積 部位 残存	形態の特長	技術の特徴	色刺 貼上 焼成	備考
93- 1	D - 1 E - 1 E 振	土偶 頭部	葉の実形を呈する。頭頂部に刻みを持つ縦帶が貼付される。	頭部は削りが施される。丁字条の縦帶と、肩を表現する際には沈線が施される。	5YR5/6明赤褐色 長石、砂粒含む 良好	頭幅3.75 耳までの幅7.6 残存高7.4
93- 2	C - 1 K - 11	耳飾り 兜形	鶴形を模し、中心部に円形の孔が貫通する。	頭部は削りが施され、内部に赤色顔料が付着。	7.5YR7/4赤い褐色 長石、母貝、石英含む 良好	頭1.8 孔径0.6~1.0 高さ1.4
93- 3	C - 1 K - 11	耳飾り 1/3残存	筒形を見せる。	頭部には弧線文とそれを区切る刻定が施される。	7.5YR7/3C.5赤褐色 長石、骨粉含む 良好	
93- 4	C 20行配合 内土坑	耳飾り 1/3残存	内側に突起が付けられ穿孔が施される。	頭部には2本1組の弧線文が刻まれ、それを区切る塑沈線が施される。	5Y4/1灰色 長石、雲母含む 良	
93- 5	B - 1 K - 4	耳飾り 1/4残存	断面は三角形状を見る。	頭部には塑沈線文が刻まれる。	10Y4/1灰色 長石、石英含む 良好	
93- 6	C - 1 SB-13	土偶 脚部		沈線によるV溝内に溝巻文が施される。	7.5YR7/4C.5赤褐色 長石、骨粉含む 良好	

参考文献

- 前田清彦 2000 「後頭部結型状土偶とその周辺」『土偶研究の地平』 土偶とその情報研究論集 4
- 前田清彦 1997 「東海地方の晩期土偶」『西日本をとりまく土偶』 土偶とその情報研究会
- 藤森栄一 1970 『繩文時代釣手土器論』『繩文農耕』
- 宮城孝之 1983 『繩文時代中期の釣手土器』『中部高地の考古学II』
- 吉田教彦 1987 『繩文の神話』 青土社
- 渡辺 誠 1995 「人面装飾付の釣手土器」『比較神話学の展望』

3 石器

a. 概略

未製品も含め总数で1660点の出土が確認された。その他にも黒曜石などの碎片が優に1200点を超えるが、図化等は行わなかった。器種としては21種に分類できる。各器種ごとの内訳は表に示す通りである。打製石斧が484点と総出土数の29.2%を占める。以下、磨石、石錐とつづく。打製石斧、石錐が多数出土しているのに対して、石鎌はわずか8.1%と前述の2器種と比べて圧倒的に割合が少ない点が注目される。

分布状況はC区のほぼ中央付近をピークに、そこから南西側に集中する傾向が見られる。遺構の検出状況とほぼ重なる。3軒の住居跡が確認された北西寄りでは50点に満たない。遺構外出土990点、遺構内出土が671点であった。遺構外が6割を占め、それらの集中域は石器を大量に伴う遺構の周辺で認められる。

各種の石器に関しては、器種毎に項目を設け、出土点数・使用石材・法量・使用痕・欠損状況などの観察事項について述べるとともに、類別可能なものに関しては素材・形態による類型化を行う。(観察表の[]内の数値は欠損品の現存値を示す。また、欠損によって類別不可能な場合には(ー)で表した。)

b. 石鎌 (第96図~第98図-7)

总数で134点出土した。未製品であると思われるものも含む。出土傾向としては、特に集中範囲も認められず、比較的の散在気味である。遺構からの出土は住居跡からの20点(うち1点は炉内出土)、配石からの9点にとどまる。石材は黒曜石を主体とし、それ以外には頁岩・チャートが使用されているが、いずれも割合は少ない。

(1)形態による分類

I a : 四基無茎鎌で、脚部の開きが120度以上 (27点)

I b : 四基無茎鎌で、脚部の開きが120度未満 (38点)

I c : 平基無茎鎌 (21点)

I d : 尖基鎌 (3点)

II a : 四基有茎鎌 (2点)

II b : 平基有茎鎌 (1点)

III : 不明 (18点)

無茎鎌が圧倒的割合を占める。脚部を欠損するものが多いためI a類とI b類の正確な比率は出ないが、抉りの深いI b類が若干卓越するようである。脚部の先端は比較的丸みを帯びており、抉りの深いものでも先端はあまり鋭くない。また、I d類はわずか3点と極端に少ない。うち1点はいわゆる柳葉形を呈する。

(2)素材による分類

1 : 縦長剥片

2 : 橫長剥片

3 : 不明

表47 出土石器点数表

器種名	出土点数
石鎌	134
有孔石製品	1
石槍	1
浮子	1
石錐	11
楔形石器	6
二次加工剥片	8
スクレイパー	7
石匙	57
打製石斧	484
半月状両面調整石器	4
盤状石器	1
磨製石斧	41
石錐	269
敲石	49
凹石	86
磨石	229
石棒	23
石劍	1
蜂の巣石	71
石皿	176
総計	1,660

自然面を残すものが1点ある。表裏面ともに比較的丁寧な剝離調整が加えられており、ほとんどが主剝離面を残していない。

表48 石鎚形態分類表

(3)側縁形による分類

A: 直線的 (39点)

B: 溝曲する (53点)

B類はさらにB1類: 外溝とB2類:

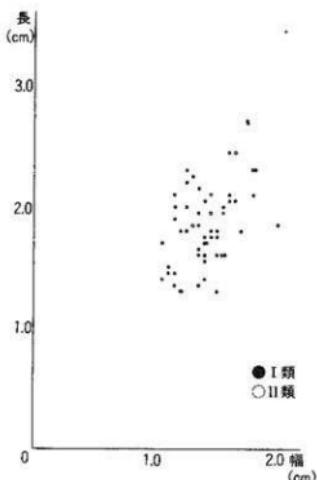
類: 内溝とに細分可能である。ただし、A類として分類した中にもわずかに丸みを帯びたものもあるため厳密に区別することは難しいと思われる。

I b類とB1類の組み合わせが最も多い。一方、B2類がわずか3点と圧倒的に少なく、また凹基無茎鎌に限定されるようである。A類と特定の類型との組み合わせに偏りは認められない。

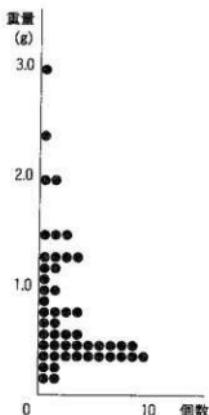
(4)法量

最大で長さ3.25cm、幅2.05cmを測るが、大半は長さ1.3~2.3cm、幅1.2~1.8cmの範囲に分布する。特に大型のものが4点ある以外はI類の集中域もほぼこれに重なる。II類は3点のみでしかも3点ともまとまっているため分布の傾向は分からぬが、いずれも長さは1.8cmを超える。重量分布は0.8g以下、0.9~1.99g、2.0g以上の3タイプに分類可能だが、大半は0.8g以下の軽量なタイプである。2.0gを超えるものはわずかに2点を数えるのみで、どちらもI類に属する。また、長幅比1.4:1を境にして2つのタイプに分類できる。II類のうち2点は1.4以下の幅の狭いタイプに分類される。また、I類の中でもIc類は比較的幅広の剥片を用いているようである。

	I				II		III
	a	b	c	d	a	b	
A	13	14	8	1	1	1	1
B1	13	22	11	2	1	—	1
B2	1	2	—	—	—	—	—
不明	8	—	2	—	—	—	16



第94図 石鎚法量分布図



第95図 石鎚重量分布図

(5)欠損部位

総数の57%にあたる77点が一部欠損した状態で出土している。内訳は先端部で折損したものが21点、脚部が39点、先端部と脚部の両方が10点、その他7点で、ほとんどの場合先端部あるいは脚部を欠く。その他としたものも先端部付近が大きく欠けており、使用に際してかなり強い衝撃が伝わったことが推測できる。

表49 石鎚観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	分類	倒錐	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損部位	備考
96- 1	C - 1	K - 11	黒曜石	-	I a	B1	1.30	1.20	0.30	0.40	完形	
96- 2	B - 2	P - 7	黒曜石	砂質	I a	B1	2.00	1.15	0.30	0.33	完形	
96- 3	C - 1	M - 13	砂質頁岩	-	I a	B1	2.15	1.35	0.35	0.70	完形	
96- 4	C - 1	I - 9	頁岩	-	I a	B1	2.10	1.80	0.45	1.10	完形	
96- 5	C - 1	-	黒曜石	-	I a	B1	1.65	0.80	0.25	0.10	完形	
96- 6	C - 1	K - 12	黒曜石	-	I a	B1	1.45	1.10	0.45	0.59	完形	
96- 7	B - 1	G - 6	黒曜石	砂質	I a	B1	1.40	1.40	0.30	0.41	完形	
96- 8	C - 1	SB - 4	黒曜石	-	I a	B1	2.05	1.6	0.55	1.30	完形	
96- 9	C - 2	SB - 23	黒曜石	-	I a	B1	1.70	1.40	0.50	0.92	完形	
96-10	C - 1	K - 10	砂質頁岩	横剝	I a	B1	3.10	1.95	0.80	2.90	完形	
96-11	C - 2	-	頁岩	-	I b	B1	[1.9]	2.30	0.50	[1.5]	先端部	
96-12	C - 1	-	黒曜石	-	I b	A	1.40	1.05	0.30	0.30	完形	
96-13	C - 1	H - 7	黒曜石	-	I b	A	1.75	1.50	0.40	0.40	完形	
96-14	C - 1	K - 12	黒曜石	-	I b	A	2.10	1.15	0.30	0.40	完形	
96-15	C - 2	-	砂質頁岩	-	I b	B1	2.50	[1.3]	0.30	[0.55]	脚部	
96-16	C - 1	SB - 14	黒曜石	横剝	I b	A	2.25	1.3	0.25	0.40	完形	
96-17	C - 1	20号配石	草綠色チャート	-	I b	A	[2.15]	1.75	0.45	[1.1]	先端部	
96-18	C - 2	G - 6	砂質チャート	-	I b	B1	3.25	2.05	0.40	1.49	完形	
96-19	B - 1	SB - 4	黒曜石	-	I b	B2	2.70	1.75	0.30	0.96	完形	
97- 20	C - 1	M - 14	黒曜石	-	I b	B1	1.30	1.50	0.30	0.39	完形	
97- 21	C - 1	O - 15	黒曜石	-	I b	B2	[1.6]	[1.6]	0.35	[0.2]	脚部	
97- 22	C - 1	-	黒曜石	-	I b	B1	1.75	1.40	0.30	0.20	完形	
97- 23	C - 1	SB - 15	黒曜石	-	I b	B1	1.50	1.20	0.30	0.20	完形	
97- 24	C - 1	L - 13	黒曜石	縦剝	I b	B1	2.05	1.40	0.30	0.40	完形	自然面あり
97- 25	C - 1	N - 15	黒曜石	-	I b	A	1.60	1.55	0.55	0.70	完形	
97- 26	C - 1	-	黒曜石	-	I b	B1	1.35	1.35	0.25	0.31	完形	
97- 27	C - 1	SB - 1	黒曜石	横剝	I b	B1	1.95	1.35	0.25	0.30	完形	
97- 28	C - 1	SB - 5	黒曜石	-	I b	B1	[1.45]	1.55	0.35	[0.6]	先端部	
97- 29	C - 1	K - 10	黒曜石	-	I b	B1	[1.7]	1.50	[0.4]	[0.50]	脚部	
97- 30	C - 2	-	黒曜石	-	I b	B1	1.80	1.45	0.45	0.74	完形	
97- 31	C - 1	H - 8	黒曜石	-	I b	B1	1.85	1.35	0.30	0.49	完形	
97- 32	C - 1	E - 8	黒曜石	-	I b	A	[1.55]	[1.35]	0.40	[0.5]	脚部	被熱?
97- 33	B - 1	-	黒曜石	縦剝	I c	A	1.60	1.40	0.25	0.37	完形	
97- 34	C - 1	24号配石	黒曜石	-	I c	A	1.35	1.15	0.45	0.50	完形	
97- 35	B - 1	Q - 13	黒曜石	横剝	I c	A	1.30	1.20	0.35	0.42	完形	
97- 36	C - 1	K - 14	黒曜石	-	I c	A	1.50	1.10	0.25	0.39	完形	
97- 37	B - 1	-	黒曜石	横剝	I c	A	2.10	1.45	0.75	1.43	完形	
97- 38	C - 1	H - 7	黒曜石	-	I c	A	1.75	1.45	0.55	1.26	完形	
97- 39	C - 1	G - 10	黒曜石	-	I c	C	2.20	1.25	0.50	0.70	完形	
97- 40	C - 1	G - 10	黒曜石	-	I c	C	2.30	1.25	0.40	1.04	完形	
97- 41	C - 1	I - 7	頁岩	-	II a	B	[2.45]	1.65	0.35	[1.1]	先端部	
97- 42	B - 2	M - 3	黒曜石	-	II a	B	1.85	1.30	0.30	0.42	完形	
97- 43	C - 1	E - 8	黒曜石	-	II a	B	1.95	[1.45]	0.40	[1.6]	脚部	
98- 1	C - 1	O - 16	黒曜石	縦剝	-	-	1.90	1.15	0.40	0.40	完形	未製品
98- 2	C - 1	-	黒曜石	縦剝	-	-	2.05	1.65	0.45	0.63	完形	未製品
98- 3	C - 1	K - 11	黒曜石	横剝	-	-	1.60	1.50	0.60	0.60	完形	未製品
98- 4	C - 1	E - 8	黒曜石	縦剝	-	-	1.95	1.70	0.60	1.08	完形	未製品
98- 5	C - 1	K - 10	黒曜石	縦剝	-	-	1.95	1.55	0.50	1.12	完形	未製品
98- 6	C - 1	N - 15	黒曜石	横剝	-	-	1.75	1.30	0.55	1.09	完形	未製品
98- 7	C - 1	H - 7	黒曜石	-	-	-	1.80	1.50	0.60	1.20	完形	未製品

c . 有孔石製品（第98図-8）

1点のみ出土。欠損部分が多いため、正確な大きさは不明だが、幅約2.65cm、厚さ0.2cmの非常に薄い粘板岩の剥片を使用している。表裏両面に横位および斜位に研磨痕が残る。側縁部分は研磨によって整形され、鋭い稜をもつ。中央付近には径が約0.3cmの円形の孔が穿たれており、錐状の道具を用いて両面から穿孔したと思われる。用途等は不明であるが、装飾的な機能をもったものであろうか。

表50 有孔石製品観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
98-8	B-2		暗灰色粘板岩	[3.85]	[2.65]	0.20	[5.32]	器面を研磨。孔径0.3cmの穿孔あり。

d . 石槍（第98図-9）

黒曜石製。長さ8.8cm、幅3.25cmで、約2.8cmの長さの茎部をもつ。断面はややいびつなレンズ状を呈する。裏面には主剝離面を残す。継長剝片を素材とする。周縁部に丁寧な剝離調整が加えられている。ただし、茎部には正背面ともに入念な調整が認められるのに対し、先端部や基部は周縁部のみにとどまる。先端部は丸みを帯び、鋭さを欠く。側縁は外湾する。

表51 石槍観察表

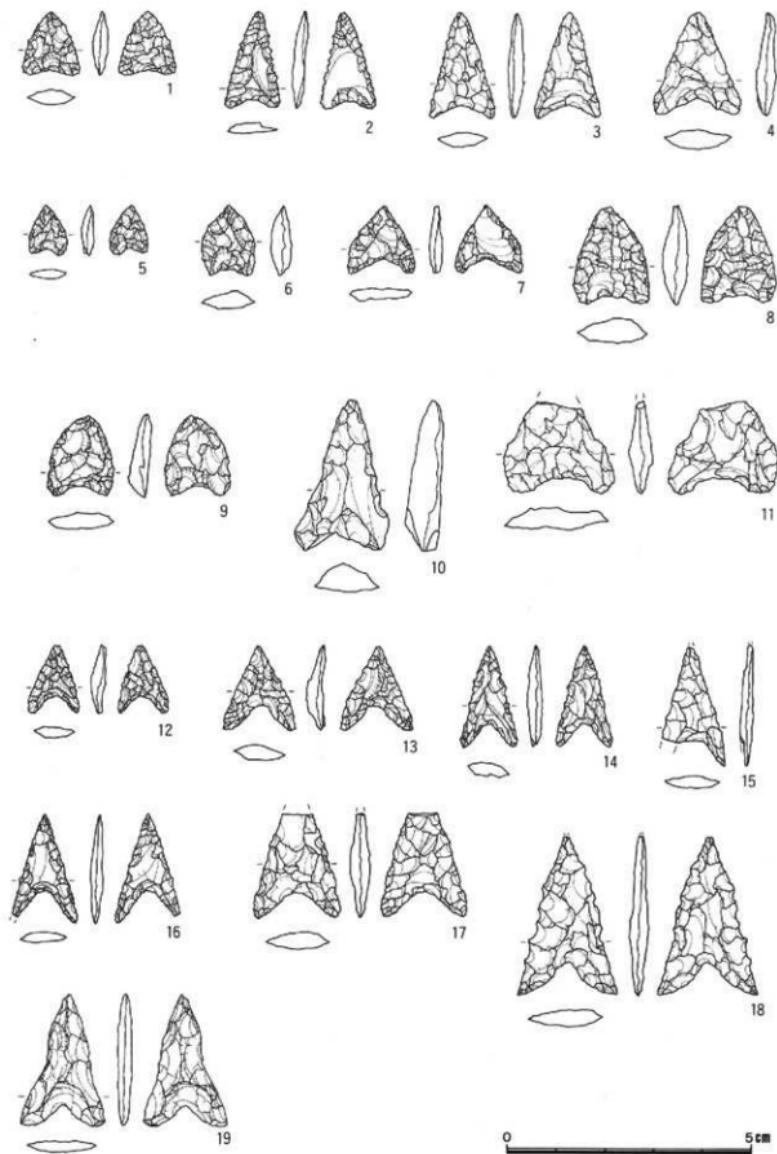
番号	調査区	出土遺構	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
98-9	B-2		黒曜石	8.80	3.25	1.35	26.0	完形。長さ2.8cmの茎部を有する。

e . 浮子（第98図-10）

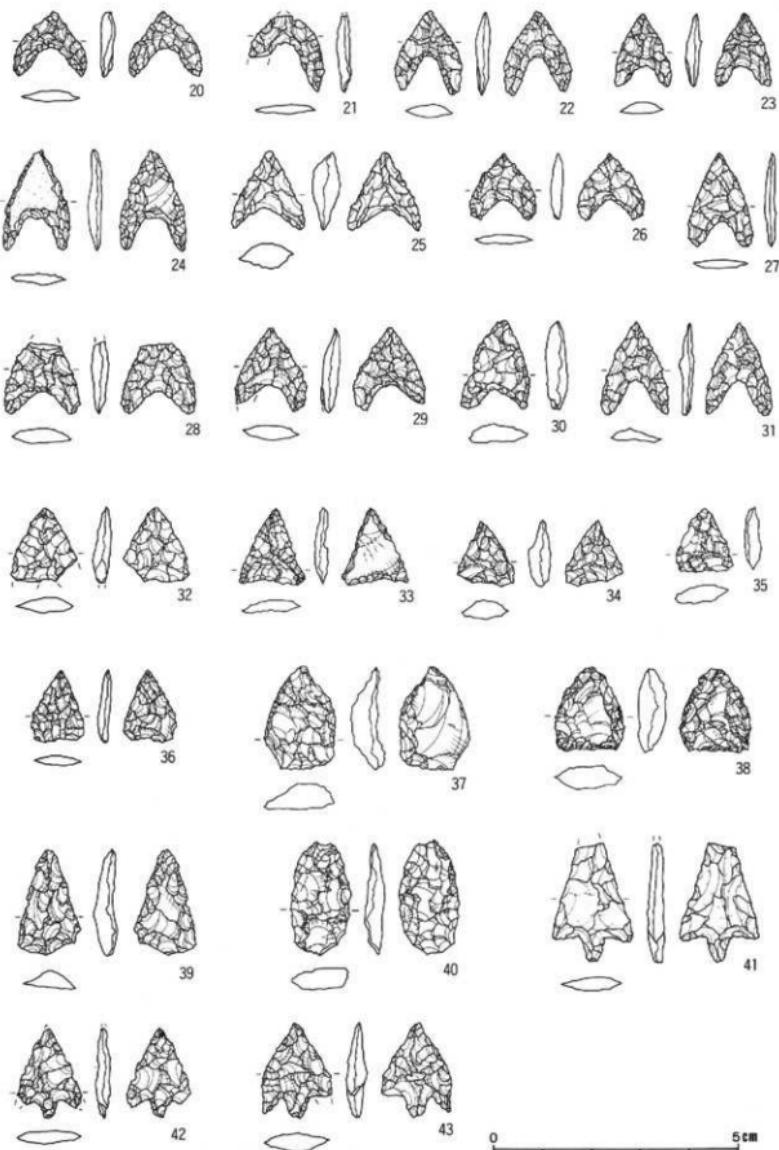
1点のみ出土した。石材は軽石を使用している。長さ7.25cm、幅4.3cmの丸みを帯びた長方形で0.3cm～0.4cm大の孔を有する。欠損品のため、正確な法景や穿孔位置は不明である。ちょうど孔の部分で上下に割れるような形で欠損している。孔は下端部から約7cmのところに穿たれており、側面から横方向にほぼ水平に貫通している。他に3点軽石が出土しているが欠損部分が多く浮子であると断定しがたいため、あえて分類から外した。

表52 浮子観察表

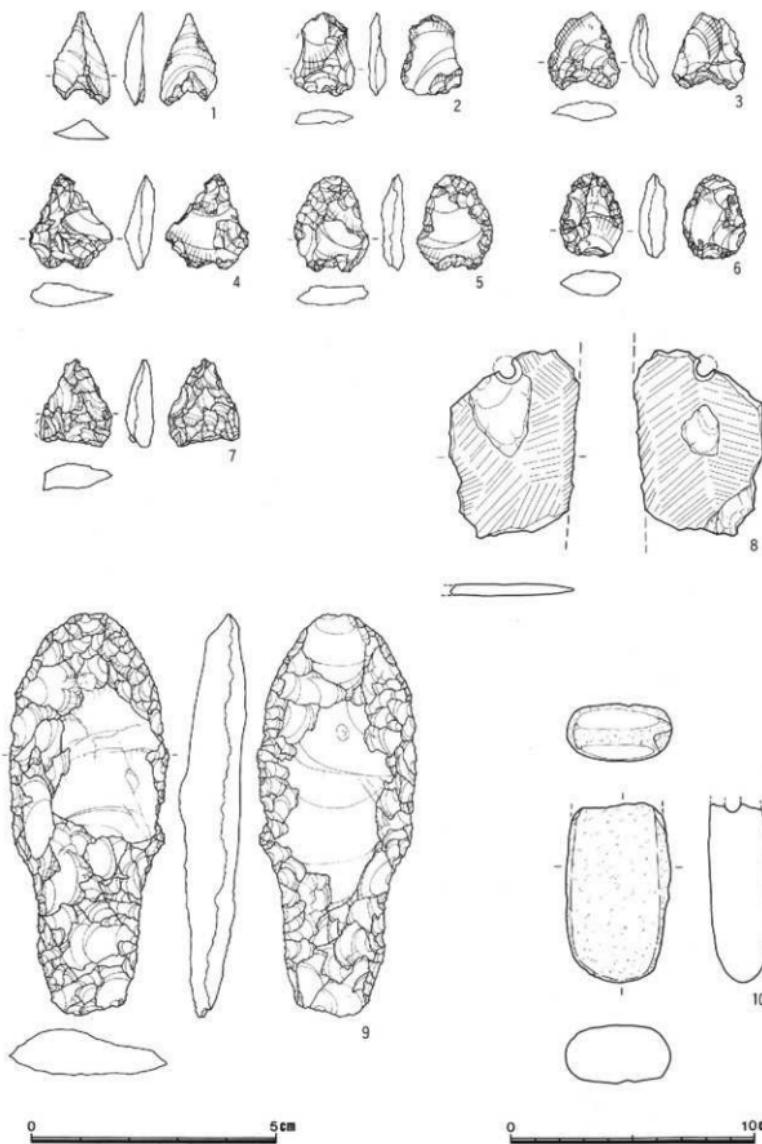
番号	調査区	出土遺構	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
98-10	C-1	K-16	軽石	[7.25]	4.3	2.35	[21.7]	下端欠損。推定径0.4cmの溝が横方向にはしる。



第96図 石鎌（1）



第97図 石鏃 (2)



第98図 石鎚未製品・石槍・有孔石製品・浮子

f. 石錐（第99図－1～7）

11点が出土した。配石から1点出土している。石材は黒曜石および粘板岩を使用している。

(1)素材

- 1 : 縦長剝片
- 2 : 横長剝片
- 3 : 不明

(2)加工部位

- I : 先端の錐部のみに施す。(4点)
 - II : 全体に施す。(7点)
- II類には面全体に施したものと周縁部のみの調整にとどまるものとがある。

(3)頭部の形状による分類

- A : 錐部との区別が明瞭に設けられているもの。(3点)
 - B 1 : 明瞭な区別をもたないもので、広いV字状を呈する。(5点)
 - B 2 : 明瞭な区別をもたないもので、狭いV字状を呈する。(3点)
- A類の1点は方形でつまみ状の頭部をもつ。

(4)法量

長さ2.05～4.85cm、幅1.15～2.5cmの範囲に分布する。B 2類はいずれも4.0cm以上の長さがあり、重量も3g前後である。重量の分布範囲は1.56～4.03gと広いが1.0g前後のものと2.0gを超える比較的重いものとに分かれる。ただし、この点については分類ごとの傾向は認められず、むしろ黒曜石と粘板岩という石材の違いによると思われる。

表53 石錐観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	分類	頭部の形状		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
						上	下					
99-1	C-1	H-7	黒色粘板岩(灰色汚染)	不明	I	A	4.20	2.50	0.55	4.03		
99-2	C-1	L-11	黒曜石	不明	II	A	(1.7)	(1.4)	(0.35)	(0.77)	上端欠損	
99-3	C-2	SB-23	黒曜石	縱剥	I	B 1	2.05	1.20	0.65	1.09		
99-4	C-1		黒曜石	縱剥	I	B 1	2.50	1.55	0.70	1.56	自然面あり	
99-5	C-2	SB-23	黒曜石	縱剥	I	B 1	2.45	1.65	0.75	1.56		
99-6	C-1	H-17	黒曜石	横剥	II	B 1	3.20	1.40	0.85	2.17		
99-7	C-1	H-8	黒色砂質粘板岩(灰色汚染)	縦剥	II	B 2	4.55	1.25	0.60	3.30		
99-8	C-1	SB-11	黒色砂質粘板岩(灰色汚染)	不明	II	B 2	4.85	1.15	0.80	2.95		

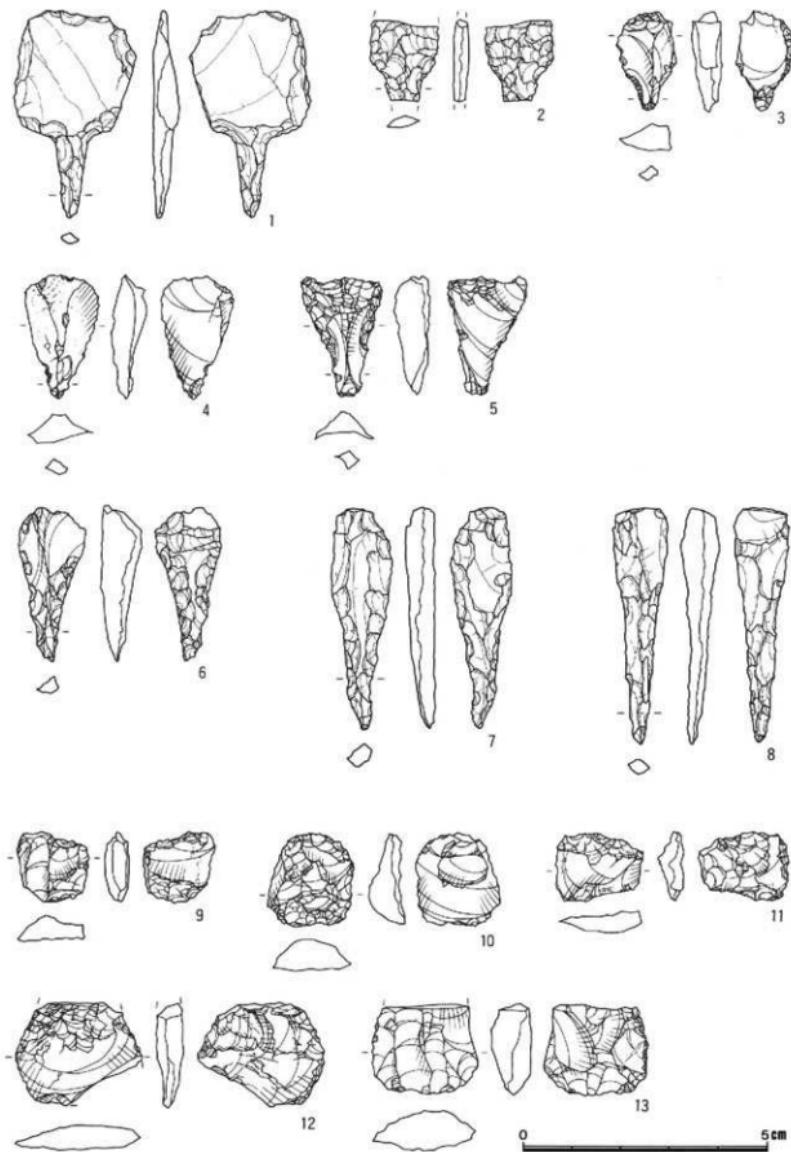
g. 梗形石器（第99図－9～13）

剝片の両極部分に剝離痕を有する。若干の例外はあるものの方形か、方形に近い形状を呈している。石材は黒曜石を使用している。

主としては相対する二辺から対辺に向かって剝離痕が残るが、四辺に認められる場合もある。端部はI : 面状、II : 線状、III : 点状のいずれかを呈しており、II類が大半を占める。また、打撃の際の潰等が認められる。剝離痕は端部に残っているのみでなく、表裏面にまで及んでいる。大きさはいずれも小型で、欠損を含めて最大でも長さが4.0cmを超えることはない。また、厚みも0.5～0.8cmの範囲内に集約される。

表54 梗形石器観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	頭部の形状			最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
					上	下	側					
99-9	C-1	K-11	黒曜石	縱剥	II	III	--	1.45	1.45	0.50	0.86	
99-10	C-1	K-11	黒曜石	縱剥	I	II	II	1.90	1.75	0.70	1.73	
99-11	C-1	SB-2	黒曜石	横剥	II	II	--	1.40	1.85	0.50	0.86	
99-12	C-1	L-15	黒曜石	横剥	I	II?	II	[2.15]	2.10	0.55	[2.58]	下端欠損
99-13	C-1	SB-14	黒曜石	不明	(-)	II	-	1.85	2.15	0.85	(3.06)	上端欠損



第99図 石錐・楔形石器

h. 二次加工剝片（第100図-1～8）

剝片の縁辺部に石核からの剝離後に調整加工を施されたもの。縦長剝片あるいは横長剝片を素材とし、わずかに自然面の残るものが1点認められた。形はいずれも不定形である。8点が確認できた。遺構出土は住居跡からの3点のみである。石材は黒曜石を使用している。なお、石器の未製品を含んでいる可能性が高い。

縁辺部に細かな剝離調整によって作り出された刃を有する。刃部が1周縁のみに認められるものはなく、大半が2辺以上、最多のものではほぼ全周する。また、ほとんどが両面調整による刃付けを行っている。刃角はややバラツキがみられるものの、50～70度に一定の集中が認められる。

長さ2.0cm、幅1.5cm前後に集中する。最大でも長さが2.35cm、幅が2.15cmと、小型の剝片を使用している。厚みは0.5cm、重量は1g前後である。

表55 二次加工剝片観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	刀数	刃付け	刃部角(度)	刃角(度)	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
100-1	C-1	SB-25	黒曜石	不明	1	両刃	31.0	62.0	1.90	1.55	0.50	1.01	
100-2	C-1	K-11	黒曜石	横剥	1	両刃	30.0	88.0	2.25	1.25	0.55	1.10	
100-3	C-1	L-11	黒曜石	縱剥	1	片刃	19.0	67.0	1.70	1.55	0.35	0.66	
100-4	C-2	SB-23	黒曜石	横剥	2	両刃	25.0	20.0	1.75	2.10	0.65	1.16	
100-5	C-1	H-8	黒曜石	縱剥	2	両刃	26.0	40.0	2.35	1.75	0.50	1.34	
100-6	C-1		黒曜石	縱剥	3	両刃	30.0	69.0	1.75	1.70	0.50	0.98	自然面あり
100-7	C-1	J-10	黒曜石	不明	4	両刃	43.0	52.0	2.00	1.55	0.60	1.44	
100-8	C-1	SB-25	黒曜石	横剥	3	片刃	29.0	84.0	1.80	1.85	0.55	0.88	

i. スクレイパー（第100図-9～14）

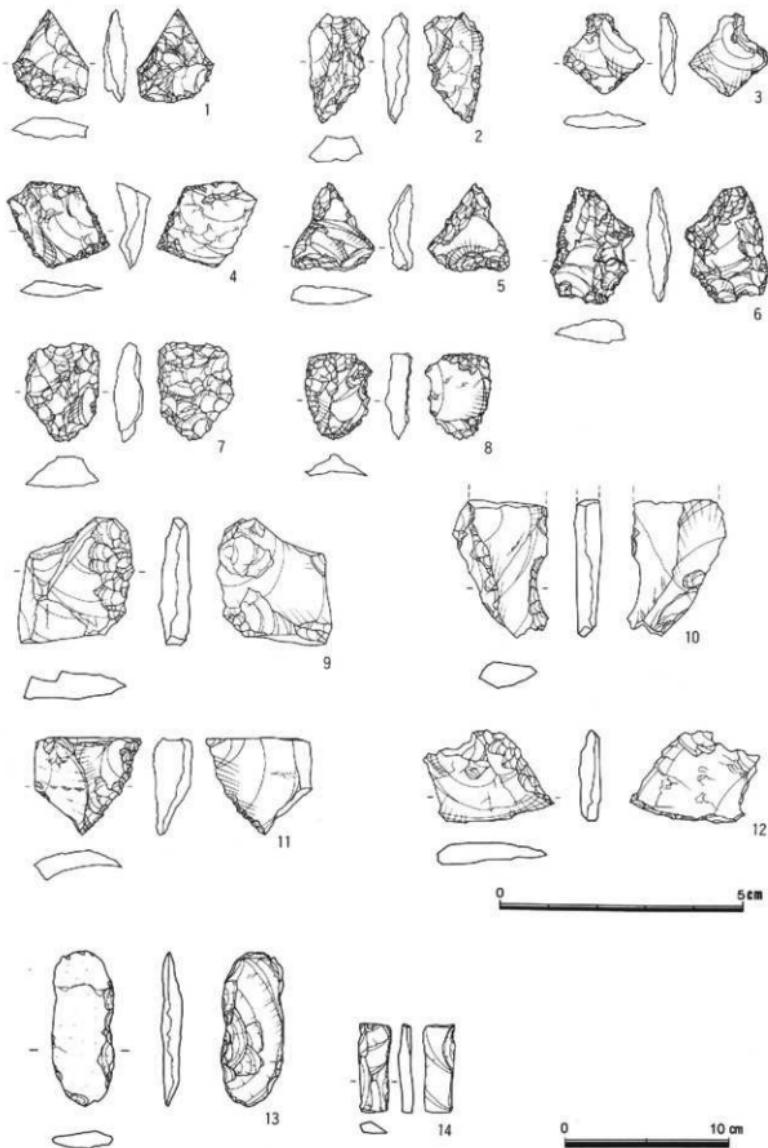
不定形な剝片の縁辺部に明瞭な刃部を有する。縦長剝片あるいは横長剝片を素材とする。7点確認できた。うち2点が住居跡からの出土である。配石からの出土は確認されなかった。使用石材は黒曜石および粘板岩である。

刃部は、ほとんどが片面調整によって1辺にのみ設けられている。2辺以上に及ぶものは確認できなかった。刃角に特定の偏りは認められない。38～128度までとバラツキも大きい。加工部位は縁辺部にとどまるものが多い。また、刃部は直線を基本とし、外湾する場合にもわずかに丸みを帯びる程度である。摩耗・潰れ等の使用痕は確認できなかった。

長さは3.0cm前後、幅が2.0～2.5cmに集中する。粘板岩製の2点が比較的大きめで、重量も黒曜石製が平均で2.68gであるのに対し、粘板岩製は2点ともに黒曜石の平均値を上回る。

表56 スクレイパー観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	刃数	刃付	刃部長(cm)	刃部角 刃角(度)	刃部形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
100-9	B-2	N-4	黒曜石	横剥	1	片	1.90	45.0 58.0	外湾	2.60	2.35	0.60	3.86	
100-10	C-1	G-8	黒曜石	横剥	1	片	1.20	43.0 82.0	内湾	[2.80]	2.00	0.55	[2.73]	自然面あり 上部欠損
100-11	C-1	G-7	黒曜石	横剥	1	両	2.00	33.0 48.0	外湾	2.00	2.15	0.80	2.27	
100-12	C-1	H-12	黒曜石	縱剥	1	片	1.40	23.0 47.0	直線	1.90	2.65	0.45	1.87	
100-13	C-1	SB-18	灰褐色砂質粘板岩	横剥	1	両	6.70	86.0 128.0	直線	9.50	3.80	1.30	42.90	風化 自然面あり
100-14	C-1	SB-9	灰褐色砂質粘板岩	縱剥	1	片	4.90	35.0 38.0	直線	5.40	2.00	0.95	8.50	風化



第100図 二次加工剝片・スクレイパー

j. 石匙 (第103・104図)

小型の刃器で上部につまみ状の突起をもつ。57点が出土した。うち、約半数の27点が住居跡からの出土である。他に配石から1点出土した。出土位置は調査区のほぼ中央付近に集中する。使用石材は頁岩もしくは粘板岩にほぼ限られる。また、1点のみであるが、黒曜石も使用されている。

(1) 材料

- 1 : 縦長剝片 (21点)
- 2 : 横長剝片 (29点)
- 3 : 不明 (7点)

(2) 形態による分類

- I : 長軸上につまみをもつ。(14点)
 - a : 細身で長さと幅の比が1:0.5以下 (7点)
 - b : やや幅広で、長さと幅の比が1:0.5以上 (7点)
- II : 短軸上につまみをもつ。(38点)
 - c : つまみがほぼ中央に位置する。(16点)
 - d : つまみが左右どちらかに偏る。(22点)
- III : 不明 (5点)

(3) 刃付け

- A : 片刃 (27点)
- B : 両刃 (15点)
- C : 未加工 (15点)

基本的にはA類であるが、II類にはB類も少数ながら存在する。ただし、裏面の剥離はいずれも表面に比べて幾分弱めである。

(4) 刃部の形状による分類

- ① : 直刃 (18点)
- ② : 円刃 (20点)

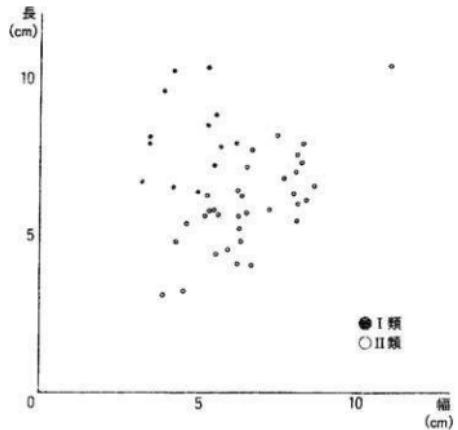
I類の場合、先端が尖るか、丸みを帯びていて主に両側縁が刃部として機能したと考えられるため、この分類には当てはまらない。従って、II類の石匙に限定して分類を行った。

(5) 法量

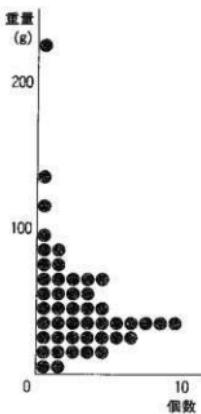
ほとんどが長さ4.0~9.0cm、幅3.0~9.0cmの範囲内に集約される。I類とII類とは長幅比1:0.8を基準に区分することができる。I・II類ともに分布の集中は特には認められない。I a類は幅3.0~4.5cm、I b類は幅4.5cm以上の範囲に分布する。II類は長さ4.0~6.5cm、幅5.0~7.0cmと、長さ5.0~8.0cm、幅7.5~9.0cmの2つのタイプに分かれる。

長さが10cm以上の大型のものが3点、4cm以下の小型のものが3点存在する。ただし、大型のうち1点は未製品である。小型の3点は他の石匙と比べても極端に小さい。いずれも刃部は丁寧に作り出されてはいるものの、実用には適さないと思われる。特に黒曜石製の1点に関しては石材の点からも石製模造品としての性格が推測される。

つまみ部の側縁に摩耗痕を伴うものが4点確認できた。いずれも、くびれ部分に痕跡が認められる。この部分に何らかの柄を装着していたことを示すものであろうか。



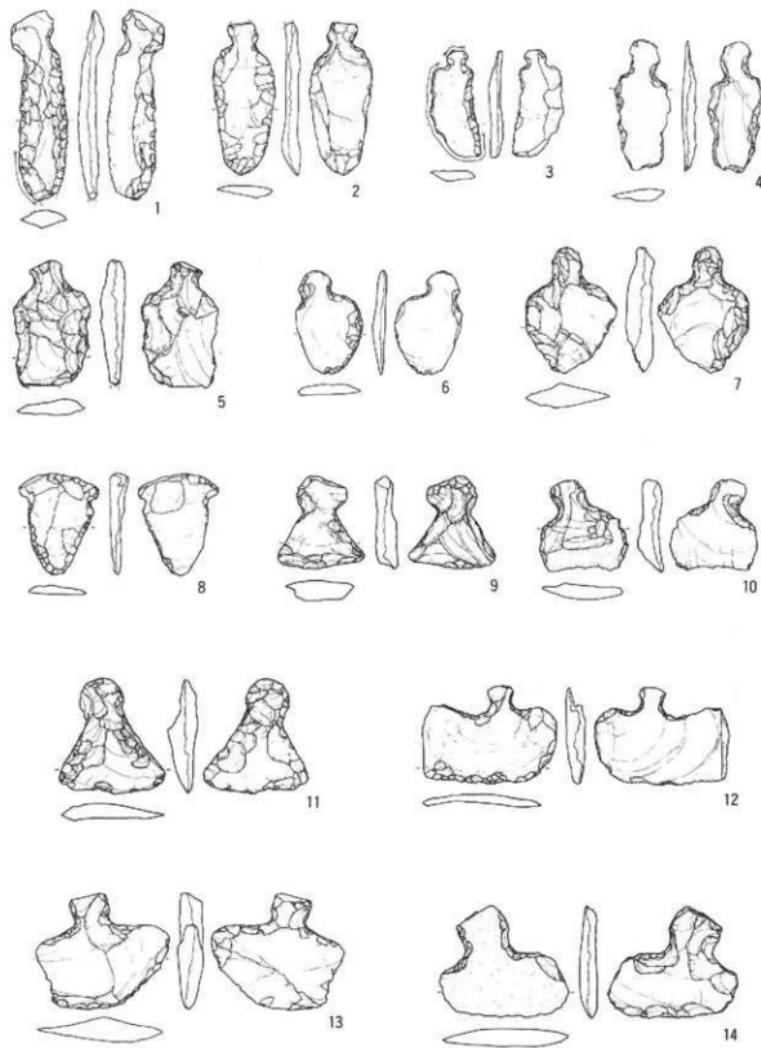
第101図 石匙法量分布図



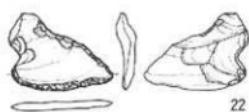
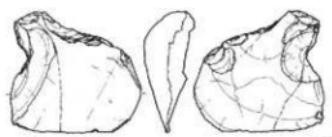
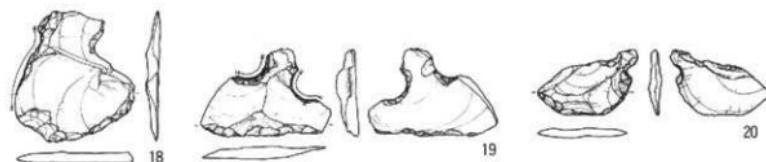
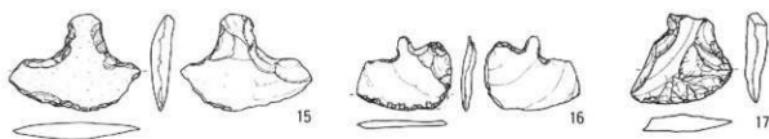
第102図 石匙重量分布図

表57 石匙観察表

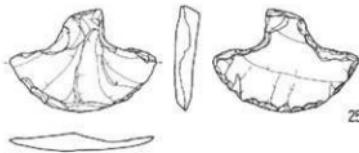
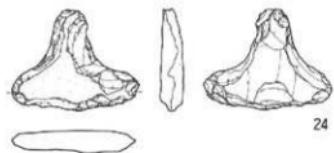
番号	調査区	出土遺構	石材	素材	分類	刃付	刃部	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
103-1	C-1	SB-9	黒色頁岩	板	I a	B	-	11.85	3.55	1.55	46.5	刃部摩耗
103-2	C-1	J-12	黒色頁岩(灰色汚染)	板	I a	A	-	[9.55]	3.90	1.15	[35.1]	一部欠損
103-3	C-1	SB-14	黒色頁岩頁岩	板	I a	A	-	6.70	3.20	0.85	16.5	全体的に摩耗
103-4	C-1	K-12	黒色砂質頁岩	板	I a	A	-	8.10	3.50	0.95	21.5	
103-5	C-1	SB-18	暗褐色粘板岩	板	I b	A	-	7.80	4.75	1.55	54.1	
103-6	C-1	SB-7	黒色珪質頁岩(灰色汚染)	板	I b	A	-	6.50	4.20	0.90	18.5	
103-7	C-1	SB-20	黒色粘板岩(灰色汚染)	板	I b	B	-	7.80	5.70	0.55	51.5	
103-8	C-1	SB-19	灰褐色砂質頁岩	板	I b	A	-	6.35	5.00	1.15	26.5	
103-9	C-1	SB-9	灰褐色凝灰質頁岩	板	II c	A	①	5.75	5.35	1.45	36.6	
103-10	C-1	SB-9	灰褐色凝灰質頁岩	板	II c	C	①	5.70	5.50	1.60	36.4	
103-11	C-1	SB-9	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II c	C	②	7.15	6.55	1.85	53.9	
103-12	C-1	SB-16	黒色砂質頁岩	板	II c	A	①	6.10	8.40	1.25	49.7	
103-13	C-1	J-10	單綠灰色凝灰質頁岩	板	II c	A	②	7.30	8.25	1.65	68.9	
103-14	C-1	SB-9	黒色砂質頁岩	板	II d	A	①	7.00	8.05	1.20	64.7	
104-15	C-1	J-12	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II c	A	②	6.00	8.15	1.45	45.4	
104-16	C-1	SB-25	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II c	A	②	4.55	5.95	0.90	19.6	
104-17	C-1	SB-16	灰褐色珪質頁岩	板	II c	B	②	5.60	6.30	1.40	39.4	
104-18	C-1	J-13	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II c	A	②	8.15	7.50	0.90	50.8	
104-19	C-1	K-10	灰褐色凝灰質頁岩	板	II c	B	①	5.45	8.10	1.50	42.0	くびれ部摩耗
104-20	C-1	SB-14	單綠灰色凝灰質頁岩	板	II d	A	②	4.10	6.25	0.75	15.4	
104-21	C-1	J-9	單褐色凝灰質頁岩	板	II d	A	①	4.05	6.70	1.35	16.8	
104-22	C-1	F-6	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II d	A	①	4.80	6.35	1.25	21.6	
104-23	C-1	SB-9	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II d	C	①	7.55	8.10	3.10	133.0	
104-24	C-1	17号配石	黒色頁岩(灰色汚染)	板	II c	B	①	3.10	3.90	0.70	7.4	
104-25	C-1	M-16	灰褐色砂質頁岩	板	II c	B	②	3.20	4.55	0.75	6.8	
104-26	C-1		黑曜石	板	III	B	-	[2.55]	[1.35]	0.45	[0.8]	一部欠損



第103図 石匙（1）



0 10 cm



0 10 cm

第104図 石匙(2)

k. 打製石斧 (第109図～第115図-92)

木製品を含め484点が出土した。住居跡から220点、配石から28点出土している。出土地は調査区の中央付近から南にかけての地域に集中する。

使用石材は粘板岩・頁岩・砂岩・凝灰岩を主体とし、若干ではあるが安山岩も用いられている。

(1)素材

1 : 繰の形状をほとんど変えることなく使用 (13点)

2 a : 自然面の残る剝片 (312点)

2 b : 自然面を持たない剝片 (116点)

I類はわずか2.6%と少なく、また比較的大型のものに限られる。III類は2点を除いて全て2a類を使用している。素材は使用する石材によっても左右されたとみられ、I類にのみ剥離のしにくい安山岩が使用されている点や、1・2a類には比較的密度の粗い繰を用いている点が挙げられる。

(2)形態分類 (計: 1)

I : 基部幅と刃部幅の比が1:1.5未満で幅と長さの比が1:2以上の短冊形 (172点)

II : // 以上かつ // 1:2未満の撥形 (97点)

III : 短冊形と撥形の中間形 (75点)

IV : 分銅形 (18点)

V : その他 (4点)

VI : 不明 (118点)

基部幅と刃部幅の比、および幅と長さの比を基準としてI類とII類の分類を行った。しかし、両者の区別は厳密にはつけがたく、I類・II類のどちらにも該当しないものも多い。そのため、あえて中間形態を設けて分類している。V類は側縁部に明瞭な抉りをもつものを指す。「抉り」という点ではIV類と同様であるが、形態的にはむしろI類やII類に近いと思われるため、くびれ部を境に上下の大きさや形がほぼ同じであるものをIV類とし、それ以外に関して新たに1分類を設けた。I類が卓越する。V類を含め、抉りを有するものは他の形態に比べて極めて少ない。

(3)基部形状による分類

A : 平基 (84点)

B : 円基 (90点)

C : 尖基 (58点)

D : 斜基 (58点)

(4)刃部形状による分類

表58 打製石斧形態分類表

	I				II				III				IV				V				不明
	A	B	C	D	不明	A	B	C	D	不明	A	B	C	D	不明	A	B	C	D	不明	
a	5	6	4	4	6	10	8	4	1	4	2	-	3	2	-	2	2	-	2	-	5
b	5	16	6	6	29	9	9	4	10	11	16	19	6	2	-	1	3	-	1	-	31
c	4	3	6	4	5	1	1	3	2	4	4	3	1	-	-	1	1	-	1	-	4
d1	4	5	6	6	10	-	1	2	2	3	2	2	-	2	-	1	1	-	-	-	4
d2	3	4	2	4	8	-	1	1	1	3	6	2	2	2	-	3	1	-	-	-	1
不明	7	4	1	5	3	1	3	1	1	2	1	-	2	-	1	-	1	-	-	-	93
	28	38	25	29	52	20	23	13	18	23	31	18	16	9	1	3	9	4	2	2	118
#	172				97				75				18				4				118

a : 直刃 (70点)

b : 円刃 (147点)

c : 尖刃 (48点)

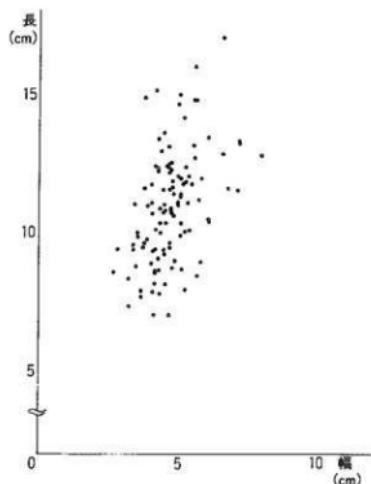
d 1 : 偏直刃 (49点)

d 2 : 偏円刃 (44点)

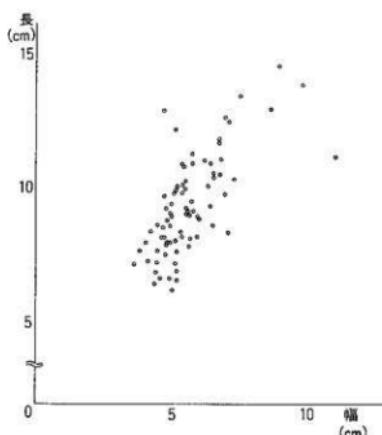
b類が突出する。ただし、この場合には製作時の形状ではなく、使用後の形状である場合が多い。刃部作出は半数以上に剝離調整が認められた。両刃179点、片刃144点、不明152点。未加工は36点と少なく、片面以上の調整を基本としたと思われる。IV類には未加工のものは確認できない。

基部と刃部はそれぞれA類とa類、B類とb類、C類とc類、D類とd類の組み合わせが多い。I類では円基円刃のものが、II類では平基直刃が、III類では平基円刃が多い傾向にある。IV類・V類に関しては顕著な特徴は見られないが、強いて挙げるならばIV類では基部はB類、刃部はb・d 2類が多い。
(5)法量

長さ6.45~26.55cm、幅2.7~12.7cmの範囲に分布する。I類は長さが7.65~12.45cm、幅3.4~5.5cmに集中が認められる。とくに大型のものは残存値で長さ24.7cmを計る1点だけである。II類は長さ6.2~11.2cm、幅3.6~6.9cmの範囲に集中域が存在する。III類は長さ9.85~14.1cm、幅3.75~5.95cmの範囲に集中する。I類とほぼ重なるが、長さが若干ではあるが優越する。また、I・III類に比べてII類



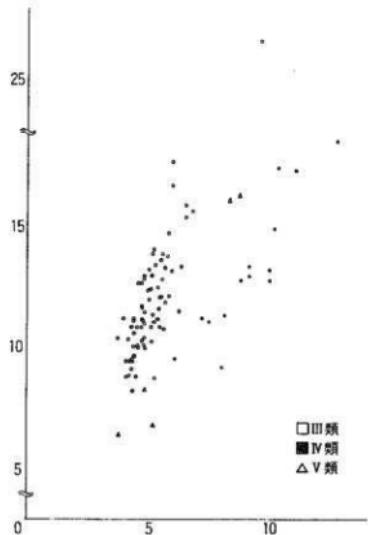
第105図 打製石斧 I類法量分布図



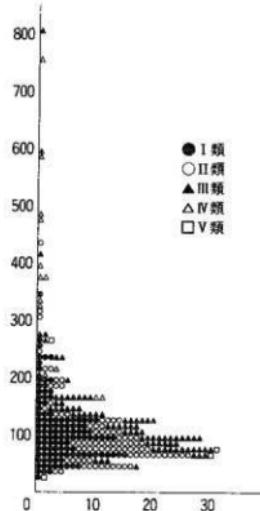
第106図 打製石斧 II類法量分布図

は若干短身で幅が広めである。以上の3種にはある程度の集中域が認められるのに対し、IV・V類は比較的バラツキが大きい。IV類は長さ7.0cm、幅8.5cmを基準として2タイプに分けることができる。一方、V類も同様に大型と小型の2タイプがあるが、V類の場合には両者の分布範囲が極端に離れている。IV・V類ともI・II・III類の集中域とは全く重ならない。

重量は28.5g~808.3gまでとかなりの開きが見られる。集中域は40.0~160.0gの範囲で、60.0g~130.0gが突出する。200.0g以上も比較的多く、500.0g台まで断続的に点在する。I類の集中域もほぼこれに重なる。また、IV類は160.0g以上に限定される。最も分布域の広いのはIII類で、300.0g以上はほとんど



第107図 打製石斧III・IV・V類法量分布図



第108図 打製石斧重量分布図

III・IV類が占める。

(6) 使用痕

33%にあたる161点に認められた。刃部には使用による摩耗痕・線状痕およびカケが、基部・体部には装着に伴う摩耗痕がそれぞれ確認できる。また、体部には装着痕として線状痕が残る例がある。痕跡の残る部位は基部・体部・刃部のそれぞれに対して①正面・②背面・③側縁がある。使用痕が確認されるのはほとんどが刃部の正面および側縁で、体部の場合には両側縁に認められることが多い。装着痕が確認できる例は総数と比較して多くはないが、痕跡の残る部位や状況から、基部を覆い、かつ両側縁で固定するような形で装着していたと推測される。線状痕は基本的には刃部に残るが、数量的には少ないものの基部にも認められる。これらがI類に限って認められる点や、基部の摩耗痕が他に比べてかなり広い範囲に及んでいる点などから、刃部が摩耗等によって十分機能しなくなった場合に、もう一端を刃部として新たに使用したためと考えられる。

製作技法に関しては未製品からある程度の推測が可能と思われる。礫素材の器面や縁辺部に敲打・剥離の痕跡の残るものなどがあり、素材に対し敲打によって大まかな成形を行ったのちに、剥離調整を加えて最終的な形に仕上げたと推定できる。剥片素材の場合もほぼ同様で、母岩から採取した剥片に調整を行い整形している。

また、使用によって欠損や摩耗の生じた刃部に新たに剥離調整を加えることによって刃部再生を行ったと思われるものも確認される。

刃部から体部にかけて正背面にかなり明瞭な摩耗痕と線状痕をもつものが1点ある。使用的結果にしては痕跡がやや著しいようを感じられる。しかし逆に磨製石斧の未製品と考えた場合、外形や厚み等の点で磨製石斧の傾向とは一致しがたい。むしろ法量や形態の面では打製石斧として捉えた方が適当であ

表60 打製石斧觀察表（2）

番号	調査区	出土遺構	石材	断面	基部	刃部	刃付	使用痕			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (kg)	備考
								基礎	体部	刃部					
113-64	C-1	J-11	黑色粗粒粘板岩	2 III	A	b	片	-	③	①②	10.90	5.10	1.25	75.4	縫状痕
113-65	C-1	K-13	黑色粗粒粘板岩	3 III	A	b	肉	-	-	③	12.10	5.45	1.80	123.6	縫状痕
113-66	C-1	K-11	黑色粗粒粘板岩	2 III	B	b	圓	-	-	③	12.10	5.45	1.80	123.6	縫状痕
113-67	C-1	SB-14	黑色砂質粘板岩(火色砂質)	2 III	C	b	片	-	-	-	9.50	4.30	1.70	83.3	
113-68	C-1	SB-12	黑色粗粒粘板岩	2 III	B	b	圓	-	-	-	9.20	4.75	1.50	77.1	
113-69	C-1	K-10	黑色粘板岩	2 III	A	d	2 片	⑥	⑤	④⑤	12.30	5.30	1.60	109.6	縫状痕
113-70	B-2	O-7	暗灰色粗粒粘板岩	3 III	B	d	2 片	-	-	-	15.90	6.50	2.75	271.8	
113-71	C-1	SB-15	黑色粘板岩	2 III	A	a	片	-	-	⑥⑦	15.25	5.00	2.50	141.0	縫状痕
113-72	C-1	H-11	黑色粗粒粘板岩	2 III	B	d	2 肉	-	⑥	①②	11.80	4.80	2.50	121.7	縫状痕
113-73	B-1	N-9	黑色粗粒粘板岩	1 III	R	c	圓	-	-	-	14.75	5.80	4.40	416.4	
113-74	C-1	SB-12	暗灰色粗粒粘板岩	1 III	B	d	圓	-	③	④	11.20	4.70	1.75	98.9	縫状痕
113-75	B-1	N-10	黑色砂質粘板岩	2 III	C	a	圓	-	②	①②	12.35	5.65	2.00	115.3	
114-76	C-1	K-11	黑色粘板岩	3 III	C	c	圓	-	-	③	13.50	5.15	1.80	116.3	縫状痕
114-77	C-1	K-10	黑色粗粒粘板岩	2 III	B	b	肉	-	⑥	②③	13.00	5.10	1.85	145.6	縫状痕
114-78	C-1	SB-7	黑色粗粒粘板岩	2 III	D	d	圓	-	-	-	11.65	5.49	1.75	93.9	
114-79	C-1	SB-20	黑色砂質粘板岩	3 III	D	d	1 片	-	-	-	11.06	4.89	1.90	90.1	
114-80	C-1	SB-20	黑色小粒砂岩	3 III	C	b	肉	-	-	-	11.25	3.95	2.25	93.0	
114-81	C-1	K-10	黑色中粒砂岩	1 III	C	b	片	-	-	-	19.90	7.40	4.30	598.8	未測定?
114-82	C-1	I-9	黑色細小砂岩	2 III	-	a	片	-	-	-	[12.5]	7.05	2.15	[221.6]	基部欠損 半周欠損か 一部欠損
114-83	C-1	L-11	黑色粘板岩	2 IV	-	-	片	-	-	-	13.00	[7.9]	2.75	[223.6]	
114-84	C-1	S-10	暗灰色中粒砂岩	2 IV	-	-	肉	-	-	-	13.25	9.95	2.55	376.6	
114-85	C-1	H-9	黑色砂質粘板岩	2 IV	-	-	圓	-	-	-	14.95	10.15	3.75	474.9	
115-86	B-2	M-4	黑色砂質粘板岩	2 IV	-	-	圓	-	-	-	11.40	8.10	2.00	169.5	
115-87	C-1	33号白石	黑色粗粒白石	2 IV	-	-	圓	-	-	-	12.80	9.95	3.00	[330.2]	一部欠損
115-88	C-1	33号配石	合礎粗粒砂岩	2 IV	-	-	片	-	⑨	18.55	12.70	3.30	754.2		
115-89	C-1	SB-13	淡褐色中粒砂岩	3 V	A	a	肉	-	-	-	6.45	3.80	1.05	28.3	
115-90	C-1	SB-15	黑色粘板岩	3 V	A	a	圓	-	-	-	6.85	5.20	1.80	67.6	
115-91	B-2	SB-12	黑色粘板岩	1 V	B	b	肉	③	-	⑩	8.30	4.85	1.65	76.8	
115-92	C-1	-	暗褐色中粒砂岩	1 V	B	c	肉	-	-	-	16.10	8.30	2.55	261.7	

k. 半月状両面調整石器（第115図-93~96）

4点出土した。遺構出土はわずか1点のみである。石材は頁岩・凝灰岩・砂岩を用いている。4点中3点が自然面を残す。うち1点は小型の縁の側縁にのみ加工が見られる。半月状にカーブし、側縁に鋭い刃部をもつ。刃部は両面調整によって作り出される。両端部には整形以外に調整が加えられた痕跡はほとんどなく、むしろ両側縁を機能部として使用している点が打製石斧と大きく異なる。1点だけ刃部に摩耗痕をもつが、それ以外には特に使用痕は認められない。小型と大型の2タイプに分かれ、前者は長さが10.0cmに満たないのに対し、後者は15.0cm以上である。なお、1点だけ半月状を呈していないが、先に挙げたように両端部に刃を持たないこと、若干ではあるが先端に向かって緩くカーブしている点を考慮して半月状両面調整石器として扱った（註2）。

1. 盤状石器（第115図-97）

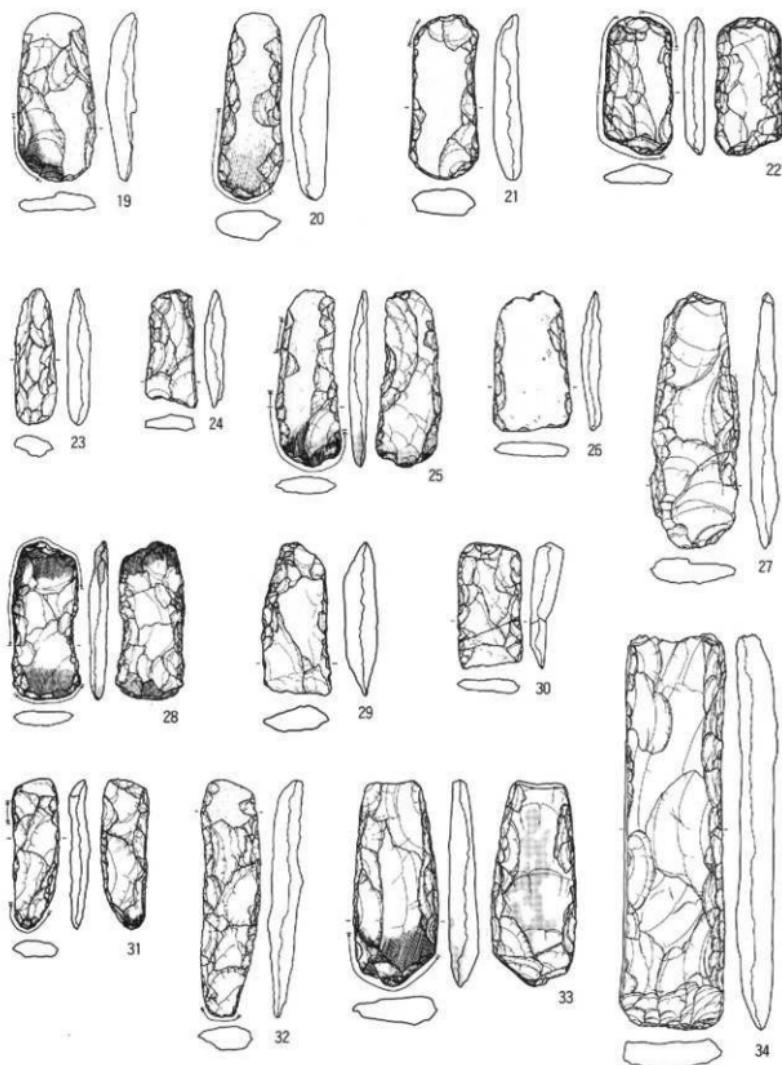
1点のみ出土。石材は黒色砂質粘板岩を使用している。長さ7.75cm、幅7.8cm、厚み1.65cmの扁平な盤を素材とする。ややいびつな円形を呈し、片面は自然面を、裏面には主剥離面を残す。側縁部を全周する形で刃付けされている。両面から調整が加えられているが、裏面からの剥離のほうが若干強い。刃部がややツブレ気味であるという点を除いては、特に使用痕は認められない。

表61 半月状両面調整石器・盤状石器觀察表

番号	調査区	出土遺構	石材	断面	基部	刃部	刃付	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (kg)	備考
115-93	C-1	K-12	暗褐色頁岩	半月状両面調整石器	圓	-	-	16.55	5.95	2.45	141.0	
115-94	C-1	SB-15	砂質頁岩	半月状両面調整石器	圓	-	-	15.10	4.20	1.35	88.5	種々S字跡を見る
115-95	C-1	N-14	淡褐色凝灰岩	半円状両面調整石器	圓	-	-	9.50	2.85	1.35	54.0	刃部に埋削痕あり
115-96	C-1	J-11	黑色中粒砂岩	半月状両面調整石器	圓	-	-	8.95	3.25	1.65	41.3	
115-97	C-1	I-13	黑色砂質粘板岩	盤状石器	圓	-	-	7.75	7.80	1.65	121.3	



第109図 打製石斧（1）

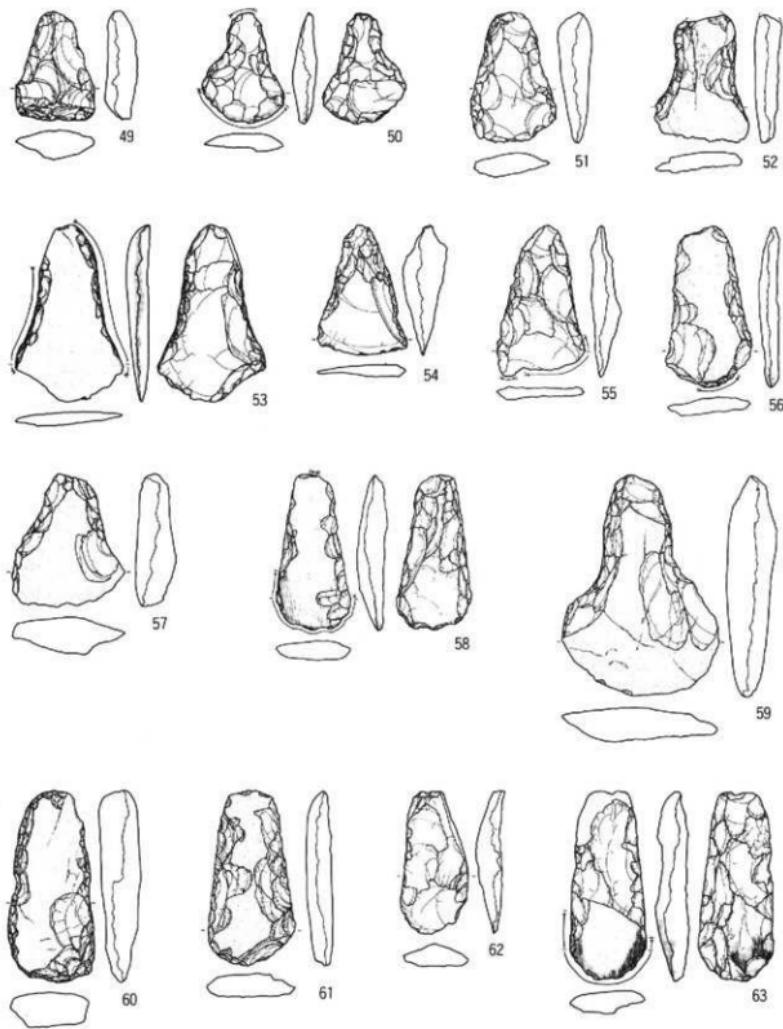


0 10 cm

第110図 打製石斧 (2)



第111図 打製石斧（3）

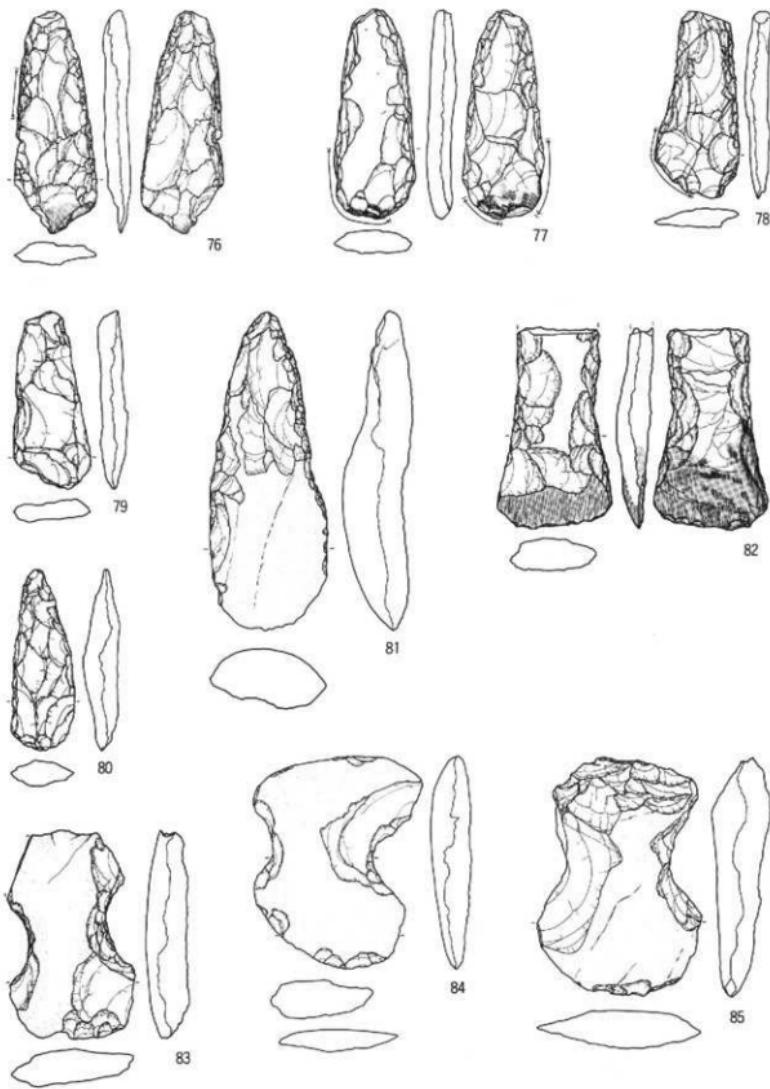


0 10 cm

第112図 打製石斧 (4)

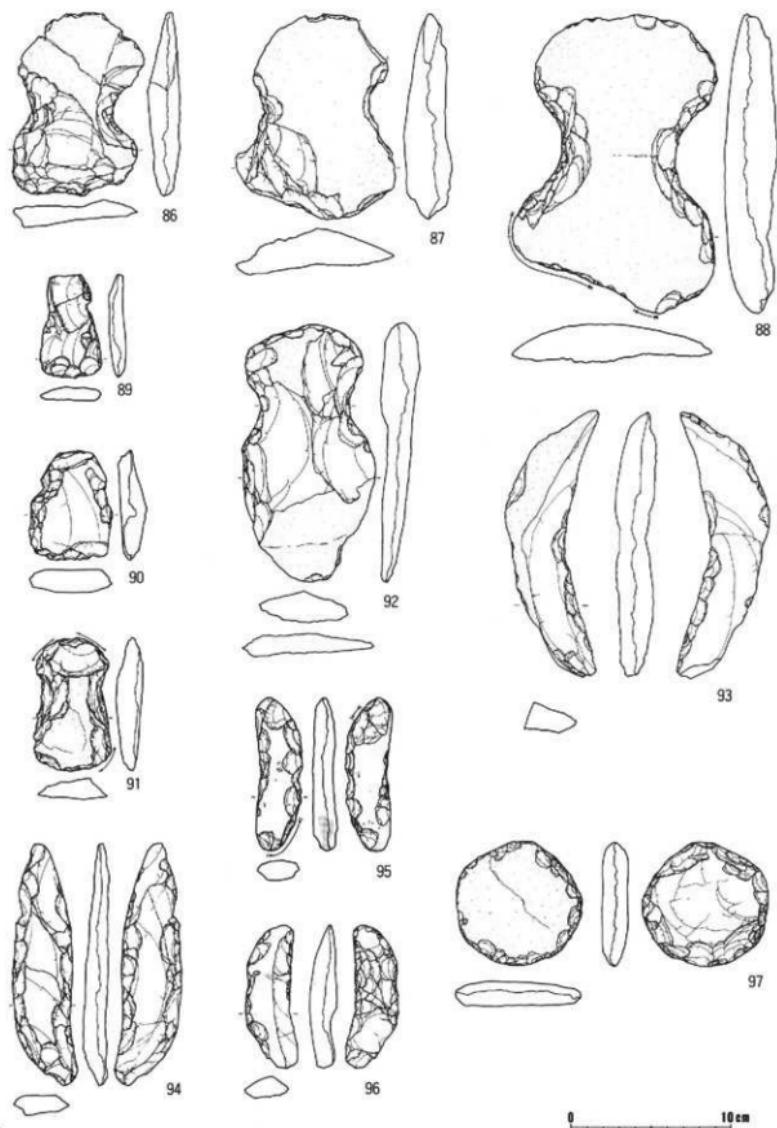


第113図 打製石斧（5）



0 10 cm

第114図 打製石斧 (6)



第115図 打製石斧 (7)

m. 磨製石斧 (第116・117図)

未製品を含め41点出土した。うち住居跡7点、配石3点である。出土位置に特徴的な傾向は認められない。使用石材は輝緑岩・蛇紋岩・砂岩・粘板岩・玄武岩・チャート・凝灰岩・頁岩で、輝緑岩や軟質で加工しやすい蛇紋岩が多く使われている。

(1)形態による分類

I : 明確な稜をもち、断面が隅丸方形を呈する定角式 (14点)

II : 断面が梢円形を呈する乳棒状式 (9点)

III : 小型 (6点)

IV : 不明 (12点)

(2)基部形状による分類

A : 平基

B : 円基

C : 突基

(3)刃部形状による分類

a : 直刃

b : 円刃

c : 偏刃

基部または刃部を欠くものが過半数を超えるため、相対的な数量を求ることはできない。I類では平基円刃が多い。II類の基部はB・C類に限られる。刃部はI類と同様である。

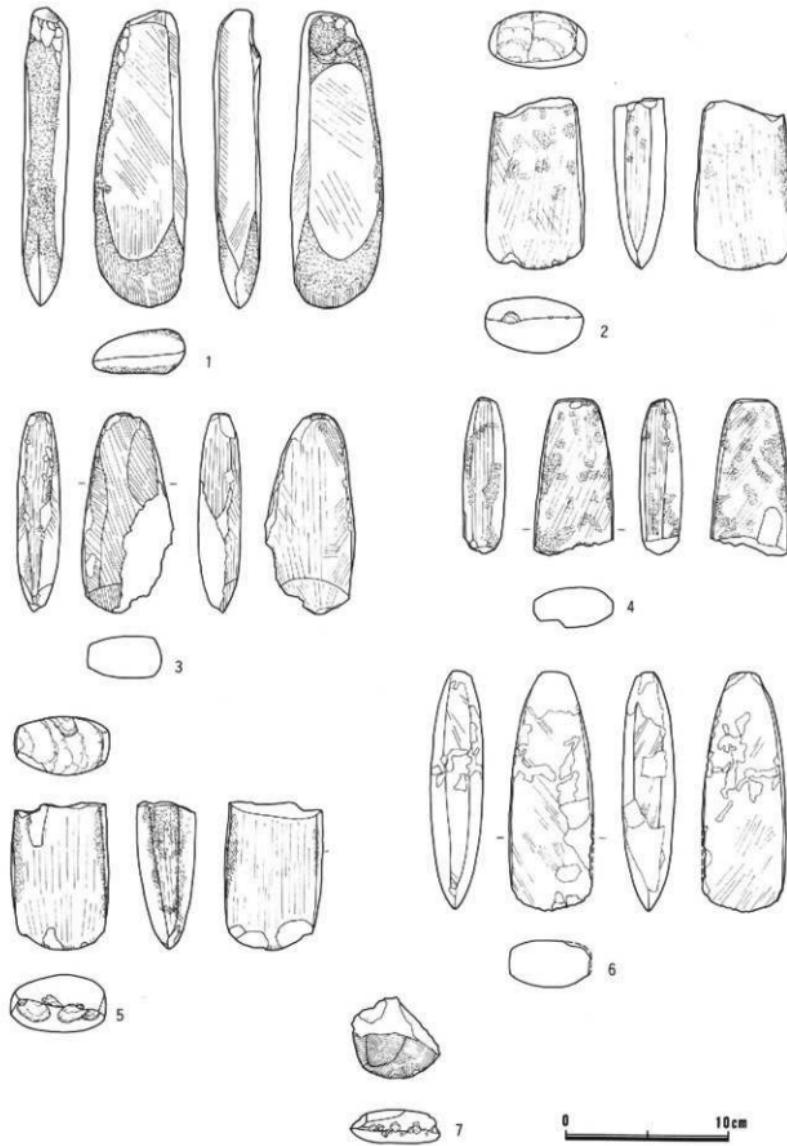
(4)法量

I・II類は長さ10.8~14.6cm、幅3.9~5.6cmの範囲に分布する。ただし、基部または刃部を欠くものが過半数を超えるため、分類ごとの傾向は把握できない。III類は全て長さ5.7cm、幅2.9cm、重量23.5g以下に属する。

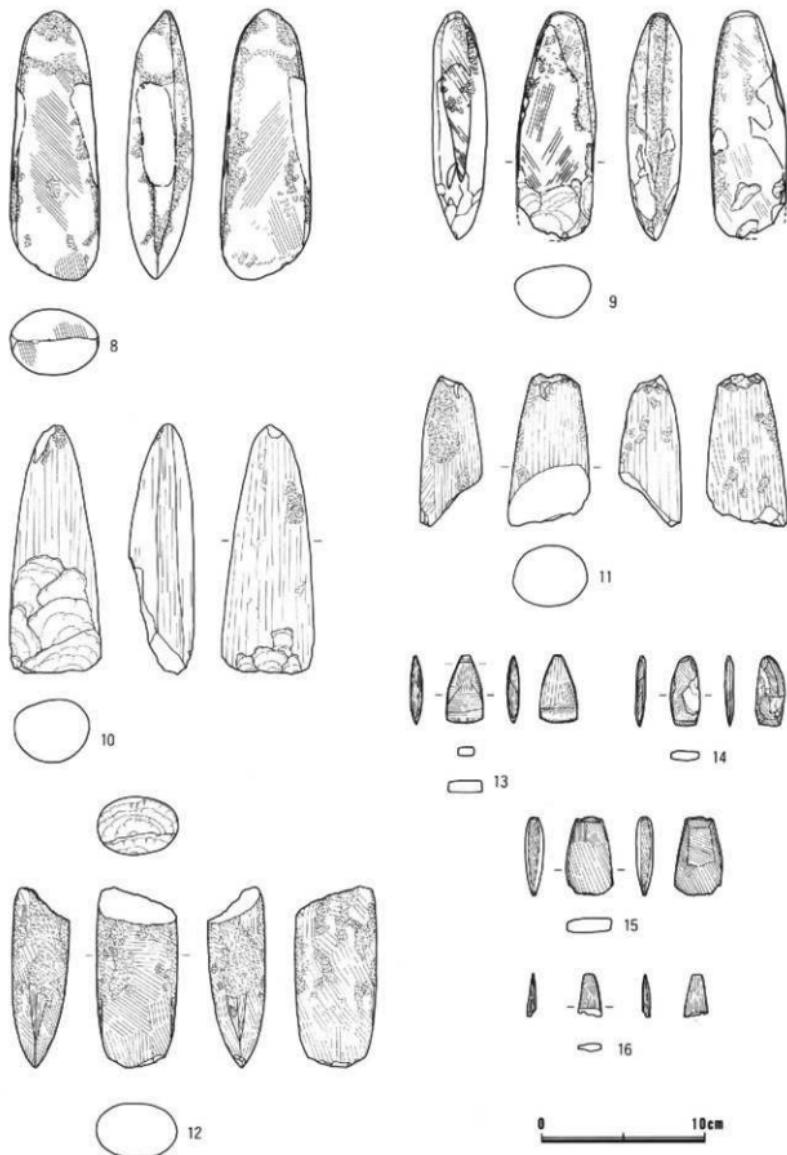
製作方法に関しては、敲打痕もしくは剝離痕を残す遺物から推定することができる。敲打痕の残るものは比較的多く、側縁部や基部の稜に顕著に見られる。剝離成形のち稜部分を敲打で整えて研磨によって仕上げたと思われる。特に刃部には丁寧な磨きの痕跡が認められる。また、刃部に明らかに研磨の後から加えられたと思われる剝離や研磨痕が残るものがあり、これらについては刃部再生が行われたと見ることができる。

表62 磨製石斧観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	分類	基部	刃部	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	欠損部位	備考
116-1	C-1	20号配石	輝緑岩	I	A	b	13.10	4.60	2.70	486.2	完形	
116-2	C-1	SB-10	蛇紋岩	I	(-)	b	[10.5]	[7.6]	[3.4]	[378.9]	基部1/3	
116-3	C-1	J-12	蛇紋岩	I	B	b	[12.2]	[5.6]	[2.6]	[253.0]		一部欠損
116-4	C-1	L-15	(不明)	I	A	(-)	[9.55]	[4.8]	[2.6]	[219.9]	刃部1/4	
116-5	C-1	7号配石	輝緑岩	I	(-)	b	[9.0]	[5.5]	[3.5]	[331.6]	基部1/2	
116-6	C-2	G-6	蛇紋岩?	I	A	b	14.60	5.60	3.05	410.5	完形	表面劣化
116-7	C-1	I-10	褐色チャート	(-)	(-)	b	[4.9]	[5.45]	[2.0]	[60.4]		刃部のみ一部残存
117-8	C-1	T-8	輝石玄武岩	II	C	c	16.40	4.80	4.00	579.0	完形	被熱
117-9	C-1	J-9	細粒砂岩	II	B	b	[14.2]	[4.7]	[3.25]	[294.4]		一部欠損
117-10	C-1	J-10	輝緑岩	II	C	a	15.20	5.60	4.00	450.1	完形	刃部再生?
117-11	C-1	K-11	輝緑岩	II	B	(-)	[9.2]	[5.5]	[3.8]	[226.8]	刃部1/2	
117-12	C-1	SB-15	輝緑岩	II	(-)	b	[11.0]	[4.95]	[3.4]	[311.9]	基部1/3	
117-13	B-1		蛇紋岩?	III	A	a	4.15	2.20	0.70	11.1	完形	
117-14	C-1	SB-1	珪質板岩	III	C	a	4.30	2.80	0.60	6.7	完形	
117-15	B-1	O-8	珪質板岩	III	A	b	4.75	2.90	1.10	23.5	完形	
117-16	C-1	H-12	凝灰質板岩	III	A	(-)	[2.6]	[1.4]	[0.5]	[2.0]	刃部1/4	



第116図 磨製石斧（1）



第117図 磨製石斧 (2)

○ 石錘 (第120~122図)

縄の両端もしくは側縁部に縄をかけるための抉りを有する。未製品を含め、269点が出土した。C-1区の中央から南西寄りにかけて偏在する。グリッドからの出土がほとんどで、住居跡からが71点、配石からが17点である。平面形がI: 橋円形、もしくはII: 長円形の縄を用いている。使用石材は粘板岩・頁岩・砂岩・礫岩などだが、粘板岩と頁岩が大半を占める。

(1)縄かけ部の位置による分類

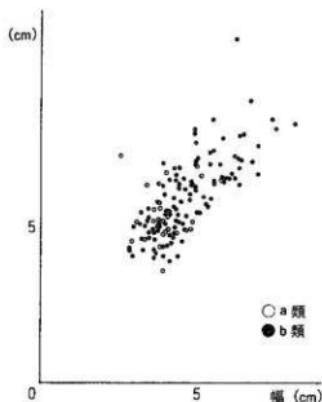
- 1: 長軸の両端に設けられるもの。(218点)
 - 2: 短軸の両端に設けられるもの。(8点)
 - 3: 四辺に設けられるもの。(9点)
 - 4: 三辺に設けられるもの。(4点)
 - 5: 不明(30点)
- 4類については、長軸の両端および側縁部に限られる。

(2)縄かけ部の作出方法

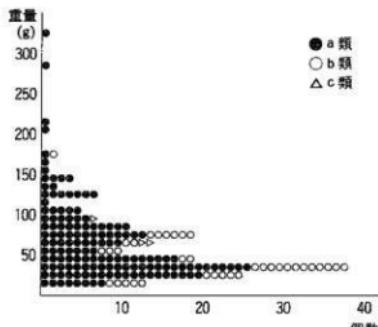
- a: 剥離による。(159点)
- b: 擦り切りによって溝を作出する。(53点)
- c: 敲打による。(18点)

おもに以上の3者に分類できるが、敲打した上に溝を切るなど複数の技法を併用する場合がある。敲打を伴う場合はc類として扱った。敲打のみのものはほとんどなく、あったとしても、縄をかけるには抉りが浅すぎるため、未製品とした。これは、敲打することによって剥離や擦り切りの作業をしやすくするためにあったと思われる。敲打によるものであっても、それによって剥離が生じる場合も考えられるため、a類として分類したなかにもc類が含まれている可能性もあり、a類とc類を厳密に区別するのは困難である。また、剥離後に擦り切りを行う場合もあるが、それらは4点を数えるのみである。

(3)法量



第118図 石錘法量分布図



第119図 石錘重量分布図

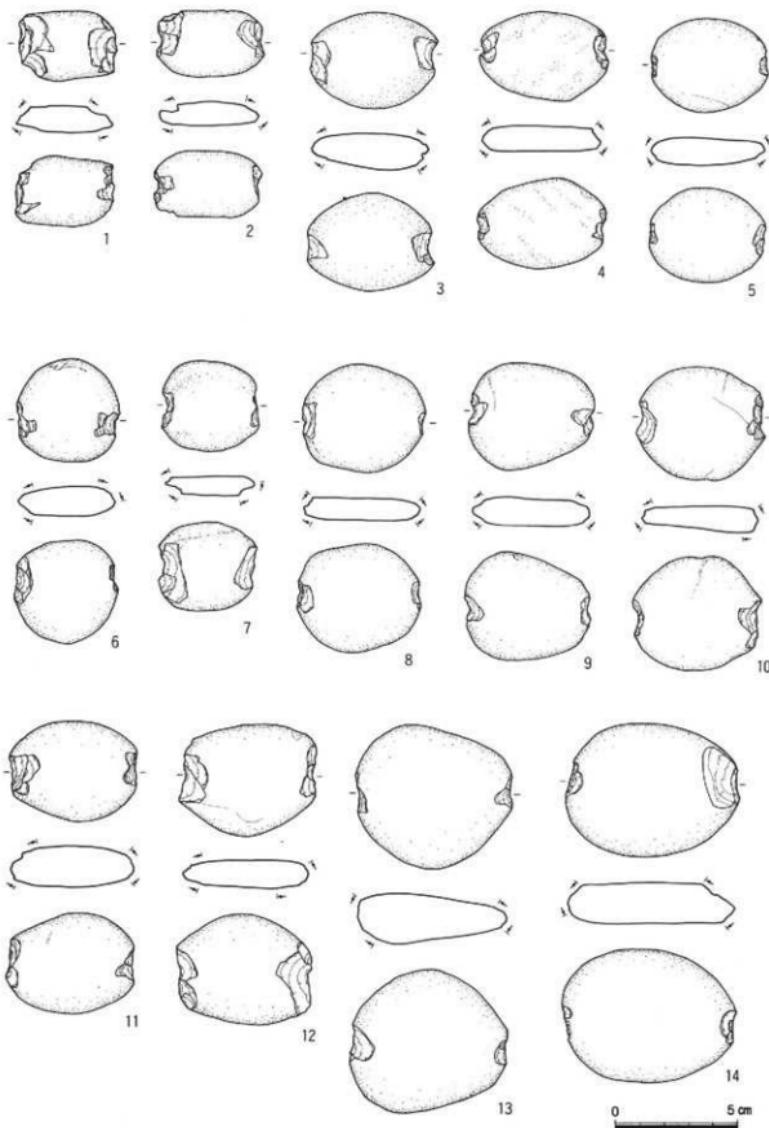
大きさの分布は長さ4.0~9.0cm、幅2.5~7.0cmに集中する。a類はこれに重なる。b類は1点のみ10.0cmを超えるものの、集中域は長さ3.35~7.0cm、幅2.55~5.0cmとa類に比べて小さめである。一方、重量にはかなりばらつきが見られる。分布ごとのまとまりからA:20g以下、B:20~60g、C:61g~110g、D:111g以上の4つのタイプに分けることができる。このうち、総数のおよそ50%がBで、とくに40g前後が最も多い。b類がほぼBもしくはCに限られるのに対し、a類は大きさもb類ほどの集中ではなく、3タイプ全てに分布する。A・Dは共に数量的に非常に少ないものの、同じ石錐という機能をもつにしては、あまりにも重量差が大きすぎるようにも感じられる。この2つのタイプを同一視してよいものか疑問が残るところである。

a類の端部にわずかに潰れがある点を除いては、特に使用痕は認められない。b類では溝を擦り切る際に付いたと思われる線状痕が數本残る。

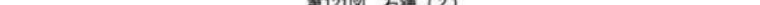
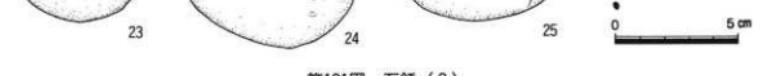
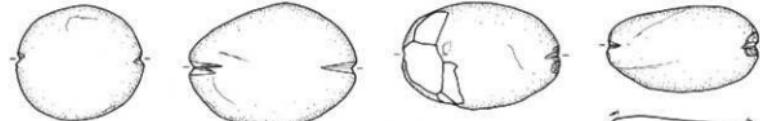
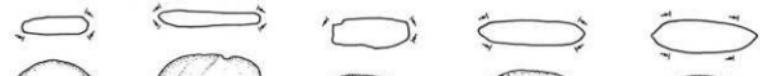
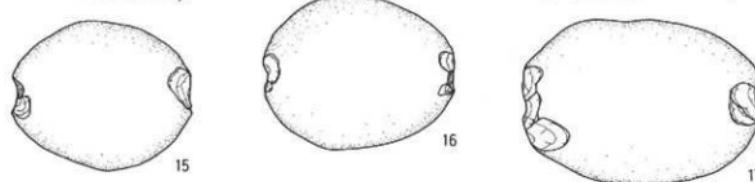
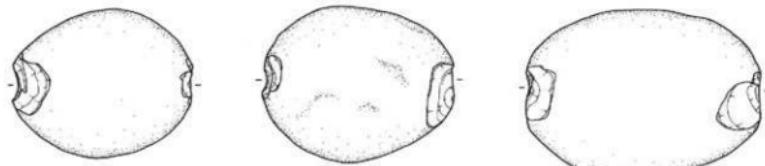
打欠き石錐はもじり編み用、有溝石錐は漁網錐と、縄かけ部の作出方法によって機能を区別して捉えられている(註3)。しかし、いわゆる打ち欠き石錐の出土量が圧倒的に多いことや、100gを超えるような大型のものがほぼ打ち欠き石錐に限られること、法量のバラツキなどを考えると、打欠き石錐を上記の機能に限定することはできない。少なくともこの遺跡においては、もじり編み用ではなく、漁網錐としての利用に、より高い重心が置かれていたと推測される。機能差を設定するのであれば、むしろ法量を基準とすることができるのではないだろうか。

表63 石錐観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	素材	分類	作成法	最大長(cm)	最大幅(cm)	表厚(cm)	重量(g)	備考
120-1	C-1	SB-25	黒色頁岩	I	1	a	3.95	2.90	1.15	17.4	
120-2	C-1	H-7	黒色粘板岩	I	1	a	4.35	2.70	1.00	17.2	
120-3	C-1	H-7	黒色頁岩	I	1	a	5.20	4.05	1.55	45.1	
120-4	C-1	SB-13	黒色粘板岩	I	1	a	5.30	3.65	1.05	33.30	
120-5	B-2	SB-26	黒色粘板岩	I	1	a	4.85	3.90	1.15	31.8	
120-6	C-2	SB-22	黒色粘板岩	I	1	a	4.25	4.25	1.20	33.4	
120-7	C-1	L-11	黒色粘板岩	I	1	a	4.00	3.70	0.85	19.1	
120-8	C-1	SB-16	黒色粘板岩	I	1	a	5.05	5.05	4.45	36.1	
120-9	C-1	H-8	黒色粘板岩	I	1	a	5.15	4.40	1.15	42.0	
120-10	C-1	SB-9	黒色粘板岩	I	1	a	5.30	5.30	4.70	38.3	
120-11	C-1	H-7	黒色粘板岩	I	1	a	5.25	4.15	1.70	58.2	
120-12	C-1	J-11	黒色粘板岩	I	1	a	5.45	4.55	1.15	41.2	
120-13	C-1	I-11	中粒砂岩	I	1	a	6.45	5.95	2.10	94.8	
120-14	C-1	SB-18	合織砂岩	I	1	a	7.05	5.40	1.75	105.3	
121-15	C-1	K-11	砾岩	I	1	a	7.35	6.00	2.50	153.1	
121-16	C-1	SB-18	黒色粘板岩	I	1	a	7.80	6.45	1.25	105.0	
121-17	C-1	L-12	中粒砂岩	I	1	a	9.60	6.75	2.00	214.5	
121-18	B-2	O-6	黒色粘板岩	I	1	b	3.40	3.15	0.80	11.5	
121-19	C-1	J-10	黒色粘板岩	I	1	b	4.35	2.80	0.70	13.2	
121-20	C-1	J-9	風化礁灰岩	I	1	b	[3.65]	3.30	1.25	[13.6]	欠損
121-21	B-2	M-4	黒色粘板岩	I	1	b	4.55	3.20	1.00	21.8	
121-22	C-1	H-6	黒色粘板岩	I	1	b	5.30	3.75	1.10	33.2	
121-23	B-2	N-3	黒色砂質粘板岩	I	1	b	5.25	4.70	1.05	39.6	
121-24	H-2	N-3	黒色粘板岩	I	1	b	6.75	5.00	1.50	72.0	
121-25	C-1	モ配石	黒色粘板岩	I	1	b+c	6.35	4.35	1.85	71.7	
121-26	C-1	L-12	黒色粘板岩	I	1	a+b	6.15	3.50	1.15	39.3	
122-27	C-1	H-7	黒色粘板岩	I	3	a	5.35	3.50	1.05	25.2	
122-28	C-1	N-16	黒色頁岩	I	3	a	7.25	4.50	1.45	68.1	
122-29	C-1	SB-18	黒色頁岩	I	4	a	4.85	3.55	0.75	19.6	
122-30	C-1	SB-7	凝灰質砂岩	II	1	a	6.25	3.60	1.50	43.4	
122-31	C-1	H-10	黒色粘板岩	II	1	a	6.00	3.55	1.45	36.2	
122-32	C-1		黒色粘板岩	II	1	a	8.65	5.35	1.70	125.9	
122-33	C-1	J-10	砾岩	II	2	a	8.75	5.90	1.85	140.9	
122-34	C-1	G-9	黒色砂質頁岩	II	2	a	6.10	5.30	1.50	72.2	
122-35	C-1	K-12	黒色粘板岩	II	1	b	11.35	4.65	2.35	174.8	
122-36	C-1	H-7	黒色粘板岩	II	1	b	7.10	2.80	1.25	40.1	
122-37	C-1	H-8	風化粘板岩	II	1	b	5.75	3.20	1.40	35.4	

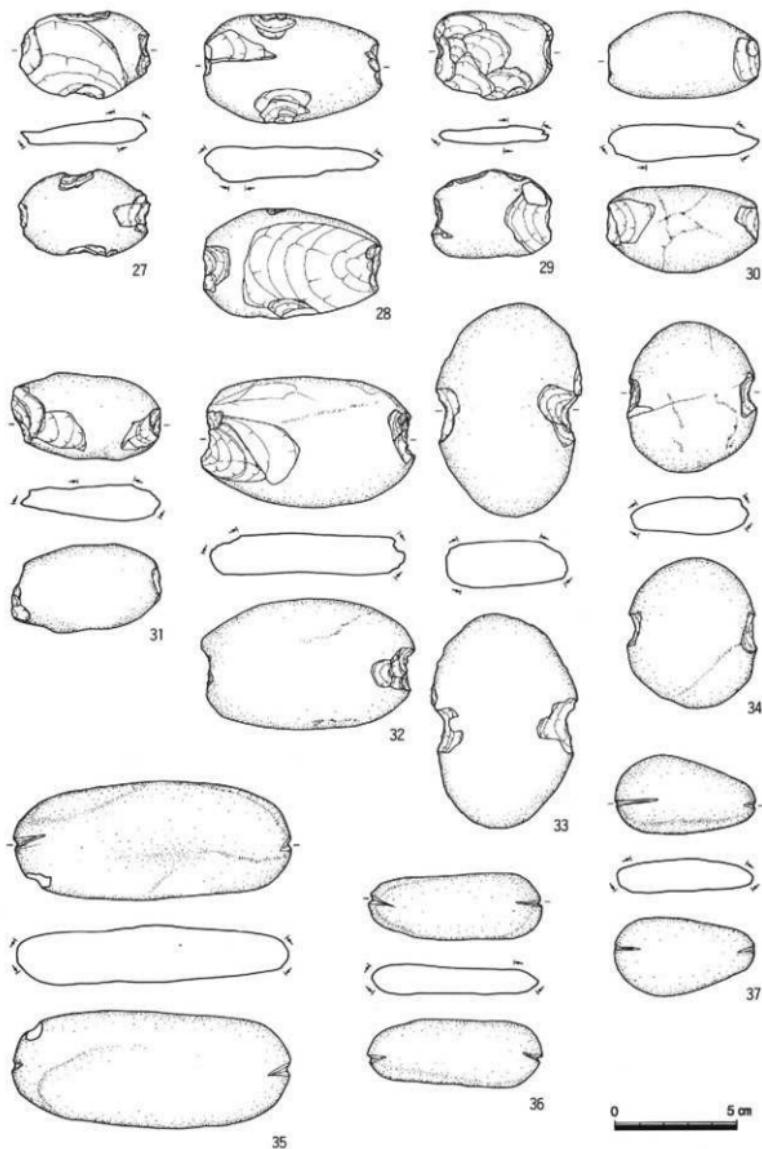


第120図 石錐（1）



0 5 cm

第121図 石錘（2）



第122図 石錘（3）

P. 敲石 (第125図)

49点が出土。礫の種などに敲打の痕跡が残る。ただし、円石や磨石にも敲石の機能を兼ねたものがあるため、それらは各項で一括して扱うこととし、ここでは敲石としてのみ用いられたものに限定する。

使用石材は砂岩・粘板岩・玄武岩・頁岩などである。I : 棒円形の扁平礫、あるいはII : 棒状礫を素材とする。握る部分の長いII類が半数以上を占める。使用痕はアバタ状のごく小さな凹みやツブレとして残っている。敲打による剥離を伴う場合もある。ほとんどの場合、礫の両端部に使用痕が残る。

大きさはI類が長さ8.0~9.0cm、幅が6.0cm前後、II類が長さ10.0~12.5cm、幅2.5~3.5cmの範囲に大半が分布する。

表64 敲石観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重計(g)	備考
125-1	C-1	O-16	玄武岩	I	8.00	6.20	3.80	217.9	
125-2	C-1	I-8	凝灰質砂岩	I	8.80	5.80	4.20	255.2	
125-3	C-1		黒色粘板岩	II	10.50	2.65	1.15	54.1	
125-4	C-2		黒色凝灰質頁岩	II	10.70	3.20	1.95	103.2	表面あり
125-5	C-2	G-5	灰色砂質粘板岩	II	13.60	3.00	1.75	103.8	
125-6	C-2	SB-22	黑色粘板岩	II	10.60	3.30	1.60	74.9	
125-7	B-2	O-7	凝灰質砂岩	II	13.90	4.60	2.40	196.8	
125-8	C-2		黒色凝灰質頁岩	II	9.75	3.20	2.20	113.3	
125-9	C-2	SB-22	黒色砂質頁岩	II	12.35	3.45	2.20	163.4	

4. 四凹 (第126・127図)

平坦面に1個から複数個の凹みを有する。磨石との区別は厳密にはつけがたく、両者の機能を併せ持つものも多い。ここでは凹みや敲打痕の残るものについてのみ記載し、スリ面のあるものは磨石の項で一括して扱いたい。総数で86点出土した。大半が中央から南西側で出土している。遺構出土のものは少なく、住居跡から28点、配石から7点が出土しているのみである。使用石材は、安山岩・砾岩・砂岩・玄武岩などである。安山岩質が最も多い。

(1)素材による分類

加工などを施さず、自然礫をそのまま利用している。

I : 断面が棒円形を呈する扁平礫 (55点)

II : 厚みのある塊状礫 (26点)

III : 不明 (5点)

また、それぞれを①：平面が円形のものと②：棒円形のもの、③：長棒円形に分けることができる。

(2)使用面による分類

A : 平面部

B : 側縁部

平坦面の使用を主とするが、複合的に側縁部にも使用痕が認められる。A類が49点、A+B類37点で側縁部も使用しているものが40%を占める。また、A類では片面のみの使用は16点で、80%近くが少なくとも二面以上使用している。

(3)使用痕による分類

1 a : 1個ないし複数個のすり鉢状の深い凹みが単独で存在する。(54点)

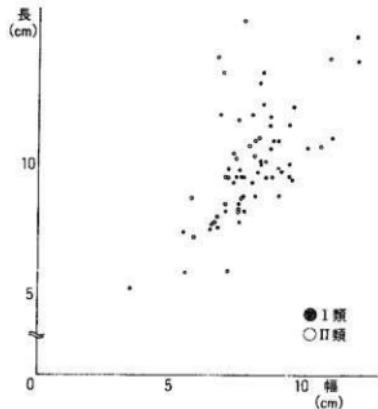
1 b : すり鉢状の深い凹みが複数個連結する。(17点)

2 a : 1個ないし複数個の浅い凹みが単独で存在する。(22点)

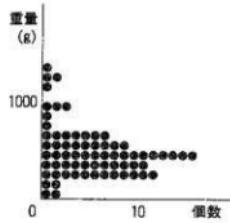
2 b : 浅い凹みが複数個連結する。(8点)

3 : アバタ状にごく浅い凹みが無数に連なる。(37点)

側縁部の使用痕は1点を除き、ほぼ3類に限られる。複数面を使用している場合、各面における使用痕



第123図 凹石法量分布図



第124図 凹石重量分布図

は異なる場合があるため各分類の点数は重複する。すり鉢状の深い凹みを主とする。浅い凹みは比較的小なく、むしろアバタ状に荒れた敲打痕をもつ。

(4)法量

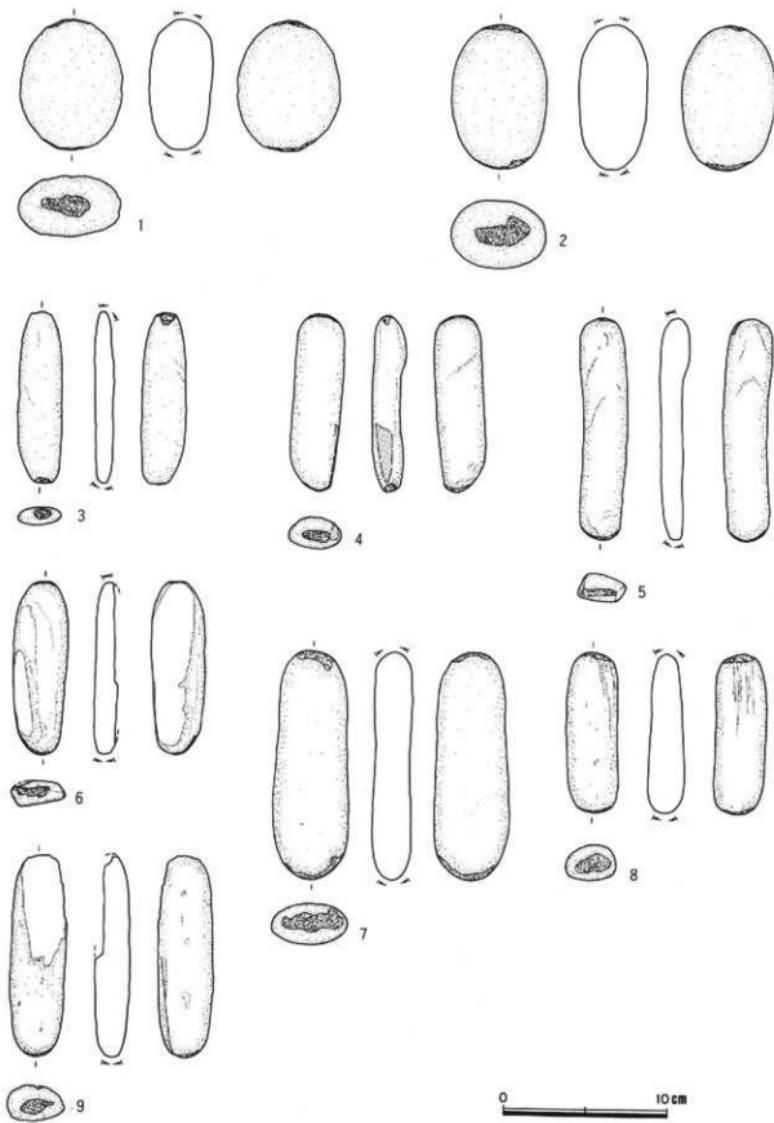
若干のバラツキはあるものの、I類は長さ7.5~12.0cm、幅6.5~10.0cmに、II類は長さ7.0~11.0cm、幅5.5~8.5cmに集中する。II類はI類に比べて比較的幅の狭い細身の礫を使用している。重量は大半が200~700gの範囲に分布し、特に400g台が最も多い。1000gを超える大型のものは5点を数えるのみである。

(5)他機能との併用

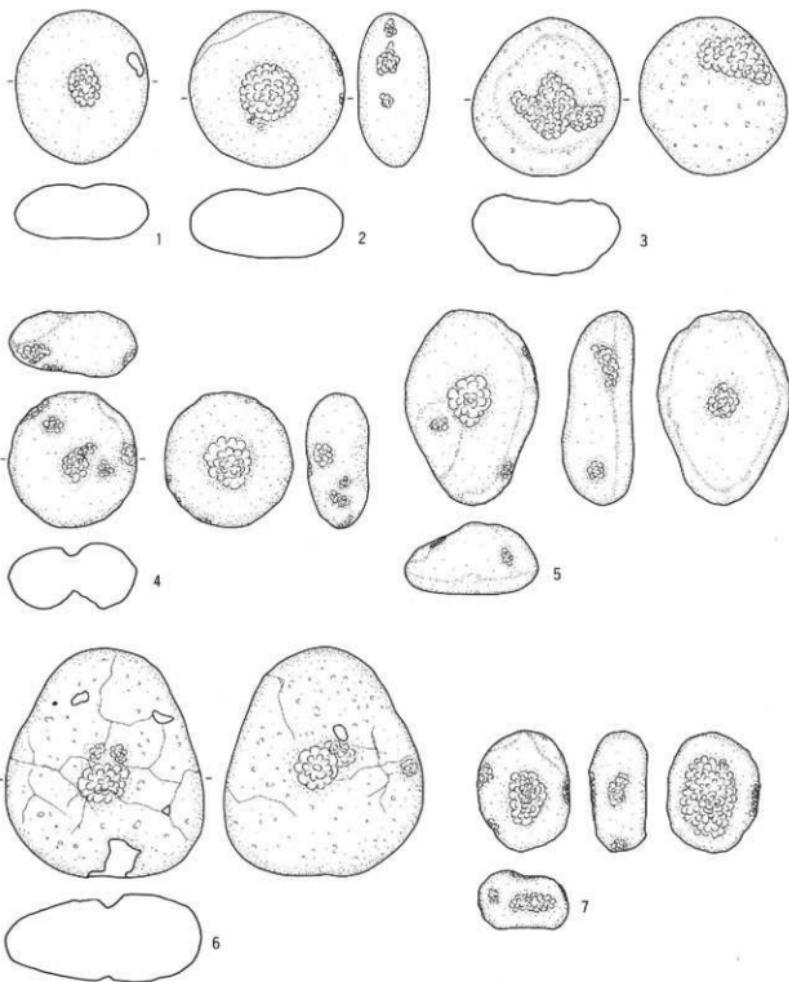
凹石としての機能のみのもの(50点)、凹石と磨石の機能をもつもの、凹石と敲石の機能をもつもの(39点)、凹石・磨石・敲石の機能を併せもつものがある。なお、凹石の中でも主に側縁部に敲打痕の残るものを敲石の機能として捉えた。敲石と凹石の相違点は棒状礫の使用の有無、敲石に見られる扁平礫は凹石に比べて厚みが薄い点などである。いずれにしても、素材となる礫の採取段階には器種ごとにいくらかの選択基準があるものの、使用過程においては、それほど厳密な区別をせずに併用されていたと考えられる。

表65 凹石観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	分類	使用状況			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
					表面	裏面	側縁					
125-1	C-1	N-16	中粒砂岩	I①	2a	-	-	9.30	8.10	3.30	360.8	
125-2	C-1		粗粒砂岩	I①	1a	-	3	9.50	9.50	4.80	559.2	
125-3	C-1	J-10	多孔質断石安山岩	I①	2b	3	-	9.70	9.20	4.90	413.4	
125-4	C-1	SB-6	輝石玄武岩	I①	1a	1a	3	8.30	7.80	4.00	245.0	
125-5	C-1	SB-5	輝石安山岩	I②	1a	3	3	11.90	8.10	4.40	428.5	
125-6	C-1	K-11	粗粒砂岩	I②	1a	1a+2a	-	14.00	12.10	5.50	1127.9	
125-7	C-1	SB-20	玄武岩	I②	1a	1a+3	3	7.40	5.50	3.60	162.4	
127-8	C-1	SB-9	(不明)	II③	1a+2b	1a	-	13.50	7.00	5.40	521.5	被熱?
127-9	C-1	L-14	輝石安山岩	II③	1a+2a	2a+2b	3	14.10	[6.8]	6.70	[901.5]	一部欠損
127-10	C-1	L-16	輝石安山岩	II①	1a	-	-	8.30	7.60	5.50	367.6	被熱
127-11	C-1	I-11	角閃石安山岩	II②	1a	1a	3	7.20	5.90	4.60	253.3	
127-12	C-1	H-8	輝石安山岩	II①	1b	3	3	8.00	5.80	4.60	278.0	
127-13	C-1	J-9	風化礁岩	II②	2a	2a	--	10.20	[7.5]	5.30	[440.1]	一部欠損
127-14	C-1	L-16	輝石安山岩	II②	1b	3	3	9.50	7.20	5.00	364.5	
127-15	C-1	SB-10	輝石安山岩	II②	1b	1a	3	8.70	5.80	4.60	239.7	
127-16	C-1	SB-21	輝石安山岩	II①	1a	2a	-	7.80	6.70	4.80	275.2	

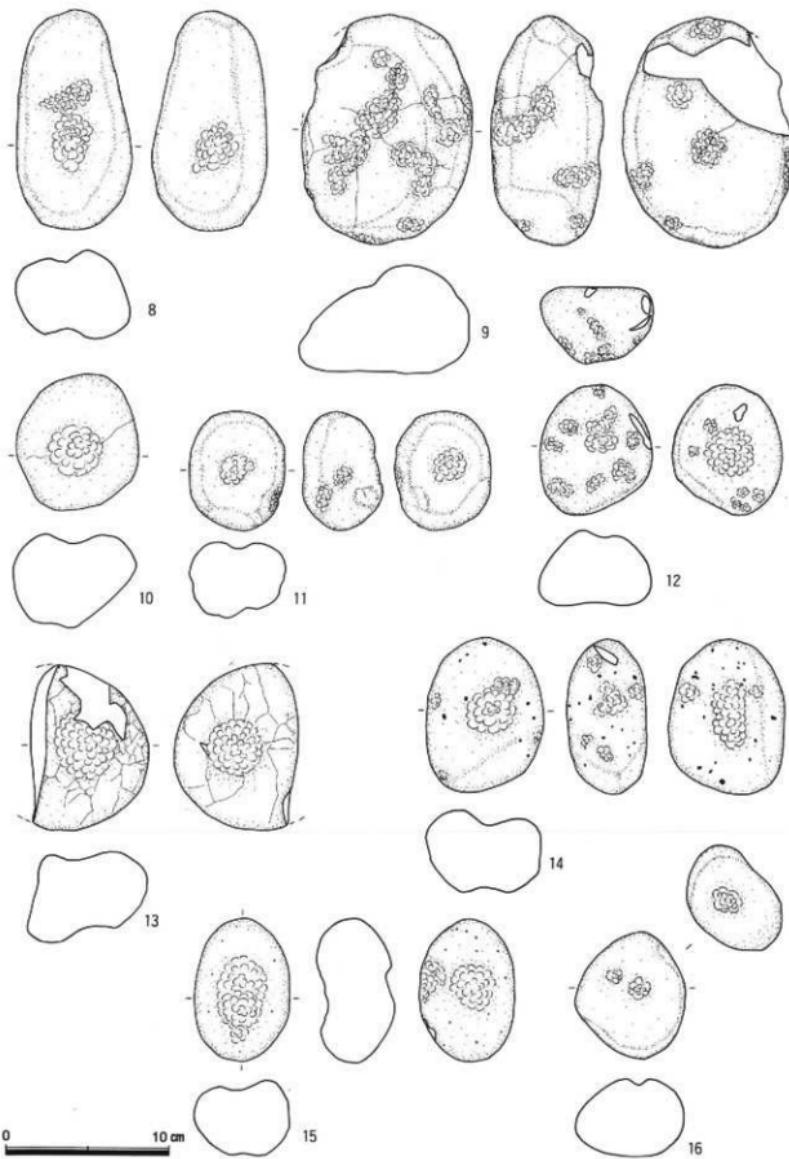


第125図 敲石



0 10 cm

第126図 凹石 (1)



第127図 凹石 (2)

④ 磨石（第131～134図）

主平面上にスリ面をもつ。凹みや敲打痕を伴うものも含む。総数で229点出土。ほぼ調査区全体で出土が認められるが、南側がやや優越する。58点が住居跡からである。また、9点のみではあるが、配石からも出土している。使用石材は安山岩・玄武岩・閃雲花崗閃綠岩・砂岩・砾岩である。凹石と同様、安山岩質が最も多い。

(1) 材料による分類

I : 断面形が橢円形を呈する扁平疊 (177点)

II : 厚みのある塊状疊 (52点)

さらに、平面形によって①：円形、②：橢円形、③：長橢円形、④：その他の4タイプに分類可能である。組み合わせとしてはI①類が多い。

(2) 使用面による分類

A : 平面部を使用

B : 側縁部を使用

A類の場合、片面のみを使用している例はわずか10点のみで、残りは全て両面に使用痕が残る。側縁部のみ使用しているのは2点だけである。B類に分類されるその他の磨石は全てA類と併用されている。A類83点、A+B類124点で、凹石と共通した傾向が認められる。ただし、スリ面としては使用していないが、凹みやタタキのみ残る面も使用面として分類した。

(3) 使用痕による分類

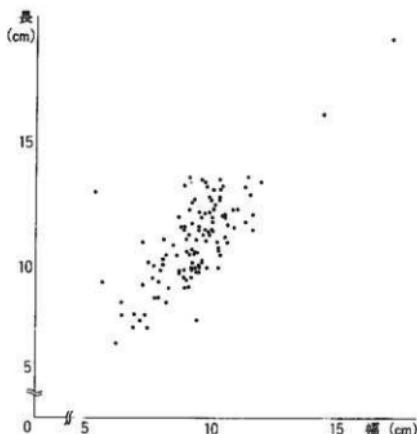
1 a : 平坦部全体をスリ面としている (214点)

1 b : 部分的な一箇所をスリ面とする (24点)

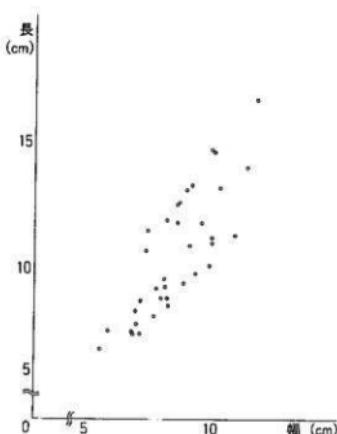
2 : 単独の凹みをもつ (72点)

3 : アバタ状にごく浅い凹みが無数に連なる (83点)

複数面を使用している場合や一面で異なる使用痕が確認される場合があるため使用痕の計上数は重複する。側縁部使用はほぼ3類に限られる。



第128図 磨石I類法量分布図



第129図 磨石II類法量分布図

(4)法量

長さ6.8~19.1cm、幅5.3~17.0cmの広い範囲に分布する。I類は長さ7.0~13.5cm、幅6.5~12.0cmに集中する。一方、I類に関しては分布に特定の偏りが認められない。分布範囲は長さ6.8~16.7cm、幅5.6~11.75cmである。II類が長さの点でやや優越するものの、いずれも長さ15cmを超えるものはほとんどない。重量値も最小の176.0gから最大で3057.3gと開きが大きい。ただし、大半が200g以下である。なかでも600~900g台が突出する。また、凹石と比較すると磨石の方が大きさ・重量ともに値が大きい。

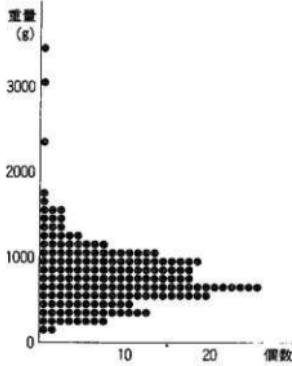
欠損の割合はわずか18%（41点）であった。ほとんどが2分の1程度を破損している。また、12点で被熱が認められた。

(5)他機能との併用

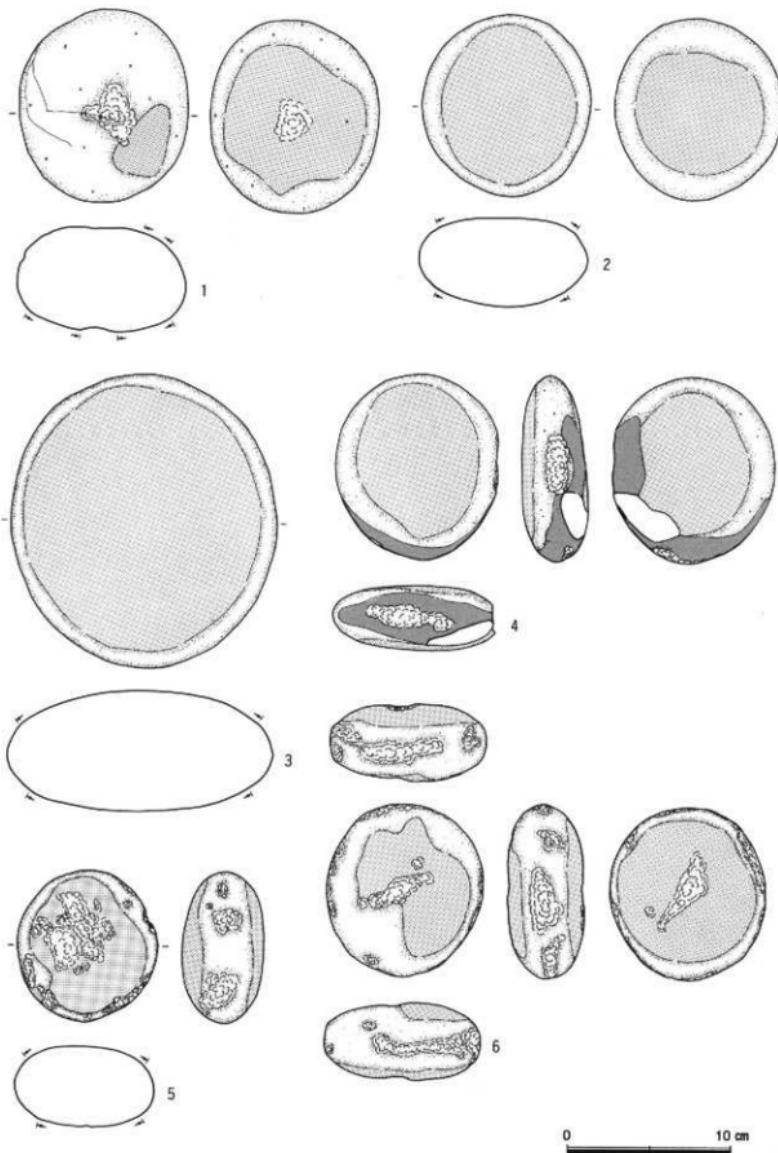
磨石のみの機能をもつもの（75点）、磨石と凹石（16点）、磨石と敲石（40点）、磨石と凹石と敲石のそれぞれの機能を併せ持つもの（98点）。単独の機能を持つものは45%で、複合例とほぼ半数ずつを占める。凹石も同様の傾向がみられる。また、凹石も含め、「スル」機能が229点、「タタク・ツブス」機能が240点で、機能の偏りは認められなかった。

表66 磨石観察表

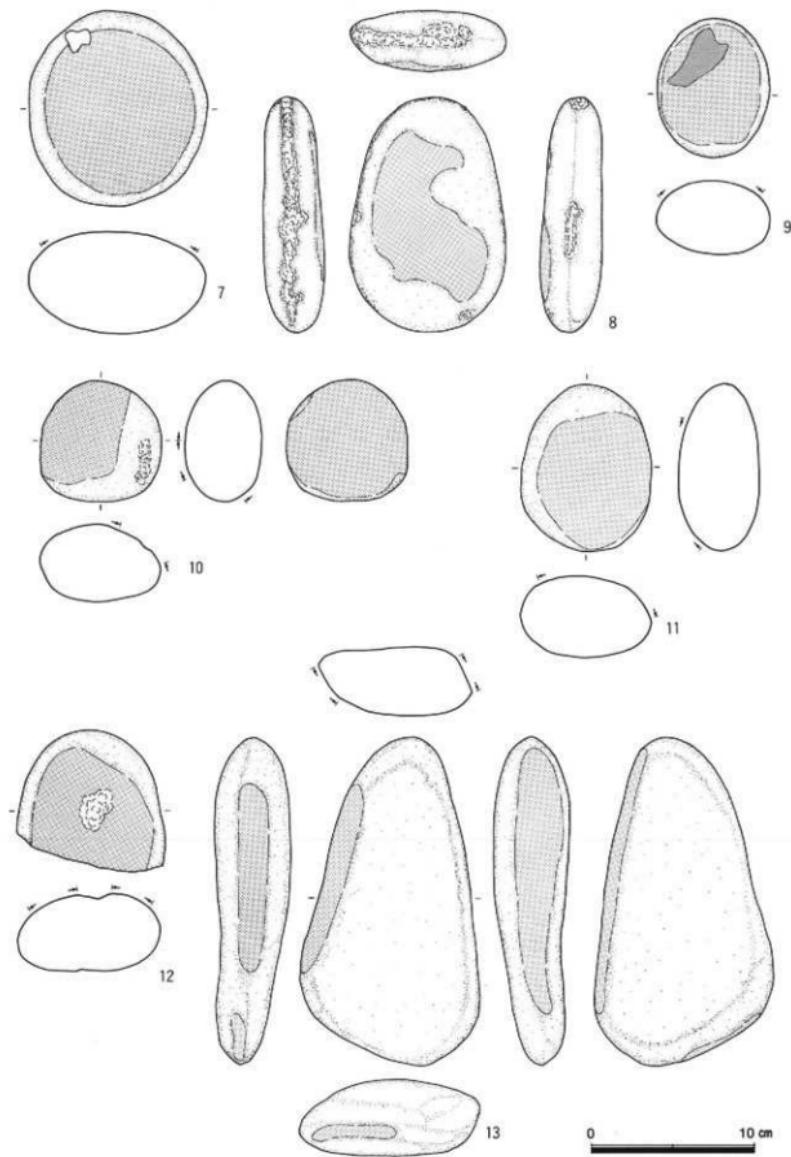
番号	調査区	出土遺構	石材	分類	使用痕			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
					表面	裏面	側縁					
131-1	C-1	33号配石	鐵岩	I①	2+a	1-a	-	12.00	10.40	6.40	1228.1	
131-2	B-2	P-6	粗粒砂岩	I①	1	1	-	11.40	10.50	5.45	927.8	
131-3	C-1	I-8	閃雲花崗閃長岩	I①	1	1	-	18.10	16.50	7.50	3438.2	
131-4	C-1	H-9	輝石安山岩	I①	1	1	b	11.60	10.05	4.10	723.3	被熱
131-5	C-1	SB-19	輝石安山岩	I①	1+b	1+a	b	9.40	8.70	5.05	599.7	
131-6	C-1	SH-18	輝石安山岩	I①	1+b	1+b	b	10.80	9.75	4.75	781.2	
132-7	C-2	F-6	繊維岩	I①	1	-	-	12.10	11.0	6.30	1127.3	
132-8	C-1	SB-9	中粒硬質砂岩	I②	2	-	b	14.70	9.65	3.70	776.5	
132-9	C-1	J-10	中粒硬質砂岩	I②	1	-	-	8.60	7.00	4.60	371.1	被熱
132-10	B-2		繊維玄武岩	I①	2+a	1	1	7.50	7.50	4.80	396.4	
132-11	B-2	M-4	中粒硬質砂岩	I②	1	-	2	10.35	8.00	5.05	588.6	
132-12	C-1	27号配石	含隕石層砂岩	I②	1+a	-	-	[8.3]	[9.1]	[4.8]	[543.2]	一部欠損
132-13	C-1	33号配石	灰綠色硬質砂岩	I③	-	-	1	20.40	11.10	4.30	1542.6	
133-14	C-1	I-11	中粒砂岩	I②	1+b	1-a	-	14.80	10.55	5.90	1323.7	被熱
133-15	C-2		粗粒砂岩	I②	1+a	1	-	[10.6]	8.00	3.30	[422.0]	一部欠損
133-16	B-2	P-7	風化安山岩	I②	1	1	-	7.70	5.95	3.70	205.2	
133-17	C-2	SB-24	中粒砂岩	I②	1+b	1+b	b	7.40	6.80	3.40	240.8	
133-18	B-2		粗粒硬質砂岩	I②	1	1	1+a	11.80	9.25	5.30	825.1	
133-19	C-1		粗粒砂岩	I②	1+b	1	b	13.70	9.65	5.20	1005.7	
133-20	C-1	SB-9	輝石安山岩	II②	1	-	-	9.80	8.70	6.30	761.6	
134-21	C-1	J-9	粗粒砂岩	II①	1+b	1+b	-	7.50	6.25	4.70	311.3	
134-22	C-1	K-11	輝石安山岩	II②	2+b	2+b	b	8.35	9.90	6.05	651.1	
134-23	C-1	I-9	輝石安山岩	II①	1	2	10.10	9.60	7.00	916.9		
134-24	B-2	P-6	輝石安山岩	II②	a	1	-	9.90	7.65	5.60	554.2	
134-25	B-2		輝石安山岩	II②	1	1	b	9.40	6.50	4.00	390.4	
134-26	C-1	SB-18	（鑑定不能）	II②	1	1	-	11.00	8.45	6.20	850.9	
134-27	C-1	26号配石	輝石安山岩	II②	1-b	1+b	b	12.20	8.15	4.05	578.7	



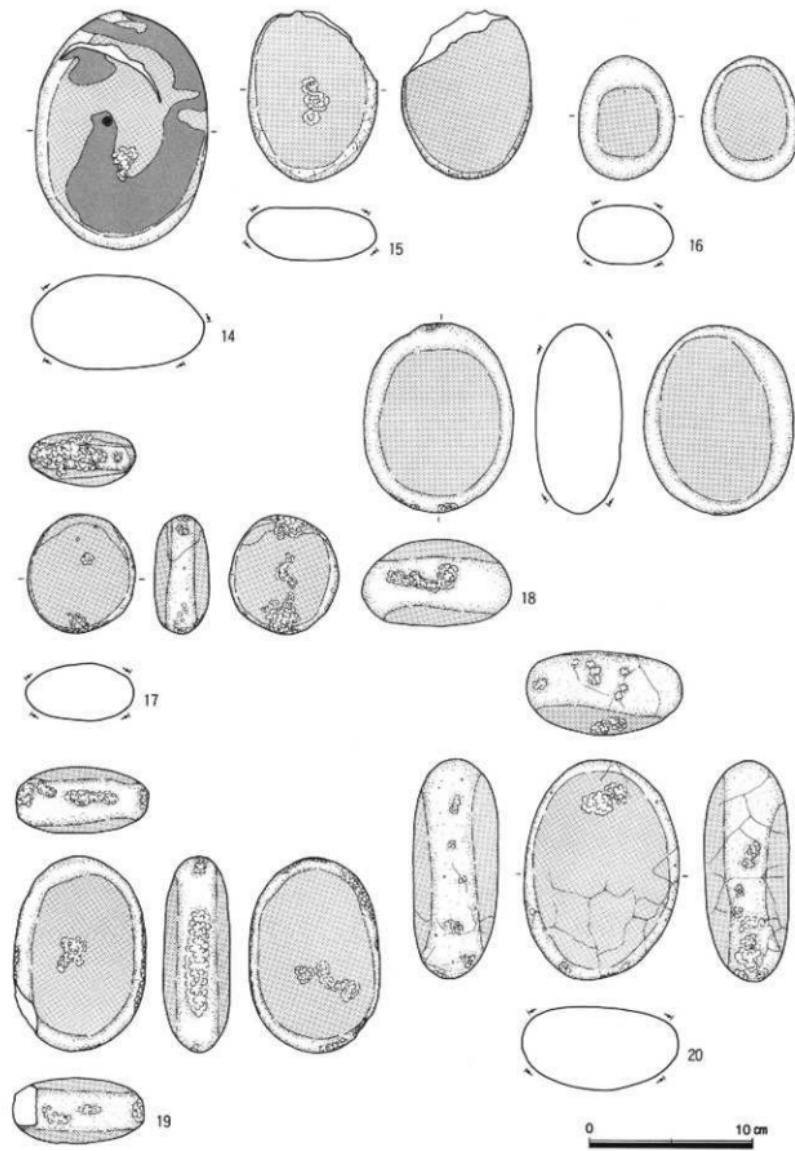
第130図 磨石重量分布図



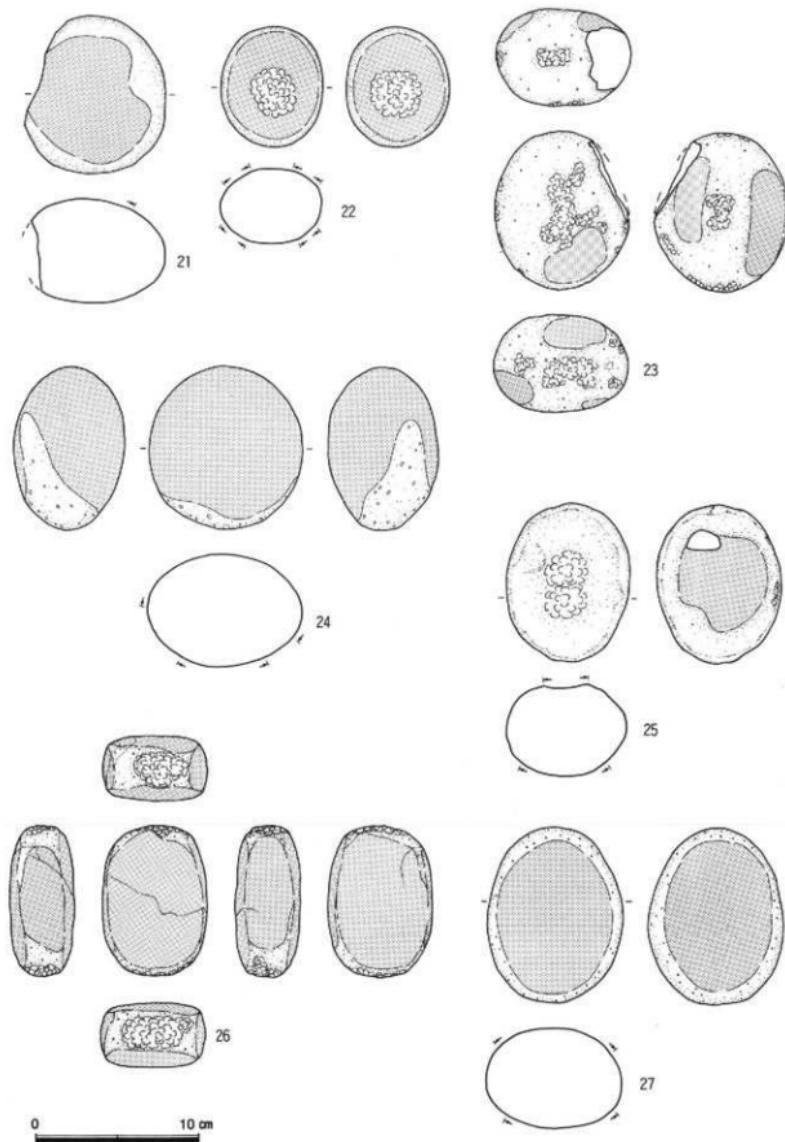
第131図 磨石 (1)



第132図 磨石（2）



第133図 磨石 (3)



第134図 磨石 (4)

8. 石棒 (第135図・第136図-12)

23点が出土した。柱状の礫で、とくに上端部に整形を施したものもある。祭祀具としての性格上、配石に伴うものが多いが、それ以外にも住居跡の石圓いがの一部としても1点出土している。断面形がI: 楕円形を呈する扁平礫、II: 円形を呈する球状礫、III: 三角形を呈する塊状礫の3類に分類できる。使用石材は粗面岩・輝石安山岩・角閃石安山岩・緑色凝灰岩などで、安山岩質が多数を占める。

(1)頭部の形状による分類

a : 無頭

b : 有頭

c : 不明

a類はさらに円頭の礫の形状をそのままにしているものと、面状にしているものとがある。

(2)法量

欠損品が多く、法量による傾向を知ることはできないが、最大幅を基準にして大まかに大型・中型・小型の3タイプに分けることができる。このうち、大型と中型がほぼ半数ずつを占め、小型は1点のみである。この小型の石棒については大きさ的には石劍と類似しているものの、刃と断定できるような明瞭な穂をもたないため、石棒とした。

完形のものではなく、上下どちらか、もしくは両端を欠く。ただし、下端部欠損としたなかには欠損があるのか、あるいは剝離・敲打などによって端部を整形しているのか判別困難なものも含めた。沈線などを用いた装飾を施してあるものは見られない。成形に関しては、敲打痕や研磨痕が残るものがあることから、敲打によって形を整えたあとに研磨で表面を滑らかに仕上げたと推測できる。

表67 石棒観察表

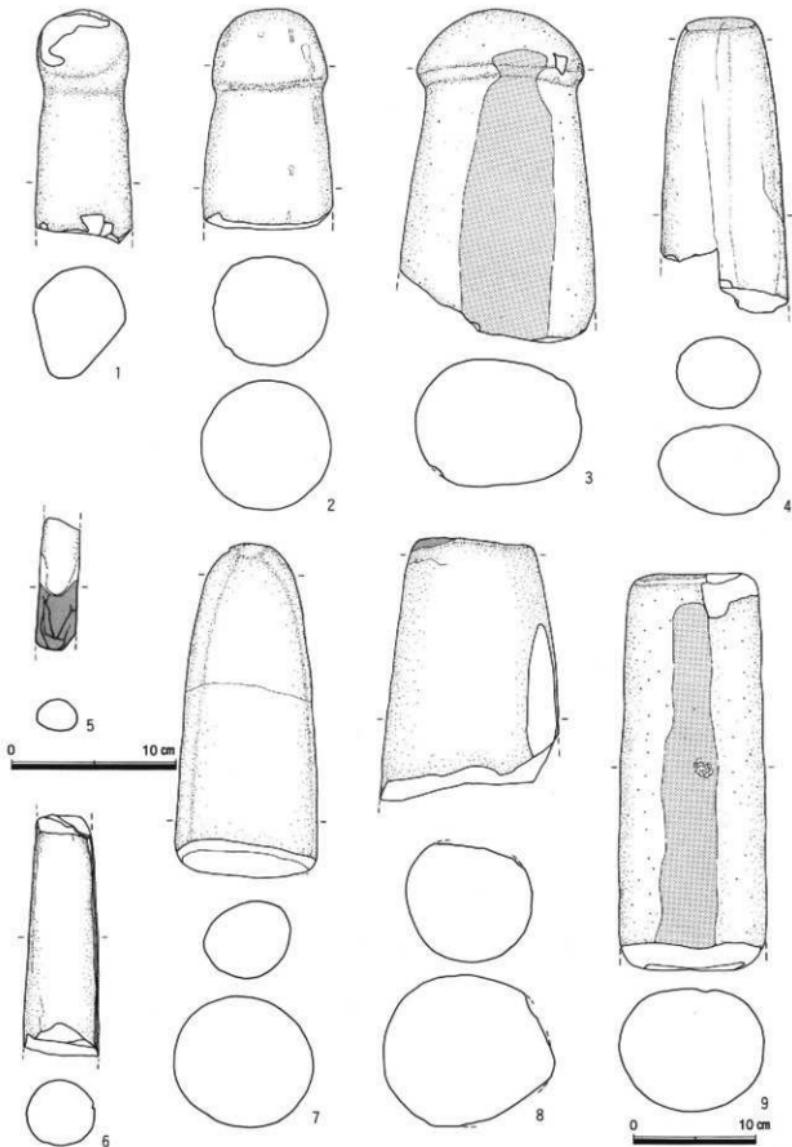
番号	調査区	出土遺構	石材	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	欠損部位	備考
135-1	C-1	K-12	粗面岩	III b	[13.5]	[7.1]	[6.8]	[704.2]	下端	風化
135-2	C-1	H-10	角閃石輝石安山岩	II b	[18.0]	[9.4]	[10.5]	[1994.7]	下端	
135-3	C-1	33号配石	輝石安山岩	I b	[26.5]	[15.6]	[10.4]	[5919.4]	下端	研磨痕あり
135-4	C-1	22号配石	粗面岩	I a	[24.0]	[10.2]	[7.2]	[2428.3]	下端	
135-5	C-1	H-8	單葉狀麻疹岩	I	[13.1]	[2.4]	[1.9]	[59.3]	両端	被熱
135-6	C-1	H-7	硬質緑色麻疹岩	II	[19.5]	[6.0]	[5.4]	[1131.9]	両端	
135-7	B-2	N-4	風化輝石安山岩	II a	[27.0]	[11.5]	[10.7]	[4178.4]	先端	頭部が尖る
135-8	C-1	10号	角閃石安山岩	II a	[21.5]	[14.2]	[12.6]	[6027.4]	下端	被熱
135-9	C-1	集塵群1	角閃石安山岩	II a	[32.2]	[11.9]	[10.0]	[7754.5]	頭部平坦面に研磨痕あり	
136-10	C-1	18号配石	輝石安山岩	II	[25.4]	[13.3]	[12.9]	[6261.9]	両端	被熱
136-11	C-1	21号配石	角閃石安山岩	II	[28.8]	[13.0]	[10.0]	[7906.2]	両端	被熱
136-12	C-1	SH-22	(不明)	II a	[27.4]	[11.3]	[9.7]	[5174.7]	下端	研磨痕あり

t. 石劍 (第136図-13)

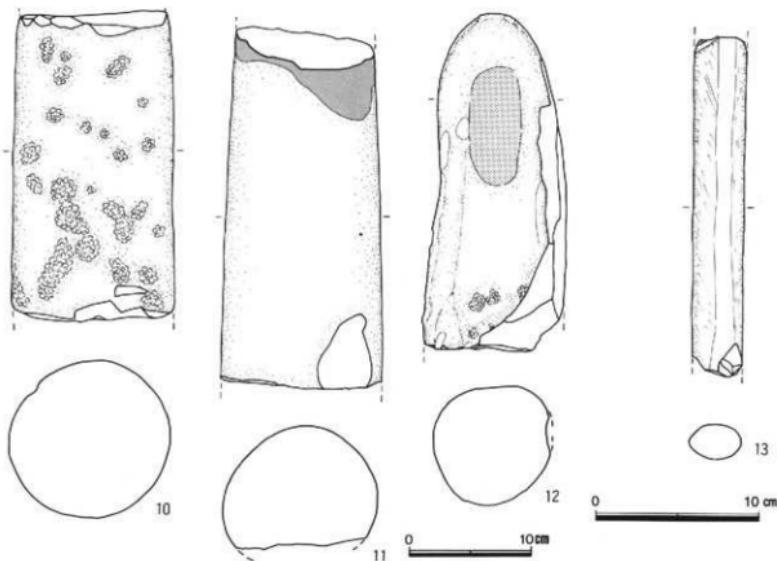
1点のみ出土。石材は緑色片岩を使用している。長さ20.8cm、幅3.2cmのほぼ真っ直ぐな棒状で、断面形はやや扁平な凸レンズ状を呈する。上下端を欠損しているため、頭部の形状などは不明である。器面をタテ、あるいはナナメ方向に研磨して、刃状の鈍い稜を作り出している。両刃。装飾に関しては、欠損部分との境に幅2mmほどの沈線が、わずかではあるが確認できる。しかし前述のとおり端部を欠くため、どのような装飾が施されていたのかは判らない。石棒の一類であるが、割れやすい緑色片岩を用いている点や装飾されている点からも、明らかに石棒とは異なるものとして作られたと考えられる。

表68 石劍観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
136-13	C-1	K-10	緑色片岩	[20.8]	[3.2]	[2.2]	[29.4]	0.3cm幅の旗頭あり。両端を欠く



第135図 石棒 (1)



第136図 石棒（2）

u. 蜂の巣石（第137図）

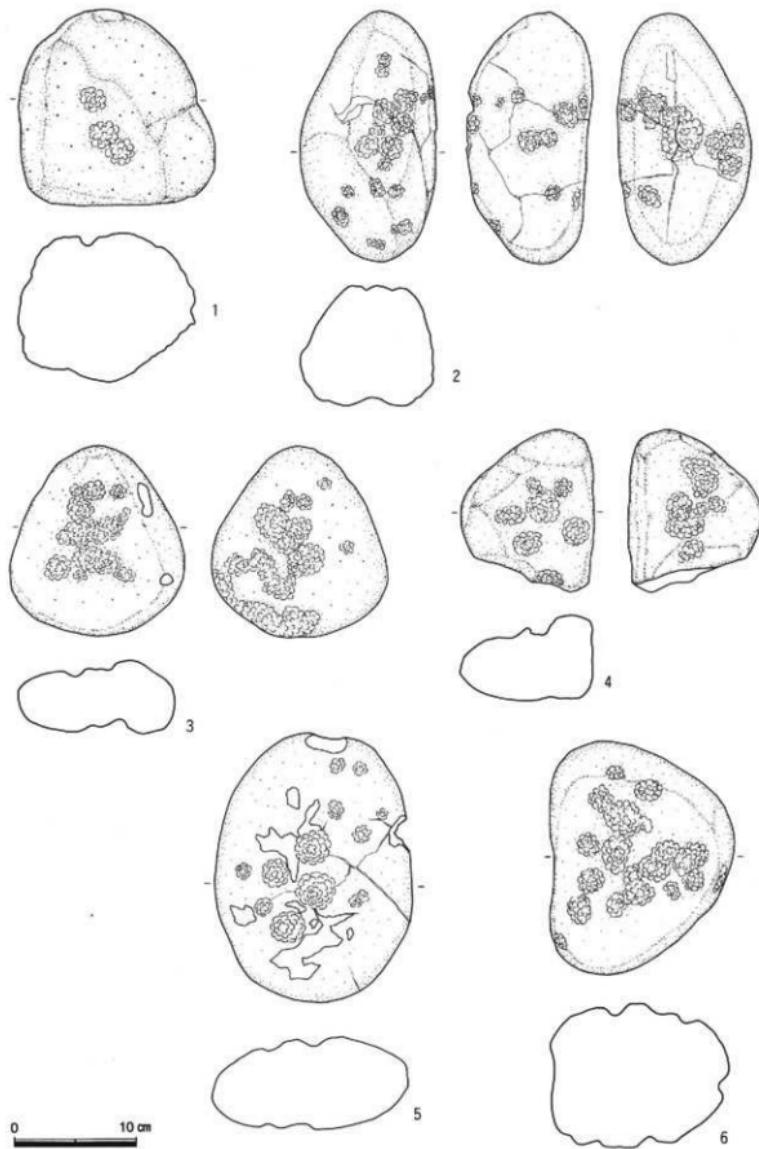
蝶の平坦部分に蜂の巣状に複数の凹みを有する。71点出土した。特定の集中地域は認められない。中央からやや東にかけて幾分多く見られる程度である。住居跡9点、配石20点で、配石からの出土が目立つ。これらは転用の可能性も考えられる。使用石材は安山岩を主体とする。

素材となる蝶は断面形からI：扁平蝶、II：塊状蝶の2種に分類可能である。使用面は1：片面のみ、2：両面、3：側面があるが、3類のみの使用例はない。1・2類のいずれかと組み合わせて用いられている。組み合わせとしては2+3類が最も多い。使用痕はA：凹み、B：アバタ状のタキがある。大半がA類に含まれ、明瞭なナリ鉢状の凹みをもつ。深さも凹面の凹みと比べて深い。凹みの数は最大で117個、最小で1個を数え、傾向としては若干の例外はあるものの素材の大きさにほぼ比例する。1類は両面、II類は側面の使用がそれぞれ多い。スリの痕跡をもつものはないが、石皿の中には蜂の巣石を兼用している例もあり、それらについては石皿の項で扱いたい。

法量は最小で長さ10.5cm、幅7.5cm、最大で長さ48.0cm、幅42.0cmと分布範囲が広い。欠損品が30%を占める。長さ13.5~29.0cm、幅10.0~24.0cmの範囲にほぼ集約するが、特定の集中域は認められない。平均値は長さ20.5cm、幅16.5cmである。

表69 蜂の巣石観察表

番号	調査区	出土遺構	石材	分類	凹み数 表裏	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (kg)	使用痕			備考
										表	裏	側面	
137-1	C-1	33号配石	輝石安山岩	II	3 -	16.10	14.90	12.20	3958.0	A	-	-	
137-2	C-1	2号配石	輝石安山岩	II	8 9	20.60	11.00	11.00	2177.5	A	A	B	
137-3	C-2		輝石安山岩	I	12 8	15.60	14.40	6.40	1334.1	A+B	A+B	-	
137-4	C-1	21号配石	輝石安山岩	I	7 6	10.90	[13.1]	6.90	1857.8	A	B	-	
137-5	C-1		輝石安山岩	II	13 22	22.10	16.30	8.40	2843.4	A+B	A	-	
137-6	C-1	SB-25	輝石安山岩	II	19 24	19.10	15.30	12.00	3624.9	A	A	-	



第137図 蜂の巣石

v. 石皿 (第138~142図)

大きめの礫の平坦部に広い範囲のスリ面をもつ。スリ面はほとんどの場合皿状にくぼむ。176点が出土した。中央付近がやや多いものの、比較的散在している。遺構別の内訳は住居跡29点、配石39点である。住居跡および配石からの出土が目立つ。また、住居内の炉出土のものも1点ある。使用石材は安山岩・玄武岩といった火成岩にはば限られ、なかでも安山岩質が大半を占める。多孔質の石材も数点含まれており、中にはかなり器面の粗いものもある。全体としては緻密なものはそれほど多くなく、やや密といつた程度の疊が用いられているようである。

(1)素材による分類

I : 自然疊 (112点)

II : 加工疊 (24点)

III : 不明 (40点)

さらに、疊の断面と平面、それぞれの形状から以下の5つに分類できる。

① : 扁平な疊を用い、平面が円・楕円形を呈する。(81点)

② : 扁平な疊を用い、平面が方形を呈する。(9点)

③ : 塊状疊を用い、平面が円・楕円形を呈する。(12点)

④ : 塊状疊を用い、平面が方形を呈する。(9点)

⑤ : その他 (25点)

II類には、割石を使用しているもの、側縁部を整形しているもの、皿部を明確に作り出しているもの、さらに粉碎した対象物を外へ移すための掻出しき口を皿部に備えたものも含む。明らかに掻出しき口を有すると思われるものはわずか1点のみである。掻出しき口は皿部から疊の先端に向かって滑らかにつき出している。全体の90%近くが特に加工を施すことなく自然疊をそのままの形で使用している。

(2)使用痕による分類

A : スリ (151点)

B : 凹み (13点)

「スル」機能を主とする。2類の場合、皿部よりも裏面や縁の部分に多く見られる。また、裏面では蜂の巣状を呈していることが多い。被熱によって黒く焦げたものも数点見られる。

表70 石皿形態分類表

		I					II					計
1	a	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
	b	7	1	—	1	2	1	—	—	1	—	13
2	a	26	—	3	1	3	6	—	1	1	—	41
	b	15	4	5	2	2	9	1	2	—	—	40

(3)皿部の形状による分類

1 : 縁がほとんどないか、あるいは狭い。

2 : 広めの縁をもつ。

さらに、機能部である皿部の深さから2類に細分可能である。

a : 皿部が平坦もしくは浅くくぼむ程度

b : 皿部の凹みが深い

a類はいわゆる「台石」も含む。II類では狭い縁をもつものはほとんど認められない。皿部も深めの

凹みを有し、I ①類以外では a 類はほとんど認められない。また、I 類は I a 類および I b 類との結びつきが強く、比較的浅めの皿部をもつようである。縁の広さや皿部の深さは使用状況によっても変わるものであるが、単に使用頻度によって生じた差異では解釈できない状況のものもある。意図的に皿部を作り出すことで、対象物や作業に応じた a 類と b 類の使い分けが行われていたと考えられる

(4) 法量

完形品が少ないため、法量による分類は難しいが、大きさは小型で比較的薄めのものと、大型で厚みのあるもの、その中間形に分けられる。最も小型のものは長さが30cmに満たず、重量も1753gと持ち運びの可能性も十分考えられる大きさである。一方、大型のものは10gを超え、なかには26gに及ぶものもあるため、動かすことも容易ではない。一ヶ所に据えて使用したと推測される。また、蜂の巣石と同様に、配石から出土したものはほぼ大型に限られる。

(5) 欠損状況

およそ65%にあたる115点が部分的に破損した状態で出土している。欠損部位は個々の遺物によって異なるが、全体としてはいくつかの傾向として捉えることができる。一個体の2分の1以上が残っているものは少なく、半数以上が3分の2あるいは4分の1程度の残存しかない。石皿に破損品が多いことについては、その不自然な割れ方などから石皿の破損行為に意味付けを行う見方もある（註4）。確かに、割れ方を見ると使用過程における欠損としては不自然なものが少なくなく、接合例も確認できなかった。しかしながら、石皿と欠損とには何らかの関係があるとは思われるものの、意図的な破損と断定することはできない。

（註1） 鈴木（1983）の打製石斧の分類基準に掲げる。ただし、刃部幅が基部幅の1.5倍以上で全長が最大幅の2倍以上のものについては短冊形ではなく中間形として分類した。

（註2） 「半月状両面調整石器」という呼称はあくまでも、形状を参考として便宜的に使用した。長野県増野新切遺跡ではこれに類似した打製石器が出土しており、石包丁として捉えている。

（註3） 渡辺（1973）は、打欠き石錐が河川に關係ない山間地の遺跡にも多い点や水中で揺れた場合に糸が切れてしまう程打ち欠きの角度が鋭い点などを挙げて、打欠き石錐をもじり編み用、切口石錐を漁網用と位置付けている。

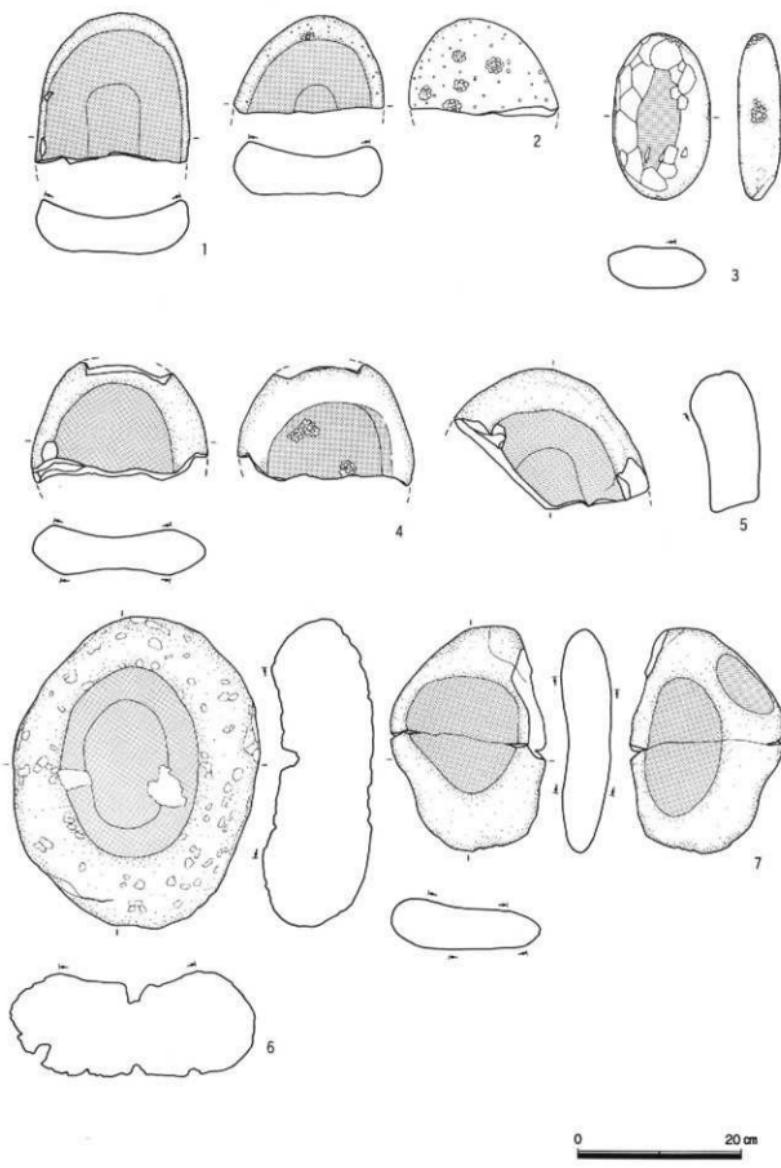
（註4） 完形品が住居跡の床面出土に多く、かつ通常の使用では考えにくい破損状況が認められることから、石皿の人為的破損・目的的ある破損を想定している。それによると、石皿は限られた住居跡から出土することが多く、また、特殊な加工を施した例も認められており、石皿の祭祀的な要素が指摘できるという。

参考文献

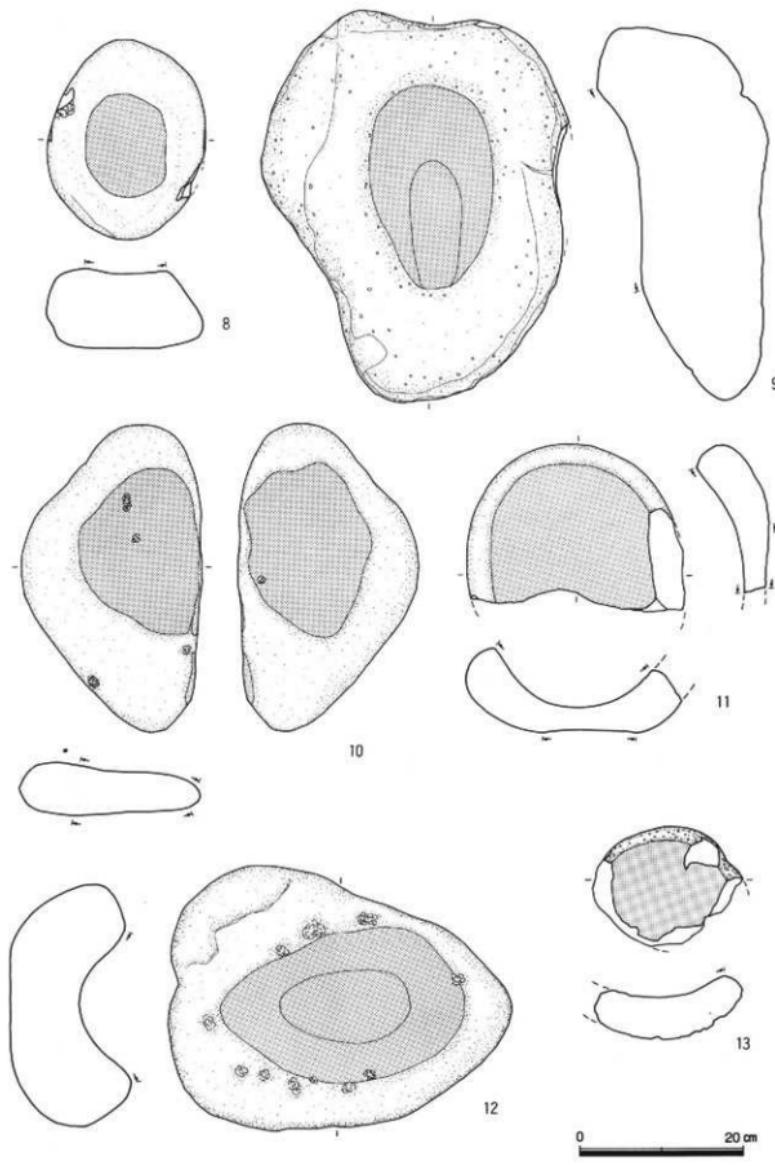
- 鈴木次郎 1983 「打製石斧」『縄文文化の研究』7 雄山閣
小林公明 1977 「縄文時代ハケ岳南麓における農具としての打製石器」『信濃』29-4
渡辺 誠 1973 『縄文時代の漁業』 雄山閣
平出一治 1978 「縄文時代の石皿について こわれた石皿をめぐって」『信濃』30-4 信濃史学会
町田勝則 1996 「石器の研究法—報告文作成に伴う観察・記録法①—」『長野県の考古学』 長野県埋蔵文化財センター研究論集1
長野県埋蔵文化財センター 1993 「北村遺跡」中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11—明科町内一
新潟県教育委員会 1991 「城之腰遺跡」関越自動車道関係発掘調査報告書

表71 石皿觀察表

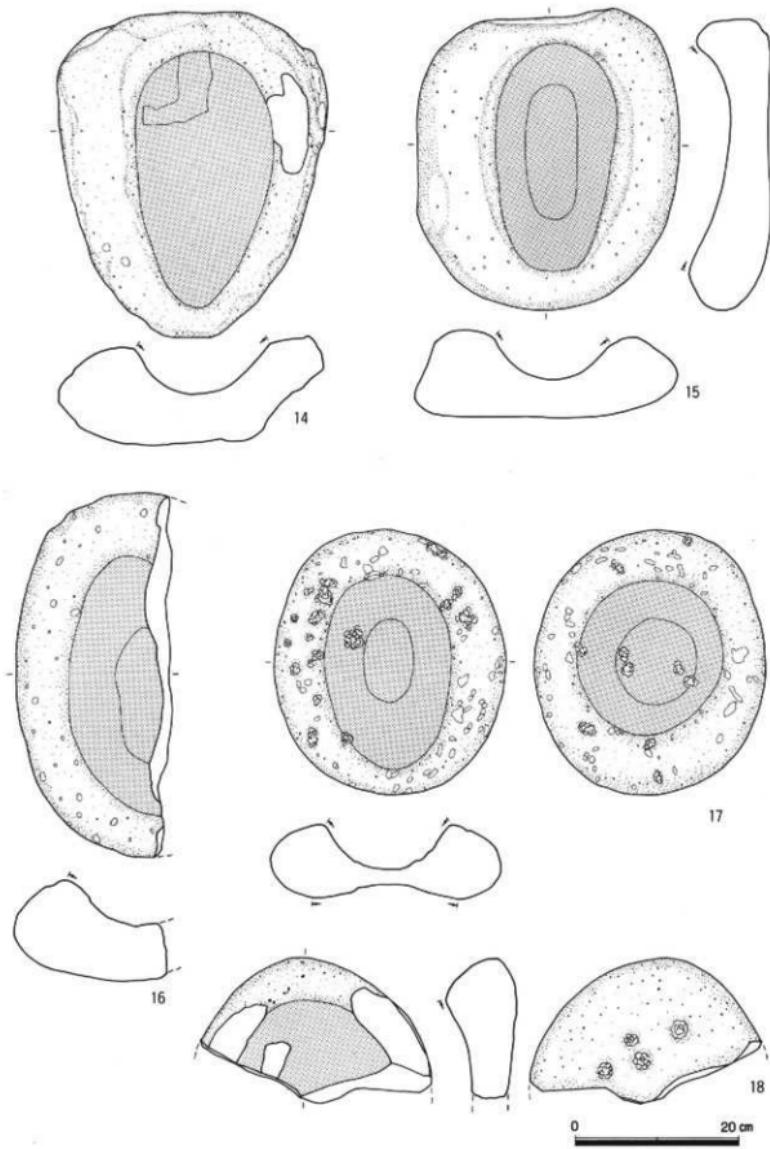
番号	調査区	出土遺構	石材	素材	使用痕		皿部	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損	備考
					表	裏							
138-1	C-1	N-14	輝石安山岩	I①	A	-	1b	[18.2]	[17.1]	5.00	[2820.0]	2/3	
138-2	B-2	SB-29	輝石玄武岩	I①	A	B	1a	[9.6]	[17.9]	6.1	[1802.3]	1/2	
138-3	C-1	24号配石	細粒輝石玄武岩	I①	A	-	2a	24.90	11.60	5.00	1753.60	完形	
138-4	C-1	SB-9	玄武岩	I①	A	A+B	2a	[21.0]	[13.5]	5.60	[2320.8]	1/2 被熱	
138-5	C-1	K-11	角閃石輝石安山岩	I①	A	-	2a	[17.2]	[23.0]	7.2	[3323.9]	被熱	
138-6	C-1	H-10	多孔質玄武岩	I①	A	-	2a	37.30	29.20	12.50	19500.00	完形	
138-7	B-2		輝石安山岩	I①	A	A	2a	26.70	[18.2]	5.60	[3689.4]	-部欠損	
139-8	C-1	H-9	輝石安山岩	I③	A+B	-	2a	24.10	18.80	10.20	5332.00	完形	
139-9	C-1	SB-1	輝石安山岩	I③	A	-	2a	45.40	35.50	17.60	37000.00	完形	
139-10	C-1	M-14	角閃石安山岩	I①	A+B	A+B	2a	36.70	21.50	7.30	7053.60	完形	
139-11	C-1	N-4	輝石玄武岩	I①	A	A+B	1b	[17.8]	[25.8]	5.10	[4500.0]	1/2	
139-12	C-1	SB-9	輝石安山岩	II②	A	-	2b	53.10	36.80	12.70	26000.00	完形	
139-13	B-2	O-7	多孔質輝石玄武岩	I①	A	-	1b	[18.0]	[14.3]	7.5	[1420.5]	3/4 被熱	
140-14	C-1	K-10	輝石安山岩	II①	A	-	2b	39.00	32.10	12.60	20500.00	完形	
140-15	C-1		輝石安山岩	II①	A	-	2b	35.75	31.45	10.40	18500.00	完形	
140-16	C-2	SB-23	橄欖石輝石玄武岩	II①	A	-	2b	43.70	[18.2]	11.5	[12000.0]	1/2 (多孔質)	
140-17	C-1	J-13	多孔質輝石玄武岩	II①	A+B	A+B	2b	31.80	27.75	8.40	8211.30	完形	
140-18	B-2	37号配石	輝石安山岩	I①	A	-	2b	[17.4]	[27.9]	[8.5]	[4092.6]	2/3	
141-19	C-1	I-9	輝石安山岩	II①	A+B	A+B	2b	[29.7]	[33.3]	11.6	[8762.1]	1/2	
141-20	C-1	SB-20	多孔質玄武岩	I①	A+B	-	2b	[19.6]	[12.3]	7.2	[2054.4]		
141-21	C-1	17号配石	輝石安山岩	II②	A+B	B	1b	[32.0]	29.80	14.30	[15500.0]	1/2	
141-22	C-1	33号配石	輝石安山岩	II①	A	A+B	1a	[18.3]	[13.1]	6.5	[2421.1]	3/4	
141-23	C-1	10号配石	輝石安山岩	II②	A	B	2b	[32.0]	22.20	7.00	[5944.9]	1/4	
141-24	C-1	M-13	輝石安山岩	II①	A	-	2a	23.60	[13.7]	8.20	[4010.2]	1/2	
142-25	C-1	J-11	輝石安山岩	II⑤	A	A	1a	23.00	[14.0]	7.30	[3383.9]	1/2	
142-26	B-2	N-4	輝石安山岩	II①	A+B	A+B	2b	[31.0]	[19.5]	[12.0]	[7500.0]	3/4 被熱	
142-27	C-1	SB-9	輝石安山岩	II②	A	-	2b	[53.10]	36.80	12.7	[26000.0]	-部欠損	
142-28	C-1	18号配石	多孔質玄武岩	II③	A	-	2b	39.70	[28.6]	14.70	[19000.0]	-部欠損	
142-29	C-1	SB-9	輝石安山岩	II④	A+B	A+B	1b	32.80	23.20	11.70	14163.40	完形	



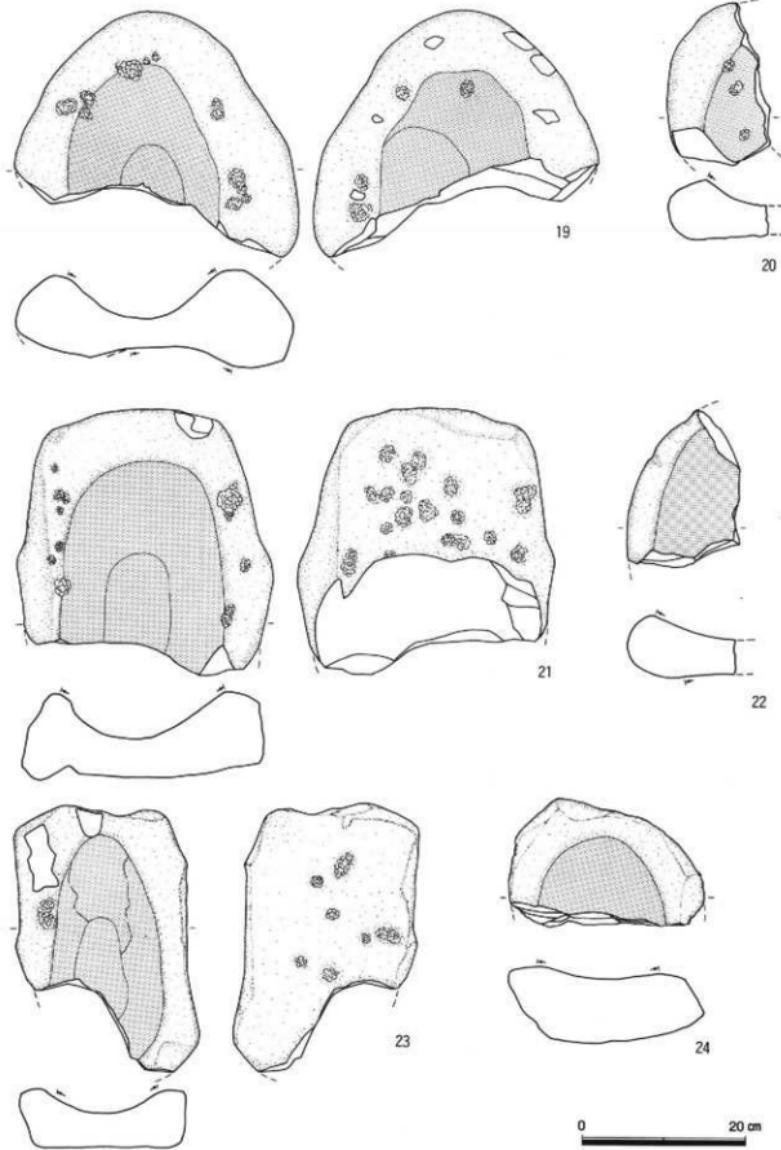
第138図 石皿 (1)



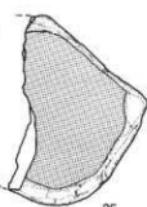
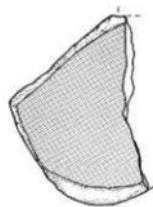
第139図 石皿 (2)



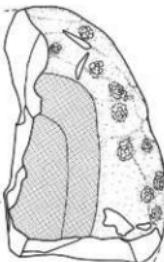
第140図 石皿 (3)



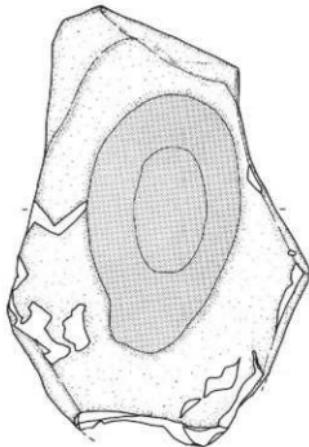
第141図 石皿 (4)



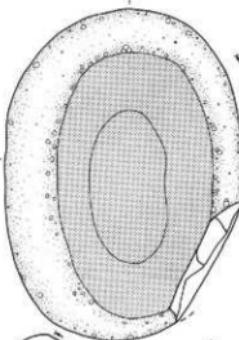
25



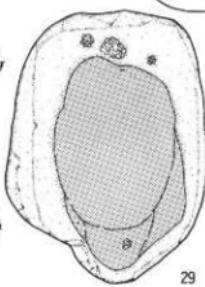
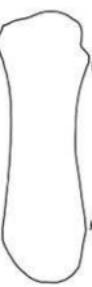
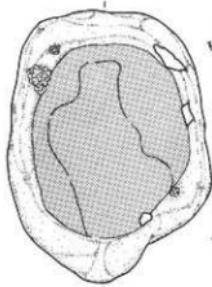
26



27



28



29

A horizontal scale bar with the number "20" and the unit "cm" written next to it.

第142図 石皿 (5)

第2節 弥生・古墳時代の遺物

1 土器

SB-1 出土土器 (第143図-1~4)

住居跡床面より出土している。1は単純口縁壺で、胸部中位に最大径を有した長胴の球胴形を呈する。肩は張らず、短い頸部につながり、口縁部は外反する。胸部外面は縦位のヘラミガキを施し、口頸部は斜位の板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。2は台付壺で、胸部中位に最大径を有し、球胴状を呈する。口縁部は外反し、端部に刻みが施される。胸部中位にヨコハケ、胴下位にタテハケ、口縁部から頸部にかけてヨコハケ調整である。内面は板ナデが施される。3は台付壺で、ほぼ完形である。胸部中位に最大径を有し、長胴の球胴形を呈する。胸部外面は縦位にハケ後に板ナデ、内面は中位から下位にかけて斜位の板ナデ調整。

SB-2 出土土器 (第143図-5・6)

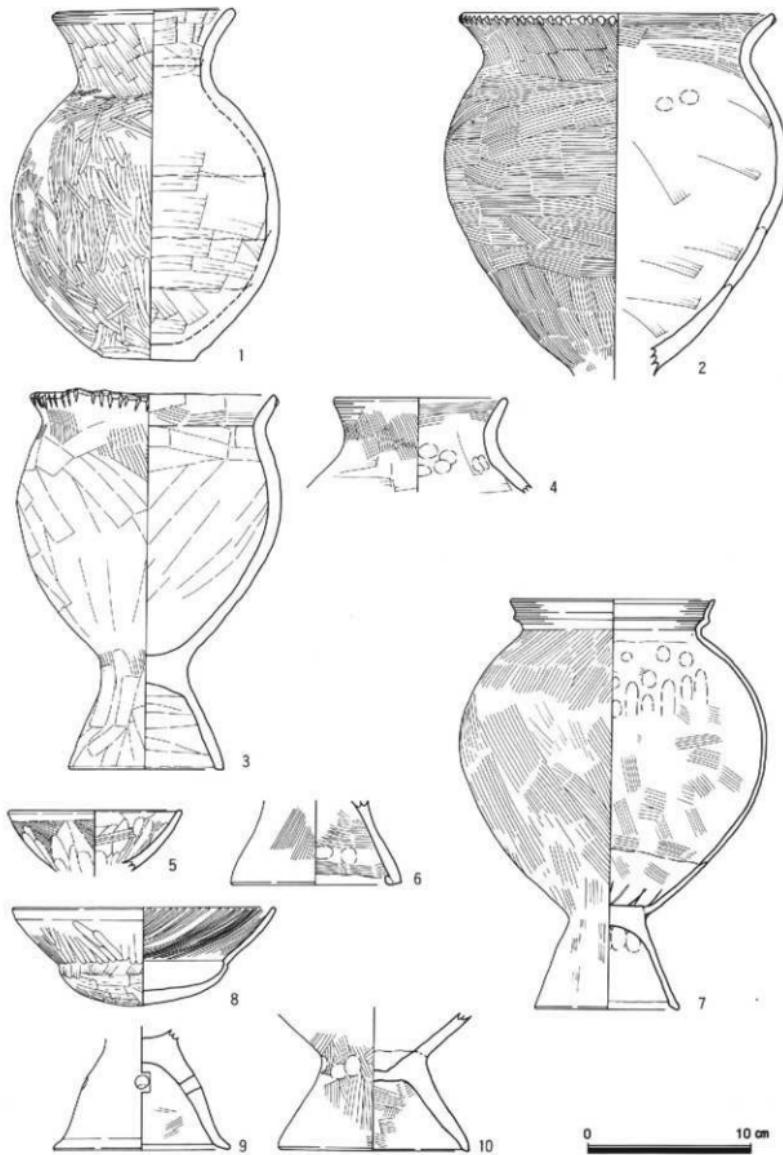
5はSB-2の床面より出土している。住居内から遺物は非常に少ない。小型器台の坏部で、口縁部は横ナデ、外面はハケ調整後ナデ消す。内面は横位のハケ調整後、ナデ消す。

SB-3 出土土器 (第143図-7)

7はSB-3の床面から出土し、S字口縁台付壺である。口縁部の屈曲は弱く、体部は長胴形を呈する。脚部に端部は内折する。口縁部は強い横ナデ、胸部は粗いナナメハケ、胸部の内面はハケのちにナデ調整を施す。脚部は、タテハケ後にナデ。駿河型のS字壺と考えられる。

表72 弥生～古墳SB-1～SB-3土器観察表

番号	調査区 SB-1	器形 留保 現存	口縁 底足 腰帯 腰帯	形状の特徴	技術的特徴	色調 泥土 構成	備考
143-1	C-1 SB-1	弥生上部 或 完形	10.7 5.8 21.45	単純口縁壺。胸部中位に最大径を有した長胴の球胴形を呈する。肩は張らず、短い頸部につながり、口縁部は外反する。胸部外面は縦位のヘラミガキを施し、口頸部は斜位の板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。	胸部外面は縦位のヘラミガキ。口縁部は斜位の板ナデ。脚部内面は横位の板ナデ。	SYR6/6褐色 褐、白色粒子を含む 良好	
143-2	C-1 SB-1	弥生上部 脚部以外は完形	18.9 —	台付壺。胸部上位に最大径を有し、球胴状を呈する。	脚部上位から中心にかけてヨコハケ。脚下位はタテハケ。口縁部から腰帯部にハケ。胸部内面は板ナデ。口縫部下部に刻みを入れる。	SYR6/6褐色 砂粒、白色粒子を含む 良好	
143-3	C-1 SB-1	弥生上部 或 完形	14.4 9.4 23.0	台付壺。胸部中位に最大径を有し、長胴の球胴形を呈する。脚部は外方に開く。	脚部外面は縦位のハケ後に板ナデ。1種筋間にさざみを入れる。井干井干カズリ。脚部中位から下位にかけて内面は斜位の板ナデ。	10YR6/6に近い褐色 白色粒子を含む 良好	
143-4	C-1 SB-1	弥生上部 小部 口縁部	10.25	1)脚部は直線的に開く。 2)脚部は直線的に開く。	1)脚部は直線的に開く。 2)脚部は直線的に開く。	10YR6/6に近い褐色 白色粒子を含む 良好	
143-5	B-2 SB-2	土師壺 小型高杯 底部欠損	10.4 —	脚部を少し、端部は丸く收める。脚部は欠損。	脚部は板ナデ。外側はハケ調整後にナデ消す。内面は斜位のハケ調整後にナデ消す。	SYR6/6に近い褐色 砂粒を含む 良好	
143-6	B-2 SB-2	土師器 要 脚部	—	台付壺。外方に開き、端部は内折する脚部。	外側はタテハケ。内面は斜位のハケ後にナデ消す。	7.5YR7/4に近い褐色 砂粒、白色粒子を含む 良好	
143-7	C-1 SB-3	土師器 要 完形	12.5 8.7 25.6	S字口縁台付壺。脚部の屈曲は弱く、体部は長胴形を呈する。脚部は内折する。	口縫部は横・板ナデ。脚部は斜位のナナメハケ。脚部内面は、ハケ後にナデ。脚部はタテハケ後にナデ。	7.5YR7/4に近い褐色 砂粒、赤色粒子を含む 良好	
143-8	C-1 SP-11	土師器 小部丸底上部 完形	13.85 — 6.1	球状の体部に外方にのびる口縫部がつく。	脚部外面ヘラカズリ。口縫部外面は縦位のヘラカズリ。内面は脚部のヘラミガキ。	SYR6/6褐色 褐、白色粒子を含む 良好	
143-9	B-2 O-3	土師器 脚部 脚部	—	高环の脚部。基部みなが外方に開き、端部で直角する。	内面にハケが深かに残るが全体的に磨滅が進む。調整不明。	7.5YR6/6褐色 砂粒を含む 不良	
143-10	B-2 O-7	土師器 脚部	—	底部から脚部が直線的に開く台付壺の脚部。	外側タテハケ、内面ココハケ。	SYR6/6褐色 褐、黄色、赤色粒子を含む 良好	



第143図 弥生～古墳SB-1～SB-3出土遺物

第3節 奈良・平安時代の遺物

1 土器

本遺跡の調査において出土した奈良・平安時代の土器は、圧倒的に多いのが平安時代後半の10世紀から11世紀の土師器、次に同時期の灰釉陶器であり、それに少量の綠釉陶器が伴う。また奈良時代の須恵器が3点出土している。これらの土器は、およそテンパコにして50箱程の出土量であった。出土土器のうち実測したもの第144図から第151図に示した。図示した総数は177点であった。

個々の土器の出土位置、種別・器種、法量、形態、技法、色調、胎土、焼成などについては第73表～第81表の平安時代土器観察表で記述した。従って、本節においては、土器の器種ごとに、その系譜・年代観・分布等の全体的傾向を概観してみたい。

(a) 須恵器 (第149図)

小型の貯蔵形態がみられる。古代の集落・官衙遺跡等から多く出土する壺類などの一般的な供膳形態は認められない。これはきわめて特異な出土事例であるが、わずか3点のみであることから出土事例の提示に止める。3点ともに包含層から出土した(註1)。

- ・小型壺(36) 球胴を呈し、頸部が細い形態の小型壺。
- ・コップ形須恵器(37) 口縁部先端が短く立ち上がり、蓋受け状となる。焼成胎土とともに良質である。井上尚明氏のいうコップ形(井上 1994)は単純口縁であるが、形態と、法量が類似することから、この器種とした。
- ・須恵器花瓶(38) 従来壺G類と称されたこの長頸壺について、筆者は、供養具の花瓶として使用された仏器(佐野 1998)という見解を提示した。他には、東国に派遣された兵士が携帯した水筒という山中章氏の説(山中 1997)堅魚煮汁容器という巽淳一郎氏の説(巽 1991)が発表されているが、須恵器のなかでも機能・用途をめぐって議論の多い器種である。
- ・コップ形と花瓶は奈良時代から平安時代前半期の東日本の官衙遺跡に多く分布する傾向のある器種である。小型壺は奈良時代の大規模な官衙・集落遺跡からの出土が多い。

(b) 土師器

土師器は最も多く出土し、かつ器種組成も多様である。機能別に概観すると、供膳形態の11世紀代の碗・皿・鉢が大半で、わずかに10世紀代の壺が伴う。煮沸形態では、10世紀から11世紀の清郷甕が多く認められ、ついで甲斐型の鉢、甕と羽釜が少量出土する。

本遺跡の土師器は、10世紀末まで存続する在来系譜の律令的な壺・皿・長胴甕が、出土量も少なく、極端に貧弱であるのに対し、それ以降11世紀の灰釉陶器模倣の高台付き碗・無台碗・高台付き皿・球洞を呈する清郷甕が出土の大半を占めていることが大きな特徴としてあげられる。土師器の記述の前に、器種組成を下記のように整理した。

- I・供膳形態 1、壺①駿東型壺 第150図-21・22の2点。
②甲斐型壺 第150図-23の1点。
- 2、碗①高台付き碗(灰釉陶器の模倣)
②無高台碗
- 3、鉢①甲斐型鉢 第147図-14・15の2点。

②小型鉢 第148図-4の1点。

II・煮沸形態 1、甕①甲妻型甕 第146図-5、第151図-2の2点。

②清郷型甕

③小型甕 第146図-4の1点。

2、羽釜 第147図-13、第151図-4の2点

III・貯蔵形態 小型甕 第145図-19の1点。

このような順に、土器器の器種ごとに、特徴・年代・分布等を概観する。

I・供膳形態

1 环

①駿東型环 第147図-10、第150図-21・22の3点を図示した。21は体部側面に墨書きがみられる。

8世紀後半から10世紀にかけて、古代駿河国の中東部、富士川から田方平野にかけて分布するロクロ・ヘラ磨き調整の环である。3点ともに駿東型环の終末期（10世紀末）のもので、21は体部最下位に横位ヘラ削りが認められる。

②甲妻型环 第150図-23が1点のみ出土する。この甲妻型环は、8～10世紀代に甲妻を中心とし、信濃・駿河から関東平野にまで広域に分布する。比較的薄く仕上げ、体部内暗文、内外磨き、ロクロ調整を施す。図示したものは、駿東型环と同時期の10世紀末と思われる。体部下半に斜位のヘラ削り調整を施す。

2 碗

①高台付き碗（灰釉陶器の模倣形態） 供膳形態土器類の半数程度がこの器種である。灰釉陶器H-72号窯式の、高い高台の深碗形態の模倣であり、第144図-3・14、第146図-12、第147図-8・9等がその典型である。焼成・色調が異なること以外には、形態・手法等灰釉陶器との差異はほとんどない。時期は、11世紀代に比定される。これらは各地の律令的な土器形態としての环・皿が消滅した後に出現しており、分布も広範囲にわたる。

②無高台碗 ロクロ調整で、底部回転糸切り未調整の無高台碗である。体部調整としては、回転によるナデのみである。律令的な环類は、金属器の模倣に粗形をもつことから、暗文・磨き手法が特徴であるのに対し、これらはそれ以降の段階に属し調整も簡素なナデ手法による。図示したものはこの形態が最も多く。全体の形態が判明するものとしては、見込み部に焼成前のヘラ書きがある第144図-9や同図の10・18・11、第145図-8・14・15、第146図-10・13・14・19、第147図-1・2・10、第148図-5、第150図-12・13・14・16・19など多くの例があげられる。

これらは調整手法には変化はみられないものの、口径が大きく器高の高い碗形態と、比較的小さく扁平な小皿状のものまでが認められる。扁平小型のものが後出と思われるが、周辺では清水市蘆崎遺跡の例（佐野 1992）がある程度で類例に乏しい。

3 鉢

①甲妻型鉢 甲妻型土器の一群に含まれる鉢で、第146図-5と第147図-14・15の3点が出土している。体部が大きく開き、口縁部は肥厚するものと、「く」の字に屈曲するものがある。調整は外面縁ハケ、内面横ハケにより調整される。分布は狭く、甲斐国と駿河国東部（静岡県東部）にわずかに出土する。時期は、环類と並行する。分布の中心の甲妻では、7期（9世紀前半）から13期（11世紀前半）に年代観があてられている（保坂 1992）。第147図-14は、口縁部が肥厚する形態で、鉢の中でも後半期の様相をもつことから、10世紀後半と推定される。

②小型鉢 口縁部が端部で水平となり体部が大きく開くことから鉢と考えた。第148図-4に図示した。1点のみ、SB-21から出土した。

II・煮沸形態

1 瓢

①甲型型甕 「く」の字状に屈曲する口縁部をもつ長制甕で、全体にハケ調整が施され、その方向は外面は縦、内面は横である。時期は甲型型甕と並行するが、分布は甲斐国と駿河国中東部（静岡県中東部地域）である。第151図-2の1点のみ出土する。年代は、甕と同じ10世紀であろう。

②清郷型甕 本遺跡での煮沸形態の土器の主体となる球胴丸底の甕である。永井宏幸氏は口縁部の形状・調整手法から7つに分類（永井 1996）している（註2）。

本遺跡では、永井氏により7分類された甕C（清郷型甕）のうち、3・4・5・6・7の各形態が認められるが、長方形の断面を呈し「く」の字に屈曲する1と2の形態は出土していない。以下、その各形態ごとに説明してゆく。今回の調査で得られた資料は、すべて口縁部とその周辺の破片であることから、分類は口縁部の形態と手法を基準とした。

C 3類 やや薄く短い口縁部で、端部が水平方向か斜め方向のナデによる面取りがされる。第146図-1・2、第148図-7・10・11、第150図-30・31・33、第151図-1がこの形態に分類される。

C 4類 肥厚する口縁部で、断面が三角形を呈する。口縁下内面に強い稜線をもつ。第146図-15・21、第148図-8・15・16、第150図-27・28・29・32がこの形態に分類される。

C 5類 口縁の外傾する面に強いナデ調整を施す。このために断面が「N」字状を呈するものが多い。第145図-2・3・4・9がこの分類に該当する。

C 6類 口縁部が水平面をもち断面は「L」字状を呈する。第146図-3がこの分類に属する。

C 7類 口縁部の外側への張り出しが弱いC 6類の退化形態。第148図-1。

清郷型甕の編年について、筆者はかつて上限を10世紀、下限を山茶碗出現期の12世紀と考えた（佐野 1990）。その後の資料の増加と研究の進展のなかで、先述の永井氏の編年観が示された。それによると、C 3類は10世紀前半、C 4類とC 5類が10世紀後半、C 6類は11世紀前半に位置付けられている。

2 羽釜

甲型型の土器群とおなじ胎土・色調・ハケによる体部調整手法をもつ羽釜が静岡県の富士川下流域と田方平野にわずかにみられる。分布の中心となる甲型では、出現は甲斐編年の11期、消滅は15期とされている（森原 1992）。西暦年代では900年前後から12世紀前半に比定される。本遺跡からは口縁部2点（第147図-13・第151図-4）が出土し、この2点の時期は灰釉陶器の年代からみて10世紀と推定される。

III・貯蔵形態

本遺跡の貯蔵形態の土器は極端に少ない。当地域の律令期、O-53号窯期（10世紀）までは、駿東型甕と云われる球胴・平底の甕が甕とセット関係で共伴するのが一般的である。しかし、本遺跡からは図示した第146図-4の在米系譜の小型甕と、第145図-19のミニチュア甕のみである。貯蔵形態の土器の貧弱さは大きな特徴といえる。

（3）灰釉陶器

灰釉陶器は土器について出土量が多い土器である。しかしその器種組成は、高台碗と皿、瓶・壺類

と単純な構成である。なかでも碗が圧倒的に多く、主体を占めている。本遺跡の灰釉陶器は、10世紀から11世紀と連続し、かつ出土量も時期的な変化は少く、安定した供給の体制が類推される。以下に、碗と皿・瓶・壺類の順にその概略を記す。

碗・皿

碗は、編年からみて、およそK-90号窯期の新しい段階、三日月高台の退化した形態から、O-53号窯期の三角形高台、H-72号窯期の高い「八」の字に開く高台の深碗形態と、終末の百代寺窯期までの製品が供給されている。静岡県中・東部地域は、平安時代において土師器の使用が圧倒的に多く、灰釉陶器はわずかに供給されているにすぎない。その灰釉陶器の産地は尾張・三河地域が優位で、東遠江の大須賀町清ヶ谷窯や島田市旗指窯などの製品はごく少ない傾向にある。これは静岡県内の東遠江窯は、青灰色で須恵器に類似した色調を呈すること、高台が低く三角形であることの2点から肉眼観察した結果である。この点から本遺跡の灰釉陶器を観察すると東遠江窯の特徴を持つのが、第145図-12、第146図-9・20、第148図-12の4点のみであった。灰釉陶器の碗については、全体の形状が判明するものと、高台及び口縁部などが特徴的なものを抽出し、時期別に記述をすめる。

K-90窯期

全体が判明するものでは三日月高台に丸味もつ体部の第149図-1と、高台の形状からは第144図-22が該当する。その退化形態としては、第144図-23、第145図-6が認められる。この時期の灰釉陶器は極めて少量である。この時期は、K-90窯期でも新しい段階と思われることから、10世紀に入る時期に置きたい。この時期と思われる皿は確認されていない。

O-53窯期

前段階よりやや小型、三角形の高台に、やや直線的に開く体部を呈する。第144図-1・21、第148図-7、第149図-2・3・4・5・7がこの時期に位置付けられる。皿は、扁平な第149図-11・12と同図-6のように器高の低い碗状のものも認められる。本遺跡の灰釉陶器の出土量は、この時期と次のH-72窯期が主体を占める。

時期は、10世紀の中葉から後半と考えられるが、古代駿河国東部（静岡県東部地域・富士川以東）では、O-53窯期で流通が止まるような様相があり、これ以降の灰釉陶器の出土は確認されていない。

H-72窯期

「八」の字に開く高い高台と、やや大型の深碗形態が特徴となっている段階である。全体が判明する例として第146図-6・20、第147図-11・12があり、体部深碗形態の典型として、第145図-10、第146図-6、第149図-8・9がある。これらの碗に伴う皿は明確には確認できない。

この時期は、およそ11世紀代に位置付けられる。この段階の灰釉陶器は前段階とともに、本遺跡の灰釉陶器の主体を占めている。

百代寺窯期

小型化がすすみ、器高が低く、高台が退化して貧弱となる。第148図-2・13・18がこれら的一群に該当する。皿では第146図-9と第149図-13がみられる。全体的な出土量からすれば、かなり減少する。前段階のH-72窯期とともに、周辺には出土例がなく、今後の検討を要する。なお、第148図-2の碗には、四輪花が施されている。

瓶・壺

わずかに破片を5点図示したのみで、突起のある壺胴部2点（第144図-2、第149図-33）と、瓶または壺の口縁部2点（第145図-7、第149図-32）、底部1点（第149図-35）が出土する。第149図-31は、底径が10.6cmと碗より大きく、高台付きの鉢ではないかと推定した。

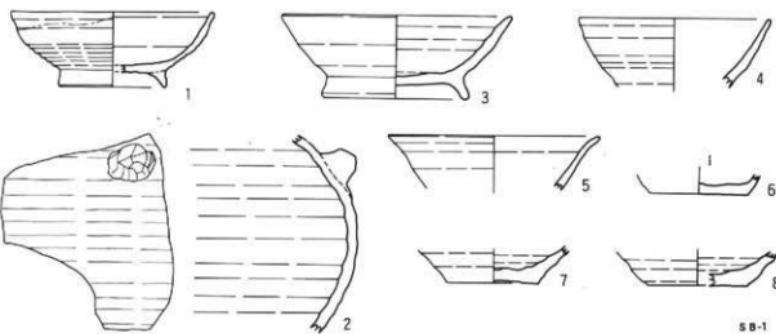
以上、奈良～平安時代の土器を概観した。このなかで形態・手法・時期等について触ってきたが、本節のまとめとして、第152図に器種ごとのおおまかな変遷を示してみた。

(註1) 本遺跡の調査期間と平行して富士川町教育委員会により、破魔射場遺跡の調査が行なわれた。この結果、豎穴住居跡5軒と集石土坑等を検出し、8世紀後葉から9世紀初頭の上部器・須恵器を出土した(石川1999)。この地点と本遺跡の調査区は破魔射場の丘陵を挟んで、直線で約200mを割る。今回出土の須恵器は、町教委調査出土の須恵器と同一時期であり、本遺跡の須恵器の特異性もこの集落との関連性を考慮すべきであろう。

(註2) 永井氏は、これを甕でなく鍋としてとらえ、10世紀が甕から鍋への大きな変化の画期になるとしている。甕か鋗かの検討は今回の記述の目的ではないので、この報告ではとりあえず從来からいわれてきた甕という呼称をもちいる。

参考文献

- 石川武男 1999 「破魔射場遺跡」富士川築堤建設工事に伴う発掘調査報告書 静岡県富士川町教育委員会
井上尚明 1994 「コップ形須恵器の考察 奈良時代の計量器についてー」『考古学雑誌』第79巻4号
佐野五十三 1998 「須恵器花瓶の成立ー仏の手から倭姫の世界へー」『静岡県考古学研究』No.30 30周年記念号 静岡県考古学会
佐野五十三 1992 「第2節ー・十師器の編年」『静岡県史 資料編3 考古学』 静岡県
佐野五十三 1990 「清瀬窯跡の研究 煙拂形態からみた古代末の東海地方ー」『研究紀要山』 姨静岡県埋蔵文化財調査研究所
異淳一郎 1991 「都の焼物の特質とその変容」『新版古代の日本』6近畿II 角川書店
水井宏幸 1996 「尾張平野を中心とした古代煮沸只の変遷」『鍋と甕そのデザイン! 第1回東海考古学フォーラム
保坂和博 1992 「甲斐型壺鉢」「甲斐型土器ーその編年と年代ー」甲斐型土器研究グループ第1回研究集会資料 山梨県考古学協会
森原明廣 1982 「羽釜」「甲斐型土器 その編年と年代ー」甲斐型土器研究グループ第1回研究集会資料 山梨県考古学協会
山中章 1997 「桓武朝の新流通構造—Gの生産と流通」『古代文化』49巻11号 姪古代学協会



SB-1

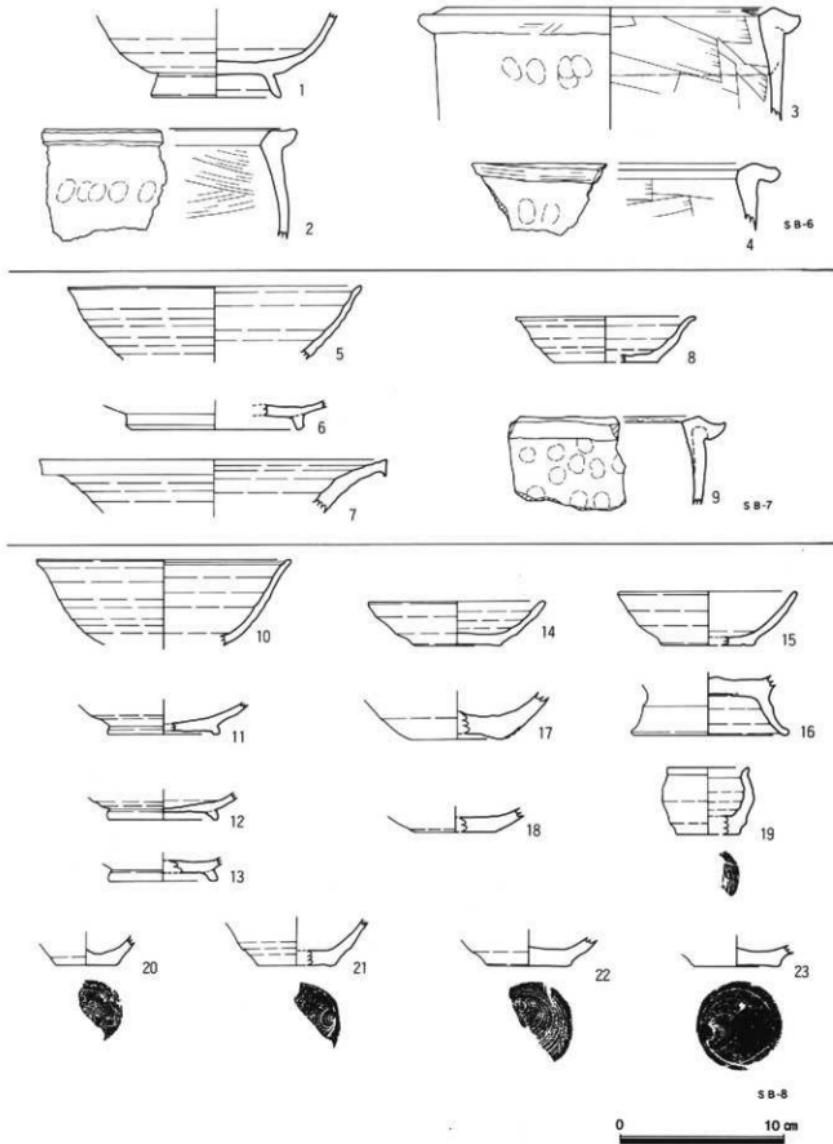
SB-2

SB-3

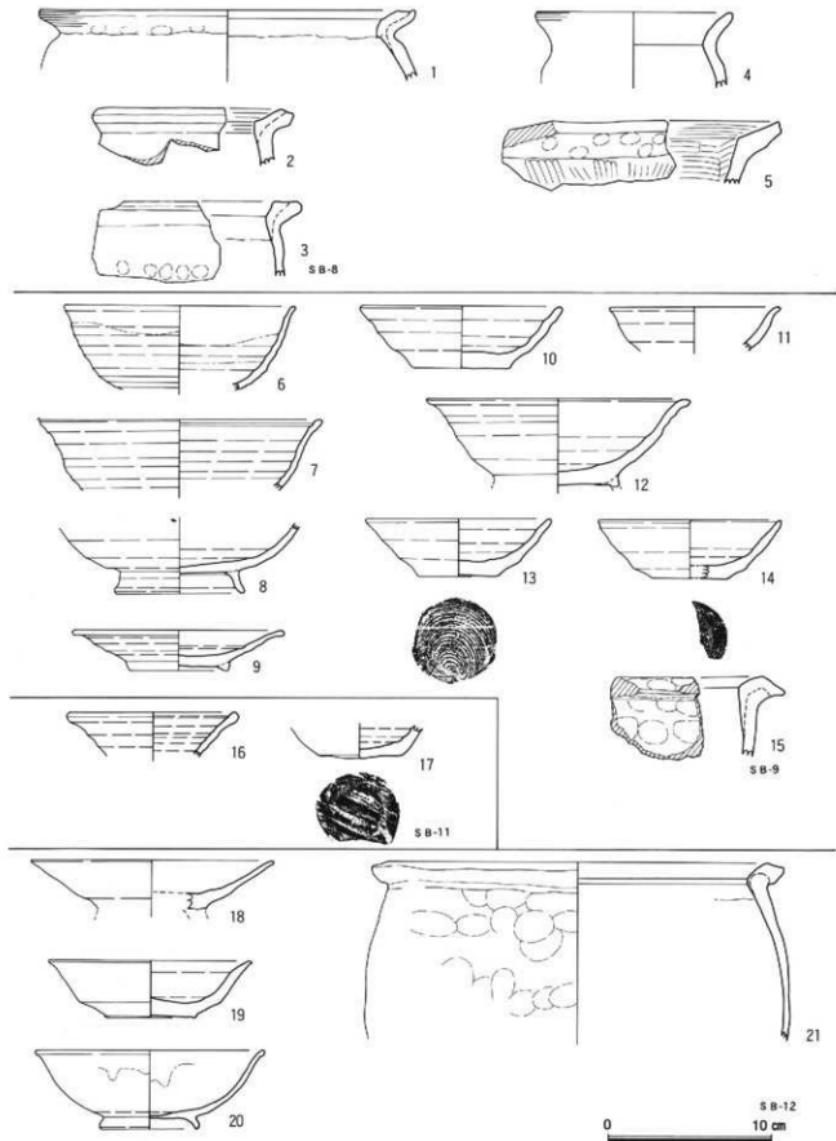
SB-4

0 10 cm

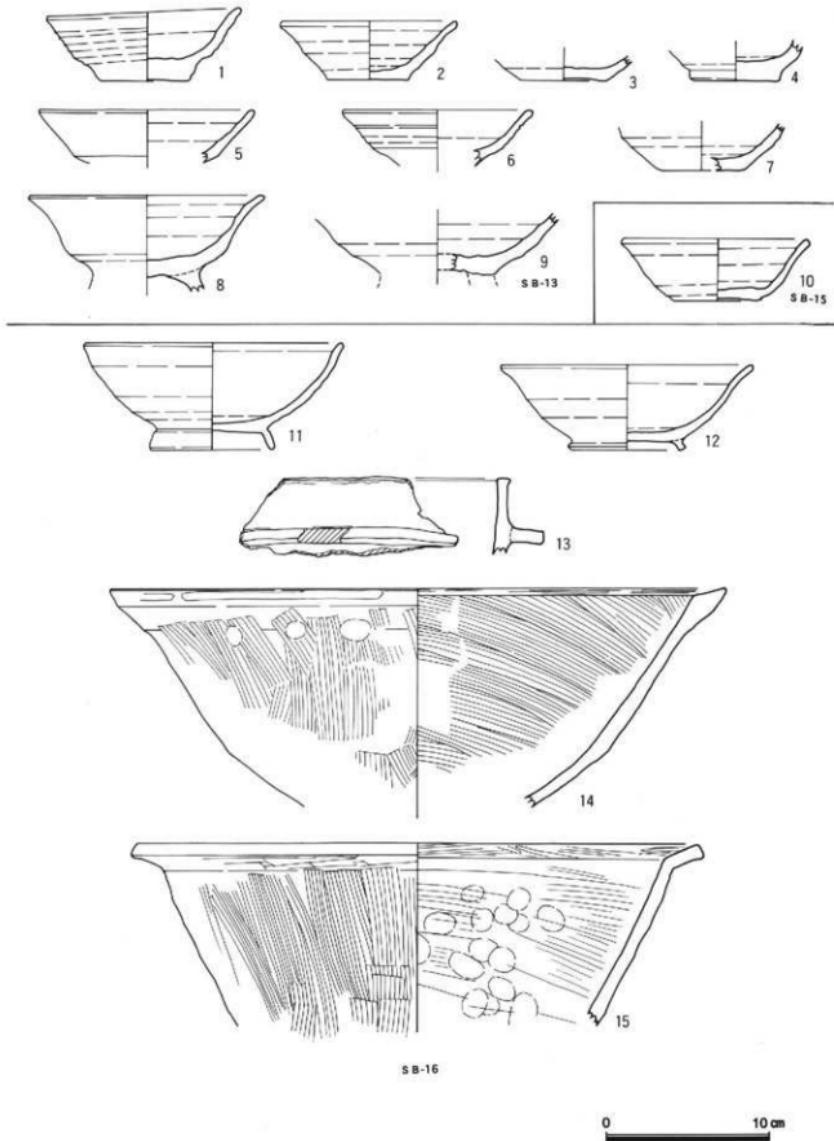
第144図 平安時代SB-1～SB-4出土遺物



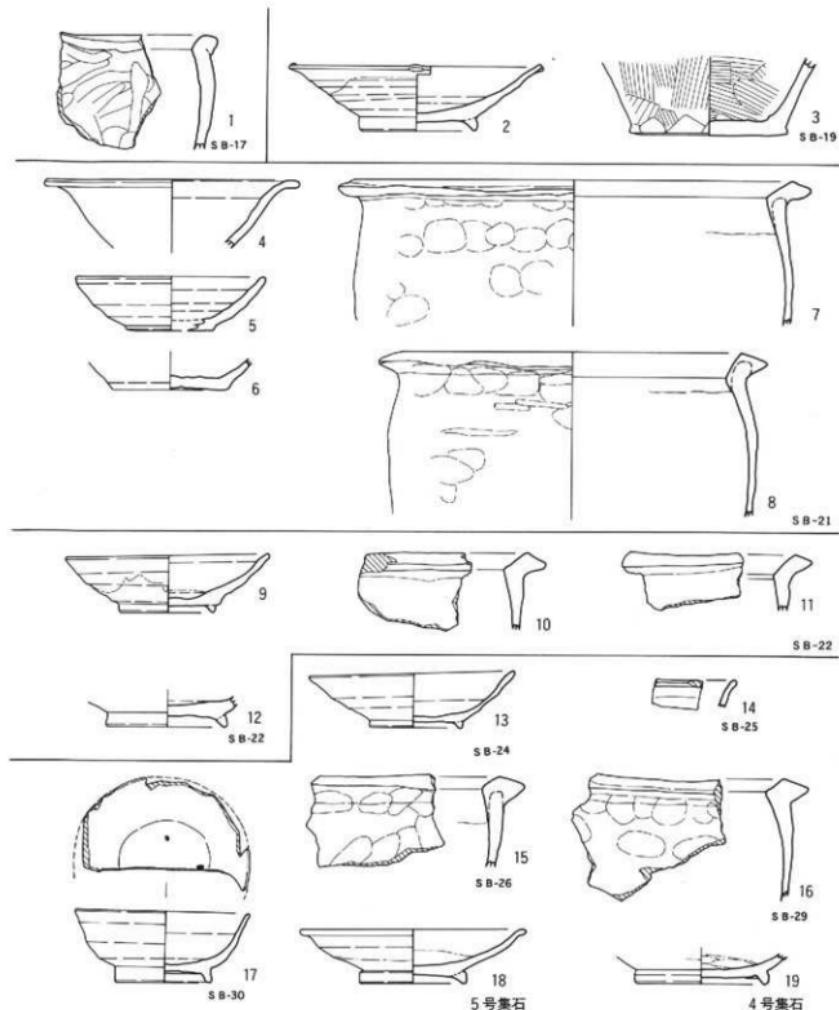
第145図 SB-6～SB-8 出土遺物



第146図 SB-8～SB-12出土遺物

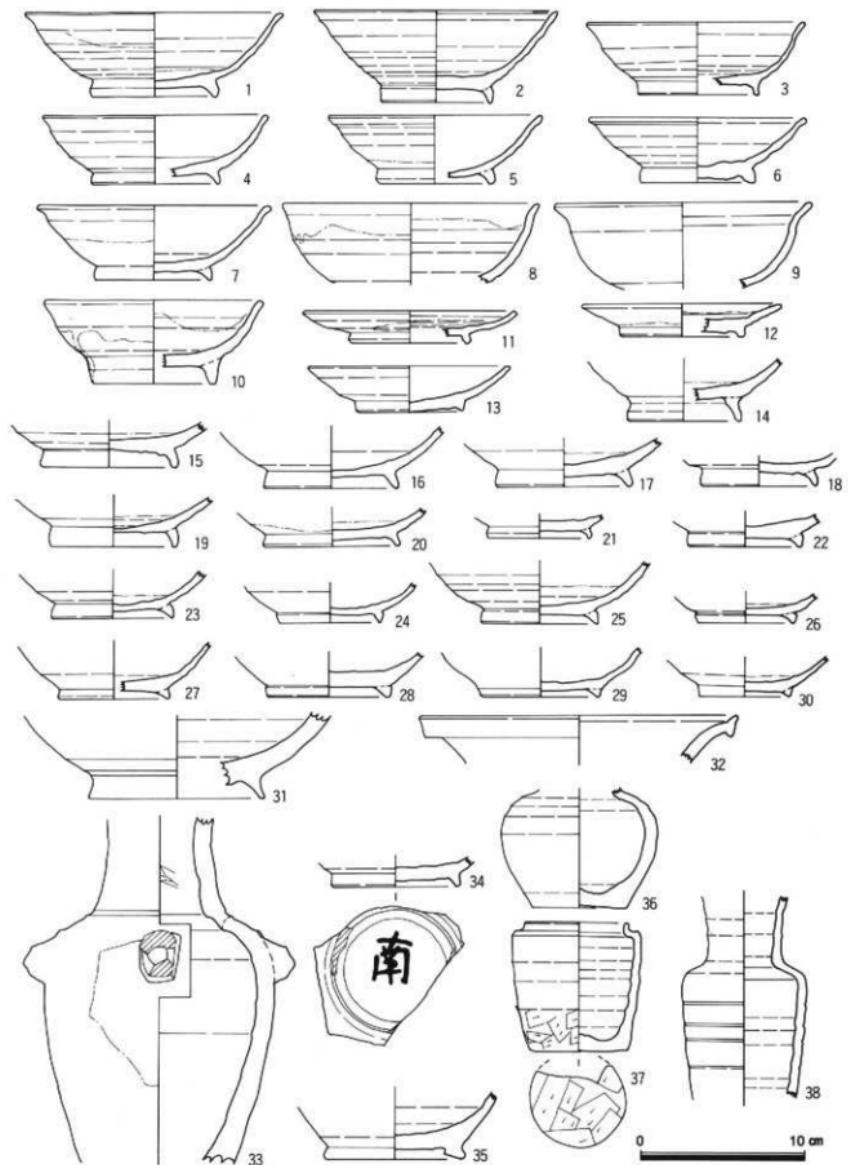


第147図 SB-13～SB-16出土遺物

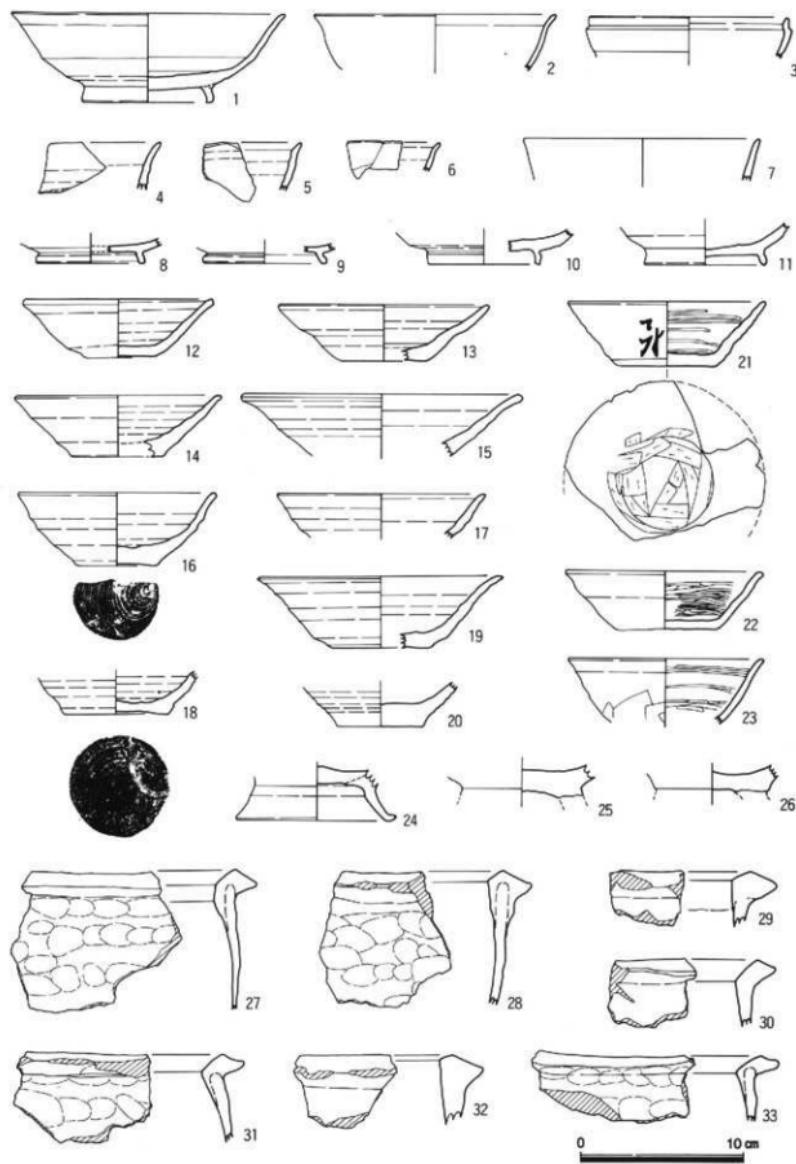


0 10 cm

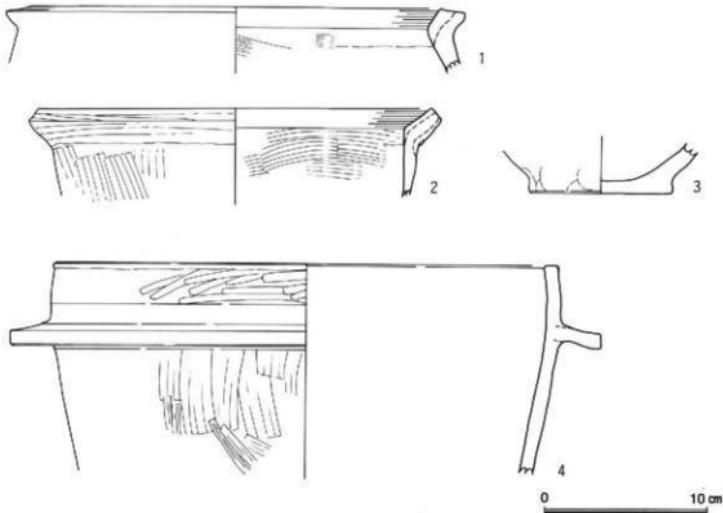
第148図 SB-17～SB-30出土遺物



第149図 包含層出土遺物（1）



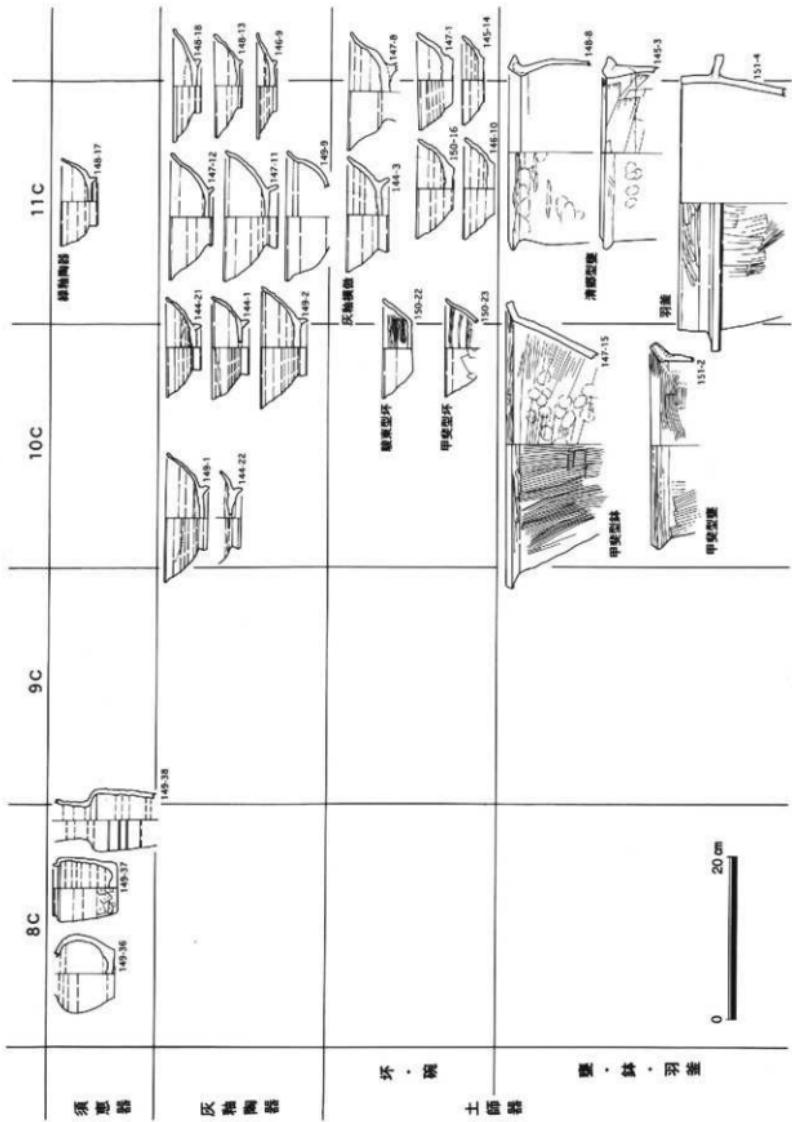
第150図 包含層出土遺物（2）



第151図 包含層出土遺物（3）

表73 平安時代SB-1～SB-2出土遺物観察表

番号	調査区 遺構	種別 遺構 残存	口徑 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 焼成	備考
144-1	B-1 SB-1	灰釉陶器 碗 1/4残存	(12.2) 6.4 4.6	クロロ成型。体部はゆるやかに内 曲しながら立ち上がり口縁部はや や外反し丸くおさめる。	底部は三角高台。回転糸切りの ちにナデ。内面に自然釉膜状。 やきぶくれアリ。	2.5Y7/1灰白色 密 灰石含む 良好	
144-2	B-1 SB-1	灰釉陶器 壺	— —	クロロ成型。	外面部施釉。網毛塗り。釉は暗褐 色に紫色。	10YR7/1灰白色 長石、黒色砂粒含む 良好	
144-3	B-1 SB-1	土器部 高台付柄 口縁部	(13.8) 8.5 5.1	クロロ成型。体部は直線的にのび る。底部はハーフスに開く。	底部は、磨耗のため不明。貼付 高台は回転ナデ調整。	7.5YR8/6淡黄褐色 砂粒、黑色粒子含む 良好	
144-4	B-1 SB-1	土器部 柄 口縁部	11.6 — 4.2	クロロ成型。体部は直線的に立ち 上がり、口縁部はやや外反する。	回転ナデ調整。	7.5YR4/8淡黄褐色 白色粒子含む 良好	
144-5	B-1 SB-1	土器部 柄 口縁部	(12.8) — —	クロロ成型。体部は直線的に立ち 上がり、口縁部はやや外反する。	回転ナデ調整。	7.5YR8/6淡黄褐色 密 砂粒含む 良好	
144-6	B-1 SB-1	土器部 柄 底部	— 6.0 —	クロロ成型。	底部糸切り無調整。回転ナデ調 整。	7.5YR8/4淡黄褐色 密 白色、黑色粒子含む 良	
144-7	B-1 SB-1	土器部 柄 底部	(5.6) — —	クロロ成型。	底部糸切り無調整。回転ナデ調 整。	7.5YR8/4淡黄褐色 密 砂粒含む 良好	
144-8	B-1 SB-1	土器部 柄 底部	(6.0) — —	クロロ成型。	底部糸切り無調整。回転ナデ調 整。	5YR4/8淡黄褐色 密 罫目、砂粒含む 良好	
144-9	B-1 SB-2	土器部 柄 完形	(13.6) 6.2 5.5	刻割土器。「内面底部に天春之」。 クロロ成型。体部は凸曲しながら 口縁部は外反する。	底部糸切り無調整。回転ナデ調 整。	7.5YR8/4淡黄褐色 密 砂粒含む 良好	



第152図 平安時代土器実測図

表74 SB-2～SB-7出土遺物観察表

番号	剖面 遺物	剖面 基盤 形状	断面 厚度 基盤	形態の特徴	技法の特徴	色調 触 感	備考
144-10	B-1 SB-2	土器部 柄 口縁部/口次相	14.4 6.75 5.95	ロクロ成形。体部は緩やかに立ち上がる。	断面ヘラ無調整。回転ナガ削製。	10YR8/3浅黄褐色 滑 滑食む 良好	
144-11	B-1 SB-2	土器部 小柄 底部	12.3 6.0 3.6	ロクロ成形。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	底部系切り無調整。回転ナガ削製。	10YR8/4浅黄褐色 滑 沙粒含む 良好	
144-12	B-1 SB-2	土器部 柄 口縁部	(14.8)	ロクロ成形。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	回転ナガ削製。	7.5YR8/4浅黄褐色 滑 沙粒含む 良好	
144-13	B-1 SB-2	土器部 柄 底部	- - -	ロクロ成形。	底部筋付。回転ナガ削製。	7.5YR8/4浅黄褐色 滑 滑食む 良好	
144-14	B-1 SB-2	土器部 高台付 底部	7.1	ロクロ成形。底部はハの字に開く。	回転ナガ削製。	10YR7/4C-5H-3黄褐色 滑 滑食む 良好	
144-15	B-1 SB-2	土器部 高台付 底部	7.5 - -	ロクロ成形。底部はハの字に開く。	回転ナガ削製。	10YR7/4C-5H-3黄褐色 滑 滑食む 良好	
144-16	B-1 SB-2	土器部 高台付 底部	(7.1)	ロクロ成形。底部はハの字に開く。	回転ナガ削製。	10YR8/3浅黄褐色 滑 滑食む 良好	
144-17	B-1 SB-2	底脚部 柄 口縁部	(14.2)	ロクロ成形。口縁部は外反する。	つま付け。回転ナガ削製。	7.5YR7/1灰白色 滑 灰石含む 良好	
144-18	B-1 SB-3	土器部 小柄 1/3底部	(11.8) 6.2 3.25	ロクロ成形。緩やかに立ち上がり口縁部は外反する。	底部系切り無調整。回転ナガ削製。	10YR8/3浅黄褐色 滑 滑食む 沙粒含む 良好	
144-19	B-1 SB-3	土器部 柄 口縁部	(14.4)	ロクロ成形。体部は直線的に立ち上がる。	回転ナガ削製。	54YR7/3C-5H-3褐色 滑 雪母 沙粒含む 良好	
144-20	B-1 SB-3	土器部 柄 高台	- - 8.2	ロクロ成形。底部は高く、ハの字に開く。	余切り無調整。回転ナガ削製。	7.5YR8/4浅黄褐色 滑 沙粒含む 良好	
144-21	B-1 SB-3	底脚部 柄 1/3底部	(12.0) (4.9) (4.2)	ロクロ成形。口縁部は外反する。 底部は三脚形。	回転ナガ削製。底部余切り無調整。 滑ね焼き痕アリ。	N7灰白色 滑 長石含む 良好	
144-22	B-1 SB-3	底脚部 柄 底部	- (7.1)	ロクロ成形。つけ跡。底部は二日月台を呈する。	回転ナガ削製。滑ね焼き痕アリ。	滑 良好。砂粒含む 良好	
144-23	B-1 SB-4	底脚部 柄 底部	- (6.2)	ロクロ成形。高台は低く、二角高台を呈する。	回転ヘラケリ無調整。回転ナガ削製。	10YR8/8白色 滑 長石含む 良好	
144-24	B-1 SB-4	土器部 柄 底部	- - 5.1	ロクロ成形。	余切り無調整。回転ナガ削製。	7.5YR8/4C-5H-3黄褐色 滑 沙粒含む 良好	
145-1	B-1 SB-6	底脚部 柄 底部	- - 7.8	ロクロ成形。底部は奥部はハの字に開く高い高台である。	底部系切り無調整。回転ナガ削製。	2.5Y7/1灰白色 滑 長石 沙粒含む 良好	
145-2	B-1 SB-6	土器部 柄 口縁部	- - -	滑擦痕。口縁部は厚壁で、2面取り、底部は斜め上方に引出さる。	体部表面は所面研磨。体部内面は板ナガ。口縁部回転ナガ削製。	7.5YR8/3C-5H-3褐色 滑 長石 沙粒含む 良好	
145-3	B-1 SB-6	土器部 柄 口縁部	- - 21	滑擦痕。口縁部はくの字に斜め上方に引出さる、底部は斜め上方に引出さる。	体部外側は滑擦痕。体部内面は板ナガ。口縁部は当板子ナガ削製。	7.5YR6/3C-5H-3褐色 滑 白色 沙粒含む 良好	
145-4	B-1 SB-6	土器部 柄 口縁部	- - -	滑擦痕。口縁部は緩やかに立ち上がりながら右曲し、底部はやや外反する。	体部外側は滑擦痕。体部内面は板ナガ。口縁部は当板子ナガ削製。	7.5YR5/3C-5H-3褐色 滑 雪母 沙粒含む 良好	
145-5	B-1 SB-7	底脚部 柄 口縁部	(9.7) - -	ロクロ成形。口縁部は緩やかに立ち上がり、底部はやや外反する。	回転ナガ削製。	N7灰白色 滑 長石 沙粒含む 良好	
145-6	B-1 SB-7	底脚部 柄 底部	(10.0) -	ロクロ成形。底部は低く、二角高台を呈する。	底部は余切りのうちにナガ削製。回転ナガ削製。滑ね焼き痕アリ。	N7灰白色 滑 長石 沙粒含む 良好	

表75 SB-7～SB-8出土遺物觀察表

番号	調査区 遺物	種別 部類 残存	上位 底群 部	形態の特徴	検査の特徴	色調 底上 斑成	備考
145-7	B-1 SB-7	灰釉陶 瓶 口縁部	(21.1)	ロクロ成形。口縁部は断面三角形 状に引き出す。	回転ナメ調整。	N7/灰白色 底 灰石、砂粒含む 良好	
145-8	B-1 SB-7	土師器 小皿 1/2残存	(10.8) (6.4) 4.8	ロクロ成形。	底部未切り無調製。回転ナメ調 整。	7.5YR7/4C.5C.5C 青 灰白色子含む 良好	
145-9	B-1 SB-7	土師器 壺 口縁部	-	底脚堅厚。口縁部はくの字に凸出 し、瓶底は短く引き出し、ねじ上 げる。	体部外腹は削ぎ仕上げ。体部内面 は板ナメ。	SYR6/4C.5C.5C 青 灰白色子含む 良好	
145-10	B-1 SB-8	灰釉陶 瓶 口縁部	-	ロクロ成形。体部は瓶身しながら 立ち上がる。口縁部内面に1条の 沈線が走る。	回転ナメ調整。	2.5Y7/灰白色 青 長4合せ 良好	
145-11	B-1 SB-8	灰釉陶 壺 底部	(6.7)	ロクロ成形。高台はつぶれて低い。	回転ナメ調整。	SYR7/灰白色 青 灰石含む 良好	
145-12	B-1 SB-8	灰釉陶 壺 底部	(6.6) -	ロクロ成形。底部は三角高台を呈 する。	回転ナメ調整。内面無釉。	2.5Y7/灰白色 青 灰石含む 良好	
145-13	B-1 SB-8	灰釉陶 壺 底部	(6.6) -	ロクロ成形。底部はつぶれて低い。	回転ナメ調整。	2.5Y8/灰白色 青 長4合せ 良好	
145-14	B-1 SB-8	土師器 皿 1/5残存	(10.6) 5.2 2.75	ロクロ成形。体部は底部から外反 しながら立ち上がり直線的にのが る。	底脚未切り無調製。回転ナメ調 整。	10YR7/4C.5C.5C 青 黄褐色子含む 良好	
145-15	B-1 SB-8	土師器 壺 1/2残存	(10.7) (5.5) (3.25)	ロクロ成形。体部は緩やかに立ち 上がる。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	10YR7/4C.5C.5C 青 白色子含む 良好	
145-16	B-1 SB-8	土師器 壺 底部	(9.1)	高台部はハの字に開き、外反する。 底部のみ切り無調製。	底部のみ切り無調製。回転ナメ調 整。	10YR8/4C.5C.5C 青 砂粒含む 良好	
145-17	B-1 SB-8	土師器 壺 底部	(5.6) -	内黒土器。	貼付高台がつく。内面はハの 字にナメ。回転ナメ調整。	内面 10YR4/1C.5C.5C 外腹 灰褐色子含 む 灰石含む 良好	
145-18	B-1 SB-8	土師器 壺 底部	(4.9)	内黒土器。内面は黒褐色。	貼付高台がつく。回転ナメ調整。	内面 10YR2/1C.5C.5C 外腹 7.5YR7/4C.5C.5C 青 黄褐色子含む 良好	
145-19	B-1 SB-8	土師器 壺 1/3残存	(4.0) (3.6) 4.1	ロクロ成形。体部は膨らみながら 口縁部はやや外反する。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	7.5YR7/4C.5C.5C 青 売褐色子含む 良好	
145-20	B-1 SB-8	土師器 小皿 底部	3.8	ロクロ成形。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	7.5YR7/4C.5C.5C 青 砂粒含む 良好	
145-21	B-1 SB-8	土師器 小皿 底部	4.6	ロクロ成形。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	10YR7/3/4C.5C.5C 青 黄褐色子含 む 砂粒含む 良好	
145-22	B-1 SB-8	土師器 小皿 底部	-	ロクロ成形。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	7.5YR7/4C.5C.5C 青 灰色、砂粒含む 良好	
145-23	B-1 SB-8	土師器 小皿 底部	5.2	ロクロ成形。	底脚削除未切り無調製。回転ナ メ調整。	7.5YR6/6C.5C.5C 青 灰褐色子含 む 砂粒含む 良好	
146-1	B-1 SB-8	土師器 壺 口縁部	(23.0) -	透視型窓。口縁部はくの字に削出 し、瓶底は短く引き出し、ねじ上 げる。	外側削除直後。内面板ナメ。	SYR6/6C.5C.5C 青 黄褐色、砂粒含む 良好	
146-2	B-1 SB-8	土師器 壺 口縁部	-	透視型窓。口縁部はくの字に削出 し、瓶底は短く引き出し、ねじ上 げる。	ナメ調整。	7.5YR5/3C.5C.5C 青 灰褐色子含 む 砂粒含 良好	
146-3	B-1 SB-8	土師器 壺 口縁部	-	透視型窓。口縁部はくの字に削出 し、瓶底は短く引き出し、ねじ上 げる。	外側削除直後。内面板ナメ。	7.5YR6/6C.5C.5C 青 黄褐色子含 む 砂粒含 良好	
146-4	B-1 SB-8	土師器 小皿	(12.0)	口縁部はハの字に開く。	内外面ともハケ調製のあと、ナ メ調整。	7.5YR7/4C.5C.5C 青 砂粒、灰4合せ 良好	

表76 SB-8～SB-13出土遺物観察表

番号	調査区分 遺構	種別 器物 部品	寸径 直径 器高	形態の特徴	技法の特徴	色調 基土 焼成	備考
146-5	B-1 SB-8	土器底 鉢底 口縁部	-	半壺形。口縁部は肥厚しながら斜め上方に開く。	体部外周に複数のハケ彫刻。内面全面に横筋のハケ彫刻。	5YR5/4に近い赤褐色 青 黄石、砂粒含む 良好	
146-6	B-1 SB-9	灰釉陶 鉢 口縁部	(14.1)	ロクロ成形。体部は両面しながら立ち上がり口縁部はやや外反する。	回転ナガ彫刻。つけ掛け。	7.5YR7/1灰白色 青 灰白含む 良好	
146-7	B-1 SB-9	灰釉陶 鉢 口縁部	(17.2)	ロクロ成形。口縁部はやや外反し、内面には1条の沈織がある。	回転ナガ彫刻。	5Y7/1灰白色 青 灰白含む 良好	
146-8	B-1 SB-9	灰釉陶 鉢 底部	(7.8)	ロクロ成形。体部はハコ字に開き、やや外反する。	回転ナガ彫刻。底部余切りのあとナガ彫刻。	5Y7/1灰白色 青 黄石、砂粒含む 良好	
146-9	B-1 SB-9	灰釉陶 鉢 底部	6.0 2.4	ロクロ成形。口縁部は外反し、底部は△角高台内面に凹溝が1条ある。	回転ナガ彫刻。底部余切り無調査。	5Y5/8R4に近い黄褐色 青 黄石、砂粒含む 良好	
146-10	B-1 SH-9	上縁部 鉢 1/3既存	(11.9) 5.8 3.8	ロクロ成形。底面から外反しながら立ち上がり口縁部に鋸歯的のがわる。	底面凹軸余切りのあとナガ彫刻。	7.5YR6/4に近い赤褐色 青 黄石、砂粒含む 良好	
146-11	B-1 SB-9	土器底 鉢 口縁部	(10.4)	ロクロ成形。口縁部は外反する。	回転ナガ彫刻。	7.5YR7/4に近い褐 青 灰白、砂粒含む 良好	
146-12	B-1 SB-9	土器底 高台付 口縁部～体部	15.7	ロクロ成形体部は両面しながら立ち上がり口縁部は外反する。高台部は欠損。	回転ナガ彫刻。	10YR7/4に近い黄褐色 青 砂粒、雲母含む 良好	
146-13	B-1 SB-9	土器底 1/2既存	11.3 4.8 3.55	ロクロ成形。体部は外反しながら立ち上がり縫合部からひびき。口縁部は欠損する。	底面余切り無調査。回転ナガ彫刻。	10YR8/3 青 砂粒、雲母含む 良好	
146-14	B-1 SB-9	上縁部 鉢 1/3既存	(11.1) (4.6) (3.6)	ロクロ成形。体部はやや外反しながら立ち上がりめるやかにひびく。	底面凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。	7.5YR7/4R-2に近い褐色 青 黄石含む 良好	
146-15	B-1 SH-9	土器底 鉢 口縁部	-	滑溜型。口縁部は肥厚しながらゆるやかに削ぬし端面はやや下方に下げる。	外周凹軸底版。内面張ナガ彫刻。	7.5YR6/4に近い赤褐色 青 灰白、雲母含む 良好	
146-16	B-1 SB-11	土器底 鉢 1/2既存	(10.5)	ロクロ成形。口縁部はやや肥厚する。	回転ナガ彫刻。	7.5YR8/4に近い赤褐色 青 砂粒、雲母含む 良好	
146-17	B-1 SB-11	土器底 鉢 底部	(5.2)	ロクロ成形。口縁部はやや外反し、内面には1条の沈織がある。	回転ナガ彫刻。底部中央は直線的なナガ彫刻。その周辺を回転ナガ彫刻。	7.5YR7/6褐色 青 砂粒含む 良好	
146-18	B-2 SH-12	土器底 高台付 口縁部～体部	(14.85) (6.6)	ロクロ成形。体部はやや外反しながらひびく。	底面凹軸余切り無調査。貼付高台が欠損。回転ナガ彫刻。	7.5YR3/2R褐色 青 黄石含む 良好	
146-19	R-2 SB-22	上縁部 1/2既存	17.4 5.3 3.4	ロクロ成形。体部下端は外反し、口縁部は鋸歯的のがわる。	底面凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。	7.5YR5/2R褐色 青 黄石含む 良好	
146-20	B-2 SH-12	灰釉陶 鉢 1/5既存	(14.0) (6.1) (4.85)	ロクロ成形。口縁部はやや外反し、底部は三日月窓台。	回転ナガ彫刻。つけ掛け。	5Y6/4褐色 青 黄石含む 良好	
146-21	B-2 SB-22	上縁部 鉢 口縁部	(23.0)	滑溜型。口縁部はくの字に扁曲し、無取り。底面はやや上方に丸くのびる。	底部凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。底面ナガ彫刻。	5YR5/4に近い赤褐色 内側7.5YR5/4に近い褐色 青 灰白含む 良好	
147-1	H-2 SB-13	上縁部 鉢 尖形	11.8 5.5 4.3	ロクロ成形。	底部凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。底面ナガ彫刻。	7.5YR8/4に近い赤褐色 青 砂粒、雲母含む 良好	
147-2	B-2 SH-13	上縁部 鉢 底部	(10.8) 4.9 3.6	ロクロ成形。	底部凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。内面は擦耗有。	7.5YR8/4に近い赤褐色 青 砂粒、雲母含む 良好	
147-3	B-2 SB-13	上縁部 鉢 底部	(5.2)	ロクロ成形。	底部凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。	5YR7/9褐色 青 砂粒、赤色斑点含む 良好	
147-4	B-2 SB-13	土器底 鉢 底部	(5.5)	ロクロ成形。	底部凹軸余切り無調査。回転ナガ彫刻。	7.5YR8/4に近い赤褐色 青 砂粒、赤色斑点含む 良好	

表77 SB-13～SB-22出土遺物観察表

番号	測定区 測定 箇所	種別 面積 実寸	口径 直径 高さ 厚さ	形態の特徴	技術的特徴	色調 赤土 焼成	備考
147-5	B-2 SB-13	土師器 底 口縁部	(13.0) — —	ロクロ成型。口縁部はやや外反する。	凹板ナメ調整。	10YR8/4に近い黄褐色 赤 砂粒含む 良	
147-6	B-2 SB-13	土師器 底 口縁部	(11.6) — —	ロクロ成型。口縁部はやや外反する。	凹板ナメ調整。	7.5YR7/6褐色 赤 砂粒多い 良	
147-7	B-2 SB-13	土師器 底 底部	— — 5.0	ロクロ成型。	底部切り無調整。	7.5YR8/6褐色 赤 砂粒含む 良	
147-8	B-2 SB-13	土師器 高台付 口縁部+一部	(14.0) — —	ロクロ成型。体部は軽やかに膨らみながら、立ち上がり口縁部はやや外反する。	貼付台付は欠損。凹板ナメ調整。	10YR8/4黄褐色 赤 砂粒多い 中不良	
147-9	B-2 SB-13	土師器 高台付 全体	— — (7.0)	ロクロ成型。	凹板ナメ調整。貼付高台は欠損。	7.5YR8/6褐色 赤 砂粒含む 中不良	
147-10	B-2 SB-15	土師器 底 1/3既存	11.4 5.3 3.65	ロクロ成型。体部は軽やかに外反する。端部は直面。	面削除+切り無調整。凹板ナメ調整。	7.5YR8/6褐色 赤 白色粒子含む 良	
147-11	B-2 SB-16	灰陶器 底 1/2既存	(15.0) (7.0) (6.0)	ロクロ成型。体部はやや立ち上がり、口縁部はやや外反する。 底部はハバ付で開き高い高台。	凹板ナメ調整。	N6/灰色 赤 長石含む 良	
147-12	B-2 SB-16	灰陶器 底 1/3既存	(15.2) (7.2) (5.2)	ロクロ成型。体部はやや立ち高めで開き、口縁部は外反する。底部はつぶれた低い高台。	底部未切り無調整。凹板ナメ調整。 重ね焼き痕アリ。	10YR8/1褐色 赤 砂粒含む 良	
147-13	B-2 SB-16	土師器 底 1/3既存	— — —	時はやや下方にのび、端部は直面されている。 口縁部は既存。	ナメ調整。内側無ナメ。	SVR6/6絞色 赤 砂粒含む 中不良	
147-14	B-2 SB-16	土師器 底 1/6既存	(27.0) —	平腹平底。口縁部は削り少し、端部は斜め上方にのびる。	体部外面は粗粒のハケ調整。	7.5YR8/6褐色 赤 黄土、砂粒含む 良	
147-15	B-2 SB-16	土師器 底 1/6既存	(34.2) —	平腹器底。やや斜形を呈する。口縁部はハバ付で直面。端部は既存。	体部外面は粗粒のハケ調整。体部内部は粗粒のハケ調整。	7.5YR8/4に近い褐色 赤 砂粒含む 良	
148-1	B-2 SB-17	土師器 底 1/3既存	— — —	端部削除。口縁部は既存しながら丸く收まる。端部は斜め上方にのびる。	体部外面はナメ調整。	SVR6/6絞色 赤 砂粒含む 良	
148-2	B-2 SB-19	灰陶器 底 变形	15.6 6.8 4.0	輪花底。口縁部は外反し、端部は三脚高台。	底部未切り無調整。凹板ナメ調整。重ね縫合。	SVT7/3白色 赤 砂粒含む 良	
148-3	B-2 SB-19	土師器 底 高部	(9.65) —	平腹型底の底部。	底部に木炭痕アリ。体部外腹底付のハケ調整。体部内腹底付のハケ調整。	7.5YR4/2褐色 赤や白 砂粒混合 良	
148-4	B-2 SB-21	土師器 底 口縁部	10.6 —	ロクロ成型。口縁部は斜め外反する。	凹板ナメ調整。	7.5YR7/6褐色 中不良 砂粒含む 良	
148-5	B-2 SB-21	土師器 底 1/3既存	(10.7) (5.5) (3.20)	ロクロ成型。体部は軽やかに立ち上がる。	底部未切り無調整。凹板ナメ調整。	10YR7/4に近い黄褐色 赤 砂粒含む 良	
148-6	B-2 SB-21	土師器 底 底部	— (7.0) —	ロクロ成型。	底部未切り無調整。	7.5YR8/6褐色 赤 砂粒含む 良	
148-7	B-2 SB-21	土師器 底 口縁部	(27.0) — —	端部削除。口縁部はハバ付で直面。端部は水平に引き出ず。	体部外腹は端部直面。体部内腹は既存ナメ。	2.5YR4/1に近い赤褐色 赤 長石、砂粒含む 良	
148-8	B-2 SB-21	土師器 底 口縁部	(20.6) — —	端部削除。口縁部はハバ付で直面し、2回取り。端部は水平に引き出ず。	体部外腹は端部直面。体部内腹は既存ナメ。	10YR8/1に近い黄褐色 赤 長石、砂粒含む 良	
148-9	B-2 SB-22	灰陶器 底 口縁部	12.5 3.8 7.8	ロクロ成型。口縁部はやや外反する。端部は低い角底付。	つけ縫合。底部未切り無調整。凹板ナメ調整。重ね焼き痕アリ。	2.5YR7/3白色 赤 長石含む 良	
148-10	B-2 SB-22	土師器 底 口縁部	— — —	端部削除。口縁部はハバ付で直面し、2回取り。端部は水平に引き出ず。	体部外腹端部直面。	10YR8/2褐色 赤 砂粒、雲母含む 良	

表78 SB-22～SB-30・包含層出土遺物（1）観察表

番号	測定区 遺構	標示 の範囲 と現 在存	付近 の地 質	形態の特徴	技術の特徴	色調 地土 組成	圖考
148-11	B-2 SH-22	上端部 中段部	-	清潔形態。口縫部はくの字に凸角し、2枚取り。縫部は嵌め方に盛り出す。	体部外周は指面で直進。指面ナメ脱離。重ね焼き痕アリ。焼け出しがある。	10YR5/2灰青褐色 密 砂粒含む 良	
148-12	B-2 SB-23	実物陶器 裏 底部	7.4 -	ロクロ形態。底部は低い二角高台。	底面凹部を切り無調整。凹部ナメ脱離。重ね焼き痕アリ。焼け出しがある。	2.5Y5/1青灰色 密 砂粒含む 良	
148-13	B-2 SB-24	反転形態 底 穴形	12.6 5.6 3.4	ロクロ形態。体部は腰やかに立ち上がる。底部は低い三角高台。	凹部ナメ脱離。底部は断続的そのため不明瞭。	2.5Y5/3淡黄色 密 密合子、砂粒含む 良	
148-14	B-2 SB-25	土器部 裏 口縫部	-	清潔形態。口縫部は削ぎながら丸みを帯びるからくの字に凸角する。縫部は水平に盛り出している。	体部外周は底面直進。底面内側は板ナメ。	5YR5/6暗褐色 密 砂粒含む 良	
148-15	B-2 SB-26	土器部 裏 口縫部	-	清潔形態。口縫部は削ぎながらくの字に凸角する。縫部は水平に盛り出している。	体部外周は指面直進。	7.5YR5/6褐色 密 密合子、砂粒含む 良	
148-16	C-1 SB-29	実物陶器 底 口縫部	-	静物陶器の脱。口縫部はやや外反する。	底は墨緑色。	2.5Y5/2灰褐色 密 白色粒子含む 良好	
148-17	C-1 SB-30	実物陶器 底 1/3残存	(10.2) (5.0) 4.4	実物陶器。(1)底部は立ち上がり口縫部はやや外反する。底部は二角高台。	凹部内側にトントン跡。底面は円柱形切り無調整。	10YR5/10白色 密 白色粒子含む 良好	
148-18	H-1 5号鑄石 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	(11.6) 6.5 3.3	ロクロ形態。口縫部は外反する。底部は二角高台。	底部ナメ脱離。底部凹部を切り無調整。重ね焼き痕アリ。	N7/9灰白色 密 白色颗粒含む 良好	
148-19	B-1 4号鑄石 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	-	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は高い三脚高台。底部は低い二角高台。	底部凹部を切り無調整。凹部ナメ脱離。	2.5Y5/10白色 密 密合子含む 良好	
148-20	B-1 K-3 1/4残存	実物陶器 底 1/4残存	(15.4) (7.5) 5.1	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は二日月高台。	底部は削ぎ本切り無調整のものナメ脱離。つけ掛け。重ね焼き痕アリ。	7.5Y5/6白色 密 砂粒含む 良好	
148-21	C-2 E-4・5 1/4残存	実物陶器 底 1/4残存	(14.8) (6.8) (2.6)	ロクロ形態。底部はやや立ち上がる。底部は三脚高台。	底部凹部を切り無調整。凹部ナメ脱離。	N7/9灰白色 密 密合子含む 良好	
148-22	B-1 M-6 2/3残存	実物陶器 底 2/3残存	(18.1) (7.1) (4.45)	ロクロ形態。(1)縫部はやや外反する。底部はハの字に開き二角高台。(2)縫部はハの字に開き二角高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。焼け出しがある。重ね焼き痕アリ。	10Y7/8灰白色 密 灰石含む 良好	
148-23	B-1 M-6 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	(13.6) (7.7) 4.2	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部はハの字に開き二角高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。内側全面に凹陥。焼け出しがある。	N8/9灰白色 密 黑石含む 良好	
148-24	B-1 M-6 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	(13.0) (6.8) 4.2	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は二日月高台。	底部は削ぎヘラケズリのあとナメ脱離。ハゲ脱離。凹部ナメ脱離。内側全面に凹陥。焼け出しがある。	N8/9灰白色 密 白色粒子、砂粒含む 良好	
148-25	B-1 M-6 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	(13.6) (7.7) 4.2	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は二日月高台。	底部は削ぎヘラケズリのあとナメ脱離。内側全面に凹陥。焼け出しがある。	5Y6/7灰褐色 密 白色粒子、砂粒含む 良好	
148-26	B-1 L-6 1/4残存	実物陶器 底 1/4残存	13.0 6.8 3.95	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は二日月高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。内側全面に凹陥。焼け出しがある。	5Y6/7灰褐色 密 白色粒子、砂粒含む 良好	
148-27	B-2 G-6 1/4残存	実物陶器 底 1/4残存	(14.2) 7.2 -	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は三日月高台。	底部は削ぎヘラケズリ。凹部ナメ脱離。焼け出しがある。	2.5Y5/3淡黄色 密 白色粒子、砂粒含む 良好	
148-28	C-1 F-8 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	(15.2) -	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。	凹部ナメ脱離。つけ掛け。	N8/9灰白色 密 白色粒子含む 良好	
148-29	C-1 F-8	実物陶器 底 1/3残存	(15.4) -	ロクロ形態。口縫部は外反する。	底部下端にヘラケズリ。	N8/9灰白色 密 密合子含む 良好	
148-30	B-1 SD10	実物陶器 小底 1/2残存	(15.0) (7.4) 5.1	ロクロ形態。口縫部はやや外反する。底部は高く、三脚高台。	底部ありのうにナメ脱離。内側全面に凹陥。焼け出しがある。	5Y7/8灰白色 密 黑石含む 良好	
148-31	B-1 M-8 1/8残存	実物陶器 底 1/8残存	(12.2) (7.0) (1.95)	ロクロ形態。口縫部は腰やかに立ち上がる。底部は高く、三脚高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。凹部ナメ脱離。焼け出しがある。	N7/8灰白色 密 黑石含む 良好	
148-32	C-1 トレンチ 1/3残存	実物陶器 底 1/3残存	12.0 7.6 1.95	ロクロ形態。底部は腰やかに立ち上がる。底部は高く、三脚高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。凹部ナメ脱離。焼け出しがある。	2.5Y5/3灰白色 密 白色粒子含む 良好	
148-33	C-1 I-12 2/3残存	実物陶器 底 2/3残存	12.1 3.2 2.8	ロクロ形態。底部は腰やかに立ち上がる。底部は高く、三脚高台。	底部は削ぎ本切りの跡ナメ脱離。凹部ナメ脱離。	7.5Y8/1灰白色 密 白色粒子含む 良好	

表79 包含層出土遺物（2）観察表

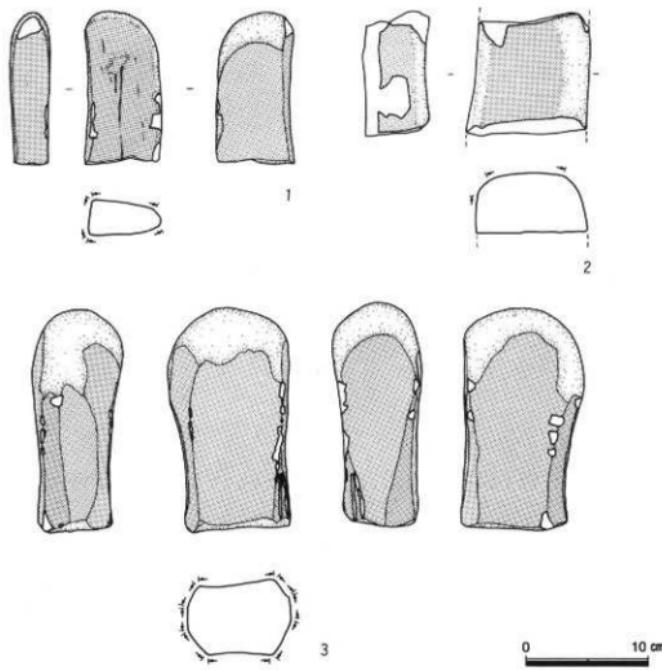
番号	測定区 遺物	種別 器種 既存	上段 底段 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 釉上 焼成	備考
149-14	B-2 Q-6-7	灰陶壺 腹 底部	(7.0)	ロクロ成型。底部はハの字に開く 低い高台。	底部切り無調整。重ね焼 き底アリ。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-15	B-1 K-3	灰陶壺 腹 底部	(8.0) —	ロクロ成型。底部はハの字に開く 三角高台。	底部切り無調整。重ね焼底 アリ。内外面施釉。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-16	B-1	灰陶壺 腹 底部	(8.0)	ロクロ成型。底部はハの字に開く 二角高台。	内面ナメ調整。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-17	B-1 M-7	灰陶壺 腹 底部	(8.0) —	ロクロ成型。底部はハの字に開く 二角高台。	底部切り無調整。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-18	B-2	灰陶壺 腹 底部	(7.0)	ロクロ成型。底部は三角高台。	底部を切りのちナメ調整。	5Y7/1灰黄色 黒 磁石多い 良好	
149-19	B-2 N-3	灰陶壺 腹 底部	(7.0) —	ロクロ成型。底部は三角高台。	底部を切りのちナメ調整。重 ね焼き底アリ。内面施釉。	10Y7/2オーリーブ灰色 黒 磁石含む 良好	
149-20	B-1 M-7	灰陶壺 腹 底部	8.0 —	ロクロ成型。底部は一角高台。	底部切削ヘラクズリのあとナメ 調整。内外面施釉。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-21	B-2	灰陶壺 腹 底部	(5.0) —	ロクロ成型。底部は低い一角高台。	底部切削無調整。	10Y7/2オーリーブ灰色 黒 磁石含む 良好	
149-22	B-1	灰陶壺 腹 底部	(6.0)	ロクロ成型。底部は一角高台。	底部余取り無調整。	N8/1灰白色 黒 白色粒子含む 良好	
149-23	B-2 N-3	灰陶壺 腹 底部	(7.0) —	ロクロ成型。底部は三日月高台。	底部余取り無調整。内面施釉。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-24	B-1	灰陶壺 腹 底部	(6.0) —	ロクロ成型。底部は一角高台。	底部余取り無調整。内面施釉。	N8/1灰白色 黒 白色粒子含む 良好	
149-25	B-1 K-3	灰陶壺 腹 底部	7.0	ロクロ成型。底部は三角高台。	底部余取り無調整。重ね焼底 アリ。内面施釉。	N8/1灰白色 黒 白色粒子含む 良好	
149-26	B-2 N-2	灰陶壺 腹 底部	(5.0) —	ロクロ成型。底部は三角高台。	底部余取り無調整。重ね焼底 アリ。	10Y7/2オーリーブ灰色 やや青 黑色粒子含む 良好	
149-27	B-2 N-3	灰陶壺 腹 底部	6.8	ロクロ成型。底部はハの字に開く 低い一角高台。	底部切削無調整。重ね焼 底アリ。内面施釉。	7.5Y4/2オーリーブ 黒 磁石含む 良好	
149-28	C-1 G-10	灰陶壺 腹 底部	(7.4)	ロクロ成型。底部はハの字に開く 一角高台。	底部余取り無調整。	N8/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-29	B-2 N-3	灰陶壺 腹 底部	(7.1) —	ロクロ成型。底部は低い一角高台。	底部切削無調整。重ね焼 底アリ。内面ナメ調整。	2.5Y3/1黄灰色 黒 磁石含む 良好	
149-30	B-1 L-3	灰陶壺 腹 底部	3.5	ロクロ成型。底部は低い一角高台。	底部余取り無調整。重ね焼き底 アリ。内面ナメ調整。	2.5Y3/1黄灰色 黒 白色砂粒含む 良好	
149-31	B-2 N-3	灰陶壺 高付耳 底部	(10.0) —	ロクロ成型。底部はハの字に開く 一角高台。	底部下端に凹へラクズリ。重 ね焼き底アリ。内外面施釉。	7.5Y6/1灰白色 黒 磁石含む 良好	
149-32	B-1 M-8	灰陶壺 腹 底部	(9.30)	ロクロ成型。底部は一角形状。	内面ナメ調整。	5Y7/1灰白色 黒 白色粒子含む 良好	
149-33	B-2 N-2	灰陶壺 腹 底部 付2/3	標準高21.2 標準付2人14	ロクロ成型。	内面ナメ調整。	3Y4/2オーリーブ 黒 黑色粒子含む 良好	
149-34	B-1 L-3	灰陶壺 腹 底部	(7.8) —	ロクロ成型。底部は三角高台。底 部外側に土附。底面。	底部余取り無調整。内面ナメ調 整。	7.5Y8/1 黒 磁石含む 良好	
149-35	B-1 J-4	灰陶壺 腹 底部	(8.2)	ロクロ成型。	底部切削ヘラクズリ後にナメ調 整。	2.5Y7/1灰白色 黒 磁石含む 良好	

表80 包含層出土遺物（3）観察表

番号	調査区 名	調査 箇所 名	日付 調査 年月 日	形態の特徴	技術の特徴	色調 地土 成因	備考
149-36	B-1 K-3	当社区 小室 底部	- (5.8)	ロクロ成形。体部は重なる。 -	当部凹部を切り無調整。回転ナ ン調整。	10Y6/10灰白色 青 長石含む 良好	
149-37	H-1 J-4	新規渠 コップ形洗面 4/5段	(6.2) 6.0 7.9	ロクロ成形。上縁部は垂直に立ち たがる。体部はやや内湾に立ちあ る。回転ナシ調整。	凹部及び外側下端にヘタケス リ。回転ナシ調整。	2.5Y6/10灰白色 青 無石含む 良好	
149-38	B-1 M-7	新規渠 窓 底部	-	いわゆる窓G。ロクロ成形。体部 はやや背が張り、窓部は外反する。	回転ナシ調整。体部外側にはテ クスチャによる3条の凸線が走る。	5.5Y6/10灰白色 青 長石含む 良好	
150-1	H-2 M-3	新規渠 窓 底部	(16.30) 7.8 (5.5)	ロクロ成形。体部は直位で屈曲し板 を持つ窓部は鈍角。	軸は淡褐色。便用。	10Y6/10灰白色 青 長石含む 良好	
150-2	C-1 I-12	新規渠 窓 底部	(14.6) -	ロクロ成形。口縁部はやや外反す る。	軸は淡褐色。便用。	7.5YR4/8灰オリーブ 青 長石含む 良好	
150-3	B-1 K-3	新規渠 窓 底部	(12.5) -	ロクロ成形。口縁部は直位して垂 直に立ち上がる。窓部中央に1条 の縫隙が走る。	軸は淡褐色。便用。	7.5Y3/8灰オリーブ 青 白色粒子含む 良好	
150-4	B-2 F-6	新規渠 窓 底部	-	ロクロ成形。上縁部はやや外反す る。	軸は淡褐色。便用。	7.5Y6/10灰白色 青 長石含む 良好	
150-5	C-2 E-7	新規渠 窓 底部	-	ロクロ成形。上縁部は外反する。	軸は淡褐色。便用。	10YR3/8灰褐色 青 新規渠丁合む 良好	
150-6	B-1 K-9	新規渠 窓 (窓部)	-	ロクロ成形。上縁部はやや外反す る。	軸は淡褐色。便用。	7.5Y7/10灰白色 青 長石含む 良好	
150-7	B-1 M-3	新規渠 窓 底部	(1.3) -	ロクロ成形。	軸は淡褐色。便用。	5Y7/4灰白色 青 白色粒子含む 良好	
150-8	B-1 M-7	新規渠 窓 底部	(6.4) -	ロクロ成形。底部は二口肩底。	軸は淡褐色。便用。	7.5Y4/8灰オリーブ 青 白色粒子含む 良好	
150-9	B-1 I-4	新規渠 窓 底部	(7.35) -	ロクロ成形。底部は三口肩台。	軸は淡褐色。便用。	5Y4/8灰オリーブ 青 白色粒子含む 良好	
150-10	C-2 E-7	新規渠 窓 底部	-	ロクロ成形。底部は有段階窓台。	軸は淡褐色。便用。	10B G7/10明褐色 青 白色粒子含む 良好	
150-11	C-2 E-7	新規渠 窓 底部	-	ロクロ成形。底部は直位無窓台 で窓部はやや外反する。内面底部 にランダムの2ヶ所みられる。	軸は淡褐色。便用。	2.5Y8/10灰白色 青 白色粒子含む 良好	
150-12	B-2 P-6	新規渠 窓 光沢	11.4 4.1 3.6	ロクロ成形。体部は直位に立ち たがり、上縁部は外反する。窓部 は更取り。	凹部及び外切り無調整。回転ナ ン調整。	10YR3/8灰褐色 青 黑色粒子、砂粒含む 良好	
150-13	B-1 P-6-7	上窓 横 1/4段	(12.6) (3.1) (3.45)	ロクロ成形。体部中央で外反しな がら立ち上がり。	凹部及び外切り無調整。回転ナ ン調整。	2.5Y7/7灰黄色 青 砂粒、長石含む 良好	
150-14	H-1 L-6	土槽 横 1/5段	(12.3) (5.4) (4.8)	ロクロ成形。体部は直位に立ち たがり、上縁部は外反する。	当部凹部を切り無調整。回転ナ ン調整。	10Y7/4灰白色 青 砂粒含む 良好	
150-15	B-1 K-3	土槽 横 1/4段	(16.6) -	ロクロ成形。口縁部外反する。	回転ナシ調整。	7.5YR7/10灰褐色 青 砂粒含む 良好	
150-16	H-1 M-7	土槽 横 1/2段	(11.9) (4.7) 4.5	ロクロ成形。体部は直位に立ち たがり、上縁部は外反する。	当部凹部を切り無調整。回転ナ ン調整。	10YR6/3灰褐色 青 分散、長石含む 良好	
150-17	B-2 N-3	上窓 横 1/5段	(12.8) -	ロクロ成形。口縁部外反する。	回転ナシ調整。	7.5YR6/6灰褐色 青 砂粒含む 良好	
150-18	B-1	土槽 横 底部	- (6.1)	ロクロ成形。	当部凹部を切り無調整。回転ナ ン調整。	10YR6/3灰褐色 青 無石、砂粒含む 良好	
150-19	B-1 K-3	上窓 横 1/4段	(15.0) (5.8) (4.35)	ロクロ成形。口縁部は直位に立 たがり、上縁部は外反する。	当部凹部を切り無調整。	7.5YR7/3灰褐色 青 無石、長石含む 良好	

表81 包含層出土遺物（4）観察表

番号	測量区 遺構	測量 背景 基準 等高	1面 底保 持率 等高	形態の特徴	技法の特徴	色調 加工 焼成	備考
150-20	B-2 N-3	土師器 底部 高部	- 5.3 -	ロクロ成形。	直面円弧小切り無調節。凹板ナ ド調節。	7.YR7/4に近い褐色 黒 砂粒、雲母含む 良好	
150-21	B-2 Q-7	土師器 茎部土器 口縁部 1/2残存	12.1 6 4	鏡面質。ロクロ成形。口縁部は直 線的に立ち上がり。口縁部はやや外 反する。	直面は平滑もハラケズリ。内面 は横位ヘリミギヤ。	SYR3/6底赤褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-22	B-2 P-6+7	土師器 环 1/2残存	12.1 6.2 3.65	堅重感。ロクロ成形。体部は底輪 的に立ち上がり。口縁部はやや外 反する。	直面はハラケズリ。内面は横位 のヘリミギヤ。	2.SYR5/6底赤褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-23	B-2 Q-7	土師器 外 口縁部	- -	平滑感。ロクロ成形。体部は底輪 的に立ち上がり口縁部はやや外 反する。	体部下端へハラケズリ。体部内面 横位のヘリミギヤ。	2.5YR5/6底赤褐色 黒(+) ふじ粒子含む 良好	
150-24	B-1 L-3	土師器 高台付脚 高台	(9.2) -	直面はハの字に開き、端部は外反 する。	凹板ナド調節。	7.5YR7/6底褐色 黒 砂粒、雲母含む 良好	
150-25	B-2 N-3	土師器 高台付脚 底部	- -	ロクロ成形。高台部欠損。	凹板ナド調節。底部へハラケズリ のうちに船型高台。	10YR6/2底褐色 黒 砂粒、雲母含む 良好	
150-26	B-2 N-3	土師器 高台付脚 底部	- -	ロクロ成形。高台欠損。	凹板ナド調節。底部系切りのあ と貼付高台。	7.5YR8/6底褐色 黒 砂粒、雲母含む 良好	
150-27	B-2 Q-7	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は堅重し、「匁」 の字に開き。端部は水平に開くのが ある。而取り。	体部外縁は指觸可感。体部内面 は板ナド調節。	10YR3/2底褐色 黒 砂粒、雲母含む 良好	
150-28	B-2 M-3	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は堅重し、「匁」 の字に開き。端部は水平に開くのが ある。	体部外縁は指觸可感。体部内面 は板ナド調節。	7.5YR6/4に近い褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-29	B-2 N-2+3	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は堅重し、やや 丸みを帯びる。端部は水平に開くのが ある。	ナガ調節。	7.5YR3/1に近い褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-30	B-2 N-3	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は「匁」字に開き しながら端部はやや上方に開くのが ある。	ナダ調節。	7.5YR3/4底褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-31	B-2 N-3+4	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は「匁」字に開き し、やや斜め上方に開くのがある。	体部外縁は指觸可感。体部内面 は板ナド調節。	5YR5/1に近い褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-32	B-2 N-3	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は堅重し、端部 は水平に開くのがある。	ナダ調節。	7.5YR6/4に近い褐色 黒 砂粒含む 良好	
150-33	B-2 N-6	土師器 单 口縁部	- -	直面堅重。口縁部は「匁」字に開き し、端部はやや上方に開くのがある。	体部外縁は指觸可感。体部内面 はナダ調節。	5YR5/6 黒 砂粒含む 良好	
151-1	B-1 L-6	土師器 单 口縁部	(25.0) --	直面堅重。	体部内面板ナド調節。	5YR5/6底赤褐色 黒 黄(+)、雲母含む 良好	
151-2	B-1 L-6	土師器 单 口縁部	(24.0) --	半堅重感。口縁部は「匁」字に開 き、端部は斜め上方に開くのがある。	体部外周部のハケ調節。体部 内面機位のハケ調節。	5YR4/6底褐色 黒 長石、雲母含む 良好	
151-3	B-2 N-6+7	土師器 单 底部	(3.8) --		本塗装アリ。ナダ調節。	7.5YR5/3に近い褐色 黒 砂粒含む 良好	
151-4	B-1 N-8	土師器 单 口縁部	(30.3) --	体部は垂直に立ち上がり、口縁部 は而取りされる。嘴はやや下方に つく。	体部外縁は板ナド調節。	7.5YR4/6褐色 黒 砂粒含む 良好	



第153図 石製品

表82 石製品計測表

番号	器種	調査区・出土遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
153-1	砥石	B-1・SB-9	12.0	6.3	3.3	411	中粒砂岩	
153-2	砥石	B-1・SB-4	10.1	10.1	4.9	827.1	中粒砂岩	
153-3	砥石	B-1・N-3	18.3	9.8	7.4	2573.4	中粒砂岩	

2 石製品

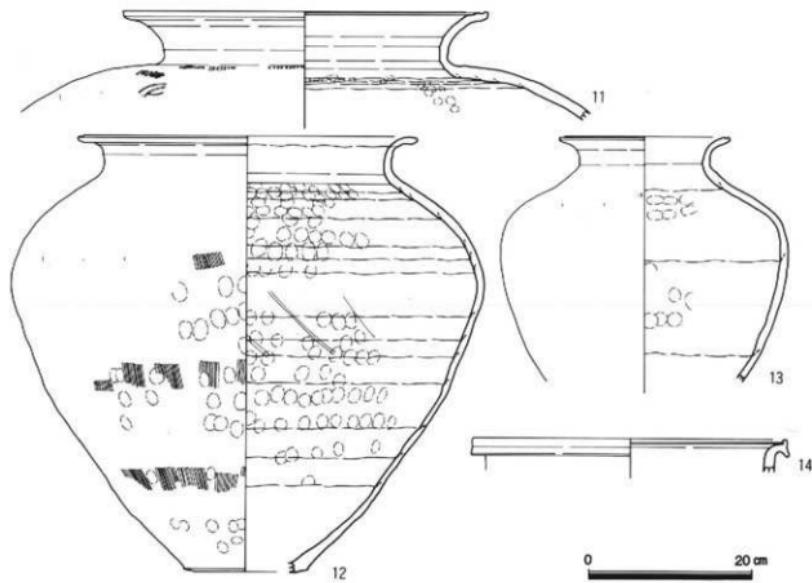
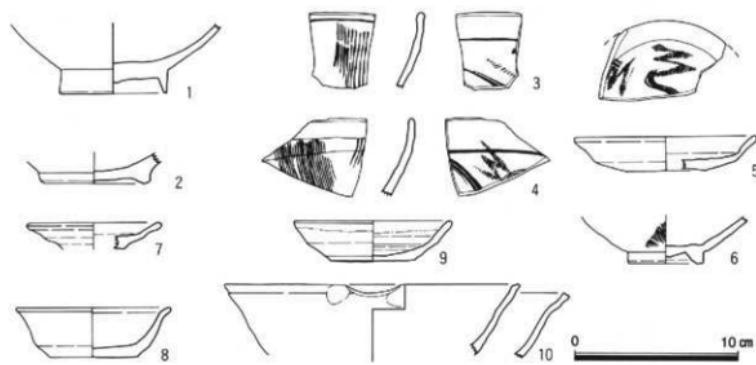
砥石（第153図）

3点が出土した。いずれも中粒砂岩を使用している。1～3は長さは10.1cm～18.3cm、幅が6.3cm～10.1cmと比較的小さい。とくに一番小型のものである。1は重量が500g以下で、片手でも十分持ち運びが可能な大きさであるので、据え置き式ではなく手持ちで、使用されたと思われる。1～3は2面以上の砥面を持つ。1では研磨に伴う線状痕が確認できる。

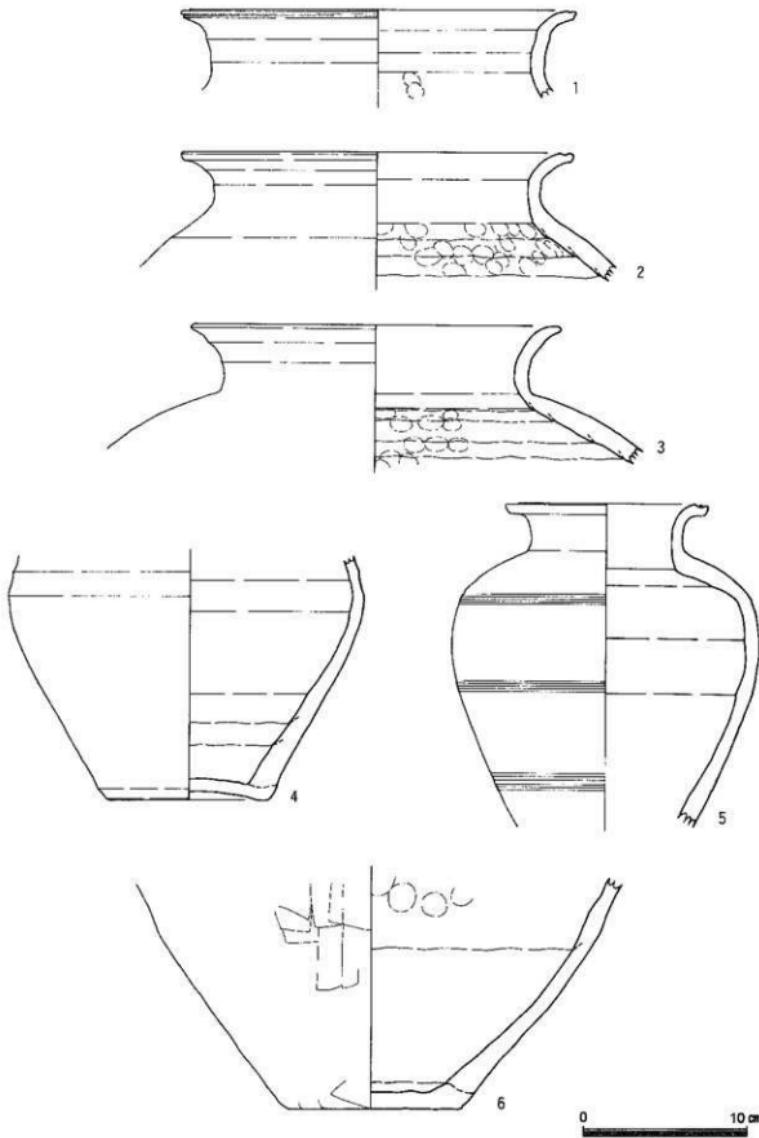
3 中世陶器

輸入陶磁器（第154図-1～10）

1～2は白磁碗IV類の底部片である。1は疊付から高台内は露胎で、灰白色透明の釉が施される。2は外面底部下方から露胎で、内面に重ね焼き痕がみられる。3～6は同安窯系青磁である。3・4は碗



第154図 中世遺物（1）



第155図 中世遺物（2）

表83 中世遺物観察表

番号	調査区 遺構	標示 箇所 残存 部品	口縁 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 焼成	備考
154-1	B-2 M-3	白磁 底 底部	- 6 -	白磁製。	高台内側は浅く丁寧である。無文量付から高台内は断続的。灰白色不透明の濃った第2層板。	5Y7/2灰白色 密 良好	白磁製V類
154-2	B-2 N-3	白磁 底 底部	6.5	白磁製。	外周底部下方から露頭。内面に重ね焼き跡アリ。	10Y7/1灰白色 密 良好	白磁製IV類
154-3	B-2 N-3	青磁 底 口縁部	- -	同安窯系。	外周に櫛目模様。突付けから高台内は露頭。	3Y6/6灰オリーブ 密 良好	同安窯系青磁類
154-4	B-2 N-3	青磁 底 口縁部	- -	同安窯系。	外周に櫛目模様。疊付けから高台内は露頭。	7.5Y7/1灰白色 密 良好	同安窯系青磁類
154-5	B-2 N-3	青磁 底 1/4残存	11.2 4.8 2.05	同安窯系。	胎基に灰褐色を帯び、外周は泥質状に削り込み施釉となっている。異入が少しみられる。	7.5Y6/2灰4 リープ 密 良好	同安窯系青磁類
154-6	B-2 N-4	青磁 底 底部	- 4.5	同安窯系。	外周に櫛目模様。疊付け→高台内は露頭。	6Y6/3オリーブ黄色 密 良好	同安窯系青磁類
154-7	B-2 包合層	山茶鏡 底 1/2残存	7.7 3.9 1.6	クロコ成形。口縁部は底や外反する。	底部余切り無調整。全面施釉。	N7/灰 密 白色粒子含む 良好	
154-8	B-1 Q-11	陶器 底 1/4残存	9.5 3.8 2.45	クロコ成形。口縁部に施釉。	底部余切り無調整。全面施釉。	7.5Y6/1灰 密 長石を含む 良好	
154-9	C-2 SB-28	陶器 小柄	9.4 5.4 3.0	クロコ成形。口縁部は外反する。	底部余切り無調整。全面施釉。	5Y7/1灰白色 密 長石含む 良好	
154-10	B-2 16号中世土坑	山茶鏡 底 1/3残存	18.1 - -	片持。クロコ成形。底部がつくタイプ。	口縁部にナデ調整による沈線がみられる。	10BG5/青灰色 密 長石を含む 良好	東進系
154-11	B-2 15号中世土坑	陶器 底 口縁部	44.4 - -	肩はやや張り、口縁部は外反する。口縁端部は弦紋が一条消す。	粘土細巻き上げ成形。ヘラ足付アリ。凹底ナデ調整。外周タタキ。	口 10YR5/2灰黃褐色 肩 2.5Y7/3淡黃褐色 赤褐色粒子を含む 良好	
154-12	B-2 テストピット	陶器 底 1/2残存	57.4 12.4 53.25	口縁はやや張り。底部は直角に立ち上がり、口縁部は外反する。底部内側には1条の沈線がある。	粘土細巻き上げ成形。凹底ナデ調整。外周タタキ。	10YR6/1灰 密 長石含む 良好	
154-13	B-2 N-2	陶器 底 口縁部	29.8 - -	肩はやや張り、口縁部外反する。口縁端部内側には、1条の沈線がある。	粘土細巻き上げ成形。凹底ナデ調整。肩部にヘラヶツリ。	褐灰色10YR6/1 密 黑色粒子を含む 良好	
154-14	C-2	陶器 底 口縁部	37.8 - -	口縁部はN字抉を呈し、縫帶下端は外に伸びる。		10Y7/2オリーブ灰 密 黑色粒子を含む 良好	
155-1	B-2 N-2	陶器 底 口縁部	23.9 - -	頸部は、やや直角ぎみに立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部は1条の弦紋がある。	粘土細巻き上げ成形。凹底ナデ調整。	N7/灰白色 密 長石を含む 良好	
155-2	B-2 16号中世土坑	陶器 底 口縁部	23.7 - -	頸部は短く、口縁部は外反する。口縁端部は1条の弦紋がある。	粘土細巻き上げ成形。口縁部～頸部強い凹底ナデ調整。	外5YR4/3灰褐色 内5YR5/2灰褐色 密 白色粒子含む 良好	
155-3	B-2 N-2	陶器 底 口縁部	22.4 - -	頸部は短く、口縁部は外反する。	粘土細巻き上げ成形。口縁部から頸部強い凹底ナデ調整。	2.5Y6/1灰 密 白色粒子含む 良好	
155-4	B-2 N-2	陶器 底 底部	10 - -	頸部中央で最大径。	粘土細巻き成形。凹底ナデ調整。	2.5Y6/1灰 密 白色粒子含む 良好	
155-5	B-2 N-2-3	陶器 底 口縁部	12.4 - -	粘土細巻き成形、三脚窓。3本一列の弦紋が貢部、胴部最大径の出立脚部下部に施される。	凹底ナデ調整。	7.5Y5/3灰 密 具有含む 良好	
155-6	B-2 N-3	陶器 底 底部	11.2 - -	底面からハハの半にひらく。	粘土細巻き上げ成形。凹底ナデ調整。底部のナデ調整。	7.5Y4/3 密 長石含む 良好	

の口縁部片で、外面に櫛描文が施される。5は皿で、内面に描き手の櫛描文がみられる。外底は浅皿状に削り込み、露胎となっている。6は碗の底盤で外面に、櫛描文が施される。7は山茶碗の山皿で口径7.7cm、器高1.5cmを測る。8は古瀬戸後期様式一段階の縁釉小皿である。体部の丸みは少なく、法量は口径9.5cm、器高2.4cmを測る。釉薬は鉄釉で、底部内面周辺は露胎である。9は大窯II段階の稜皿である。胴部下位で屈曲し、口縁部は外反し、底部は糸切無調整である。釉薬は黄灰色を呈する。法量は口径9.4cm、器高5.4cmを測る。10は16号中世土坑から出土している。片口鉢で、口縁端部は角形に仕上げられ、ナデ調整による沈線がみられる。注ぎ口は僅かに突出する。

常滑・渥美産甕（第154図-11～14、第155図）

11は口径44.4cmを測る。肩は丸みを帯び、口縁部は外反する。端部内面には1条の凹線が巡る。押印文は肩部に施される。12は渥美産の甕である。法量は口径57.4cm、器高53.25cm、胴部最大径57.5cmを測る。口縁部は外反し端部は1条の凹線が巡る。頸部はやや直立ぎみに立ち上がり、口縁部は2段積み成形である。胴部外面下位に押印文が3段つき、内面には接合痕と指頭圧痕が明瞭である。13の甕は口径20.8cm、胴部最大径35.2cmを測る。頸部は、直立ぎみに立ち上がり、口縁部は外反する。外面には押印文はみられない。14は口縁部の断面がN字状を呈し、下部は外方に張り出す。頸部はやや断面が厚い。1～3は渥美産の甕の口縁部である。1は口径23.9cmを測る。頸部は直立ぎみに立ち上がり口縁部は外反する。端部は内面に凹線が1条巡る。3は口径22.4cmを測る。口縁部はやや外反する。端部に1条の凹線はみられない。5は渥美産の三筋甕である。口径12.4cm、胴部最大径18.4cmを測る。頸部は、やや直立ぎみに立ち上がり、口縁部はやや外反する。端部は凹線が1条巡る。胴部は丸みを帯び、胴部上位、中位、下位に複線文がみられる。6は底部径が11.2cmを測る。胴部外面は褐色を呈し、内面には自然釉が付着する。

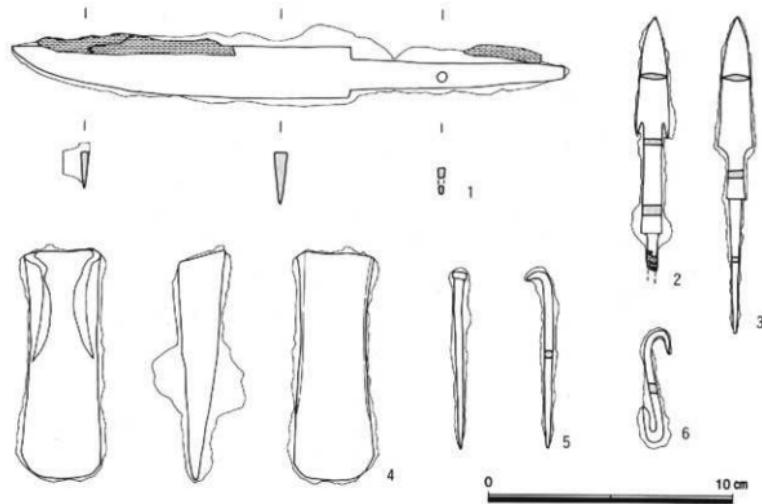
4 鉄製品・錢貨

鉄製品（第156図）

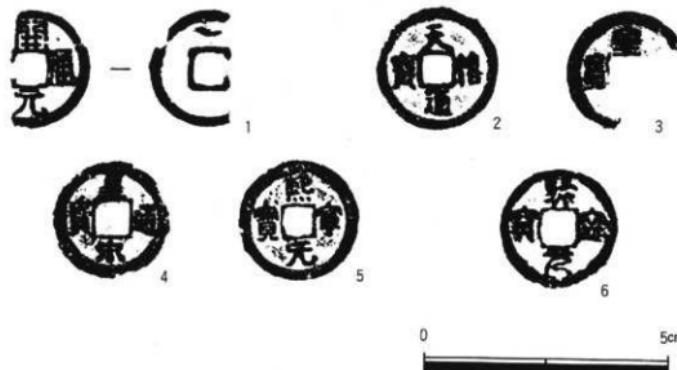
1は平造両闇の刀子である。身部は闇部から両側とも幅をせばめ、先端が鋭く尖る。身部長は22.5cm 身部幅は2.1cmを測る。茎胴部は茎尻にかけて幅をせばめ、中央に目釘孔がみられる。茎の形状は直線状を呈する。背の部分に木質が残存する。2は長頸籠被脇狭両丸造長三角形式鐵である。籠身部は4.9cm、幅1.35cmを測る。茎の一部に木質が残存する。3はSB-11より出土している。短頸籠被脇丸造柳葉式鐵で、籠身部は5.3cm、幅1.45cmを測る。4はC-2区の谷地形より鉄斧の斧頭のみ確認されている。全長は9.3cmで、袋部は4.5cmを測る。5の鉄釘は長さ7.25cm 幅1.1cmを測る。基部上位を単に曲げ、頭部にしている。6はS字状の不明鉄器である。長さ4.6cmを測る。方形断面を呈する。

表84 鉄製品計測表

番号	種別	調査区・出土遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考
156-1	刀子	C-2	22.5	2.1	0.5	木質アリ
156-2	鉄籠	B-2	10.4	1.35	0.4	木質アリ
156-3	鉄籠	B-2・SB-11	13.0	1.45	0.35	
156-4	鉄斧	C-2	9.3	3.2		
156-5	鉄釘	B-2	7.25	1.1		
156-6	不明鉄製品	B-2	4.6	1.0		



第156図 鉄製品



第157図 錢貨

表85 錢貨計測表

番号	調査区	名称	遺構・位置	直径(mm)	重量(g)	孔径(mm)	書体	初鑄年代	備考
157-1	C-2	開元通宝	G-6	24	0.9	8	篆書	621	背土月
157-2	C-2	天祐通宝	トレンチ	25	2.4	6	真書	1017	
157-3	C-2	皇宋通宝	E-8	(25)	1.4	(6)	真書	1038	
157-4	C-2	皇宋通宝	トレンチ	23	1.9	7	真書	1038	
157-5	C-2	熙寧通宝	トレンチ	24	2.9	6	真書	1068	
157-6	C-2	熙寧通宝	トレンチ	24	2.4	7	真書	1068	

第III章 谷津原古墳群の遺物

第1節 古墳出土の遺物

今回、調査を行った谷津原古墳群からは須恵器、土師器、直刀・刀子、鏃・鉗等の刀装具、鉄鎌、耳環、玉類といった装身具、馬具が出土している。以下各古墳の出土遺物について報告していく。

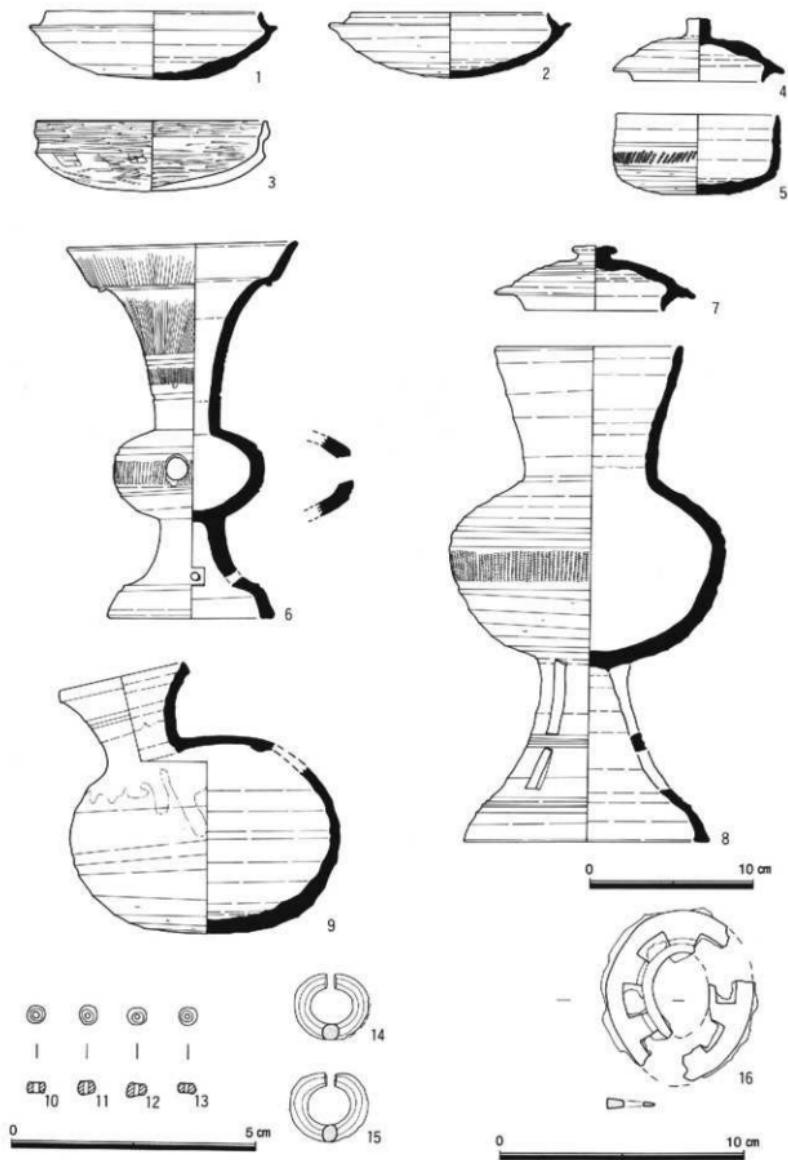
谷津原 6号墳出土遺物

土器 (第158図-1~9)

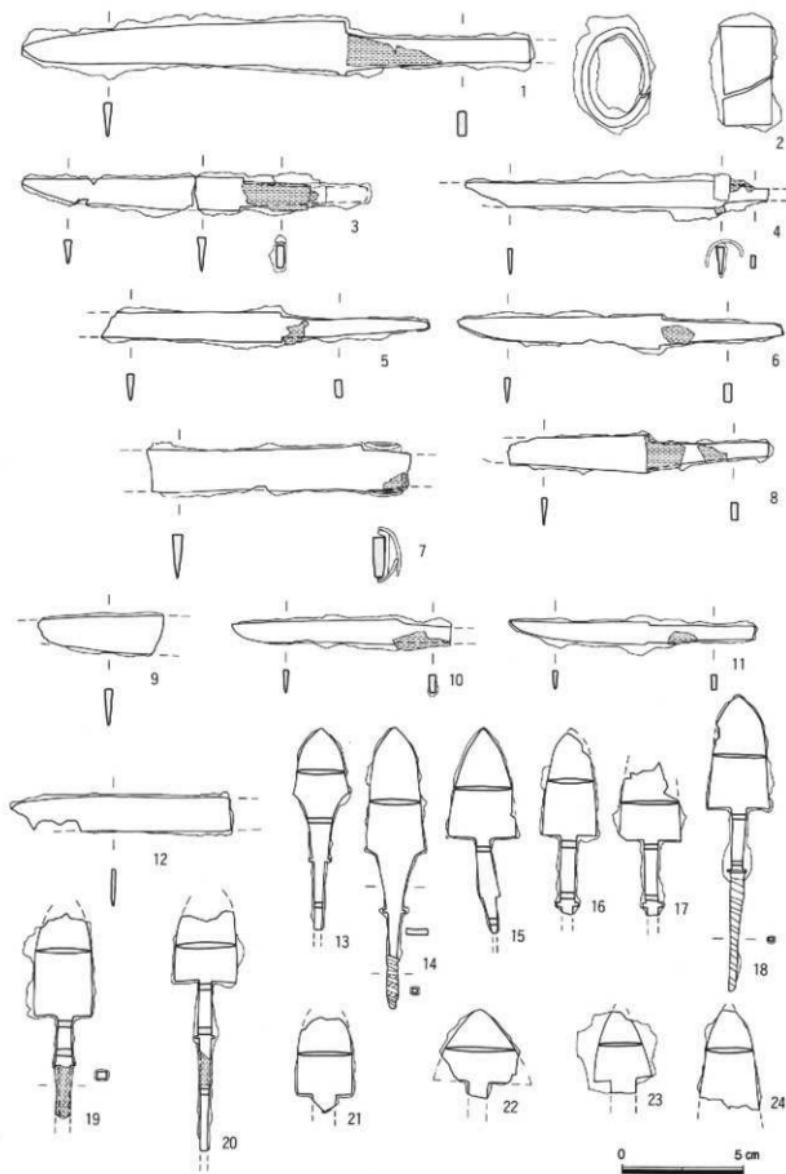
土器は須恵器 8点、土師器 1点が出土した。器種は須恵器が合子状壺身 (1・2)、蓋 (4・7)、塊 (5)、脚付甕 (6)、脚付長頸壺 (8)、平瓶 (9) 土師器が壺 (3) である。

1・2は最大径15.00cm前後を有り、底部が弓張り状を呈し、底部から体部下半にかけて渦巻き状の回転ヘラケズリを施す。4・7の蓋はかえり付き蓋で、体部下半に明瞭な段をもち、かえりは内径させつつ直立させる。4は乳頭状、7は円状のつまみをもち、両者ともに天井部へ渦巻き状の回転ヘラケズリを施す。5は器形から塊と呼称した。平底の底部に渦巻き状の回転ヘラケズリ調整を行い、体部には2条の沈線を巡らせ、その区画内にクシ状工具による列点文を施している。6は静岡県内では出土例が少ない器種で、偏球形の胴部にラッパ状に開く頸部をもち、口縁部は2段に広がる。底部には裾が広がる低い脚部をつける。頸部には口縁部から頸部にかけて棒状工具による斜位の沈線を充填する。また頸部及び口縁部には2条の沈線を巡らせ、区画内に列点文を施す。注口は粘土を貼り付けず穿孔し、脚部には4方向に円形の透かし孔を穿つ。8は偏球形の体部に据広の高い脚部をもつ。頸部から口縁部にかけて直立しながら立ち上げる。9は偏球形の体部にラッパ状に外反する口縁部をもつ。底部は回転ヘラケズリ、頸部には2条の沈線を巡らす。3はいわゆる須恵器模倣壺である。底部が弓張り状を呈し、体部表86 谷津原 6号墳土器観察表

番号	調査区 調査	種別 器形	直径 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 胎土 焼成	備考
158-1	6号墳 石室床面	須恵器 合子状壺身 形	13.0 4.15	底部は弓張り状を呈する。口縁部は内傾し、底部を丸くめる。	底部から体部下半にかけて回転ヘラケズリ。底部内面にコトロ水挽き紋を残す。	2.576/1黄褐色 やや赤 良好 良好	底部外側に重ね焼きの着跡が見られる。
158-2	6号墳 石室床面	須恵器 合子状壺身 形	11.9 3.95	底部は弓張り状を呈する。口縁部は内傾し、底部を丸くめる。	外側底面から体部下半にかけて回転ヘラケズリ。	N5.6/1黄褐色 やや赤 良好	
158-3	6号墳 石室床面	土師器 脚付 甕	13.85 4.4	底部は弓張り状を呈する。体部と口縁部の間に明瞭な段をもつ。底部は内傾し、底部を丸くめる。	底部から体部下半にかけて手打ちヘラケズリのものがあり。口縁部外側、底面内面にナメテ調製のち丁寧なフミガニを施す。	3.944/1灰褐色 青 白灰色子合ひ 良好	
158-4	6号墳 石室床面	須恵器 壺身 形	7.9 3.9	天井部に乳頭状のつまみを持ち、体部下段に段をもつ。底部は内傾し、底部を丸くする。	入井部から体部上半にかけて回転ヘラケズリ。底面部にコトロ水挽き紋を残す。	2.576/1黄褐色 白色子合ひ 良好	内面に自然物が付着
158-5	6号墳 石室床面	須恵器 壺 1/4底付 形	9.75 — 4.3	底部は弓張り状を呈する。体部下段から底部まで天井方に丸くする。	底部から体部上半にかけて回転ヘラケズリ体部に2つの横縫目を施す。底面内面に内凹文を施す。	3.946/1黄褐色 白色子合ひ 良好	
158-6	6号墳 石室床面	須恵器 脚付長 颈壺 形	13.7 18 23	底部は弓張り状の頸部にラッパ状に開く渦巻きをもつ。頸部は口縁部の時にむかって段をもつ。底部は内傾し、底部を丸くする。	1脚部から頸部にかけて棒状工具による斜位の沈線を施す。底部内面に内凹文を施す。注口は折上を貼り付けず穿孔する。	N5.6/1黄褐色 青 白色子合ひ 良好	
158-7	6号墳 石室床面	須恵器 壺 1/4底付 形	8.4 3.95	天井部に円形のつまみをもつ。体部下半に内傾する。底部は内傾し、底部を丸くする。	天井部から体部上半にかけて回転ヘラケズリ。底面部にコトロ水挽き紋を残す。	3.956/1黄褐色 青 白色子合ひ 良好	
158-8	6号墳 石室床面	須恵器 脚付長 颈壺 形	11 30.3	底部は弓張り状の頸部にラッパ状に開く渦巻きをもつ。底部は内傾し、底部を丸くする。	底部に3条の沈線を施す。区画内に列点文を施す。体部下半にかけて回転ヘラケズリ。	N5.6/1黄褐色 青 白色子合ひ 良好	
158-9	6号墳 石室床面	須恵器 平瓶 足付 形	7.1 26.5	口縁部はラッパ状に外反し、口縁部周辺が三角形を呈する。	底部に2条の沈線を施す。底部から体部下半にかけて回転ヘラケズリ。	3.946/1灰褐色 青 白色子合ひ 良好	外側に自然物が付着



第158図 谷津原6号墳出土遺物（1）



第159図 谷津原6号墳出土遺物（2）

と口縁部境に明顯な段をもつ。底部から体部下半にかけては手持ちヘラケズリ調整を施した後、器面全体に細かいヘラミガキを施す。

ガラス小玉（第158図-10～13）

4点が確認された。紺色の小玉で外径0.35～0.40cm、厚さ2～3cmを測る。

耳環（第158図-14・15）

2点が出土している。2点とも石室前方部床面から検出された。14は長径3.10cm、短径2.70cmを測り、断面は円形を呈する。15は長径3.20cm、短径2.85cmを測り、断面は橢円形を呈する。14・15とも銅芯を曲げた環体に金属箔を付着させている。

鉄製品

鐸（第158図-16）

倒卵型の鐸である。出土位置が異なるが、形態、幅、厚みが同じため、同一個体と判断した。長径6.9cm（推定）、短径5.2cm、厚さ1.70～1.90cmを測り、長径2.50cm、短径1.60cm程の透かし穴を現存で6窓もつ。

素環状金具（第159図-2）

長さ4.10cm、幅2.10cm、厚さ0.30cmを測り、断面が長橢円形の筒状を呈する。刀装具の組と考えられる。刀に付属しないためその用途は不明である。

刀子（第159図-1・3～12）

刀子は11本が出土している。1・8は両闘の刀子で、茎に木質が残る。1は本調査中最大のもので刀部から茎まで残存する。その規模は全長20.85cm、最大幅0.30cmを測る。3～5は両闘の刀子で茎に木質が残り、3・4は間に組の一部が残存する。7・10～11は両闘の刀子で、7は刃部と、茎の一部が欠損しているが、刀身の幅と茎の規模から大型のものと考えられる。

鉄鎌（第159図-13～第160図-45）

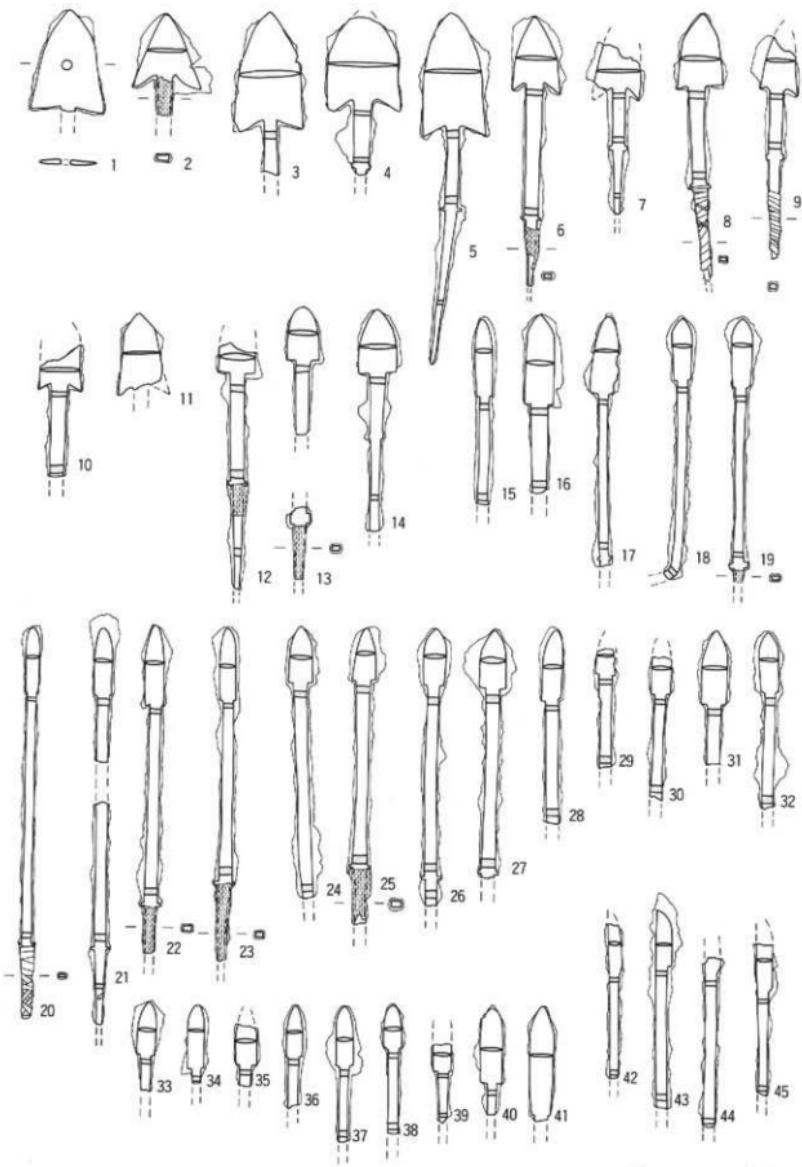
完形、破片を含めて56点が出土した。形態的には広根系、長頸系に大別できる。

広根系鎌は26本を数え、三角形鎌、短頸五角形鎌、脇抜三角形鎌に分類される。第159図-13～20までは三角形式の鉄鎌で、鎌身部はすべて長三角形を呈し、第159図-13・14が斜闘となる他は角闘状になる。頸部（範被）は第159図-15を除きすべて棘状闘で、第159図-14・18には茎部に木質が残存する。第160図-1は短頸五角形式と呼称され分類される鎌で、鎌身中央部に矢柄を装着するための穿孔がなされている。第160図-2～11はすべて脇抜三角形鎌に分類され、頭部が遺存する鎌は棘状突起を有する。第160図-2は鎌身部が長三角形を呈し、逆刺の抉りが深い。第160図-4は角ばった五角形を呈する。第160図-5～9は鎌身部が長三角形を呈し、逆刺の抉りがやや浅く、頭部に棘状突起をもつ。第160図-8・9には茎部に木質が遺存する。第160図-12～14は鎌身部が長三角形で角闘を呈し、鎌身長・幅とともに他の広根系鎌に較べ小型で、長頸鎌との中间形態といえる。

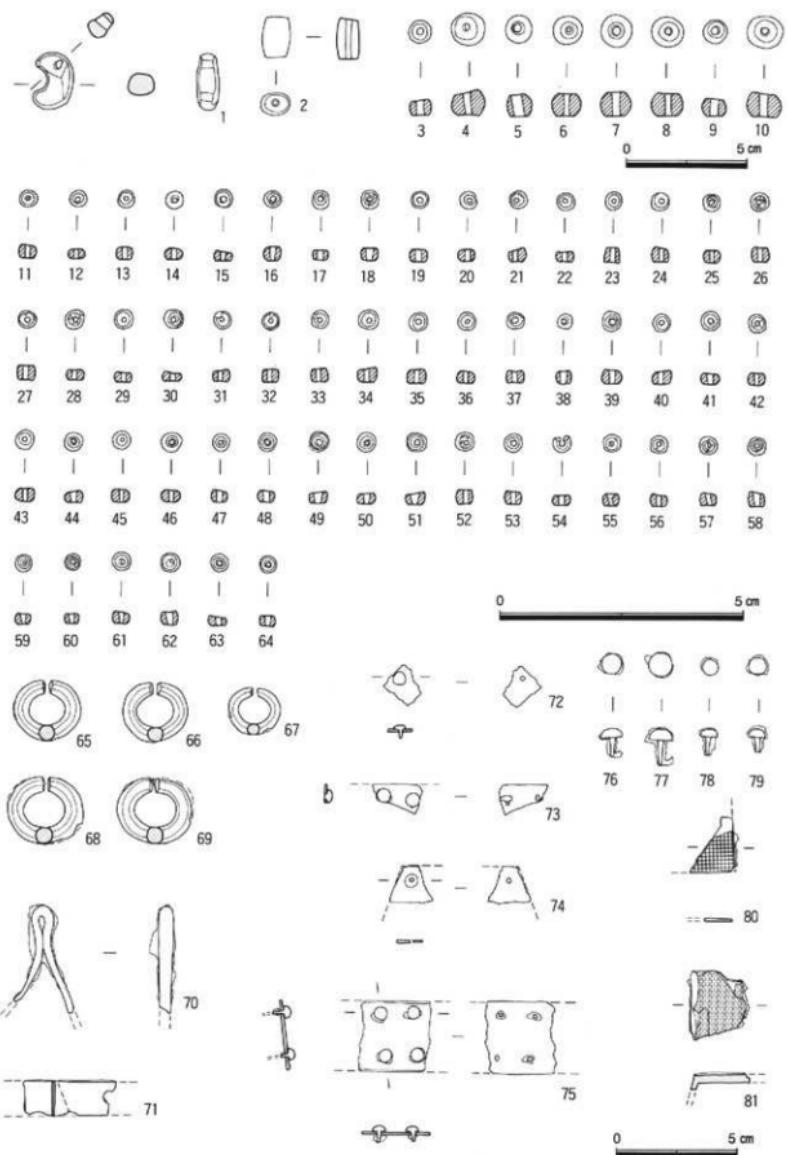
第160図-15～45は長頸鎌で、頭部の残存するものはすべて棘状闘を有する。鎌身の形状から長三角形、鎌身闘部が角闘のもの（第160図-17・24～27）、茎箭式といわれる鎌身部が劍身状のもの（第160図-15・16・18～23・28～42）片刃鑿式と呼称される片刃、片闘で鎌身闘部が斜角のもの（第160図-44～46）鎌身闘部が角闘のもの（43）に分類される。また、20～25には茎部に木質が残る。

表87 谷津原6号墳五計測表

番号	遺構	種類	最大径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	色調	材質	備考
158-10	6号墳	小玉	0.35	0.25	0.15	0.02	紺色	ガラス	
158-11	6号墳	小玉	0.37	0.27	0.1	0.04	紺色	ガラス	
158-12	6号墳	小玉	0.4	0.3	0.1	0.04	紺色	ガラス	
158-13	6号墳	小玉	0.37	0.2	0.1	0.03	紺色	ガラス	



第160図 谷津原6号墳出土遺物（3）



第161図 谷津原7号墳出土遺物（1）

表90 谷津原6号墳鉄鑑計測表(2)

番号	遺構	全長	種身面				横面				蓋部				備考
			外形	開部	長	幅	厚さ	開部	長	幅	厚さ	長	幅	厚さ	
160-35	6号墳	(2.6)	柳葉形	角開	(1.2)	0.9	0.15		(1.4)	0.5	0.2	-	-	-	
160-36	6号墳	(1.3)	柳葉形	角開	2.1	0.65	0.3		(2.2)	0.45	0.15	-	-	-	
160-37	6号墳	(5.3)	柳葉形	側開	2.45	0.7	0.2		(3.15)	0.35	0.25	-	-	-	
160-38	6号墳	(5.23)	柳葉形	張角	1.85	0.75	0.15		(3.4)	0.4	0.25	-	-	-	
160-39	6号墳	(3.2)	柳葉形	角開	(1.15)	0.25	0.15		(2.03)	0.4	0.15	-	-	-	
160-40	6号墳	(4.4)	柳葉形	角開	3.1	0.9	0.15	-	(1.3)	0.35	0.2	-	-	-	
160-41	6号墳	(4.7)	柳葉形	角開	(4.7)	(1.0)	0.1	-	-	-	-	-	-	-	
160-42	6号墳	(14.65)	片刃形	無開	(2.0)	0.6	0.15	株状圓	(11.15)	0.4	0.2	1.6	0.35	0.1	-
160-43	6号墳	(8.2)	片刃形	角開	2.3	0.7	0.1	-	(5.9)	0.45	0.25	-	-	-	
160-44	6号墳	(7.03)	片刃形	無開	(0.6)	0.7			(6.45)	0.45	0.2	-	-	-	
160-45	6号墳	(6.3)	片刃形	角開	(1.9)	0.65	0.1		(4.4)	0.4	0.2	-	-	-	

谷津原7号墳出土遺物

装身具

勾玉(第161図-1)

緑灰色の蛇紋岩製勾玉で、長さ2.30cm、幅1.10cmを測る。形状はC字型を呈し、頭部に較べ尾部が若干大きくなる。造りは粗雑で、面取りの稜が顯著にみられ、紐孔は片側から穿孔される。

玉玉(第161図-2)

青灰色を呈する蛇紋岩製の玉玉である。長さ1.70cm、幅1.15cmを測り、紐孔は両側から穿孔される。

白玉(第161図-3~10)

8点が出土している。材質はすべて蛇紋岩製で3~8は青灰色、9・10がオリーブ灰色を呈する。大きさは径0.90~1.45cmを測る。

ガラス小玉(第161図9~64)

54点が確認された。すべて緑色を呈し、0.32~0.40cmの小玉である。

耳環(第161図-65~69)

5点が出土している。65・66は石室中央部から、68・69は石室前方部から検出している。65・66は長径2.70m、短径2.45cmを測り、断面はそれぞれ円形を呈する。67は長径2.10cm、短径1.90cmを測り、断面は円形を呈する。68・69は長径3.10cm、短径2.7~2.8cmを測り、断面は円形を呈する。5点とも鉄芯を曲げた環体に金属箔を付着させている。

鉄製品

鎌子状鉄製品(第161図-70)

70は鎌子状鉄製品の破片と考えられる。幅0.60cm、厚さ0.30cm、断面方形の鉄板を鎌子状の折り曲げている。本墳で出土したものは頭部の湾曲部分から脚上部のみで、その大部分を欠損していた。

表91 谷津原7号墳玉計測表(1)

番号	遺構	種類	最大径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	色調	材質	備考
161-1	7号墳	勾玉	2.3×1.1	0.925	0.4	4.7	緑灰色	蛇紋岩	
161-2	7号墳	玉玉	1.7×1.15	1.15	0.25	3	青灰色	蛇紋岩	
161-3	7号墳	白玉	0.9	0.65	0.3	0.7	暗青灰色	蛇紋岩	
161-4	7号墳	白玉	1.45	1.05	0.3	2.9	暗青灰色	蛇紋岩	
161-5	7号墳	白玉	1.05	0.95	0.45	1	青灰色	蛇紋岩	風化
161-6	7号墳	白玉	1.2	0.9	0.3	1.3	青灰色	蛇紋岩	風化
161-7	7号墳	白玉	1.25	1	0.4	1.4	青灰色	蛇紋岩	風化
161-8	7号墳	白玉	1.3	1	0.3	1.8	青灰色	蛇紋岩	風化

表92 谷津原7号墳玉計測表(2)

番号	遺構	種類	最大径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	色調	材質	備考
161-9	7号墳	白玉	1	0.75	0.35	0.5	オリーブ灰色	蛇紋岩	風化
161-10	7号墳	白玉	1.45	1	0.375	2.7	オリーブ灰色	蛇紋岩	風化
161-11	7号墳	小玉	0.35	0.27	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-12	7号墳	小玉	0.32	0.2	0.1	0.03	紺色	ガラス	
161-13	7号墳	小玉	0.33	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-14	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.1	0.03	紺色	ガラス	
161-15	7号墳	小玉	0.34	0.27	0.12	0.05	紺色	ガラス	
161-16	7号墳	小玉	0.38	0.2	0.12	0.04	紺色	ガラス	
161-17	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.27	0.04	紺色	ガラス	
161-18	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.12	0.03	紺色	ガラス	
161-19	7号墳	小玉	0.35	0.23	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-20	7号墳	小玉	0.37	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-21	7号墳	小玉	0.37	0.2	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-22	7号墳	小玉	0.35	0.3	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-23	7号墳	小玉	0.38	0.27	0.1	0.06	紺色	ガラス	
161-24	7号墳	小玉	0.32	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-25	7号墳	小玉	0.37	0.3	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-26	7号墳	小玉	0.36	0.3	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-27	7号墳	小玉	0.4	0.21	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-28	7号墳	小玉	0.37	0.2	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-29	7号墳	小玉	0.37	0.17	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-30	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-31	7号墳	小玉	0.32	0.28	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-32	7号墳	小玉	0.35	0.28	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-33	7号墳	小玉	0.4	0.3	0.1	0.06	紺色	ガラス	
161-34	7号墳	小玉	0.37	0.3	0.1	0.06	紺色	ガラス	
161-35	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-36	7号墳	小玉	0.35	0.23	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-37	7号墳	小玉	0.32	0.27	0.1	0.03	紺色	ガラス	
161-38	7号墳	小玉	0.4	0.3	0.15	0.06	紺色	ガラス	
161-39	7号墳	小玉	0.37	0.28	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-40	7号墳	小玉	0.38	0.23	0.15	0.04	紺色	ガラス	
161-41	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-42	7号墳	小玉	0.37	0.27	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-43	7号墳	小玉	0.37	0.29	0.14	0.04	紺色	ガラス	
161-44	7号墳	小玉	0.37	0.25	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-45	7号墳	小玉	0.4	0.25	0.12	0.05	紺色	ガラス	
161-46	7号墳	小玉	0.35	0.25	0.12	0.04	紺色	ガラス	
161-47	7号墳	小玉	0.37	0.25	0.12	0.04	紺色	ガラス	
161-48	7号墳	小玉	0.37	0.25	0.2	0.04	紺色	ガラス	
161-49	7号墳	小玉	0.37	0.2	0.12	0.05	紺色	ガラス	
161-50	7号墳	小玉	0.4	0.23	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-51	7号墳	小玉	0.38	0.3	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-52	7号墳	小玉	0.36	0.26	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-53	7号墳	小玉	0.4	0.2	0.1	0.03	紺色	ガラス	
161-54	7号墳	小玉	0.36	0.25	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-55	7号墳	小玉	0.35	0.22	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-56	7号墳	小玉	0.35	0.23	0.1	0.04	紺色	ガラス	
161-57	7号墳	小玉	0.36	0.27	0.1	0.05	紺色	ガラス	
161-58	7号墳	小玉	0.35	0.22	0.14	0.03	紺色	ガラス	
161-59	7号墳	小玉	0.31	0.2	0.15	0.03	紺色	ガラス	
161-60	7号墳	小玉	0.37	0.23	0.13	0.05	紺色	ガラス	
161-61	7号墳	小玉	0.36	0.53	0.15	0.05	紺色	ガラス	
161-62	7号墳	小玉	0.37	0.17	0.15	0.03	紺色	ガラス	
161-63	7号墳	小玉	0.35	0.2	0.1	0.03	紺色	ガラス	
161-64	7号墳	小玉	0.37	0.17	0.13	0.04	紺色	ガラス	

胡簾金具・鉢金具（第161図-72～79）

胡簾金具は破片のものが4点出土している。厚さ0.20cmの鉄板に長さ0.70cm前後の笠鉢が打たれている。74は鋲が欠失している。75では残存長幅2.9cmの方形鉄板の上に0.8cmの間隔に鉢が打たれていたことが窺える。鉢頭径は、いずれも0.5～0.6cmである。鉢脚は0.3cm突出しているが、欠損している。76～79は長さ0.95～1.50cmの笠鉢である。

80は厚さ0.10cmの板状の鉄片で、表面全体に木質が残存する。81も鉄片だが、端部を鍵状に折り曲げている。厚さ0.40cmの板状の鉄地に80と同様に木質が付着する。胡簾金具と思われる。

石突（第162図-1）

長さ11.90cmの円錐状を呈する。袋部は断面が円形で、最大2.55cmを測る。内部には長さ2.60cmの板状留め金具が残存する。

鉢具（第162図-2・3）

2点が出土している。2は長さ6.30cm、幅3.80cm、3は長さ6.25cm、幅3.30cmを測る。3には径0.40cmの押金が付属する。

素環状金具（第162図-5・6）

5は長さ4.25cm（現存）、幅1.80cm、厚さ0.15cm、6は2.80cm（現存）、幅1.80cm、厚さ0.15cmを測る。断面梢円形の筒状を呈し、5・6とも内部の一部に木質が残存する。刀装具である組の一部と考えられる。

鞆（第162図-7・8）

7・8ともほぼ完形で、円盤状座金の上面に壺型の鉢具（座部）を付している。座金は鉄製で長径4.30cm、短径3.50cmの梢円形円盤状を呈する。壺型の鉢具には、断面方形の鉄板を「L」字型に折り曲げて接続させ、先端を鍵状に屈曲させている。鉢具には刺金は伴わず、鉄板の中央と屈曲部には木質が残存する。

刀子（第162図-9～13）

刀子は破片を含め、5本が出土している。9は刃部鋒が欠損しているが、両闇の刀子で、茎部に木質が残る。10も鋒が欠損しているが、片闇の刀子である。11～13は茎部のみ出土している。木質が残存している。

鉄鎌（第162図-14～第163図-25）

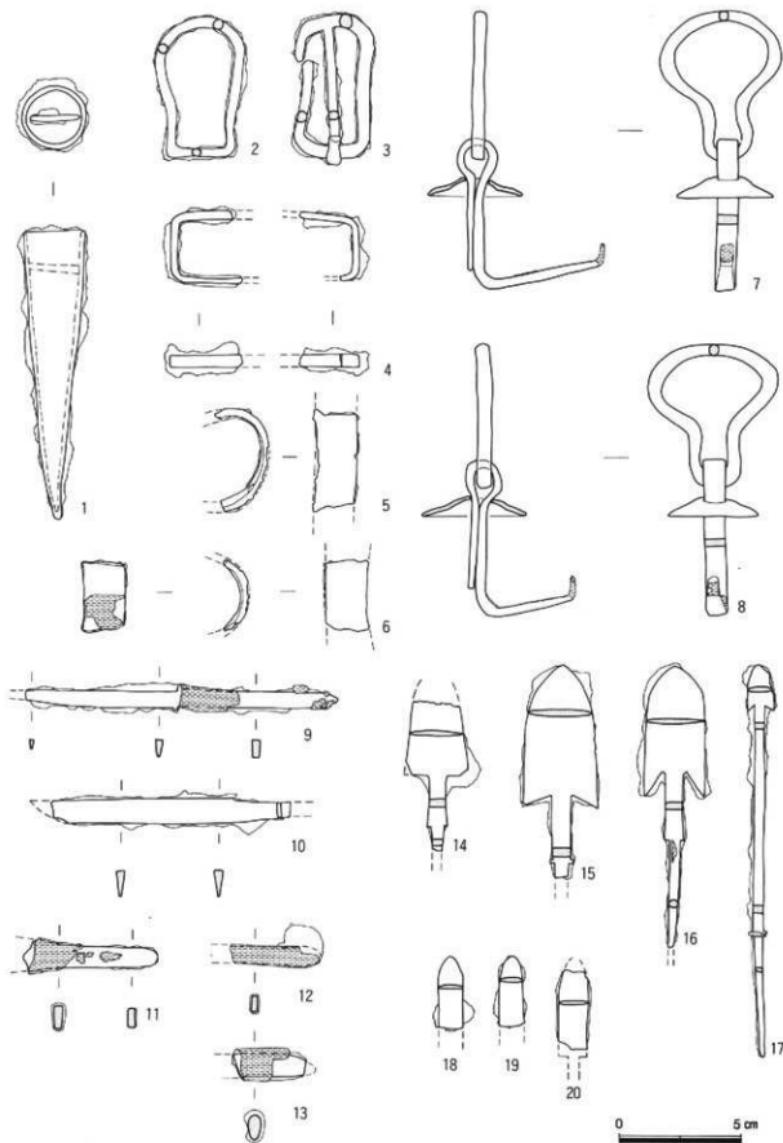
鉄鎌は完形、破片を含め32本が出土している。形態的には広根系鎌、長頸鎌に大別でき、長頸鎌がその主体を占める。

第162図-14～16は広根系鎌で、14が三角形鎌、15・16は脇抜三角形鎌に分類される。第162図-14は鎌身の先端部が欠損しているが、形状から鎌身部が長三角形、角闇であったと考えられる。第162図-15・16は鎌身部形状が長三角形、断面が丸造となり、第160図-16では峰のふくらみが明瞭にみられる。第162図-15・16とともに逆刺を有するが、16は逆刺の抉りが深い。頸部は15が棘状閂をもち、16は角闇となる。

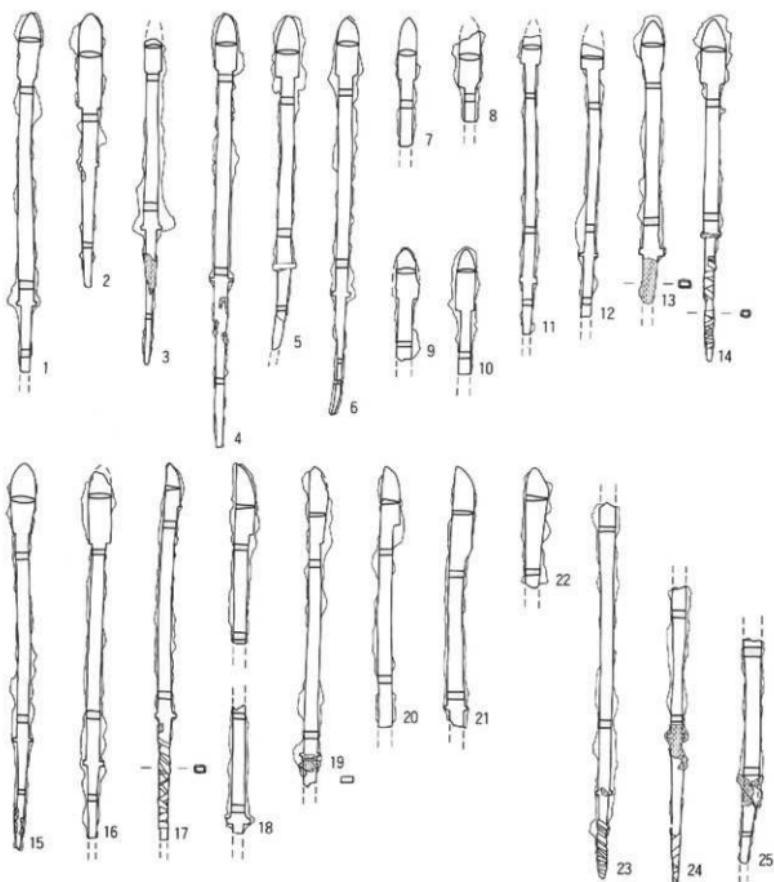
第163図-17～25は長頸鎌で頸部の残るものはすべて棘状閂となる。鎌身部形状が脇抜三角形のもの（17）、長三角形、角闇を呈するもの、整箭式と呼称される鎌身部が劍身状のもの（18～15）、いわゆる

表93 谷津原7号墳耳環計測表

番号	遺構	長径(cm)	短径(cm)	断面厚(cm)	重量(g)	備考
161-65	7号墳	2.75	2.45	0.6	12.8	
161-66	7号墳	2.7	2.4	0.6	12.6	
161-67	7号墳	2.1	1.9	0.5	5	
161-68	7号墳	3.1	2.8	0.65	16	
161-69	7号墳	3.1	2.7	0.6	16.3	



第162図 谷津原7号墳出土遺物（2）



第163図 谷津原7号墳出土遺物（3）

表94 谷津原7号墳刀子計測表

番号	遺構	全長	身 部				茎 部				備考
			長	幅	厚さ	断面形	長	幅	厚さ	断面形	
162-9	7号墳	(12.8)	(6.2)	0.7	0.3	楔	6.6	0.75	0.35	長方形	木質アリ
162-10	7号墳	(9.75)	(7.45)	1.1	0.4	楔	(2.3)	0.95	0.25	長方形	
162-11	7号墳	(5.6)	-	-	-	楔	(5.6)	1.3	0.3	長方形	木質アリ
162-12	7号墳	(3.7)	-	-	-	楔	(3.7)	0.9	0.3	長方形	木質アリ
162-13	7号墳	(3.0)	-	-	-	楔	(3)	1.05	0.5	長方形	木質アリ

表95 谷津原7号墳鉄鎌計測表

番号	遺構	全長	身 部				茎 部				備考	
			外形	開部	長	幅	厚さ	開部	長	幅		
163-14	7号墳	(8.7)	長三角形	角開	5.85	3.1	0.3	楕状闊	2.8	0.75	0.35 (0.6)	0.5 0.35 長方形
163-15	7号墳	(6.15)	長三角形	逆側	(3.05)	2.6	0.2	楕状闊	2.1	0.85	0.35 1	0.5 0.3 長方形
163-16	7号墳	(11.55)	長三角形	逆側	5.35	2.5	0.25	角開	2.8	0.75	0.35 4.4	0.45 0.3 長方形 木質アリ
163-17	7号墳	16.15	長三角形	逆側	3.95	1.1	0.2	楕状闊	9.45	0.45	0.3 5.05	0.45 0.15 長方形 木質アリ
163-18	7号墳	(3.0)	楕状形	-	(3.0)	1.0	0.15	-	-	-	-	
163-19	7号墳	(2.9)	楕状形	-	(2.9)	0.5	0.2	-	-	-	-	
163-20	7号墳	(3.3)	楕状形	-	(3.3)	1.25	0.15	-	-	-	-	
163-1	7号墳	(14.75)	楕状形	齊開	2.8	0.95	0.2	楕状闊	9.15	0.75	0.30 (2.75)	0.4 0.3 長方形
163-2	7号墳	(11.25)	楕状形	角開	3.9	1.0	0.25	楕状闊	7.35	0.65	0.3 4.95	0.55 0.2 長方形
163-3	7号墳	(13.55)	楕状形	角開	(1.35)	0.75	0.15	楕状闊	6.5	0.6	0.3 5.55	0.4 0.2 長方形 木質アリ
163-4	7号墳	(17.75)	楕状形	齊開	2.4	0.9	0.2	楕状闊	8.5	0.7	0.3 (6.8)	0.55 0.2 長方形 木質アリ
163-5	7号墳	(13.75)	楕状形	角開	7.05	1	0.2	無闊	7.7	0.7	0.3 (3.35)	0.5 0.2 長方形 木質アリ
163-6	7号墳	(16.3)	研磨形	圓闊	(2.4)	0.9	0.2	無闊	9	0.6	0.3 4.9	0.4 0.2 長方形 木質アリ
163-7	7号墳	(5.3)	研磨形	角開	2.55	0.8	0.3	-	(2.75)	0.5	0.35	- - -
163-8	7号墳	(3.75)	研磨形	角開	(2.35)	0.85	0.3	-	(1.4)	0.55	0.3	- - -
163-9	7号墳	(4.6)	研磨形	齊開	(2.05)	0.95	0.25	-	(2.55)	0.65	0.2	- - -
163-10	7号墳	(5.2)	研磨形	角開	2.6	0.8	0.2	-	(3.23)	0.45	0.25	- - -
163-11	7号墳	(12.3)	研磨形	角開	(1.2)	0.85	0.2	楕状闊	10.2	0.5	0.25 (2.1)	0.45 0.25 長方形
163-12	7号墳	(11.25)	研磨形	角開	(1.05)	0.95	0.15	楕状闊	8.75	0.55	0.3 (2.45)	0.45 0.3 長方形
163-13	7号墳	(11.6)	楕状形	齊開	2.65	1.0	0.2	楕状闊	7.5	0.7	0.35 (2.0)	0.6 0.2 長方形 木質アリ
163-14	7号墳	(14.0)	楕状形	角開	2.65	1.0	0.2	楕状闊	6.35	0.6	0.35 5.0	0.4 0.2 長方形 木質アリ
163-15	7号墳	(15.9)	楕状形	角開	2.9	1.1	0.25	楕状闊	8.5	0.6	0.3 4.5	0.45 0.2 長方形 木質アリ
163-16	7号墳	(15.1)	楕状形	角開	3.0	0.95	0.2	楕状闊	9.1	0.6	0.35 3.0	0.5 0.25 長方形
163-17	7号墳	(15.45)	片刃形	角開	1.8	0.6	0.2	楕状闊	8.65	0.6	0.3 (4.93)	0.5 0.25 長方形 木質アリ
163-18	7号墳	(7.45)	片刃形	角開	2.85	0.8	0.15	楕状闊	(9.35)	0.5	0.3 0.4 0.45	- 長方形
163-19	7号墳	(13.15)	片刃形	角開	(3.2)	0.8	0.2	楕状闊	8.6	0.6	0.3 (1.2)	0.6 0.25 長方形 木質アリ
163-20	7号墳	(12.7)	片刃形	角開	2.45	0.8	0.2	-	(10.25)	0.6	0.3	- - -
163-21	7号墳	(10.75)	片刃形	圓闊	3.25	0.9	0.2	楕状闊	6.3	0.7	0.3	- - -
163-22	7号墳	(4.95)	片刃形	角開	(4.95)	0.9	0.25	-	-	-	-	
163-23	7号墳	(15.45)	-	-	-	-	-	楕状闊	12.0	0.65	0.3 3.45	0.35 0.2 長方形 木質アリ
163-24	7号墳	(12.35)	-	-	-	-	-	楕状闊	6.25	0.55	0.3 6.1 0.55 0.15 長方形 木質アリ	
163-25	7号墳	(9.2)	-	-	-	-	-	楕状闊	(5.85)	0.8	0.4 3.35 0.6 0.2 長方形 木質アリ	

片刃式で片刃、鍔身関部が角開のもの(17~20)、撫角のもの(21)、無角(22)のものに細分分類できる。

谷津原8号墳出土遺物

土器(第164図-1・2)

土器は須恵器2点が、墓道(前溝)部から出土した。器種は合子状壺蓋(1・2)である。

1は口径13.00cm、天井部が弓張り状を呈し、天井部に渦巻状の回転ヘラケズリを施す。2は全体に半球形を呈し、口縁部と体部境に明瞭な稜をもつ。天井部には渦巻状の回転ヘラケズリを施し、口縁部内面には沈線を巡らす。

耳環(第164図-3)

長径2.85cm、短径2.60cmを測り、断面は梢円形を呈する。銅芯を曲げた環体に金属箔を付着させている。

鉄製品

刀子 (第164図-4~6)

刀子は3本が出土している。4~6ともに刃部鋒を欠損しているが、4・5は片開の刀子で茎部に木質を残す。6も無闇の刀子で、茎部に木質を残す。

鞘尻金具 (第164図-7)

金銅板製の鞘尻金具である。長さ3.75cmを測り、厚さは0.40cmと薄く、倒卵状の断面を呈する。金具の内壁に木質が遺存している。

鉄鎌 (第164図-8~22)

鉄鎌は石室後方部から15本が出土し、13~22は束になっていた。

出土した鉄鎌のすべて長頭鎌に分類され、頭部が遺存するものはすべて棘状閏を有する。鎌身部の形

表96 谷津原8号墳刀子計測表

番号	遺構	全長	身 部				基 部				備考
			長	幅	厚さ	断面形	長	幅	厚さ	断面形	
164-4	8号墳	(5.15)	(5.15)	1.2	0.3	楔	—	—	—	—	
164-4	8号墳	(3.5)	—	—	—	—	(3.5)	1.2	0.3	長方形	木質アリ
164-5	8号墳	(1055)	(5)	1.55	0.4	楔	5.8	1.2	0.5	長方形	木質アリ
164-6	8号墳	(10.25)	(5.3)	1.15	0.3	楔	(4.95)	1	0.3	長方形	木質アリ

表97 谷津原8号墳土器観察表

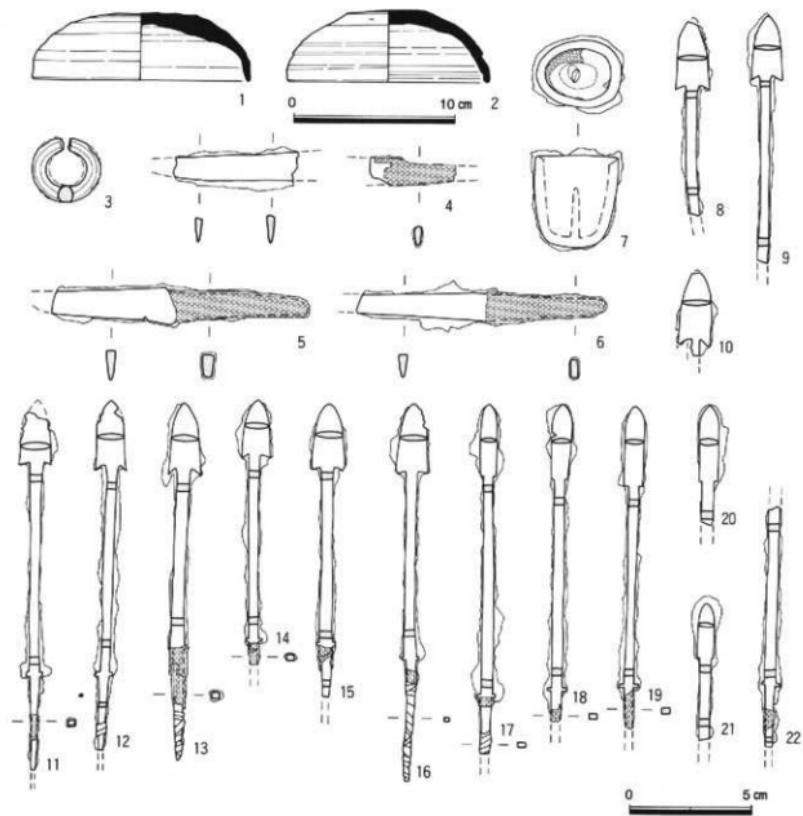
番号	調査区 遺構	被用 前後 変遷	口径 底径 口縁部3/4火鉢	形態の特徴	技法の特徴	色調 削土 焼成		備考
						火鉢	火鉢	
164-1	8号墳 底面	火鉢 火鉢 口縁部3/4火鉢	13 — 4.1	底平な洋状を呈する。口縁部をやや 直角状に作る。	火鉢底から火鉢へ1回転所引。その他は回 転ナシ。	57Y7/3灰色 やや粗 白色粒子含む 良好	57Y7/3灰色 やや粗 白色粒子含む 良好	
164-2	8号墳 底面	火鉢 火鉢 ほぼ完形	12.1 — 4.4	やや扁平な洋状を呈する。全体と口 縁部に直角状に斜曲が付される。口縁部 より順りによる平底な底盤。	火鉢底から火鉢へ1/3回転へ2回転所引。 口縁部内面には1条の火線。その他 は回転ナシ。	N5/3灰色 青 白色粒子含む 良好	N5/3灰色 青 白色粒子含む 良好	火鉢底へ2回転所引

表98 谷津原8号墳耳環計測表

番号	遺構	長径(cm)	短径(cm)	断面厚(cm)	重量(g)	備考
164-3	8号墳	2.85	2.6	0.65	13	

表99 谷津原8号墳鐵鎌計測表

番号	遺構	全長	身 部				頭 部				備考
			外形	周部	長	幅	厚さ	周部	長	幅	
164-8	8号墳	(8)	真三角形	逆刺	(5.3)	0.5	0.25	—	—	—	—
164-9	8号墳	(10.15)	真三角形	逆刺	2.65	1.3	0.2	—	(7.7)	0.45	0.3
164-10	8号墳	(3.9)	真三角形	逆刺	(3.65)	1.35	0.2	—	—	—	—
164-11	8号墳	(14.7)	真三角形	逆刺	(2.15)	1.3	0.3	棘状頭	8.85	0.4	0.3
164-12	8号墳	(14.3)	真三角形	逆刺	2.85	1.3	0.3	棘状頭	8.65	0.4	0.3
164-13	8号墳	14.65	真三角形	逆刺	2.95	1.35	0.3	台形頭	12	0.7	0.3
164-14	8号墳	(10.8)	長△角形	逆刺	2.4	1.2	0.25	棘状頭	7.7	0.45	0.3
164-15	8号墳	(12.03)	長△角形	逆刺	2.65	1.4	0.25	棘状頭	7.2	0.55	0.3
164-16	8号墳	(15.55)	真三角形	逆刺	2.9	1.35	0.25	棘状頭	7.7	0.5	0.3
164-17	8号墳	(14.3)	柳葉形	角闘	2.9	0.8	0.2	棘状頭	9.1	0.5	0.35
164-18	8号墳	(13.05)	柳葉形	角闘	3.1	0.9	0.2	棘状頭	8.1	0.45	0.3
164-19	8号墳	(13.23)	柳葉形	角闘	3.25	0.8	0.2	棘状頭	8.3	0.4	0.3
164-20	8号墳	(4.35)	柳葉形	角闘	3.1	0.8	0.25	棘状頭	(1.25)	0.5	0.35
164-21	8号墳	(5.6)	柳葉形	角闘	2.25	0.7	0.2	—	(3.35)	0.4	0.3
164-22	8号墳	(9.85)	—	—	—	—	—	棘状頭	(7.35)	0.5	0.3



第164図 谷津原8号墳出土遺物

懸から彫抉長三角形状のもの（8～16）と鑿箭式と呼称される劍身状、角関のもの（17～21）に細分できる。

谷津原9号墳出土遺物

石製品

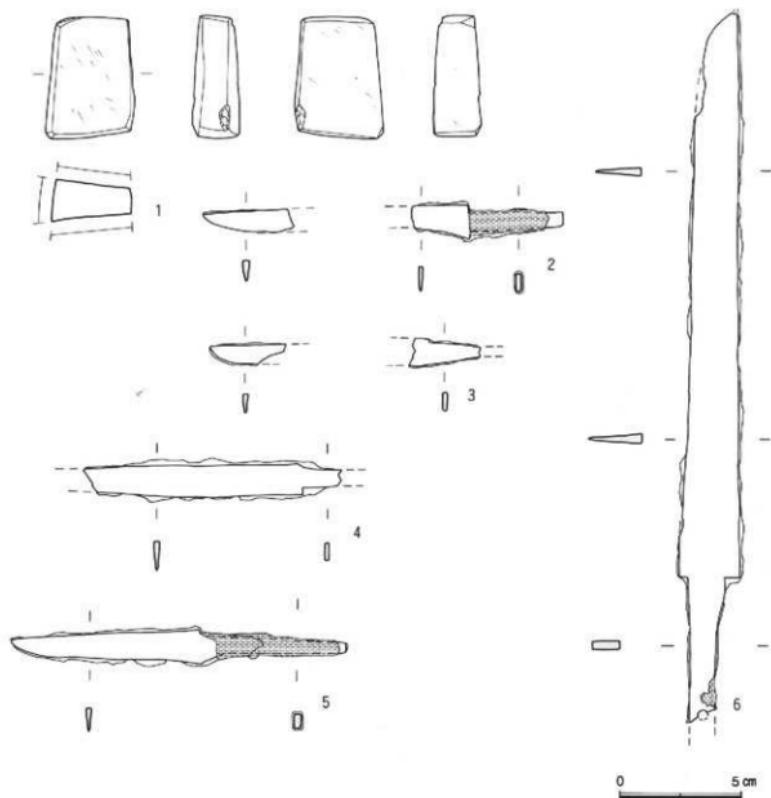
砥石（第165図-1）

石室後方から1点が出土した。台形状を呈し、最大長5.10cm、最大幅3.65cm、厚さ1.90cmを測る。材質は灰白色の流紋岩質凝灰岩である。

鉄製品

刀子（第165図-2～5）

破片、完形を含め5点が出土し、1～4までは刃部、茎部の破片である。6は鋒、茎尻を欠損してい



第165図 谷津原9号墳出土遺物

るが両闇の刀子である。7は両闇の刀子で、茎部には木質が良好に残存する。

直刀（第165図-6）

平造り不均等両闇の直刀で、茎尻が欠損しているため全長は不明だが、現存長29.1cm、身部長23.15cm、身幅は関部で2.5cmを測り、鋒に行くに従い幅が狭くなる。幅1.50cm、厚さ0.4cmの茎部をもち、棟から5.50cmに目釘孔と思われる孔片がある。茎部には微かに木質が残存している。

表100 谷津原9号墳刀子計測表

番号	遺構	全長	身 部				茎 部				備考
			長	幅	厚さ	断面形	長	幅	厚さ	断面形	
165-1	9号墳	(3.75)	(3.75)	1	0.3	楔	-	-	-	-	-
165-2	9号墳	(6.2)	(2.4)	0.8	0.15	楔	4.8	0.75	0.2	長方形	木質アリ
165-3	9号墳	(3.1)	(3.1)	0.8	0.2	楔	-	-	-	-	-
165-3	9号墳	(2.9)	(0.8)	1.15	-	楔	(1.1)	0.9	0.2	長方形	
165-4	9号墳	(10.65)	(9.05)	1.25	0.2	楔	(1.6)	0.8	0.2	長方形	
165-5	9号墳	13.7	7.8	1.4	0.2	楔	5.9	1.25	0.3	長方形	木質アリ
165-6	9号墳	(29.1)	23.15	2.5	0.4	楔	(5.95)	1.5	0.35	長方形	目釘孔 木質アリ

谷津原12号墳出土遺物

土器（第166図－1～16）

土器は完形、破片を含め須恵器15点、土師器1点が出土した。出土位置は1・3・14が石室床面から、他の土器は石室覆土、周溝、周溝内覆土から検出された。

2は合子状坏身である。体部及び底部の大半を欠損しているが推定で最大径16.00cm前後、口径14.00cm前後を測る。3は合子状坏蓋で、全体的に半球形状を呈する。口径10.90cm、器高5.00cmを測り、天井部に渦巻きの回転ヘラケズリ、体部・口縁部境にはヘラ状工具による沈線を施す。5～8はいずれも破片であるが、口径12.00～14.00cm前後の坏蓋で、6にはつまみの接合痕がみられる。9は箱型の形状を呈する無高台坏であるが重みが著しく、焼成が悪い。10～12は箱型の形状を呈する高台坏で、10は器高が低く、11・12は器高が高い。底部にはすべて断面四角形の低い高台がつく。底部は回転ヘラケズリ調整を施し、体部には強いノタ目がみられる。11・12は焼成が悪く、特に11は2個体が融着した未製品である。14は口縁～頸部が欠損しているが、体部が扁球形状を呈する平瓶である。15・16は甕で15は口縁部破片、16は口縁部が欠損している。1は丸底を呈する土師器坏で、体部と口縁部に明瞭な段をもつ。底部から体部外面は、手持ちヘラケズリ後、ヘラミガキ、口縁部外面及び内面はナデ調整の後、丁寧な細かいヘラミガキを施す。

装身具

丸玉（第166図-17）

風化しているが、琥珀製の丸玉で色調は青灰色を呈する。最大径1.20cm、孔径は0.4cmを測る。

耳環（第166図-18）

長径3.10cm、短径2.85cmを測り、断面は円形を呈する。洞芯を曲げた環体に金属箔を付着させている。

不明鉄器（第166図-19）

長さ4.95cm、幅0.40cm、厚さ0.10cmの板状鉄片をくの字状に折り曲げている。破片であるため、その用途については明らかでない。

鉄製品

両頭金具（弓金具）（第166図-20～23）

石室奥壁付近から4点が出土している。形状は筒状を呈し、円筒形の皮金に筋状の芯金を差し込む構造となる。全長は3.00～3.45cm、皮金部は長さ1.90～2.65cm、0.60～0.80cmを測る。20・23には花弁状の折り返しが残存し、20では4弁が確認できた。20・22には皮金部に木質が遺存する。

刀子（第167図-1）

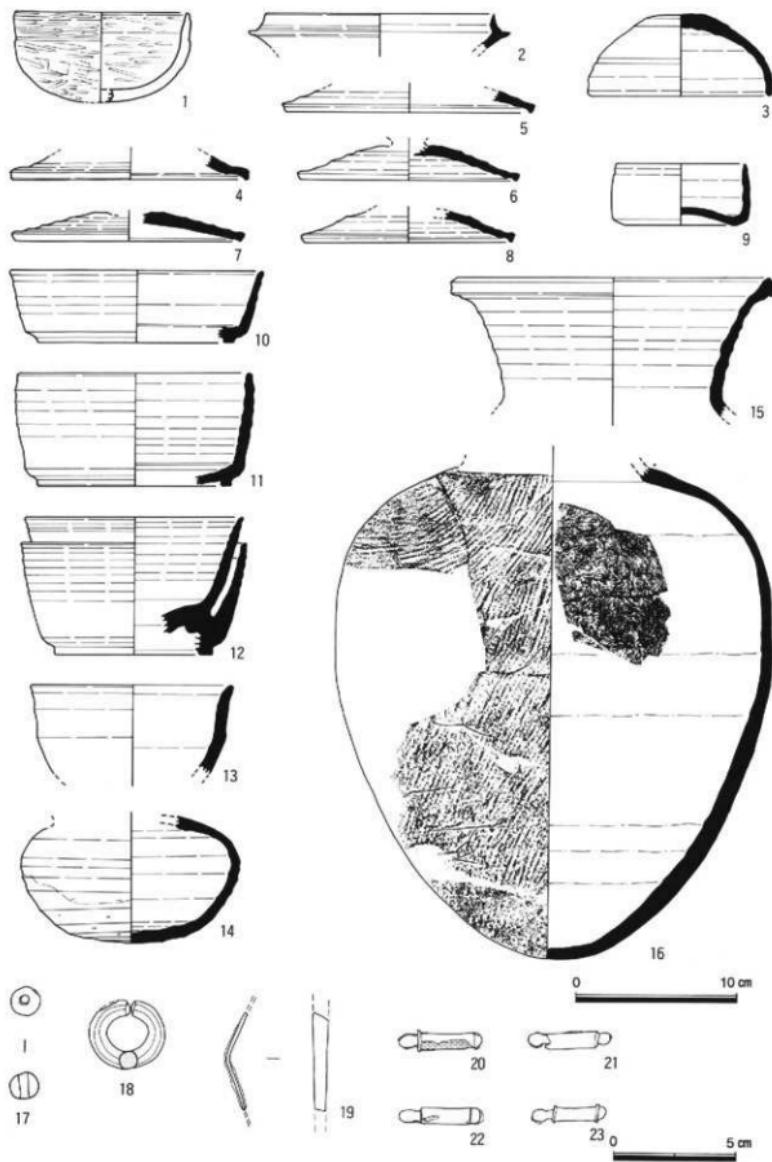
無闇の刀子だが、刃部の大半が欠損している。茎部には木質が認められる。

鉄鎌（第167図-2～20）

鉄鎌は完形、破片を含めて19本が出土している。形態的には広根系、長頸系に大別される。

広根系鎌は10本を数え、主頭鎌群、三角形鎌群、腸抉三角形鎌群に分類される。2は方頭斧箭式に分類され、鎌身部の形態が方頭、角閂を呈し、短い断面方形の茎部がつく。3は変形飛燕式で鎌身部が底辺の長い三角形を呈する。頭部は棘状閂で、茎部には木質が残存する。7・8は鎌身部が五角形を呈し、浅い逆刺がつく。9～11は三角形鎌に分類される。10には浅い逆刺がつき、11はふくらが発達している。13・14は腸抉三角形式に分類され、鎌身部が三角形を呈し、逆刺がつく。頭部はすべて棘状閂となる。

4～6・12・16～20はすべて長頭鎌に分類され、頭部の残るものにはすべて棘状閂を有し、6・16・18は茎部に木質が遺存する。鎌身部が三角形を呈し、角閂のもの（4・12）、鎌身部が三角形を呈し、逆刺のつくもの（6・12）に細分される。



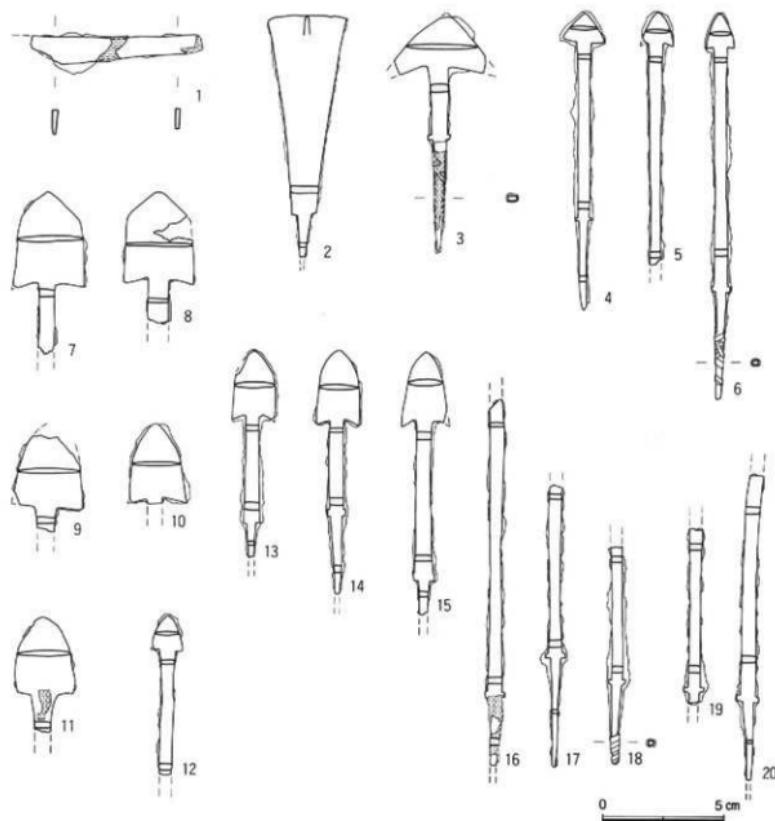
第166図 谷津原12号墳出土遺物（1）

表101 谷津原12号墳土器觀察表

番号	溝底 遺物	相別 割合 存・ 残・ 破・ 無	口径 直徑 高さ 基部	形態の特徴	後法の特徴	色調 灰度 度量	備考
166-1	12号墳 石室床面	上縁部 底盤 3/4存	10.4 3.5	直腹部は直筒を呈する。底盤から1.5倍の 高さに直筒な腰をもつ。底盤下すから 1.5倍部がくびれ立つ。底盤を丸く削 めめる。	底盤は半球・シーケンスのものにて 成る。腰部が外反の内凹部 ナット部點のもの。丁寧な手作り。	3YR2/1栗褐色 黒、赤褐色等の 良好	
166-2	12号墳 石室床面 (東)	直腹部 底盤 受け盤/残存	13.8 —	12号墳石室床面はながら上ぶり、腰 部前面が△角形を呈する。	口縁部から受け盤は斜傾チザ。	2.5GY1/オリーブ灰 黒、白色等の良 好	
166-3	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/3存	10.9 5	全体に半球形を呈する。口縁部は半球 内凹部にて成る。	天井部は回転へく張り。口縁部と 底盤は△角形を呈する。	3Y6/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-4	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	14.2 —	口縁部は内側部を下す。底盤部は 直盤部より底盤に張り出する。	内斜アーチ脚部。	N4/栗褐色 半球、白色等の良 好	
166-5	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	14.5 —	口縁部は直線部にて下し、底盤部は 二角形を呈する。	回転チザ脚部。	3YR1/青褐色 黒、白色等の良 好	
166-6	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	13.2 —	天井部は口縁部まで外方に張り出 す。腰部はくびれ立つ。底盤部は 三面削を呈する。	天井部は回転へく張り。	N5/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-7	12号墳 石室床面(東)	直腹部 底盤 1/6存	13.7 —	大底盤から1.5倍部まで外方に弧状に 開く。口縁部はくびれ立つ。底盤部は 三面削を呈する。口縁部はくびれ立 つ。腰部は△角形を呈する。	天井部は回転へく張り。	3.5Y7/栗褐色 黒、白色等の良 好	腰部等に 剥離有り
166-8	12号墳 東西内壁上	直腹部 底盤 1/6存	12.5 —	1号墳はやや直筒形を呈す。腰部折 り返し部は△角形を呈する。	天井部は回転へく張り。	N4/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-9	12号墳 東西内壁上	直腹部 底盤 1/6存	7.8 6.6 5.6	腰部の直筋を呈する。平底の直底部 を呈す。腰部を立てる。平底部内側に立 て立てる。	底盤部は直筋へく張り。1.5倍部 内側部は直筋でなく、腰部前面に立てる 腰部を呈する。	N5/栗褐色 黒、白色等の良 好	歩み易い 良好
166-10	12号墳 周辺地表土(東)	直腹部 底盤 1/6存	15.3 12 4.4	平底の直筋部と△外方に弧状的に 開く。腰部はくびれ立つ。底盤部内側の 腰部を呈する。腰部前面に立てる。	底盤部直筋へく張り。1.5倍部 内側部は直筋でなく、腰部前面に立てる 腰部を呈する。	10Y5/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-11	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	11.7 6.9	半球の直筋部から腰部へ開く。そこか ら直筋部に立ち上がる。腰部前面の 腰部を呈する。腰部前面に立てる。	先端部直筋へく張り。底盤 内側部は直筋でなく、腰部前面に立てる 腰部を呈する。	3.5Y7/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-12	12号墳 周辺地表土	直腹部 底盤 1/6存	13.6 9.5 6.8	外方に直筋の直筋から腰部へ腰曲 し、腰部を立てる。腰部前面に立てる。 腰部前面は直筋でなく、腰部前面に立てる 腰部を呈する。	腰部前面は直筋へく張り。底盤 内側部は直筋でなく、腰部前面に立てる 腰部を呈する。	N3/栗褐色 黒、白色等の良 好	表面剥離不良
166-13	12号墳 周辺地表土上	直腹部 底盤 1/6存	32.2 —	体盤部の△外方に直筋へ内側して立ち 上る。口縁部は△外方に立てる。腰部を 平らに直筋部に立てる。	内、外側部に回転チザ脚部。	3Y6/栗褐色 黒、白色等の良 好	若干剥落有り
166-14	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	13.4	底盤は半球形薄壁部を呈する。	腰部から底盤部下部は回転へく張 り、のちに直筋部へ。	N6/栗褐色 黒、白色等の良 好	外側に自然剥 離
166-15	12号墳 石室床面	直腹部 底盤 1/6存	19.7 —	腰部から口縁部にかけてラッパ状に厚 く。口縁部前面が△角形を呈する。	内、外側部に回転チザ脚部。	3.5Y7/栗褐色 黒、白色等の良 好	
166-16	12号墳 覆土	直腹部 底盤 1/6存	26.7	口縁部に丸みをもつ。底盤は直筋部を呈 する。	腰部はタクティカルが盛され、底盤部 前面にはタクティカル有る直筋部が立 て立てる。	5Y7/栗褐色 黒、白色等の良 好	黒褐色有り

表102 谷津原12号墳鐵錠計測表

番号	遺物	全長	身			頭			尾			備考			
			外径	闊部	高	厚	頭部	長	幅	厚	身				
167-2	12号墳	(10)	方彌形	8.25	3.25	0.3	無頭	—	(1.75)	0.6	0.2	長方形			
167-3	12号墳	9.35	正三角形	—	(2.4)	0.8	2.2	錐状頭	3	1	0.35	4.55	0.5	0.2	長方形 木質アリ
167-4	12号墳	12.3	正三角形	1.2	1.8	0.2	錐状頭	7.3	0.5	0.3	3.65	0.35	0.25	長方形	
167-5	12号墳	(10.25)	正三角形	逆刺	1.4	(1.3)	0.15	—	(9.05)	0.6	0.25	—	—	—	
167-6	12号墳	15.8	正二角形	角頭	1.4	1.25	0.2	錐状頭	10	0.55	0.25	4.4	0.4	0.2	長方形 木質アリ
167-7	12号墳	(6.95)	柳葉形	角頭	(3.95)	3	0.2	—	(3)	0.7	0.4	—	—	—	
167-8	12号墳	(5.4)	八角形	逆刺	3.8	2.9	0.1	—	(1.9)	0.9	0.15	—	—	—	
167-9	12号墳	(3.95)	正三角形	角頭	(3.15)	2.85	0.2	—	(0.9)	0.85	0.25	—	—	—	
167-10	12号墳	(3.0)	長三角形	逆刺	(3.3)	2.4	0.15	—	—	—	—	—	—	—	
167-11	12号墳	(4.75)	長三角形	角頭	(3.2)	2.15	0.2	—	(1.65)	1.1	0.25	—	—	—	木質アリ
167-12	12号墳	(6.5)	正二角形	所用	(1.45)	1.25	0.15	—	(6.1)	0.7	0.3	—	—	—	
167-13	12号墳	(8.5)	長二角形	逆刺	(2.85)	1.85	0.2	錐状頭	4.35	0.65	0.3	(1.4)	0.4	0.2	長方形
167-14	12号墳	(10)	長三分角	逆刺	3.15	1.75	0.2	錐状頭	3.9	0.6	0.3	(3.2)	0.45	0.25	長方形
167-15	12号墳	(10.85)	長三角形	逆刺	(10.95)	1.85	0.25	錐状頭	6.55	0.75	0.3	(1.4)	0.45	0.2	長方形
167-16	12号墳	(15.05)	—	—	—	—	—	—	(12.3)	0.6	0.3	(2.75)	0.3	0.25	長方形
167-17	12号墳	(11.55)	—	—	—	—	—	—	(7.05)	0.5	0.3	4.5	0.4	0.15	長方形
167-18	12号墳	(8.9)	—	—	—	—	—	—	(5.65)	0.45	0.3	(3.23)	0.4	0.2	木質アリ
167-19	12号墳	(7.2)	—	—	—	—	—	—	(6.75)	0.55	0.3	(0.45)	0.4	—	長方形
167-20	12号墳	(12.5)	—	—	—	—	—	—	(11.3)	0.8	0.3	(3.2)	0.45	0.15	長方形



第167図 谷津原12号墳出土遺物（2）

谷津原14号墳出土遺物

土器（第168図-1・2）

土器は須恵器2点が確認された。2点ともに石室床面直上から検出され、1は石室後方部から、2は石室中央部から検出された。

1は須恵器壺身で口径11.60cm、半球形状を呈し、口縁部が内折する。底部から体部下間にかけて同心円状の回転ヘラケズリを施す。2は須恵器平瓶で扁平な球形の体部に、外反気味に立ち上る長い頸部もつ。底部から体部下間にかけて同心円状の回転ヘラケズリを施す。

装身具

勾玉（第168図-3）

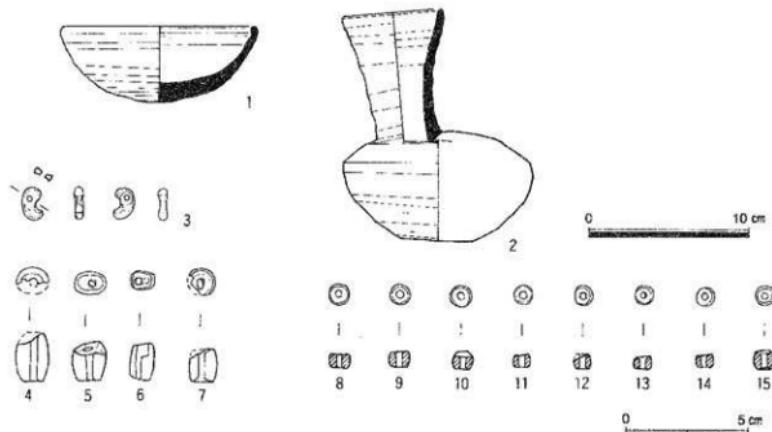
チャート製の小型勾玉で長さ1.35cm、幅0.75cmを測り、色調はオリーブ灰色を呈する。六角の面取りがなされ、稜は明瞭である。紐孔は両側から穿孔される。

棗玉 (第168図-4~7)

4点が出土した。材質はすべて琥珀だが遺存状況は悪く、6のみが完形であった。6は長さ1.60cm、幅1.10cmを測る。孔は片側から穿孔される。

白玉 (第168図-8~15)

蛇紋岩製の白玉で8点が出土しているが、風化が著しく遺存状況が悪い。径0.6cm前後を測り、色調は暗青灰色を呈する。



第168図 谷津原14号墳出土遺物

表103 谷津原14号墳玉計測表

番号	遺構	種類	最大径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	色調	材質	備考
168-3	14号墳	勾玉	1.35×0.75	0.4	0.2	0.5	オリーブ灰色	チャート	
168-4	14号墳	裏玉	2.1×1.3	0.7	0.3	1.8	茶色	琥珀	
168-5	14号墳	椎玉	1.6×1.35	0.7	0.3	1.1	茶色	琥珀	
168-6	14号墳	束玉	1.6×1.1	0.78	0.3	0.9	茶色	琥珀	
168-7	14号墳	棗玉	1.38×1.3	0.9	0.46	1.2	茶色	琥珀	一部欠損
168-8	14号墳	白玉	0.85	0.6	0.3	0.6	暗青灰色	蛇紋岩	
168-9	14号墳	白玉	0.6	1.2	0.3	0.6	暗青灰色	蛇紋岩	
168-10	14号墳	白玉	0.6	0.7	0.3	0.7	暗青灰色	蛇紋岩	
168-11	14号墳	白玉	0.6	0.55	0.3	0.3	暗青灰色	蛇紋岩	
168-12	14号墳	白玉	0.6	0.6	0.3	0.2	暗青灰色	蛇紋岩	一部欠損
168-13	14号墳	白玉	0.65	0.5	0.3	0.4	暗青灰色	蛇紋岩	
168-14	14号墳	白玉	0.6	0.53	0.25	0.4	暗青灰色	蛇紋岩	
168-15	14号墳	白玉	0.6	0.7	0.3	0.8	暗青灰色	蛇紋岩	

表104 谷津原14号墳土器観察表

番号	真面/裏面	器物 形状 表面 性質 有無	口径 底径 高さ	形態の特徴	技法の特徴	色調 釉上 焼成	備考
168-1	14号墳 石室床面	瓶形 肩有 形	11.6 — 4.85	全体に端斜を呈する。I(縦隔壁)は内折する。	底部外周から体部下半は回転ヘクドリ。 I(縦隔壁)内部に比較的多く。	10Y7/1灰白色 釉 良好	内面自然釉付有 外内重ね焼き有り
168-2	14号墳 石室床面	瓶形 平底 无形	5.95 4.76 14.2	底部からI(縦隔壁)にかけてやや外反気味に立ち上る。体部は緻密な織物状を呈し、表面に明顯な接ぎ目有り。	底部外周から体部下半は回転ヘクドリ。 I(縦隔壁)内部に比較的多く。	10Y7/1灰白色 釉 良好	体部外周自然釉付有

第2節 中世の遺物

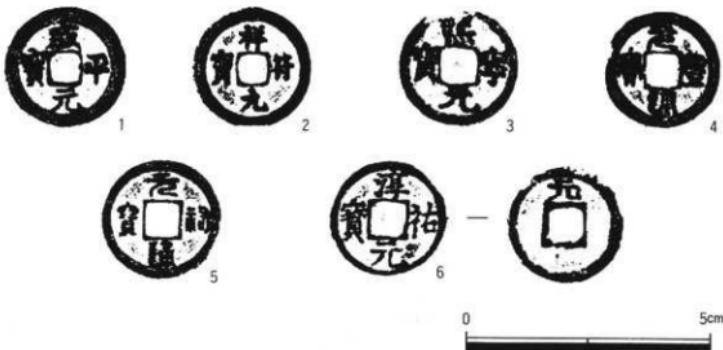
1 銭貨・鉄製品

銭貨（第169図）

SF-02から出土している。六文銭で、2～6まで北宋銭である。

火打金（第170図）

SF-02より六文銭とセットで出土している。平面形は山形を呈する。両端の突出はみられない。頂上部の小孔は2.5mmを測り、方形を呈する。刃部長は7.6cm、幅7.95cmを測る。刃部周辺には、繊維が付着する。



第169図 谷津原遺跡SF-02出土銭貨

表105 谷津原SF-02銭貨寸測表

番号	調査区	名称	遺構・位置	直徑(mm)	重量(g)	孔径(mm)	書体	初鑄年代	備考
169-1	谷津原古墳群	咸平元宝	SF-02	24.5	3.0	6	真書	998	
169-2	谷津原古墳群	祥符元宝	SF-02	24	2.8	6	真書	1009	
169-3	谷津原古墳群	熙寧通寶	SF-02	24.5	2.8	7	真書	1068	
169-4	谷津原古墳群	元豐通宝	SF-02	23.5	2.8	7	篆書	1078	
169-5	谷津原古墳群	元祐通宝	SF-02	24	3.8	7	篆書	1086	
169-6	谷津原古墳群	淳祐元宝	SF-02	23	2.8	6	真書	1241	背元



第170図 谷津原遺跡SF-02火打金

第3節 繩文時代の遺物

1 石器

原石（第172・173図）

縄文時代の土坑から6点が一ヶ所に固まった状態で出土した。いずれも長野県諏訪の星ヶ台産の黒曜石である。長さが6.9～9.9cm、幅7.3～10.2cm、厚み4.4～7.7cm、重量339.3～590.3gの範囲に分布する。平均すると長さ8.45cm、幅9.08cm、厚み5.98cmと、比較的大形で塊状を呈する。1点のみや大きめではあるが、それ以外は360g前後に集中し、比較的まとまった値であることが分かる。ほぼ全面を自然面あるいは風化面が覆う。部分的に剥落しているものの、剥片採取のための剝離作業が行われた痕跡は認められなかった。覆土からは曾利V式の土器が少量ではあるが出土しており、ほぼ同時期に属すると思われる。

縄文時代の黒曜石集中出土例は長野県を中心に見られる。屋内例と屋外例があり、屋外の場合には土坑や地面の凹みに残されている例が多い。いずれも未加工の原石がほとんどで、多いものでは数十個単位で出土している。谷津原古墳群の黒曜石原石に関しても、明らかに土坑を伴なうものであること、他県における検出例との類似性などから考えて、意図的な埋納として捉えた。黒曜石の集中出土について、長野県の場合には黒曜石の産出地周辺に集中して見られることから、近隣・遠方集落への黒曜石の供給という一面をもつものと考えられている。また、長野県立石遺跡では墓坑に伴なう副葬品として捉えている。今回の調査では他に縄文時代の遺構が検出されなかつたため、いずれの性格を反映したものかは定かではないが、以前に丘陵上で石臼炉の存在が確認されており、丘陵一帯に営まれた集落に伴なう遺構であったと考えられる。

参考文献

長崎元廣 1993 「縄文の黒曜石貯蔵例と交易」『中部高地の考古学』III

茅野市教育委員会 1994 「立石遺跡」

長野県教育委員会 1980 「船塚社遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書一岡谷市その4』

長野県教育委員会 1982 「御社宮司遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書一茅野市その5』

表106 SF-03原石計測表

番号	出土遺構	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
172-1	SF-03	黒曜石	7.10	8.50	6.60	368.8	
172-2	SF-03	黒曜石	7.70	9.40	5.00	352.9	
172-3	SF-03	黒曜石	9.60	10.20	7.70	590.3	
173-4	SF-03	黒曜石	6.90	9.70	6.00	363.3	
173-5	SF-03	黒曜石	9.50	9.40	4.40	407.3	
173-6	SF-03	黒曜石	9.90	7.30	6.20	339.3	

黒曜石原石の原産地推定

1 蛍光X線分析

富士川SA関連遺跡では700点以上の黒曜石が出土しているが、大半が破魔射場遺跡からの出土である。しかし、縄文時代の注目される遺構、遺物として谷津原古墳群から縄文時代の黒曜石の埋納土坑を検出した。その土坑内からは、黒曜石の原石が6点出土し、県内では黒曜石の埋納土坑の検出例は少ないとから蛍光X線による黒曜石の原産地推定を行った。

1 谷津原古墳群内の埋納土坑から出土した6点の黒曜石の原石を分析

2 測定は、国立沼津工業高等専門学校助教授望月明彦氏に依頼した。

2 測定方法とデータ処理

判別図法、及び判別分析によって原産地推定を行った。分析には、セイコー電子工業社製の卓上形エネルギー分散蛍光X線分析装置SEA-2110Lを用いた。測定した元素は、アルミニウム(Al)ケイ素(Si)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)である。判別図法では、各元素の蛍光X線強

度から、産地推定に有効な各指標を計算する。各指標は以下の式で求められる

$$\text{Rb分率} = \text{Rb強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$\text{Sr分率} = \text{Sr強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} - \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

これらの指標値をプロットしてグラフ化したものと、各原産地試料から得られた原石のプロットとを比較することによって推定を行った。

多変量解析は、上記の指標を用い、各試料ごとに各産地群とのマハラノビス距離を算出し、最も距離の近い原石群にその試料が属すると判定する方法である。また、マハラノビス距離から、試料が各産地群に属する確率が求められる。

3 結果

判別法では、6点ともに諏訪星ヶ台産と推定される。また、判別分析においても、その確率は信頼性が高いとされる「！」を示しており、従って埋納土坑出土の黒曜石はいずれも諏訪星ヶ台を原産地として判定できる。

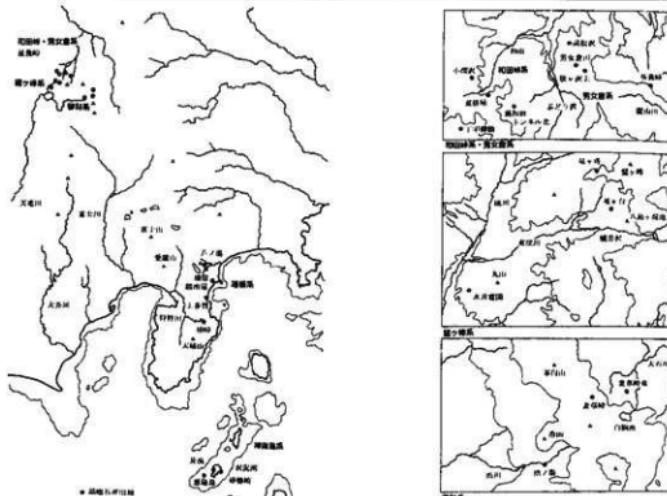
参考文献

草月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里 1994 「遺跡内における黒曜石製石器の原産地分布について」『静岡県考古学研究』 26

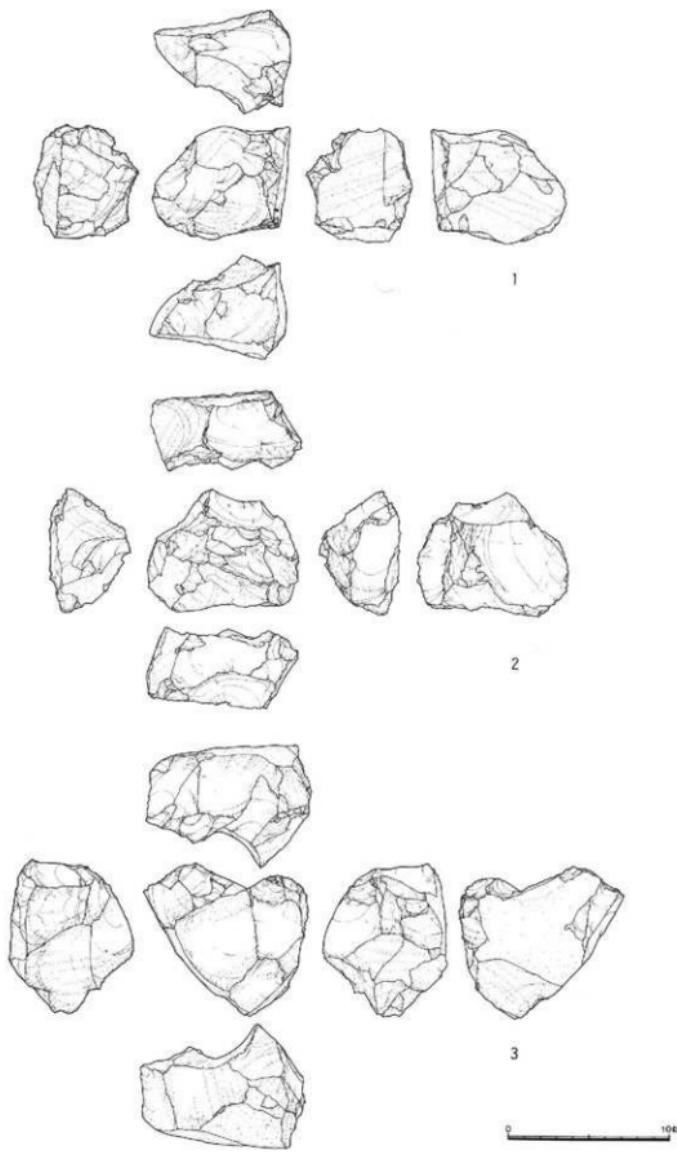
望月明彦 1999 「蛍光X線分析による初音ヶ原遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定」『初音ヶ原遺跡』 三島市教育委員会

表107 SF-03原石产地分析結果

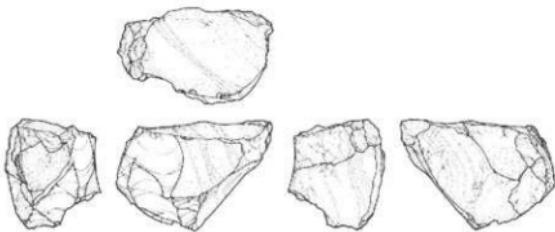
番号	判別図	解析1	解析2	距離1	距離2	確率1	確率2	備考
172-1	SWHD	SWHD	WDTN	8.053	63.48	1	0	
172-2	SWHD	SWHD	WDTN	4.998	87.695	1	0	
172-3	SWHD	SWIID	SBIY	8.089	90.65	1	0	
173-4	SWHD	SWIID	SBIY	0.789	68.691	1	0	
173-5	SWHD	SWIID	SBIY	5.622	101.278	1	0	
173-6	SWHD	SWIID	SBIY	1.166	89.914	1	0	



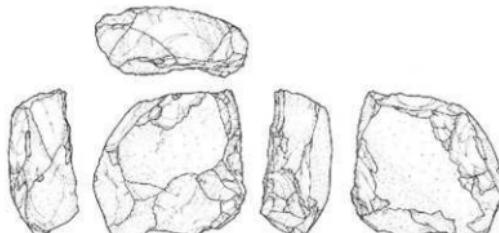
第171図 黒曜石原産地



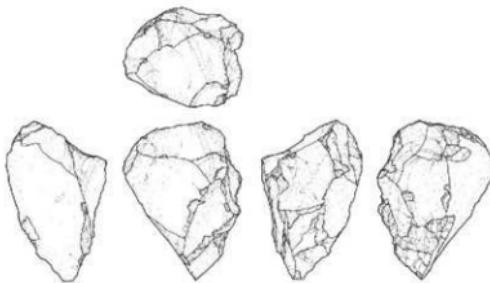
第172図 黒曜石原石 (1)



4



5



6



第173図 黒曜石原石 (2)

第IV章 北久保遺跡の調査

第1節 明治時代の遺物

1 土管（第174図）

北久保遺跡で出土している土管は導排水施設として使用され、量は膨大な数にのぼる。そのため大きさ、形状、刻印の有無などから特徴的なものを抽出した。形状はソケット付F1型であり、大きさは4種類である。（柿田 1992）また器種としては直管と曲がり管の2種が確認でき、一部の直管には改良の刻印が認められた。

窯について

明治33年末に常滑陶器同業者組合が発足し、その事業の一環として翌年に平地窯（全面焚倒焼式角窯）が完成し、それまでの大窯・登窯に替わり土管の焼成に用いられるようになった。この窯の燃料はすべて石炭で薪材を用いた大窯・登窯の60%の燃料費で済み、品質が均一になるため明治36年から逐次普及し、41年には15基に及んだ。常滑ではこの後昭和の初期まで平地窯であったが、大窯・登窯も改良され、一部は大正、昭和戦前まで利用された。なお、本遺跡出土の土管は石炭で焚かれている。

原料土について

明治30年の常滑焼の原料土は、年間常滑村1,052トン、常滑周辺の現在の美浜町から2,922トンを採取していた。これらの土は可塑性が高く、鉄分を含む大物造りに適した良質土であったが、大正期には砂の混入したものが、さらに、昭和に入ると頁岩（クズ土）を一般的に利用するようになった。本遺跡出土の土管は常滑・美浜産の土を使用していた時期に焼成されたものである。

釉薬について

明治初期には、木灰と白粉（磨粉）を混ぜ合わせた灰釉が使用されていたが、明治34年頃より釉薬にマンガン錫を混入するようになった。この結果、釉薬はより低温でガラス化し、艶のある黒色を呈し良く焼け締まった印象を与えた。反面、低温焼成に移行したために、圧縮強度が極端に低下し、割れやすい土管を出荷するようになった。また、明治34年に食塩掛けを行い、マンガン釉単独の場合よりさらに低温で焼成する業者が増加した。食塩釉が掛けられた土管が本格的に生産されるようになったのは、大正11年以降であり、本遺跡出土の土管はマンガン釉が掛けられ、低温焼成されたものである。

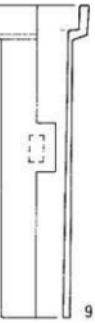
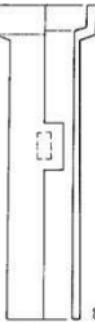
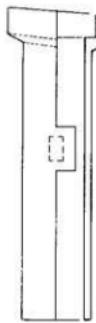
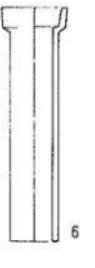
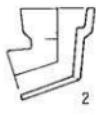
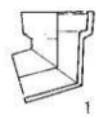
製作技法について

明治5年、神奈川県の横浜新埋立居留地建設に伴い、R.H. ブラントンは常滑の鰐江方寿に極めて堅牢な下水道管を依頼した。翌年、伝統的な紐つくり成形から、木型による新成形法を考案して、翌年納入した。明治7年には、京都一大坂間の鉄道建設に伴う鉄道土管公募の際に方寿の土管が採用されて、これを契機として常滑の土管産業は他の地域を大きく引き離した。

「改良」の刻印について

常滑焼は、日清戦争前後から日露戦争前後の第1次・第2次産業革命以後を契機に、明治11年から明治45年の約30年間に8倍近く生産額を伸ばしている。この大量生産の背景には、急増した公共事業に伴う鉄道土管・上下水道土管・一般土管の需要を反映したものであるが、マンガン釉を始めとした生産コストの削減や焼成温度の低温化に生産者を走らせ、常滑土管の質の低下が生じた。

常滑同業組合は、製品の重量（量目）について実地調査の結果をもとに、明治36年8月5日に總会を開催し量目増加を決議し、8月18日より各製造者に勧行する旨通達し、19日付けで焼成品改良検査勧行寸法表を配布している。8月28日は竹村陶器商店から「組合員中ヨリ改良ノ件ニ付申出之件」を議案に

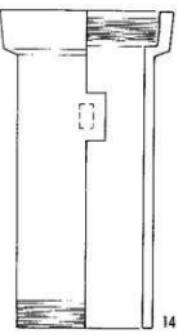
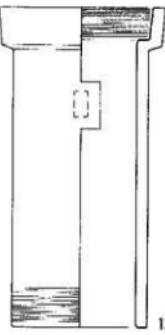
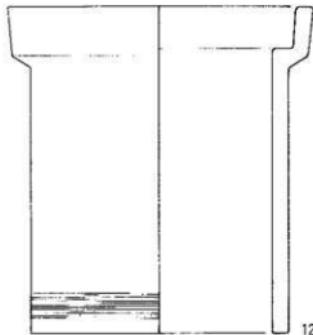


改良

改良

改良

改良



改良

改良

0 50 cm

第174図 土管

表108 土管計測表

番号	造構	上部(cm)			下部(cm)			全長(cm)	備考
		外径	内径	厚さ	外径	内径	厚さ		
174-1	11号土管	14.8	11.8	1.5	10.4	8.2	1.1	17.6	L字形
174-2	11号土管	15	12	1.5	10.5	8.2	1.2	18.6	L字形
174-3	11号土管	15.4	12.4	1.5	10.5	8	1.3	49.5	
174-4	11号土管	14.5	11.5	1.5	10.5	8	1.3	53	
174-5	11号土管	14.4	11.8	1.3	10.7	8.2	1.3	51.2	
174-6	11号土管	13.8	11.1	1.4	10	7.6	1.2	48	
174-7	8号土管	20.5	16.5	2	14.5	11.5	1.5	62.5	改良
174-8	5号土管	21.6	17.2	2	15	12	1.5	64.4	改良
174-9	5号土管	21.5	17.5	2.2	14.3	11.3	1.5	64	改良
174-10	7号土管	20.5	16.5	2	14.5	11.5	1.5	62.5	改良
174-11	10号土管	24.5	20.5	2	18.4	14.8	1.8	67	
174-12	12号土管	62.7			53	46	3.5	66.8	
174-13	4号土管	34.5	29.6	2.5	28	23.4	2.3	65.6	改良
174-14	4号土管	36	30	3	287	24	2	65	改良

同日午後に総会を開催する旨の通達が出されている。この時から「改良」の刻印が付されたと考えられるが、明治45年に電力供給されることにより、製造過程が機械化され、登窯から平地窯へ転換された。こうして品質向上とコストダウンが実現すると組合による自主規制の役目を終えたと考えられる。つまり、明治36年後半から明治45年の限られた期間に組合による「改良」と刻印された土管が生産されたことを示すものであるといえよう。そして、本遺跡出土の土管は、古跡社が明治38年から明治41年に建設されたことから、「改良」の自主規制のごく初期段階に製造出荷されたものと考えられる。

価格について

発行年が不明であり、かつ小売り価格や卸価格であるのかはっきりしないが、当時の常滑陶業購買販売組合の定価表によれば「三寸 二銭四厘（中略）二尺五寸 二円二十銭」とあり、高価な商品であったことが窺える。

本遺跡では三尺土管をはじめ、膨大な数の土管が埋設されており、当時、土管は鉄道用の土管や下水道用など公共事業に供されていたことを考えれば、個人で高価な土管を使用することは、あらためて田中光顧伯爵の莫大な財力を示すものであろう。

参考文献

柿田富造 1992 「土管使用の変遷－古代から明治まで」『常滑民俗資料館研究紀要V』 常滑市教育委員会

柿田富造 1994 「土管の製作技法の変遷」『常滑民俗資料館研究紀要IV』 常滑市教育委員会

常滑市民俗資料館市政40周年記念特別展 1994 「土管の歴史～飛鳥から現代まで～」 常滑市

常滑市民俗資料館学芸員中野晴久氏には土管を実見していただき、また多くの参考資料を提供して下さいました。ここに心より感謝申し上げる。

2 煉瓦（第175図）

煉瓦は建物を構成する部材であり、本来は遺物というよりも遺構の一部としての性質を有する。本遺跡では、3基の煉瓦組遺構が検出された。これらは圓面よりトイレ遺構と考えられ、検出された煉瓦の量は膨大にのぼる。ここでは刻印の施されたものに限って報告する。

煉瓦建築概要

日本に赤煉瓦が本格的に導入されたのは安政年間の長崎の軍事工場であり、関東では慶應年間の横須賀である。初期煉瓦建築で著名なものは、神戸居留地の街や明治11年竣工の東京銀座煉瓦街建築が挙げられる。特に、銀座煉瓦街の建設は、日本における建築用煉瓦の製造を発展させただけでなく、広く一般に煉瓦建築を理解したものと位置付けられている。

製造法

成形方法には手抜成形と機械成形がある。手抜成形は型に粘土を入れ、取り出す成形方法である。機械成形はブロックになった粘土をピアノ線で切断し、小口・長手・小口の3面を磨き整える方法である。ピアノ線で切るため、表面には縮縫状の痕跡が残る。また連続成形が可能であり、圧力も加わるため大量で良質の生地を得ることができる。本遺跡では赤煉瓦は含まれず、焼きのあまい蜜柑色、肌色煉瓦であるため、手抜成形の煉瓦である。

焼成窯

焼成には登窯・だるま窯・ホフマン窯等の窯が用いられていたが、明確にそれらと関連のあるものは見い出せなかった。ただし、本遺跡出土の煉瓦は焼きむらが多くみられるため、小規模な窯で、かつ薪で焼成されたと考えられる。

寸法について

現在のJIS規格より長さ・幅ともに大きく明治時代の寸法と言える。

煉瓦の規格は地域・年代により異なり5種類に分けられる。

東京形 7寸5分×3寸6分×2寸 (227×109×60.6mm)

並形 7寸4分×3寸5分×1寸7分5厘 (224×106×53mm)

作業局形 7寸5分×3寸6分×1寸8分5厘 (227×109×56mm)

山陽形 7寸5分×3寸5分5厘×2寸3分 (227×107×70mm)

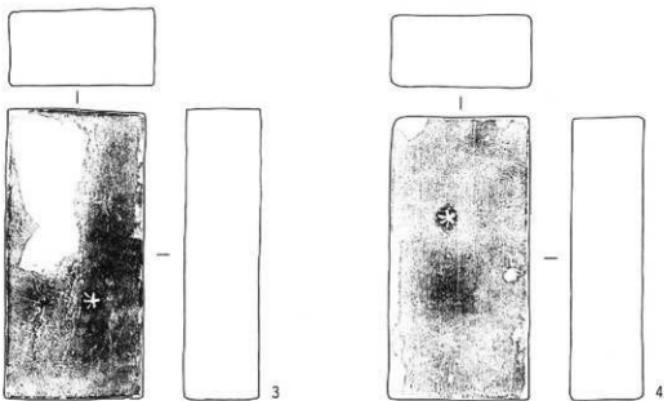
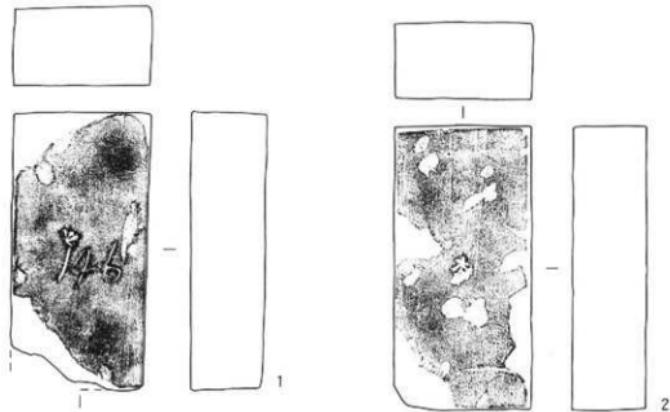
山陽新形 7寸2分×3寸4分5厘×1寸7分 (218×105×52mm)

煉瓦の規格はこの後1925年（大正14年）に210×100×60mmが日本標準規格（JES）になった。本遺跡の出土煉瓦は東京形が大半である。

刻印について

煉瓦の刻印には製造会社を示すマーク（社印）と職人、職人の班を示すマーク（責任印）があると言われている。本遺跡では刻印の施されないもの、「木」の刻印が施されたものに分けられる。

「木」の刻印から業者や生産地を特定するに至らなかつたが、明治時代後期ということから現地調査つまり静岡で焼いた可能性が高い。周辺では静岡県内で最大規模を有したと言われる江尻製造所が挙げられる。また、刻印を押していることから専業者によるものであるが、煉瓦自体の焼きがあまく、手作業による煉瓦であることから、小規模な窯または町工場で焼かれた可能性が高いと言える。参考として、古鎌莊の入り口部分に建てられた煉瓦造りの建物は、当初、堆肥小屋として建てられたものであるが、そこで使用されていた煉瓦には「T」の刻印が認められた。これは大正7年以降に製造された長坂煉瓦製造所（庵原郡辻村）のものであることが判明した。



0 10 cm

第175図 煉瓦

表109 煉瓦計測表

番号	遺構	焼成色	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	刻印	備考
175-1	1号レンガ組	赤10R5/8	22.8	11.2	6	2204.8	木	「146」
175-2	2号レンガ組	赤10R5/8	23.4	11.4	6.1	2283.8	木	
175-3	2号レンガ組	橙2.5YR6/8	23.7	11.3	6.3	2514.4	木	
175-4	1号レンガ組	橙2.5YR6/8	23.4	11.6	5.9	2294.5	木	

参考文献

- 横浜開港資料館 1985 『日本の赤煉瓦』
- 舞鶴市赤レンガ資料館 1993 『赤レンガ物語』
- 舞鶴市赤レンガ資料館 1995 『横浜居留地のれんが石出兵一コレクション』
- 日本煉瓦株式会社 1990 『日本レンガ100年史』
- 橋沢広己 1988 『東京駅と煉瓦 JR東日本で巡る日本の煉瓦建築一』
- 水野信太郎 1992 『炎の中で生まれた近代 文明開化とあだちの煉瓦』 足立区郷土博物館

第V章 まとめ

第1節 破魔射場遺跡

1 繩文土器のまとめ

出土した土器は配石遺構、住居跡に伴う縄文時代中期後半～後期前半の上器が多量に出土している。曾利式土器は曾利I～V式までほぼ均等な出土数があり全体の7割を占める。次いで堀之内式が占める。ここでは、本遺跡の主体となる中期後半の曾利式土器に視点を向け、若干のまとめを述べておきたい。

曾利式土器

曾利I式古（1～6）

SB-6から豊富に出土している。器形は筒形を呈するもの（1）、波状口縁を呈し、口縁部に隆帯が垂下するもの（2）、胸部がふくらみ、口縁部は外反するもの（3）、口縁部は内湾し、無文（4・5）、褶曲文（6）をもつものなどがある。頸部は、格子目文がつくもの（3・4）、狭い横位の文様帶（波状隆帯が巡るもの・半裁竹管状工具による押引き）等がある。胸部は隆帯による字文（5）、懸垂文（1）等がある。隆帯は2本単位でモチーフが描かれ、上には刻みがみられる。地文は棒状工具による1本引きの条線文が多く、半裁竹管状工具による押引きもみられる。

曾利I式新（7～21）

SB-9、SB-16から豊富に出土している。口縁部の膨らみは大きく内湾し、無文（7）、頸部の隆帯は幅広くなり、波状隆帯、横位隆線が多条になる（9）。斜行条線に斜位の隆帯が貼付されるもの（16・17・19・21）などバラエティに富む。胸部は波状隆帯を垂下させるものが多く、地文は半裁竹管状工具、櫛齒状工具による条線文が一般的である。

また、曾利I式に共伴する土器群として東海地方西部から東部にかけて分布する北屋敷土器が少量認められる。北屋敷土器は、器壁は硬質、薄手で、角状の突起を有し、口縁部の区画内に連続刺突文を施す土器であり、文様構成の変化から3段階の変遷を考えられている。当遺跡では、北屋敷3式に比定される。波状口縁を呈し、三日月状、三角状の区画帯に、連続刺突文が施される土器が出土している。その他、表裏面、口縁端部に繩文を施す粗製土器も出土しており、これは曾利II式まで残るようである。

曾利II式（22～34）

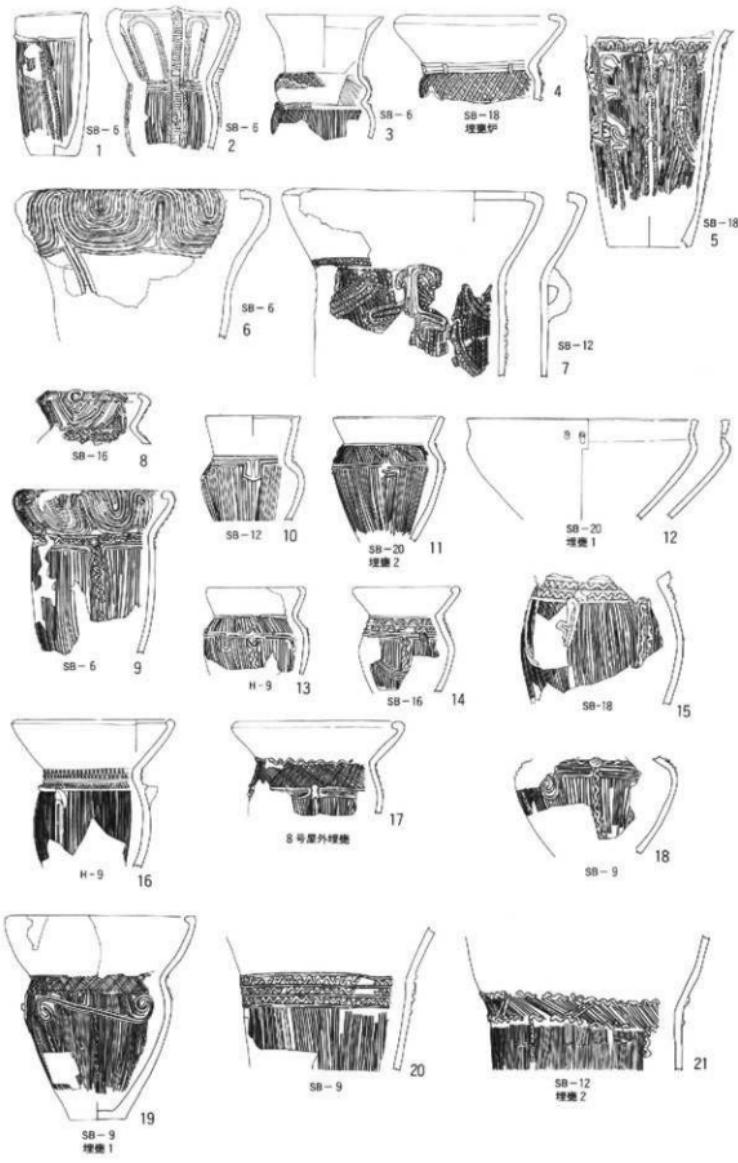
胸部地文に繩文をもつ土器群が多くみられる（22～31）。口縁部は無文（22～24）、加曾利E式の影響を受けたと考えられる口縁部に文様帶をもつもの（25～27）、變形（30）、壺形土器（31）がみられる。また、籠目文土器と呼ばれる口縁部に重弧文（33・34）、格子目文（32）がみられる。

曾利III式（35～42）

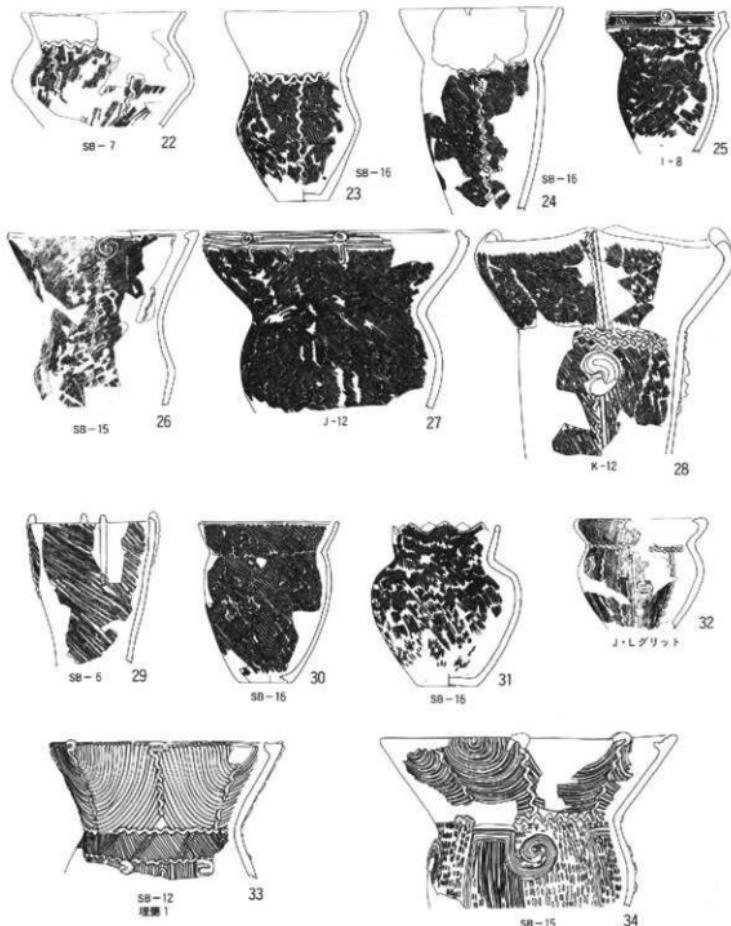
口縁部に文様帶をもち、渦巻つなぎ弧文（35・45～47）、口縁部を肥厚させた横S字文（36）、円文（43）がみられる。胸部は大柄渦巻文（35・36・37）、H字状垂文（44）。把手付鉢形土器がみられる（52～54）。

曾利IV式（43～72）

深鉢の口縁部文様帶は退化し、横位に1条の太い沈線が巡るものが多くなる。胸部のくびれは弱くなり、口縁部は大きく開く。胸部は隆帯とその両脇の沈線によるU状の区画を施し、中央に蛇行沈線文が垂下する。地文に縦位の条線や陵杉状の条線がある。田の字状区画文を有するもの（61）、肥厚口縁部をもつものは低くなり、省略化される（43）。



第176図 曾利式土器変遷図（1）

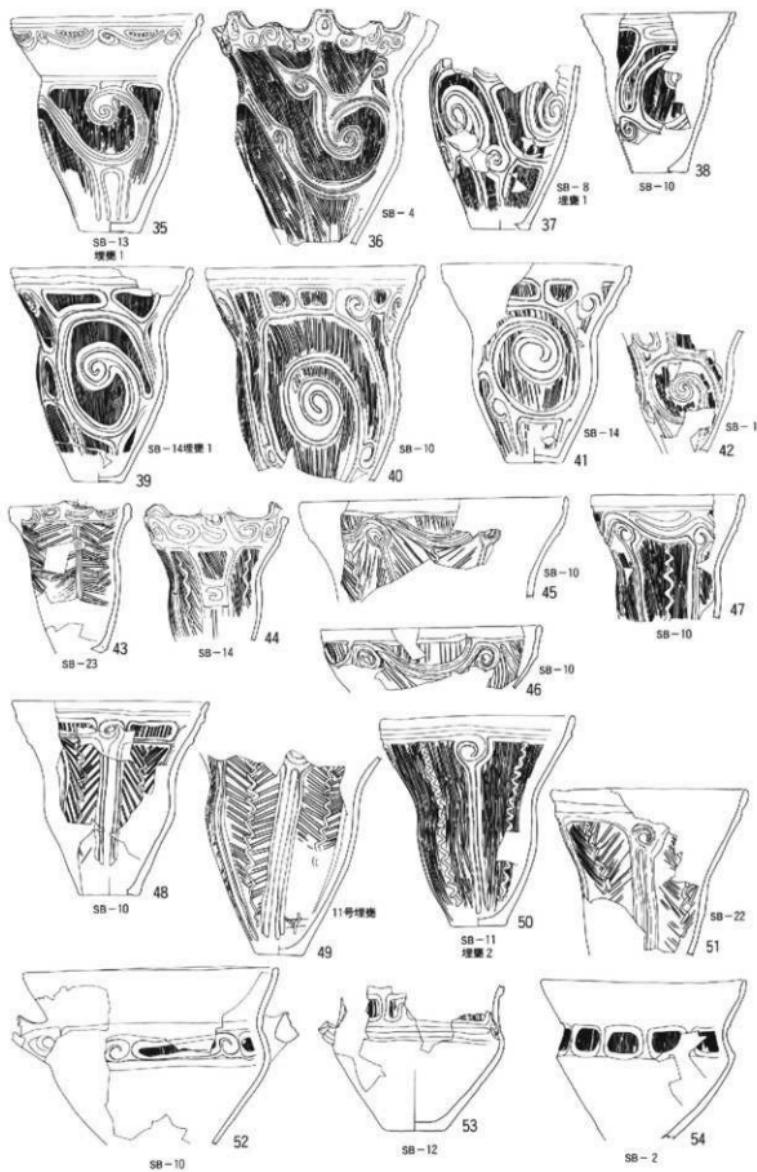


第177図 曽利式土器変遷図（2）

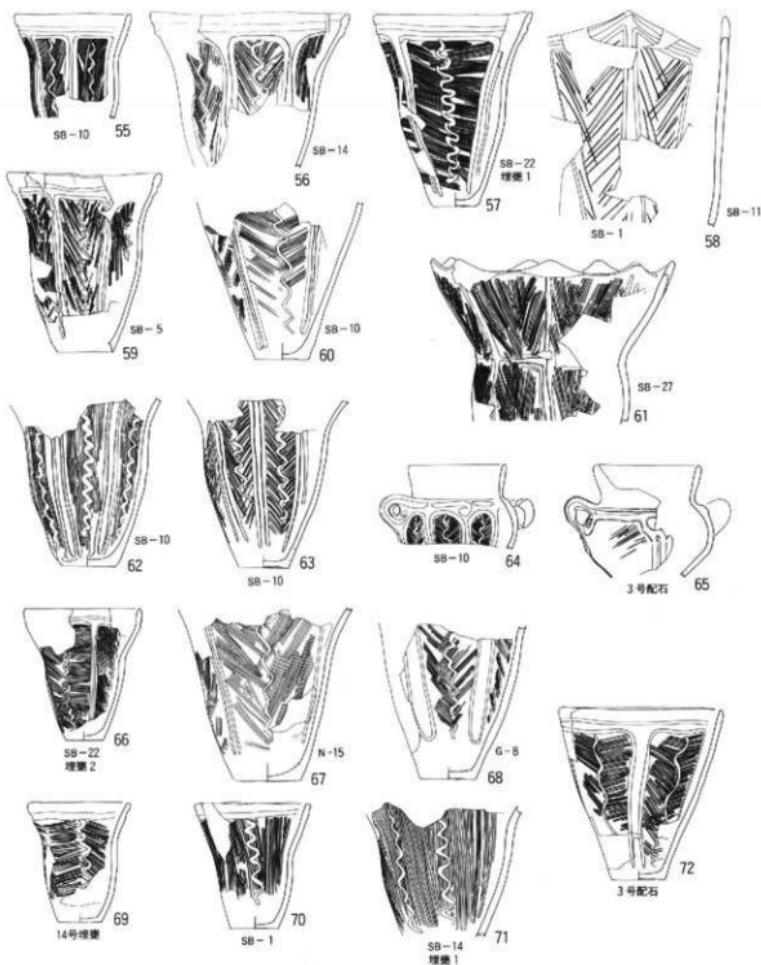
曾利V式 (73~90)

地文にハ字文をもつものが一般的で、器形はわずかに括れて直線的に開くものが多い。沈線による口縁部文様帯をもつもの (73~78)、X字状把手付大型深鉢 (76・82)、口縁部文様帯をもつものには横円文をもつもの (73~75)、渦巻文と弧線文の組合せ (77)、田字区画を有するもの (79) がある。1条の沈線が巡り、字状の区画を有するもの (80・83~84)、H状の懸垂文 (80) がある。

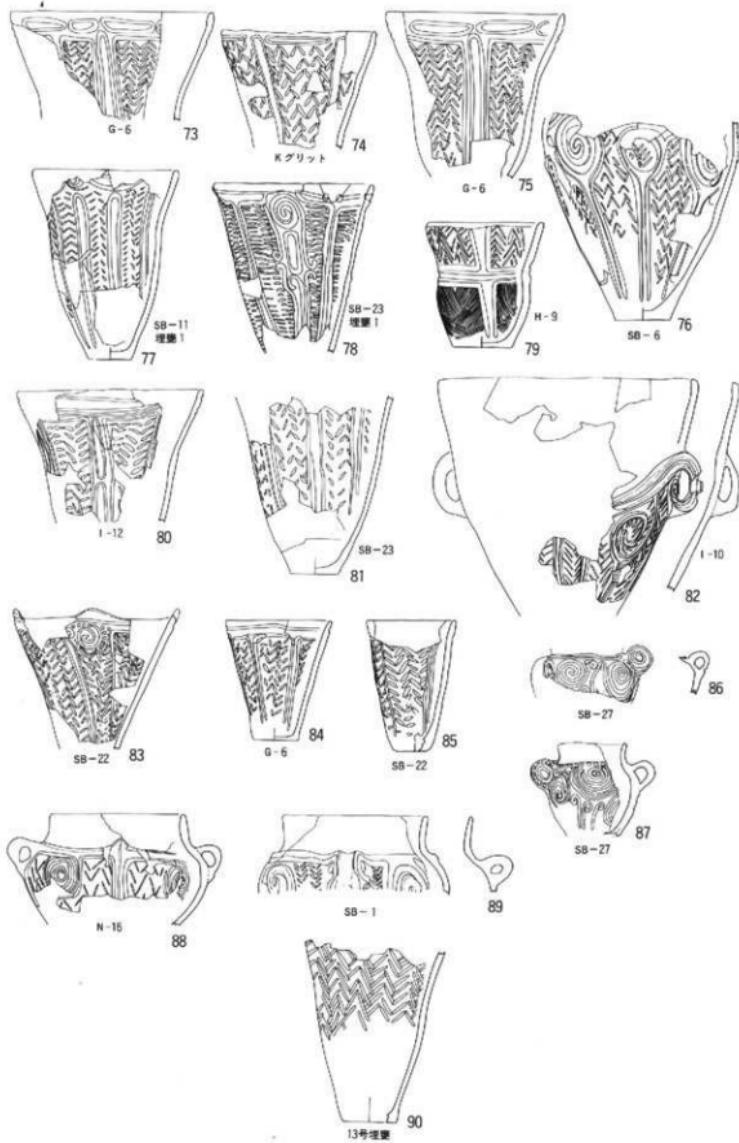
脚部に渦巻文と蕨手文をもつ両耳壺 (86・87)、脚部に渦巻文とハ字文の組合せ (88・89) がみられる。さらに、省略化が進み、沈線による区画はなくなり、浅いハ字文が施される (90)。



第178図 曽利式土器変遷図（3）



第179図 曾利式土器変遷図（4）



第180図 曾利式土器変遷図（5）

2 石器

a. 組成

器種認定が可能な石器として、1660点の出土が確認できた。個々の器種については各項で述べた通りである。ただし、出土数はあくまでも限られた調査区内で検出された数であって、実際に使用された石器の数をそのまま反映したものではないが、出土数から得られる資料を対象として検討を行いたい。

推定される機能ごとに狩猟具（石鎌・石槍）、加工具（石錐・楔形石器・二次加工剣片・スクレイバー・石匙・敲石）、採集具（打製石斧・盤状石器）、伐採具（磨製石斧）、漁撈具（石錐・浮子）、調理具（凹石・磨石・蝶の巣石・石皿）、祭祀具（石棒・石劍）、その他（有孔石製品）の8つに大別を行った。なお、狩猟具・漁撈具は動物性食糧、採集具および調理具は主に植物性食糧に対するもの、加工具は一部食糧加工の可能性も含むが主に石器製作・手工業に関するもの、伐採具は木材加工に関するものとして捉えた。

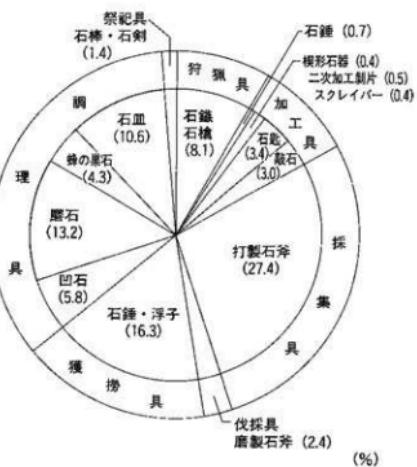
食糧獲得手段に関わるのは狩猟具・採集具・漁撈具・調理具で、全体の8割を超える。このうち、最も割合の低いのは石鎌で、わずか8%であった。打製石斧とではおよそ3倍以上の差が生じる。石鎌が目立って少ない理由としては、一つには実際の存在数自体が少ない、つまり生業における狩猟の占める割合が低かったことが想定できる。さらに、石鎌の使用される場が集落外であり、かつ動物を対象としていたとするならば、消費・廃棄という点では、集落に遺存する率が実際よりも低い可能性も十分考えられよう。石皿・磨石・凹石を根茎類・堅実類の調理加工に関わるものとすると間接的にはあるが採集活動の一端であり、それらを含めると採集活動が占める割合は8割を超える。破魔射場遺跡では採集および漁撈活動に主体をおいた生業が行われ、特に採集活動への依存がかなり高かったことが推測されよう。なお、食糧獲得以外の石器は、加工具・伐採具・祭祀具などわずかで、特に精神面に関わるものには装身具と思われる1点を含めても2%に満たない。

b. 遺構との関わり

出土の特徴は概要で述べた通りである。出土遺構としては住居跡（495点）・配石（175点）・集石土坑（3点）・集疊群（1点）が挙げられる。時期別に見ると、そのうちの7割が中期後半の遺構に伴うものであることがわかる。中期後半は住居跡、後期は配石で比率が高い。住居・配石間でも出土数に誤差が認められる。住居跡では、SB-9、SB-15（31点）、SB-18（31点）、SB-25（30点）、SB-12（30点）の頃に出土量が増す（註1）。配石は、33号配石、17号配石（18点）、1号配石（17点）が多い一方で、出土数0点は17号配石にのぼる。ただし、配石出土の石器については意図的な配置か、あるいは単に配石出土面で検出されたに過ぎないのかの判断が難しいため、大量に出土していてもそれらが全て配石に伴うとは断定できない。

SB-9では打製石斧の51点を極大として97点もの石器が出土しており、遺構からの出土数としては最

表110 石器組成表



多である。また、SB-25から30点が出土している。後期に属する遺構は大半が配石で住居跡はSB-25を含め5軒のみであるが、他の4軒は最大でも12点を出土するにすぎないのに対し、唯一この住居跡だけが多数の石器を伴っており、柄鏡形敷石住居という特異性からも注目すべき点である。石鍤の石材と思われる扁平な円礫も26点出土している。大半は覆土からの出土であるが、床面での検出状況を見ると比較的まとまっている例が多い。また、床面出土の石器は石皿・磨石・蜂の巣石といった調理具が目立つており、住居との関わりが想定される。

環状列石である33号配石からは石皿を主体に48点が出土した。配石内の出土位置は器種によっていくらかの違いが認められる。石皿・蜂の巣石は特に環状や弧状を成す部分に配されている。配石出土数が住居跡出土数を上回る点や、石皿に破損品が多いことなどから、石皿・蜂の巣石を配するという行為自体に単なる石材としての転用以上の何か意図的なものを感じられる。しかし、出土状況を見る限りでは配石を構成する他の石材との間に特に違いは見出せなかった(註2)。石棒は小配石の中心や弧状配石の内側で検出されており、その場所が石棒を主体とする何らかの祭祀の場であったと考えられよう。一方、磨石や打製石斧といった比較的小形の石器は縄によって区画された内側に多く見られる。配石で検出された石器はほとんどが食糧獲得に伴う器種に限られており、そこで執り行われた祭祀を反映するすれば、少なくともこれらの石器を伴出する配石においては食糧生産に関連した性格を想定できるのではないだろうか。また、配石土坑に伴って磨製石斧が出土している。その他の石器は確認されておらず、特異な例といえるかもしれない。

c. 住居跡出土石器の変化

先に述べたように總出土数のおよそ3割が住居跡からの出土であった。これらの住居は伴出した土器から曾利I～V式および堀之内1式に属すると推定される。各住居跡出土の石器に関してはこれに当て嵌めて検討を進めた(註3)。ただし、住居跡出土の石器は全てが住居内において使用されたのではなく、住居廃絶に際して投棄された石器も含むと考えられる。そのため、住居と石器とは時期を違えるものであるかもしれないが、厳密な区分が不可能であり、かつ石器の時期は土器型式による推定が最も適当であると思われる。また、検討対象とするデータは住居跡出土に限定せざるを得ないが、総数に占める割合の低さから全体的な変化に振り替えることはできない。従って、類推の範囲にとどめておきたい。また、各時期での住居数が異なるため、一軒あたりに換算して比較を行う(註4)。

曾利II式の住居が最も多くの石器を伴出する。曾利III式で半数以下に減少し、以降は横ばい傾向にある。これとほぼ同様に減少傾向にあるのが磨石・石匙などで、特に打製石斧で著しい。曾利II式をピークとし、時期が下るにつれて激減しており、最後の堀之内1式では最盛期の四分の一以下にまで減少する。ほとんど変化の見られないのは凹石・石皿で、どの時期にもほぼ一定数を保っており、普遍的な存在であったことが窺える。むしろ、一軒あたりの組成に換算すると打製石斧が低下するのに対し、調理具は徐々に割合が上昇している。石鍤・石錐にも同様の傾向が認められる。特に、石鍤は一軒あたりの保有率では平均2個前後と比較的安定しており、さらに組成で見ると堀之内1式では打製石斧を2倍位以上も上回る29%を占めている。また、曾利V式では大半の器種で割合の低下が見られる中で、石鍤だけに増加が認められた。堀之内1式段階になると、打製石斧・石鍤は少數を占めるだけとなり、逆に石錐・調理具、特に蜂の巣石が増加する。全時期を通して採集活動に関わる石器が大半を占めるものの、時期別の変化としては狩猟および漁獵への比重の分散化が感じられる。

調理具を含めた植物採集具の占める割合は曾利I式をピークに下降傾向にあるが、石皿類にほとんど変化が見られないことを考えあわせると植物性食糧への依存率が低くなったのではなくて、単に打製石斧が減少したことによると考えられる。打製石斧が減少してもなお調理具の割合が変化しない点については採集活動の対象物自体に変化があったと捉えることができるのではないだろうか。

表111 時期別住居跡石器出土表

時期	住居数	石鏟	石鋸	石斧	刮片	スクレイパー	石塊	打片	磨片	石錐	敲石	凹石	磨石	石棒	蜂の巣石	石皿	小計
資料I	2.0	1.0 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1.0 (0.5)	3.0 (1.5)	26.0 (13.0)	0 (0.0)	5.0 (2.5)	0 (0.0)	2.0 (1.0)	8.0 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2.0 (1.0)	48.0 (24.0)
II	7.0	1.0 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1.0 (0.1)	19.0 (2.7)	118.0 (16.9)	4.0 (0.6)	21.0 (3.0)	0 (0.0)	6.0 (0.9)	25.0 (3.6)	1(0.1) (0.1)	2.0 (0.3)	13.0 (1.9)	221.0 (31.6)
III	9.0 [†]	4.0 (0.4)	0 (0.0)	2.0 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4.0 (0.4)	56.0 (6.4)	2.0 (0.2)	23.0 (2.6)	0 (0.0)	6.0 (0.7)	16.0 (1.8)	0 (0.0)	2.0 (0.2)	6.0 (0.7)	122.0 (13.4)
IV	6.0	11.0 (1.8)	2.0 (0.2)	0 (0.0)	1.0 (0.0)	0 (0.0)	1.0 (0.2)	20.0 (3.3)	1.0 (0.2)	11.0 (1.8)	3.0 (0.5)	4.0 (0.6)	7.0 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	5.0 (0.6)	66.0 (11.0)
V	2.0	5.0 (2.5)	2.0 (1.0)	0 (0.0)	1.0 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	5.0 (2.3)	0 (0.0)	4.0 (2.0)	0 (0.0)	1.0 (0.5)	3.0 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1.0 (0.5)	22.0 (10.5)
概算内 I	5.0	1.0 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2.0 (0.5)	0 (0.0)	1.0 (0.2)	7.0 (1.4)	1.0 (0.2)	16.0 (3.2)	2.0 (0.4)	6.0 (1.2)	6.0 (1.2)	0 (0.0)	8.0 (1.6)	5.0 (1.0)	54.0 (10.8)

※()内は一耕あたりに換算した数値を示す

(註1) SB-4は石器が全く出土していないが、他の住居によって住居跡の大半が削られているため石器供件の有無は不明である。同様に出土数の少ない住居跡の中にはトレンチや住居によって削平を受けているものも見られるため、出土数のみの単純な比較は難しいと思われる。

(註2) 『田篠中原遺跡』では、配石から出土する蜂の巣石が圧倒的に多い点や標状列石H土のものがいずれも大形である点をふまえて、蜂の巣石を「配石での使用を原則とし、そこで執行された何らかの祭祀活動に伴う祭祀具」と捉えている。

(註3) SB-23・24は2時期にまたがっているが、どの石器がどの時期に属するかを区別することができないため、それぞれの時期に含めることとした。従って、それらの時期については住居数および出土数が重複する。

(註4) 石器を伴う住居跡に限定して平均化をおこなった。

参考文献

菊池 真 1993 「縄文時代多孔石の研究—田篠中原遺跡と内匠上之宿遺跡出土多孔石の分析をとおして」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』11

小林康雄 1983 「組成論」『縄文文化の研究7 道具と技術』 雄山閣

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 田篠中原遺跡』

3 平安時代の土器

今回の調査で、出土した平安時代の土器は土師器・灰釉陶器が大半を占め、綠釉陶器・墨書き土器が僅かにみられる。これらの土器はテンバコにして50箱程度で、住居数の割には、遺物量・復原できた土器は少量である。

供膳形態においては、駿東・甲斐型壺が少量出土し、高台付碗、碗形態に近い無高台の碗、皿に近い無高台の碗が大半を占める。無高台の碗は、体部は回転ナデによる調整のみで、底部は糸切り無調整である。体部の形状は、直線的に立ち上がるもの、やや外反するものなど様々である。また、足高高台付壺が出土している。こうした土器は、**「若田C遺跡20号住居跡、中島下舞台遺跡第22号住居跡、桶田遺跡第4号住居跡、長伏穴反田遺跡、沼津市長井崎遺跡、清水市廬崎遺跡」**に類例が認められる。

灰釉陶器は碗が主体を占め、編年からみてK-90窯式段階から終末の百大寺窯式段階までみられる。その灰釉陶器の産地は、量的に尾張・三河地域が優位で、県内産は少ない傾向にある。田方平野では、県内産の灰釉陶器が大半を占めるのに対し、本遺跡とは異なった様相である。

煮沸形態は、本遺跡では、清郷型壺が主体を占める。駿東型壺といった在地的な壺は確認されず、くの字に屈曲する口縁部をもつ甲斐型壺・甲斐型と同じ胎土、色調、ハケ調整による羽釜が少量認められる。

清郷型壺は三重・愛知・静岡での出土が認められる。ほとんどが口縁部から胴部の破片で、全体の器形を窺う資料は少ないが、O-53窯式段階から終末の百大寺窯式段階までに伴うとされる。器形は球胸丸底で、口縁部は頂部が突出し、断面が三角形をなす。調整は、胴部が指頭圧痕による仕上げ、口縁部はナデ調整がみられる。本遺跡では、永井氏により7分類された壺より、3~7類に相当する形態が認められる。また、佐野五十三氏により県内の清郷型壺がまとめられ、分布について、駿河地域では静清平野に出土例が多く確認され、島嶼遺跡・内荒遺跡など中小河川の流域沿いが一般的とされている。志太平野・富士川流域、沼津市にも分布がみられる。しかし、田方平野からは、清郷型壺の出土例は認められず、駿東型壺・甲斐型壺・羽釜が残るようである。

佐野氏は、清郷型壺を東海地方における広域流通圏のもとで成立したと位置づけている。すなわち、寄進地系莊園の拡大に伴う物資の流通体系が、律令的な陸路による人担方式ではなく、少人数で大量輸送の可能な船による河川・海上交通の発達によるものとされ、自給自足的な生産体系ではなく、古代から中世の手工業製品の生産・流通の問題の一つとして捉えている。

本遺跡の土器の在り方として、律令的な土師器壺類が消滅し、新たな高台付き碗、無高台の碗が出現する。煮沸・貯蔵形態も同様で、一定量の甲斐型壺・鉢が搬入されるものの、平底の駿東型壺は認められず、丸底の清郷型壺が主体を占めるようになる。こうした新たな器種の出現・搬入の中で、生活様式に大きな変化があったことを窺わせるが、遺構、特に竈をもつ住居跡からはその変化を見いだすことはできなかった。しかし、清郷型壺はO-53窯式段階から灰釉陶器終末までの間の短期間存続した壺であり、竈から扉が裏へといった生活様式が変化する過渡期に、盛行する商品としての煮沸具と言えるのではなかろうか。

参考文献

- 佐野五十三 1990 「清郷型壺の研究 煮沸形態からみた古代末の東海地方」『研究紀要山』静岡県埋蔵文化財調査研究所
永井宏幸 1996 「尾張平野を中心とした古代煮沸具の変遷」『鍋と壺のデザイン』第4回東海考古学フォーラム
三島市教育委員会 1983 『中島下舞台遺跡』
三島市教育委員会 1993 『桶田遺跡』三島市埋蔵文化財報告II
三島市教育委員会 1995 『大堀川遺跡群』
三島市教育委員会 1999 『長伏穴反田遺跡』

第2節 谷津原古墳群のまとめ

1 谷津原古墳群の群構造について

谷津原古墳群は現在までに1～5号墳までの調査が行われ、その結果、富士川西岸域でも古相を示す古墳群として位置付けられている。今回の調査では、前述の通り、残存状況が悪いものの古墳8基、小石室1基、溝状造構、階段状造構を確認している。

谷津原丘陵には未調査地が多く、まだその全体構造を把握できていない。しかしここれまでの調査と本調査の成果を併せることにより、群構造の一端を窺うことはできよう。現状で可能な限り、谷津原古墳群の群構造について復原してみたい。

2 各古墳の年代

谷津原古墳群の群構造を解明するにあたり、本調査で検出された古墳の年代観について考えてみたい。調査では6・8・12・14号墳の石室・墓道・周溝内で良好な須恵器資料が確認された。本稿は出土須恵器を中心として各古墳ごとにその年代を推定していく。なお、須恵器の年代については遠江編年の須恵器編年観にしたがった（註1）。須恵器の出土がみられない7・9・11・13号墳では石室内から馬具、鉄鎌等の鉄製品の出土がみられた。このため7・9・11・13号墳は須恵器以外の副葬品の組成・石室の形態・構造から時期の考察を行うこととする。なお、10号墳については遺物の出土がみられないためこれを除外をする。

6号墳は石室内から比較的良好な遺物が確認され、特に土器はその一括性が高い。須恵器は前方部から出土した出土位置によって、前方部（第158図-4・5・9）、後方部（第158図-1・2・6～8）の2群に分けられる。第158図-1・2の須恵器壺身は遠江編年第三期中葉に位置付けられる。第158図-6の鏡も県内での類例が乏しいが、第158図-1・2とほぼ同時期と推定される。第158図-7の蓋、第158図-8の脚付長頸壺も第三期後葉以前の器形と考えられる。共伴する第158図-3の土師器壺（須恵器模倣）も6世紀後半～末の器形を呈し、前述の須恵器群と同様な編年観を示す。前方部の須恵器は坏蓋（第158図-4）・碗（第158図-5）・平瓶（第158図-9）ともに第III期末葉に編年される。このように前方部、後方部の須恵器群には時期差が認められる。出土須恵器が2期に分かれることは土器の埋納回数が複数であったことを示し、追葬の可能性が考えられる。須恵器の出土状況から追葬時に遺物の片付けが行われたことも想定されるが、鉄製品等の共伴遺物が散在しているため不明確である。6号墳では2時期にわたる埋葬時期が推定され、初葬期を第III期中～末葉、追葬期を第III期末葉と捉えられた。

7号墳では土器類が検出されず、時期を明確にできる遺物が確認できなかった。このため、石室及び墓壇の規模・構造からその時期を推測してみる。本墳の墓壇は全長8.10m、幅3.12mを測る大型な規模をもつ。石室は残存状況から側壁部が墓壇と近接した構造が推定され、6号墳の側壁構造と類似しているといえよう。遺物は搅乱の影響から散在しているが、鉄製品が比較的に多く、鉢石突、組等の武具がみられる。鉄鎌は三角形鎌・腸抉三角形鎌の広根系鎌が3本に対して、長三角形・鑿箭式・片刃盤式といった鎌身部をもつ。長頸鎌が十数本と、その主体を占める。鉄鎌組成と長頸鎌の形態からも6世紀後～末葉の様相を示す（註2）。石室規模・構造、鉄製品の組成からも7号墳は6号墳と同時期を想定することができ、その年代を第III期中葉以降に位置付けができるであろう。

8号墳からは、石室開口部付近の墓道（前溝）部から坏蓋（第164図-1・2）が検出している。第164図-1は第III期後葉、第164図-2は第III期末葉に位置付けられ、出土位置から追葬・墓前祭記期の埋葬品の可能性が考えられる。石室内では遺物が少なく、土器の出土は皆無であるが、石室内出土の鉄鎌は長頸鎌で6世紀末葉以降の形態を示す。また、石室規模からも大型の6・7号墳には先行しないものと考えられる。このため、8号墳では第III期後葉に築造され、末葉まで古墳が使用されたものと推定される。

表112 谷津原古墳群計測表

古墳名	古墳 種類	墓丘規模(m) 頂行点	回復形狀 周溝幅(0.5m 間隔算定)	墓塁形状	墓塁長さ(m) 墓塁幅 基盤算定	主導面 開口方位	石室幅(m) 心室幅	敷石面積(m ²) 底面積	蓋石面積(m ²) 底面積	蓋石枚数	時期
谷津原6号墳	頂上平頂部 円形	—	心側斜面一部 0.55 0.05	長方形	8.25 3.25 0.5	無袖窓六式石室 N→E' W	8.25 1.38	全表面石 2列2段	石室底面石	第Ⅲ期守葉	
谷津原7号墳	頂上平頂部	—	—	長方形	4.1 3.12 0.3	無袖窓六式石室 N→E' W	8.25 1.38	全表面石	石室底面石	6C後半	
谷津原8号墳	頂上平頂部	—	—	長方形	5.94 2.15 0.15	無袖窓六式石室 N→E' W	5.02 0.64	全表面石 1段	石室底面石	第Ⅲ期後葉	
谷津原9号墳	頂上平頂部 (7.5) × (6.30)	(1.33) (0.11)	内側壁側 0.45 0.03	長方形	5.16 1.85 0.4	無袖窓六式石室 N→E' W	5.05 0.6	全表面石 2列1段	石室底面石	6C末～7C初	
谷津原10号墳	頂上平頂部	—	一端 0.47 0.03	—	—	無袖窓六式石室	—	—	周溝一部		
谷津原11号墳	頂上平頂部	—	—	長方形	(1.09) (1.11)	小穴室 N→S' W	(0.96) (0.23)	全表面石 —	石室底面石 中央に縫 と切り口	第V期	
谷津原12号墳	南側山中段 横円	—	半円状 2.35 0.9	不整長方形	(5.13) 3.6 (0.86)	無袖窓六式石室 N→E' W	(4.65) 1.3	全表面石	側壁4段	高田須恵器～ 第IV期前	
谷津原13号墳	南側山中段	—	—	小整長方形	(3.72) 2.19 (0.61)	無袖窓六式石室 N→E' W	(2.95) 0.92	全表面石 1段	側壁3段	第IV期前～後	
谷津原14号	南側山中段	—	半円状 0.65 0.28	不整長方形	(4.37) 2.08 (0.98)	無袖窓六式石室 N→E' W	(4.0) 1.04	全表面石 横構造	側壁4段	第Ⅲ期後葉	
破壊削除1号墳	—	—	—	長方形	(4.32) 1.59 (0.1)	無袖窓六式石室 N→S' W	(2.78) 0.73	全表面石	石室底面石	7C	

9号墳では時期を明確に判断できる遺物の出土が見られないことから、7号墳と同様、墓塁・石室規模、構造からその時期を推定してみたい。墓塁規模は全長5.20m、幅最大で1.85m、石室は内法で推定長5.05m、幅は中央部で0.60mを測り、墓塁の形状、規模とともに隣接する8号墳に類似する。構造的にも墓塁と側壁基底石が近接する構造を呈し、閉塞部も8号墳と同様な構築法を採用する。このことから9号墳は8号墳と同時期に古墳の葬送が行われていたと想定できる。

11号墳においても時期を明確にできる遺物の出土が見られなかったが、石室残存部の状況から、全長2.00m以下の小石室墳であったと推定される。小石室については本報告「遺構編」で述べた通り周辺で同規模な石室が確認されている。このような石室形態を有する古墳が築造年代を8世紀代に位置付けられているため、本墳もこの時期に造墓されたものと考えられよう。

12号墳は出土須恵器の位置から石室床面直上、石室内、周溝内の3群に分けることができる。石室床面直上からは須恵器壺蓋（第166図-3）、横瓶（第166図-14）が出土し、第IV期前葉に編年される。共伴する1土師器壺についても須恵器と同時に位置付けられる。石室内からは須恵器高台杯（第166図-11）、須恵器蓋片（第166図-15）が検出された。第166図-11は藤枝市郡遺跡にみられる助宗古窯産の高台杯にその類例が求められ、第V期前葉の年代観を示す。石室内では搅乱の影響から床面一面を確認するに留まったが、床面の須恵器と時期差があること追葬があった可能性を示す。周溝内からは須恵器の出土が最も多く、覆土から須恵器蓋（第166図-4～8）、高台杯（第166図-12）がみられた。特に第166図-12は融着資料であり、本墳出土遺物の中でも注目すべき遺物である。器形、技法とも第166図-11に類似し、同様な年代を示す。

このことから本墳2時期に渡る埋葬があったと推定され、初葬期を第IV期前葉～後葉、追葬及び墓前祭祀が行われた時期を第V期前葉と理解できよう。

13号墳では石室内外共に出土遺物が確認できなかった。開口部付近は搅乱の影響による破壊が著しいが、石室規模、構造から12・14号墳と同様な石室形態・閉塞構造を採用していると推測される。周辺の古墳群でも類例が認められ、その時期を第IV期前葉～後葉として捉えている。このため本墳の造営期を室野坂、妙見古墳群同時期に位置付けたい。

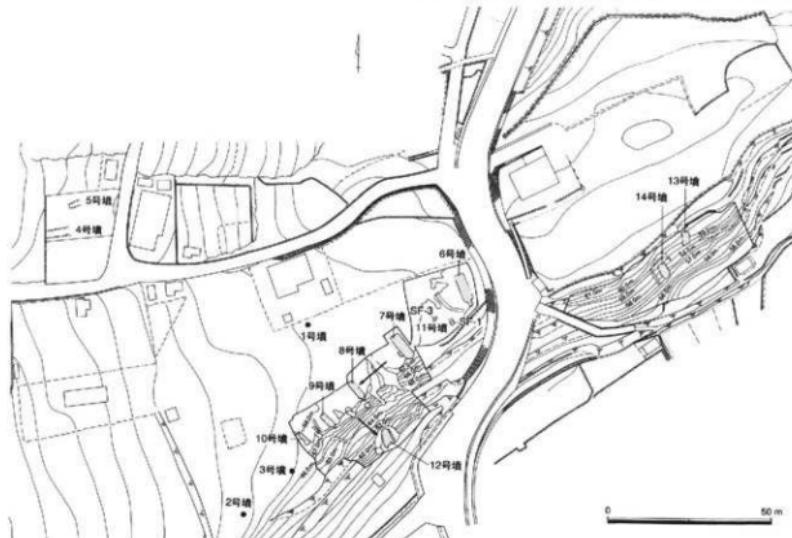
14号墳は石室床面後方から第168図-1を、中央部から第168図-14を検出している。器形、技法から両

者ともに湖西古窯産須恵器の特徴を示す。その時期は第IV期後葉段階に位置付けられ、したがって本墳も築造年代を第V期後葉と判断した。

3 古墳の分布と系譜関係について

ここでは年代が明らかである1・2号墳を加え（註3）、各古墳の分布とその系譜について整理してみたい。古墳はそれぞれ丘陵頂上部平坦地、斜面部に分かれ分布する。第III期中葉の6・7号墳は丘陵頂上南縁部に位置する。第III期後～末葉に編年される8・9号墳は6・7号墳と同様、丘陵頂上南縁部に立地する。同時期に編年される2号墳についても同地に分布する。第III期中葉と報告される1号墳は丘陵北縁部に位置し、前述の5基とは立地状況を異にする。このように頂上部に分布する古墳は1号墳を除き、SD1・2を境界としてその規模と時期が明確に分かれれる。溝状遺構の時期が明らかでないが、状況から区画溝としての機能をもっていた可能性が高い。これに対して第IV期前葉～後葉の12・13・14号墳はいずれも丘陵南斜面に位置している。12号墳は丘陵中央部の南斜面中腹から裾部に、13・14号墳は丘陵東部の南斜面上部に立地する。斜面部の古墳も頂上部と同様に規模・時期によって、その占地に明確な区分が認められる。時期が先行する12号墳が丘陵中央部に占地され、時期が降るにつれ、新相を示す13・14号墳が東側斜面地に造営されていくのである。しかし、第V期以降に編年される11号墳については大型古墳の空隙間に占地され、計画的な占地状況がみられない。同時期の古墳は周辺山稜の斜面部に分布する妙見古墳群に群在する傾向がみられるが、本古墳群では攪乱で破壊されたものを考慮に入れても少なく、単独墳的な様相を示している。このように谷津原古墳群では第III期中～後葉までが頂上部に、以降、第IV期前葉で斜面部に墓域が移行し、以降第V期後葉に統く状況がみられ、11号墳を除き、古墳の占地が計画的に行われたことが窺われる。

次に群内での系譜関係を考えてみよう。頂上部に立地する6・7号墳、8・9号墳はそれぞれ規模に差があるものの、形態・構造の点で類似している（註4）。特に7・8・9号墳は隣接し、開口方位もほ



第181図 谷津原古墳群変遷図

は同一方位を示す。このことから被葬者間に密接な関係があったと推測され、7号墳が8・9号墳に対して須恵器1型式差で先行することから、7号墳→8・9号墳への系譜が考えられるであろう。6・7号墳は主体部の規模、出土遺物から群内でも上位階層の墳墓であったと考えられる。また、両者には主軸方向に若干のズレを生じるが、石室形態及び規模から同一集団内の近親関係が想定できる。1号墳については正式な調査報告が出されていないため不明確ではあるが、状況から北方向に開口する無袖の横穴式石室であったようである(註5)。占地の状況を併せて考えると本調査で検出された古墳とは系統を異にするものと推測される。斜面部の古墳については築造及び初葬期の年代が連続するが、立地・主軸方向の違いから系譜関係を推測することは難しい。しかし、石室構造と位置関係から13・14号墳については、被葬者が近親関係にあったことは考えられるであろう。斜面部と同様に頂上部に位置する古墳との関係については、石室形態・構造に大きな違いが生じたため系譜を想定することは現時点では困難である。群内では各古墳の造営時期が連続し、ある程度の時期的な変遷が追える。このため石室形態・構造の変化は時期的に伴うものという推測もあり立つが、このことについては周辺古墳群の石室形態・構造を交えて考えていくことも必要であろう。

(註1) 須恵器の編年については、湖西市後藤館一氏に出土遺物を実見していただきご教授を受けた。後藤氏によると出土須恵器の大部分が湖西窯産のことであるが、一部、後藤氏見解でいう在地様式の製品があるとのことであった。このため統一的な編年を示すため、本書では県内で一般的に用いられる遠江編年觀を採用した。

(註2) 杉山秀宏氏鉄鑄編年(1988)による。鉄鑄の分類編年については杉山秀宏氏の研究(1988)によった。形式名称については後藤守一(1939)末永雅雄氏(1981)両氏の形式分類を採用した。

(註3) 甘露寺雄次郎「富士川町谷津原古墳群分布調査記録」(1975)による。1号墳の造営年代については石室内出土とされる単船環頭大刀の年代から推定している。2号墳の石室については展開図が現存しているため、石室面を参考に石室残存部を判断した。また、造営年代については櫛垣甲子男「駿河妙見古墳群第2・3次調査報告」(1987)、静岡県「静岡県史」資料編3(1992)に記載されている2号墳石室出土須恵器を基に当編年した。

(註4) 本報告「造構編」による。

(註5) 註3文献による。

参考文献

- 後藤守一 1939 「上古代鉄鑄の年代的研究」『人類学雑誌』第54卷第4号
田中新史 1972 「古墳出土の飾り物 新飾りの弓の出現と展開」『伊知波良』1
市毛 繁 1978 「古墳出土の鉄製留金具小品についてその名称と用途をめぐって」『古代学研究』87
川江秀孝 1979 「静岡県下の須恵器について」『静岡県考古学シンポジウム』2 須恵器—古代陶質土器一の編年 静岡県考古学会
末永雅雄 1981 増補『日本上代の武器 本文編』 木耳社
白井 熊 1981 「古墳時代の鉄刀について」『日本古代文化研究』創刊号
白石久美子 1986 「東国後期古墳の一視点鉄鑄からみた千葉県生実・椎名崎古墳群」『千葉県埋蔵文化財センター紀要』第10号
杉山秀宏 1988 「古墳時代の鉄鑄について」『櫛原考古学研究所論集』8
静岡県 1992 「静岡県史 資料編」3(考古3)
後藤健一 1995 「湖西古窯群の須恵器と窯構造」『静岡県窯業遺跡 本文編』 静岡県教育委員会
山本恵一 1995 「静岡県下の6~7Cの土師器 駿河東部・伊豆北部の現状について」『東国土器研究』第4号
川江秀孝 1998 「静岡県下出土馬具の構造について」『静岡の考古学』植松草八先生還暦記念論文集
濱沢 誠 1998 「平沢古墳出土の胡蝶」『沼津市史研究』第九号

写 真 図 版

図版 1



図版 1 第 I・II 群土器

図版2



3-1



3-2



3-3



3-4



3-7



3-8



3-9



5-1

図版2 第III群土器 (1)



4 - 4



6 - 2



6 - 4



6 - 3



6 - 5

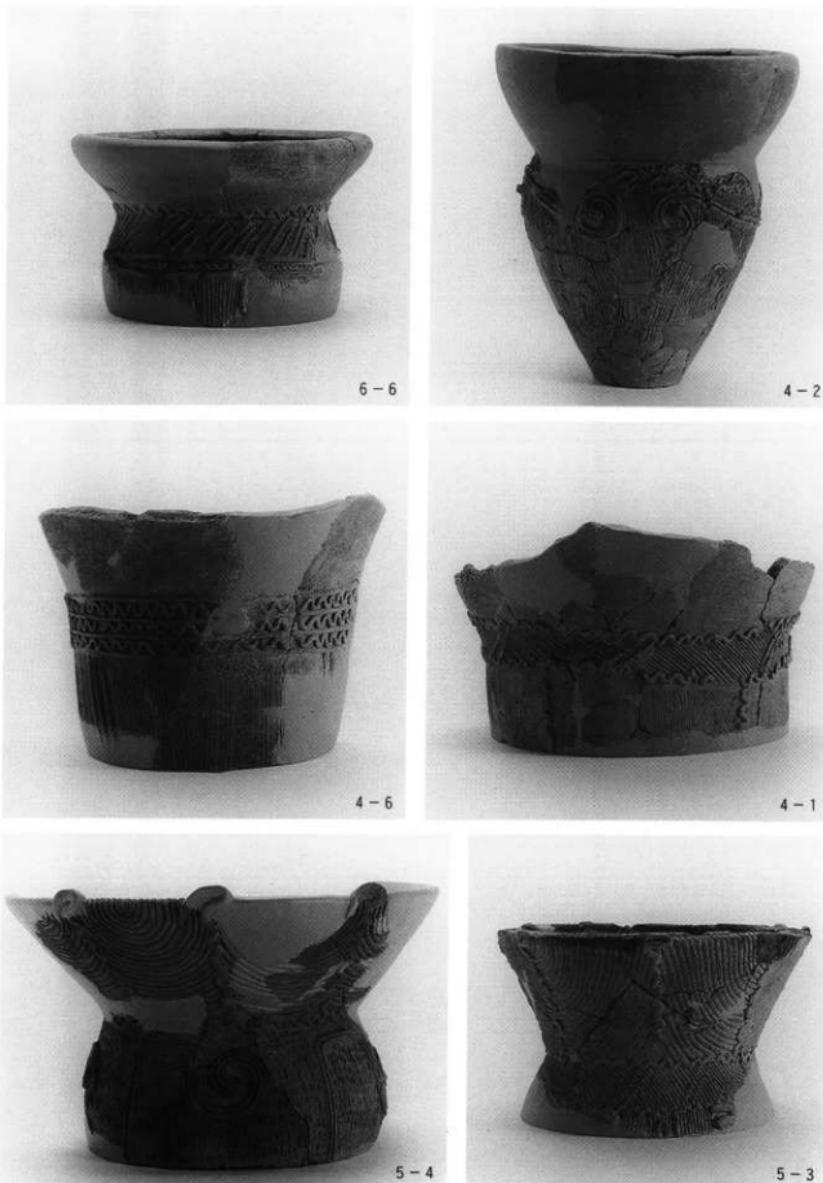


4 - 3



3 - 6

图版 4



图版 4 第III群土器 (3)

図版 5



3 - 5



8 - 6



4 - 5



5 - 2



6 - 1



8 - 2



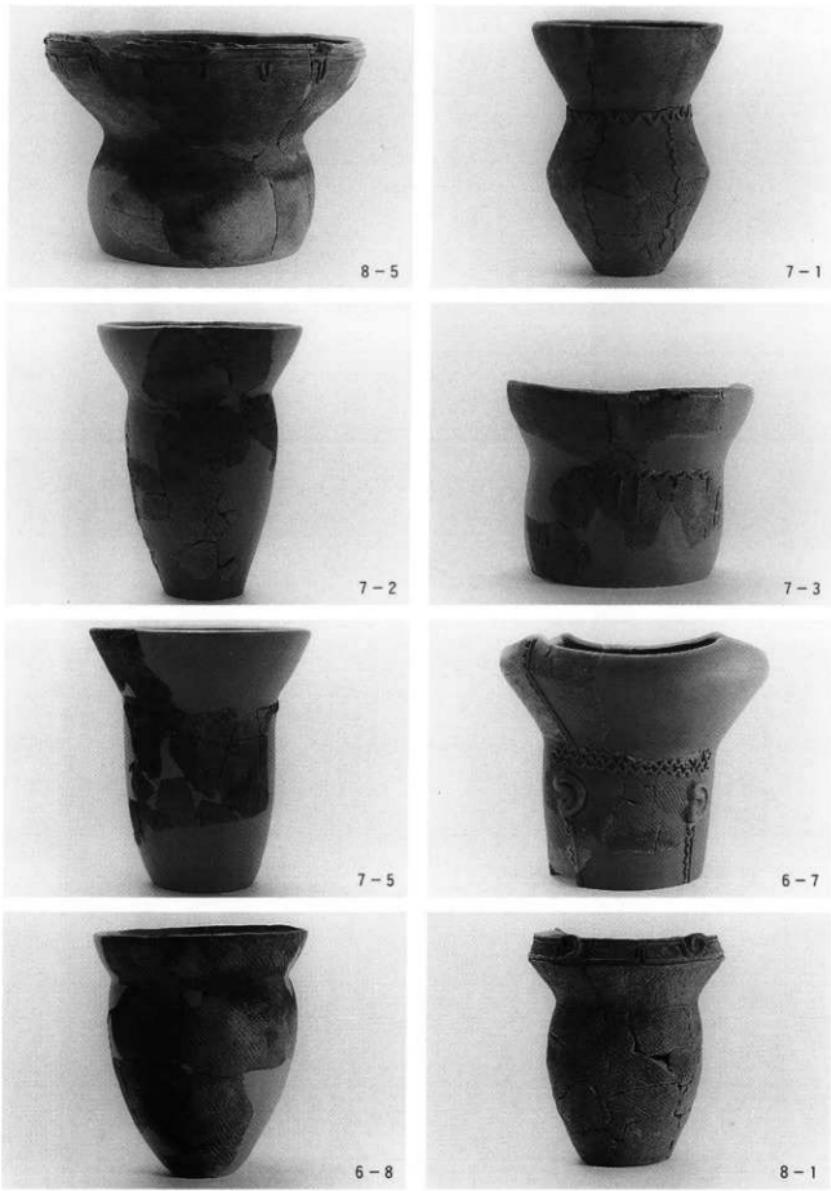
8 - 3



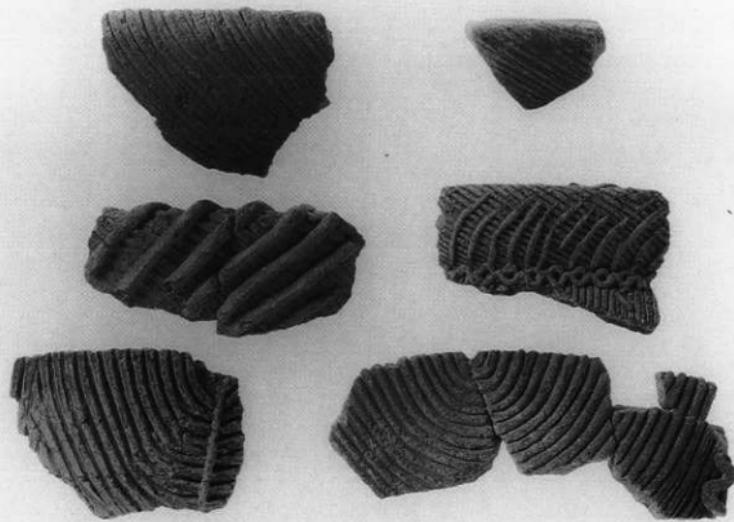
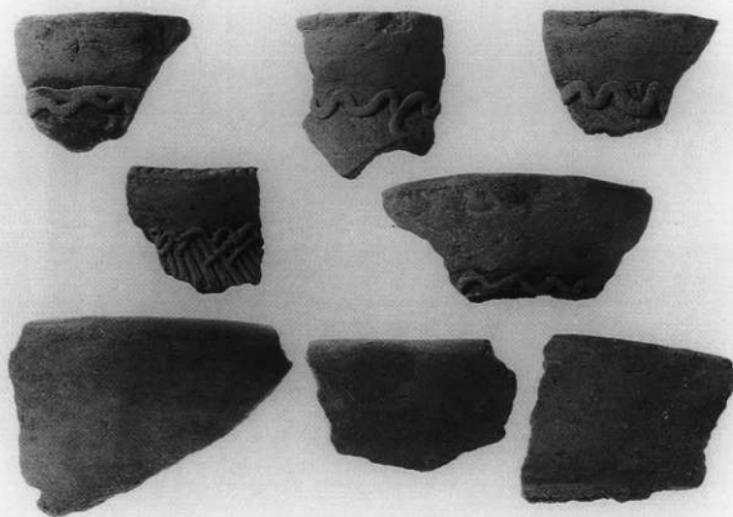
8 - 4

図版 5 第III群土器 (4)

図版 6

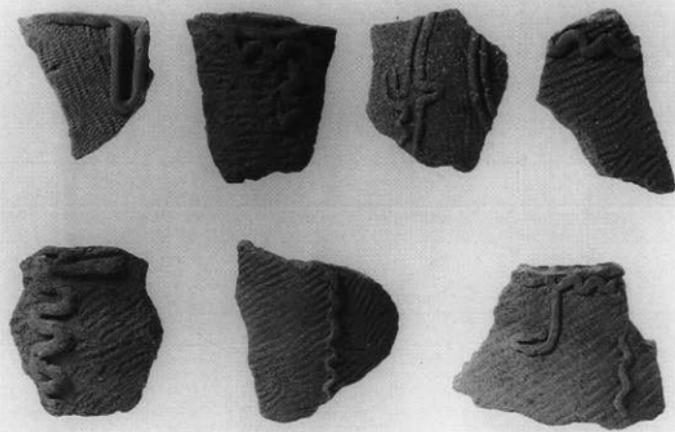
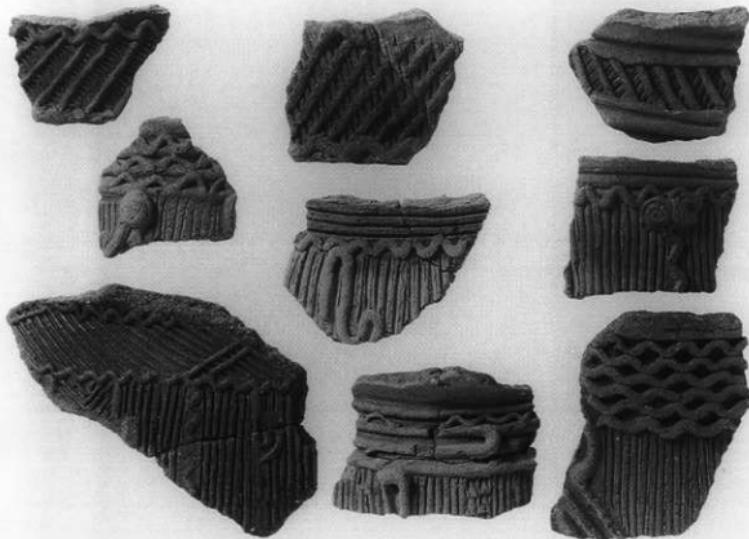


図版 6 第III群土器 (5)



図版 7 第III群土器 (6)

図版 8



図版 8 第III群土器 (7)



図版10



22-2



22-3



22-4



24-1

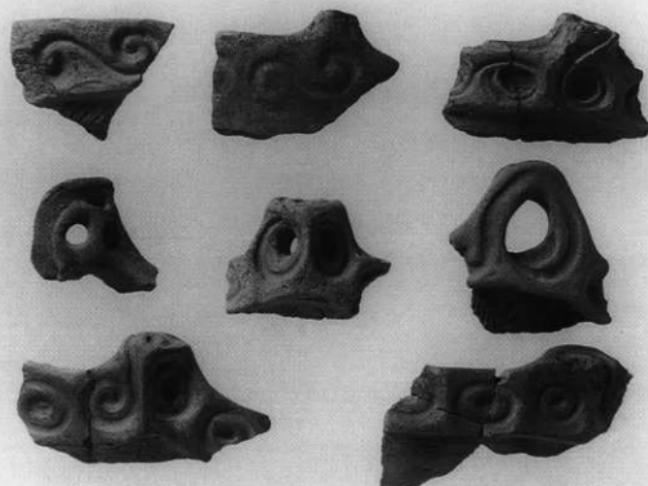


24-2



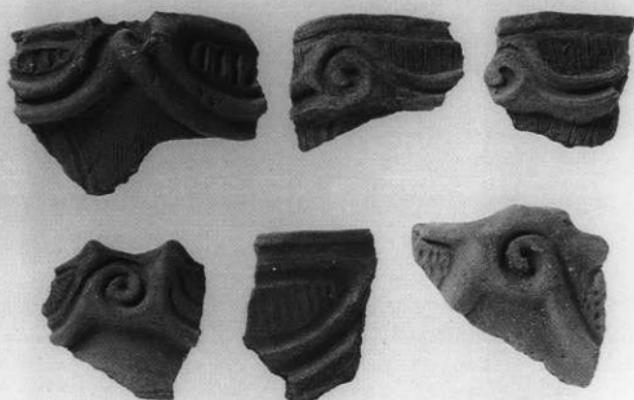
24-3

図版10 第III群土器 (9)



図版11 第III・V群土器 (10)

図版12



図版12 第Ⅲ群土器 (11)

図版13



25-1



25-2



25-3



25-4



25-5



25-6



26-1



26-2

図版13 第III群土器 (12)

図版14



26-3



26-4



27-1



27-6



27-4



27-3

図版14 第III群土器 (13)

図版15

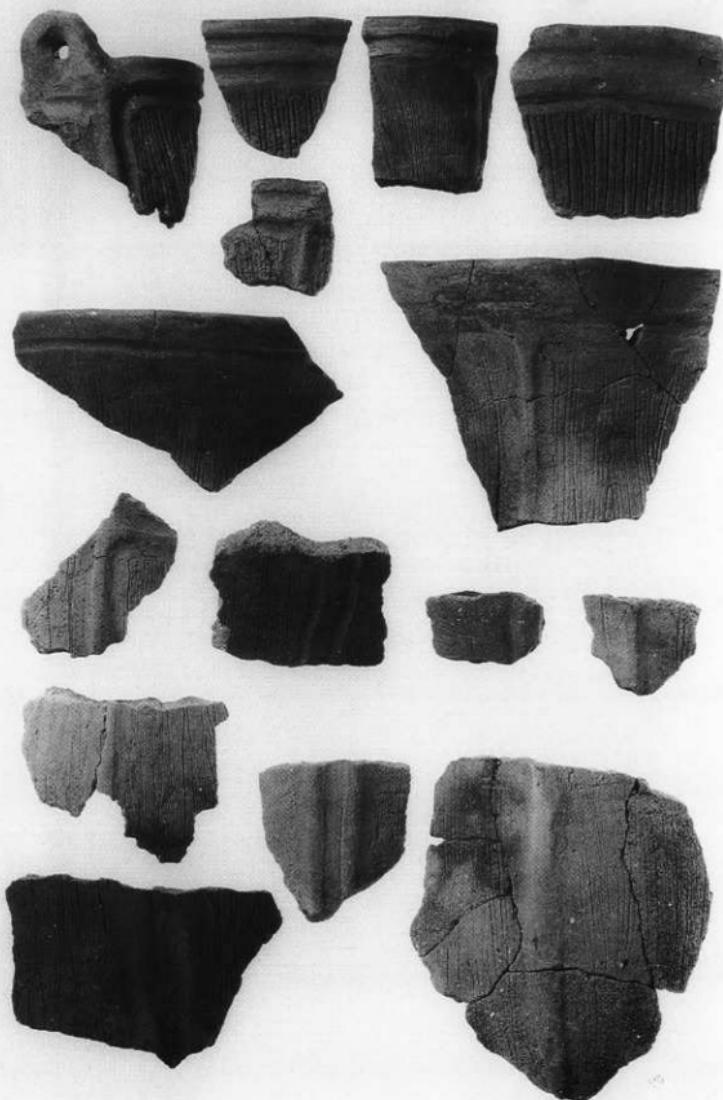


図版15 第III群土器 (14)

図版16

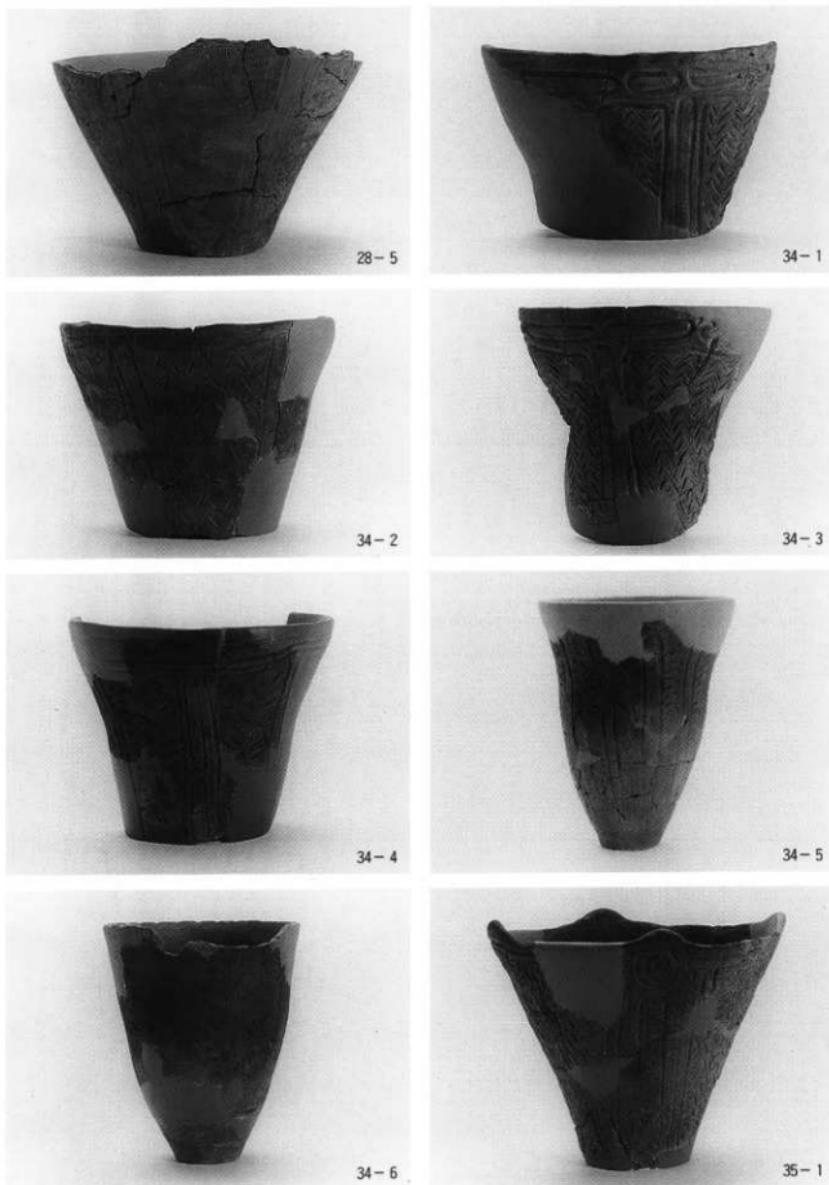


図版16 第III群土器 (15)



図版17 第III群土器 (16)

図版18



図版18 第III群土器 (17)



35-2



35-3



35-4



35-5



35-6



35-7

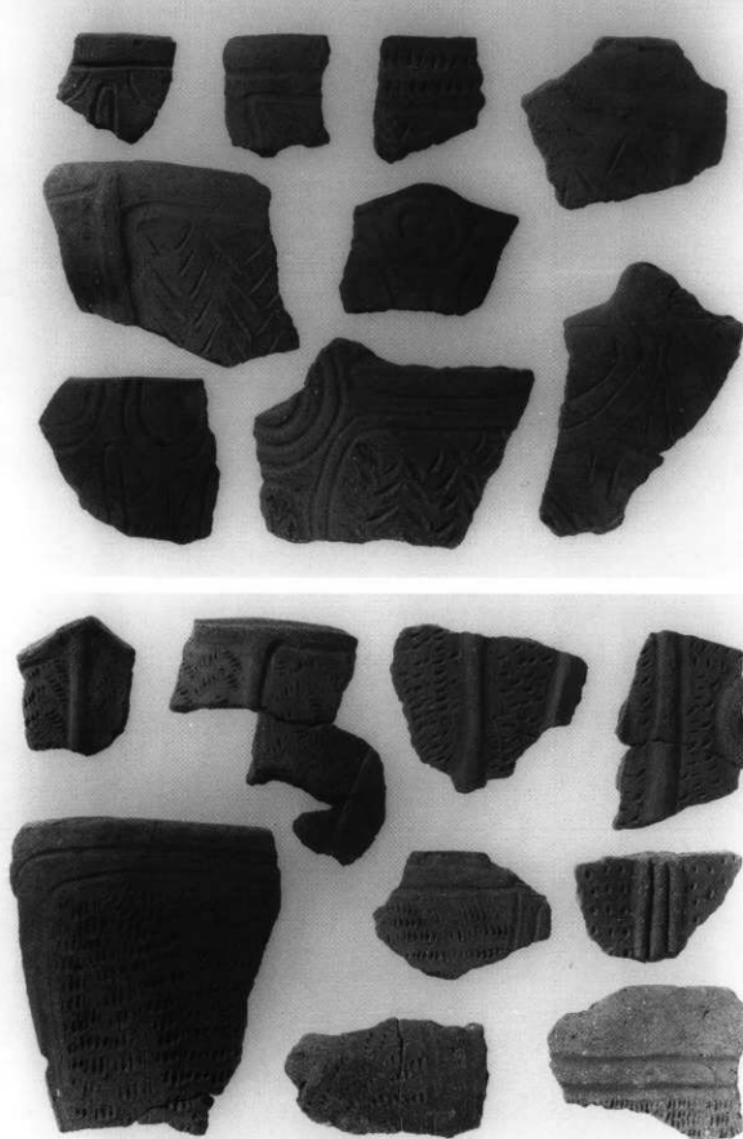


36-1

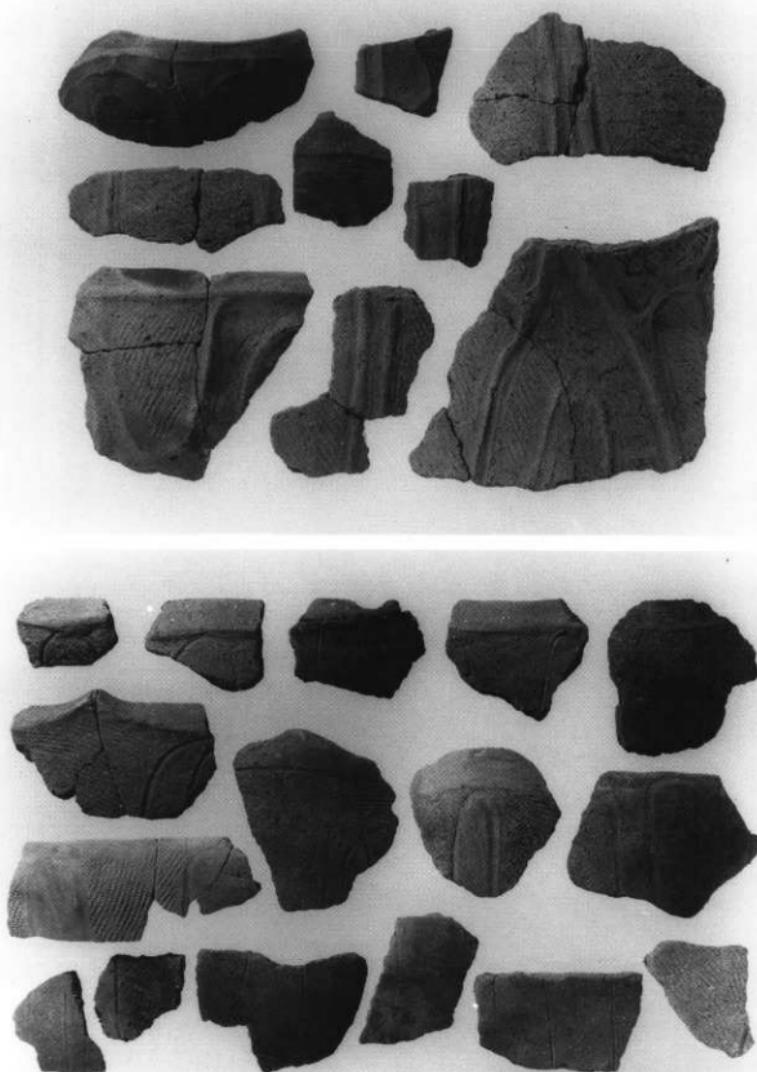


36-2

図版20

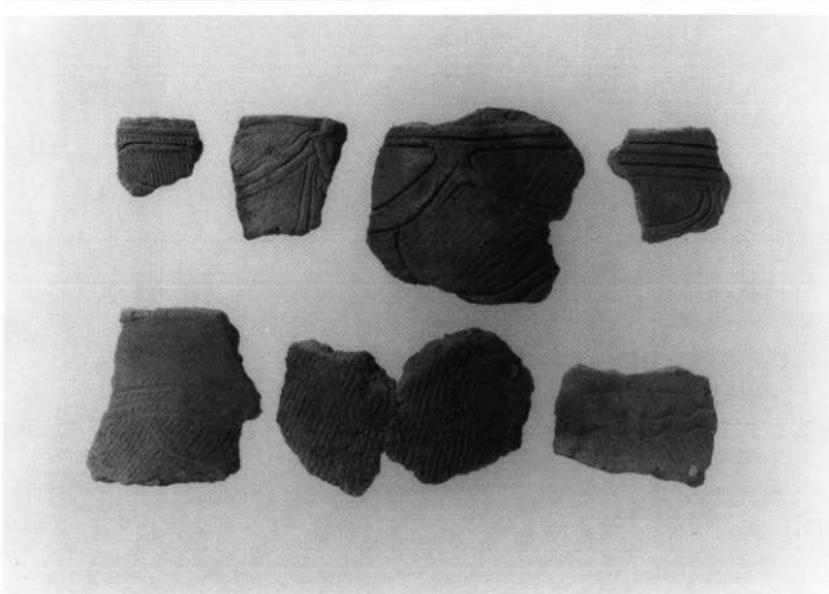
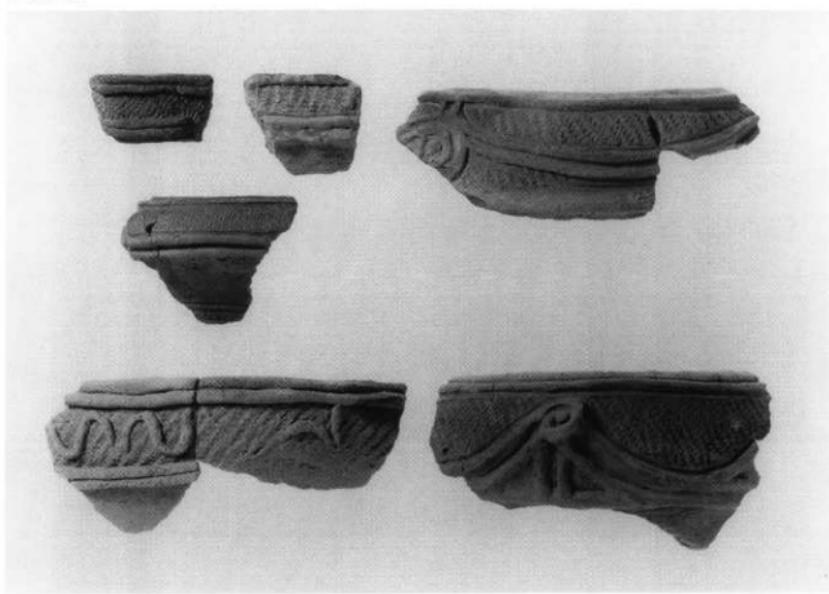


図版20 第III群土器 (19)



図版21 第V群土器

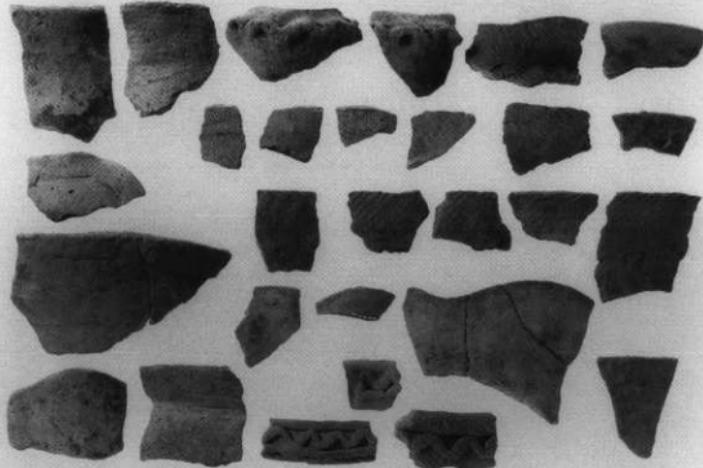
図版22



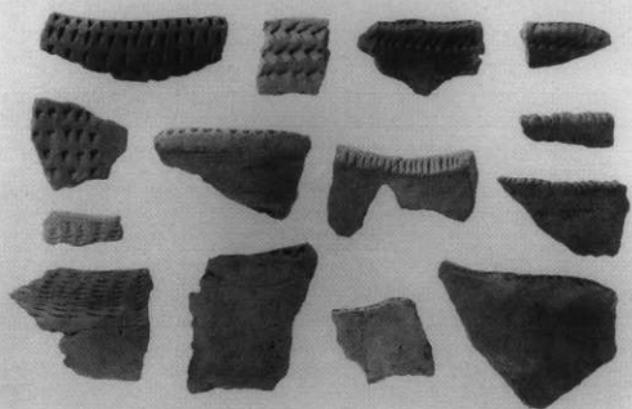
図版22 第V・VI群土器



図版24



図版24 第V・VII群土器（2）



図版25 第V・VI群土器 (3)

図版26

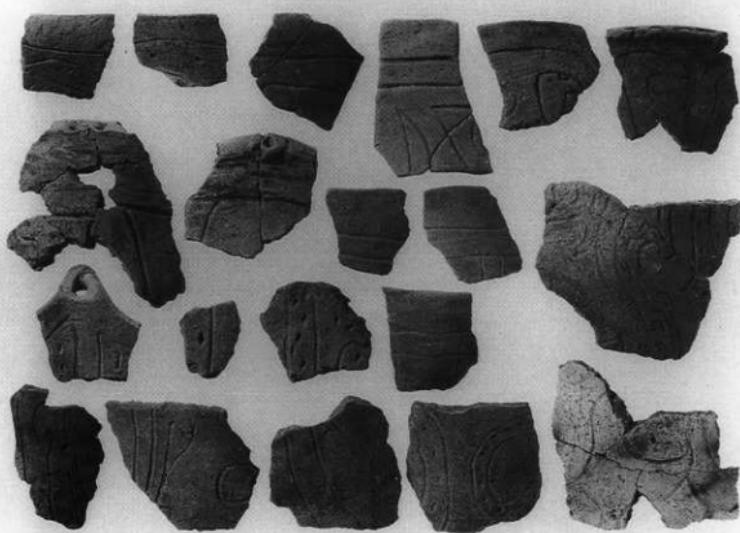


図版26 第VII群土器 (1)



図版27 第VII群土器（2）

図版28



図版28 第IX群土器



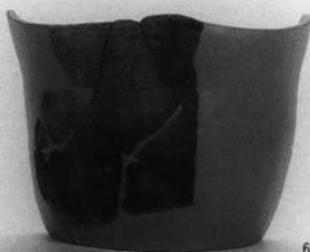
62-1



62-3



62-4



62-5



62-6



63-1

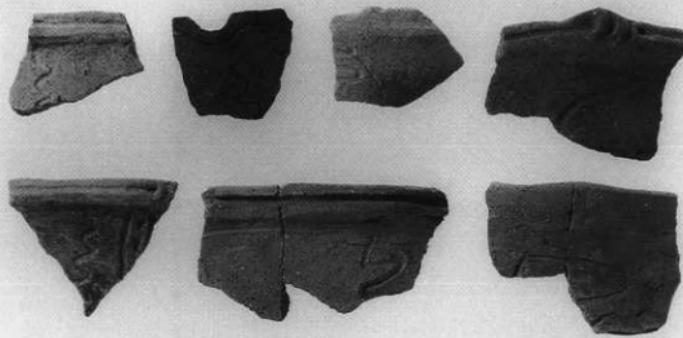


63-2



63-3

図版30



図版30 第X群土器（2）



68-1



68-3



68-4



68-5



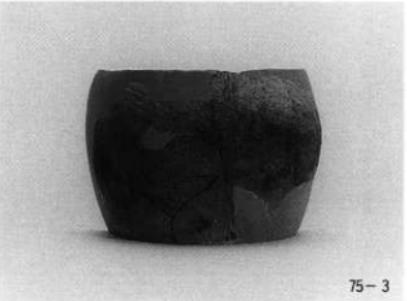
68-6



68-7

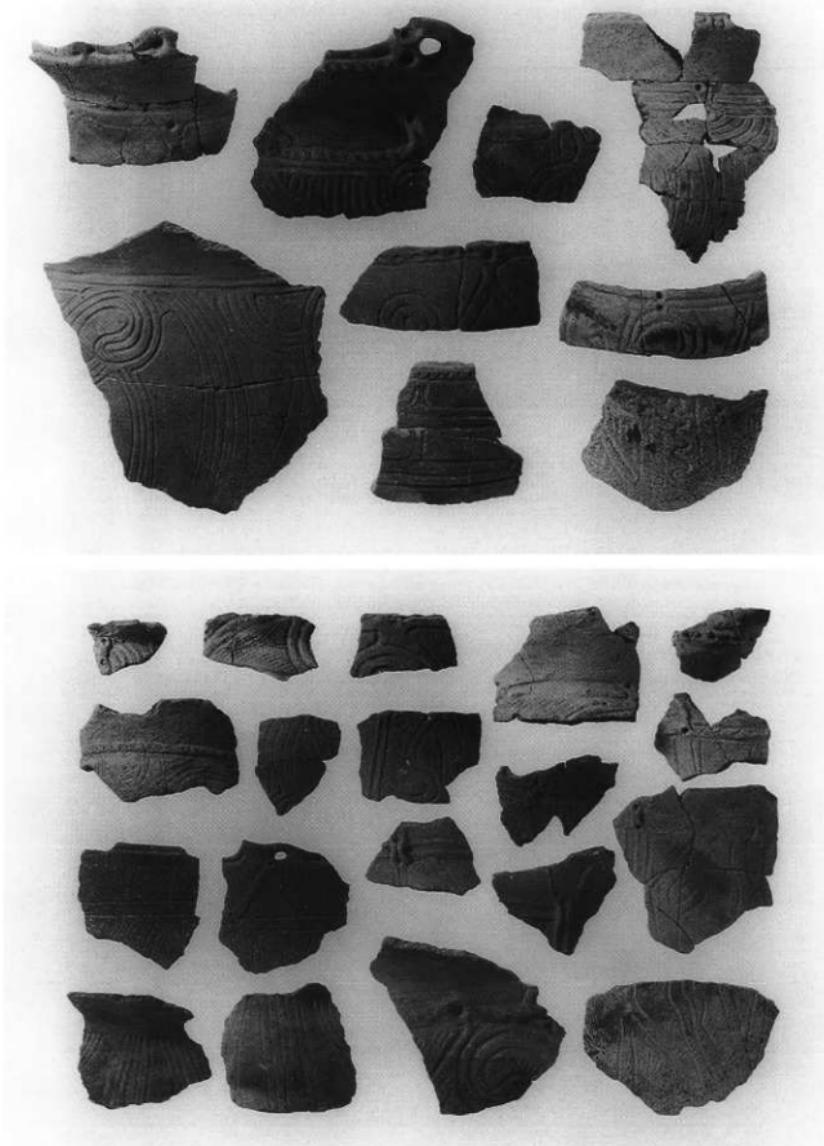


68-8

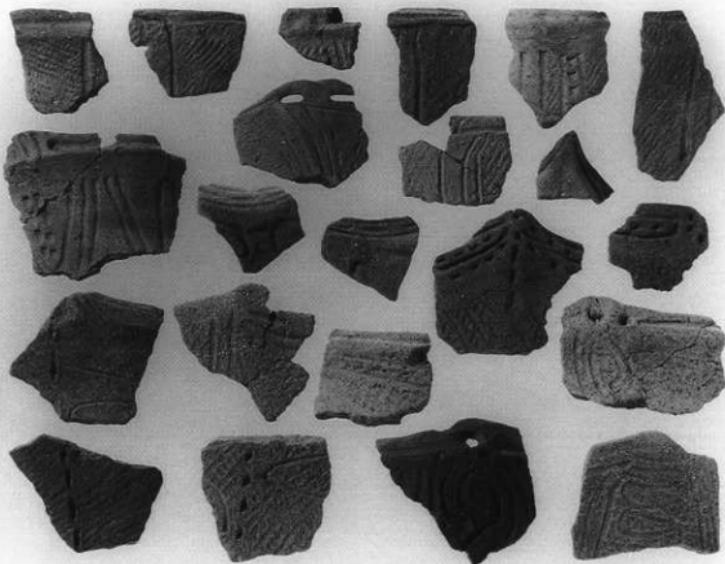


75-3

図版32

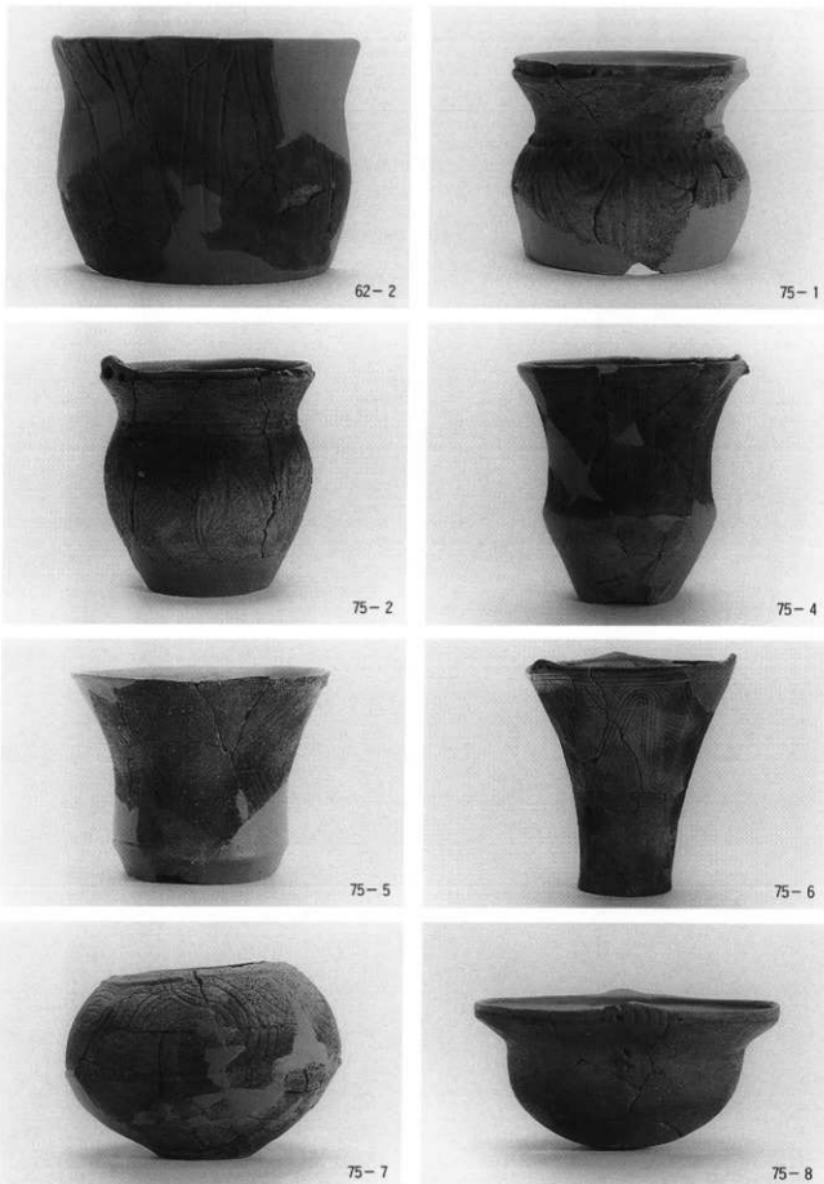


図版32 第X群土器（4）

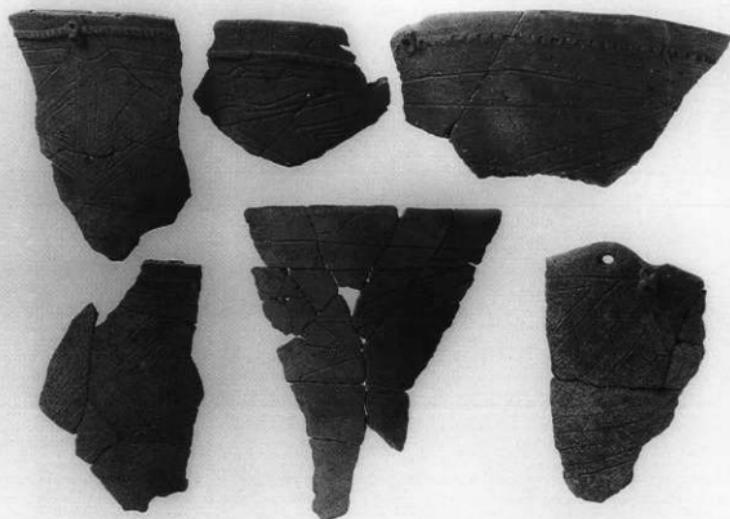


図版33 第X群土器 (5)

図版34



図版34 第X群土器 (6)



図版35 第X群土器 (7)

図版36



82-1



82-2



81-1



82-3



83-2



83-4

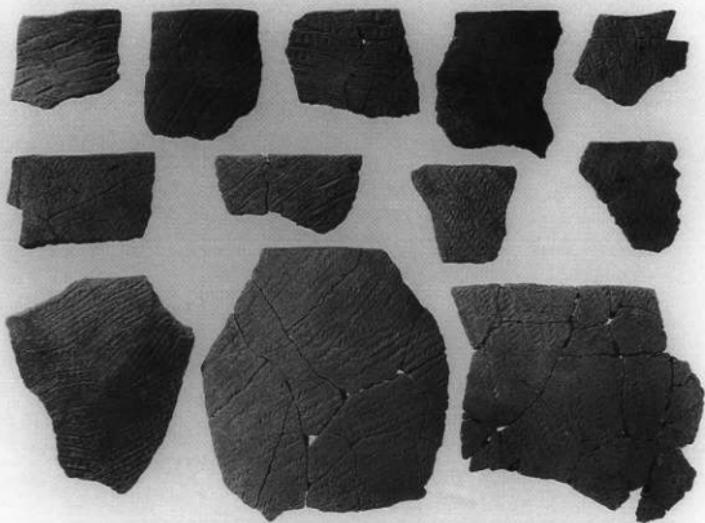
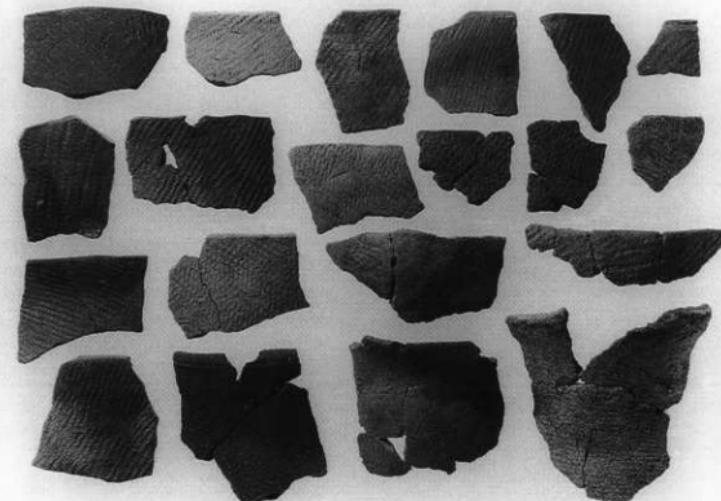


83-5



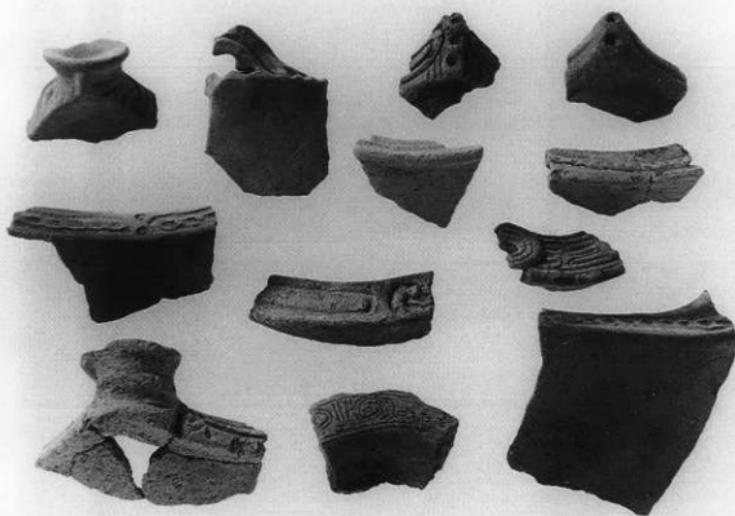
83-6

図版36 第Ⅺ群土器（1）

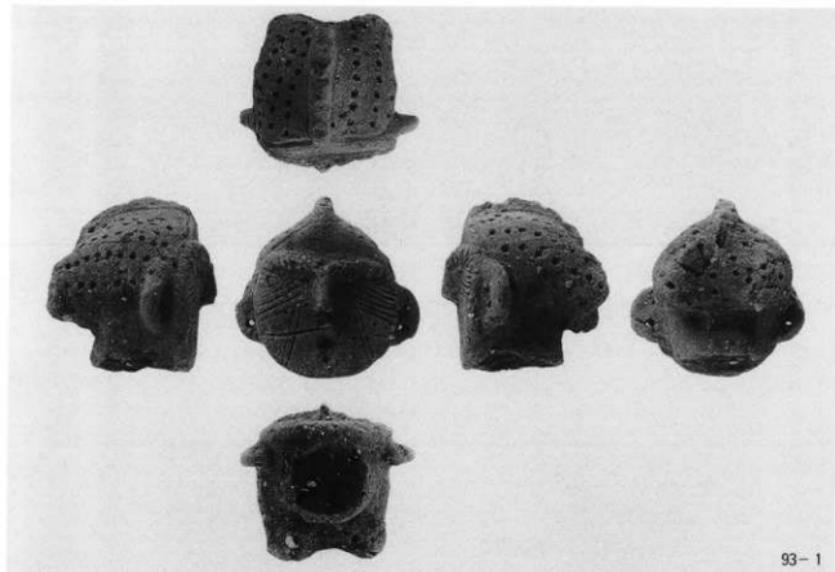


図版37 第38群土器（2）

図版38

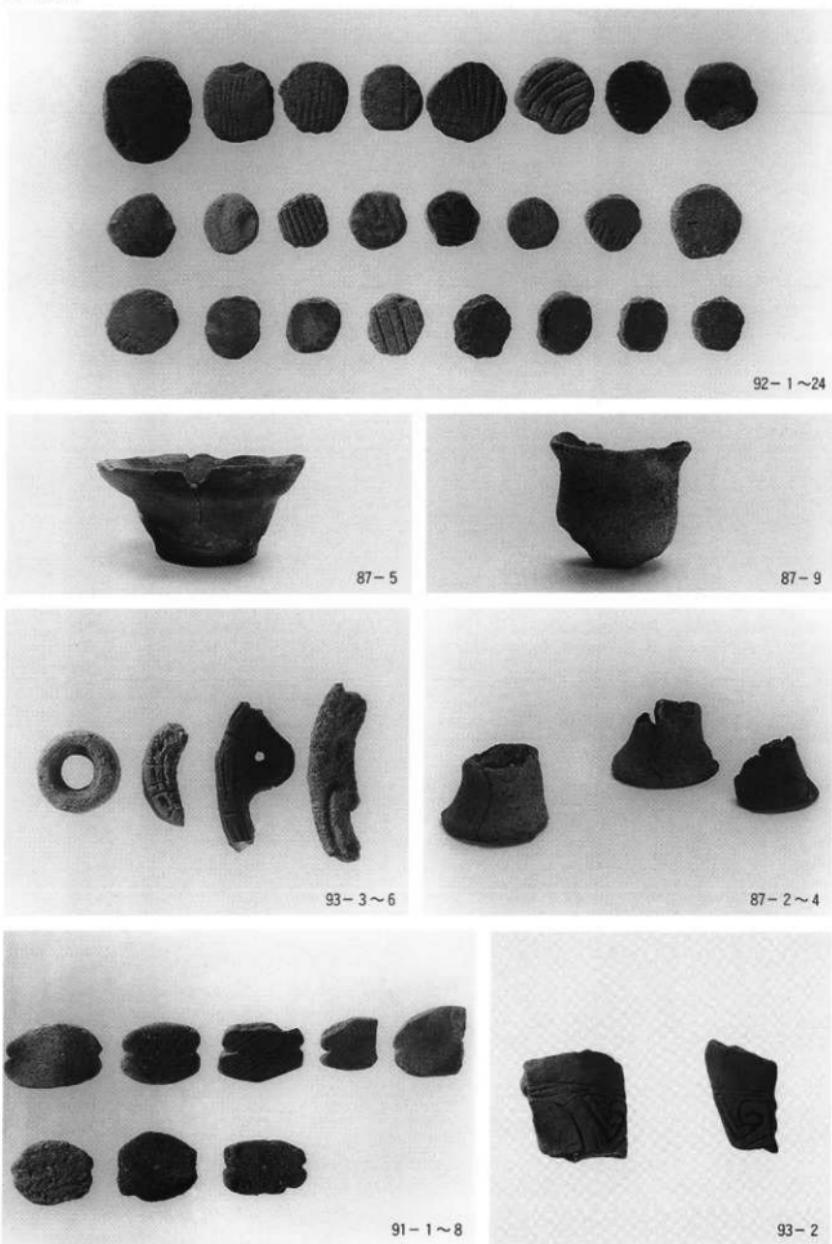


図版38 第Ⅲ群土器

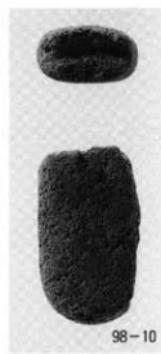
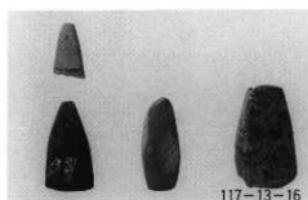
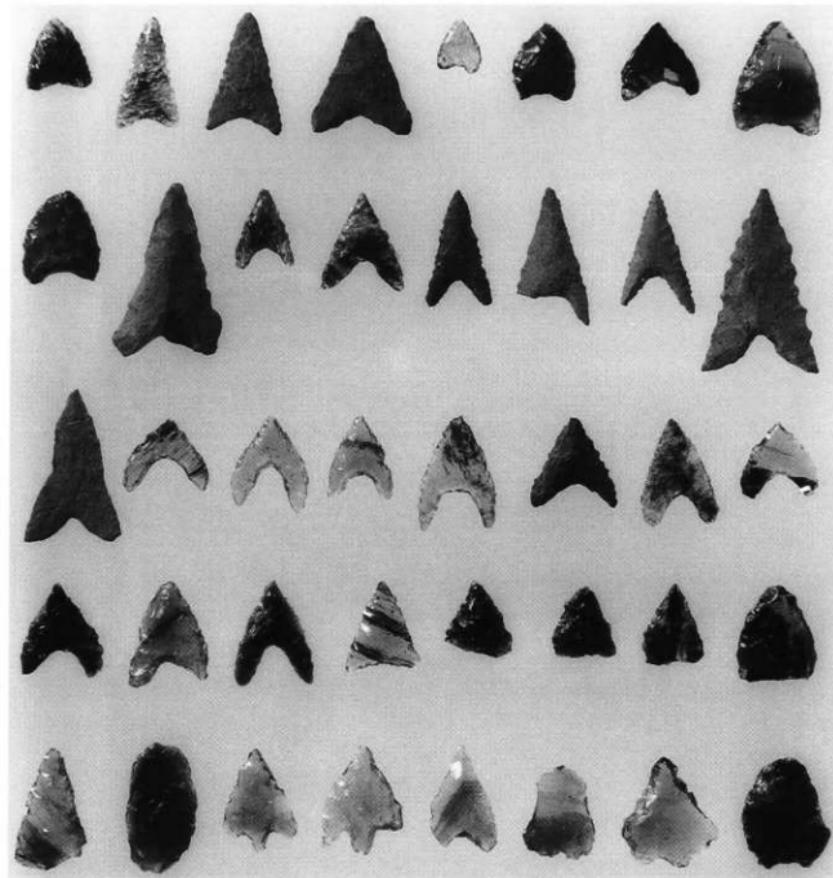


図版39 土偶 鈎手土器

図版40

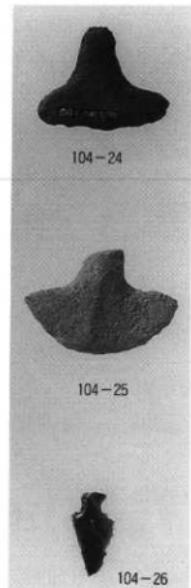
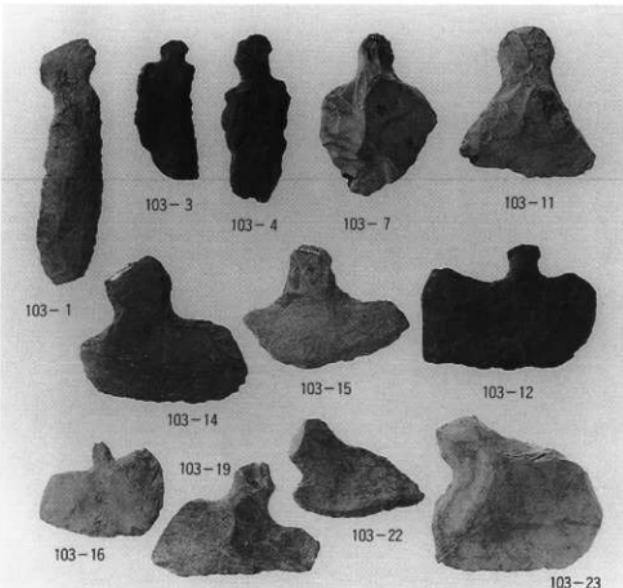
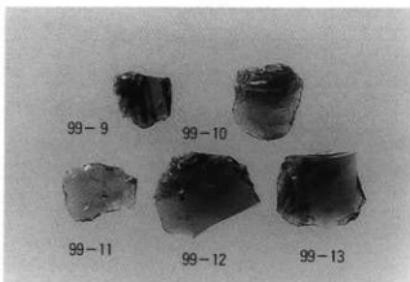
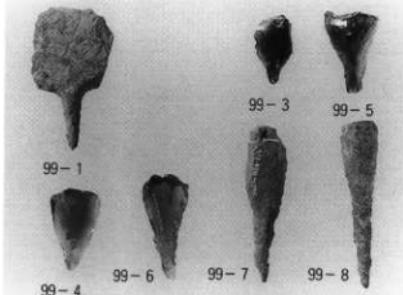
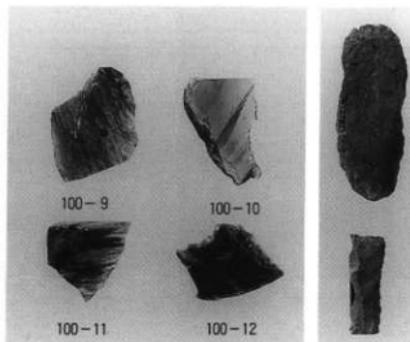
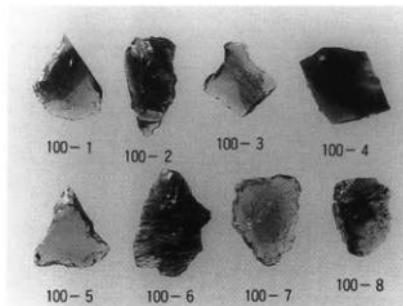


図版40 土製品 第3群（小型土器）

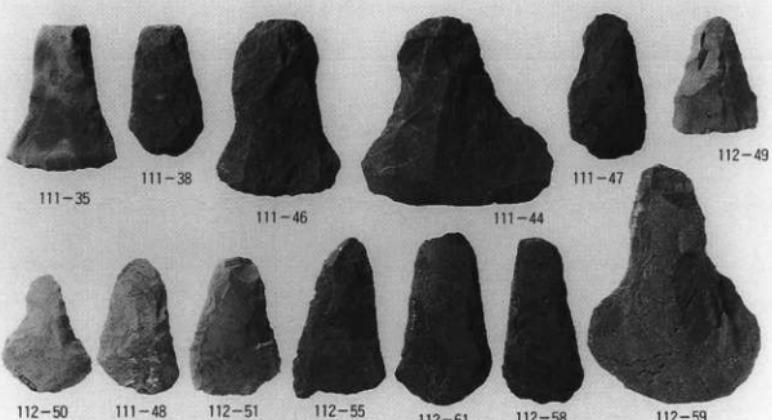
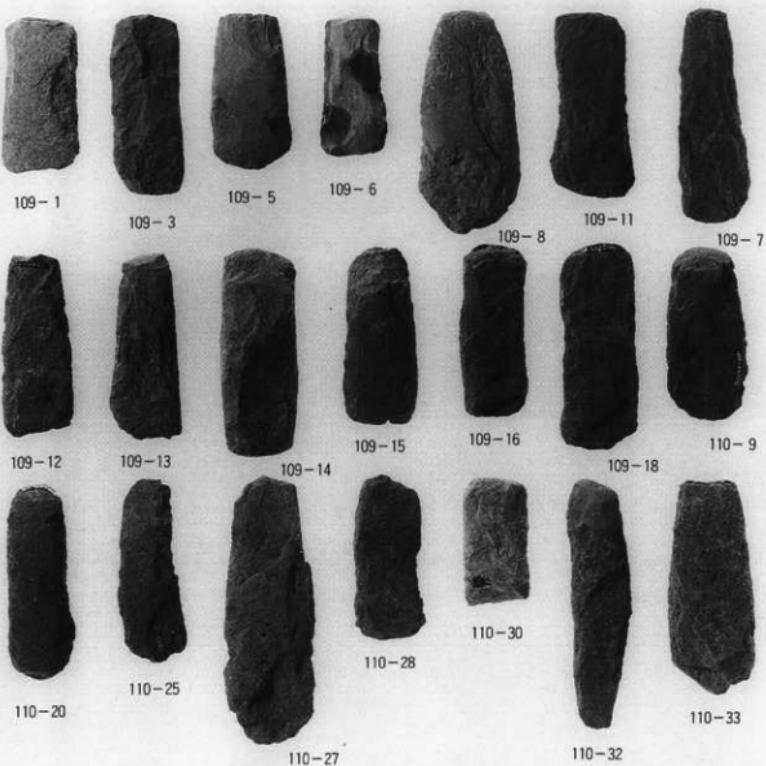


図版41 石鎌 小型磨製石斧 石槍 浮子

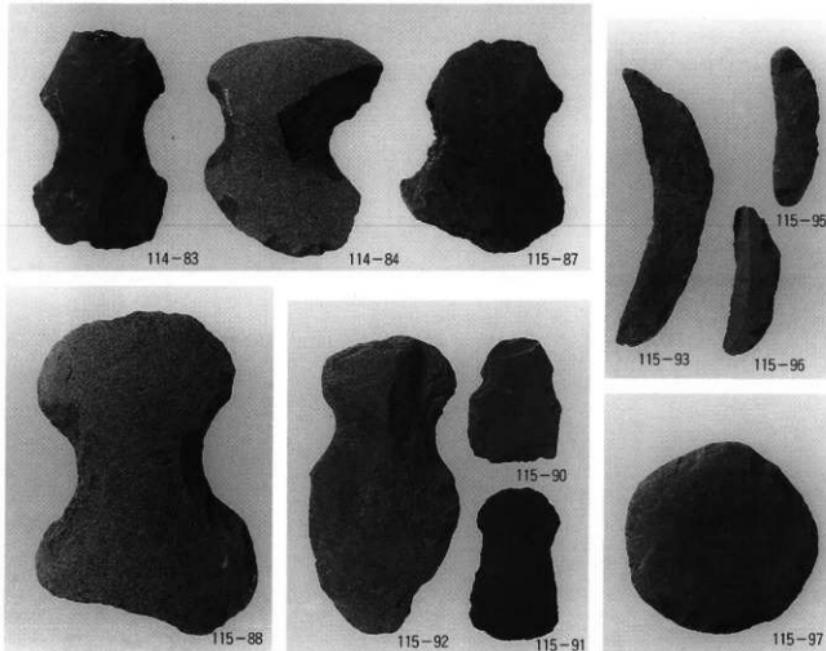
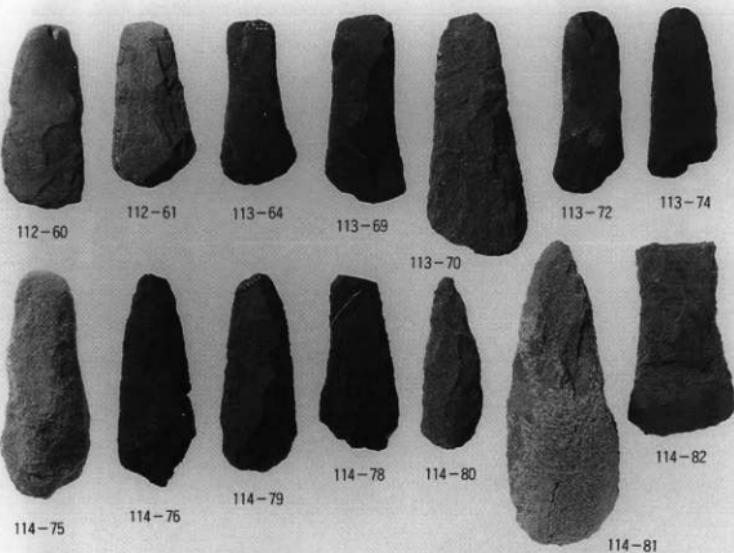
図版42



図版42 刺片石器 石錐 石匙

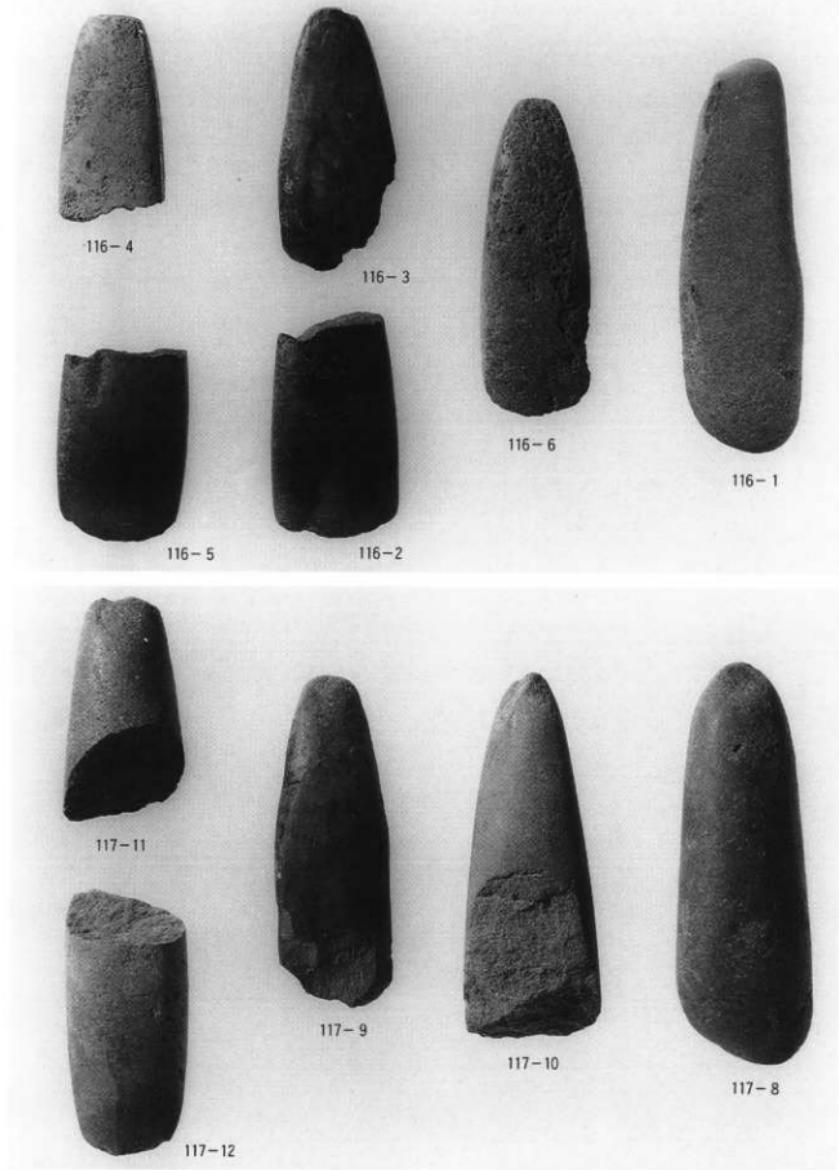


図版44



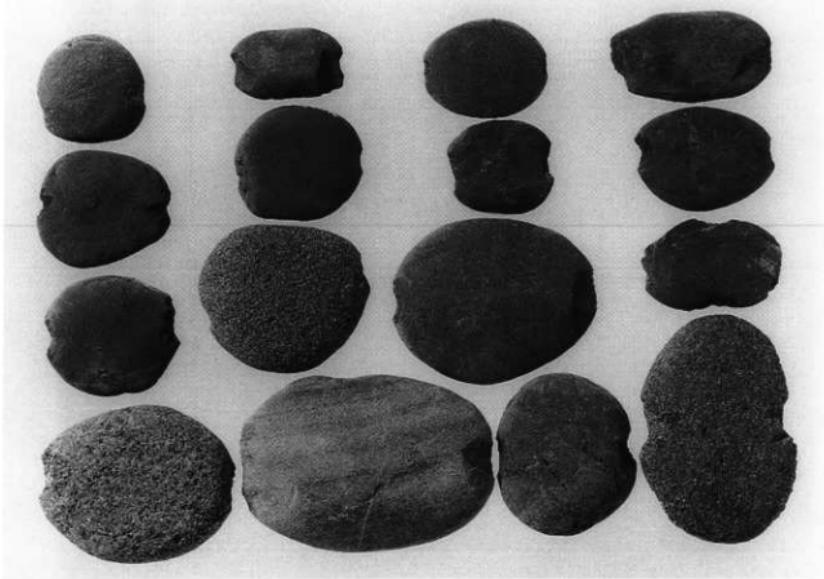
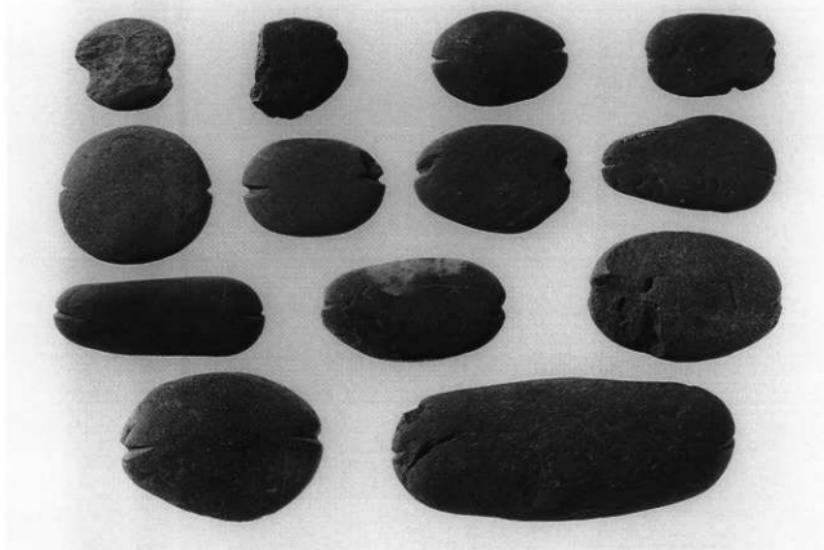
図版44 打製石斧（2）

図版45



図版45 磨製石斧

図版46



図版46 石錘



126-7



126-4



127-13

126-2



132-12



127-8



126-6



126-1



131-1

図版48



133-17



133-16



133-18



131-5



131-2



131-6



134-26



131-4



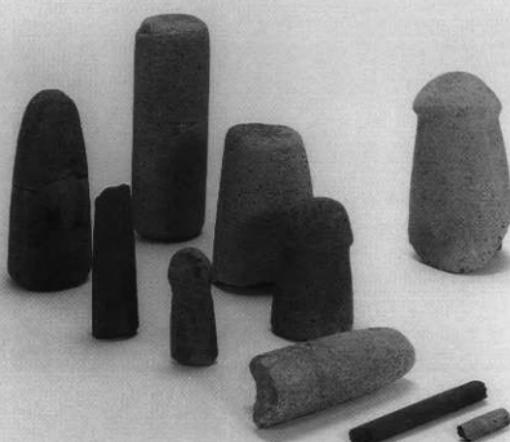
132-7



133-14



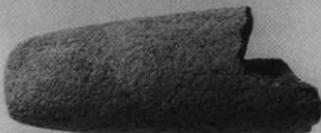
131-3



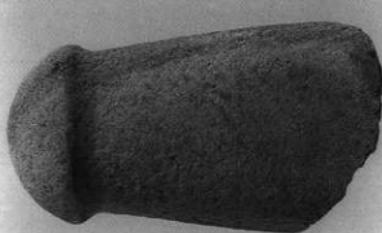
石剑・石棒



135-2



135-3

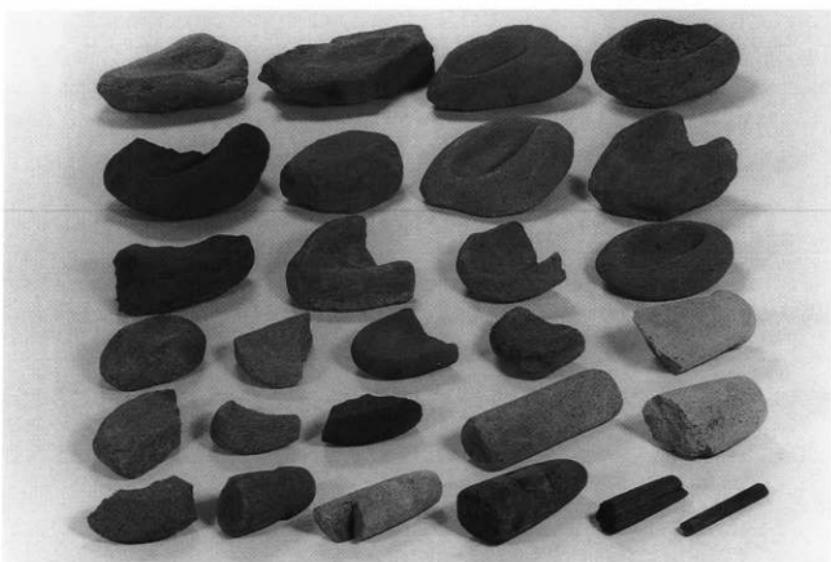


135-4



136-13

図版50



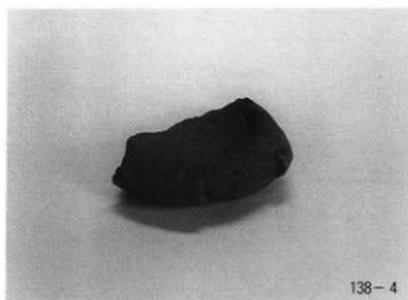
図版50 蜂巣石 石皿 (1)



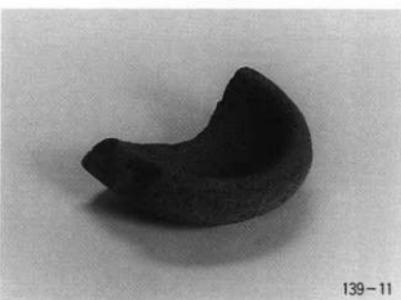
138-1



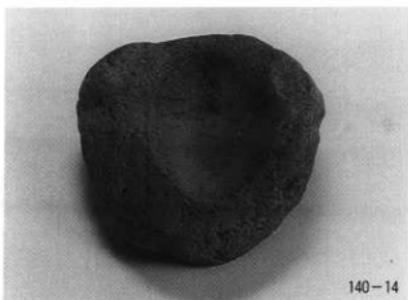
138-2



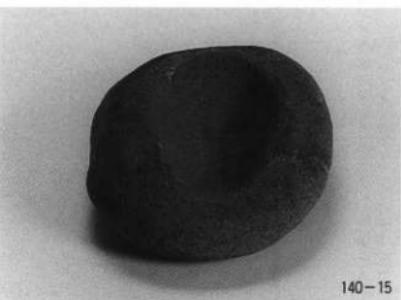
138-4



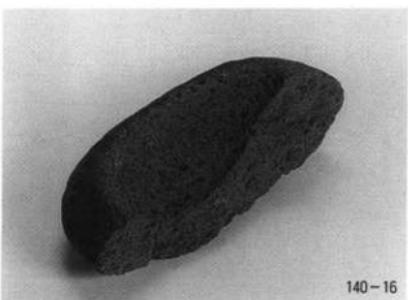
139-11



140-14



140-15

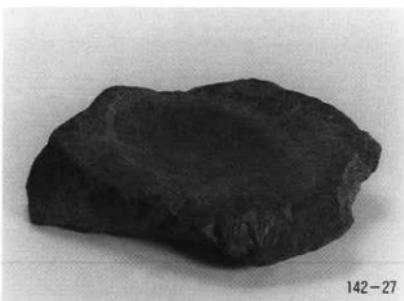


140-16



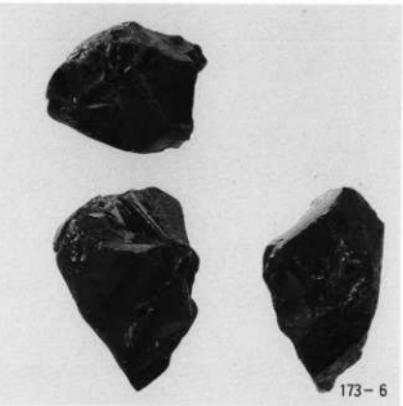
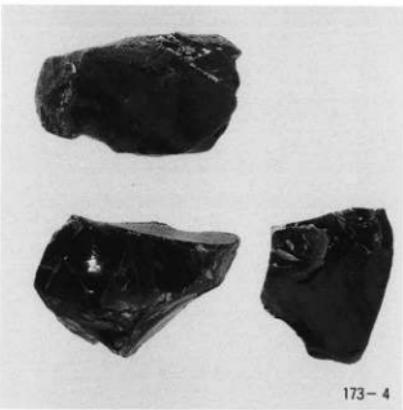
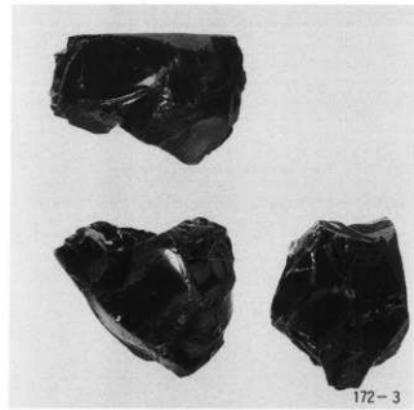
140-17

図版52



図版52 石皿（3）

図版53



図版53 黒曜石原石

図版54



143-1



143-2



143-8



143-3



143-7

図版54 弥生～古墳時代SB-1・SB-2出土遺物



144-1



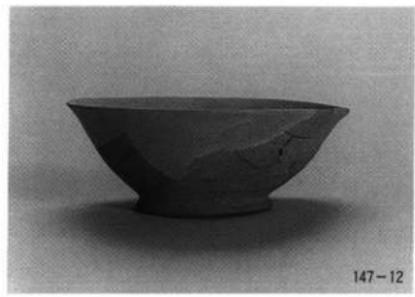
144-21



146-20



147-11



147-12



148-9



148-13



149-1

図版56



149-2



149-3



149-4



149-5



149-6



149-7



149-9



149-10

図版56 平安時代の土器（2）



146-9



148-2



148-18



149-11



149-12



149-13



149-33



149-36



149-37

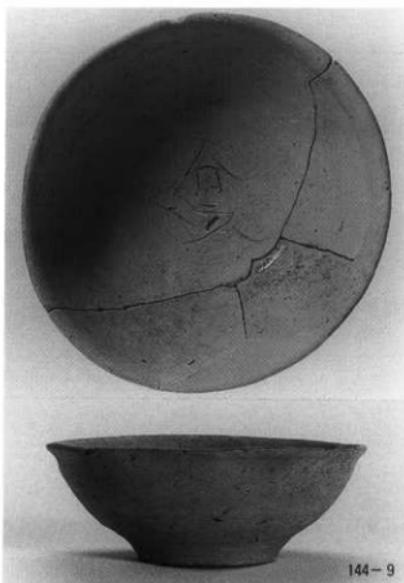


149-38

図版58



144-3



144-9



144-10

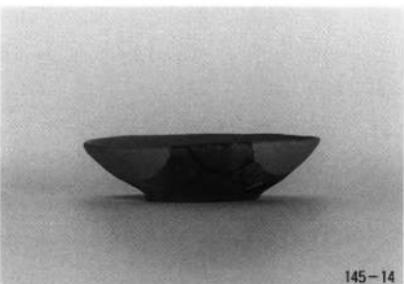


144-11

144-18

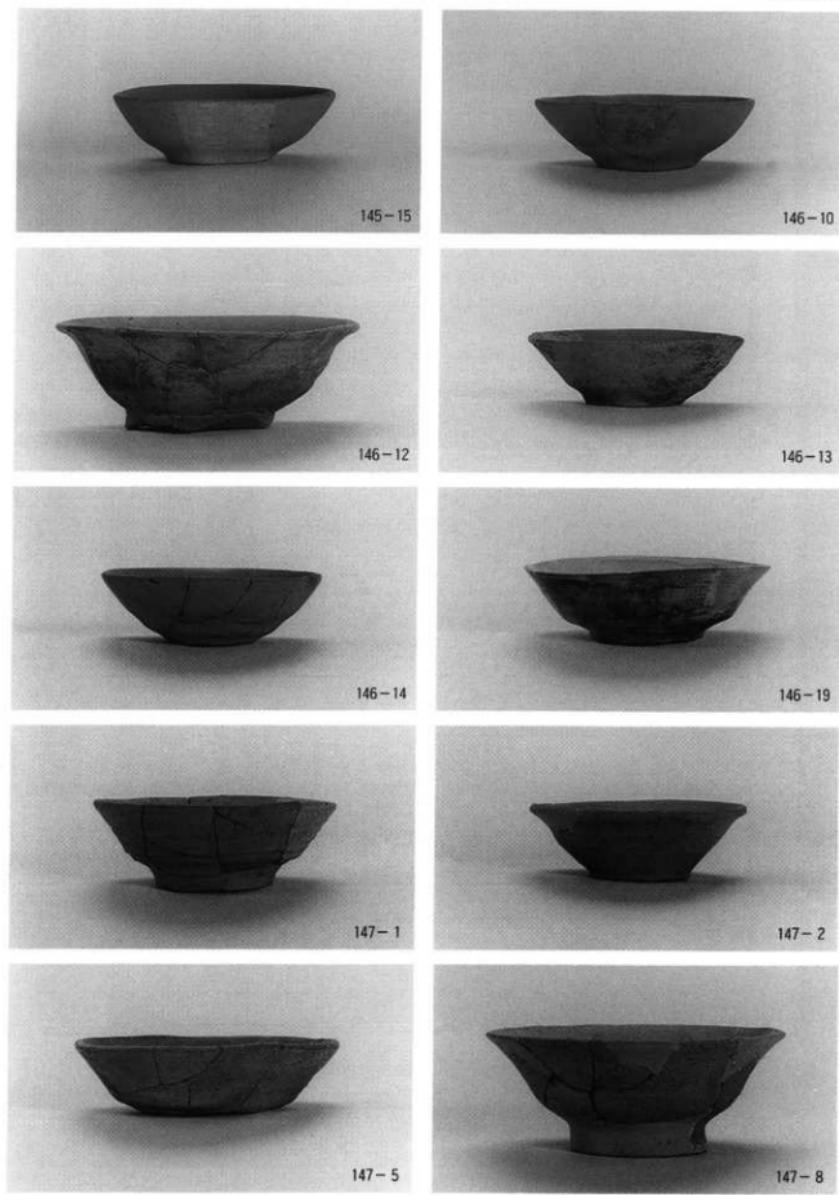


145-8



145-14

図版58 平安時代の土器（4）



図版59 平安時代の土器（5）

図版60



147-9



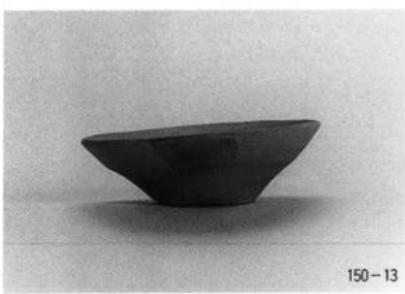
147-10



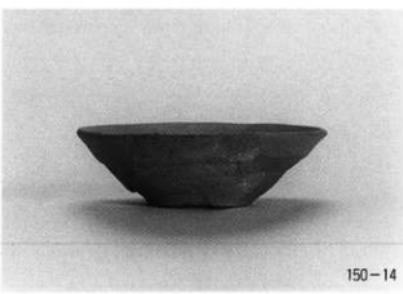
148-5



150-12



150-13



150-14

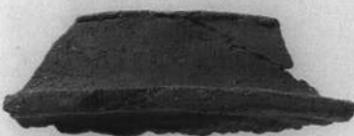


150-16



150-19

図版60 平安時代の土器（6）



147-13



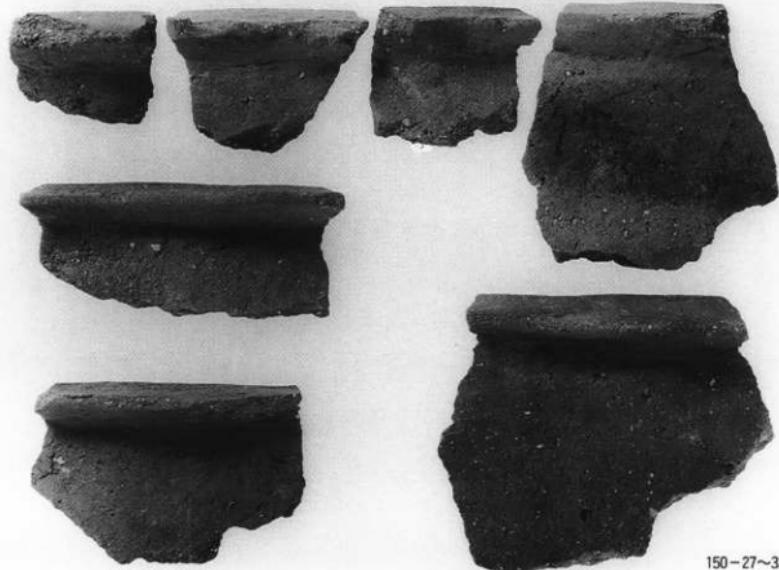
147-14



147-15

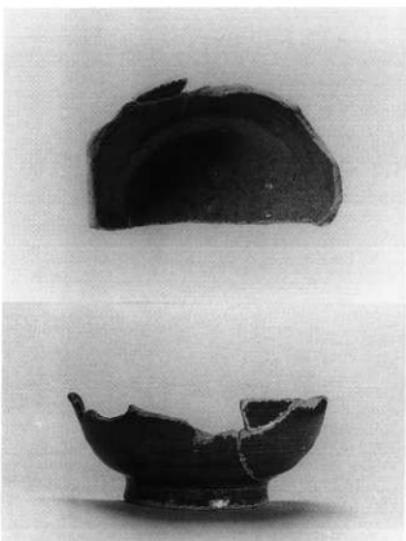
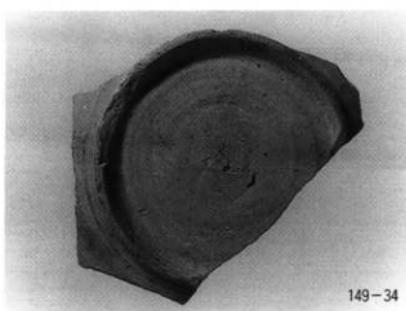


151-4



150-27~33

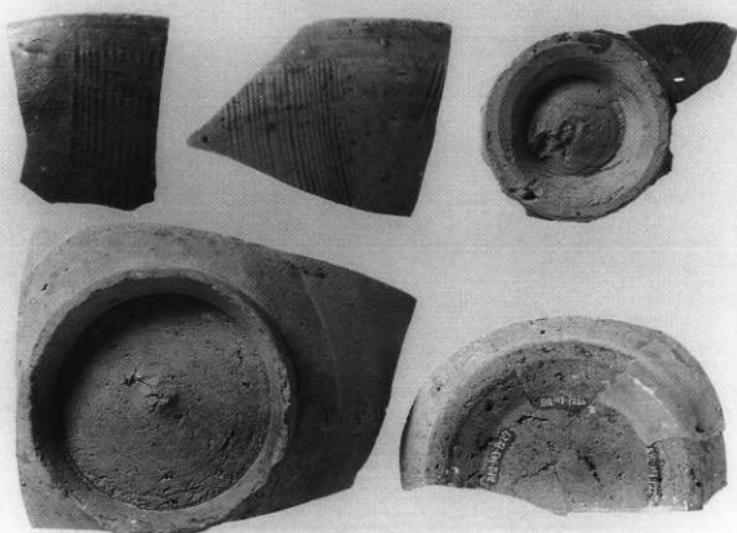
図版62



図版62 平安時代の土器（8）・青磁皿



縁胎陶器



154-1~4・6

図版63 平安時代の土器 (9)・貿易陶磁

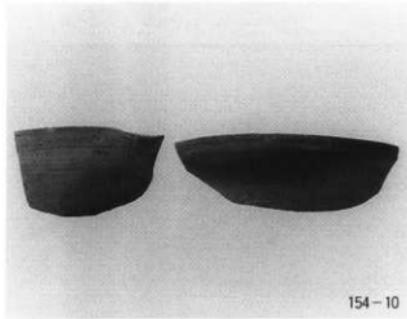
図版64



154-8



154-9



154-10



154-12



155-5



154-13

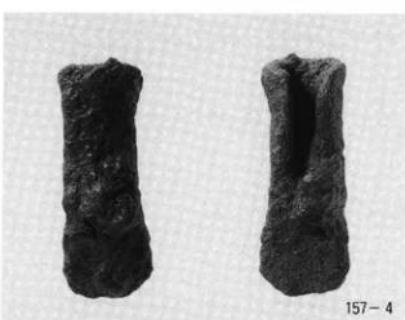
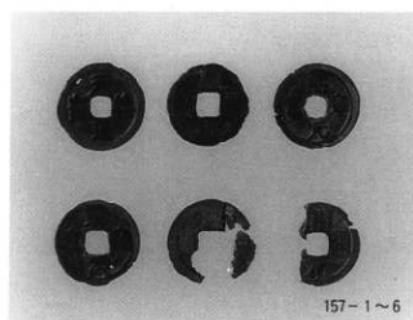
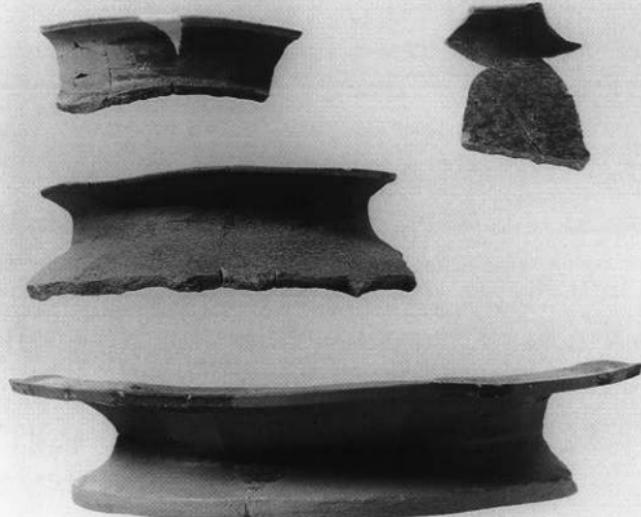
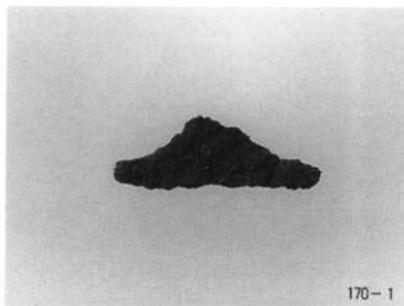
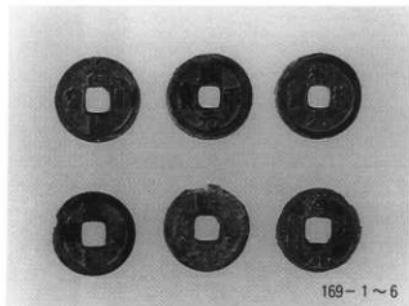


155-4



155-6

図版64 中世陶器（1）



図版65 出土銭貨 鉄製品 (1) 中世陶器 (2)

図版66



153-1

153-2



153-3



156-1

156-6



156-2



156-3



156-5

図版66 石製品 鉄製品（2）



158-1



158-2



158-3



158-4



158-6



158-5



158-7

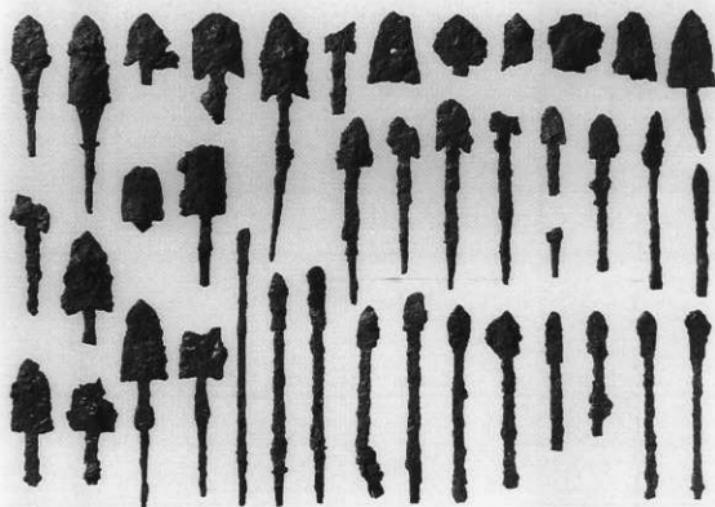


158-8

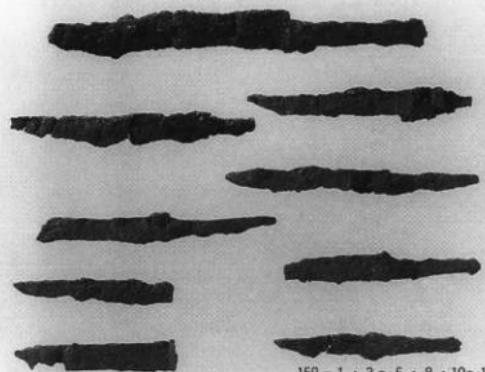


158-9

図版68



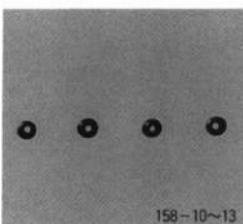
159-13~24、160-1~32



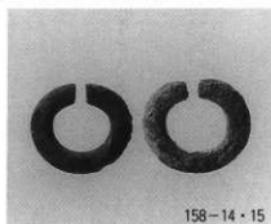
159-1・3~5・8・10~11



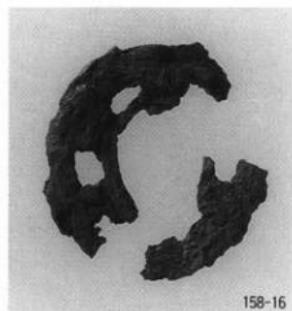
159-2



158-10~13

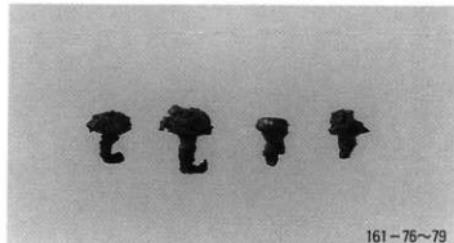
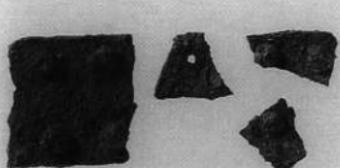
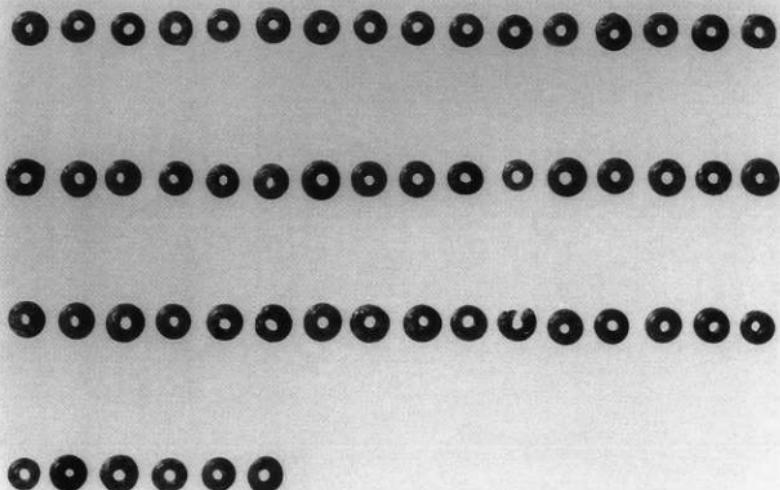
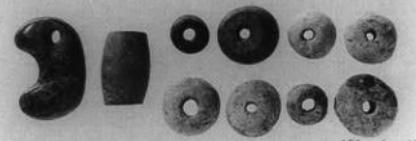


158-14・15

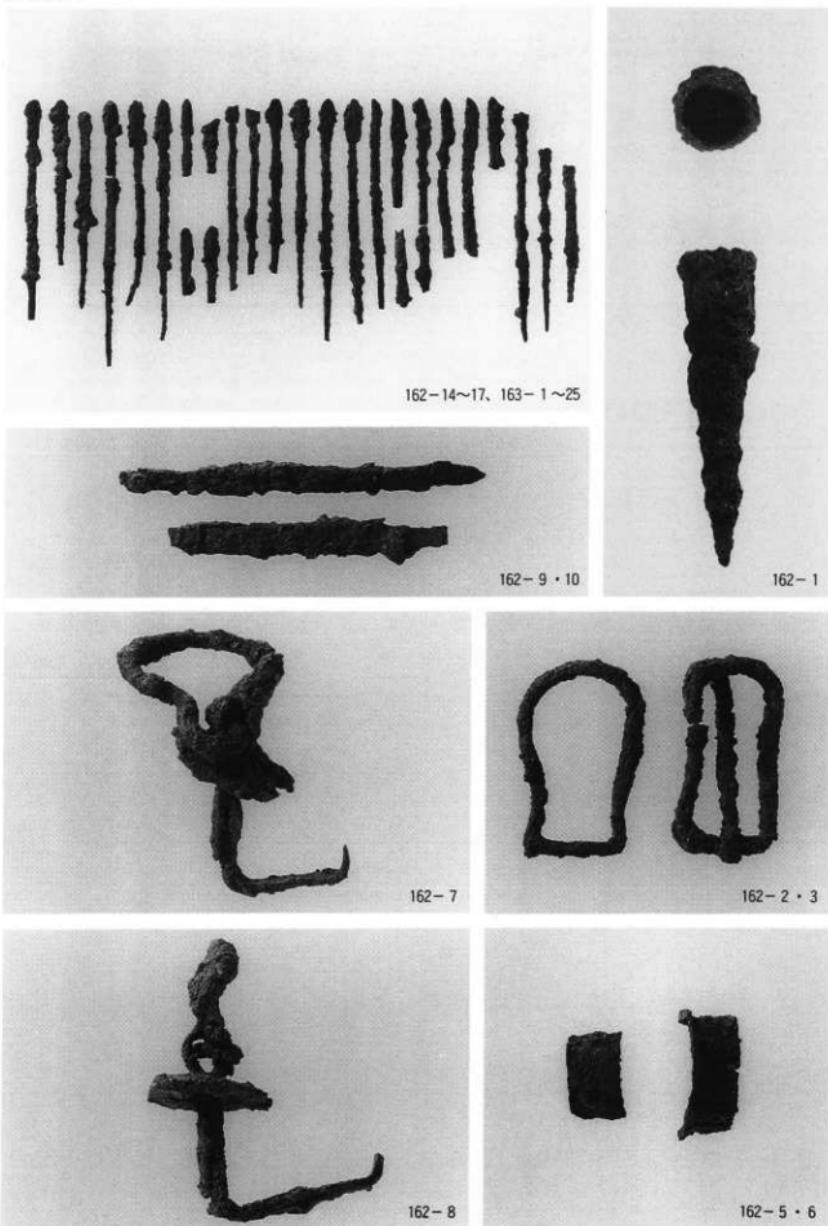


158-16

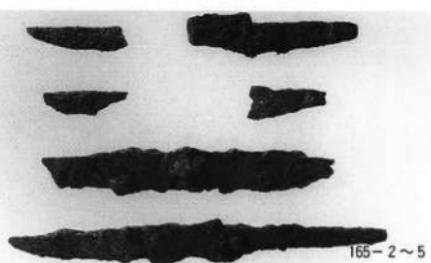
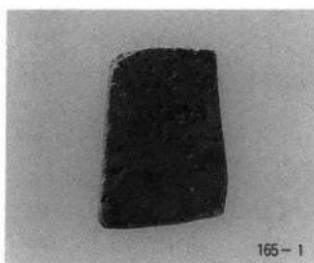
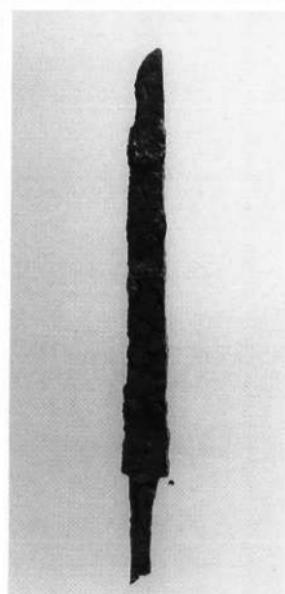
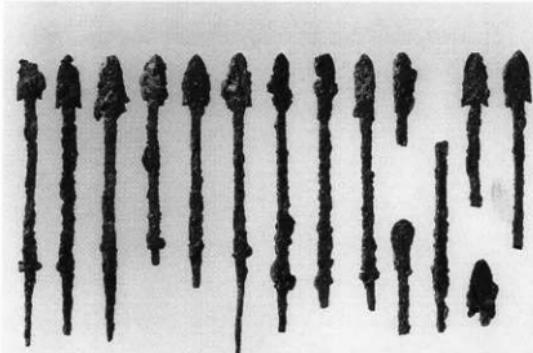
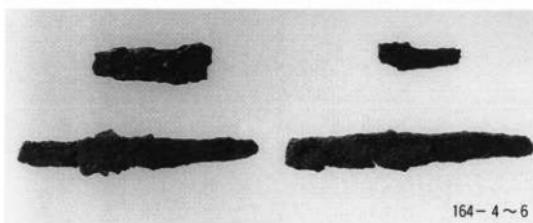
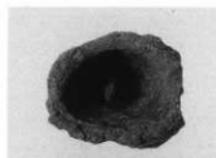
図版68 6号墳出土遺物(2)



図版70

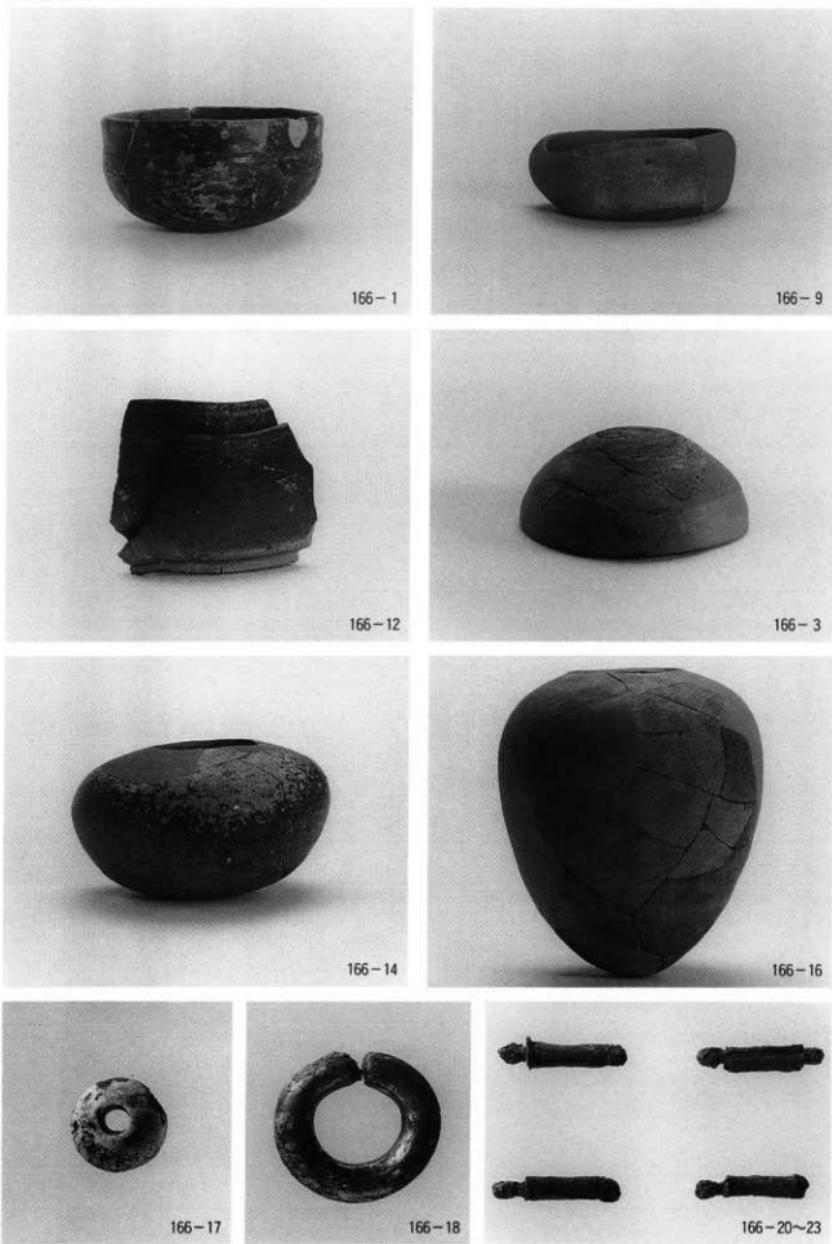


図版70 7号墳出土遺物（2）

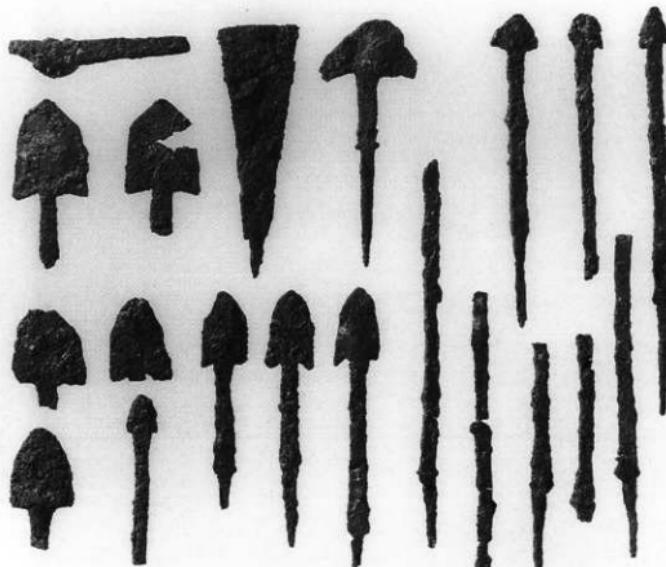


図版71 8号墳出土遺物 9号墳出土遺物

図版72



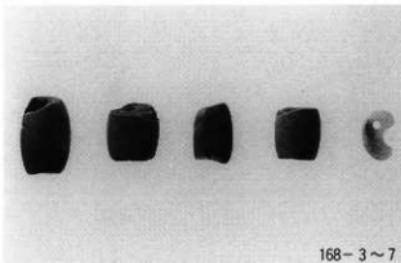
図版72 12号墳出土遺物（1） 14号墳出土遺物（1）



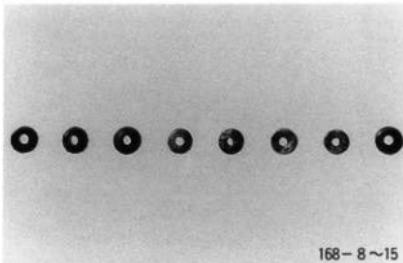
168-1



168-2



168-3~7



168-8~15

図版74



レンガ・土管



174-2



174-3



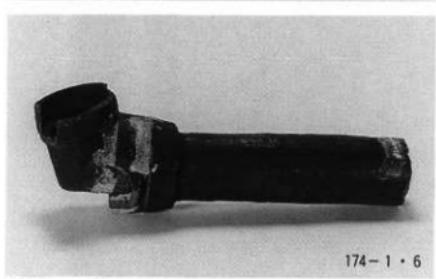
174-9



174-8



174-13



174-1+6

図版74 土管



175-1



175-2



175-3



175-4

現地調査参加者

氏原 一智	多賀 清季	池田 大輔	多藝 仁	井上 順雄	大石 敏正	角替 正
荻野 正裕	毛利 弘	望月 正範	西川 勝彦	柏森 俊光	石川 雅也	佐藤 信治
神戸 敏美	望月富二男	角替 繁一	長谷部 熟	望月 義一	佐野 直樹	高田 国義
坪井 秀夫	近藤 達朗	花田 雄伊	井上 慎吾	望月 昭次	鈴木 嘉造	遠藤 廣
外山 英貴	望月金太郎	長谷川義幸	原 薫司	芦川 光雄	荒田 利夫	佐野 正一
深沢 啓司	福垣 啓	渡辺 保明	橋口 勝彦	青野 孝男	鈴木 輝夫	影山 善己
河野 昭治	神戸 寿角	大塚 和民	橋本 務	齊藤 達雄	池谷 康男	山本 春彦
小川 紀子	阿倍 正子	芦川美也子	佐野香寿美	齊藤 紗子	服部 智美	長谷川早苗
佐野まゆみ	鹿島 里美	太田 穂積	菅井 英子	大野 敏江	丹波たつ子	渡辺みちる
高山 雄子	横森 春美	山下万喜代	菊池 光枝	太田 正代	宇佐美フサ子	平野ひとみ
井上 酒子	植村 泰子	後藤 理絵	望月 紀代	渡辺 尚子	金指 礼子	小原 敏江
伊藤 陽子	神戸 豊美	一ノ瀬主子	小倉 久美	遠藤 孝代	久保田智恵美	石川都久子
大石 宏子	加藤 孝枝	田中 典子	渡辺美規子	望月 真弓	藤沢 悅子	佐野 明美
常盤美千代						

整理作業参加者

早瀬 容子	笠井 昌枝	海野ひとみ	河合 澄野	河西 淑乃	福島 志野	鈴木由美子
南雲 淳子	大森 雪江	芦沢 千晴	小関真由美	佐藤 紗	中奥 昭恵	森田くみ子
田代 美徳	地田 由香	梶川 千絵	栗木 美幸			

報告書抄録

ふりがな	ふじかわサービスエリアかんれんいせき						
書名	富士川SA関連遺跡(遺物編)						
副書名	平成9・10年度富士川SA改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書						
シリーズ番号	第123集						
編著者名	佐野五十三 諸星雅一 石川武男 福島志野 井鍋晋之						
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所						
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市谷田23-20 TEL054-262-4261㈹						
発行年月日	西暦2001年3月31日						

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
富士川SA 関連遺跡	静岡県 富士川町 岩瀬及び木島	22381		35度 09分 27秒	138度 37分 23秒	1997.02.01 1998.12.16	20554	東名富士川 SA改良工 事に伴う埋 蔵文化財発 掘調査業務

所取遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富士川SA 関連遺跡 破魔射場遺跡	集落	縄文時代 中期後半	竪穴住居跡 配石遺構 集石土坑 屋外埋壟	縄文土器 石鏃 凹石 打製石斧 石刀 石劍 石核 磨製石斧 磨石 石棒 耳栓 結綴土偶 土鍬 土製円盤	
破魔射場遺跡	墓域	縄文時代 後期前半	竪穴住居跡 配石遺構 樹籬形敷石住居跡		
破魔射場遺跡	集落	弥生後期 古墳前期	竪穴住居跡 竪穴住居跡 ビット	弥生土器 土師器	
谷津原古墳群	古墳	古墳後期	横穴式石室・小石室 中世土壙 馬蹄石理納土坑 竪穴住居跡	須恵器 土師器 大刀 鐵鏃 刀子 耳環 ガラス小玉 砥石 薬玉 勾玉	
破魔射場遺跡	集落	平安時代	集石土坑 掘立柱建物跡 土坑・ビット	石核 鐵貨 火打金 灰釉陶器 須吉土器 鐵製品 錢貨	
北久保遺跡	近代庭園 田中光顯 伯の別邸 (芳野庵)	中世 近代	礎石建物跡 掘立柱建物跡 セメント遺構 石組竪坑遺構 上管による導排水遺構 石組排水遺構	陶器 貿易陶磁 土管 煉瓦	

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第123集

富士川ISA関連遺跡

平成9・10年度 富士川ISA改貢工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
遺物編

平成13年3月31日

編集発行 財團法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡市谷田23番20号
TEL (054) 262-4261

印刷所 黒船印刷株式会社
静岡市葵呂二丁目4番25号
TEL (054) 286-0236